

厚田中村遺跡

上信自動車道吾妻西バイパス建設事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2018

群馬県上信自動車道建設事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

厚田中村遺跡

上信自動車道吾妻西バイパス建設事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2018

群馬県上信自動車道建設事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

上信自動車道は、群馬県渋川市の関越自動車道渋川伊香保インターチェンジと長野県東御市の上信越自動車道東部湯の丸インターチェンジとを結ぶ総延長約80kmに及ぶ自動車専用の地域高規格道路です。この事業は、群馬県の「はばたけ群馬・県土整備プラン」で示された「7つの交通軸構想」のうちの「吾妻軸」に属し、関越自動車道と上信越自動車道とを結ぶ新たな交通体系として、吾妻地域の活性化に寄与することが期待されています。

この上信自動車道の8か所の整備区間の一つである吾妻西バイパスは、吾妻郡東吾妻町大字厚田から大字松谷に至る約7kmの区間で、平成21年3月に整備区間に指定され、目下、事業完了を目指して事業が鋭意進められているところです。

吾妻郡東吾妻町大字厚田字中村に所在する当遺跡は、平成25年の群馬県教育委員会による埋蔵文化財の試掘調査によって、事業対象地において埋蔵文化財の包蔵が確認されたため、群馬県県土整備部と群馬県教育委員会との間での調整を経て、平成25年から28年にかけて当事業団が発掘調査を実施しました。その結果、近世の水田を中心とする遺構が発見されました。とりわけ、榛名山二ツ岳の火山灰に覆われた極小区画水田は、吾妻地域初の古墳時代水田の発見として大いに注目されたところです。

発掘調査から報告書の刊行に至るまでには、群馬県上信自動車道建設事務所、群馬県中之条土木事務所、群馬県教育委員会、東吾妻町教育委員会、地元関係者の方々などに多大なるご指導とご協力を賜りました。ここに篤く御礼を申し上げますとともに、本書が地域における歴史の解明に広く役立てられますことを願ひまして、序といたします。

平成30年10月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理 事 長 中 野 三 智 男

例 言

1. 本書は、平成25～27年度上信自動車道吾妻西バイパス建設事業に伴い発掘調査された厚田中村遺跡の発掘調査報告書である。
2. 遺跡は、群馬県吾妻郡東吾妻町大字厚田字中村797-4、797-5、801-2、839、840-2、843-4、843-5、845-3、845-4、846、847-1、847-2、847-4、B850、851-3、851-4、852-3、853-3、B853-5、B853-6、C853-4、853-8、853-9、853-10、853-11、B860-2、B860-3、B861、B864-1、B864-2、865、866-2、B867他に所在する。
3. 事業主体は群馬県中之条土木事務所(平成25・26・28年度)、群馬県上信自動車道建設事務所(平成29・30年度)である。
4. 調査主体は公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団である。
5. 発掘調査の期間と体制は次のとおりである。

(平成25年度)

履行期間：平成25年7月1日～平成26年2月28日

調査期間：平成25年8月1日～平成25年12月31日

調査担当：菊池実(上席専門員)、小林正(専門員(主任))、藤井義徳(主任調査研究員)、相京建史(専門調査役)

遺跡掘削工事請負：技研コンサル株式会社

地上測量委託：株式会社測研

(平成26年度)

履行期間：平成26年6月1日～平成27年1月31日

調査期間：平成26年8月1日～平成26年11月30日(新井遺跡調査と通算)

調査担当：関俊明(主任調査研究員)、小林茂夫(主任調査研究員)

遺跡掘削工事請負：歴史の杜・吉澤建設・南波建設吾妻地区埋蔵文化財掘削工事経常共同企業体

地上測量委託：技研コンサル株式会社

(平成28年度)

履行期間：平成28年3月31日～平成29年2月28日

調査期間：平成28年4月1日～平成28年12月31日(吾妻西バイパス関連事業通算)

調査担当：小原俊之(専門員)、相京建史(専門調査役)

遺跡掘削工事請負：シン技術コンサル・毛野考古学研究所・山下工業吾妻地区埋蔵文化財掘削工事経常共同企業体

地上測量委託：株式会社測研

6. 整理事業の期間と体制は次のとおりである。

(平成28年度)

履行期間：平成28年3月31日～平成29年3月31日

整理期間：平成29年1月1日～平成29年3月31日

整理担当：大木紳一郎(専門調査役)

(平成29年度)

履行期間：平成29年4月1日～平成30年3月31日

整理期間：平成29年5月1日～平成30年3月31日

整理担当：高島英之(専門員(総括))

(平成30年度)

履行期間：平成30年4月1日～平成31年3月31日

整理期間：平成30年4月1日～平成30年6月30日

整理担当：高島英之(専門員(総括))

7. 本書作成担当は次のとおりである。

編集・本文執筆：高島英之

遺物観察：石器・石製品：津島秀章(資料2課長)

中近世陶磁器・土器：神谷佳明(資料部長)、徳江秀夫(専門調査役)、大西雅広(専門調査役)

金属製品：板垣泰之(専門員)、関邦一(専門調査役)

デジタル編集：齊田智彦(主任調査研究員・資料統括)

遺物写真撮影：石器・石製品：津島秀章

中近世陶磁器・土器：神谷佳明、徳江秀夫、大西雅広

金属器：関邦一・板垣泰之

遺物保存処理：関邦一・板垣泰之

8. 石材同定は飯島静男氏(群馬地質研究会)に依頼した。

9. 出土遺物および写真・図面等記録類は群馬県埋蔵文化財調査センターに保管している。

10. 発掘調査および報告書作成には、次の関係機関、諸氏にご助言をいただいた。

群馬県教育委員会、東吾妻町教育委員会

凡 例

1. 本報告書に用いた遺構名称は、発掘調査時の名称を踏襲した。

2. 本報告書に用いた座標・方位は、すべて国家座標第IX系(世界測地系)による。主軸方位等の計算にもこれを用いた。

3. 本報告書の遺構図版縮尺は以下の通り。ただし、遺構によってはこの限りではない。

遺構平面図 水田 1/200・1/100、段差 1/200・1/60、畦畔 1/200、杭列 1/40、溝 1/200、柱穴列 1/60、
耕作痕 1/200、ピット 1/40、畑 1/200、

遺構断面図 水田 1/80、段差 1/40、畦畔 1/40、杭列 1/40、溝 1/40、柱穴列 1/60、耕作痕 1/40、
ピット 1/40、畑 1/80、

調査区壁断面図 1/200・1/80

4. 本報告書の遺物図版縮尺は以下の通り。ただし、遺物によってはこの限りではない。

陶磁器 1/3、金属製品 1/2・1/3、銭貨 1/1、石製品 1/3・1/4、木製品 1/6

5. 本報告書のスクリーントーン表現は以下の通り。

礫範囲



6. 本報告書中の遺構平面図における遺物の略号は下記の通り。

●土器、▲石製品、■金属製品、○木製品

7. 本報告書中の遺構断面図の標高値は、原則として断面図上に「L=○○m」のように表記した。

8. 本報告書における土層断面図及び遺物観察表に記した色調表現は、農林水産省水産技術事務局・財団法人日本色彩研究所色票監修1988『新版標準土色帖』によった。

9. 本報告書におけるテフラ(火山噴出物)の略号は以下の通り(テフラの名称は町田洋・新井房夫1992『火山灰アトラス』東京大学出版会による)。

As-A…浅間 A、As-Kk…浅間粕川、As-B…浅間 B、Hr-FA…榛名二ツ岳渋川

目 次

序	4. 3区	18
例言	5. 4区南区	18
凡例	6. 4区中区	18
目次	7. 4区北区	18
挿図・表・写真図版目次	8. 5区	19
	9. 6区	19
第1章 調査に至る経緯、方法と経過	10. 7-1区	19
第1節 上信自動車道吾妻西バイパスについて	11. 7-2区	19
第2節 調査に至る経緯	12. 8-1区	22
第3節 発掘調査の経過	13. 8-2区	22
1. 平成25年度の発掘調査	14. 9区	22
2. 平成26年度の発掘調査		
3. 平成28年度の発掘調査	第3章 検出された遺構と遺物	24
第4節 発掘調査の方法	はじめに一検出された遺構の概要	24
1. 座標の設定	1. 1面(近世の遺構)	24
2. 調査の方法	2. 2面(古代の遺構)	25
3. 遺構測量	3. 3面(古墳時代の遺構)	25
4. 遺構写真撮影	第1節 1区の遺構と遺物	25
第5節 整理作業の経過と方法	1. 溝	26
1. 平成28年度の整理作業	第2節 2区1面の遺構と遺物	26
2. 平成29年度の整理作業	第1項 2区西区の遺構と遺物	28
3. 平成30年度の整理作業	1. 水田	28
	第2項 2区東区の遺構と遺物	34
第2章 周辺の環境	1. 水田	34
第1節 地理的環境	第3節 2区2面の遺構と遺物	38
第2節 歴史的環境	第1項 2区東区の遺構と遺物	40
1. 旧石器時代	1. 水田	40
2. 縄文時代	2. 溝	42
3. 弥生時代	第4節 3区の遺構と遺物	43
4. 古墳時代	1. 1面の水田	43
5. 奈良・平安時代	第5節 4区1面の遺構と遺物	46
6. 中・近世	第1項 4区南区の遺構と遺物	46
第3節 基本土層	1. 水田	47
1. 1区	2. 溝	47
2. 2区西区	第2項 4区中区の遺構と遺物	50
3. 2区東区	1. 水田	51

2. 溝	58
第3項 4区北区の遺構と遺物	59
1. 水田	59
第6節 4区2面の遺構と遺物	76
第1項 4区南区の遺構と遺物	76
1. 水田	76
2. ピット	77
第2項 4区中区の遺構と遺物	78
1. 水田	78
第3項 4区北区の遺構と遺物	82
第7節 5区の遺構と遺物	82
1. 1面の水田	85
第8節 6区1面の遺構と遺物	88
1. 水田	89
第9節 6区2面の遺構と遺物	96
1. 溝	96
第10節 7区1面の遺構と遺物	99
1. 水田	99
第11節 7区2面の遺構と遺物	102
第1項 7-1区12世紀前期以降の遺構と遺物	103
1. 柱穴列	104
2. ピット	106
3. 溝	107
4. 畠	107
第2項 7-1区12世紀初頭以前の遺構と遺物	108
1. 水田	108
2. 溝	111
第3項 7-2区の遺構と遺物	112
1. 水田	113
2. 溝	115
第12節 8-1区1面の遺構と遺物	117
1. 水田	117
2. 溝	121
第13節 8-1区2面の遺構と遺物	122
1. 水田	123
2. 溝	124
第14節 8-2区1面の遺構と遺物	128
1. 水田	128
第15節 8-2区1面下の遺構と遺物	136
1. 水田	136

2. 溝	140
第16節 8-2区2面の遺構と遺物	140
1. 水田	140
第17節 8-2区2面下の遺構と遺物	144
1. 溝	146
第18節 8-2区3面の遺構と遺物	146
1. 水田	146
2. 溝	153
第19節 9区1面の遺構と遺物	153
1. 畑	153
第20節 9区1面下の遺構と遺物	160
1. 畑	160
2. 溝	161
第21節 9区2面の遺構と遺物	163
1. 水田	163
2. 溝	175
第22節 9区3面の遺構と遺物	177
1. 水田	177
・遺構外出土遺物	192

第4章 調査成果の整理とまとめ	193
第1節 近世の水田と畑	193
第2節 古代の水田	198
第3節 古墳時代の水田	204

出土遺物観察表

写真図版

報告書抄録

付図1 厚田中村遺跡1面全体図	
2 厚田中村遺跡2面全体図	
3 厚田中村遺跡1面下・2面下・3面全体図	

挿図目次

第1図	上信自動車道計画路線図	1
第2図	遺跡の位置	2
第3図	上信自動車道吾妻西バイパスの路線と各遺跡位置図	3
第4図	調査区設定図	5
第5図	周辺地形分類図	12
第6図	周辺遺跡分布図	15
第7図	1～3区・6～8-1区基本土層模式図	20
第8図	4・5・8-2・9区基本土層模式図	21
第9図	1区全体図	26
第10図	1区東・西区平面図、土層断面図、10号溝土層断面図	27
第11図	2区西区1面全体図、1号畦畔土層断面図	29
第12図	2区西区1面1号段差杭列A平面図、杭出土状況断面図、 出土杭の例	31
第13図	2区西区1面1号段差杭列B平面図、杭出土状況断面図	32
第14図	2区西区1面1号段差杭列C平面図、杭出土状況断面図	33
第15図	2区東区1面全体図、土層断面図、出土遺物	36
第16図	2区東区1面2号畦畔杭列D平面図、杭出土状況断面図	37
第17図	2区西区2面全体図、土層断面図	39
第18図	2区東区2面全体図、1・3号畦畔、 4・5号溝エレベーション図、出土遺物	41
第19図	3区全体図、土層断面図	43
第20図	3区杭列平面図、杭出土状況断面図(1)	44
第21図	3区杭列杭出土状況断面図(2)、出土遺物、出土杭の例	45
第22図	3区東区2面全体図	46
第23図	4区南区1面全体図、土層断面図、11号溝土層断面図	48
第24図	4区南区1面1号段差杭列平面図、杭出土状況断面図	49
第25図	4区南区1面1号段差杭列出土杭の例	50
第26図	4区中区1面全体図、エレベーション図、 4・5号畦畔エレベーション図、出土遺物	53
第27図	4区北区1面全体図、土層断面図	61
第28図	4区北区1面出土遺物	63
第29図	4区北区1面1号段差杭列E平面図、杭出土状況断面図	65
第30図	4区北区1面2号段差杭列D平面図、 杭出土状況断面図(1)	66
第31図	4区北区1面2号段差杭列D平面図、 杭出土状況断面図(2)	67
第32図	4区北区1面3号段差杭列A平面図、 杭出土状況断面図(1)	68
第33図	4区北区1面3号段差杭列A平面図、 杭出土状況断面図(2)、出土遺物	69
第34図	4区北区1面3号段差杭列A杭出土状況断面図(3)	70
第35図	4区北区1面4号段差杭列C平面図、杭出土状況断面図	71
第36図	4区北区1面3号段差・1号畦畔杭列B平面図、 杭出土状況断面図(1)	73
第37図	4区北区1面3号段差・1号畦畔杭列B平面図、 杭出土状況断面図(2)、出土遺物	74
第38図	4区北区1面3号段差・1号畦畔杭列B 杭出土状況断面図(3)	75
第39図	4区南区2面全体図、18・19号ピット平面図、土層断面図	77
第40図	4区中区2面全体図、土層断面図、 4号畦畔エレベーション図	79
第41図	4区北区2面全体図	83
第42図	5区1面全体図、土層断面図	86
第43図	5区1面1号段差杭列平面図、出土遺物、出土杭の例	87
第44図	5区1面1号段差杭列杭出土状況断面図	88
第45図	5区2面全体図	89
第46図	6区1面全体図、土層断面図、 3号段差・1号畦畔エレベーション図	91
第47図	6区1面3号水田杭列B平面図、杭出土状況断面図、 出土杭の例	93
第48図	6区1面4号段差杭列A平面図、杭出土状況断面図	95
第49図	6区2面全体図、12号溝土層断面図	97
第50図	7-1区1面全体図、土層断面図、 1号畦畔エレベーション図、出土遺物、出土杭の例	100
第51図	7-1区1面1号畦畔平面図、杭出土状況断面図	102
第52図	7-1区2面12世紀前期以降の遺構検出状況、 耕作痕断面図	103
第53図	7-1区2面1～4号柱穴列平面図、土層断面図	105
第54図	7-1区2面6・7号ピット平面図、土層断面図	107
第55図	7-1区2面12世紀前期以前の水田検出状況	110
第56図	7-2区2面全体図、土層断面図、 2～4号畦畔水口エレベーション図、13号溝土層断面図	116
第57図	8-1区1面全体図、土層断面図、出土遺物	120
第58図	8-1区1面4号水田植物遺存体出土状況	121
第59図	8-1区1面3号溝杭列A平面図	122
第60図	8-1区2面全体図、1号畦畔、 6～9・20・21号溝土層断面図	127
第61図	8-1区2面6号溝杭列B平面図、杭出土状況断面図	128
第62図	8-1区2面下確認調査試掘坑平面図	129
第63図	8-2区1面全体図、土層断面図(1)	131
第64図	8-2区土層断面図(2)、出土遺物	132
第65図	8-2区1面1号段差杭列平面図、杭出土状況断面図	133
第66図	8-2区1面1号段差石組掘方平面図、 エレベーション図	134
第67図	8-2区1面2号段差平面図、杭出土状況断面図	135
第68図	8-2区1面下全体図、15号溝土層断面図	139
第69図	8-2区2面全体図	143
第70図	8-2区2面下全体図、19号溝土層断面図	145
第71図	8-2区3面全体図	148
第72図	8-2区3面水田検出状況、22号溝エレベーション図	152
第73図	9区1面全体図、出土遺物	155
第74図	9区土層断面図	156
第75図	9区1面1号段差平面図、エレベーション図、出土遺物	157
第76図	9区1面下全体図、17号溝土層断面図	162
第77図	9区2面全体図、土層断面図、18号溝土層断面図	176
第78図	9区3面全体図	189
第79図	9区3面河川東側水田検出状況	190
第80図	9区3面河川西側水田検出状況	191
第81図	遺構外出土遺物	192

表 目 次

第1表	検出遺構面一覧表	9	第4表	水田出土木杭一覧表	206
第2表	周辺遺跡一覧表	16	第5表	杭列別木杭本数一覧表	216
第3表	確認面・調査区別遺構検出数一覧表	23	第6表	出土遺物観察表	217

写真目次

PL. 1	1	上信自動車道吾妻西バイパス路線域全景(南西から)	3	2区東区2面3号畦畔検出状況(東から)
	2	厚田中村遺跡所在地全景(南から)	4	2区東区2面3号畦畔、4・5号溝検出状況(西から)
PL. 2	1	調査区西側遠景(東から)	5	2区東区2面3号畦畔、4号溝検出状況(西から)
	2	調査区東側遠景(南から)	6	2区東区東壁土層断面A-A'(北西から)
PL. 3	1	1区西区1面全景(東から)	7	2区東区東壁土層断面A-A'(西から)
	2	1区東区1面全景(東から)	PL.12	1 3区西区1面全景(南から)
PL. 4	1	1区東区1面10号溝全景(北から)	2	3区東区1面全景(東から)
	2	1区東区1面10号溝全景(西から)	3	3区東区1面杭列検出状況(北から)
	3	1区東区1面東壁土層断面A-A'(西から)	4	3区東区1面杭列検出状況(北から)
	4	1区西区1面西壁土層断面B-B'(東から)	PL.13	1 3区東区1面杭列検出状況(東から)
	5	2区西区1面全景(南東から)	2	3区東区1面杭列検出状況(北西から)
PL. 5	1	2区西区1面東側1号段差検出状況(北西から)	3	3区東区1面杭列検出状況(東から)
	2	2区西区1面東側1号段差検出状況(北西から)	4	3区東区1面杭列検出状況(北西から)
	3	2区西区1面西側1号畦畔検出状況(北から)	5	3区東区1面杭列検出状況(南西から)
	4	2区西区1面西側1号畦畔検出状況(北から)	6	3区東区1面杭列検出状況(北東から)
	5	2区西区1面1号畦畔土層断面A-A'(南から)	7	3区東区2面全景(西から)
	6	2区西区1面1号畦畔土層断面A-A'(南から)	PL.14	1 3区東区2面全景(東から)
	7	2区西区1面1号段差杭列A検出状況(北から)	2	3区東区東壁土層断面A-A'(西から)
PL. 6	1	2区西区1面1号段差杭列A検出状況(北西から)	3	3区東区南壁土層断面B-B'(北から)
	2	2区西区1面1号段差杭列A杭出土状況(南から)	4	4区南区1面1号段差堰検出状況(東から)
	3	2区西区1面1号段差杭列A杭出土状況(西から)	5	4区南区1面1号段差堰検出状況(北東から)
	4	2区西区1面1号段差杭列A杭出土状況(南から)	PL.15	1 4区南区1面全景(東から)
	5	2区西区1面1号段差杭列A杭出土状況(西から)	2	4区南区1面1号段差堰検出状況(北から)
	6	2区西区1面1号段差杭列B検出状況(北西から)	3	4区南区1面1号段差堰検出状況(西から)
	7	2区西区1面1号段差杭列B検出状況(北から)	4	4区南区1面1号段差堰検出状況(北西から)
	8	2区西区1面1号段差杭列B杭出土状況(南から)	PL.16	1 4区南区1面1号段差堰石積検出状況(北東から)
PL. 7	1	2区西区1面1号段差杭列B杭出土状況(北西から)	2	4区南区1面1号段差堰石積検出状況(北東から)
	2	2区西区1面1号段差杭列C検出状況(南から)	3	4区南区1面1号段差石積検出状況(東から)
	3	2区西区1面1号段差杭列C検出状況(北から)	4	4区南区1面1号段差杭出土状況(西から)
	4	2区西区1面1号段差杭列C検出状況(南西から)	5	4区南区1面1号段差杭出土状況(西から)
	5	2区西区1面1号段差杭列C検出状況(北西から)	6	4区南区1面1号段差杭出土状況(北東から)
	6	2区西区1面1号段差杭列C検出状況(北西から)	7	4区南区1面11号溝全景(西から)
	7	2区西区1面1号段差杭列C検出状況(南から)	PL.17	1 4区中区1面全景(南から)
	8	2区西区1面1号段差杭列C検出状況(西から)	2	4区中区1面1~5・7・8号水田、1~5・7~9号畦畔 検出状況(東から)
PL. 8	1	2区西区1面1号段差杭列C検出状況(西から)	PL.18	1 4区中区1面1・2・4号水田、4号畦畔検出状況(西から)
	2	2区西区1面1号段差杭列C杭出土状況(北西から)	2	4区中区1面5・6号水田、5号畦畔検出状況(東から)
	3	2区西区1面杭出土状況(北西から)	3	4区中区1面6号水田検出状況(東から)
	4	2区東区1面水田全景(北西から)	4	4区中区1面3・4・7・8号水田、1・2号畦畔検出状況 (西から)
	5	2区東区1面全景(東から)	5	4区中区1面1号畦畔芯材出土状況(南から)
PL. 9	1	2区東区1面1号水田検出状況(北西から)	6	4区中区1面1号畦畔芯材出土状況(南から)
	2	2区東区1面2号水田、1号畦畔検出状況(北西から)	7	4区中区1面1号畦畔芯材出土状況(南から)
	3	2区東区1面1・2号水田、1号畦畔検出状況(西から)	8	4区中区1面1号畦畔芯材出土状況(南から)
	4	2区東区1面3号水田、2号畦畔検出状況(北西から)	PL.19	1 4区中区1面1号段差、4号畦畔芯材出土状況(北から)
	5	2区東区1面2・3号水田、2・3号畦畔検出状況(西から)	2	4区中区1面1号段差、4号畦畔芯材出土状況(北から)
	6	2区東区1面2号水田、3号畦畔検出状況(北西から)	3	4区中区1面1号段差、4号畦畔芯材出土状況(北から)
	7	2区東区1面3号水田、4号畦畔検出状況(西から)	4	4区中区1面1号段差、4号畦畔芯材出土状況(北から)
	8	2区東区1面4号水田検出状況(北西から)	5	4区中区1面1号段差、4号畦畔芯材出土状況(北から)
PL.10	1	2区東区1面2号畦畔杭列D検出状況(北西から)	6	4区中区1面1号段差、4号畦畔芯材出土状況(北から)
	2	2区東区1面2号畦畔杭列D検出状況(西から)	7	4区中区1面1号段差、4号畦畔芯材出土状況(北から)
	3	2区東区1面2号畦畔杭列D検出状況(西から)	8	4区中区1面1号段差、4号畦畔芯材出土状況(北から)
	4	2区東区1面2号畦畔杭列D検出状況(北西から)	PL.20	1 4区中区1面2号溝、5号畦畔芯材出土状況(北から)
	5	2区東区2面全景(東から)	2	4区中区1面2号段差、6号畦畔芯材出土状況(西から)
PL.11	1	2区東区2面1・2号畦畔検出状況(東から)		
	2	2区東区2面1・2号畦畔検出状況(東から)		

	3	4区中区1面2号段差、6号畦畔芯材出土状況(西から)		2	6区1面2・4・5・6号水田、1号畦畔検出状況(西から)	
	4	4区中区1面2号段差、6号畦畔芯材出土状況(北から)	PL.35	1	6区1面2・3・5号水田、1・2号畦畔検出状況(西から)	
	5	4区中区1面1号溝、4号畦畔検出状況(西から)		2	6区1面2・3・5号水田、2号畦畔検出状況(西から)	
	6	4区中区1面1号溝、4号畦畔検出状況(東から)		3	6区1面4号段差石組検出状況(北東から)	
	7	4区中区1面1号溝、4号畦畔検出状況(東から)		4	6区1面4号段差石組検出状況(北から)	
	8	4区中区1面1号溝、4号畦畔検出状況(東から)		5	6区1面4号段差杭列A検出状況(南西から)	
PL.21	1	4区中区1面2号溝、5号畦畔検出状況(東から)	PL.36	1	6区1面4号段差杭列A検出状況(南西から)	
	2	4区中区1面2号溝、5号畦畔検出状況(北西から)		2	6区1面4号段差杭列A検出状況(西から)	
	3	4区中区1面2号溝、5号畦畔検出状況(北西から)		3	6区1面4号段差杭列A検出状況(東から)	
	4	4区中区1面2号溝、6号畦畔検出状況(東から)		4	6区1面3号水田杭列B検出状況(西から)	
	5	4区中区1面2号溝湧水点検出状況(北から)		5	6区1面3号水田杭列B検出状況(西から)	
PL.22	1	4区中区1面2号溝湧水点検出状況(北から)		6	6区北壁土層断面A-A'(南西から)	
	2	4区中区1面2号溝湧水点検出状況(北から)		7	6区南壁土層断面B-B'(北から)	
	3	4区中区1面2号溝湧水点検出状況(北から)		8	6区西壁土層断面C-C'(東から)	
	4	4区中区1面2号水田遺物出土状況(南から)	PL.37	1	6区2面全景(西から)	
PL.23	1	4区北区1面全景(南から)		2	6区2面12号溝検出状況(北から)	
	2	4区北区1面全景(北西から)		3	6区2面12号溝検出状況(北から)	
PL.24	1	4区北区1面3号段差杭列A検出状況(北西から)		4	6区2面12号溝土層断面A-A'(北から)	
	2	4区北区1面3号段差杭列B検出状況(北西から)		5	7区遠景(東から)	
	3	4区北区1面3号段差杭列B検出状況(北西から)	PL.38	1	7~9区遠景(東から)	
	4	4区北区1面3号段差石積検出状況(北西から)		2	7~9区遠景(南から)	
	5	4区北区1面3号段差石積検出状況(北西から)	PL.39	1	7-1区1面全景(南西から)	
	6	4区北区1面白玉・馬銜出土状況(北西から)		2	7-1区1面全景(東から)	
	7	4区北区1面馬銜出土状況(北西から)	PL.40	1	7-1区1面1号畦畔検出状況(東から)	
	8	4区北区1面畑鍋出土状況(西から)		2	7-1区1面1号畦畔検出状況(東から)	
PL.25	1	4区南区2面全景(北から)		3	7-1区1面1号畦畔検出状況(東から)	
	2	4区南区2面1~4号畦畔検出状況(西から)		4	7-1区1面1号畦畔検出状況(東から)	
	3	4区南区2面1~4号畦畔検出状況(北から)		5	7-1区1面杭出土状況(南から)	
	4	4区南区2面1~4号畦畔検出状況(北から)		6	7-1区1面杭出土状況(南東から)	
	5	4区南区2面南壁付近1~3号畦畔検出状況(北から)		7	7-1区1面杭出土状況(東から)	
PL.26	1	4区南区2面18号ピット全景(南から)		8	7-1区東壁土層断面A-A'(西から)	
	2	4区南区2面19号ピット全景(北から)	PL.41	1	7-1区2面全景(東から)	
	3	4区南区南壁土層断面A-A'(北から)		2	7-1区2面全景(南西から)	
	4	4区南区南壁土層断面A-A'(北から)	PL.42	1	7-1区2面7・8・11・12・15号水田、1~3号柱穴列、 6・7号ピット検出状況(東から)	
	5	4区中区2面全景(東から)		2	7-1区2面6~8・11・12号水田、 2・4号柱穴列検出状況(東から)	
PL.27	1	4区中区2面西側11~13号水田、1~3号畦畔検出状況 (南から)		3	7-1区2面7・8・11・12号水田、 2・3号柱穴列検出状況(北から)	
	2	4区中区2面東側14号水田、4号畦畔検出状況(東から)		4	7-1区2面4~7・9~11号水田、 4号柱穴列検出状況(北から)	
PL.28	1	4区中区2面東側14号水田、4号畦畔検出状況(北から)		5	7-1区2面1号柱穴列、6・7号ピット検出状況(北から)	
	2	4区中区2面東側14号水田、4号畦畔検出状況(北から)	PL.43	1	7-1区2面3号柱穴列P3・4検出状況(北から)	
	3	4区中区2面東側14号水田、4号畦畔検出状況(北から)		2	7-1区2面1号溝検出状況(南から)	
	4	4区中区2面北壁土層断面C-C'(南から)		3	7-1区2面2号溝検出状況(東から)	
	5	4区中区2面下確認調査試掘坑全景(西から)		4	7-1区2面畠耕作痕検出状況(東から)	
	6	4区中区2面下確認調査試掘坑土層断面(東から)		5	7-1区2面畠耕作痕検出状況(北から)	
	7	4区中区2面下確認調査試掘坑土層断面(西から)		6	7-1区2面畠耕作痕検出状況(西から)	
PL.29	1	4区北区2面全景(南から)		7	7-1区南壁土層断面B-B'(北から)	
	2	4区北区2面水田検出状況(北西から)	PL.44	1	7-1区2面1号柱穴列P1全景(南から)	
PL.30	1	4区北区北壁土層断面B-B'(南から)		2	7-1区2面1号柱穴列P1土層断面A-A'(南から)	
	2	4区北区北壁土層断面B-B'(南から)		3	7-1区2面1号柱穴列P2全景(南から)	
	3	4区北区北壁土層断面B-B'(南から)		4	7-1区2面1号柱穴列P2土層断面A-A'(南から)	
	4	4区北区東壁土層断面D-D'(西から)		5	7-1区2面1号柱穴列P3全景(南から)	
	5	4区北区南壁土層断面F-F'(北から)		6	7-1区2面1号柱穴列P3土層断面A-A'(南から)	
	6	4区北区南壁土層断面E-E'(北から)		7	7-1区2面1号柱穴列P4全景(南から)	
PL.31	1	5区1面全景(西から)		8	7-1区2面1号柱穴列P4土層断面A-A'(南から)	
	2	5区1面1号段差杭列検出状況(西から)		9	7-1区2面1号柱穴列P5全景(南から)	
	3	5区1面1号段差杭列検出状況(西から)		10	7-1区2面1号柱穴列P5土層断面A-A'(南から)	
PL.32	1	5区1面1号段差杭列検出状況(西から)		11	7-1区2面2号柱穴列P1全景(南から)	
	2	5区1面1号段差杭列検出状況(南東から)		12	7-1区2面2号柱穴列P1土層断面A-A'(南から)	
	3	5区1面1号段差杭列検出状況(南東から)		13	7-1区2面2号柱穴列P2全景(南から)	
	4	5区1面1号段差杭列検出状況(西から)		14	7-1区2面2号柱穴列P2土層断面A-A'(南から)	
	5	5区1面1号段差杭列検出状況(西から)		15	7-1区2面2号柱穴列P3全景(西から)	
PL.33	1	5区2面全景(西から)		PL.45	1	7-1区2面3号柱穴列P1全景(南から)
	2	5区北壁土層断面C-C'(南から)		2	7-1区2面3号柱穴列P2全景(南から)	
	3	6区遠景(西から)				
	4	6区1面全景(東から)				
PL.34	1	6区1面全景(西から)				

	3	7-1区2面3号柱穴列P2土層断面A-A'(南から)		3	8-2区1面2号水田検出状況(北から)
	4	7-1区2面3号柱穴列P3全景(南から)		4	8-2区1面1号段差杭列検出状況(東から)
	5	7-1区2面3号柱穴列P3土層断面A-A'(南から)		5	8-2区1面1号段差杭列検出状況(北から)
	6	7-1区2面3号柱穴列P4全景(西から)		6	8-2区1面1号段差杭列検出状況(西から)
	7	7-1区2面4号柱穴列P1全景(西から)		7	8-2区1面1号段差杭列検出状況(東から)
	8	7-1区2面4号柱穴列P2全景(西から)		8	8-2区1面1号段差検出状況(北から)
	9	7-1区2面4号柱穴列P3全景(西から)	PL.57	1	8-2区1面1号段差検出状況(北から)
	10	7-1区2面6号ピット全景(南から)		2	8-2区1面西壁天明泥流検出状況B-B'(東から)
	11	7-1区2面6号ピット土層断面A-A'(西から)		3	8-2区1面1号段差杭列検出状況(北から)
	12	7-1区2面7号ピット全景(南から)		4	8-2区1面1号段差杭列検出状況(東から)
	13	7-1区2面7号ピット土層断面A-A'(南から)		5	8-2区1面1号段差杭列検出状況(東から)
PL.46	1	7-2区2面全景(北から)		6	8-2区1面1号段差杭列杭出土状況(東から)
	2	7-2区2面全景(東から)		7	8-2区1面1号段差杭列杭出土状況(東から)
PL.47	1	7-2区2面全景(北西から)		8	8-2区1面1号段差杭列杭出土状況(東から)
	2	7-2区2面13号溝及び足跡検出状況(東から)	PL.58	1	8-2区1面1号段差杭列検出状況(東から)
	3	7-2区2面13号溝及び足跡検出状況(北西から)		2	8-2区1面1号段差杭列検出状況(北から)
	4	7-2区2面13号溝土層断面C-C'(西から)		3	8-2区1面1号段差杭列検出状況(北から)
	5	7-2区2面13号溝土層断面D-D'(西から)		4	8-2区1面1号段差杭列杭出土状況(西から)
PL.48	1	7-2区2面水田畦畔土層断面A-A'(西から)		5	8-2区1面1号段差杭列杭出土状況(西から)
	2	7-2区2面水田畦畔土層断面A-A'(西から)		6	8-2区1面1号段差杭列杭出土状況(南から)
	3	7-2区東壁土層断面A-A'(西から)		7	8-2区1面1号段差杭列杭出土状況(南から)
	4	7-2区東壁土層断面A-A'(西から)		8	8-2区1面1号段差杭列杭出土状況(南から)
	5	7-2区東壁土層断面A-A'(西から)	PL.59	1	8-2区1面1号段差杭列杭出土状況(南から)
	6	7-2区東壁土層断面A-A'(西から)		2	8-2区1面1号段差杭列杭出土状況(南から)
	7	7-2区東壁土層断面A-A'(西から)		3	8-2区1面1号段差杭列杭出土状況(西から)
	8	7-2区北壁土層断面B-B'(南から)		4	8-2区1面1号段差杭列杭出土状況(西から)
PL.49	1	7-2区北壁土層断面B-B'(南から)		5	8-2区1面1号段差杭列杭出土状況(西から)
	2	7-2区北壁土層断面B-B'(南から)		6	8-2区1面1号段差杭列杭出土状況(西から)
	3	8-1区1面全景(西から)		7	8-2区1面1号段差杭列杭出土状況(西から)
	4	8-1区1面6・7号水田、5～7号畦畔検出状況(西から)		8	8-2区1面1号段差杭列杭出土状況(南西から)
	5	8-1区1面3・4号水田、2・3号畦畔検出状況(東から)	PL.60	1	8-2区1面1号段差杭列杭出土状況(西から)
PL.50	1	8-1区1面6号水田、5号畦畔検出状況(東から)		2	8-2区1面2号段差検出状況(西から)
	2	8-1区1面3号溝杭列A検出状況(北西から)		3	8-2区1面2号段差杭出土状況(北から)
	3	8-1区1面3号溝杭列A全景(北西から)		4	8-2区1面2号段差杭出土状況(東から)
	4	8-1区1面3号溝杭列A検出状況(北西から)		5	8-2区1面2号段差杭出土状況(東から)
	5	8-1区1面3号溝杭列A検出状況(北西から)		6	8-2区1面天明泥流中炭化材出土状況(北から)
	6	8-1区1面3号溝土層断面A-A'(北西から)		7	8-2区1面下水田土層断面A-A'(西から)
	7	8-1区1面4号水田植物遺存体1出土状況(西から)		8	8-2区1面下15号溝土層断面A-A'(南から)
PL.51	1	8-1区2面全景(西から)	PL.61	1	8-2区1面下水田検出状況(西から)
	2	8-1区2面1号畦畔、 6～9・20・21号溝検出状況(西から)		2	8-2区2面全景(北から)
	3	8-1区2面1号畦畔検出状況(西から)	PL.62	1	8-2区2面下全景(東から)
	4	8-1区2面2号畦畔検出状況(北から)		2	8-2区2面下全景(北から)
PL.52	1	8-1区2面1号畦畔土層断面A-A'(東から)	PL.63	1	8-2区3面全景(北から)
	2	8-1区2面杭列B杭出土状況(南東から)		2	8-2区3面下確認調査試掘坑土層断面A-A'(西から)
	3	8-1区2面杭列B杭出土状況(北西から)		3	8-2区西壁土層断面B-B'(東から)
	4	8-1区2面杭列B杭出土状況(北西から)		4	8-2区西壁土層断面C-C'(東から)
	5	8-1区2面杭列B杭出土状況(南東から)		5	8-2区南壁土層断面D-D'(北から)
	6	8-1区2面杭列B杭出土状況(北西から)	PL.64	1	9区1面全景(南から)
	7	8-1区2面杭列B杭出土状況(南西から)		2	9区1面西側全景(東から)
	8	8-1区2面杭列B杭出土状況(北西から)	PL.65	1	9区1面1号段差、2号畑検出状況(東から)
PL.53	1	8-1区2面杭列B杭出土状況(北西から)		2	9区1面1号段差、1号畑検出状況(北から)
	2	8-1区2面杭列B杭出土状況(南西から)	PL.66	1	9区1面1号段差検出状況(北西から)
	3	8-1区2面8・9・20・21号溝検出状況(西から)		2	9区1面1号段差検出状況(北西から)
	4	8-1区2面8・9・20・21号溝検出状況(東から)		3	9区1面1号段差植物遺存体出土状況(北から)
	5	8-1区2面8号溝土層断面D-D'(東から)		4	9区1面1号段差植物遺存体出土状況(北から)
	6	8-1区2面9号溝土層断面E-E'(東から)		5	9区1面下全景(南から)
	7	8-1区2面20号溝土層断面F-F'(東から)	PL.67	1	9区1面下4～6号畑検出状況(東から)
	8	8-1区2面21号溝土層断面G-G'(東から)		2	9区1面下畑検出状況(北から)
PL.54	1	8-1区東壁土層断面B-B'(西から)		3	9区1面下4号畑検出状況(北から)
	2	8-1区北壁土層断面C-C'(南から)	PL.68	1	9区1面下4号畑検出状況(西から)
	3	8-2区・9区全景(南から)		2	9区2面全景(東から)
PL.55	1	8-2区1面全景(北から)	PL.69	1	9区2面1～6号水田、1～9号畦畔検出状況(北東から)
	2	8-2区1面下全景(北から)		2	9区2面9号畦畔検出状況(南から)
PL.56	1	8-2区1面1号水田、1号段差検出状況(北から)		3	9区2面9号畦畔検出状況(南から)
	2	8-2区1面1号水田検出状況(北から)		4	9区2面9号畦畔検出状況(南から)

	5	9区2面9号畦畔検出状況(北から)	2	9区3面82～99号水田検出状況(南東から)	
PL.70	1	9区2面17～19号畦畔検出状況(北から)	PL.73	1	9区3面82～105号水田検出状況(東から)
	2	9区2面17・18号畦畔検出状況(北から)		2	9区北壁土層断面A-A'(南から)
	3	9区2面22・23号水田検出状況(北から)		3	9区北壁土層断面B-B'(南から)
	4	9区2面水田水口検出状況(北から)		4	9区西壁土層断面F-F'南側(東から)
	5	9区2面18号溝検出状況(北から)		5	9区西壁土層断面F-F'北側(東から)
	6	9区2面18号溝土層断面A-A'(東から)	PL.74	2区東区1面・2面、3区、4区南区1面、	4区中区1面出土遺物
	7	9区3面全景(南から)			
	8	9区3面東側水田検出状況(西から)	PL.75	4区北区1面、5区1面、6区1面、7-1区1面、	8-1区1面出土遺物
PL.71	1	9区3面全景(東から)			
	2	9区3面全景(南から)	PL.76	8-2区1面、9区1面、遺構外出土遺物	
PL.72	1	9区3面82～105号水田検出状況(南から)			

第1章 調査に至る経緯、方法と経過

第1節 上信自動車道 吾妻西バイパスについて

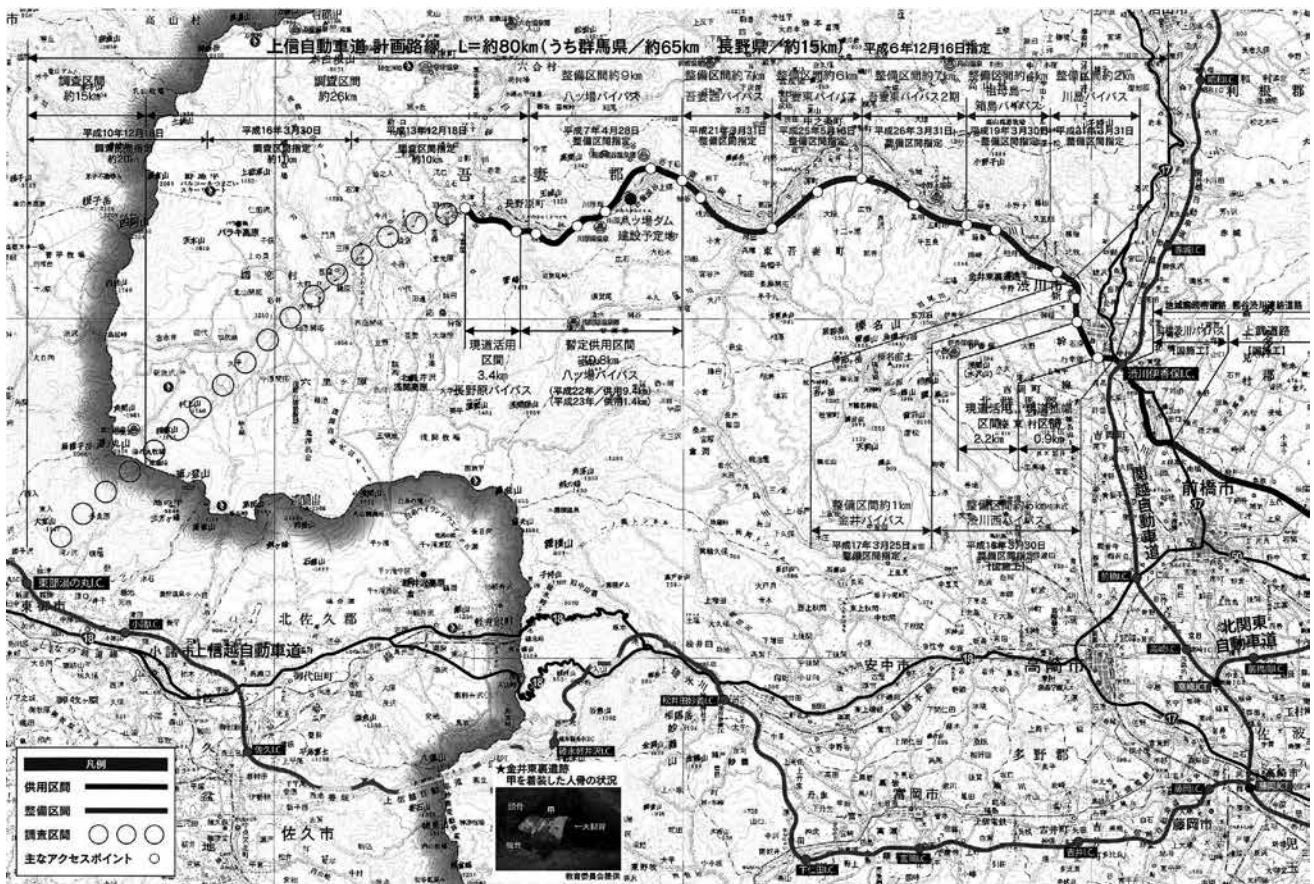
上信自動車道(国道145・353号バイパス)は、群馬県渋川市の関越自動車道渋川伊香保インターチェンジを起点に、長野県東御市の上信越自動車道東部湯の丸インターチェンジへと至る総延長約80km(群馬県約65km、長野県約15km)の地域高規格道路として、平成6年12月16日に計画路線の指定を受けた。この道路は、群馬県の「群馬がはばたくための7つの交通軸構想」における「吾妻軸」として位置づけられ、関越自動車道と上信越自動車道を連携し、吾妻地域の活性化支援に大きく寄与することが期待され、起点となる関越自動車道渋川伊香保インターチェンジの東側に続く前橋渋川バイパスや上武道路を含めた地域高規格道路「熊谷渋川連絡道路」とともに、本県

の広域的ネットワークを形成する重要路線である。

この上信自動車道は、起点から県境までを渋川西バイパス(国施工区間約5km)、金井バイパス(約1km)、川島バイパス(約2km)、祖母島～箱島バイパス(約4km)、吾妻東バイパス2期(約7km)、吾妻東バイパス(約6km)、吾妻西バイパス(約7km)、八ッ場バイパス(約9km)の各整備区間と、さらに調査区間(約26km)とに分かれている。この中には、既に現道活用や暫定供用されている区間もある。

吾妻西バイパスは国道145号バイパスの一部となる整備区間の一つで、東吾妻町大字厚田(吾妻東バイパスとの接続地点)から東吾妻町大字松谷の、既に供用が開始されている八ッ場バイパスとの接続地点までの区間であり、途中には吾妻川を渡る橋梁も含まれる。

また、この整備区間は東吾妻町大字厚田、三島、岩下、



第1図 上信自動車道計画路線図(群馬県HP「上信自動車道」より引用 <http://www.pref.gunma.jp/contents/100010158.pdf>)

松谷に位置し、特に本遺跡が所在する三島地区は、吾妻川を挟んだ対岸に標高802.6mの奇岩・怪岩に覆われた岩櫃山を望む地区である。

第2節 調査に至る経緯

吾妻西バイパスは、平成21年3月31日に整備区間の指定を受け、その後に路線測量、関係機関との調整や地元への協力要請を経て、用地取得等の工事着工準備が進められた。

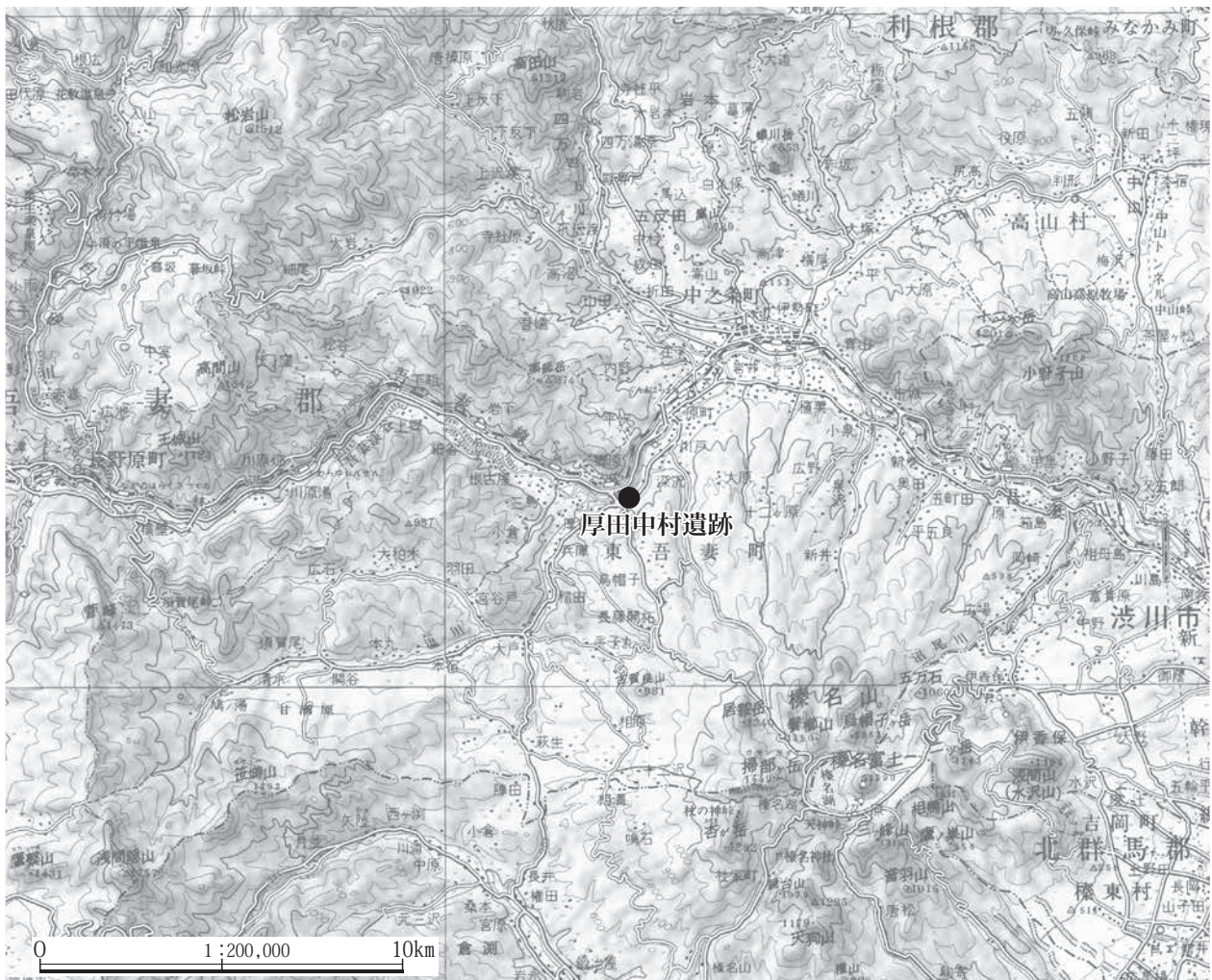
対象地における文化財の取り扱いについては、平成23年5月13日に工事を監理する群馬県県土整備部建設企画課から群馬県教育委員会文化財保護課に、当該区間における埋蔵文化財の有無と取扱について照会があった。これを受けた県教育委員会文化財保護課では、平成23年6月3日に、工事対象箇所における埋蔵文化財包蔵の有無

を明確にするため、試掘調査が必要である旨回答した上で、調査範囲と調査面積の確定、調査期間や経費算定のため、用地取得の終わった箇所ごとに順次、試掘調査を行い、埋蔵文化財の包蔵を確認した。

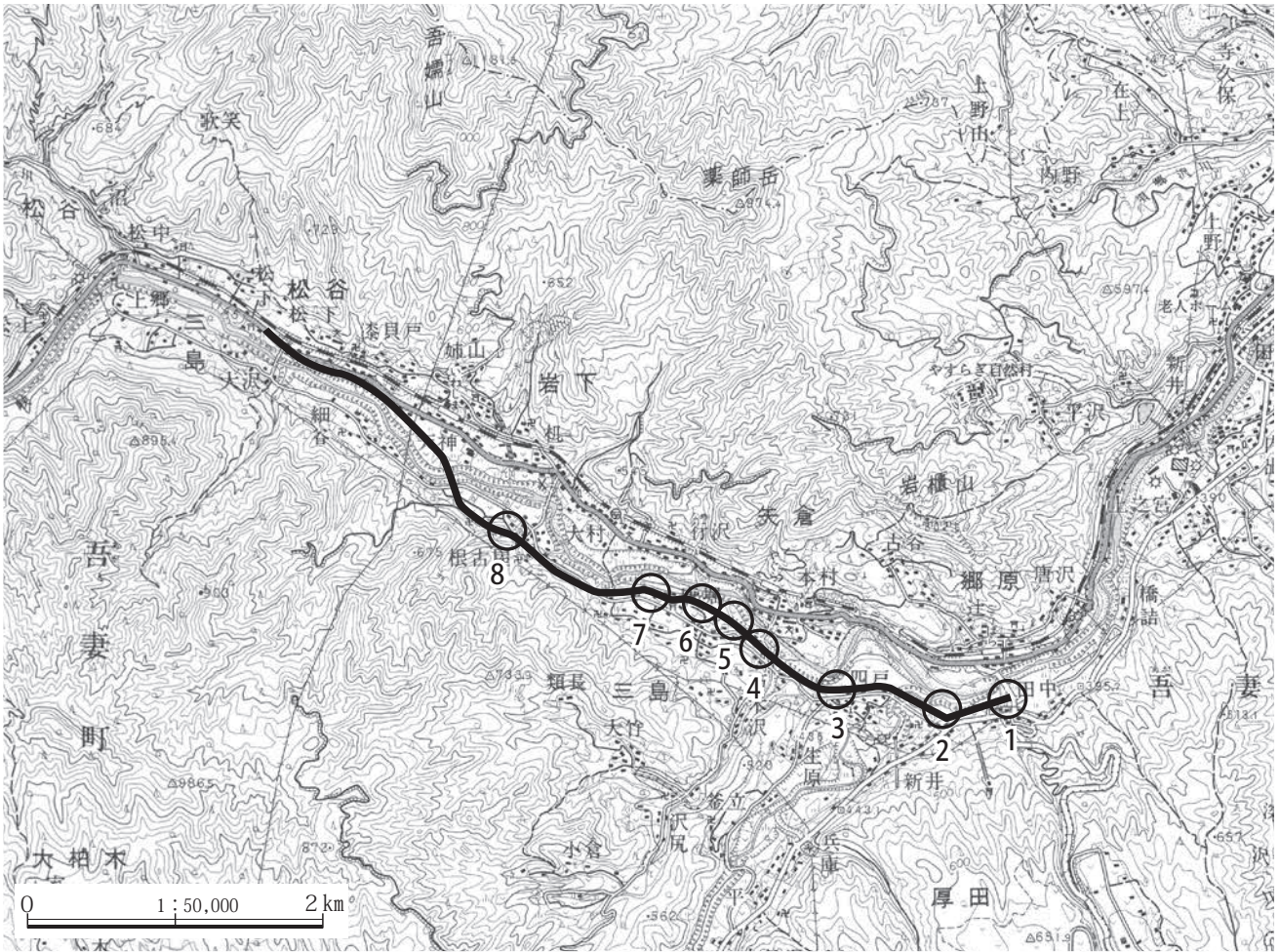
その結果は逐次、県中之条土木事務所に通知され、協議の結果、工事計画等の変更が不可能なことから、工事対象範囲に包蔵される埋蔵文化財について、やむを得ず発掘調査を実施し、記録保存の措置を講じることとなった。

発掘調査は、群馬県教育委員会の指導のもと、群馬県中之条土木事務所を委託者、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団を受託者として委託契約を締結し、発掘調査事業が実施されることになった。

吾妻西バイパス事業に係る発掘調査の嚆矢は、平成25年8月からの厚田中村遺跡であり、その後、同年9月から本遺跡の西側約1kmに位置する四戸遺跡の調査が着手



第2図 遺跡の位置(国土地理院1/200,000地勢図「長野」平成24年5月1日を使用)



第3図 上信自動車道吾妻西バイパスの路線と各遺跡位置図(国土地理院1/50,000地形図「草津」中之条を使用)

- | | | | |
|----------|--------|---------|----------|
| 1 厚田中村遺跡 | 2 新井遺跡 | 3 四戸遺跡 | 4 万木沢B遺跡 |
| 5 唐堀B遺跡 | 6 唐堀遺跡 | 7 唐堀C遺跡 | 8 根古屋城 |

され、各遺跡の発掘調査が進められた。平成30年現在も上信自動車道吾妻西バイパス建設事業に伴う発掘調査は進行中である。

調査対象地は、近世の遺跡として東吾妻町の遺跡台帳に登録されている周知の埋蔵文化財包蔵地内(東吾妻町遺跡番号0117)に所在している。本遺跡の発掘調査は、群馬県中之条土木事務所と群馬県教育委員会文化財保護課との協議を踏まえ、文化財保護課による試掘調査と調整を経て実施が決定された。

平成25年3月11・12日、県教育委員会文化財保護課は、県中之条土木事務所からの当該箇所の埋蔵文化財試掘調査依頼を承けて試掘・確認調査を実施し、遺構の存在を確認したため、工事対象地においては工事に先立って発掘調査が必要であることを回答した。

これによって、県教育委員会と県土整備部との間での

調整を経て、工事を実施するに当たって、現状における遺跡の保存が困難であることから、やむを得ず発掘調査による記録保存の措置をとることが合意された。

さらに平成25年6月にも事業地内における埋蔵文化財包蔵の確認を目的とした試掘調査を実施し、遺構の存在を確認している。

その後、発掘調査の実務を行う公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団を交えての協議が進められ、当該地における埋蔵文化財の発掘調査は、県中之条土木事務所からの委託を受けた公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施することが決せられた。

その後、さらに平成28年7月19日付け中土第112-21号にて提出された事業地も調査に取り込むことになった。

第3節 発掘調査の経過

東吾妻町厚田地区及び三島地内は、いずれも周知の埋蔵文化財包蔵地外であったが、先述したように、県教育委員会文化財保護課が平成25年3月及び6月に、上信自動車道吾妻西バイパス事業地内における埋蔵文化財包蔵地の確認を目的とした試掘調査を実施し、遺跡の存在を確認したため、本調査の対象となった。

現在、本遺跡は、近世の遺跡として東吾妻町の遺跡台帳に東吾妻町遺跡番号0117として登録されている。

発掘調査は、平成25(2013)・26(2014)・28(2016)年の3か年にわたって合計12,371.15㎡を対象として実施した。

調査対象地は東西方向に細長い路線部分で、現在の生活道路によって9か所に分断されていたので、南西側から北東側に向かって、順次、1～9区と便宜的に分けて調査が行われた。

1. 平成25年度の発掘調査

経過 平成25年度の発掘調査は、8月1日から12月31日にかけての5か月間にわたって1～3・5・6区の全域と4・7・8区の大半を調査した。平成25年度の発掘調査実施面積は8630.31㎡である。

調査面は、天明3(1783)年の浅間山噴火に伴う泥流(浅間A泥流)で埋没した面を1面とし、12世紀前半と天仁元(1108)年の浅間山噴火による火山灰層下の面を2面とした。また、一部で6世紀における2度の榛名山噴火の際に降下した火山灰層を確認したが、この年の調査では火山灰層下からは水田などの遺構は検出されなかった。

発掘調査は2区から着手され、次いで7区西側約半分に当たる7-1区の調査、さらに8区北側2/3に当たる8-1区の調査にも着手、2区の調査と並行して調査が進められ、9月下旬には7-1区の調査は終了した。

また、10月初旬に2区の調査が終わると、4区南区及び1区・3区にも相次いで調査が着手され、8区の調査と並行して進められていった。

10月下旬には1区の調査が終了し、以後、11月初旬まで4区南区と8-1区の調査が並行して続けられた。

11月上旬からは新たに3区と4区北区及び6区の調査

に着手された。4区南区及び8-1区の調査は11月上旬に終了し、以後、3区・4区北区・6区の調査が並行して進められた。

12月に入ってから4区北区及び5・6区の調査に集中し、初旬に6区の調査を終了、中旬には調査を終了し、各区埋め戻しに入り、月末に現場を撤収した。

1面の調査 ほぼ全面において浅間A泥流によって埋没した近世の水田が検出された。南の山側から北の吾妻川に向かって地形が低くなっている箇所に水田を作っている様子がうかがえ、南高北低の棚田状に形成されていた。

平成5(1993)年に行われた圃場整備や浅間A泥流による破壊を受け、水田面の残存状況は良好ではなかったものの、水田各面の段差箇所からは1300本を越える大量の木杭が打ち込まれた状態で検出された。木杭はおおむね割材であったが一部に住宅建築部材を加工して転用したものもあり、部分的に石と組み合わせて構成されていた。段差部分の土留と考えられる。

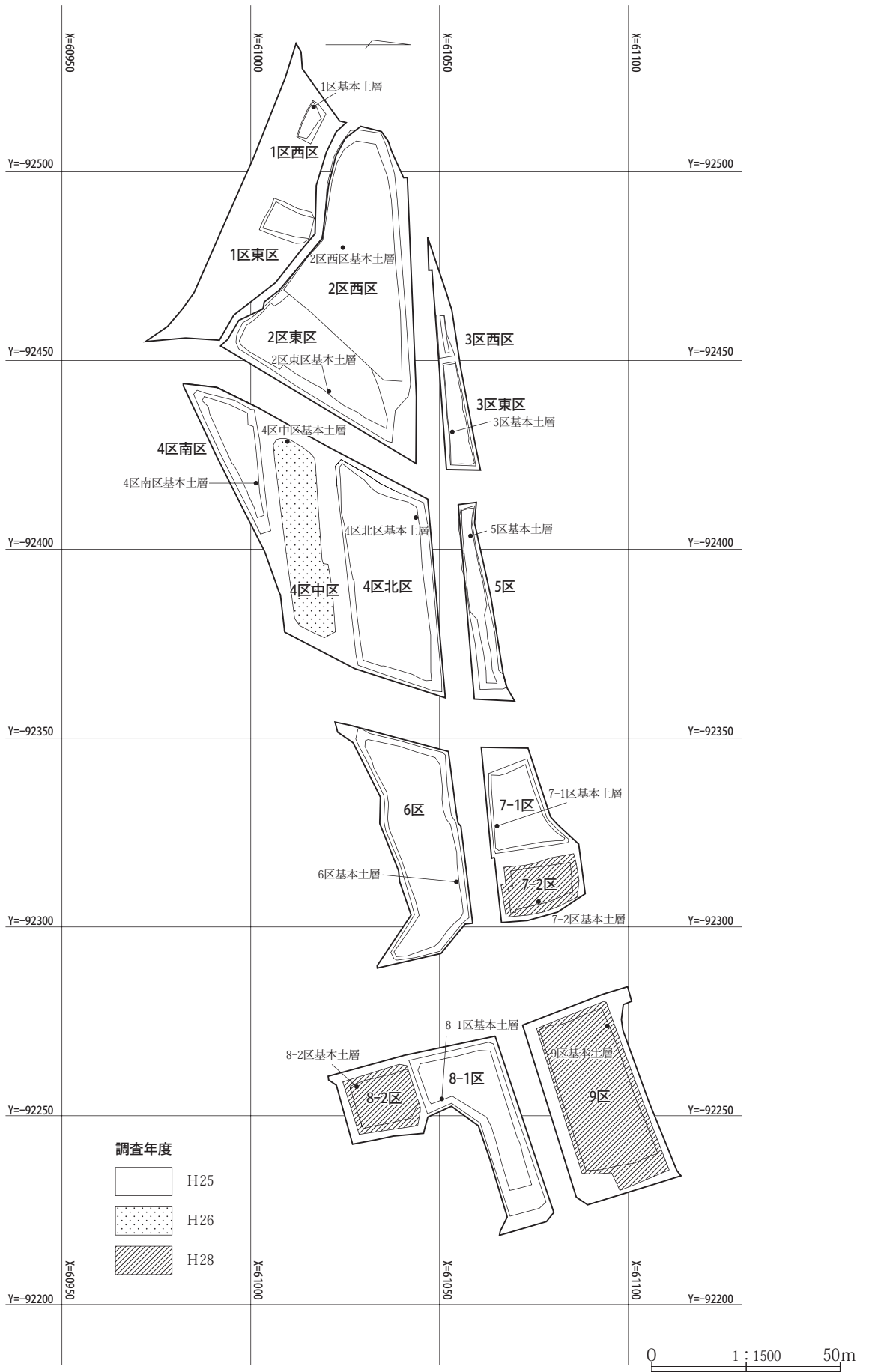
2面の調査 2面からは天仁元(1108)年に降下した浅間山火山灰As-B層下の水田が調査対象地のほぼ全域で検出されたが、それに先行する、As-B層を掘り込んだ溝等が4区の一部と7-1・8-1区から検出されている。7区ではAs-B軽石層下水田面を掘り込んで形成されたピットが規則正しく並んで検出され、なんらかの施設の存在していた可能性が考えられる。

As-B軽石層下から検出された水田の調査は、豊富な湧水により検出は困難を極めたが、広範囲に水田が形成されていたことが判明した。

2. 平成26年度の発掘調査

平成26年度の発掘調査は、新井遺跡と通算で8月1日から11月30日にかけての4か月間実施された。調査は新井遺跡と並行して実施され、本遺跡の調査は実質的には10月27日から11月28日までのおよそ1か月間であった。調査したのは平成25年度に調査を実施した4区の南北両区に挟まれた中間に当たる部分の平行四辺形状の区画である4区中区であり、調査面積は1,025.56㎡である。平成25年度に調査を実施した4区南区・4区北区と同様、湧水量が多く、調査は難航した。

10月末に調査に着手、1面の調査をほぼ終え、2面目の調査に着手し、中旬までに発掘調査を終え、下旬に整



第4図 調査区設定図

地・埋め戻しの作業を行ない、11月末に現地を撤収した。

調査は、調査区西側から着手され、東側に向かって調査が進められた。調査区の西側及び中央部では天明泥流が厚く堆積しており、東端付近では耕作地の造成によって著しく攪乱されており、遺構が検出されたのは限られた場所であった。

1面の調査 天明泥流下で検出された1面では、水田と、それに伴う水路が検出された。平成25年度の調査対象地と同様、南の山側から北の吾妻川に向かって地形が低くなっている場所を水田として開発しており、南高北低の棚田状になっていた。水田の畦畔は径0.3m程度の円礫と表面を焼き焦がした木杭を組み合わせて芯材として構築されている。打ち込まれた木杭は低地側に傾いた状態で検出される場合が多く、耕作土の土砂流動の様子がうかがえる。

杭は打ち込まれたものにとどまらず横架されたものもあり、また、杭の他に藁や小枝なども使用されていた。水田の段差下からは湧水点が検出され、そこを起点とした水田に伴う水路が検出された。調査時にも豊富な水量があった。

2面の調査 浅間山火山灰As-B層下の2面からも水田が検出されたが、明瞭な畦畔が検出されたのは1か所のみであった。不明瞭な段差や溝状に掘り込まれた畦畔の痕跡が確認出来た。

2面の下層 2面目の下層からは多量の地下水が湧出したが、2面で検出された水田耕作土の下層には泥炭化したような植物遺存体を多数含む土砂が堆積していた。

3. 平成28年度の発掘調査

経過 平成28年度の発掘調査は、吾妻西バイパス建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査全体で平成28年4月1日～12月31日の9か月の調査を行った。その中で本遺跡の調査は実質的に10月5日から12月28日までの約3か月間で、7区東半分当たる7-2区、8区南側1/3に当たる8-2区及び9区の計2,715.28㎡を調査した。

調査は7-2区から着手され、10月下旬からは並行して8区-2区の調査にも着手、10月末からは9区の調査にも着手された。11月初旬まで3調査区の調査が並行して行われたが、11月上旬には、まず、最初に着手された7-2区の調査が終了した。その後は8-2区と9区の

調査が並行して実施され、12月上旬には8-2区と9区の調査がほぼ同時に終了した。以後、調査区の埋め戻し・整地等を行い、年末に現地を撤収した。

調査面は天明泥流堆積物直下を1面、天明泥流下の洪水層下を1面下、天仁元(1108)年降下の浅間山火山灰層下を2面、2面の下層と6世紀初頭に降下した榛名山二ツ岳噴火に伴う火山灰Hr-FA層下の3面との間の堆積層を2面下とした。1面上下と3面の遺構は7-2区では確認できず、また、2面下の遺構は8-2区のみで検出された。また、本遺跡で天明泥流下の洪水層下の遺構が検出されたのは、8-2区と9区のみである。

1面の調査 1面は8-2区で水田、9区では畑が扇状地地形に沿って棚田状に検出された。段には土留めのために石垣が構築されており、8-2区では2列、9区では1列が検出された。8-2区では2列の石垣に沿って木杭列が検出された。これらの木杭は1面直下層である洪水堆積層から打ち込まれたものもあることから、洪水発生後に土留め用の柵として設置されたものと見られる。石垣は、地山を掘り込んでから石を据え付けており、石垣に沿ってその上段から杭を打ち込んで柵を組み、下段の水田面への土砂の流入を防ぐためのものと考えられる。

1面下の調査 1面下は天明泥流下で検出された水田面よりもさらに下層から検出された遺構面で、8-2区では水田が、9区では畑がそれぞれ検出された。8-2区で検出された水田は天明3(1783)年に起こった浅間山噴火の際に降下したAs-A軽石を含む洪水堆積層の直下から検出された。この地域では天明3年の浅間山噴火後に洪水が発生し、その後の火山泥流発生までのわずかな期間に水田の復旧がなされていたことが判明した。

また、1面で検出された木杭の一部には、打ち込まれた角度や深さが他と明らかに異なるものがあり、1面下の調査面に関わるものも存在していた可能性が考えられる。

2面の調査 12世紀前半に降下したと考えられる浅間粕川テフラは部分的にしき堆積しておらず、浅間粕川テフラ層直下からは明瞭には水田の痕跡を検出することが出来ず、遺構は確認出来なかったものの、7-2区においてプラントオパール分析を実施したところ、イネ科のプラントオパールが多量に検出されたので、この時期にお

いても水田が形成されていた可能性が考えられる。

2面としたのは天仁元(1108)年の浅間山噴火によって降下したAs-B軽石によって埋もれた面で、7-2・8-2・9各区において水田が検出された。9区では大畦畔が検出されている。大畦畔は、下層から検出される礫を補強材として構築されていた。

2面下の調査 8-2区において、As-B軽石層直下で検出された水田と、その下から検出された6世紀初頭に降下した榛名山二ツ岳火山灰Hr-FA層下から検出された水田の間の層位で黒色粘質土が一部で認められたため、水田遺構の存在が想定され、面的な調査を実施したが、遺構としての水田面は検出に至らなかった。ただし、水田に伴う水路と考えられる溝が1条検出された。

プラントオパール分析を実施したところ、少量ながらもイネ科のプラントオパールが検出され、水田耕作が行われていたことを示唆するデータが得られた。

As-B軽石層直下から検出された水田面の下層には、複数の洪水堆積層が確認出来、各堆積層を挟んで黒色粘質土が薄く堆積していることから、6世紀初頭に起こった榛名山二ツ岳噴火によるHr-FA降下後、天仁元(1108)年の浅間山噴火によるAs-B軽石降下までの間の約500年の間に繰り返し洪水がこの地域を襲っていたことになる。2面下において水田面の形成がある程度想定出来たのは、本遺跡でも8-2区のみ留まった。

3面の調査 8-2区と9区において6世紀初頭に降下した榛名山火山灰Hr-FA層の下層から、1辺1~2m前後の極小区画水田が検出された。とくに9区では調査区内に河川流路が検出されており、河川を用・排水路として利用し、水田が形成された様子が看取出来た。本遺跡が所在する吾妻地域西部において初めて発見されたHr-FA層下の水田遺構であり、本県内における古墳時代の極小区画水田検出事例の最も北西側の事例となった。

なお、9区においてHr-FA層下から検出された水田面のさらに下層に粘性土の堆積層が認められたため、遺構の確認を行ったが、遺構は検出されなかった。

調査日誌抄

平成25年度

8月1日 現地での調査準備着手

8月5日 1区、2区西区表土掘削着手

8月22日	2区西区遺構確認作業
8月28日	7-1区表土掘削着手
8月29日	7-1区遺構確認着手
8月30日	2区西区1面全景写真撮影
9月2日	2区西区1面水田木杭断割調査
9月9日	2区西区1面下確認調査
9月10日	7-1区1面全景写真撮影
9月11日	7-1区2面遺構確認
9月17日	7-1区2面ピット調査
9月18日	7-1区2面全景写真撮影、水田木杭精査、8区表土掘削着手
9月20日	2区東区1面遺構確認
9月25日	7-1区埋め戻し着手
9月26日	2区東区1面全景写真撮影
9月27日	2区東区1面遺構実測、水田木杭精査
10月1日	8-1区遺構確認着手
10月2日	2区東区1面調査終了、2面表土掘削着手、8-1区1面水田木杭精査
10月3日	2区東区2面遺構確認
10月8日	2区東区2面全景写真撮影、遺構実測、8-1区2面遺構確認
10月17日	4区南区表土掘削、8-1区2面遺構確認
10月18日	1区表土掘削、4区南区1面遺構確認
10月21日	1区全景写真撮影、遺構実測、8-1区2面水田杭列精査
10月22日	3区西区表土掘削、全景写真撮影、実測、埋め戻し、調査終了、4区南区1面全景写真撮影、水田木杭精査
10月28日	4区南区1面水田木杭及び石垣実測・写真撮影、8-1区2面下遺構確認
10月31日	4区南区2面遺構確認、8-1区2面下確認調査、遺構無し
11月5日	4区南区2面調査継続、4区北区表土掘削着手
11月6日	4区北区遺構確認、8-1区2面下測量
11月7日	2区埋め戻し着手、3区東区表土掘削着手、4区南区調査終了、4区北区1面調査継続、6区表土掘削着手、8-1区調査終了

第1章 調査に至る経緯、方法と経過

11月8日	3区東区1面水田木杭精査、4区南区埋め戻し着手、4区北区1面調査継続、6区表土掘削継続	平成28年度	10月5日	現地での調査準備着手
11月11日	4区北区2面調査着手、8区埋め戻し着手		10月18日	7-2区表土掘削着手
11月12日	3区東区1面水田木杭精査、4区南区埋め戻し終了		10月24日	7-2区遺構確認着手、基準点測量、8-2区表土掘削着手
11月13日	3区東区1・2面全景写真撮影、4区北区1面全景写真撮影、遺構実測、水田木杭精査		10月25日	8-2区基準点測量
11月14日	3区東区調査終了		10月26日	7-2区全景写真撮影、8-2区遺構確認着手
11月18日	3区東区埋め戻し着手		10月27日	9区表土掘削着手
11月20日	4区北区1面調査終了、2面調査着手、6区遺構確認着手		11月1日	7-2区2面遺構平面実測、8-2区1面全景写真撮影、9区遺構確認着手
11月21日	3区東区埋め戻し終了、6区1面全景写真撮影、遺構実測		11月4日	7-2区2面全景写真撮影、8-2区1面精査、1面全景写真撮影、9区西半全景写真撮影
11月28日	4区北区2面全景写真撮影、遺構実測、調査終了、埋め戻し着手		11月7日	8-2区1面下水田調査、9区浅間A泥流下畑調査
12月2日	5区表土掘削着手、6区2面遺構確認		11月10日	7-2区調査終了、埋め戻し着手、8-2区1面下水田調査継続、9区1面畑調査継続
12月3日	5区1面遺構確認着手、6区2面精査		11月15日	8-2区2面水田、15号溝調査、水田杭列調査、9区2面調査着手
12月4日	5区1面・6区2面全景写真撮影		11月21日	8-2区2面遺構確認、9区2面水田畦畔実測、17号溝調査、実測
12月6日	6区調査終了		11月26日	8-2区・9区空撮、全景写真撮影
12月11日	5区1面調査終了、6区埋め戻し着手		11月28日	8-2区2面遺構実測、9区3面調査着手
12月12日	5区2面調査着手		12月1日	8-2区2面全景写真撮影、平面実測、3面Hr-FA下水田調査着手、9区Hr-FA下水田調査継続
12月13日	5区2面調査終了		12月5日	8-2区3面全景写真撮影、平面実測、調査終了、9区3面調査継続
12月16日	4・6区埋め戻し終了、5区埋め戻し着手		12月8日	9区3面全景写真撮影、水田平面実測、調査終了
12月27日	現地撤収		12月9日	8-2区埋め戻し着手
平成26年度			12月12日	9区埋め戻し着手、基本整理着手
10月27日	現地での調査準備着手		12月14日	8-2区埋め戻し完了
11月4日	4区中区表土掘削着手		12月22日	9区埋め戻し完了
11月6日	4区中区1面全景写真撮影、水田畦畔断割		12月28日	現地撤収
11月12日	4区中区2面調査着手			
11月14日	4区中区2面全景写真撮影			
11月17日	4区中区2面下層確認調査着手			
11月19日	4区中区調査終了			
11月20日	4区中区埋め戻し着手			
11月28日	現地撤収			

第1表 検出遺構面一覧表

	1区	2区 西区	2区 東区	3区	4区 南区	4区 中区	4区 北区	5区	6区	7-1 区	7-2 区	8-1 区	8-2 区	9区
1面 天明3(1783)年浅間山噴火後発生泥流層下														
1面下 天明3(1783)年浅間山噴火直後発生洪水層下														
2面 12世紀前半浅間山噴火時降下火山灰As-Kk層及び12世紀初頭天仁元(1108)年浅間山噴火時降下火山灰As-B層下														
2面下 12世紀初頭以降、6世紀初頭以前														
3面 6世紀初頭榛名山ニツ岳噴火時降下火山灰Hr-FA層下														

第4節 発掘調査の方法

1. 座標の設定

発掘調査に用いた座標は世界測地系(日本測地系2000平面直角座標第IX系)であり、10m×10mを基本とし設定した。遺構図中の座標については、座標値の下3桁を「X軸-Y軸」の順で記し、「X=61600、Y=-94200」の場合、「600-200」のように表記した。

2. 調査の方法

調査の方法はごく標準的な方法を用いた。

表土除去は基本的にバックホーを主体とした重機により行った。

表土除去後、平面精査及び遺構確認を行った。確認された遺構は、埋没土層確認用ベルトを任意に設定し、発掘作業員が移植鍬等で掘削し、遺構断面及び平面測量及び写真撮影等を行い、実測図及び写真によって記録した。

発掘調査記録類は、写真については、デジタルカメラで撮影されたものはデジタルデータとして、またフィルムによって記録されたものはフィルムおよび検索用の焼き付け写真として保管し、整理作業に備えた。

また、調査過程において出土した遺物については、出土した遺構ごとに出土地点を記録し、整理・集約した上で、洗浄および出土遺跡・遺構・出土地点等に関するデータを注記する作業を業者委託し、業者から提出を受けた成果品については、発掘調査担当者が逐次、点検・照合し、受領した。

調査終了後の埋め戻しの作業は、基本的にバックホーを主体とする重機によって行った。

3. 遺構測量

遺構図は遺構断面及び平面実測図とも縮尺1/20を基本とし、遺構の状況に応じて適宜、縮尺1/10・1/40とした。

遺構平面実測図の作成に当たっては、指名競争入札によって落札した測量会社にデジタル測量を委託し、データ及び打ち出し図面の提出を受けた。

遺構断面実測図は、原則として発掘現場における発掘作業員によってアナログ実測で作成されたものを元に、測量会社にデジタルデータ化を委託し、遺構平面実測図と同様、データ及び打ち出し図面の提出を受けた。

上記、委託先測量会社により作成されたデジタルデータ成果品およびアナログ実測された原図等は、調査記録として保存されている。

4. 遺構写真撮影

発掘調査において、すべての遺構の写真は発掘調査担当者が分担して撮影した。主要な遺構については、iso400ブローニー版モノクロフィルムを6×7cm判サイズで撮影し、撮影記録はネガフィルムの状態で保存し、焼き付け写真を貼付したフィルムの検索台帳を作成した。

また、発掘調査の過程で、調査の進捗状況の記録、及びすべての遺構について、デジタルカメラで撮影を行い、撮影データを保存し、検索用データを作成した。

また、調査記録として、遺構ごとに土層断面、遺物出土状態、遺構全景等の撮影を行い、さらに必要に応じて遺構の各部分について、検出および調査の状況について微細な接写を行っている。

第5節 整理作業の経過と方法

整理作業は、平成28年度に平成29年1月から3月までの3か月間、平成29年度に平成29年5月から平成30年3月までの11か月間、平成30年4月から6月までの3か月間の計17か月間にわたって実施した。

対象となった発掘調査時に作成された遺構図面は409枚、記録写真はデジタル画像で2671カット、銀塩写真360カットであった。

1. 平成28年度の整理作業

平成28年度の整理作業は、平成29年1月1日から3月31日までの3か月間、群馬県中之条土木事務所の委託を受けて、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施した。

まず、調査現場から搬入された出土遺物コンテナ79箱分の基本的な分類・仕分けと登録、集計作業を実施した後、石製品の実測、分類、観察作業を実施した。発掘調査記録については、台帳整備、写真記録のチェックを行い、遺構図と写真記録の照合や誤認・誤記の修正作業を行なった。また、数度にわたって発掘調査担当者からの調査所見や土層注記について聞き取りを行い、遺構遺物についての理解の深化につとめた。

2. 平成29年度の整理作業

平成29年度の整理作業は、平成29年5月1日から平成30年3月31日までの11か月間、群馬県上信自動車道建設事務所の委託を受けて、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が引き続き担当した。

発掘調査時に作成された遺構平面図、断面図の点検・修正・整合・編集を行い、発掘調査報告書の掲載図のデジタルデータ化を行なった。

出土遺物については、発掘調査時に洗浄・注記をすべて終えていた遺物を選別、接合・復元し、その後、必要に応じて順次、写真撮影、実測及びトレース、採拓等の作業を実施した。

発掘調査時に撮影された各種遺構写真は、発掘調査報告書に掲載するものを選別し、写真図版の編集を行った。

また、これらの作業と並行して、本文原稿・遺物観察

表等の執筆を順次進めていった。

3. 平成30年度の整理作業

平成30年度の整理作業は、平成30年4月1日から同年6月30日までの3か月間、群馬県上信自動車道建設事務所の委託を受けて、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が引き続き担当した。

前年度から継続して発掘調査報告書の編集作業を行ない、遺構図、遺物図、遺構写真・遺物写真・本文原稿・遺物観察表等のレイアウトを作成した後にデジタル編集を行い、本報告書の原稿を作成した。

作成された原稿は、指名競争入札によって落札した業者に委託され、印刷・製本の業務を実施する。なお、業者委託した印刷業務の推移の中で、原稿の校正作業を実施し、完成後、納品を受け、納品された発掘調査報告書は、検品の上、完了検査を実施し、活用に資するために関係各機関へ発送する作業を行う。

また、これらの作業と並行して、調査及び整理業務の過程で作成された遺構・遺物の各種図面・写真等の記録類を収納する作業を実施した。

発掘調査及び整理業務の過程で作成された遺構・遺物に関わる各種図面及び写真等の調査記録資料は、一括して群馬県埋蔵文化財調査センターに収納・保管されている。

参考文献(第1章)

群馬県2007『はばたけ群馬・県土整備プラン2008-2017』

群馬県2013『はばたけ群馬・県土整備プラン2013-2022』

群馬県2014『はばたけ群馬プラン・第14次群馬県総合計画・重点プロジェクト(平成26年4月1日改訂)』

群馬県県土整備部道路整備課(道路企画室) 2013『群馬がはばたくための7つの交通軸構想』

群馬県県土整備部道路整備課2014『地域高規格道路上信自動車道』

(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2014『年報』33

(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2015『年報』34

(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2016『年報』35

(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2017『年報』36

群馬県ホームページ <http://www.pref.gunma.jp/>

マッピングぐんま

<http://mapping-gunma.pref-gunma.jp/pref-gunma/top>

第2章 周辺環境

第1節 地理的環境

厚田中村遺跡は、吾妻郡東吾妻町の北部、JR吾妻線郷原駅から南に0.5km、吾妻郡東吾妻町大字厚田字中村に所在する。吾妻川右岸、遺跡の中央付近を榛名山から北に向かって流する急峻な田中川と本田中沢によって形成された扇状地上、榛名山北西麓の末端に立地しており、標高は400m前後である。吾妻川南側の河岸段丘(最下位段丘面群)上に当たり、吾妻川との比高差は20～30m程度である。

この地域では、平坦面を形成する扇状地上を長期にわたって土地利用しており、現在は水田地帯となっている。

吾妻郡東吾妻町は、平成18(2006)年3月27日に吾妻郡吾妻町と東村が合併して成立した。榛名山の北側に位置し、町域の北・西・南には標高1000m級の嶺が連なり、吾妻川を挟んだ南側に榛名山や浅間隠山、北側には岩櫃山や吾嬬山などが聳え、町域内を吾妻川・温川・深沢川などの河川が流れている。周辺の山地は、急峻な地形を呈している。

吾妻川は、長野県との県境である鳥居峠付近を源とし、吾妻郡内を西から東へと流れている。川沿いには河岸段丘が発達しており、上位段丘面群である蓑原面・成田原面、中位段丘面である新巻面、下位段丘面である中之条面、最下位段丘面群である伊勢町面群に分類される。これら段丘面のうち、上位段丘面群に下部～上部ローム層が、中位段丘面に中部～上部ローム層が、下位段丘面に上部ローム層が堆積している。最下位段丘面群にはローム層が堆積していない。

本遺跡の西約7kmに位置する国指定名勝吾妻峡も、この吾妻川によって形成された峡谷である。吾妻郡東吾妻町大字松谷の雁ヶ沢川との合流地点付近から吾妻郡長野原町大字川原湯の八ッ場ダム建設予定地の東側付近にかけての約4kmにわたっている。

榛名山は、標高1449mの掃部ヶ岳を最高峰とする複式成層火山であり、山頂部にはカルデラ、カルデラ湖、中央火口丘等が、山体斜面には熔岩ドームや爆裂火口が存

在し、古墳時代6世紀の初頭と前半には2度の噴火が発生している。榛名山北側山麓の大部分は火山麓扇状地であり、大谷沢川・深沢川・寺沢川・大泉寺川・泉沢川・奥田川などの放射谷が山体を抉っている。泉沢川以西では、火山麓扇状地原面の一部が保存されている。周辺の山地は、急峻な地形を呈している。

また、本遺跡の南西約30kmに位置する浅間山は、現在でも活発な火山活動を続けており、地域にさまざまな影響を与えている。

本遺跡が所在する東吾妻町は、『平成27年度群馬県市町村要覧』によると、産業別人口構成は、第1次産業が15.8%、第2次産業が25.8%、第3次産業が58.4%であり、近年は畜産業がやや盛んな地域である。また、戦国期城郭である岩櫃城跡や、吾妻川を挟んだ本遺跡の対岸に位置する郷原遺跡から1941(昭和16)年に出土した国指定重要文化財ハート形土偶(個人蔵、東京国立博物館寄託)などが文化・観光資源として注目を集めるようになってきており、観光客の増加による地域経済の活性化に繋がるものと期待されているところである。

第2節 歴史的環境

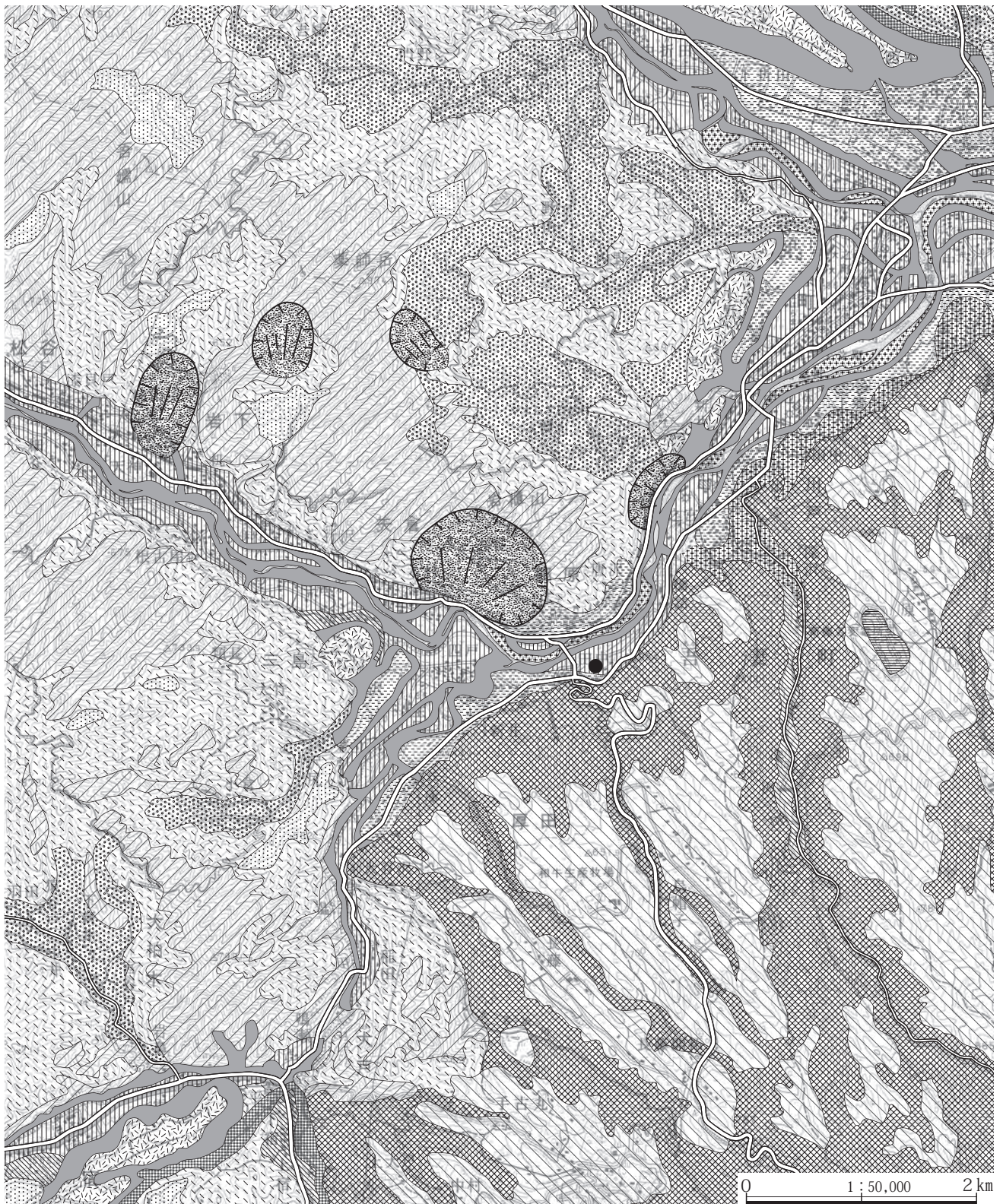
吾妻郡域では、国指定名勝吾妻峡より西側の八ッ場ダム建設予定地においては数多くの遺跡が発掘調査されているのに対して、本遺跡周辺において、上信自動車道吾妻西バイパス建設に伴って発掘調査されている遺跡以外には確認されている遺跡の数はあまり多くはない。また、中世以前の文献史料もまた極めて少ない状況にある。


















1. 旧石器時代

本遺跡周辺においては、現在のところ、旧石器時代の遺跡は全く確認されていない。

2. 縄文時代

本遺跡周辺においては、現在のところ、縄文時代草創期～早期の遺跡は確認されていない。



山地	火山地	台地	低地	その他
 急斜面(30° <)	 急斜面(30° >)	 上位段丘群	 谷底平野	 崖錘・麓斜面
 一般斜面(15° ~ 30°)	 一般斜面(15° ~ 30°)	 下位段丘群	 河原	 扇状地・沖積錘面
 山麓緩斜面(15° >)	 山麓緩斜面(15° >)	 最下位段面丘群(完新世段丘群)		 地すべり
 山頂緩斜面・山腹緩斜面(15° >)		 段丘崖		 人工改変地

● 厚田中村遺跡

第5図 周辺地形分類図(国土交通省国土政策局国土情報課5万分の1 都道府県土地分類基本調査(中之条)を一部改変)

本遺跡と同様、上信自動車道吾妻西バイパスの建設に伴って調査された、本遺跡のすぐ西隣に接する新井遺跡(第6図2)からは、前～後期初頭の集落が検出されている。

また、同じく吾妻西バイパス建設関連で調査された本遺跡の西約1.2kmに位置する四戸遺跡(第6図4)からは、前期前半の集落、前期の屋外埋設土器、遺物包含層などが検出された。

本遺跡とは吾妻川を挟んだ対岸、本遺跡から北へ約150mに位置する郷原遺跡(第6図7)からは前期～後期の集落が検出されている。昭和16(1941)年に、後に国重要文化財に指定されたハート形土偶が出土したことで有名な遺跡である。

その他、吾妻西バイパス関連で調査された遺跡としては、本遺跡の西北西約1.7kmに位置する万木沢B遺跡(第6図6)からは晩期の遺物包含層が検出されている。

西北西約2kmに位置する唐堀遺跡では後晩期の安行3c式期の土器を含む遺物包含層や集落、湧水点などが検出され、遮光器土偶の頭部を含む多数の土器が出土している。湧水点周囲からは多量の橡の実などの果実種子が出土している。

3. 弥生時代

本遺跡周辺においては、現在のところ弥生時代前期の遺跡は確認されていない。

中期の遺跡としては、「岩櫃山式土器」の標式遺跡である岩櫃山鷹の巣遺跡(第6図10)や本遺跡の北西約3kmに位置する前畑遺跡などから再埋葬が検出されている。前畑遺跡は吾妻川の河岸段丘の最下位段丘面群上に立地する一次埋葬地であり、また、岩櫃山鷹の巣遺跡は岩櫃山の岸壁に立地する二次埋葬地と考えられている。

吾妻西バイパス建設事業に伴って発掘調査された、本遺跡の西北西約2kmに位置する唐堀B遺跡からは、後期の竪穴住居が5棟検出され、当該地域一帯における弥生時代集落の初めての発見となった。

本遺跡のすぐ西側に隣接する新井遺跡(第6図2)からは、後期の竪穴住居が3棟、円形周溝墓1基、大型の方形土坑などが検出されている。竪穴住居のうちの2棟は、いわゆる焼失家屋であり、炭化した上屋部材とともに炭化した米・粟・小豆などが出土した。また、方形土坑か

らは鉄剣やガラス玉が出土し、最先端技術による製品がいち早く当該地域へも伝播していた様子がうかがえる。他に、長形状に石が敷かれたように配された集石遺構も検出されている。

四戸遺跡(第6図4)からは中期後半の竪穴住居3棟と後期の竪穴住居17棟が検出された。後期の住居からは条痕文と波状文が施された土器が出土している。

吾妻西バイパス建設に伴う一連の発掘調査によって、当該地域の弥生時代における居住域の様相や、先端文物導入の様子などが次第に明らかになりつつある。

4. 古墳時代

当該地域は、本県における古墳所在地の最北西端の地として知られてきた。当該地域においては、これまで古墳時代後期の古墳の存在しか知られていなかったが、吾妻西バイパス建設事業に伴って調査された、本遺跡の西側に隣接する新井遺跡(第6図2)からは、古墳時代前期の方形周溝墓が検出され、この地にも古墳時代前期からの墳墓が造営されていたことが判明した。

同様に、従来は、本遺跡周辺では古墳時代集落の検出事例はあまり聞くことがなかったが、近年の吾妻西バイパス建設事業に伴う発掘調査の進展によって、古墳時代前期から後期に至る集落も検出されるようになり、古墳時代の居住域の展開も次第に判明しはじめている。

本遺跡から北西に約4kmに位置する「姉山の石組かまど」は、緩斜面に立地する竪穴住居に構築された山石利用の石組み竈であり、吾妻川流域の古墳時代後期から平安時代にかけて特徴的なもので、吾妻西バイパス建設事業に伴って調査された遺跡の中では、四戸遺跡(第6図4)や唐堀C遺跡からも古墳石室を彷彿とさせる石組竈を有する竪穴住居が検出されている。

西側に隣接する新井遺跡(第6図2)からは中～後期の集落が検出され、滑石製模造品やベンガラを磨り潰した磨石などが出土した。また、方形周溝墓4基、古墳3基なども検出されている。方形周溝墓からは鉄剣、玉、朱などが出土した。古墳3基はいずれも墳丘を削平されていたが、検出された1辺約27m程度の方墳は『上毛古墳総覧』所載の「遠見塚古墳」に相当する古墳とみられる。

四戸遺跡からも古墳時代の集落が検出されている。竈が出現する以前の、炉を備えた前期の竪穴住居から、6

～7世紀の後期の竪穴住居も検出されており、古墳時代を通して、継続して安定した居住域であったことが判明した。

唐堀遺跡からは墳丘が削平された6世紀後半～7世紀初頭頃と見られる径約18mの円墳1基が検出され、玄室から直刀、小刀、耳環、鉄鎌、ガラス玉などが出土した。また、唐堀遺跡の西側に隣接する唐堀C遺跡からも古墳時代後期の集落が検出された。

本遺跡の北西約3.5kmに位置する机古墳は群馬県最北西に位置する古墳であり、後期の古墳である。

また、四戸遺跡の東側及び南側に展開し、本遺跡の西約1kmに位置する四戸の古墳群(第6図3)では、26基の後期古墳が確認されている。

本遺跡では6世紀初頭に降下したと考えられている榛名山二ツ岳火山灰Hr-FAによって埋没した古墳時代の極小区画水田の遺構が部分的に検出された。当該地域における古墳時代の極小区画水田の初めての検出事例であり、また、本県で最も北に位置する古墳時代小区画水田の検出事例である。

5. 奈良・平安時代

律令制下において、群馬県域はほぼ上野国の領域に当たっており、国内には「碓氷・片岡・甘楽・多胡・緑野・那波・群馬・吾妻・利根・勢多・佐位・新田・山田・邑楽」の14郡が置かれた(当初13郡、和銅4(711)年に多胡郡設置で14郡)。吾妻郡には「長田」、「伊参」、「太田」の3郷があった。また、吾妻郡中之条町大字市城付近は、官牧である「市代牧」の所在地に比定されている。

本遺跡周辺における奈良・平安時代の遺跡は、これまでは、前畑遺跡などで集落が検出されていたことと、本遺跡の北東約5kmに位置する白鳳期寺院跡である金井廃寺の存在が知られる程度に過ぎなかったが、他の時代の遺跡と同様、近年における吾妻西バイパス建設事業に伴う発掘調査の進展により、奈良・平安時代の遺跡の検出事例も格段に多くなってきている。

本遺跡の西側に隣接する新井遺跡からは平安時代前期9世紀の集落が検出され、中にはいわゆる焼失家屋も存在している。

四戸遺跡からは平安時代9世紀を中心とする奈良・平安時代の集落が検出されており、8～9世紀の竪穴住居

においても古墳時代後期の竪穴住居と同様、石組の竈が構築された事例も存在している。同遺跡では平成27(2015)年12月に、9世紀後半の竪穴住居(2区51号住居)からほぼ完形の状態に復元できる大型の奈良三彩短頸壺が出土した。

また、唐堀遺跡及びその西側に位置する唐堀C遺跡においても奈良・平安時代の集落が展開していた様子が判明している。唐堀C遺跡では平安時代後期の天仁元(1108)年に降下した浅間山火山灰As-B軽石によって埋没した畠跡も検出された。

本遺跡の北東約5kmに位置する白鳳期寺院跡である金井廃寺は、7世紀後半から9世紀前半にかけての寺院跡であり、上野国佐位郡家に隣接し、佐位郡の郡領層が建立した寺院と考えられる伊勢崎市上植木廃寺と同範の軒丸瓦が採取されている。県内では前橋市の山王廃寺(放光寺跡)、伊勢崎市の上植木廃寺、太田市の寺井廃寺とこの金井廃寺以外に、現在のところ本格的な白鳳期寺院の遺跡は発見されていない。吾妻地域にいち早く本格的な寺院を建立できるような強い経済基盤を有する在地首長が存在していた証である。「長元3(1030)年上野国不与解由状案」(いわゆる「上野国交替実録帳」)定額寺項には、「放光寺」、「法林寺」、「弘輪寺」、「慈廣寺」の4寺の名称が記載されている。冒頭の「放光寺」が前橋市に所在する山王廃寺に当たることは、出土した文字瓦によって確実であるので、「法林寺」、「弘輪寺」、「慈廣寺」の三か寺が、伊勢崎市上植木廃寺、太田市寺井廃寺、東吾妻町金井廃寺のどれかに、それぞれ当たるのではないかと考えられている。

なお、本遺跡における奈良・平安時代の遺構としては、天仁元(1108)年降下の浅間山火山灰As-B軽石によって埋没した水田が部分的に検出されている。また、遺構としては明確に検出することは出来なかったが12世紀前半に降下したとみられている浅間一粕川テフラ層下にも水田が形成されていた可能性が高く、奈良・平安時代において本遺跡は一貫して耕作地であったことが判明している。

6. 中・近世

火山灰As-B軽石を降下させた天仁元(1108)年の浅間山噴火後、上野国内では荘園開発への動きが活発になる。

吾妻郡域においては、12世紀末頃に秀郷流藤原氏である吾妻氏(前吾妻氏)が台頭する。

『吾妻鏡』には吾妻八郎・吾妻太郎助亮・吾妻四郎助光の名が見えるが、承久3(1221)年に勃発した承久の乱において吾妻助光が戦死したことにより前吾妻氏は滅亡したとされている。

その後、嘉禎年間(1235～38年)に、前吾妻氏と同様、秀郷流藤原氏を称する吾妻(下河辺)行家が鎌倉幕府より吾妻郡を賜った。これを学界では便宜的に後吾妻氏と称している。貞和5(1349)年に吾妻行盛が里見義侯との争いで戦死し、後吾妻氏は滅亡したとの伝承がある。東吾妻町大字岩井の長福寺五輪塔に刻まれた「藤原行盛」がこの吾妻行盛であるとされるが、戦死の一件については疑問視もされている。

14世紀末になると、この地域では秀郷流藤原氏の齊藤氏が台頭してくる。永禄4(1561)年の上杉輝虎の関東出兵時の「関東幕注文」には、「岩下衆 齊藤越前守 六葉柏」とあり、齊藤氏が、本遺跡の北西約3kmに位置する岩下城を中心に勢力を張ったことが窺える。

16世紀前半には温川上流の手子丸城(大戸城)に拠った大戸氏が勢力を伸ばし、本遺跡の北西約3.5kmに位置する根小屋城に入っている。この根小屋城跡は、吾妻西バイパス建設事業に先立って発掘調査されており、竪穴状遺構、土坑、ピットなどが検出された。同時に根小屋川を挟んだ対岸に位置する根小屋B遺跡や、根小屋城跡の東約0.2kmに位置する根小屋遺跡も調査され、同様に土坑、ピット等が検出された。

永禄6(1563)年、甲斐・信濃を領した武田信玄の上野



第6図 周辺遺跡分布図(国土地理院1/25,000地形図「群馬原町」平成9年9月1日発行を使用)

第2章 周辺の環境

第2表 周辺遺跡一覧表

	遺跡	旧石	縄文	弥生	古墳	奈平	中世	近世	種別・概要	文献
1	厚田中村遺跡				○			○	水田	本報告書
2	新井遺跡		○	○	○	○			集落	整理作業中
3	四戸の古墳群 (岩島村13～38号古墳)				○				古墳26基(町指定史跡)	9・10
4	四戸遺跡		○		○	○	○		集落	整理作業中
5	万木沢遺跡				○				散布地	
6	万木沢B遺跡		○	○		○			集落・墓・その他	整理予定
7	郷原遺跡		○			○	○		集落。散布地(国重要文化財「ハート形土偶」出土、縄文時代住居12、竪穴状遺構2、土坑48、古墳時代住居1、奈良・平安時代住居1、中世溝5など)	7・8・15
8	郷原城跡						○		城館	11・15～18
9	潜籠院跡(古屋館、古谷館)						○		城館・寺院	11・15～18
10	岩櫃山鷹の巣遺跡			○					墓・その他(町指定史跡)	11・13～18
11	古谷遺跡			○					散布地	
12	岩櫃城跡		○				○		散布地・城館(町指定史跡)	2・9・16～18
13	岩櫃城跡北側遺構群		○				○		集落(縄文住居2)・城館(中世堀4)	2・3
14	蝦夷穴遺跡			○					墳墓	
15	念仏塚遺跡		○	○					集落	4
16	道心穴遺跡			○					散布地	
17	柳沢城跡						○		城館	11・15～18
18	善導寺前遺跡			○		○	○		散布地・墓・その他	5
19	諏訪前遺跡			○	○	○	○		集落・古墳・生産遺跡	6
20	内出城跡						○		城館	
21	水上遺跡		○		○				集落	
22	玉科遺跡		○	○					散布地	10
23	深沢遺跡		○		○				集落	
24	上ノ宮遺跡				○				散布地	
25	川戸椿原遺跡		○							

文献

- 1 吾妻町教育委員会1985『郷原遺跡』
- 2 吾妻町教育委員会1992『吾妻町指定史跡岩櫃城跡保存整備計画策定報告書』
- 3 吾妻町教育委員会1994『岩櫃城跡北側遺構群遺跡』
- 4 吾妻町教育委員会1994『念仏塚遺跡』
- 5 吾妻町教育委員会1996『善導寺前遺跡』
- 6 吾妻町教育委員会1996『諏訪前遺跡』1
- 7 吾妻町教育委員会1998『郷原遺跡』
- 8 吾妻町教育委員会2006『町内遺跡Ⅲ』
- 9 岩島村誌編集委員会1971『岩島村誌』
- 10 群馬県1938『上毛古墳総覧』
- 11 群馬県教育委員会1988『群馬県の中世城館跡』
- 12 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2017『唐堀B遺跡』
- 13 杉原荘介1967「群馬県岩櫃山における弥生時代の墓址」『考古学集刊』第3巻第4号 東京考古学会
- 14 轟直行2014「岩櫃山鷹の巣遺跡で採取された丸子式土器の破片」『考古学集刊』第10号 明治大学文学部考古学研究室
- 15 原町誌編纂委員会1960『原町誌』
- 16 東吾妻町教育委員会2016『岩櫃城跡』
- 17 山崎一1972『群馬県古城址の研究』下 群馬県文化事業振興会
- 18 山崎一・山口武夫1972『吾妻郡城址史』 西毛新聞社

国西部への侵攻により、大戸氏は武田氏に従属し、武田氏の部将真田幸隆により齊藤氏の居城であった、本遺跡の北西約3kmに位置する岩下城は落城し、岩櫃城(第6図12)が武田氏の拠点となった。これによって吾妻郡域は武田氏の支配下となるも、その後、岩櫃城は天正10(1582)年の武田氏滅亡後に独立した真田氏の支配下となり、元和元(1615)年に江戸幕府によって発せられた「一国一城令」により破却されるまで存続した。

本遺跡周辺には、この他に、本遺跡の北約0.6kmに位置する郷原城(第6図8)や、本遺跡の北北東約1kmに所在する潜龍院(第6図9)などの戦国期城郭遺跡が存在するが、いずれも16世紀代のものとみられる。

徳川家康の江戸入府後、本遺跡をふくむ三島村は引き続き真田氏の支配下にあったが、天和2(1682)年に天領となり、文政7(1824)年に御三卿清水徳川家の支配下となり、さらに安政2(1855)年にはふたたび天領となった。

この間、天明3(1783)年には浅間山が大噴火して火山灰As-Aを降下させており、吾妻川流域では噴火に伴う泥流被害遺跡が八ッ場ダム建設予定地を中心に数多く確認されている。

本遺跡の西側に隣接する新井遺跡(第6図2)からは天明泥流によって埋没した畑や石垣、土坑、道路などが検出されており、本遺跡の様相とほぼ同様である。

四戸遺跡(第6図4)からは、中世の墓壇と鍛冶遺構、近世の畑、溝、土坑などが多数検出されている。

唐堀遺跡、唐堀B遺跡、唐堀C遺跡においても同様に畑、溝、土坑などが多数検出された。とくに唐堀遺跡からは天明泥流下から水田も検出されている。本遺跡では、検出された近世の遺構は水田が主であったが、土地の高低に応じて畑と水田がそれぞれ形成されており、比高差がある場所では段差を設けて柵田状に造成した上で水田ないし畑が作られていた様子が判明している。本遺跡周辺における段丘上の平坦地は、当時、周辺地域における主要な耕作地であった様子が判明している。現状に近い土地利用がなされていたことが明らかである。

第3節 基本土層

厚田中村遺跡は、吾妻川右岸、遺跡の中央付近を榛名山から北に向かって流する急峻な田中川と本田中沢に

よって形成された扇状地上、榛名山北西麓の末端に立地し、吾妻川南側の河岸段丘(最下位段丘面群)上に当たっており、平坦面を形成する扇状地上を長年にわたって土地利用していた様子がうかがえる。遺構確認面においても同様な地形であったことが確認できた。

現表土以下の基本土層柱状図は第7・8図に示した通りである。

調査区ごとに様相が異なっており、浅間山火山灰As-Kk及びAs-B軽石の堆積は断片的である。

また、本遺跡では、後世の攪乱・削平の影響が大きく、遺構の残存状態は良好とは言い難い場所も存在していた。

1. 1区

- 1層 表土。
- 2層 10YR3/1黒褐色土。径約2～15mm程度のAs-B軽石を約10%程度、径約20～50mm程度の円礫を少量含む。締りあり。
- 3層 10YR3/1黒褐色土。As-A泥流堆積物層。径約20～700mm程度の礫を含む。礫は火山性の熱を受けたものを含む。軽石混じり。

2. 2区西区

- 1層 10YR3/1黒褐色土。やや角の取れた径約10～20mm程度の角礫と径約2～10mm程度のAs-B軽石を約10%程度と長さ20mm以下で直径約2～5mm程度の植物遺存体(茎や細い根)を含む。下位には径約50mm程度の円礫をわずかに含む。締りなく湿り気多い。
- 2層 10YR2/1黒色土。As-Kk軽石と径約2～10mm程度のAs-B軽石と川砂とが混入した泥土。ざらざらした質感。水分を多く含む。湧水あり。下位には川砂が堆積。

3. 2区東区

- 1層 表土。
- 2層 10YR3/1黒褐色土。As-A泥流堆積物層。径約20～700mm程度の礫を含む。礫は火山性の熱を受けたものを含む。軽石混じり。
- 3層 10YR4/2黒褐色土。小礫と径約2～20mm程度の軽

第2章 周辺の環境

石を主とし、砂がわずかに混じる。

- 4層 10YR3/3黒褐色土。径約2～5mm程度の軽石を約20%程度含む。締りあり。
- 5層 10YR3/1黒褐色土。径約2～5mm程度の軽石を約20%程度含む。植物遺存体(小植物の茎等)をわずかに含む。締りあり。
- 6層 10YR5/4鈍い黄褐色土。径約1～30mm程度の発泡したAs-Kk軽石層。ざらざらした質感。
- 7層 10YR5/4鈍い黄褐色土。径約1～30mm程度の発泡したAs-B軽石層。ざらざらした質感。
- 8層 10YR1.7/1黒色土。泥炭化。植物遺存体(細い根や茎等)を含む。粘性あり。
- 9層 10YR3/4暗褐色土。やや泥炭化。植物遺存体(細い根や茎等)を含む。粘性あり。

4. 3区

- 1層 表土。
- 2層 10YR4/6褐色土。圃場整備に伴う敷き均し土。酸化鉄分多い。粘性あり。
- 3層 10YR5/4鈍い黄褐色土。径約1～30mm程度の発泡した軽石の堆積層。ざらざらとした質感。As-Kk軽石層。
- 4層 10YR5/4鈍い黄褐色土。As-B軽石層。
- 5層 10YR1.7/1黒色土。粘性あり。

5. 4区南区

- 1層 表土。
- 2層 10YR3/1黒褐色土。3層に類似する。圃場整備事業による移動堆積土。
- 3層 10YR3/1黒褐色土。As-A泥流堆積物層。径約20～700mm程度の礫を含む。礫は火山性の熱を受けたと考えられるものを含む。軽石混じり。
- 4層 10YR3/3黒褐色土。径約2～5mm程度の軽石を約10%程度含む。締りあり。
- 5層 10YR4/3鈍い黄褐色軽石層。下半分はやや黒味がかっている。径約5～7mm程度の軽石を含む。
- 6層 10YR4/1褐灰色土と10YR3/1黒褐色細砂粒土とがラミナ状に堆積。ガラス質鉱物粒を微量含む。
- 7層 10YR3/1黒褐色土。径約2～5mm程度の軽石を約20%程度含む。締りあり。植物遺存体(小植物の

茎等)をわずかに含む。

- 8層 10YR5/4鈍い黄褐色土。径約1～30mm程度の発泡した軽石の堆積層。ざらざらした質感。As-Kk軽石層。
- 9-1層 7.5YR5/2灰褐色土。白色鉱物細粒を含む。粘性ややあり。As-Bテフラ層。層幅約25mm。
- 9-2層 10YR5/4鈍い黄褐色土。径約1～30mm程度の発泡した軽石の堆積層。ざらざらした質感。As-B軽石層。
- 10層 10YR1.7/1黒色土。泥炭化している。植物遺存体(細い根や茎等)を含む。粘性あり。
- 11層 10YR3/4暗褐色土。やや泥炭化。植物遺存体(細い根や茎等)を含む。粘性あり。

6. 4区中区

- 1層 10YR4/1褐灰色土。径約2～5mm程度の軽石を約20%程度含む。砂質味強く、締りややあり。
- 2層 10YR5/4鈍い黄褐色土。径約1～30mm程度の発泡した軽石の堆積層。ざらざらした質感。As-Kk軽石層。
- 3層 7.5YR5/2灰褐色土。白色鉱物細粒を含む。粘性ややあり。As-Bテフラ。層幅最大約25mm程度。灰層下部に鈍い黄褐色(10YR5/4)の径約1～30mm程度の発泡した軽石の堆積層(径約1～3mm程度のものが主。ざらざらした質感)がある。
- 4層 10YR1.7/1黒色土。締りややあり。粘性あり。植物遺存体(細い根や茎等)をわずかに含む。
- 5層 10YR4/3鈍い黄褐色土。泥炭化。植物遺存体(茎や径約2cm程度の幅の長葉脈の葉等)をやや多く含む。4層より締り弱く、粘性あり。

7. 4区北区

- 1層 表土。
- 2層 10YR4/6褐色土。圃場整備に伴う敷き均し土。3層に類似。径約20～700mm程度の礫を含む。礫は火山性の熱を受けたと考えられるものを含む。軽石混じり。
- 3層 10YR3/1黒褐色土。As-A泥流堆積物層。径約20～700mm程度の礫を含む。礫は火山性の熱を受けたと考えられるものを含む。軽石混じり。

- 4層 10YR4/1褐灰色土。砂質土が堅く締って堆積。
- 5層 10YR5/4鈍い黄褐色土。径約1～30mm程度の発泡した軽石の堆積層。ざらざらした質感。As-Kk軽石層。
- 6-1層 7.5YR5/2灰褐色土。白色鉱物細粒を含む。粘性ややあり。As-Bテフラ層。層幅約25mm。
- 6-2層 10YR5/4鈍い黄褐色土。径約1～30mm程度の発泡した軽石の堆積層。ざらざらした質感。As-B軽石層。
- 7層 10YR1.7/1黒色土。泥炭化。植物遺存体(細い根や茎等)を含む。粘性あり。
- 8層 10YR3/4暗褐色土。やや泥炭化。植物遺存体(細い根や茎等)を含む。粘性あり。

8. 5区

- 1層 表土。
- 2層 10YR4/6褐色土。圃場整備に伴う敷き均し土。3層に類似。径約20～700mm程度の礫を含む。礫は火山性の熱を受けたと考えられるものを含む。軽石混じり。
- 3層 10YR3/1黒褐色土。As-A泥流堆積物層。径約20～700mm程度の礫を含む。礫は火山性の熱を受けたと考えられるものを含む。軽石混じり。
- 4層 10YR3/3黒褐色土。径約2～5mm程度の軽石を約20%程度含む。締りあり。
- 5層 10YR5/4鈍い黄褐色土。径約1～30mm程度の発泡した軽石の堆積層。径約1～3mm程度のものが主。ざらざらした質感。As-Kk軽石層。
- 6層 10YR5/4鈍い黄褐色土。径約1～30mm程度の発泡した軽石の堆積層。径約1～3mm程度のものが主。ざらざらした質感。As-B軽石層。
- 7層 10YR1.7/1黒色土。粘性あり。
- 8層 10YR3/4暗褐色土。やや泥炭化。植物遺存体(細い根や茎等)を含む。粘性あり。

9. 6区

- 1層 10YR4/6褐色土。圃場整備に伴う敷き均し土。2層に類似。径約20～700mm程度の礫を含む。礫は火山性の熱を受けたと考えられるものを含む。軽石混じり。

- 2層 10YR3/1黒褐色土。As-A泥流堆積物層。径約20～700mm程度の礫を含む。礫は火山性の熱を受けたと考えられるものを含む。軽石混じり。
- 3層 10YR5/6黄褐色土。径約20mm以下の軽石を含む。
- 4層 10YR3/3暗褐色土。径約2～5mm程度の浅間山給源の軽石と砂質土からなる。
- 5層 10YR5/4鈍い黄褐色土。径約1～30mm程度の発泡した軽石の堆積層。径約1～3mmのものが主。ざらざらした質感。As-Kk軽石層。
- 6層 10YR5/4鈍い黄褐色土。径約1～10mm程度の発泡した軽石の堆積層。径約1～3mm程度のものが主。ざらざらした質感。As-B軽石層。
- 7層 10YR1.7/1黒色土。粘性あり。
- 8層 10YR3/4暗褐色土。やや泥炭化。植物遺存体(細い根や茎等)を含む。粘性あり。

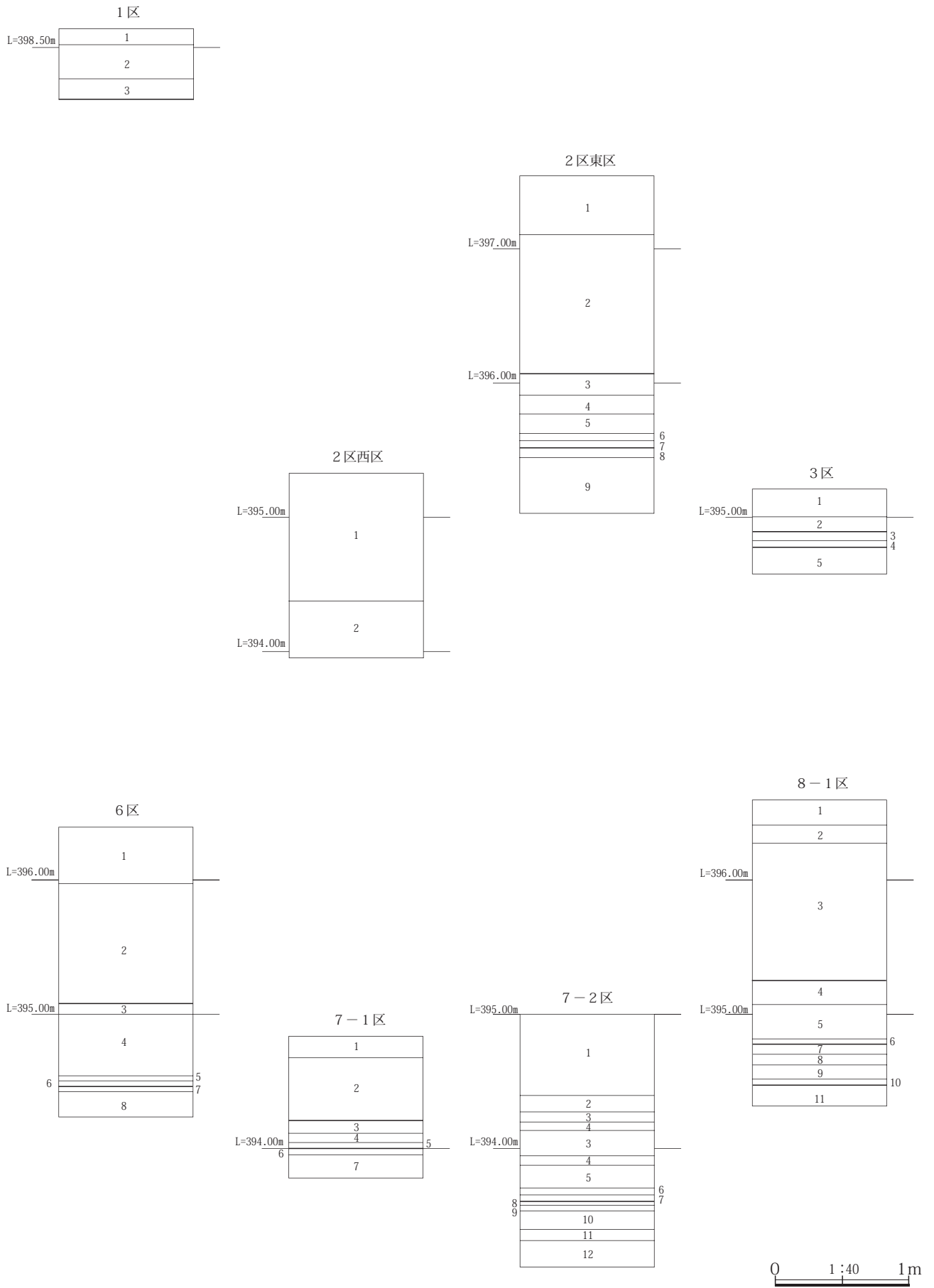
10. 7-1区

- 1層 表土。
- 2層 10YR3/1黒褐色土。As-A泥流堆積物層。径約20～700mm程度の礫を含む。礫は火山性の熱を受けたと考えられるものを含む。軽石混じり。
- 3層 10YR3/3黒褐色土。径約2～5mm程度の軽石を約10%程度含む。締りあり。
- 4層 10YR5/4鈍い黄褐色土。径約1～30mm程度の発泡した軽石の堆積層。径約1～3mm程度のものが主。ざらざらした質感。As-Kk軽石層。
- 5層 7.5YR5/2灰褐色土。白色鉱物細粒を含む。粘性ややあり。As-Bテフラ層。
- 6層 10YR1.7/1黒色土。泥炭化。植物遺存体(細い根や茎等)を含む。粘性あり。
- 7層 7.5YR5/2灰褐色土。砂礫層。径約10～50mm程度の円礫を約30%程度含む。

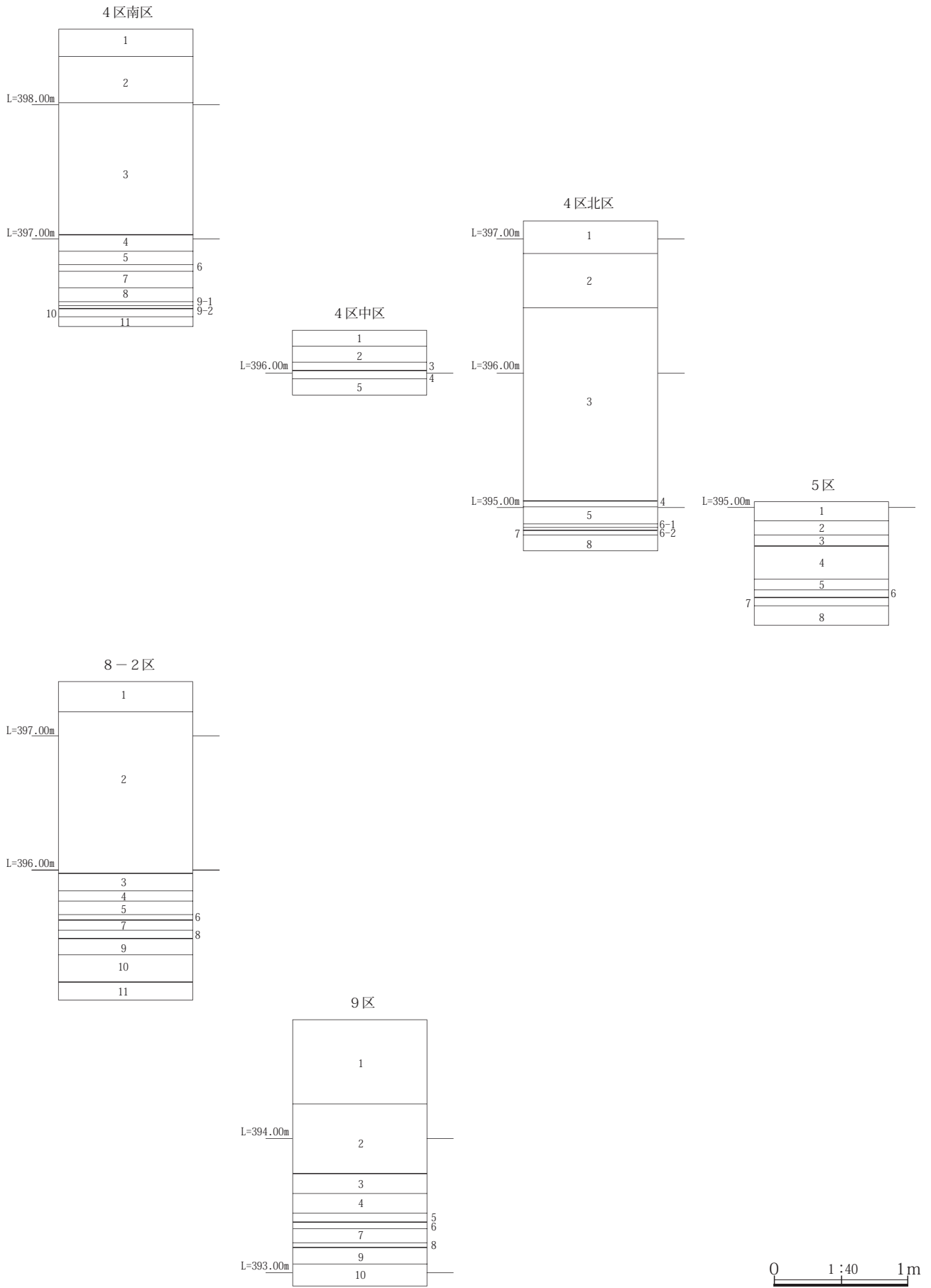
11. 7-2区

- 1層 表土。
- 2層 10YR2/3黒褐色土。径約50～300mm程度の円礫を約10%程度含む。天明泥流堆積物層。
- 3層 10YR5/4鈍い黄褐色土。As-Aと思われる乳白色～淡黄色の軽石を約40%程度含む。
- 4層 5BG4/1暗青灰色土。砂層。径約1～2mm程度の粒

第2章 周辺の環境



第7図 1～3区・6～8-1区基本土層模式図



第8图 4・5・8-2・9区基本土層模式图

第2章 周辺の環境

で構成される。3層を間層にして砂層が3枚認められ、As-Aの降下前後にこの地域では3回洪水が発生した可能性がある。

- 5層 10YR3/2黒褐色土。As-Kk軽石を約40%程度含む。粘性あり。
- 6層 10YR5/6黄褐色土。As-Kk軽石層。下位はやや色がくすんでおり、粒子も大。
- 7層 10YR6/1褐灰色土。As-B軽石層。
- 8層 10YR1.7/1黒色土。2面遺構確認面。粘性非常に強い。
- 9層 10YR3/2黒褐色土。10層の上位に5～10mm程度の厚さで堆積。砂や径約10mm未満の円礫をブロック状に含む。
- 10層 10YR3/2黒褐色土。植物遺存体(腐食した茎等)を多量に含む。小礫を含む。粘性かなり強い。
- 11層 10YR6/3鈍い黄橙色土。砂礫層。径約10～200mm前後の垂円礫～円礫を約20%程度含む。
- 12層 10YR2/1黒色土。植物遺存体(腐食した茎等)、径約10～30mm程度の礫を10層との境を中心に含む。

12. 8-1区

- 1層 表土。
- 2層 10YR4/6褐色土。圃場整備に伴う敷き均し土。
- 3層 10YR3/1黒褐色土。As-A泥流堆積物層。径約20～700mm程度の礫を含む。礫は火山性の熱を受けたと考えられるものを含む。軽石混じり。
- 4層 10YR3/3黒褐色土。径約2～5mm程度の軽石を約10%程度含む。締りあり。
- 5層 10YR5/4鈍い黄褐色土。径約1～30mm程度の発泡した軽石の堆積層。径約1～3mm程度のものが主。ざらざらした質感。As-Kk軽石層。
- 6層 10YR5/4鈍い黄褐色土。径約1～10mm程度の発泡した軽石の堆積層。径約1～3mm程度のものが主。ざらざらした質感。As-B軽石層。
- 7層 10YR1.7/1黒色土。泥炭化。植物遺存体(細い根や茎等)を含む。粘性あり。
- 8層 10YR4/1褐灰色細砂粒土。径約2～8mm程度の黄褐色円礫と軽石とが混入。径約20mm程度の火山灰に似たブロック土が斑状に入る。
- 9層 10YR5/2灰黄褐色土。径約2～10mm程度の鈍い黄

橙色の軽石を約7%程度含む。軽石は指で潰れる硬さ。

- 10層 10YR6/1褐灰色土。層の厚さは約0.5～20mm程度。Hr-FAテフラ層。
- 11層 10YR2/1黒色土。砂礫層が堆積。

13. 8-2区

- 1層 表土。
- 2層 10YR2/1黒色土。径約5～500mm程度の礫を多く含む。As-A泥流層。水分の抜けた状態だと固く締っているが、水分を含むとどろどろとする。
- 3層 10YR3/1黒褐色土。砂質土に径約3～5mm程度の軽石をわずかに含む。
- 4層 10YR4/3鈍い黄橙色土。砂質土に径約5mm以下の軽石を多く含む。ざらざらした質感。
- 5層 10YR5/1褐灰色土。微細粒の砂質土がラミナ状に堆積。
- 6層 10YR3/2黒褐色土。7層よりAs-Kkの含有率は少ない。粘性強い。
- 7層 10YR3/1黒褐色土。やや粘性のある土をベースとし、全体にAs-Kk軽石を約40%程度含む。
- 8層 10YR3/2黒褐色砂質土。
- 9層 10YR2/2黒褐色土。粘性かなり強い。
- 10層 10YR4/3鈍い黄褐色砂質土。
- 11層 10YR2/1黒色土。粘性強い。上面に灰色のHr-FAが約1mm程度の厚さで堆積し、下位にはピートがブロック状に認められる。

14. 9区

- 1層 10YR4/6褐色土。圃場整備に伴う敷き均し土。
- 2層 10YR3/4暗褐色土。As-A泥流堆積物層。
- 3層 10YR3/3暗褐色土。As-Kkを約40%程度含む。
- 4層 7.5YR5/8明褐色土。As-Kkテフラ層。
- 5層 10YR7/3鈍い黄橙色土。As-Bテフラ層。
- 6層 10YR2/2黒褐色土。粘性あり。
- 7層 10YR4/4褐色土。黄色軽石粒子を少量含む。
- 8層 10YR6/4鈍い黄橙色土。青灰色のHr-FAテフラを少量含む。Hr-FAテフラの二次堆積か？
- 9層 10YR3/3暗褐色土。粘性あり。
- 10層 10YR4/6褐色砂礫土。

参考文献(第2章)

青木裕美ほか2012『戦国史—上州の150年戦争—』上毛新聞社
 吾妻教育会1929『群馬県吾妻郡誌』
 吾妻教育会1936『群馬県吾妻郡誌追録』第1輯
 吾妻町教育委員会1983『唐堀遺跡』
 吾妻町教育委員会1985『郷原遺跡』
 吾妻町教育委員会1992『吾妻町指定史跡岩櫃城跡保存整備計画策定報告書』
 吾妻町教育委員会1994『岩櫃城跡北側遺構群遺跡』
 吾妻町教育委員会1998『郷原遺跡』
 吾妻町教育委員会1998『前畑遺跡』
 吾妻町教育委員会1998『生原遺跡』
 吾妻町教育委員会2006『町内遺跡Ⅲ』
 岩島村誌編集委員会1971『岩島村誌』
 唐澤定市1998『岩下城と岩櫃城』『群馬歴史散歩』第146号 群馬歴史散歩の会
 京都大学文学部国語学国文学研究室編1968『諸本集成倭名類聚抄』本文篇 臨川書店
 群馬県1938『上毛古墳綜覧』
 群馬県教育委員会1988『群馬県の中世城館跡』
 群馬県史編さん委員会1981『群馬県史』資料編3
 群馬県史編さん委員会1986『群馬県史』資料編2
 群馬県総務部市町村課2015『平成27年度群馬県市町村要覧』
 群馬県農政部土地改良課2003『土地分類基本調査中之条』
 群馬県文化事業振興会1985『上野郡村誌』11
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2005『久々戸遺跡(2)・中棚遺跡(2)・

西ノ上遺跡・上郷A遺跡』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2006『上郷B・廣石A・二反沢遺跡』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2007『上郷岡原遺跡』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2008『上郷岡原遺跡(2)』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2008『上ノ平I遺跡(1)』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2008『上郷西遺跡』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2009『細谷B遺跡』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2009『上郷A遺跡(2)』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2009『上郷岡原遺跡(3)』
 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2014～17『年報』33～36
 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2017『唐堀B遺跡』
 杉原荘介1967『群馬県岩櫃山における弥生時代の墓址』『考古学集刊』第3巻第4号 東京考古学会
 轟直行2014『岩櫃山鷹の巣遺跡で採取された丸子式土器の破片』『考古学集刊』第10号 明治大学文学部考古学研究室
 原町誌編纂委員会1960『原町誌』
 東吾妻町教育委員会2011『上郷遺跡』
 東吾妻町教育委員会2012『細谷遺跡』
 東吾妻町教育委員会2016『岩櫃城跡』
 山崎一1972『群馬県古城址の研究』下 群馬県文化事業振興会
 山崎一・山口武夫1972『吾妻郡城史』西毛新聞社
 脇原真一1998『里見氏の岩櫃城攻略』『群馬歴史散歩』第146号 群馬歴史散歩の会
 マッピングぐんま
<http://mapping-gunma.pref-gunma.jp/pref-gunma/top>

第3表 確認面・調査区別遺構検出数一覧表

1.1面

遺構名	1区	2区西区	2区東区	3区	4区南区	4区中区	4区北区	5区	6区	7-1区	7-2区	8-1区	8-2区	9区
水田区画			4		2	10	6		6	3		7	3	
畑														3
段差		1			1	2	4	1	4				2	1
杭列		3	1	1	1		5	1	2			1	1	
畦畔		1	4				9	1	2	2		7		
溝	1				1	2						1		
ピット														

2.1面下

遺構名	1区	2区西区	2区東区	3区	4区南区	4区中区	4区北区	5区	6区	7-1区	7-2区	8-1区	8-2区	9区
水田区画													6	
畑														3
段差													4	
畦畔													1	
溝													1	1

3.2面

遺構名	1区	2区西区	2区東区	3区	4区南区	4区中区	4区北区	5区	6区	7-1区	7-2区	8-1区	8-2区	9区
水田区画						4				12	3	1	9	28
島										1				
杭列												1		
畦畔			3		4	4					6	2	5	29
溝			2						1	2	1	6		1
柱穴列										4				
ピット					2					2				

4.2面下

遺構名	1区	2区西区	2区東区	3区	4区南区	4区中区	4区北区	5区	6区	7-1区	7-2区	8-1区	8-2区	9区
溝													1	

5.3面

遺構名	1区	2区西区	2区東区	3区	4区南区	4区中区	4区北区	5区	6区	7-1区	7-2区	8-1区	8-2区	9区
水田区画													39	86
溝													1	

第3章 検出された遺構と遺物

はじめに一検出された遺構の概要

本遺跡が所在する地域では、平坦面を形成する扇状地上を長期にわたって土地利用しており、現在は水田地帯となっている。検出された主な遺構も水田主体であり、古墳時代以来、連綿と水田耕作が営まれてきたことが判明した。

天明3(1783)年に起こった浅間山噴火によって生じたいわゆる天明泥流(浅間A泥流)で埋没した遺構検出面を1面とし、12世紀初頭の天仁元(1108)年と12世紀前半とに起こった浅間山噴火時に降下した火山灰層下の遺構検出面を2面、さらに古墳時代後期6世紀初頭に起こった榛名山二ツ岳噴火時に降下した火山灰層下の遺構検出面を3面とした。

それにとどまらず、各調査区の土層断面を観察すると、複数の洪水堆積層を確認することが出来た。現在は美田が広がる厚田地区ではあるが、幾度となく繰り返して発生する自然災害の中、苦心して水田をひらき、維持し、生産域を確保する人々の絶え間ない営みの歴史があったことを窺い知ることが出来る歴史資料を得ることが出来たことが、本遺跡調査の大きな意義と言えるだろう。

1. 1面(近世の遺構)

いわゆる天明泥流によって埋没した面からは、調査区のほぼ全域にわたって水田跡が検出された。南の榛名山側から北側を西から東にやや蛇行しながら流れる吾妻川に向かって地形が低くなっているところを水田として開発しており、おおむね南高北低の棚田が形成されていた。

平成5(1992)年に行われた圃場整備に伴う工事による攪乱・削平や、上面を厚く覆う天明泥流層の流入時における削平を受け、検出状況は、決して良好とは言い難い状態で、棚田の段差や水田畦畔、水路等は明瞭に検出可能であっても、水田面自体は破壊されていたような事例も存在した。

また、棚田の段差下では湧水点が検出され、それを起点とした水路が検出された事例も存在する。湧水点から

は、調査時にもなお豊富な湧水があり、しばしば調査が難航するようなこともあった。

各水田面の段差部分では、大量の木杭が、その多くが打ち込まれた状態で検出され、段差の土留めとしての機能を果たしていたものと考えられる。それらの木杭には1mを越えるような長いものもあり、大半は割材を用いているが、一部には住宅建材を用いたものも存在していた。打ち込まれた状態で検出された木杭の多くは、低地側に向かって傾斜した状態で検出された。中には段差の土留めとして石垣が構築されている箇所も存在し、石垣列に沿ってさらに木杭列も検出された。

また、こうした造作は段差の土留めのみにとどまらず、径0.3m前後の円礫や表面を焼け焦がした木杭を組み合わせ、畦畔の芯を形成した様子も多くの調査区において検出された。

畦畔の芯材として使用されていた木杭には、横架されたものもあり、また、木杭の他に藨や小枝なども畦畔の芯材として利用されていた。

また、9区では、扇状地地形に沿って、複数面にわたって段々畑が形成されていた状況が検出された。

なお、8-2区と9区では、天明泥流層の下から、浅間山火山灰As-Aを含む洪水堆積層が認められた。調査区の間を南の屋町側から北の吾妻川の谷に向かって流れる吾妻川支流の小河川の氾濫によるものと見られるが、この洪水堆積層を挟んで水田や畑が検出されたこと、洪水層の上面に土留めやしがらみが検出されたことから、浅間山噴火直後から天明泥流発生までの短期間のうちに、洪水の発生とそれに伴う水田や畑の復旧が行われていたことが判明した。この天明3年の浅間山噴火直後に発生した洪水堆積層によって覆われた遺構確認面は、8-2区と9区でしか検出することが出来なかったため、両調査区においては、確実に天明3年の浅間山噴火後に営まれた水田や畑などの遺構を検出することが出来たのであるが、1-7-1・8-1区においては、天明泥流発生以前の近世の段階という程度で、正確な年代を特定することは難しい状況であった。

2. 2面(古代の遺構)

12世紀初頭の天仁元(1108)年と12世紀前半に起こった浅間山噴火時に降下した火山灰によって覆われた面から、2・4・6・7～9区において水田面が検出された。9区では大畦畔も検出されている。

4区と7-1区で検出された一部の溝とピットに、12世紀前半に降下した浅間山火山灰浅間-粕川テフラ(As-Kk)を掘り込んだものが検出されており、12世紀前半以降、近世以前の段階で形成された遺構の存在が確認できたが、遺構面としては確認することが出来なかった。これらの遺構については、天仁元(1108)年浅間山噴火時に降下した火山灰である浅間Bテフラ(As-B)によって覆われた遺構確認面における調査で検出されたものであり、浅間山火山灰As-B層下から検出された遺構とともに報告する。

9区でも12世紀前半に降下した浅間粕川テフラ(As-Kk)を鋤き込んだ畝間の畝間が、調査区の壁の一部の土層断面では確認できたが、面的な遺構としては検出することが出来なかった。

本遺跡では、12世紀前半に降下した浅間山火山灰As-Kk層の検出は部分的であり、火山灰下の遺構確認面としては検出する出来なかった。ただ、7-2区においてプラントオパール分析調査を実施したところ、イネ科のプラントオパールが多量に検出されたことから、この時期にも水田が形成されていた可能性は高い。

3. 3面(古墳時代の遺構)

調査対象範囲内における東寄りの調査区である8-2区と9区において、6世紀初頭におこった榛名山二ツ岳の噴火時に降下した火山灰である榛名山二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA)層下から1区画1～2㎡程度の小区画水田が検出された。本遺跡が所在する吾妻地域西部において初めて確認されたHr-FA層下の水田遺構であり、群馬県内における古墳時代水田の、最も西で確認出来た事例となった。古墳時代後期6世紀の吾妻地域西部における水田耕作の実態を解明する上での端緒となる発見であり、地域の歴史解明に向けて、大変意義深い発見であると位置づけることが出来る。

特に8-2区では調査区内を南北に縦断する水路が、

また9区では調査区内を南北に縦断する河川流路が検出されており、これらの水路や河川の水利を用いた水田の構築・経営がなされていたことが判明した。

第1節 1区の遺構と遺物

1区は、本遺跡の調査対象範囲全体の中で最も南西に位置する調査区で、小規模な現道を挟んで北側の2区と接する。南側は北西-南東方向の現道によって画される。

発掘調査は平成25(2013)年10月中旬から下旬にかけて行われた。

本遺跡全体の調査対象範囲は、周辺地域においても比較的低く平坦な地形にある中で、南側に向かって急に高くなる斜度が高い地形であるため、当初より遺構の検出は望みにくい状況であることが予測されたのであったが、天明泥流層がどの高さまで到達しているかという点を明確にするために部分的に表土を掘削して調査を実施した。

確認面は、天明3(1783)年の浅間山噴火によって生じた天明泥流によって覆われた1面のみである。

調査区の東西両側を掘削して調査を行った。西区はX=61011～020、Y=-92507～519に位置し、北西-南東方向に細長い長方形に近い台形状を呈する調査区で、北辺及び南辺は長さ約10m、東辺及び西辺は約5m程度の規模を呈し、南北の比高差は約1.2m程度であった。遺構は全く検出されていないが、天明泥流層の礫を含む堆積層は、南側の標高が高い側に向かってより厚く堆積し、北側の、低くなっていく側に向かって次第に薄くなっている。最も厚く堆積している南壁より北へ約0.6m前後の箇所、厚さ約0.1m程度であった。

東区はX=61002～017、Y=-92481～493に位置し、北東-南西方向に細長いほぼ長形状を呈し、北辺及び南辺は長さ約7m程度、東辺及び西辺の長さは約10m程度である。西区と同様、南側に向かって高まる斜面であり、南北の比高差は西区と同様、約1.2m程度である。西側約1/4を攪乱されているが、南寄りの位置で北東-南西方向に流れる10号溝が検出されている。天明泥流層の礫を含む堆積層は、南壁から約6m付近の斜面がなだらかなる地点から北壁に向かって厚さ0.1～0.3mほど堆積していることが確認でき、最も厚く堆積してい

第3章 検出された遺構と遺物

るのは、南壁から約6.8～7.8m程度北に寄った位置であった。

埋土の堆積状況から、As-A泥流堆積物が北向きの斜面に沿うように西から東に向けて吾妻川の右岸を流れ、堆積した状況を考えることができる。

1. 溝

・10号溝(第10図、PL. 4)

位置 1区東区。X=61004～008、Y=-92487～489。

重複 なし。

平面形状 南西―北東方向に長い。検出範囲内における北側先端部は末広状に広がっていく。

主軸方位 N-30°-E。

規模 検出全長2.70m、幅0.60m、深さ0.09m。

埋土 黒褐色土。

遺物 なし。

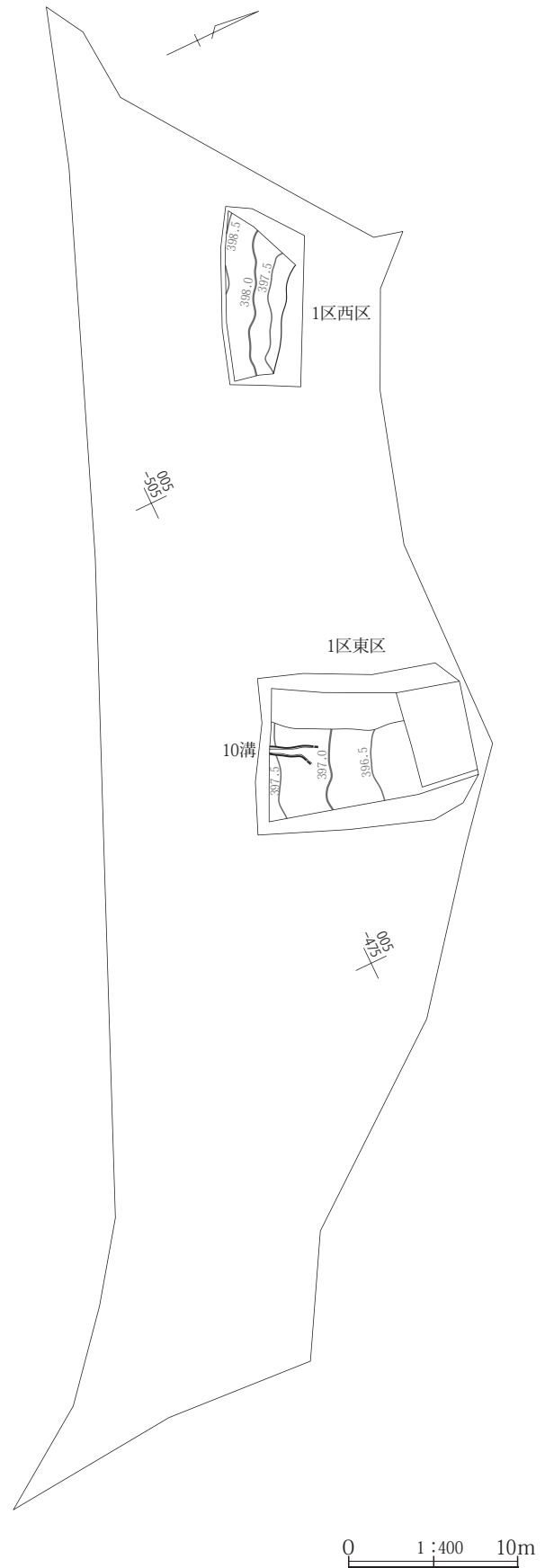
所見 1区東区の南寄りほぼ中央で検出された。溝の南側は調査区外に出る。北側は南壁から2.5～2.6m付近で検出出来なくなり、溝幅も広がっていく様子が看取された。断面は浅く扁平なU字形を呈しており、掘方は浅い。斜面にわずかにくぼみがある程度であり、人為的に掘られた溝か、排水時に出来たくぼみかは不明である。

時期 天明泥流が及んでいない高さであるため、正確な年代は不明であるが、近世以降のものと考えられる。

第2節 2区1面の遺構と遺物

2区は、北西から南東に蛇行・屈曲する小規模な現道を隔てて1区の北側に接する調査区で、1～9区に及ぶ本遺跡の全調査区の中で、1調査区としては最大の面積の調査区である。平成25年8月初旬から10月上旬にかけて調査された。

発掘調査はX=61040、Y=-92445付近から南西側X=61008、Y=-92469付近までを直線で結んだ北東―南西方向のラインを境に西側約2/3を占める部分と東側約1/3を占める部分に分けて行われ、西側約2/3を占める部分の調査が先行して行われた。ここでは便宜的に先に調査された西側の調査区を2区西区、2区西区の調査終了後に調査された東側の調査区を2区東区として記述する。



第9図 1区全体図

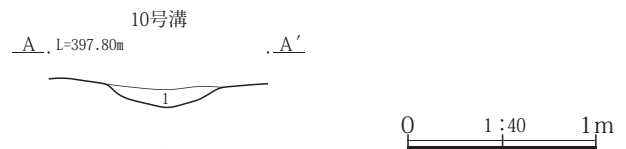
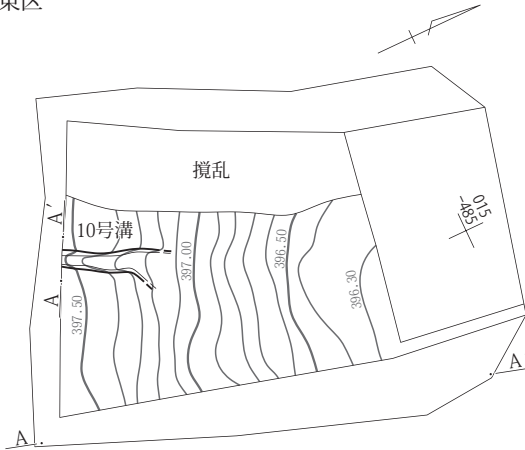
地形は、調査区内で最も南側に当たる2区東区南端寄りでは南から北へと傾斜している。しかしながら2区東区中央部から南寄りの位置辺りから2区東区全域にかけては、おおむね西側から東側に向かって緩傾斜している様子が看取出来た。一方、2区西区では、東から西に向かって緩やかに傾斜している。

調査区の全域に水田が形成されていた様子が看取出来

た。ただし、残存状態は悪く、とくに2区西区では水田面が確認出来たのは、ごく一部にとどまった。

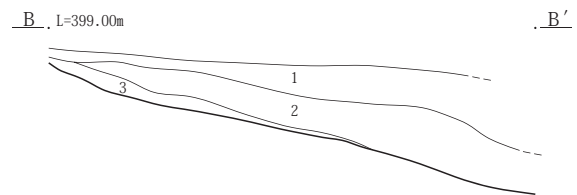
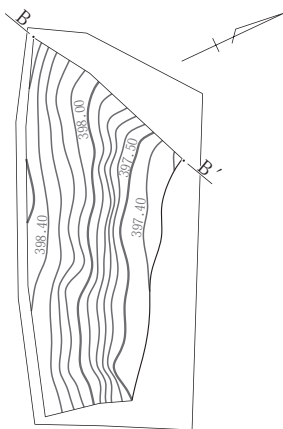
また、2区西区で1か所、棚田面の段差が検出された。2区東区では明瞭な段差は検出されていないものの、東西方向の各畦畔の北側の傾斜が南側に比べて大きくなっており、畦畔ごとに棚田状に水田が形成されていた様子がうかがえた。畦畔は、西区の中央からやや西寄りの位

東区



1区10号溝A-A'
1層 10YR2/3黒褐色土 黄褐色粒を含む。締まりあり。

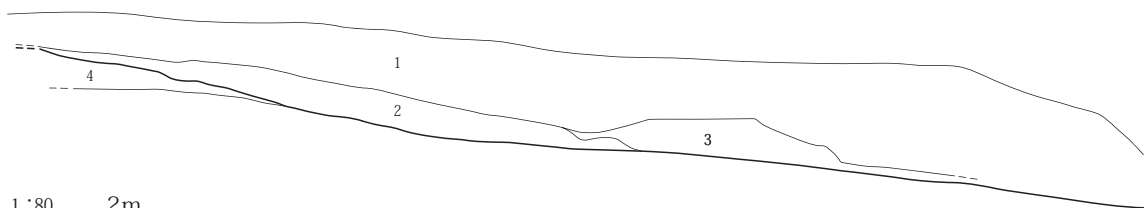
西区



1区東壁A-A'・西壁B-B'
1層 10YR4/2灰黄褐色土 表土。
2層 10YR3/1黒褐色土 As-B混じり。φ2～15mm程度の軽石を全体の約10%程度、φ20～50mm程度の円礫を少量含む。締まりあり。2層下部に4層上面が確認できる。
3層 10YR3/1黒褐色土 As-A泥流堆積物層。φ20～700mm程度の礫を含む。礫は火山性の熱を受けたものを含む。小粒の礫には軽石が混じる。
4層 10YR5/6黄褐色土 φ50～400mm程度の円礫を含む。斜面上位からの転石か？

A, L=399.00m

A'



0 1:80 2m

第10図 1区東・西区平面図、土層断面図、10号溝土層断面図

置で南北方向に1条、東区では東西方向に3条と南北方向に1条が検出された。

第1項 2区西区の遺構と遺物

2区西区は、平成25年8月から着手された本遺跡の調査において、最も早く調査に着手され、調査を完了した調査区である。調査区の北辺は、東西方向の生活道路に面して直線状を呈する反面、南辺は崖線に沿って複雑に屈曲している。

1. 水田(第11図、PL. 4～8)

調査区の南東辺寄り、2区東区と接する部分から北西側へ向かって約1～9m程度の位置で、北東から南西にかけて緩やかに蛇行する棚田形成のための段差が検出された。また、西壁から約14～20m程度の位置を北から南にやや屈曲・蛇行する畦畔が1か所検出された。

2区西区の南東隅付近では、水田面が比較的良好に検出された。しかしながら、他の場所では水田面の検出は極めて部分的であり、段の上下と畦畔周辺でしか水田面は確認できず、東端部、中央部、畦畔の西側から西端部にかけて、いずれも削平され、水田面を検出することが出来なかった。

段上では、段から約1～2m、段下では約1～3m、畝の両側では約1～3mの範囲内でしか水田面は確認することが出来なかった。

畦畔は1か所でしか検出されなかったため、各水田区画の詳細については不明である。

なお、出土した杭の主なものは、後掲の一覧表(第4表)に示した。

(1) 2区西区1面1号段差(第11～14図、PL. 5～8)

位置 2区西区1面。X=61014～035、Y=-92446～475。

主軸方位 N-15～90°-E。

規模 検出全長約36.50m、幅約0.21～0.50m、比高差約0.25～0.45m程度。

遺物 なし。

所見 水田面は、地山を削り出して段差を設け、地形に応じた平坦面を造り出したものと考えられるが、前述したとおり、残存状況は良くない。

2区東区と接する部分から北西側へ向かって約1～9mの位置で、北東から南西にかけて緩やかに蛇行するような形状で、棚田形成のための段差が検出された。南東側が高く北西側が一段低くなっている。

東側の段上面の標高はおおむね395.89～395.98m前後で、北西側へ向かって緩やかに傾斜している。段下面の標高はおおむね395.20～395.45m前後である。

段差の周辺からは、土留めとして打ち込まれた木杭が大量に出土した。完全に突き刺さったままの状態のものから上面を覆った天明泥流層流入の際の土圧によって根元から抜けてしまっているものもあるが、突き刺さったままの状態を検出されたもののほとんどは傾いた状態で検出され、中には低い角度で傾いているものも見受けられ、土砂流動の様子が判明する。

2区西区の段差付近で検出された木杭は、北東から南西にかけて大きく3か所に纏まって出土している。北東側から杭列A、杭列B、杭列Cとし、それぞれ詳細図を掲載した。

2区西区の段差に打ち込まれた木杭は、とくにこれら3か所に集中しているので、段差の全域に木杭が打ち込まれていたわけではなく、部分的な造作であった可能性が考えられる。

杭列A X=61033～035、Y=-92449～453の東西約4.5m・南北約0.7～2.1m程度の範囲に、38本の杭が集中して出土した。

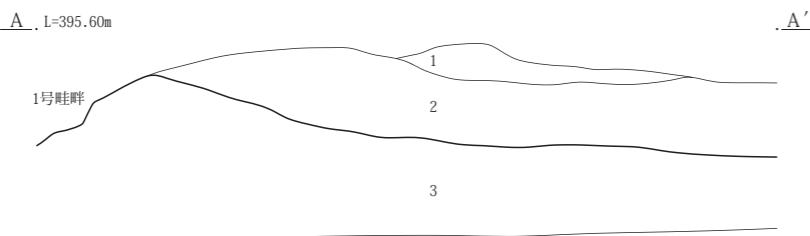
ほぼすべての杭が、かなりの部分が地面に突き刺さったままの状態であった。杭の上端は欠損しているものも多く、本来の杭の長さが明確なものはあまり多くは無かったが、本来はおおむね0.7～0.8m程度の杭が打ち込まれていたものと考えられる。

約30～60°程度傾斜して出土したものが多く、北～北東側に傾斜した状態のものも多く見られたが、北西方向に傾斜したものもある。

上段側からの出土がほとんどで、上段側から下段側への土砂の流出と段差面の崩落を防止し、段差面の保護・補強を目的したものと考えられる。

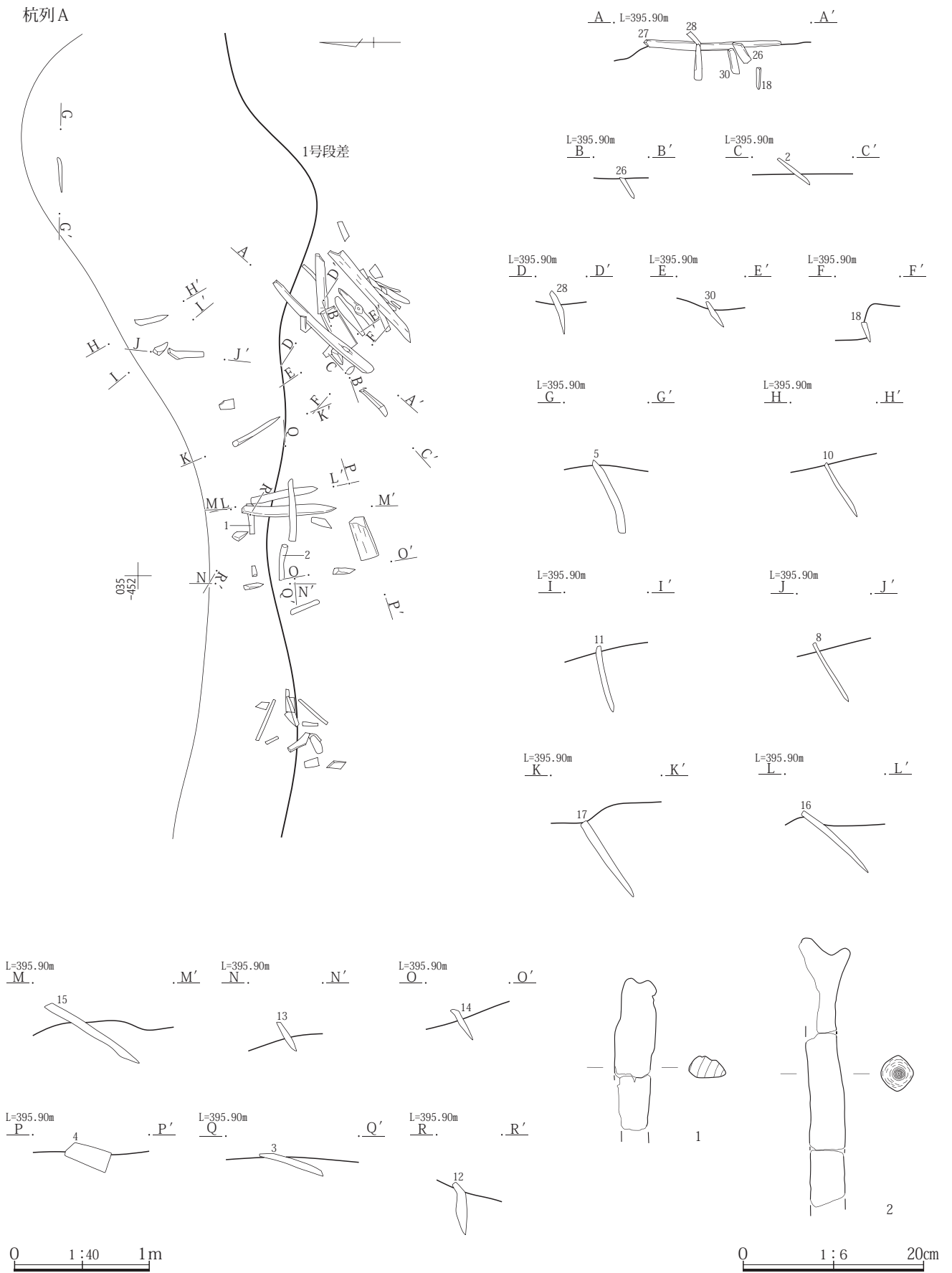
杭列B 杭列Aの西側約5mの位置、X=61032～034、Y=-92458～462の東西約4m・南北約0.5～0.7m程度の範囲に16本の杭が集中して出土した。

杭列A同様、ほぼすべての杭が、かなりの部分が地面



2区西区1号畦畔A-A'
 1層 7.5YR3/1黒褐色土 粘性あり。砂を僅かに含む。
 2層 10YR3/1黒褐色土 軽石が混入する砂質土。締まりあり。
 3層 N2/黒色土 粘性強い。微細な植物遺存体を含む。

第11図 2区西区1面全体図、1号畦畔土層断面図



第12図 2区西区1面1号段差杭列A平面図、杭出土状況断面図、出土杭の例

に突き刺さったままの状態であった。遺構確認面に頭を出している部分が破壊されていたものも少なくなかったが、おおむね0.6～1.2m程度の杭が打ち込まれていたものと考えられる。

約40～60°程度傾斜して出土したものが多く、傾斜方向は北東～東北東側のものが多く見られた。ただ、中には、わずかではあるが、北西方向に傾斜したものもある。

木杭は上段側からの出土がほとんどで、上段側から下段側への土砂の流出と段差面の崩落を防止し、段差面の保護・補強を目的したものと容易に考えられる。

杭列C 杭列Bの南西側約11m程度の位置、X=61018～023、Y=-92467～468の範囲に15本の杭が集中して出土した。

杭列A・B同様、ほぼすべての杭が、かなりの部分が

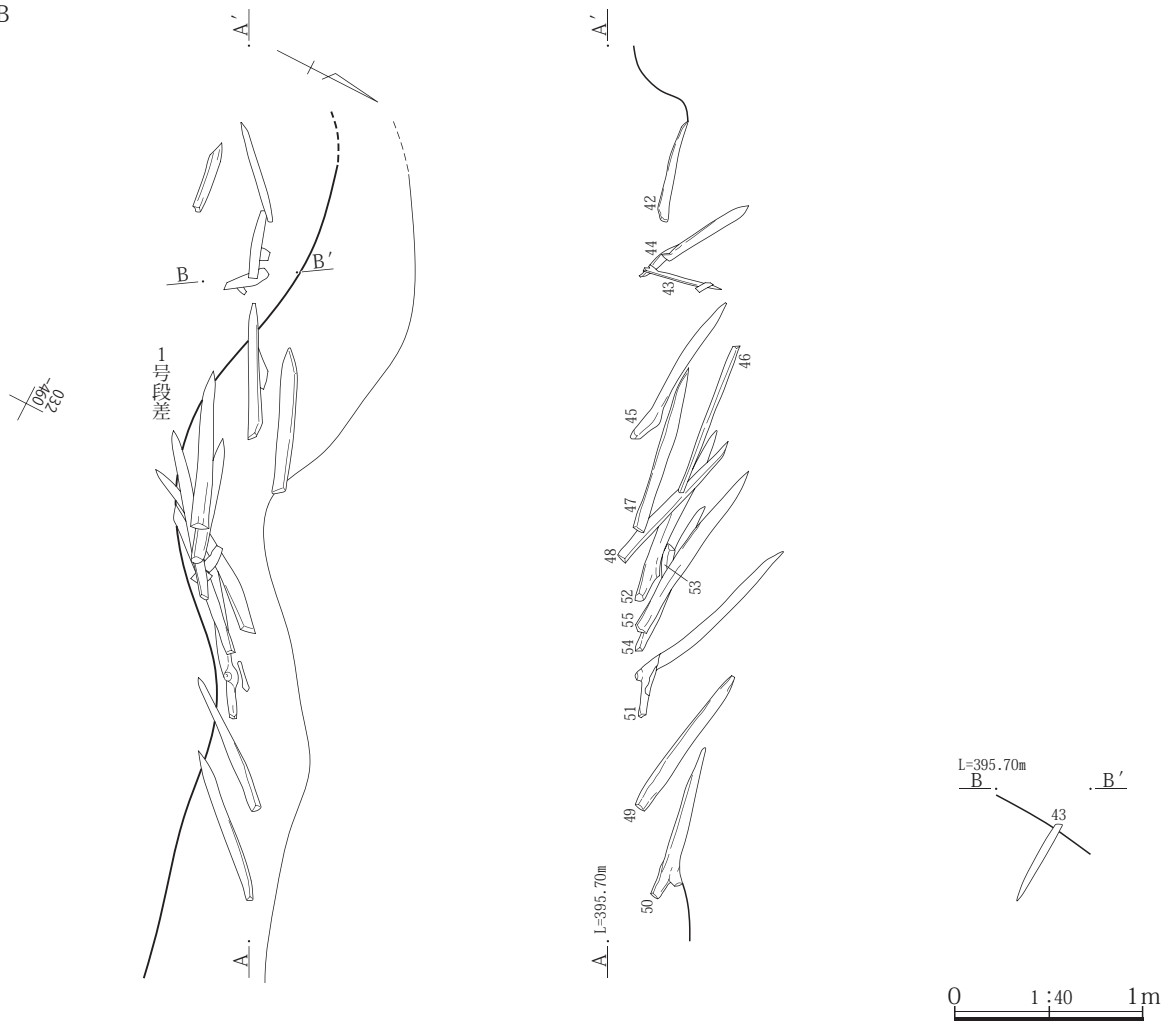
地面に突き刺さったままの状態であった。遺構確認面に頭を出している部分が破壊されていたものも少なくなかったが、おおむね0.35～0.6m程度の杭が打ち込まれていたものと考えられる。杭列A・Bに比べるとやや短めの杭で構成されているように見受けられる。

傾斜度が低いものもあるが、多くは約10～20°程度のものが主で、傾斜度は杭列A・Bに比べて高いものが多い。

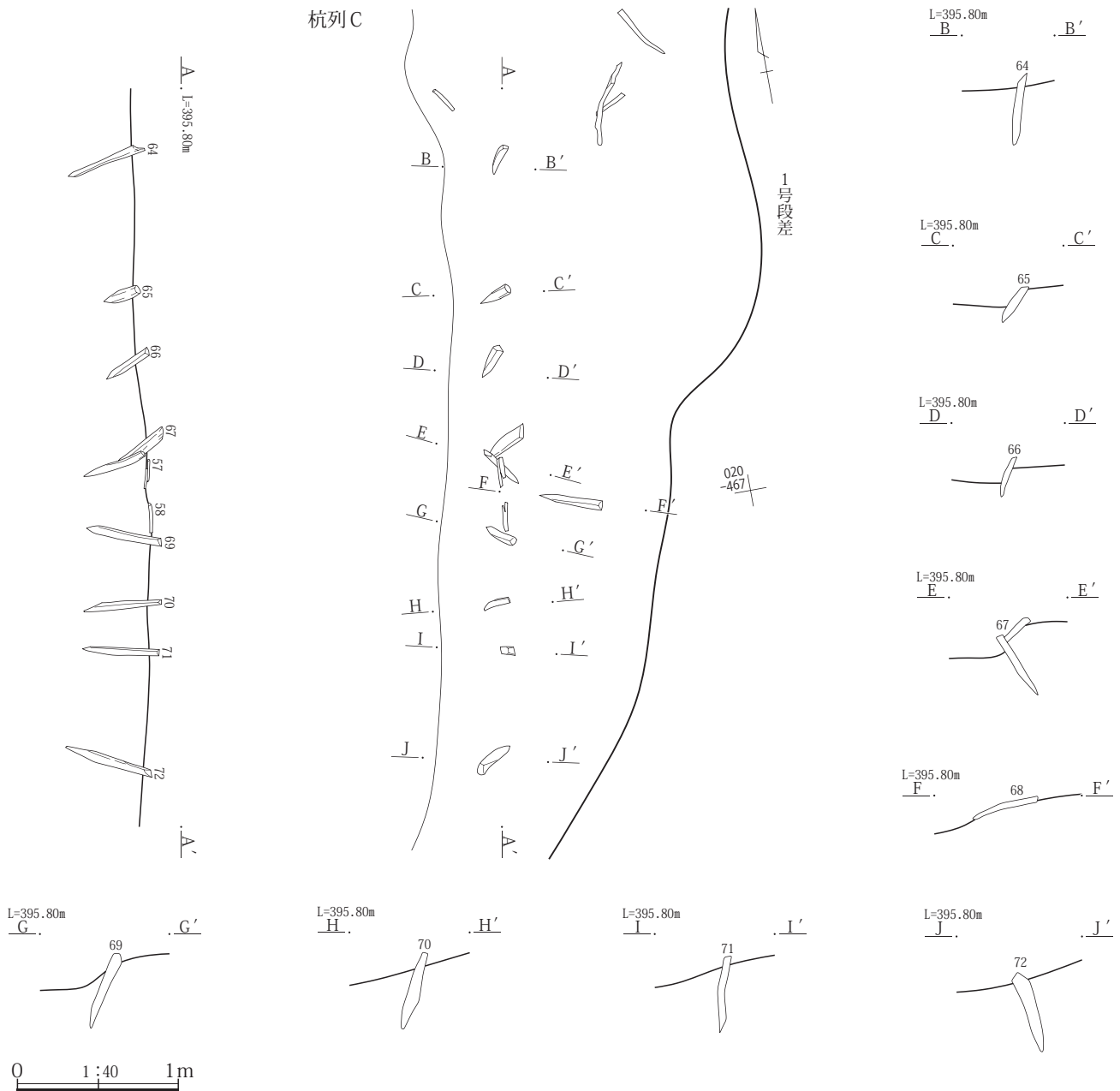
傾斜方向は、北東・東北東もしくは南東・東南東側に傾斜した状態のものが多いものの、中にはわずかではあるが、北西や南西方向に傾斜したものもある。

杭列A・Bとは異なり、段際中段からの出土がほとんどで、主に段差面の崩落を防止し、段差面の保護・補強を目的したものと考えられる。

杭列B



第13図 2区西区1面1号段差杭列B平面図、杭出土状況断面図



第14図 2区西区1面1号段差杭列C平面図、杭出土状況断面図

(2) 2区西区1面1号畦畔(第11図、PL. 5)

位置 2区西区1面。X = 61022 ~ 037、Y = -92483 ~ 488。

主軸方位 N - 4 ~ 10° - E。

規模 検出全長: 南北方向約12.20m・東西方向約3.00m、
基底部幅: 南北方向1.00 ~ 1.60m・東西方向0.60m、
高さ約0.10m程度。

遺物 なし。

所見 検出状況は悪いが、南北方向に走行する畦畔が断

続的に約15.4m程度にわたって検出された。

南側に寄るに従い、主軸が西寄りに傾いていく様子が
看取出来た。また、南側では、検出状況はさらに悪くなり、
畦畔の高まりが全く確認出来ないような箇所も存在
している。さらに、南壁内側から直線距離で約2 ~ 2.5m
の位置から南側ではもはや全く検出不可能になる。

北壁から約6m程度の地点で、東西方向に伸びる畦畔
が取り付いているが、検出状況はさらに悪く、南北方向
に伸びる畦畔から東西両側にそれぞれ0.5m程度分しか

検出することが出来なかった。とくに南西側では削平されており、畦畔の高まりは全く認識出来ない状態であった。

南北方向に伸びる畦畔は、幅から見て大畦畔と考えられる。

調査区北壁の土層断面から、この南北方向に伸びる大畦畔は、粘性が強い黒色土の地山を削り出して高まりを造り出したことが判明した。

時期 天明3(1783)年以前で近世のものと考えられる。

第2項 2区東区の遺構と遺物

2区東区は、平成25(2013)年9月から10月にかけて調査された。

北東—南西方向に細長い台形状を呈する調査区で、2区西区の南東側辺が、東区の西辺と接している。

2区西区と同様、天明泥流によって埋没した水田が検出された。

1. 水田(第15図、PL. 8～10・74)

調査区の広い範囲において水田面が検出されたが、南西側約1/3の範囲は攪乱され、水田面は検出されなかった。水田面が検出された部分についても、水田の残存状態は良好とは言えない状態であった。

2区西区と同様、全般的には、南東側から北西側に向かって傾斜する地形であり、標高が最も高い調査区南東隅と最も低い北東隅との比高差はおよそ1.15mである。

2区西区で検出されたような棚田造成のための明確な段差こそ検出されなかったが、ほぼ東西方向の2区東区1面1・2・4号の3条の畦畔が、およそ10～11m間隔で検出された。

調査区中央部で検出された東北東—西南西方向の2区東区1面2号畦畔の西端では、北側に伸びる2区東区1面3号畦畔が一部で検出されたが、畦畔の高まりは不完全にしか検出することが出来ず、残存状態はさらに悪い状況であった。

調査区の中央部において検出された2区東区2号畦畔では、畦畔の芯材・補強材として打ち込まれた木杭列(杭列D)が検出され、多量の木杭が出土した。

2区東区1面4号畦畔は若干蛇行しているが、2区東区1面1・2号畦畔はほぼ直線状を呈している。2区東

区1面2号畦畔の西端に取り付き、ほぼ直角に北側に向かう2区東区1面3号畦畔は、2区東区1面2号畦畔との接点の南側では検出されず、この南北方向の畦畔が南側へさらに伸びているのか、あるいは東西方向の2区東区2号畦畔がL字形に屈曲しているだけなのか、検出状況からは判断することが出来なかった。いずれにしても2区東区3号畦畔は残存状態が極めて悪く、場所によっては扁平に近い状態の箇所も存在した。

1枚の水田区画がまるまる検出出来たものは無い。また、東側約10～12m隔てた4区から検出された水田の畦畔や溝等と直接接続するよう見受けられるものはほとんどない中で、2区東区4号畦畔のみが、走行方向・規模・形状から見て、4区中区1面で検出された、4区中区3～5号水田と4区中区1・2号水田とを南北に隔てる東西方向の比較的規模が大きな4区中区1面4号畦畔に接続する畦畔である可能性が考えられる。

東西方向の2区東区1・2号畦畔は、南東壁の土層断面から、締まりが強い黒褐色土の地山を削り出して高まりを造り出したとみられるが、調査区の南寄りでは検出された2区東区4号畦畔は、地山を削り出して形成した畦畔の高まりの上にさらに黒褐色土を貼り付けて、畦畔の高まりを形成している様子が見取出来た。

先述したように、水田1区画のすべてが検出されたものはないので、限られた範囲内のみの検出結果に過ぎないが、検出された各水田面の高低差や傾斜はそれぞれ異なっている部分もある。吾妻川と、そこに南側から流入するいくつもの小河川によって形成された小規模な谷地形が複雑に入り込む地形の制約を受けながらも、地形を改変しながら、狭小な範囲を活かしつつ、少しでも効率的な生産性が見込まれるよう、水田を形成していった様子が看取出来る。

なお、出土した杭の主なものは後掲の一覧表(第4表)に示した。また、遺構外からも陶器碗片1点が出土している(第81図1)。

2区東区1号水田(X=61027～035、Y=-92437～448) 北・西・東側は調査区外に広がっており、北西—南東方向の2区東区1面1号畦畔によって南側を画されている本調査区1面において最も北側から検出された水田区画で、検出面積は64.47㎡である。

水田面の標高はおおむね395.70m程度であるが、南側

の2区東区2・3号水田と同様、西高東低で、比高差は最大で0.1m程度である。2区東区1号畦畔を挟んで南側に隣接する2区東区2号水田よりもおおむね0.05～0.35m程度低い。

2区東区2号水田(X=61018～030、Y=-92437～454) 本調査区1面で検出された北から2番目の水田区画で、検出面積は120.80㎡である。

北側を北西-南東方向の2区東区1面1号畦畔に画される。西側のほとんどの部分は調査区西壁外に広がっているが、南寄りで区画の西側を画する2区東区1面3号畦畔が検出されており、部分的にはあるが西限が判明している。東側は調査区東壁外へと広がっており、南側は東北東-西南西方向の2区東区1面2号畦畔によって画されている。

2区東区1号畦畔の北側には2区東区1号水田が、2区東区1面2号畦畔の南側には2区東区3号水田がそれぞれ隣接する。2区東区1面3号畦畔西側は攪乱されており、水田面は検出されなかった。

水田面の標高はおおむね395.75～90m前後で、南側に隣接する2区東区3号水田と同様、西高東低に造られ、比高差は最大で0.15mである。北側に隣接する2区東区1号水田よりもおおむね0.05～0.35m程度高く、また、南側に隣接する2東3号水田よりも0.20～0.50m程度低い。

2区東区3号水田(X=61008～018、Y=-92443～457) 本調査区で検出された北から3番目に当たる水田区画で、検出面積は85.00㎡である。

北側を東北東-西南西方向の2区東区1面2号畦畔に、南側を北西-南東方向の2区東区1面4号畦畔によって画されている。東側は調査区東壁外にさらに広がっているが、西端は攪乱されていて不明である。2区東区1面2号畦畔を挟んで北側は2区東区2号水田と、2区東区1面4号畦畔を挟んで南側は2区東区4号水田とそれぞれ隣接している。

水田面の標高はおおむね396.10～396.15mで、ほぼ平坦ではあるが、細かく見れば、本調査区1面における他の水田区画同様、西高東低で、比高差は0.1m程度であり、南側に隣接する2区東区4号水田の状況とは異なっている。

また、北側に隣接する2区東区2号水田よりもおおむ

ね0.20～0.50m程度高く、南側に隣接する2区東区4号水田よりも約0.20～0.75m程度低い。

銅製の切羽が水田面から1点出土している(第15図1)。

2区東区4号水田(X=60997～61009、Y=-92447～463) 本調査区1面において最も南側で検出された水田区画で、検出面積は89.63㎡である。

北側は北西-南東方向の2区東区1面4号畦畔によって画され、2区東区3号水田が隣接する。東側と南側は調査区外にさらに広がっており、西側は攪乱されている。

水田面の標高は、北側では396.45～396.55m前後であるが、調査区の南側では396.60～396.80mと傾斜が大きい。区画内において最も標高が高い調査区南端部と最も低い2区東区1面4号畦畔際の区画北西側との比高差は0.45mであることから見れば、調査区南壁から2区東区1面4号畦畔までの間がまるまる1区画の水田であったとは考えにくいように思われる。元来は、調査区南端から水田区画のほぼ中央に当たる標高396.55～396.65mの等高線に至るまでの間に、もう一本、畦畔なり段差なりが存在していたことを想定するのが理に適っているように思われる。しかしながら、当該箇所において、段差・畦畔等の痕跡を検出することは全く出来ない。

水田面から寛永通宝が1点出土している(第15図2)。

(1) 2区東区1面1号畦畔(第15図、PL.9)

位置 2区東区1面。X=61026～030、Y=-92437～447。

主軸方位 N-74°-W。

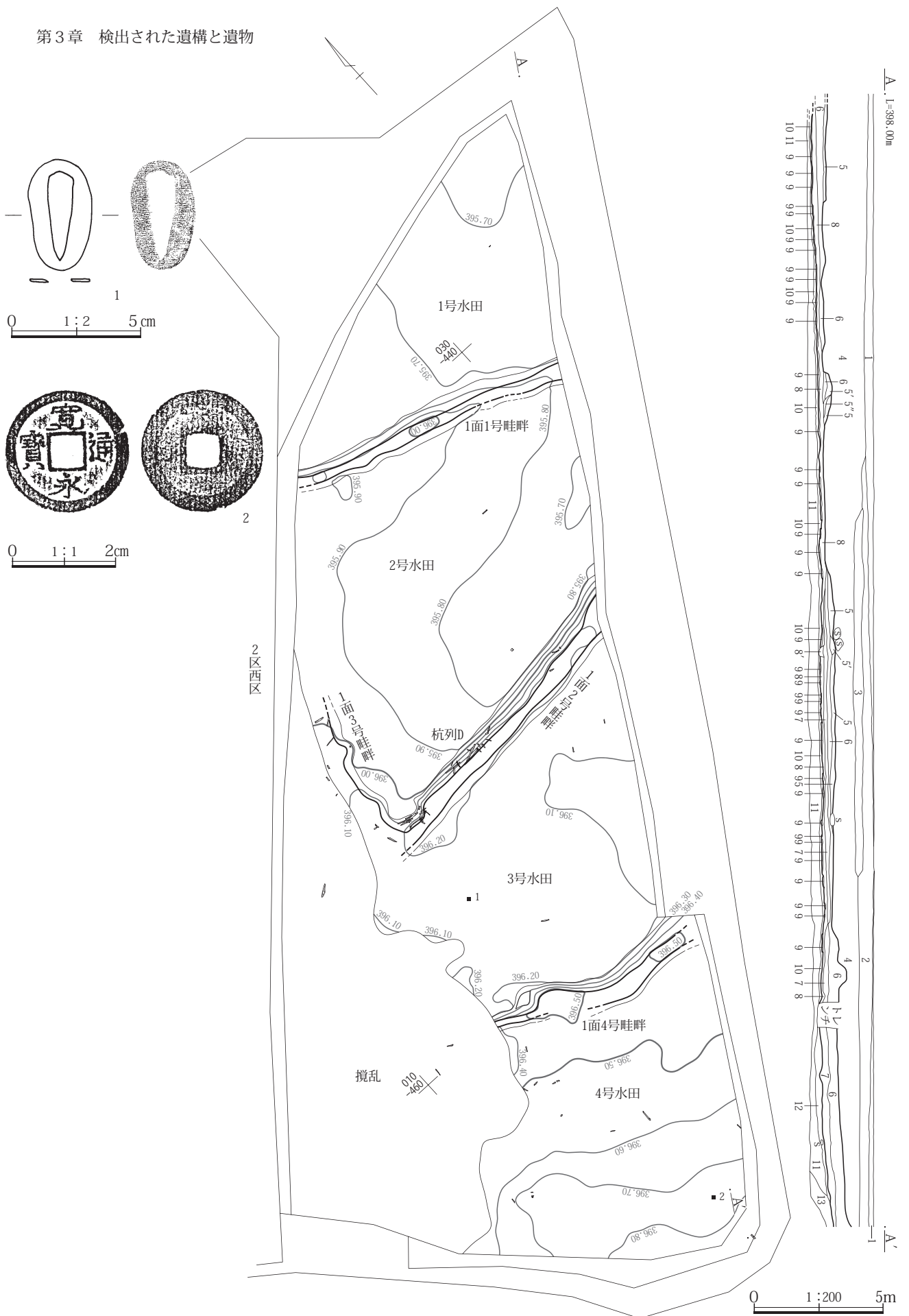
規模 検出全長11.00m、基底部幅1.00～1.30m、高さ約0.25m程度。

遺物 なし。

所見 調査区北側で検出された北側2区東区1号水田と南側2区東区2号水田とを画する北西-南東方向の畦畔。

検出状況はあまり良くないが、ほぼ東西方向に走行する2区東区1面1・2・4号の3条の畦畔は、およそ10～11m間隔で造られている。

調査区南東壁の土層断面から見て、締めりが強い黒褐色土の地山を削り出して高まりを造り出したとみられる。



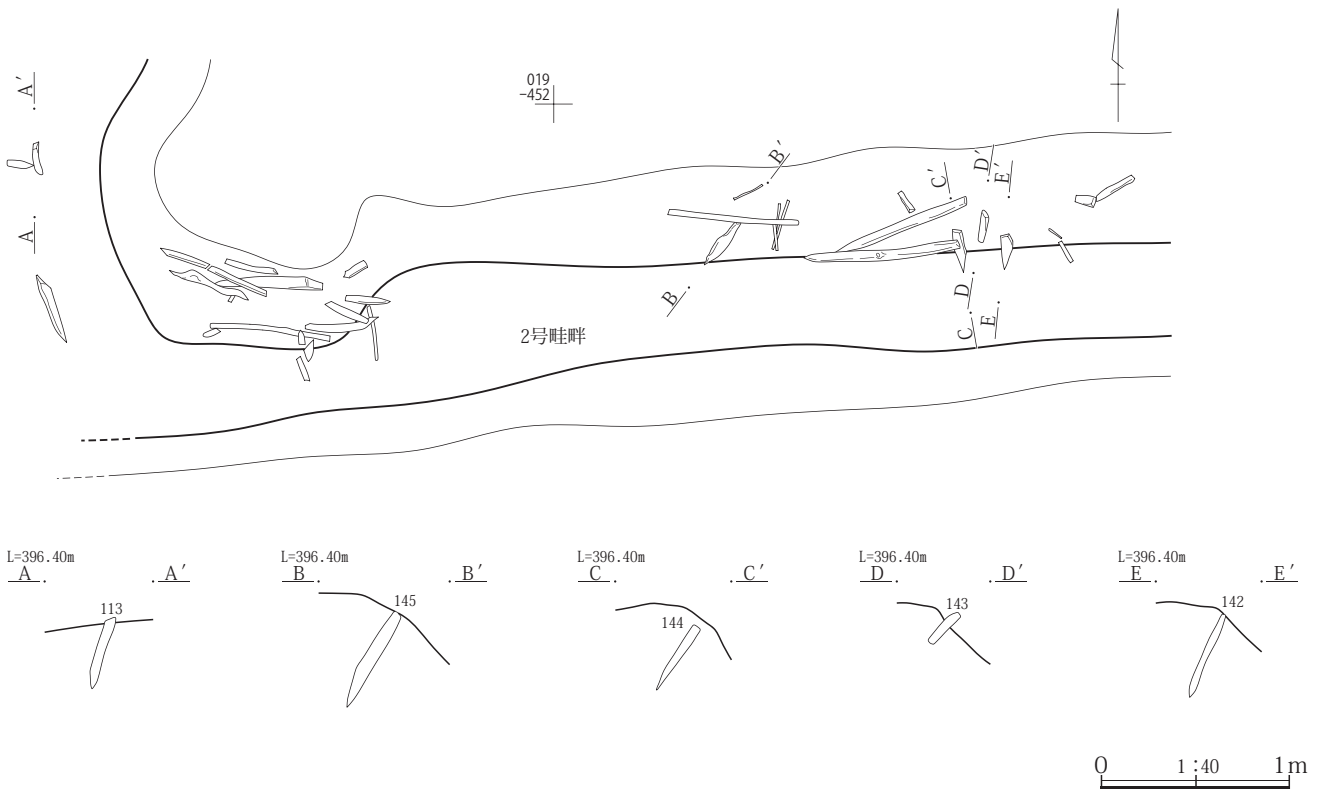
第15図 2区東区1面全体図、土層断面図、出土遺物

2区東区東壁 A-A'

- 1層 10YR4/2灰黄褐色土 表土(2区東区基本土層1層相当)。
- 2層 10YR4/2灰黄褐色土 表土(2区東区基本土層1層相当)。
- 3層 暗渠配水設置軽石(2区東区基本土層1層相当)。
- 4層 10YR3/1黒褐色土 As-A泥流堆積物層。φ20～700mm程度の礫を含む。礫は火山性の熱を受けたものを含む。軽石が混じる(2区東区基本土層2層相当)。
- 5層 10YR4/2黒褐色土 φ2～20mm程度の軽石と小礫を主とし、砂がわずかに混じる(2区東区基本土層3層相当)。
- 5'層 10YR4/2黒褐色土 5層よりも少量のφ2～20mm程度の軽石と小礫を主とし、砂がわずかに混じる。
- 5''層 10YR4/2黒褐色土 5層に類似するが砂質土がやや多い。
- 6層 10YR3/3黒褐色土 φ2～5mm程度の軽石を約20%程度含む。締まりあり(2区東区基本土層4層相当)。
- 7層 10YR3/1黒褐色土 φ2～5mm程度のAs-Kk軽石を約20%程度含む。締まりあり。植物遺体(小植物の茎)をわずかに含む(2区東区基本土層5層相当)。

- 8層 10YR5/4鈍い黄褐色土 φ1～30mm程度の発泡したAs-Kk軽石層。ざらざらした砂質感あり(2区東区基本土層6層相当)。
- 8'層 8層に類似するが、水分が多い。フローティングされた可能性あり。
- 9層 10YR5/4鈍い黄褐色土 φ1～30mm程度の発泡したAs-B軽石層。約1～3mm程度のものが主で、まれにφ30mm程度のものが入る。ざらざらした砂質感あり(2区東区基本土層7層相当)。
- 10層 10YR1.7/1黒色土 泥炭化している。細い根や茎が入る。粘性あり(2区東区基本土層8層相当)。
- 11層 10YR3/4暗褐色土 やや泥炭化している。細い根や茎が入る。粘性あり(2区東区基本土層9層相当)。
- 12層 10YR3/2黒褐色土 砂とφ1mm以下の軽石に10層の黒色土が斑に入る。
- 13層 10YR2/1黒色土 φ50～100mm程度の円礫と川砂とで構成される。湧水が激しい。

杭列D



第16図 2区東区1面2号畦畔杭列D平面図、杭出土状況断面図

(2) 2区東区1面2号畦畔(第15・16図、PL.9・10)

位置 2区東区1面。X=61016～019、Y=-92441～454。

主軸方位 N-87°-E。

規模 検出全長11.70m、基底部幅1.10～1.60m、高さ約0.30m程度。

遺物 杭列Dから32本の木杭が出土。

所見 調査区中央で検出された北側2区東区2号水田と南側2区東区3号水田とを画する東北東-西南西方向の畦畔で、本調査区1面において北から2本目の畦畔である。

検出状況はあまり良くない。南東壁の土層断面から見て、締まりが強い黒褐色土の地山を削り出して高まりを造り出したとみられる。

西端において、ほぼ直角に北側に向かう2区東区1面3号畦畔が検出された。

杭列D 2区東区1面2号畦畔のほぼ中間点よりも西側の部分から3号畦畔との接点にかけての $X=61017\sim 018$ 、 $Y=-92448\sim 454$ の範囲から、32本の杭が集中して出土した。

2区西区1面1号段差から検出された杭列A～Cは、段差法面の補強と段上からの土砂の流出の防止を目的とした杭列と考えられたが、ここで検出された杭列は、畦畔そのものの補強を目的としたものと考えられる。

かなりの部分が地面に突き刺さったままの状態のものと、先端まで完全に抜けてしまった状態で検出されたものがあつたが、横向きの状態で出土したものは、抜けて脱落した状態ではなく、木杭を横たえて畦畔の芯材もしくは補強材として用いたものと考えられる。

検出された杭の長さは、もともとおよそ0.5m前後であつたとみられる。また、芯材ないし補強材として横架された杭は、概して、それらよりは長く、長さ0.7～1m程度のものであつたと考えられる。

また、約30～40°程度、北～北東側に傾斜して出土したものが多く見られた。

(3) 2区東区1面3号畦畔(第15図、PL. 9)

位置 2区東区1面。調査区中央で検出された東北東～西南西方向の2号畦畔の西端から北に伸びる畦畔 $X=61018\sim 023$ 、 $Y=-92452\sim 454$ 。

主軸方位 $N-12^\circ-E$ 。

規模 検出全長約5.80m、基底部幅不明、高さ0.20m程度。

遺物 2号畦畔から続く杭列Dの一部は3号畦畔にもかかっており、3号畦畔の部分からも多数の木杭が出土。

所見 調査区中央で検出された東北東～西南西方向の2号畦畔の西端から北に伸びる畦畔。

2区東区2号水田の西側を画するが、この畦畔の西側一帯は攪乱されており、畦畔西側の区画については全く不明である。

検出状況があまり良くない本調査区1面で検出された畦畔の中でも、最も検出状況は悪い。

2号畦畔の西端に取り付き、ほぼ直角に北側に伸びているが、2区東区1面2号畦畔に取り付く部分から約5

m程度北側に寄った位置から以北では検出出来なくなってしまう。また、2区東区1面2号畦畔との接点の南側では検出されず、この南北方向の畦畔が南側へさらに伸びているのか、あるいは東西方向の2区1面2号畦畔がL字形に屈曲しているだけであるのか、検出状況からは判断が付かなかつた。

いずれにしても2区東区1面3号畦畔は残存状態が極めて悪く、畦畔の西側では畦畔の高まりはほとんど検出出来ないような状況であつた。

(4) 2区東区1面4号畦畔(第15図、PL. 9)

位置 2区東区1面。 $X=61007\sim 010$ 、 $Y=-92448\sim 456$ 。

主軸方位 $N-83^\circ-E\sim N-63^\circ-W$ 。

規模 検出全長約8.00m、基底部幅0.70～1.50m、高さ0.30m程度。

遺物 なし。

所見 調査区の南寄りで検出された北側の2区東区3号水田と南側の2区東区4号水田とを画する北西～南東方向の畦畔で、検出状況はあまり良くないが、北側に位置する2区東区1面2号畦畔との間隔は、およそ7～11m前後である。

東側約10～12m隔てた4区から検出された水田の畦畔や溝等と直接接続するように見受けられるものはほとんどない中で、この2区東区1面4号畦畔のみが、走向・規模・形状から見て、4区中区1面1号段差及びそれに付随する大畦畔である4区中区1面4号畦畔に接続する可能性が推定出来る。

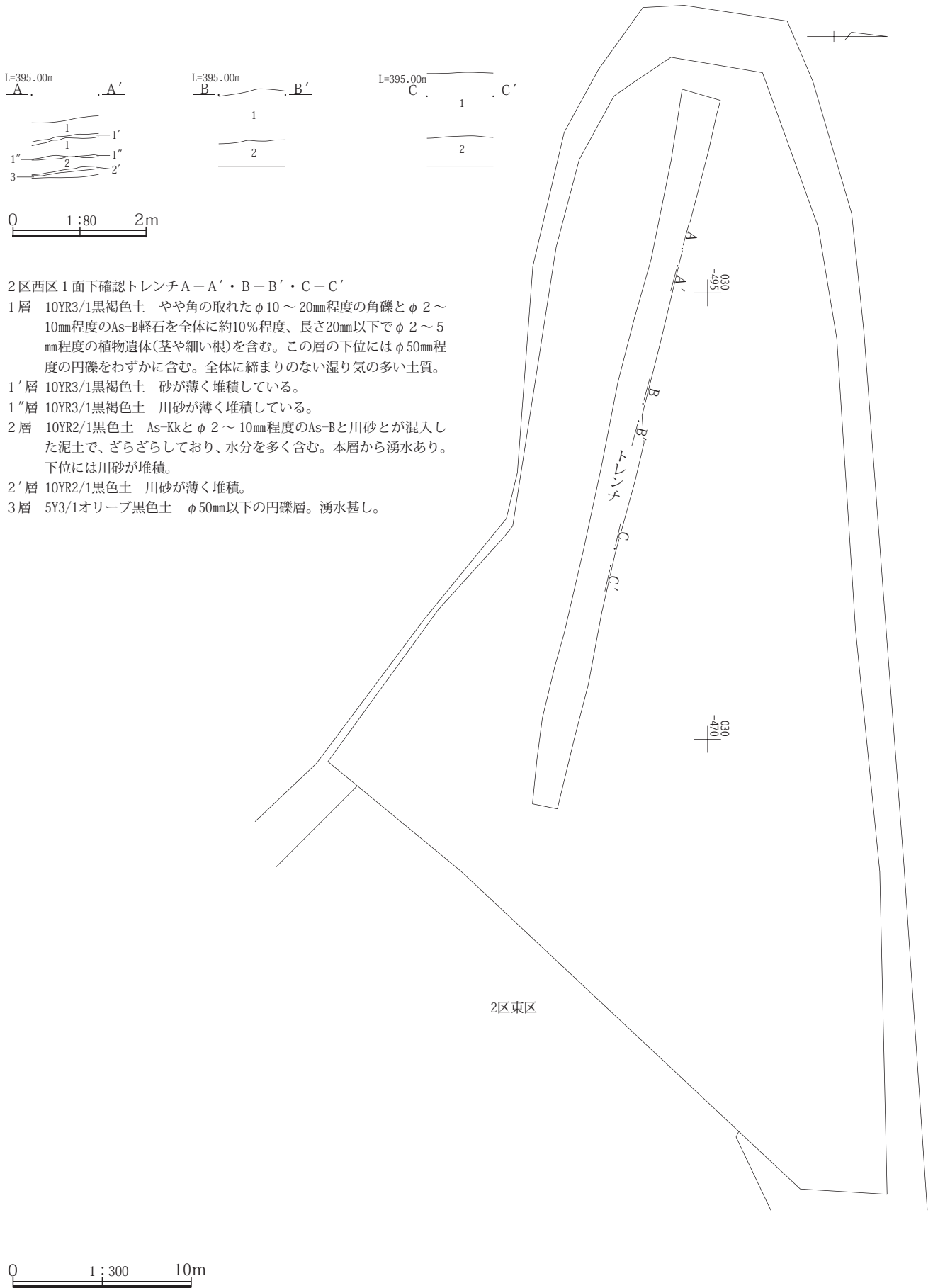
地山を削り出して形成した畦畔の高まりの上にさらに黒褐色土を貼り付けて、畦畔の高まりを形成している様子が看取出来た。

時期 天明3(1783)年以前で近世のものと考えられる。

第3節 2区2面の遺構と遺物

12世紀前半と12世紀初頭の天仁元(1108)年の浅間山噴火の際に降下した火山灰によって覆われた面である。

2区西区では、平成25(2013)年9月に調査区の中央からやや南寄りの位置に遺構の確認調査のためのトレンチを設定し遺構の有無を確認したが、遺構はなんら検出



2区西区1面下確認トレンチA-A'・B-B'・C-C'

- 1層 10YR3/1黒褐色土 やや角の取れたφ10～20mm程度の角礫とφ2～10mm程度のAs-B軽石を全体に約10%程度、長さ20mm以下でφ2～5mm程度の植物遺体(茎や細い根)を含む。この層の下位にはφ50mm程度の円礫をわずかに含む。全体に締まりのない湿り気のある土質。
- 1'層 10YR3/1黒褐色土 砂が薄く堆積している。
- 1''層 10YR3/1黒褐色土 川砂が薄く堆積している。
- 2層 10YR2/1黒色土 As-Kkとφ2～10mm程度のAs-Bと川砂とが混入した泥土で、ざらざらしており、水分を多く含む。本層から湧水あり。下位には川砂が堆積。
- 2'層 10YR2/1黒色土 川砂が薄く堆積。
- 3層 5Y3/1オリーブ黒色土 φ50mm以下の円礫層。湧水甚し。

第17図 2区西区2面全体図、土層断面図

されなかった。(第17図)

2区東区では同年10月上旬に2面目の調査を実施し、平安時代の水田跡が調査区の全域において検出された。

第1項 2区東区の遺構と遺物

2区東区2面においても水田が検出された。標高は南東隅部が最も高く、南東側から西に向かって、また、中央部から北東に向かって緩やかに傾斜している。

また、調査区の中央部からやや北寄りの位置付近が、西側に向かってわずかに突き出した半島状の微高地状になっている様子が看取出来た。

調査区内における最高点である調査区南東隅部と、調査区内で最も低い $X=61012.5$ 、 $Y=-92459$ 付近との比高差は約1mになる。

遺物包含層から礫石器石皿片1点が出土(第18図1)。

1. 水田(第18図、PL.10・11・74)

検出された水田面には高低差が若干あり、検出された範囲内に限っても比高差が約1mあるが、2区西区1面で検出された天明泥流下の近世水田にみられたような棚田状の造成の痕跡は検出されなかった。

調査区の北寄りから中央にかけて西南西-東方向と南西-東方向の2本の畦畔が、また、調査区の中央部で北西から東に向かって緩やかに屈曲する畦畔の計3か所の畦畔が検出された。検出状況から畦畔の範囲が判断されたが、いずれも検出状況は悪く、畦畔の高まりはほとんど明確には検出することは出来なかった。調査区の壁の土層断面の状況からは、黒色粘質土の地山を削り出して畦畔を形成したものと考えられるが、土層断面の状況からも畦畔の高まりは全く明瞭ではない。面的な調査によって、遺構確認面の状況によって辛うじて畦畔の存在が確認出来た程度である。

調査区の北寄りから中央にかけて検出された西南西-東方向と南西-東方向の2本の畦畔は北東側で重複し、南西-東方向の畦畔が西南西-東方向の畦畔の上に一部載っているため南西-東方向の畦畔が新しい畦畔と考えられる。3本の畦畔ともに、東端は調査区外に伸びている。東側約10m隔てて隣接する4区北区でも、この面に対応する12世紀前半と天仁元(1108)年の浅間山噴火による火山灰で覆われた水田が検出されているものの、2区

東区2面1・2号畦畔に接続するような畦畔の痕跡は全く検出されなかった。

また、調査区の中央部では、2条の溝(4・5号溝)が検出されたが、水田に伴う水路とは考えにくい。

(1) 2区東区2面1号畦畔(第18図、PL.11)

位置 2区東区2面。 $X=61027\sim 029$ 、 $Y=-92436\sim 452$ 。

主軸方位 $N-80^{\circ}-E$ 。

規模 検出全長15.80m、基底部幅1.00m、高さはほとんど検出されなかった。

遺物 なし。

所見 調査区北寄りから中央で検出された西南西-東方向の畦畔。東西両側がそれぞれ調査区外に伸び、少なくとも西側に隣接する2区西区側に続くように見受けられるが、先述した通り、2区西区では12世紀前半と天仁元(1108)年の浅間山噴火による火山灰で覆われた面の遺構が全く検出出来なかったため、西側継続部分については明らかにすることが出来なかった。

また、東端も調査区外に伸びているが、東側約10m隔てて隣接する4区北区でも、この面に対応する12世紀前半と天仁元(1108)年の浅間山噴火による火山灰で覆われた水田が検出されているものの、接続するような畦畔の痕跡は全く検出されなかった。

調査区東壁際で2区東区2面2号畦畔と重複し、2区東区2面2号畦畔が本畦畔を切っている。

(2) 2区東区2面2号畦畔(第18図、PL.11)

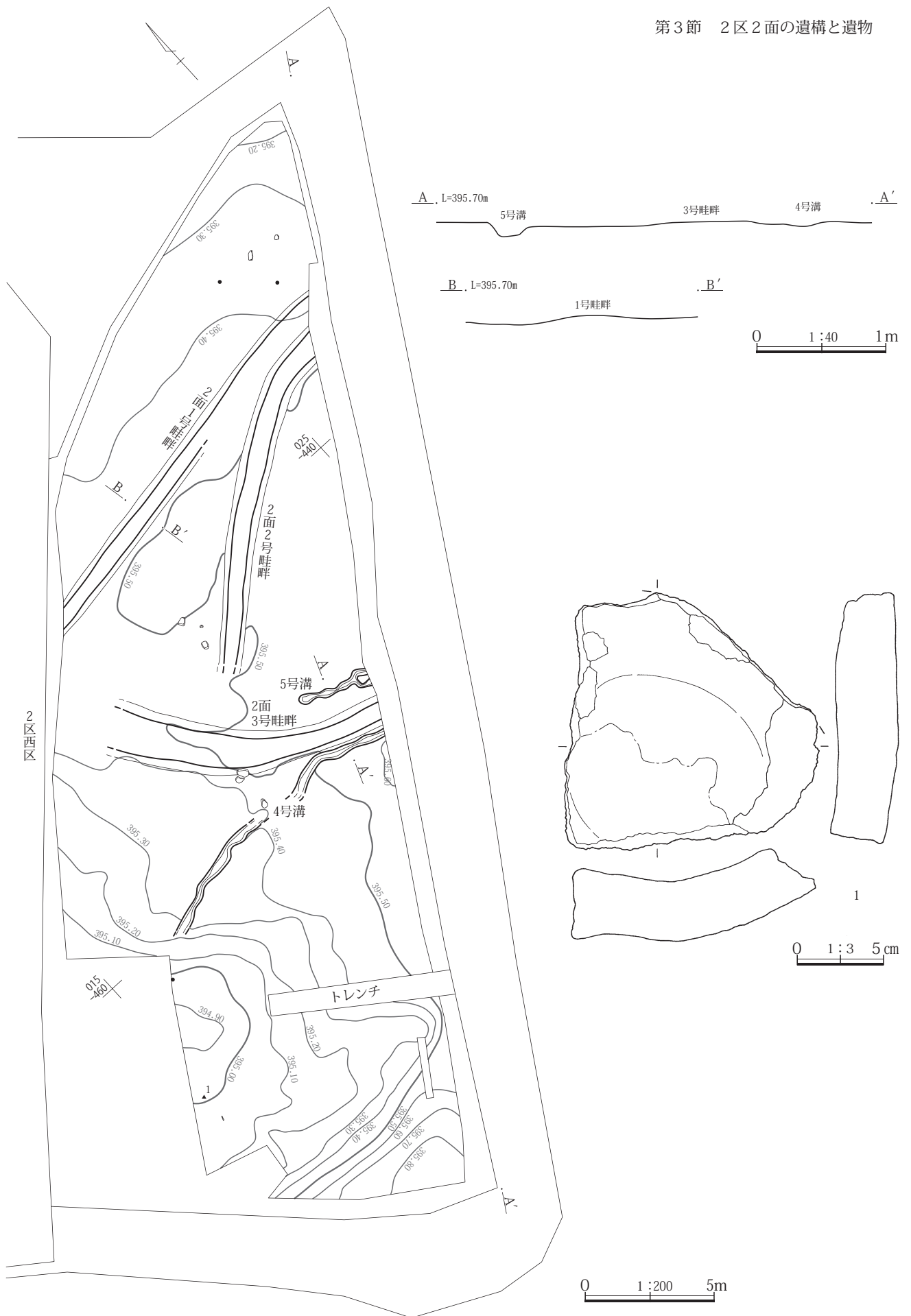
位置 2区東区2面。 $X=61020\sim 029$ 、 $Y=-92437\sim 448$ 。

主軸方位 $N-45\sim 75^{\circ}-E$ 。

規模 検出全長12.80m、基底部幅1.00～1.20m、高さはほとんど検出されなかった。

遺物 なし。

所見 調査区北寄りから中央で検出された南西-東方向の畦畔。東端は調査区外に伸びているが、東側約10m隔てて隣接する4区北区でも、この面に対応する12世紀前半と天仁元(1108)年の浅間山噴火による火山灰で覆われた水田が検出されているものの、接続するような畦畔の痕跡は全く検出されなかった。



第18図 2区東区2面全体図、1・3号畦畔、4・5号溝エレベーション図、出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

先述したように、調査区東壁際で2区東区2面1号畦畔と重複し、本畦畔が1号畦畔を切っているので、本畦畔は1号畦畔を造り替えた畦畔である可能性も考えられる。しかしながら、本畦畔の走向は1号畦畔に比べてかなり大きく東側に傾いているので、そのように考えるには若干の疑問が残らないでもない。

畦畔の西端は、調査区の西側では検出出来なくなる。

(3) 2区東区2面3号畦畔(第18図、PL.11)

位置 2区東区2面。X=61015～022、Y=-92444～454。

主軸方位 N-32～70°-W。

規模 検出全長10.40m、基底部幅1.10～2.20m、高さはほとんど検出されなかった。

遺物 なし。

所見 調査区の中央部で検出された北西から東に向かって緩やかに屈曲する畦畔。位置から見て、約10～12m程度隔てて東側に隣接する4区中区の西端部において検出された4区中区2面1号畦畔に接続する可能性が考えられるが、4区中区2面1号畦畔は、畦畔の中央部分に溝を有する畦畔であり、構造的に異なるので、そのように想定するには若干の疑問が残らないではない。

畦畔の西端は、調査区の西側では検出出来なくなる。

時期 天仁元(1108)年以前で古代のものと考えられる。

2. 溝

調査区の中央部で2条の溝が検出された。

調査区の中央部で検出された北西から東に向かって緩やかに屈曲する3号畦畔の南北両側に沿うように検出されたが、4号溝は、西側では3号畦畔の方向とは離れ、5号溝は不整形で短いなど、畦畔に伴う水路とは考えにくく、As-B下水田に伴う遺構とは認定出来ない。

(1) 4号溝(第18図、PL.11)

位置 2区東区2面。X=61014～016、Y=-92445～456。

重複 なし。

主軸方位 N-72°-E、N-70°-W。

規模 検出全長約20.05m(未検出箇所を挟む)、上幅0.28～0.46m、下幅0.04～0.24m、深さ約0.01～0.05m

前後。

埋土 不明。

遺物 なし。

所見 調査区の中央部からやや南寄りの位置をやや蛇行しながら東西方向に走行し、西側はX=62014.8、Y=-92457付近で検出出来なくなる。南東側は調査区外に出るが、約10m隔てて東側に隣接する4区中区からはこの溝に継続すると考えられるような溝は検出されていない。

また、東南側壁の内側から西へ約3.6～5mの間が削平を受けており、全く検出出来ない。

掘方は極めて浅い。

東南側壁際下から東南側壁内側から約2.5m程度の位置までの間、調査区の中央部で検出された北西から東にむかって緩やかに屈曲する畦畔のすぐ南側に接しているが、西側に行くに従って、北西方向に大きく屈曲する畦畔とは離れ、やや蛇行しながら西方向に流れる。よって、畦畔に伴う水路とは考えにくい。

時期 天仁元(1108)年以前で古代のものと考えられる。

(2) 5号溝(第18図、PL.11)

位置 2区東区2面。X=61016～018、Y=-92444～447。

重複 なし。

主軸方位 N-72°-W。

規模 検出全長約2.88m、上幅0.08～0.41m、下幅0.02～0.08m、深さ約0.06～0.09m前後。

埋土 不明。

遺物 なし。

所見 調査区の中央部からやや南寄りの位置を東南東方向から西北西方向に向かって流れるが、溝底の高低差はあまりない。西北西側はX=61018.2、Y=-92447.2付近で止まり、東南東側は4号溝同様調査区外に出るが、約10m隔てて東側に隣接する4区中区からはこの溝に継続すると考えられるような溝は検出されていない。東南側壁の手前で二又に分岐している。

調査区の中央部で検出された北西から東に向かって緩やかに屈曲する畦畔の北側に位置するが、形状や方向から見て畦畔に伴う水路とは考えにくい。

時期 天仁元(1108)年以前で古代のものと考えられる。

第4節 3区の遺構と遺物

3区は、2区とは東西方向の現道を挟んだ北側約10mに位置する東西に細長く、東側が撥形に広がる台形状を呈する調査区である。

南北方向に走行する小畦道を挟み、 $Y = -92450$ のラインを境に、東側の、調査区全体の約2/3を占める東区と、西側の、調査区全体の約1/3を占める西区とに分けて、平成25年11月上旬～中旬にかけて調査された。

調査区内は大きく攪乱されており、天明3(1783)年浅間山噴火に伴うAs-A泥流下において検出された1面では、遺構確認面が遺っていたのは東区の東側約2/5程度の範囲のみであった。水田面と、それに伴う杭列が検出された。

2面でも、同様に、調査区の東側約2/5程度の範囲にしか遺構確認面は検出することが出来なかった。

12世紀前半及び天仁元(1108)年降下の浅間山火山灰As-B軽石によって覆われた面は検出されたものの、明確な水田の遺構は検出することが出来なかった(第22図、PL.13・14)。

3区東区1面の地形は、遺構が検出されたごくわずかな範囲内では、南壁にほど近い $X = 61053.5$ 、 $Y = -92430.5$ 付近が標高394.95mで最も高く、北東側に向かって緩やかに傾斜していく。調査区北東隅付近との比高差は約0.2m程度であった。

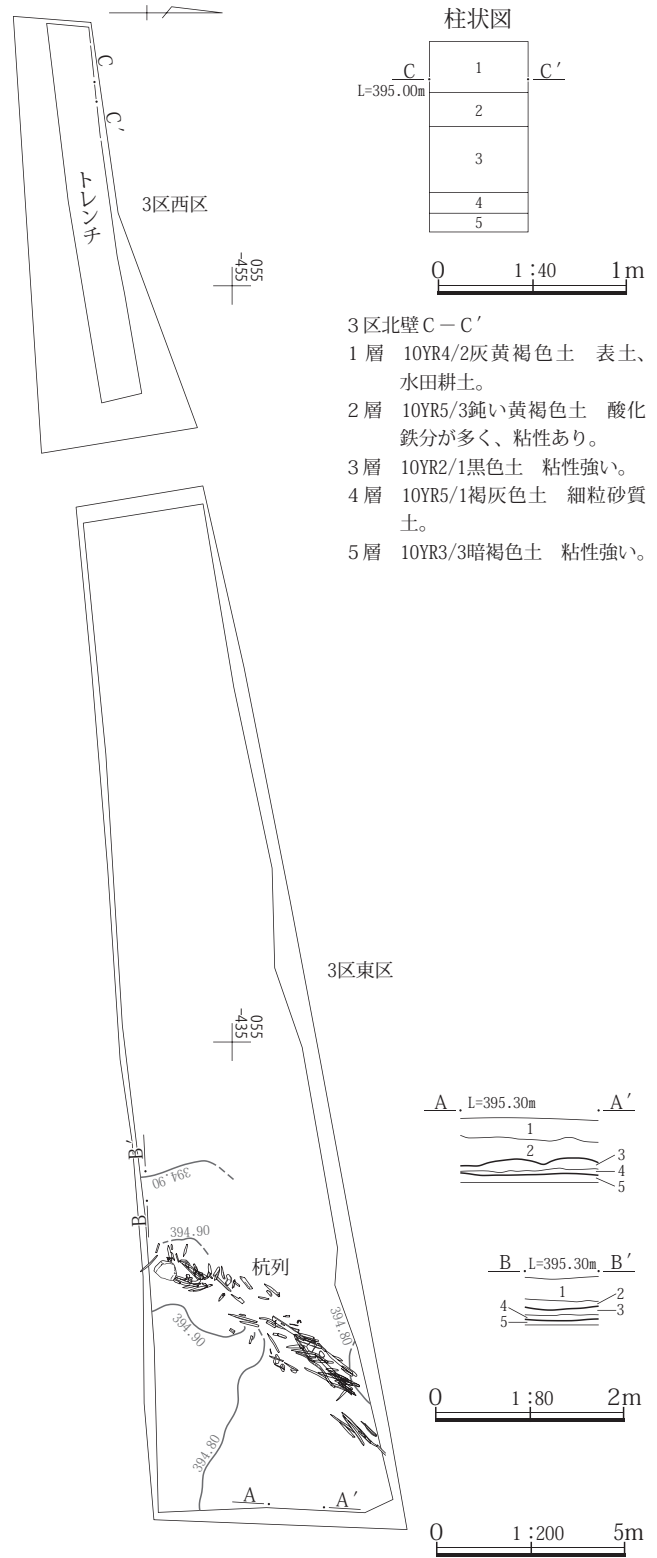
同様に3区東区2面でも調査区南壁際中央付近が標高394.80mで最も高く、北東側に向かって緩やかに傾斜しており、調査区北東端付近との標高差は0.35mであった。

本節では3区東区1面で検出された水田とそれに伴う杭列について報告する。

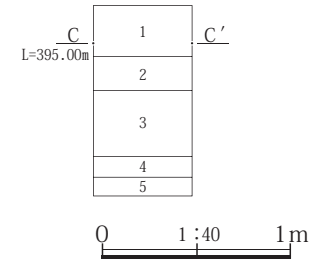
1. 1面の水田(第19～21図、PL.12・13・74)

先述したように、本調査区は大きく攪乱されており、調査区東寄り約2/5の範囲でしか遺構確認面は遺存していなかった。

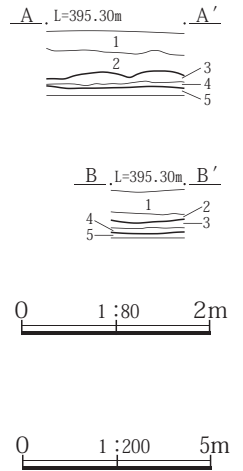
As-A泥流下から水田が検出されたのは、おおむね南壁際 $X = 61052$ 、 $Y = -92430.5$ 付近から北壁際 $X = 61058$ 、 $Y = -92424$ 付近の位置を結ぶ南西-北東方向のラインよりも東側、東壁に至る範囲のみである。



柱状図



- 1層 10YR4/2灰黄褐色土 表土、水田耕土。
- 2層 10YR5/3鈍い黄褐色土 酸化鉄分が多く、粘性あり。
- 3層 10YR2/1黒色土 粘性強い。
- 4層 10YR5/1褐灰色土 細粒砂質土。
- 5層 10YR3/3暗褐色土 粘性強い。



3区東壁A-A'・南壁B-B'

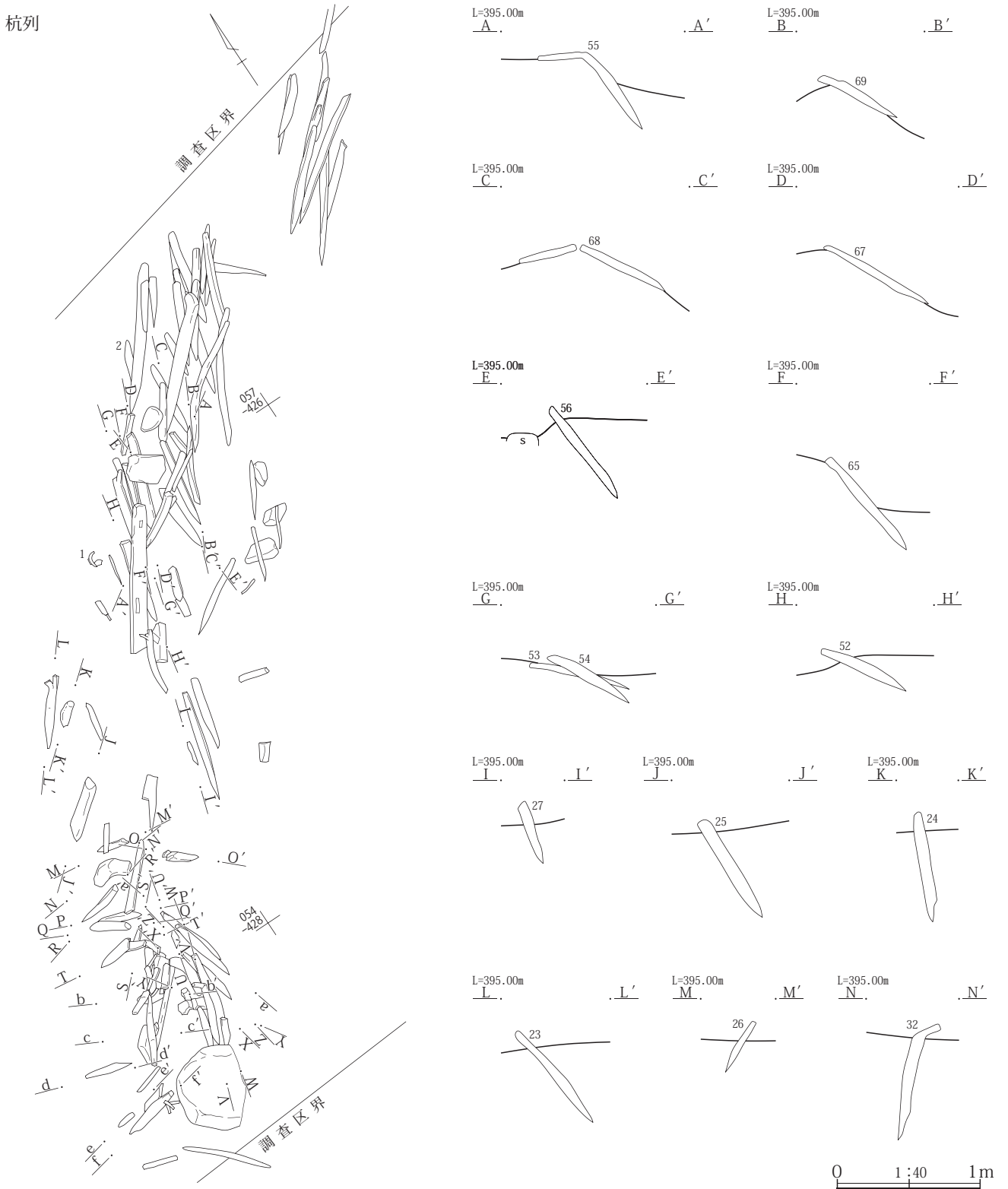
- 1層 10YR4/2灰黄褐色土 表土、水田耕土。地表。
- 2層 10YR4/6褐色土 圃場整備による盛土。φ20～700mm程度の礫を含む。礫は火山性の熱を受けた物を含む。軽石混じり。
- 3層 10YR5/4鈍い黄褐色土 φ1～10mmの発泡したAs-Kk軽石の堆積層。φ1～3mm程度のものを主とし、まれにφ30mm程度のものが混じる。ざらざらした砂質感あり。
- 4層 10YR5/4鈍い黄褐色土 As-Bの灰層。
- 5層 10YR1.7/1黒色土 粘性あり。

第19図 3区全体図、土層断面図

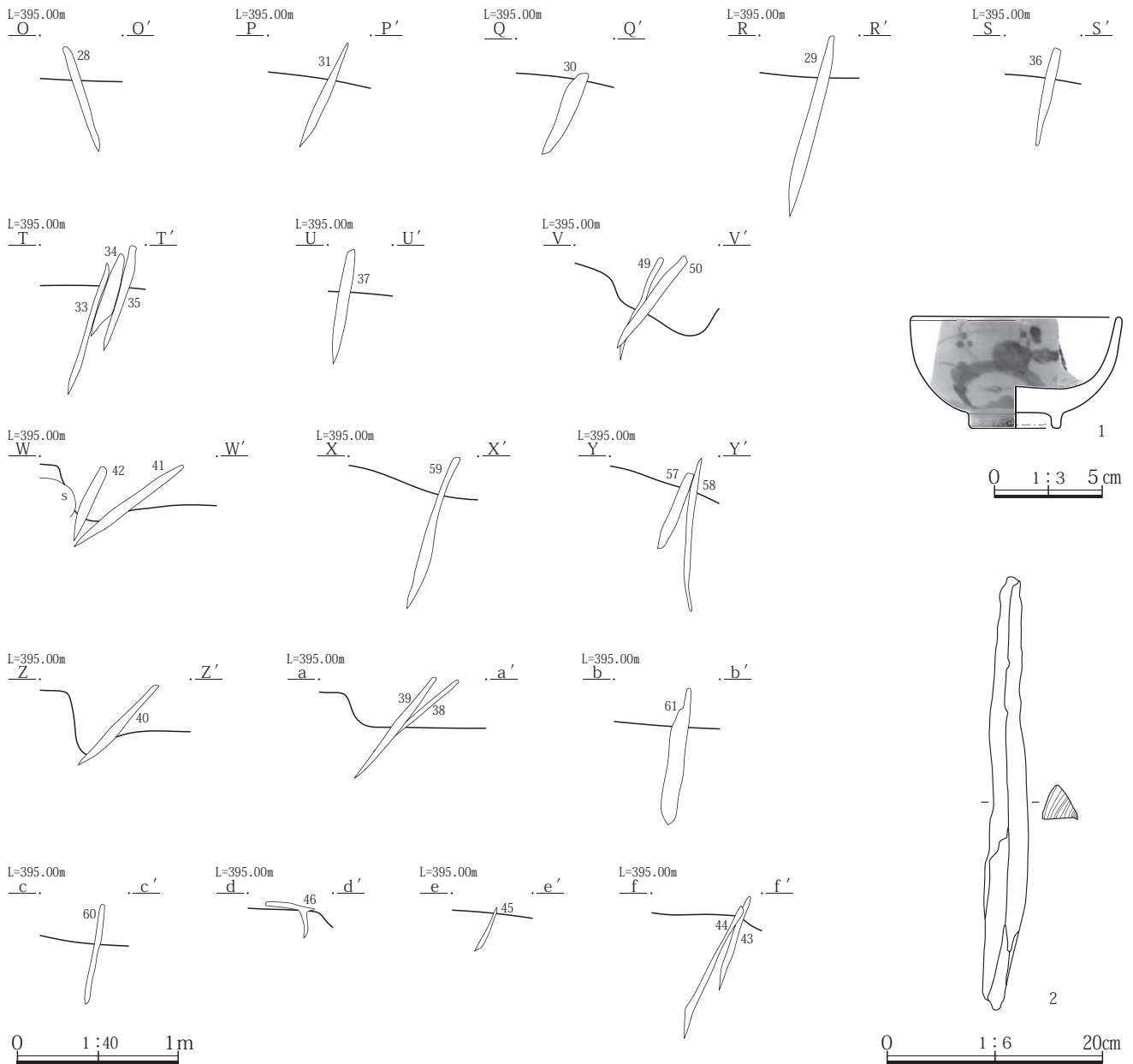
畦畔や段差は一切検出されず、水田面検出範囲のほぼ中央部において南西―北東方向の木杭列が検出された。

杭列 X = 61052 ~ 058, Y = -92424 ~ 429の東西約5 m・南北約6 m程度の範囲に南西―北東方向に細長く纏まって99本の木杭が集中して出土し

た。検出された木杭群は、幅約0.70～1.00m程度、長さ約7.5m程度の範囲で、調査区の南北壁のそれぞれ外側に向かって続いている様子がうかがえるが、東西方向に走行する現道を挟んで南側約8～10m隔てた2区からは、杭列の続きの部分は全く検出されていない。



第20図 3区杭列平面図、杭出土状況断面図(1)



第21図 3区杭列杭出土状況断面図(2)、出土遺物、出土杭の例

木杭のほぼ全てが、かなりの部分が地面に突き刺さったままの状態で見出された。木杭のほとんどのものは、2区1面から検出されたものとほぼ同様の形状・大きさを呈しており、地中に刺さった先端部は削り尖らされている。おおむね0.50～0.10m程度の杭が打ち込まれていたものと考えられる。

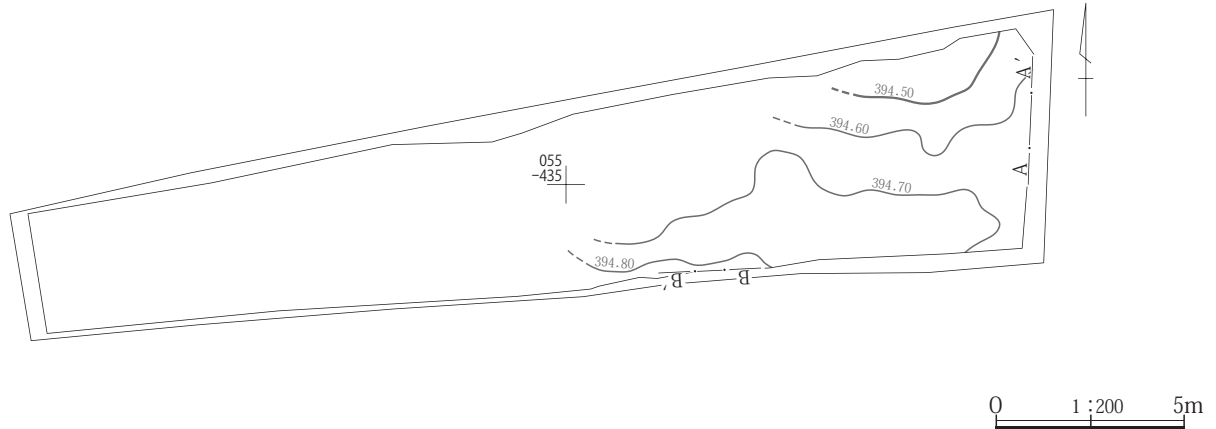
約10～60°程度北東側に向かって傾斜した状態で出土したものが多いが、南西側で西北西～北西側に傾斜した状態のものもいくつか見られた。また、横架された状態で検出されたものも見られた。横架された木杭の中には、柄穴が穿たれたものがあり、明らかに建築部材を転用し

たと考えられるものも存在している。

この杭列の東西両側における標高差はあまりなく、全体に北東方向に向かって緩やかに傾斜する地形に沿った標高差であるため、2区西区で見られたような段差を補強し、下位側への土砂の流出を防止するための杭ではなく、畦畔芯材及び補強材としての杭と考えられる。

また、杭列の範囲からは径0.15～0.5m前後の礫が10点ほど出土しているが、少量なので、畦畔の芯材や補強材として礫が積極的に使用された訳ではないと考えられる。

杭列内からは肥前磁器碗1点が出土した(第21図1)。



第22図 3区東区2面全体図

第5節 4区1面の遺構と遺物

4区は、2区とは南西―北東方向の現道を挟んで東側に約10～14m、また5区とは東西方向の現道を挟んで約7～8m南側に位置する不整形形状を呈する調査区である。

調査区の東側には、北流して吾妻川に注ぐ田中川があり、田中川が形成した谷に向かって東側に傾斜する地形である。

調査の都合上、北・中・南の3区に分割して調査が行われた。

4区北区は、ほぼX=61021とX=61026の間に位置する西南西―東北東方向のラインを境に、北側に位置する東西に長い平行四辺形状の調査区である。

4区中区は、4区北区と南区に挟まれた調査区で、4区北区と同様、東西に長い平行四辺形状を呈する調査区である。

4区南区は、X=61000とX=61005との間を結ぶ西南西―東北東方向のラインを境にして、4区中区の南側に位置する、三角形の平面形態を呈する、4区では最も狭い調査区である。なお、この4区南区は、本遺跡の調査範囲において、最も南側に位置する調査区でもある。

調査は、平成25(2012)年10月中旬より南区1面から着手され、同年11月からはさらに北区1面の調査にも着手された。その後、北区と南区の調査は並行して実施され、同年11月中旬に南区の全ての調査を終了した。一方、

北区は11月末まで調査を行い、測量・全景写真撮影等を経て12月初旬に終了している。

一方、4区中区は、平成26(2013)年10月末から調査に着手し、11月上旬に1面の調査を終了、中旬にはすべての調査を終了している。

調査区の地形は、全体的に南西から北東方向にかけて緩やかに傾斜している。

西側に隣接する2区と同様、天明3(1783)年の浅間山噴火に伴うAs-A泥流下において検出された1面と、12世紀前半の浅間山噴火によって降下した火山灰As-Kk及び12世紀初頭の天仁元(1108)年の浅間山噴火によって降下した火山灰As-Bによって覆われた2面の両面において水田が検出された。2区西区と同様、全域において棚田状に造成された様子が看取された。

第1項 4区南区の遺構と遺物

調査区の全域から水田が検出された。標高は、調査区の南西隅部が最も高く、北東側が最も低くなっているが、全体的には南から北に向かって緩やかに傾斜している。

調査区内の標高差は0.80mである。

検出された遺構は棚田状に造成された水田とそれに伴う溝が1条で、棚田状に造成された水田では2区西区で検出されたものと同様の段差の補強に使用された大量の木杭が出土した。

なお、出土した杭の主なものは後掲の一覧表(第4表)に示した。

1. 水田(第23図、PL.14～16)

調査区の全域において天明3(1783)年の浅間山噴火によって生じた天明泥流によって覆われた水田が検出された。水田面は、地山を削り出して段差を設け、地形に応じた平坦面を造り出したものと考えられる。

調査区西壁中央よりやや北寄りの位置である $X=60993$ 、 $Y=-92438$ 付近から南壁に接する $X=61001$ 、 $Y=-92409.5$ 付近にかけて西南西—北東方向に調査区北壁に沿って蛇行するように段差が設けられ、段差の北側と南側に2段にわたって水田が形成されていた。水田面は比較的良好に検出されたが調査範囲内において、畦畔等は全く検出されなかった。

4区南区1号水田($X=60987\sim 61001$ 、 $Y=-92408\sim 439$) 南側段上の4区南区1号水田の西側では、標高は397.7m前後、東側では標高397.5m前後で、西高東低の水田面が形成されている様子が看取出来た。検出面積は104.00㎡。

4区南区2号水田($X=60996\sim 61003$ 、 $Y=-92408\sim 437$) 北側の段下4区南区2号水田では、標高397.25m前後の平坦な水田面が検出された。また、4区南区2号水田の南西端では、段下際に段差に沿うように北東—南西方向の11号溝が1条検出された。段に沿っているので、水田に伴う水路と考えられるが、東端が段から離れるように北側に大きく屈曲していくかのような状態で検出されているところに、若干の疑問が残らないでもない。

なお、段の上下における両水田面の標高差は約0.15～0.75m程度であった。検出面積は41.34㎡。

また、調査区内において検出された段差の中央部分の段上側からは、木杭と石組によって段差を補強した堰状の造作が見出された。

・4区南区1面1号段差(第23～25図、PL.14～16・74)

位置 4区南区1面。 $X=60993\sim 61001$ 、 $Y=-92409\sim 438$ 。

主軸方位 N-62°～85°-E。

規模 検出全長約31.20m、幅約0.30～1.30m、比高差約0.05～0.56m前後。

遺物 なし。

所見 段差のほぼ中央部付近の $X=60996\sim 998$ 、 $Y=-$

-92421～428の範囲において、段上側に、南側に緩く湾曲した平面形態を呈する石列が検出された。打ち込まれた木杭列と相俟ってあたかも堰状の構造物となっていた。

石列は、径0.20～0.60m前後の礫を部分的に2段積み上げており、段差の基礎部分を丹念に補強している様子うかがえる。とくに石組列が検出された部分の東の端一帯、 $X=60996.5\sim 997.8$ 、 $Y=-92425.3\sim 427.8$ の範囲において、東西方向に長さ約1.9mの扁平な角材を、南北～北東—南西方向に長さ約0.5m前後の細身で小型の角材とあたかも櫛状に組み合わせたような状態で出土している。石組列と組み合わせて堰状の土留めを構成する一部と考えられ、棚田上段から下段への土砂の流出を防ぐための堅牢な構造物の様相が判明する。

杭列 $X=60996\sim 61000$ 、 $Y=-92421\sim 427$ の東西約7m・南北約4m程度の範囲から、68本の杭が集中して出土した。かなりの数の杭の多くの部分が地面に突き刺さったままの状態であった。

土留めとして打ち込まれた木杭は、この段差が検出された範囲におけるほぼ中央部でのみ出土した。それらの多くは、完全に突き刺さったままの状態のものから上面を覆った天明泥流層流入の際の土圧によって根元から抜けてしまっているものもあるが、突き刺さったままの状態で検出されたもののほとんどは傾いた状態で検出され、中には低い角度で傾いているものも見受けられ、土砂流動の様子が窺い知れるものも存在している。約30～80°程度傾斜して出土したものが多く、北西～北東側に傾斜した状態のものも多く見られた。東西方向に傾いて出土したものも少なくなく、段差の補強のために縦に打ち込まれた杭と組みあわせて横架することによって、より補強の機能を強化したのと考えられる。

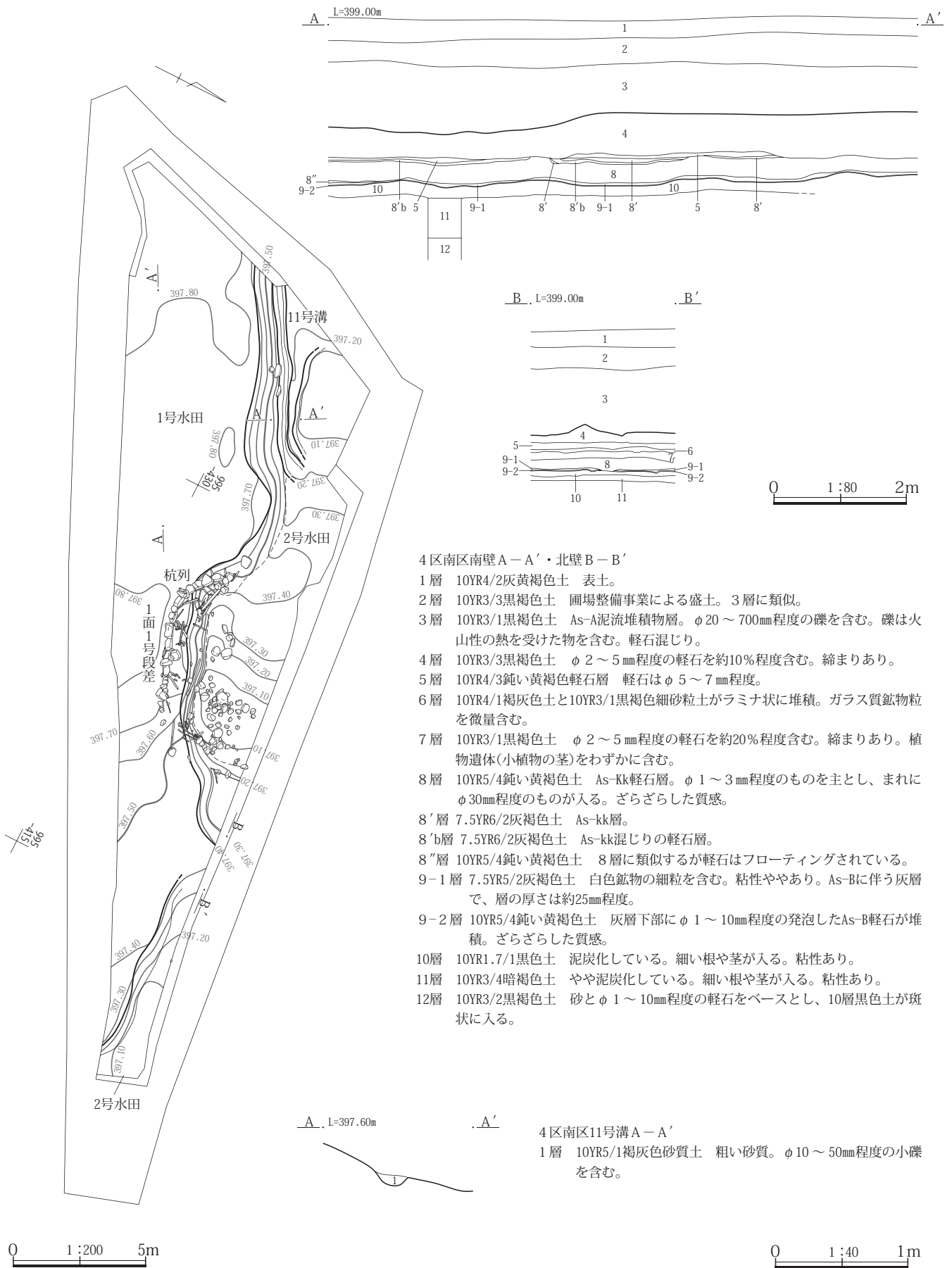
段差に打ち込まれた木杭は、とくに集中しているので、段差の全域に木杭が打ち込まれていたわけではなく、部分的な造作であった可能性も考えられる。

時期 天明3(1783)年以前で近世のものと考えられる。

2. 溝

4区南区2号水田の南西端では、段下際において、段差に沿う北東—南西方向の11号溝が検出された。

水田に伴う水路と見られるが、先述したように、東端

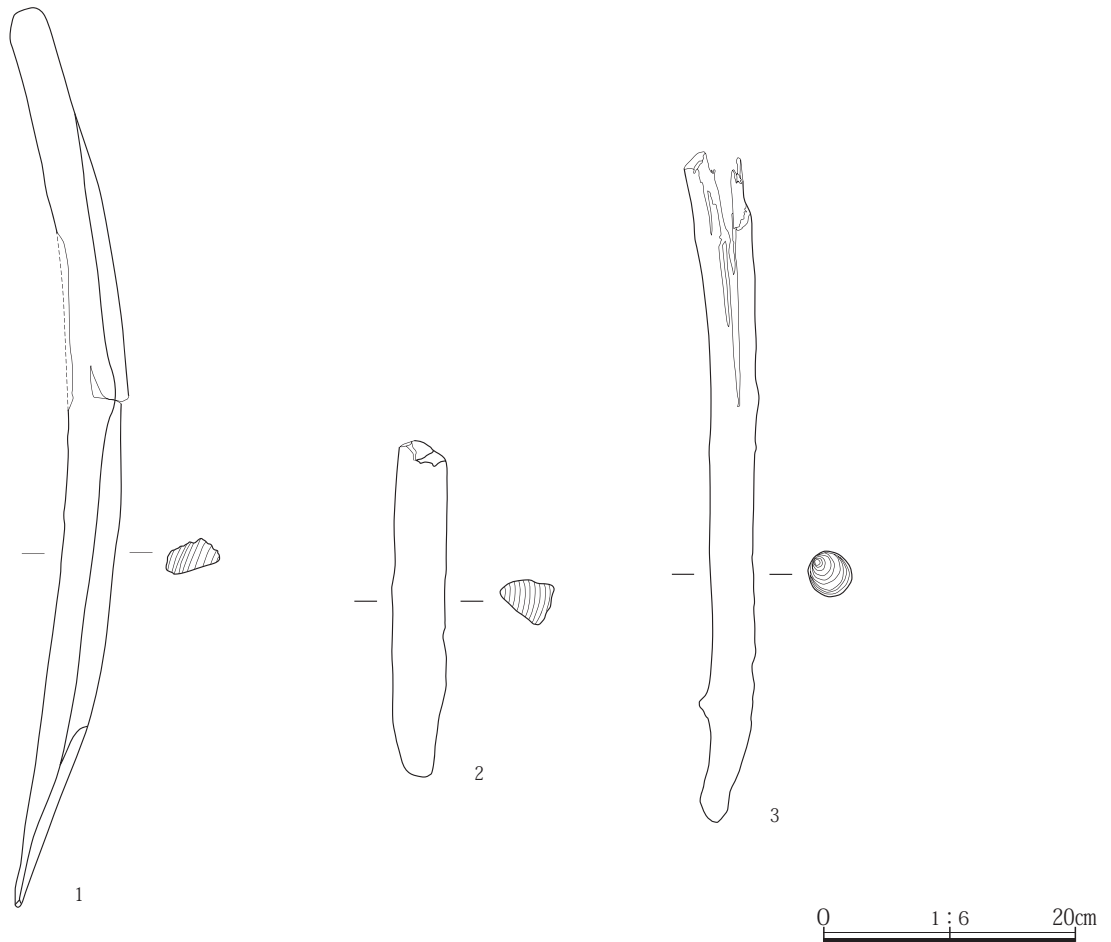


第23図 4区南区1面全体図、土層断面図、11号溝土層断面図

杭列



第24図 4区南区1面1号段差杭列平面図、杭出土状況断面図



第25図 4区南区1面1号段差杭列出土杭の例

が段から離れるように北側に大きく屈曲していくかのように見受けられるような状態で検出されているので、若干の疑問が残らないでもない。

・11号溝(第23図、PL.16)

位置 4区南区1面。X=60993～998、Y=-92431～438。

重複 なし。

主軸方位 N-62°-E。

規模 検出全長7.10m、上幅0.38～0.70m、下幅0.11～0.41m、深さ0.02～0.07m。

埋土 小礫を10～50%程度含む灰褐色砂質土。

遺物 なし。

所見 調査区西端の中央部からやや北寄りの位置から段下際に沿って北東方向に走行し、X=60997.5、Y=-92433付近から北北東方向に湾曲し、X=60998、Y=-92432付近から検出出来なくなる。

掘方は浅く、断面は扁平な逆半円形状を呈する。水流の顕著な痕跡は見出しがたいものの、北側に隣接する4区中区では、同様に、段下に東西方向の水路と考えられる溝(4区中区1号溝)が検出されているので、本溝も水田耕作に伴う水路として機能したものと考えられる。

時期 天明3(1783)年以前で近世のものと考えられる。

第2項 4区中区の遺構と遺物

4区中区は、平成25(2013)年度に調査された北区と南区とに挟まれた東西方向に長い扁平な平行四辺形状の平面形態を呈する調査区で、先述した通り、本調査区のみが平成26(2014)年度に発掘調査が実施された。

発掘調査は、実質的には平成26(2014)年10月末から同年11月中旬まで行われた。

4区北・南区と同様、1面では天明泥流によって埋没した水田が検出された。

なお、4区中区遺構外から肥前磁器陶胎染付碗体部～

底部片2点(第81図2・3)、瀬戸・美濃陶器筒形香炉底部～底部片1点(第81図4)がそれぞれ出土している。

1. 水田(第26図、PL.17～22・74)

調査区のほぼ全域において水田が検出された。

4区南区と同様、全般的には、南西側から北東側にかけて傾斜する地形であり、標高が最も高い調査区南西隅と最も低い北東隅との比高差はおよそ1m前後である。また、南側に隣接する4区南区で検出された水田面の北端部と4区中区南端部水田面との標高差は約0.25m程度である。

棚田 調査区南寄りの位置の西端から、調査区の中央やや東寄りの位置にかけて段差が検出され、南北に棚田状に水田面が造成されていた。調査区の南端付近で東西方向に検出された1号段差及び調査区の北東隅部で北西―南東方向に検出された2号段差によって、南高北低の棚田状を呈している。

全体的に、南の山側から北の吾妻川に向かって地形が低くなっている場所を水田として開発しており、概して南高北低の棚田状になっている。段差上南側の4区中区1・2号水田、段差下北側4区中区3～8号水田、それぞれのレベルはほぼ同一である。2号溝北側の4区中区9・10号水田は、南側の4区中区5・6号水田よりさらに低く造られている様子が判明した。

4区南区南側の面が棚田の最上段であり、4区南区北側と4区中区南側に位置する東西方向の段差との間が2段目の水田面、4区中区の大部分が3段目の水田面である。

水田区画 段差の上下段の水田面では、畦畔が明瞭に検出された。本遺跡の天明泥流下から検出された水田の遺構で、畦畔によって区画された1枚分の水田区画が最も明瞭に検出できた調査区である。水田区画1枚の全容が検出されたのは、調査区西寄りの位置から検出された、4区中区4号水田1区画のみに過ぎなかったが、4区中区1面の調査範囲内においては、計10区画分が検出された。

調査区西壁際から西寄り一帯、4区中区1・3・4・7・8号水田の周囲では、西南西―東北東方向と北北西―南南東方向に格子状に張り巡らされた畦畔が検出された。基本的には、東北東―西南西方向に長い隅丸長方形

状の水田区画が形成されていたものと考えられる。

一方、4区中区の西寄りの位置から東端までの範囲を大きく占めている4区中区5・6号水田の区画は調査区西寄りから検出された4区中区1・3・4・7・8号水田よりもかなり広い区画である。ごく部分的にしか検出されなかった4区中区2・9・10号水田なども、4区中区5・6号水田と同様、広い区画の水田であったことが推測出来る。水田1枚の区画は、西側から東に向かって広がっていたものと考えられる。

調査区西側のY=-92410ライン付近を境として、西側では、4区中区1・3・4・7・8号水田など、西南西―東北東方向と北北西―南南東方向の畦畔によって区画された比較的小規模な長形状の水田区画が形成されている。また東側では、4区中区2・5・6・9・10号水田など、北東―南西及び北西―南東方向の畦畔によって区画された比較的規模が大きな水田区画が形成されている。

検出された範囲内において、西寄りの部分と、それ以东とで、1枚の水田区画の広さが大きく異なっているのは、狭隘な平地を効率的に活用しながら、より多くの収穫量が見込めるよう水田面を形成したことによるものと考えられる。

畦畔 4区中区2号水田と4号水田との間、4区中区6号水田と10号水田の間では、それぞれ段上・段下両側に、段差に沿って畦畔が造られている。また、4区中区5号水田と6・9号水田の間では、2号溝の両側に畦畔が造られている。

調査範囲内においては、Y=-92400～405ライン付近を境に、西側では北北東―南南西方向と東北東―西南西方向に造られていた畦畔が、東側では北東―南西方向及び北西―南東方向に変わっていく様子が看取出来た。

畦畔の検出状況はほぼ良好で、高まりもかなり明確である。調査区の壁の土層断面の状況から見れば、各畦畔ともに黒色土の地山を削り出して形成されていることが判明する。

段差及びそれに伴う畦畔では、芯材及び補強材として木杭と自然石が部分的に使用されていたことが判明したが、他の調査区における検出事例に比べて疎らであり、木杭列がまとまって検出されるような状況ではなかった。

畦畔の芯材として、径0.3m前後の円礫や表面を焼き焦がした長さ0.8～1m前後の木杭、藁や自然木の小枝などを組み合わせて形成された部分が少なくなく、畦畔に芯材として打ち込まれた木杭は、低位側に傾いた状態で検出されたものが多く、土砂流動の様子がうかがえる。杭には長さが0.8mをこえるものもあり、割材が大半であったが、板材等を転用したものも存在する。また、2区1面で検出された木杭と同様、打ち込まれたものに限らず横架されたものも少なくない。

なお、これらの畦畔の続きの部分は、北側約5m隔てて検出された4区北区1面の水田からは全く検出されなかった。

大畦畔 水路と考えられる溝を畦畔の内側に挟んだ4～6号畦畔は、本調査区1面において検出された畦畔の中で最も規模が大きく、大畦畔と捉えられる。

中畦畔 調査区北壁寄りから検出された、北西側の東西方向の4区中区1面1号畦畔と、調査区の中央から東寄りて検出された北西－南東方向の4区中区1面9号畦畔とが中畦畔と考えられる。

小畦畔 調査区の西側から検出された北北西－南南東方向の4区中区1面2・3・7・8号畦畔が、検出された畦畔の中では最も小規模な畦畔のグループで、小畦畔と捉えられる。

水路 調査区西半部の南寄りて検出された4区中区1面1号段差の北側直下を、段差に沿って北側にやや湾曲しながら東西方向に流れる4区中区1号溝が検出された。また調査区の中央からやや東に寄った部分から東側東壁までの範囲では、4区中区1面5号畦畔に沿って、南西－北東方向で、北側調査区外でほぼ直角に屈曲して4区中区1面2号段差と6号畦畔に沿って西北西－東南東方向へと流れる4区中区2号溝が検出された。

4区中区1号溝の南北、2号溝の東西、それぞれ両側には畦畔が形成されている。

また、4区中区1号溝は、調査区のほぼ中央南壁際で検出された湧水点を含んでおり、4区中区2号溝でも、調査区中央部からやや東寄りの位置、調査区南壁付近の溝の起点において湧水点が発見されている。

これらの溝は、湧水点から段下を段差に沿って流れる、水田に伴う用水路と考えられる。なお、湧水点からの湧水は、発掘調査時にも豊富に見られた。

4区中区1・2号水田 4区中区1面では最上段となる調査区南壁際で検出された水田区画である。

4区中区1面1号段差の段上南側に位置する水田区画で、4区中区1号水田(X=61005～008、Y=-92420～427)と、2号水田(X=61006～009、Y=-92393～420)との間は、北北西－南南東方向の4区中区1面8号畦畔によって画されている。

検出範囲内では、両区画ともに、東側から西側に緩やかに傾斜しているが、両水田区画とも区画の南側大半は調査区外へと広がっているため、全容は不明である。

水田面の標高はおおむね397.00m前後、検出面積は4区中区1号水田が7.72㎡、4区中区2号水田が25.70㎡である。

4区中区3～8号水田 第2段目となる4区中区1面1号段差下から4区中区1面9号畦畔までの間の水田面で、調査区の8割近くを占める広大な段に立地している。

4区中区3号水田(X=61007～013、Y=-92426～429)は、調査区内で最も西寄りて検出された水田区画である。

北側を4区中区1面1号畦畔、東側を4区中区1面2号畦畔、南側を4区中区1面1号段差とそれに付随する4区中区1面4号畦畔によって区画されている。

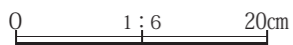
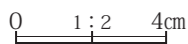
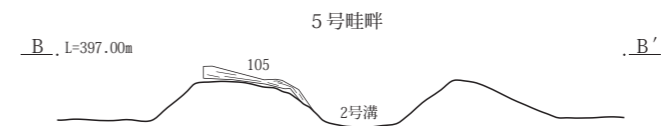
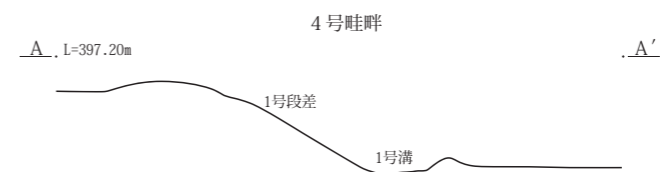
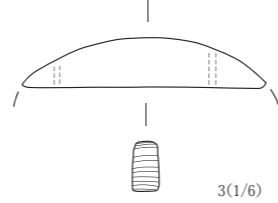
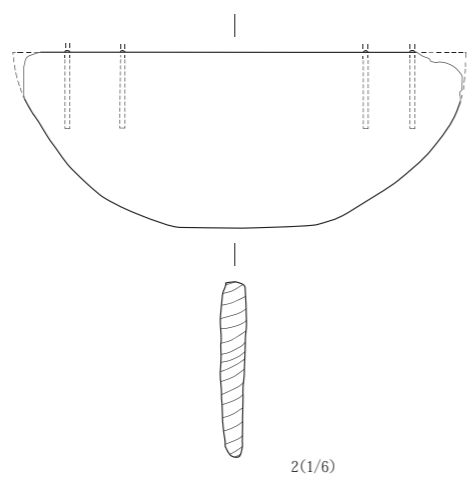
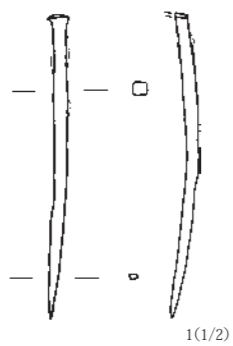
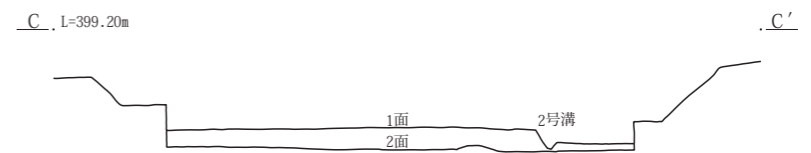
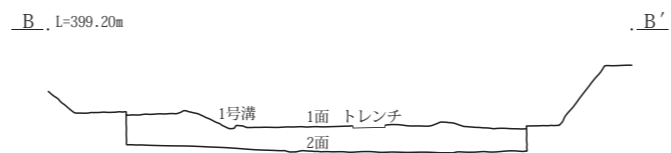
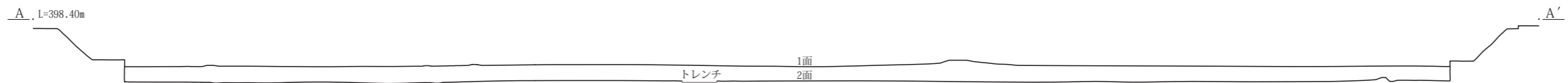
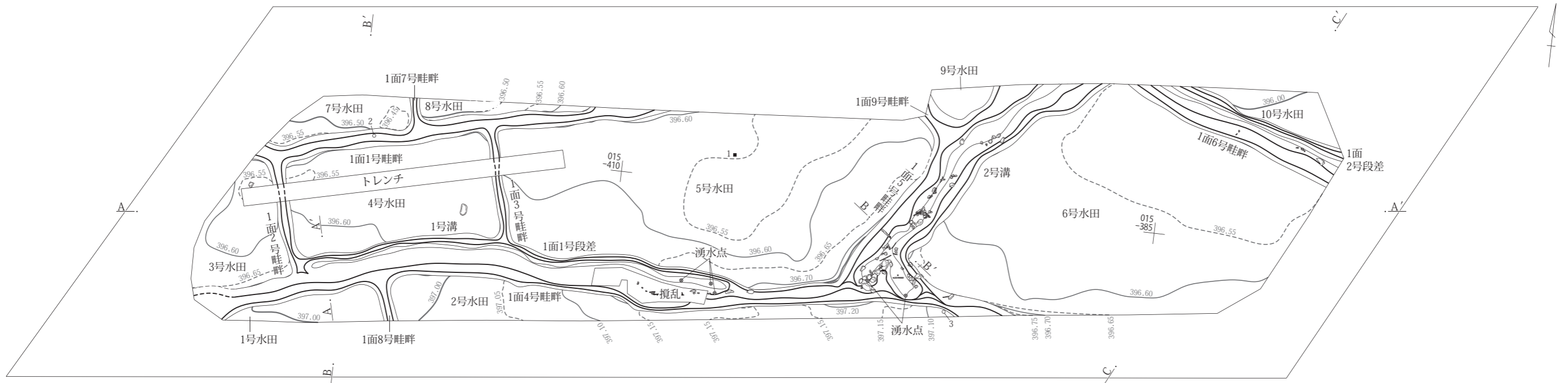
水田区画の東端部が発見されており、検出面積は18.47㎡である。

4区中区3号水田と4区中区1面2号畦畔を挟んだ東側に位置するのが4区中区4号水田(X=61008～015、Y=-92415～425)で、4区中区1面3号畦畔を挟んだ東側に位置する水田区画が4区中区1面5号水田(X=61010～018、Y=-92395～415)である。

また、4区中区5号水田と4区中区1面5号畦畔を挟んだ東側に位置する水田区画が4区中区6号水田(X=61010～021、Y=-92377～397)で、4区中区1面6号畦畔を挟んだ北側に位置する4区中区10号水田と共に、調査区東端の水田区画となっている。

これら4区中区3～6号水田は、調査区のほとんどを占めているが、標高はほぼ同じ396.5～396.6m前後であり、広範囲にわたって安定した平坦面が形成されていた様子が看取出来る。

調査区のほとんどを占めるこれら水田区画の中で、1枚の水田区画が完全に検出されたのは、調査区西寄りか



第26図 4区中区1面全体図、エレベーション図、4・5号畦畔エレベーション図、出土遺物

ら検出された4区中区4号水田のみであった。東北東—西南西方向に長い隅丸長形状を呈する区画であり、長径約9.5m、短径約4.5m程度、面積43.17㎡の規模である。

東側に隣接する4区中区5号水田は、北端が調査区外に広がっているので全容は不明ながらも、格段に面積は大きくなっており、検出面積は127.33㎡である。同様に、4区中区1面5号畦畔を挟んだ東側に位置する4区中区6号水田も、東側及び南側が調査区外に広がっているため全容は不明ながらも、検出面積は136.60㎡で、4区中区5号水田と同様、かなり広い水田区画であったことが推測出来る。

他の調査区の1面における水田区画の検出状況から見ても、1枚の水田区画が完全に検出された4区中区4号水田は、本遺跡1面から検出された水田の区画としては、決して普遍的な形状のものではない。ただ、本調査区における非常に限られた水田区画の検出状況から見て、本調査区西側から検出された4区中区1・3・7・8号水田などは、4区中区4号水田に類似した形状の水田区画であった可能性が推測出来る。

水田区画の北端のごく一部が検出されたに過ぎない4区中区1号水田と、その東側に隣接する4区中区2号水田においても、ごく限られた検出範囲ながら、西側の4区中区1号水田の検出面積が7.72㎡であるのに対して、東側の4区中区2号水田の検出面積は25.70㎡で、4区中区2号水田の方が格段に広がっている可能性が推測出来る。4区中区2・5号水田以東と以西とでは、水田区画の面積が大きく変わっていた可能性が高いものと思われる。

4区中区1面2・3・7・8号畦畔が、いずれも北北西—南南東方向で、且つ主軸方位もほぼ同一であるのに対し、同じ南北方向の畦畔ながら、4区中区5号水田と6号水田とを東西に画する4区中区1面5号畦畔は、北東—南西方向と大きく向きが異なる。この点も、4区中区2・5号水田以東と以西とで水田区画の構造が異なるためと考えられる。

これら4区中区3～5号水田の4区中区1号畦畔を挟んだ北側に、4区中区7・8号水田が位置している。西側が4区中区7号水田(X=61013～017、Y=-92420～426)で、検出面積は9.34㎡である。また、4区中区1面7号畦畔を挟んで4区中区7号水田の東側に位置

するのが4区中区8号水田(X=61016～017、Y=-92411～419)で、検出面積は4.33㎡である。両水田区画とも、北側の大部分が調査区北壁外に広がっているものと考えられ、水田区画南端部のごく一部がわずかに検出された程度である。

なお、4区中区1号畦畔の北側に位置する4区中区7・8号水田は、南側の4区中区3～5号水田から見て、1段下段に立地しているという程の明確な段差がある訳ではない。4区中区1面1号畦畔の南北両側に位置する水田区画は、基本的には同一段の水田面と考えられる。ただ、先述したように、4区中区1面1号畦畔南側の4区中区3～5号水田では、標高はおおむね396.5～396.6m前後であるのに比して、北側に位置する4区中区7・8号水田では、標高はおおむね396.45～396.50m前後と、南側に比べて約0.05～0.10m程度低くなっている様子が看取出来る。

4区中区5号水田の水田面からは鉄釘が1点出土した(第26図1)。

4区中区9号水田(X=61018～021、Y=-92392～396) 本調査区において第3段目となる水田面で、調査区北端部の中央から東寄りの位置で検出された。4区中区1面5号畦畔の北西側、9号畦畔の北東側のごくわずかの部分で、水田区画の南東隅部が辛うじて検出出来た程度である。検出面積は3.02㎡である。

検出範囲が極めて狭小であるので、あまり正確とはいえない部分もあるが、標高はおおむね396.26m強である。

4区中区10号水田(X=61020～022、Y=-92376～383) 4区中区1面2号段差と、それに伴う4区中区1面6号畦畔の北側下段に当たる水田面である。北側及び東側がそれぞれ調査区外へと広がっており、水田区画の南端部のごく一部がわずかに検出されたに過ぎない。

検出面積は7.83㎡である。

水田面の標高は、おおむね396.00m前後で、第3段目となる4区中区9号水田よりもさらに低くなっている。よって、この4区中区1面2号段差段下のこの水田面は第4段目ということになり、本調査区においては4段にわたって柵田造成されていたことが判明するのである。

(1) 4区中区1面1号段差(第26図、PL.19)

位置 4区中区1面。 調査区の南西隅から調査区の南

壁寄りの位置をわずかに蛇行しながら東西方向に検出された。X=61006～010、Y=-92391～429。

重複 4区中区1号溝、4区中区1面4号畦畔(併存)。

主軸方位 N-75°～90°-E。

規模 検出全長37.00m、幅0.50～1.80m、比高差0.38～0.50m前後。

遺物 芯材・補強材として木杭と、径0.5m以下の礫を用いているが、堅牢・強固な施工ではなく、かなり疎らな状態である。

所見 南高北低の段差で、南上段側の4区中区1・2号水田と、北下段側の4区中区3～5号水田とを南北に画する。

上下段両側には4区中区1面4号畦畔が設けられ、南下段側畦畔の内側に、段差に沿って4区中区1号溝が検出された。溝の東端からは湧水点が検出されており、水田に伴う水路と考えられる。

(2) 4区中区1面2号段差(第26図、PL.20)

位置 4区中区1面。調査区の北東隅で、北西-南東方向に検出された。X=61018～021、Y=-92376～386。

重複 4区中区2号溝、4区中区1面6号畦畔(併存)。

主軸方位 N-72°～80°-W。

規模 検出全長10.4m、幅1.24～1.76m、比高差0.43～0.47m前後。

遺物 4区中区1面2号段差と同様、芯材・補強材として木杭と礫を用いているが、堅牢・強固な施工ではなく、かなり疎らな状態である。

所見 4区中区1面1号段差と同様、南高北低。南上段側の4区中区6号水田と、北下段側の4区中区10号水田とを南北に画する。

上下段両側には4区中区1面6号畦畔が設けられ、南下段側畦畔の内側に、段差に沿って4区中区2号溝が検出された。溝の南端部からは湧水点が検出されており、水田に伴う水路と考えられる。

(3) 4区中区1面1号畦畔(第26図、PL.17・18)

位置 4区中区1面。X=61013～017、Y=-92407～427。

主軸方位 N-75°-E。

規模 検出全長18.00m、基底部幅0.50～0.90m、高さ0.02～0.18m前後。

遺物 なし。

所見 調査区の北西側に位置し、北側4区中区7・8号水田と、南側4区中区3～5号水田とを南北に画する。西南西-東北東方向の中畦畔である。

検出範囲内におけるほぼ中央の北側に、北北西-南南東方向の小畦畔である4区中区1面7号畦畔が、西端と中央から東寄りの位置にそれぞれ北北西-南南東方向の4区中区1面2・3号畦畔が取り付く。

南北両側の水田面は同一段に立地しているものと見られるが、標高は、北側の方がわずかに低くなっている。

(4) 4区中区1面2号畦畔(第26図、PL.17・18)

位置 4区中区1面。X=61008～013、Y=-92424～426。

主軸方位 N-15°-W。

規模 検出全長5.20m、基底部幅0.40～0.69m、高さ0.05～0.09m前後。

遺物 なし。

所見 調査区の西寄りで検出された。西側4区中区3号水田と、東側4区中区4号水田とを東西に画する北北西-南南東方向の小畦畔。

調査区西側から検出された北北西-南南東方向の4区中区3・7・8号畦畔と主軸方位や規模がほぼ一致する。

北端は、東北東-西南西方向の中畦畔である4区中区1面1号畦畔に、南端は東西方向の4区中区1面1号段差及びそれに取り付く大畦畔である4区中区1面4号畦畔に取り付く。

(5) 4区中区1面3号畦畔(第26図、PL.17)

位置 4区中区1面。X=61011～016、Y=-92414～416。

主軸方位 N-15°-W。

規模 検出全長5.20m、基底部幅0.50～0.69m、高さ0.05～0.09m。

遺物 なし。

所見 調査区の西寄りの位置で検出された。西側4区中区4号水田と、東側4区中区5号水田とをそれぞれ東西に画する北北西-南南東方向の畦畔。

調査区西側から検出された北北西—南南東方向の4区中区1面3・7・8号畦畔と主軸方位や規模がほぼ一致する。

4区中区1面2号畦畔と同様、北端は東北東—西南西方向の中畦畔である4区中区1面1号畦畔に、南端は東西方向の4区中区1面1号段差及びそれに取り付く大畦畔4区中区1面4号畦畔に取り付く。

(6) 4区中区1面4号畦畔(第26図、PL.17～20)

位置 4区中区1面。X=61006～010、Y=-92391～429。

主軸方位 N-75～90°-E。

規模 検出全長37.00m、基底部幅1.00～2.42m、高さ0.03～0.14m前後。

遺物 なし。

所見 調査区南端で検出された。北側4区中区3・4・5・6号水田と、南側4区中区1・2号水田とを画するほぼ東西方向の長大な畦畔。4区中区1面1号段差の上下段側、4区中区1号溝の両側に取り付く。

畦畔の芯材として円礫や、表面を焼き焦がした木杭、蓆や自然木の小枝などを組み合わせて形成された部分が少なくなく、畦畔に芯材として打ち込まれた木杭は、低位側に傾いた状態で検出されたものが多く、土砂流動の様子がうかがえる。

出土した木杭には、長さが0.80mを超えるものもあり、割材が大半であった。中には板材等を転用したものも存在している。また、2区1面から出土した木杭と同様、打ち込まれたものに限らず横架されたものも少なくない。

検出範囲内の西寄りの位置において、北側に4区中区1面2・3号畦畔、南側に4区中区1面8号畦畔、計3本の北北東—南南西方向の小畦畔が取り付く。また、東端付近の北側には、北東—南西方向の大畦畔である4区中区1面5号畦畔が取り付いている。

(7) 4区中区1面5号畦畔(第26図、PL.17・18・20・21)

位置 4区中区1面。X=61011～021、Y=-92387～399。

主軸方位 N-10～40°-E。

規模 検出全長12.50m、基底部幅2.00～2.50m、高さ0.07～0.19m前後。

遺物 段差部分と同様、芯材・補強材として木杭と礫を用いているが、決して堅牢・強固な施工ではなく、かなり疎らな状態である。

所見 調査区中央から東寄りに位置する。西側4区中区5号水田と、東側4区中区6号水田とを画する北東—南西方向の大畦畔。4区中区2号溝の東西両側に取り付く。調査区内で最大規模の畦畔である。

北寄りの位置で、西側に北西—南東方向の中畦畔である4区中区1面9号畦畔が取り付く。南端部には、東西方向の4区中区1面1号段差と、それに取り付く大畦畔である4区中区1面4号畦畔が取り付く。

(8) 4区中区1面6号畦畔(第26図、PL.20・21)

位置 4区中区1面。X=61018～021、Y=-92376～386。

主軸方位 N-72～80°-W。

規模 検出全長10.20m、基底部幅1.42～1.78m、高さ0.15～0.17m前後。

遺物 段差部分と同様、芯材・補強材として木杭と礫を用いているが、決して堅牢・強固な施工ではなく、かなり疎らな状態である。

所見 調査区北東隅部で検出された4区中区2号段差の南側上段と北側下段にそれぞれ沿って造られ、北側4区中区10号水田と、南側4区中区6号水田とを画する北西—北東方向の大畦畔。段下には4区中区2号溝が取り付く。

畦畔の芯材として円礫や、表面を焼き焦がした木杭、蓆や自然木の小枝などを組み合わせて形成されている。

出土した木杭には長さが0.80mを超えるものもある。また、割材が大半であったが、板材等を転用したものも存在する。

(9) 4区中区1面7号畦畔(第26図、PL.17)

位置 4区中区1面。X=61015～017、Y=-92419～420。

主軸方位 N-7°-W。

規模 検出全長1.00m、基底部幅0.40m、高さ0.07～0.13m前後。

遺物 なし。

所見 調査区北西側で検出された。西側4区中区7号水田と、東側4区中区8号水田とを東西に画する北北西—南南東方向の小畦畔。

調査区西側から検出された、北北西—南南東方向の4区中区1面2・3・8号畦畔と主軸方位や規模がほぼ一致する。

北端は、調査区北壁外に伸びている。南端は、東北東—西南西方向の中畦畔である4区中区1面1号畦畔に取り付く。

(10) 4区中区1面8号畦畔(第26図、PL.17)

位置 4区中区1面。X = -61006 ~ 008、Y = -92419 ~ 420。

主軸方位 N-15°-W。

規模 検出全長2.00m、基底部幅0.60m、高さ0.07 ~ 0.09m前後。

遺物 なし。

所見 調査区南西側で検出された、西側4区中区1号水田と東側4区中区2号水田とを東西に画する北北西—南南東方向の小畦畔。調査区西側から検出された北北西—南南東方向の4区中区1面2・3・7号畦畔と主軸方位や規模がほぼ一致する。

北端は東西方向の1号段差及びそれに取り付く大畦畔である4区中区1面4号畦畔に取り付く。南端は調査区南壁外に伸びている。

(11) 4区中区1面9号畦畔(第26図、PL.17)

位置 4区中区1面。X = 61018 ~ 020、Y = -92395 ~ 396。

主軸方位 N-48°-W。

規模 検出全長1.00m、基底部幅0.98 ~ 1.30m、高さ0.11 ~ 0.31m前後。

遺物 なし。

所見 調査区東寄りの北壁際から検出された、南西側4区中区5号水田と北東側4区中区9号水田とを画する北西—南東方向の中畦畔。北西端は調査区北壁外に伸びており、南東端は北東—南西方向の大畦畔である4区中区1面5号畦畔に取り付く。

時期 天明3(1783)年以前で近世のものと考えられる。

2. 溝

本調査区から検出された2条の溝は、いずれも段差下ないしは畦畔の中央部に掘り込まれた水田に伴う水路である。いずれの溝においても、湧水点が検出されており、調査時にもなお、豊富な湧水が見られた。

(1) 4区中区1号溝(第26図、PL.20)

位置 4区中区1面。X = 61007 ~ 010、Y = -92404 ~ 424。

重複 なし。

主軸方位 N-85°-W ~ N-80°-E。

規模 検出全長19.70m、上幅0.35 ~ 0.45m、下幅0.10 ~ 0.25m、深さ約0.10m前後。

埋土 不明。

遺物 なし。

所見 浅いながらもしっかりとした掘方を有し、断面は上端が大きく開いて底が広いU字形を呈する。

調査区西半の南寄りの位置の段差北側直下をやや屈曲蛇行しながらほぼ東西方向に走行する。溝の南側は段差上面、北側には畦畔に取り付く。

西端は4区中区3号水田と4区中区4号水田を東西に区画する北西—南東方向の畦畔の南側付根付近、東端はX = 61010、Y = -92404付近。

東端寄りで3か所の湧水点が検出され、水田耕作に伴う水路と考えられる。先述したようにこれらの湧水点からの湧水は発掘調査時にも豊富に見られた。

時期 天明3(1783)年以前で近世のものと考えられる。

(2) 4区中区2号溝(第26図、PL.20~22)

位置 4区中区1面。北東—南西方向X = 61010 ~ 021、Y = -92388 ~ 398。北西—南東方向X = 61017 ~ 021、Y = -92376 ~ 387。

重複 なし。

主軸方位 北東—南西方向N-33 ~ 50°-E、北西—南東方向N-73°-W。

規模 北東—南西方向：検出全長12.50m、上幅0.84 ~ 1.48m、下幅0.14 ~ 0.86m、深さ約0.27 ~ 0.30m前後。北西—南東方向：検出全長9.50m、上幅0.42 ~ 0.80m、下幅0.08 ~ 1.30m、深さ約0.30 ~ 0.50m前後。

埋土 不明。

遺物 なし。

所見 検出された範囲では、調査区の中央部から東寄りの位置に当たる西側4区中区5号水田と、東側4区中区6号水田との間の北東—南西方向の部分と、そこから屈曲して調査区の北東隅付近の北側4区中区10号水田と南側4区中区6号水田との間の北西—南東方向の部分の2か所で検出された。

2か所とも溝の東側と西側、北側と南側にそれぞれ畦畔(4区中区1面5・6号畦畔)が取り付き、両側を畦畔に挟まれた間を溝が流れている。

しっかりとした掘方を有しており、断面は調査区の中央から東寄りの位置で検出された北東—南西方向部分では口が大きく開き底面が幅広い扁平なU字形を呈し、また、調査区北東隅近くから検出された北西—南東方向部分では口が開いたやや尖鋭なU字形を呈している。

調査区の中央から東寄りの位置で検出された北東—南西方向に走行する部分の南端は段差下に取り付くが、その部分からは2か所の湧水点が発掘調査時にも豊富に見られた。

なお、本溝の北端は調査区外に出るが、北側約5m隔てて検出された4区北区1面水田からは、本溝の北側に継続する部分は全く検出されなかった。

時期 天明3(1783)年以前で近世のものと考えられる。

第3項 4区北区の遺構と遺物

4区北区は、平成26(2014)年度に調査された中区の北側に隣接する東西方向に長い扁平な平行四辺形状の平面形態を呈する調査区で、4区3か所の調査区の中では最大の面積の調査区である。

平成25(2013)年度に4区南区の調査が終了した後、3・6区などと並行して調査が行われた。実質的な調査は、平成25(2013)年11月上旬から同年11月末までの約1か月弱であった。

北・中区と同様、1面では天明泥流によって埋没した水田が検出された。

なお、遺構外から瀬戸・美濃陶器半銅甕底部片1点(第81図5)と、石臼(下)が出土している(第81図12)。

1. 水田(第27・28図、PL.23・24・75)

調査区のほぼ全面で水田が検出された。4区南・中区と同様、全般的には、南西側から北東側にかけて傾斜する地形であり、標高が最も高い調査区南西隅と、最も低い北東隅との比高差はおよそ1.65mである。また、南側に隣接する4区中区で検出された北端部の水田面と、4区北区南端部の水田面との標高差は、約0.10m前後である。

調査区の南西隅付近、調査区の南西側、調査区の中央から北寄りの位置、調査区北東隅付近の計4か所において、おおむね北西—南東方向の段差が検出された。地形に沿って、大まかには南西側から北東側に向かって次第に低くなる5段にわたる棚田状の水田面が形成されていた。

なお、出土した杭の主なものは後掲の一覧表(第4表)に示した。

4区北区1号水田(X=61023～025、Y=-92415～419) 南西隅付近でごくわずかに検出された4区北区1面1号段差の南側に位置する。本調査区1面で検出された棚田の最上段である。

標高は396.4m前後、検出面積は7.20㎡である。

4区北区2号水田(X=61023～029、Y=-92391～419) 4区北区1面1号段差と、調査区南寄りの位置を西壁から南壁中央にかけて斜めに緩やかな弧を描くように造成された4区北区1面2号段差との間に位置する。本調査区1面で検出された棚田の第2段目である。

検出された範囲は小さいが、調査範囲内では、南高低の標高396.2～396.3m前後の安定した平坦面が形成されていた。検出面積は110.93㎡である。

南東端付近の南壁際の水田面から鉄製馬銜1点が出土した(第28図3)。

4区北区3・4号水田(4区北区3号水田(X=61027～041、Y=-92382～418)、4区北区4号水田(X=61027～038、Y=-92369～388)) 4区北区1面2号段差と、調査区北西隅付近から東壁の中央からやや南寄りの位置に至る位置を斜めに東西に横断するかのよう検出された4区北区1面3号段差との間に位置する。本調査区1面で検出された棚田の第3段目である。

4区北区1面3号段差の中央からやや東寄りの位置

に、北東側から南西側に張り出すように造られた4区北区1面1号畦畔の西側の水田区画が4区北区3号水田、東側の水田区画が4区北区4号水田である。

両区画とも南高北低であるが、おおむね標高396.8m前後の平坦面が形成されている。

4区北区3号水田の検出面積は367.63㎡、4区北区4号水田の検出面積は110.77㎡である。

4区北区3号水田の中央部から東寄りの位置の水田面から肥前磁器皿口縁部片1点(第28図1)と、爛鍋1点(第28図2)が出土した。

4区北区5号水田(X=61035～047、Y=-92366～411) 4区北区1面3号段差と、調査区北東隅部でわずかに検出された北北西-南南東方向に造成された4区北区1面4号段差との間に位置する。本調査区1面で検出された柵田の第4段目である。

南高北低の地形で、標高395.05～395.20m前後の平坦面が形成されている。

本調査区最下段の第5段目の水田面は、4区北区1面4号段差と調査区北壁・東壁とのわずかな範囲しか検出することが出来なかった。最上段の水田面と最下段の水田面の比高差は約2.00m前後である。

段差はそれぞれ、他の調査区において検出されたものと同様、木杭と自然石によって補強されている。なお、各段の水田面では畦畔は明瞭には検出されなかった。また、調査区の北西寄りの位置、中央から南西寄りの位置、中央から北東寄りの位置、北壁際中央から東寄りの位置の計4か所が攪乱され水田面が破壊されていた。検出面積は119.53㎡である。

4区北区6号水田(X=61045～047、Y=-92365～367) 4区北区1面4号段差によって画された本調査区で検出された柵田の最下段、第5段目で、4区北区1面4号段差東側にわずかに検出された平坦面である。

4区北区1面4号段差と調査区東壁との間の、わずか4.90㎡しか検出することが出来なかったため、水田の状況は全く不明である。

(1) 4区北区1面1号段差(第27・29図)

位置 4区北区1面。X=61024～025、Y=-92414～417。

主軸方位 N-25°-W～N-88°-E。

規模 検出全長4.00m、幅0.40～0.50m、比高差約0.15m前後。

遺物 木杭18本。

所見 柵田最上段の4区北区1号水田と、柵田第2段目の4区北区2号水田とを南北に画する段差である。

調査区南壁寄りの位置を南壁から鉤の手状に西壁方向に向かって屈曲している。段上の標高は396.4mである。

段差の南東端が調査区南壁に取りつく部分から東に約1.5～6.5mの範囲にかけて杭列Eが検出された。杭列Eに伴う段差の遺構自体は検出することが出来ず、調査区南壁外に位置するものと推測される。杭列Eは、この段差を補強するための造作であったものと考えられる。

杭列E X=61023～024、Y=-92408～412の東西約4.6m・南北約1m程度の範囲に18本の杭が集中して出土した。

杭の大部分は、根本の部分向西に向けた状態で検出された。一部、南西に向けた状態で検出されたものもある。

かなりの数の杭が地面に突き刺さったままの状態で検出されたものの、他の調査区における段差から検出された杭列に比して横倒しに近い状態で出土したものが少なくない。地面に比して約30°以下に傾いたものが比較的多い。泥流到来時の甚だしい土圧を受け、大きく傾いたものと考えられる。

また、杭の長さは約0.6～0.7m前後のものが主である。

杭列が検出された範囲では、段差そのものは検出されていないものの、これらの杭列の出土から、南壁外側間際に近い位置に、調査区南壁に沿うように4区北区1面1号段差の東側継続部分が位置していた可能性が高い。

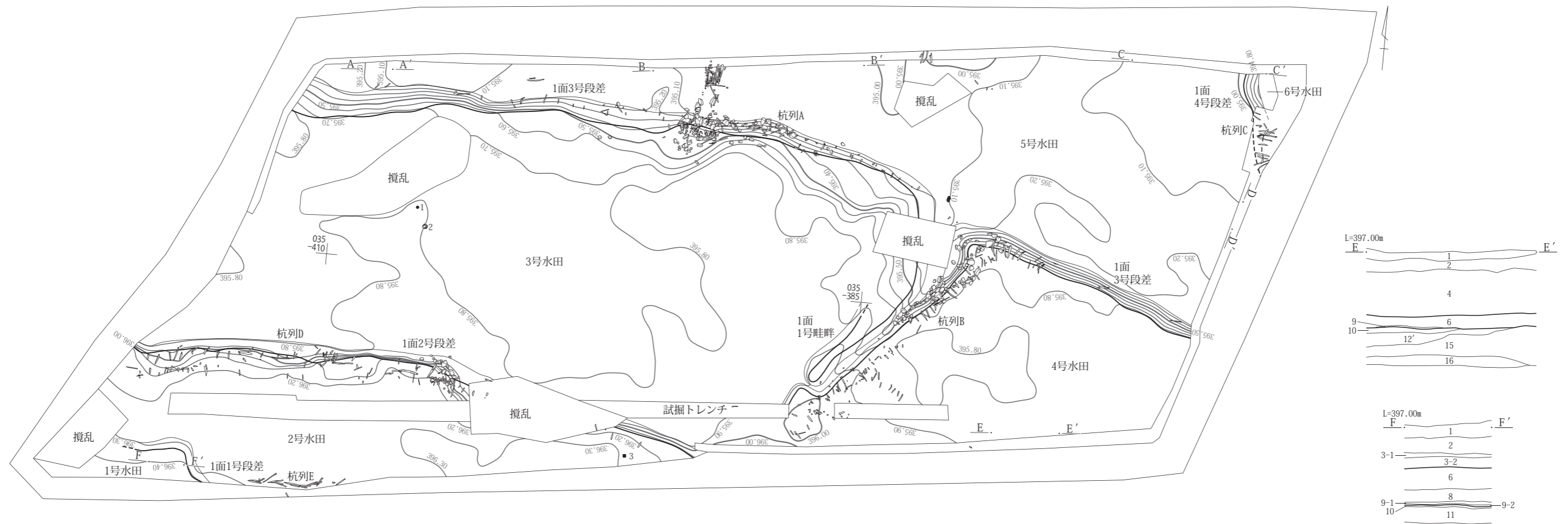
ただし、杭列が検出されたのは、段下側に当っており、本遺跡で検出された段差杭列は、おおむね上段からの土砂の流出に伴う段差面の破損を防止するために段差上側から打ち込まれたものが多いことからみれば、本例における杭列の検出状況はやや特異である。

(2) 4区北区1面2号段差(第27・30・31図)

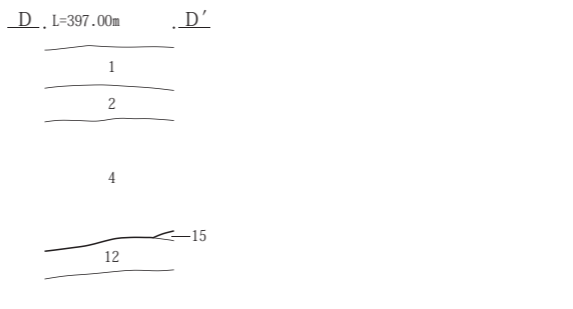
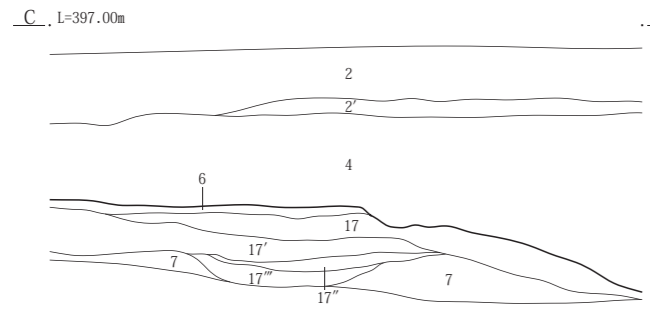
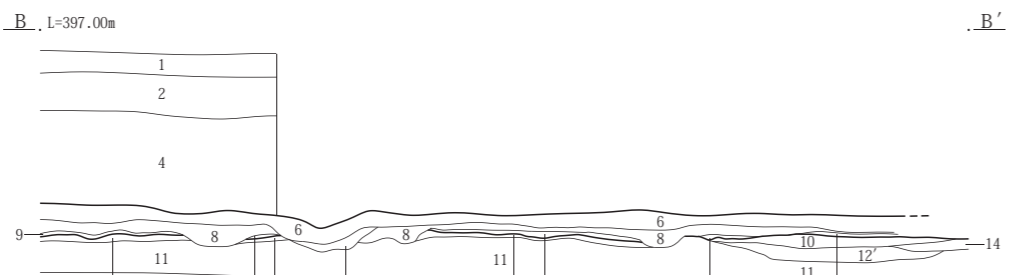
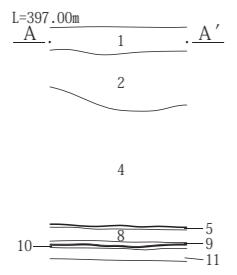
位置 4区北区1面。X=61026～030、Y=-92392～418。

主軸方位 N-79°～90°-W。

規模 検出全長27.20m、幅0.40～0.80m、比高差約0.10



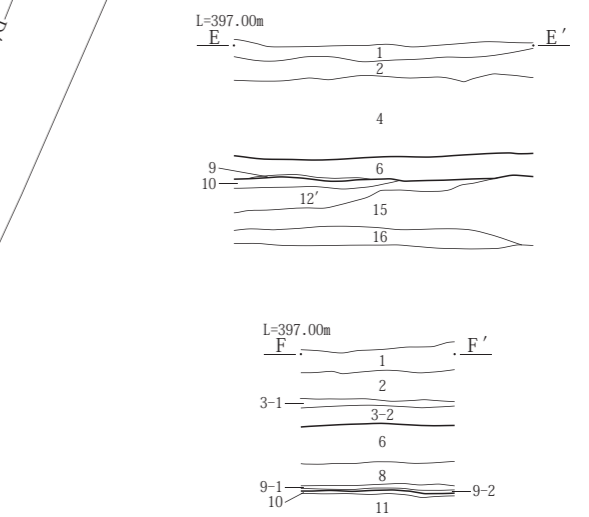
0 1:200 5m



0 1:80 2m

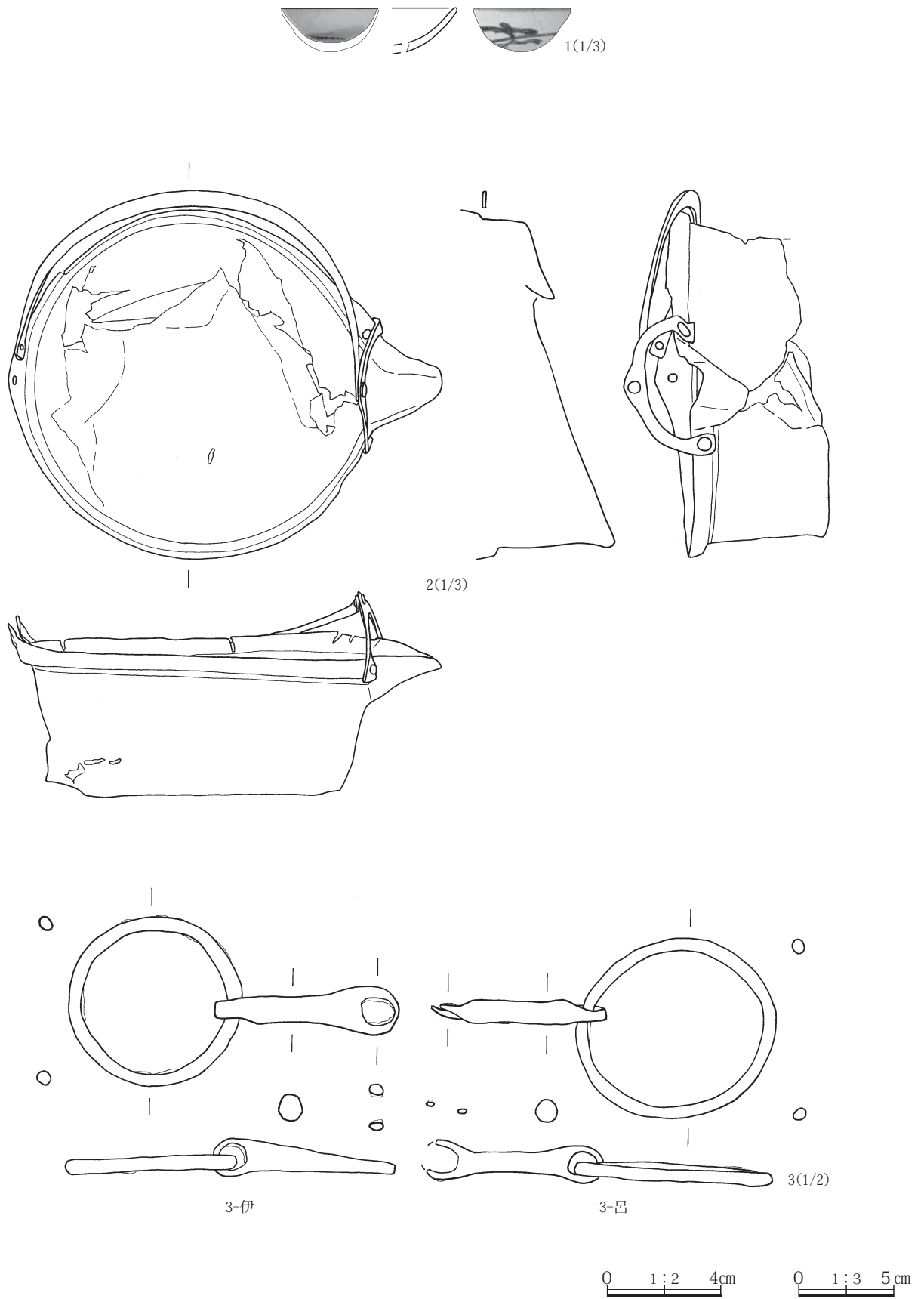
4区北区A-A'・B-B'・C-C'・D-D'・E-E'・F-F'

- 1層 10YR4/2灰黄褐色土 表土(4区基本土層1層相当)。
- 2層 10YR4/6褐色土 圃場整備に伴う敷き均し土。4層に類似するが4層上面土を移動させている。φ20～700mmの礫を含む。礫は火山性の熱を受けたものを含む。軽石混じり(4区基本土層2層相当)。
- 2'層 10YR4/3 褐色細砂粒土 φ5～20mmの白色軽石を含む。強く締まっている。
- 3-1層 10YR4/1褐灰色土 ラミナ状に堆積した砂層。さらさらしている。
- 3-2層 10YR5/1褐灰色土 ラミナ状に堆積した細砂粒土層。さらさらしている。
- 4層 10YR3/1黒褐色土 As-A泥流堆積物層。φ20～700mmの礫を含む。礫は火山性の熱を受けたものを含む。軽石混じり(4区基本土層3層相当)。
- 5層 10YR4/1褐灰色土 砂質土が強くしまっていて堆積している(4区基本土層4層相当)。
- 6層 10YR3/3黒褐色土 φ2～5mm程度の軽石を約20%程度含む。締まりあり。
- 7層 10YR3/3暗褐色土 As-Kk及びAs-Bに伴うφ2～5mmの軽石が粘性土と砂質土と混じる。水分を多く含む。
- 8層 10YR5/4鈍い黄褐色土 φ1～30mm程度の発泡したAs-Kkに伴う軽石の堆積層。ざらざらした砂質感あり。
- 9層 7.5YR5/2灰褐色土 As-Bに伴う灰層。細粒の白色鉱物を含む。粘性ややあり。灰層の厚さは約5mm。
- 9-1層 7.5YR5/2灰褐色土 As-Bに伴う灰層。層の厚さは約25mm程度。白色鉱物細粒を含む。粘性ややあり(4区基本土層6-1層相当)。



- 9-2層 10YR5/4鈍い黄褐色土 φ1～30mm程度の発泡したAs-B軽石の堆積層。ざらざらした砂質感あり(4区基本土層6-2層相当)。
- 10層 10YR1.7/1黒色土 泥炭化している。細い根や茎が入る。粘性あり(4区基本土層7層相当)。
- 11層 10YR3/4暗褐色土 やや泥炭化している。細い根や茎が入る。粘性あり(4区基本土層8層相当)。
- 12層 10YR5/6黄褐色細砂質土 φ2～5mm程度の軽石を疎らに含む。締りあり。
- 12'層 10YR5/6黄褐色砂質土 φ2～5mm程度の軽石を疎らに含む。さらさらした質感。レンズ状に堆積している。
- 13層 10YR4/1褐灰色砂質土 さらさらしている。川砂・As-Kk軽石とAs-B軽石の混じった土。
- 14層 10YR5/8黄褐色土 砂礫層。微細砂粒～φ40mm程度の円礫主体。
- 15層 10YR3/3暗褐色土 微細砂粒～φ400mm程度の円礫を含む河川堆積物。
- 16層 10YR5/1褐灰色土 ラミナ状に堆積した砂質土。さらさらとした質感で、水分を多く含む。
- 17層 10YR6/1褐灰色土 細砂粒。
- 17'層 10YR6/1褐灰色土 細砂粒土にシルト質土が斑にブロック状に入る。
- 17''層 10YR6/1褐灰色土 一定の大きさの細砂粒土であるがφ5mm程度の黄白色軽石を少量含む。軽石は指で潰れる程度の硬さ。
- 17'''層 10YR6/1褐灰色土 粗い砂質土で、部分的にシルトがラミナ状に堆積。

第27図 4区北区1面全体図、土層断面図



第28図 4区北区1面出土遺物

～0.15m前後。

遺物 木杭92本。

所見 棚田第2段目の水田面である南側の4区北区2号水田と、棚田第3段目の水田面である北側の4区北区3号水田とを南北に画する段差である。調査区西壁の南寄りの位置から調査区南壁中央にかけて、緩やかな弧状を描く。

杭列Dは、段上側と段中より検出された。段差全体に杭列が打たれていたものと考えられるが、中央から東側で約7mにわたって攪乱されているので、杭の多くは段差の西半分において検出された。段上側から段差を補強するために打ち込まれたものと考えられる。

段差の中央部、 $X=61030$ 、 $Y=-92403$ 付近において、木杭とともに自然石が集中して出土した箇所が見られた。検出状況からは、整然と積み上げられてはいないが、段差全域にわたって自然石が満遍なく出土したわけではなく、限定されている。この部分は、ちょうど、段差の屈曲部に当たっているため、段差屈曲部を補強するために、この箇所にのみ、木杭のみでなく自然石を用いた施工がなされたものと考えられる。

この部分から出土した木杭が、他の部分から出土した木杭よりも比較的長めの約0.6～1.2m程度のものが纏まっていることから、石組の造作が屈曲部分の補強のためと考えられよう。

杭列D $X=61028\sim 030$ 、 $Y=-92401\sim 418$ の東西約17m・南北約2mの範囲に92本の杭が集中して出土した。

杭の大部分は先端部を北に向けた状態で出土し、一部、北東に向けた状態で出土したのものもある。また、数は少ないが東西方向に横向き状態で出土したものもあり、段差の補強材として角材を横架したものの一部と考えられる。

木杭の出土状況は、段差に比して角度が大きなものが多く、地面に比して 30° 以下のものもみられる反面、 $50\sim 70^\circ$ 程度のものも多い。また、杭の長さも杭列Eに比べて比較的短いものが多く、中には杭列Eを構成したものと同様、約0.6～0.7m前後のものもあるが、約0.5m前後のものも多く見受けられる。

(3) 4区北区1面3号段差(第27・32～34図、PL.24・75)

位置 4区北区1面。 $X=61034\sim 042$ 、 $Y=-92369$

～412。

主軸方位 $N-65\sim 90^\circ-W$ 。

規模 検出全長41.50m、幅0.40～1.60m、比高差約0.45～0.55m前後。

遺物 木杭180本。

所見 棚田第3段目の水田面である南側の4区北区3・4号水田と、棚田第4段目の水田面である北側の4区北区5号水田とを南北に画する段差で、調査区北西隅付近から東側 $Y=-92395$ ライン付近までは東西方向に、さらに東側 $Y=-92385$ ライン付近までは西北西-東南東方向に、さらに東側の東壁 $X=61035$ ライン付近までは北西-南東方向に、調査区を斜めに東西に横断するかのよう検出された。

段差の東寄りの位置である $X=61040$ 、 $Y=-92383$ 付近から南西側に張り出す1号畦畔が取り付く。

4区北区1面3号畦畔の西側からは杭列Aが検出された。検出範囲は広いが、段差全域にわたって木杭が打ち込まれていた訳ではないようである。

木杭は段差中に打ち込まれていた様子が看取出来た。この点は、4区北区1面1号畦畔に沿った杭列Bや、本遺跡他調査区における1面水田遺構に伴う段差とはやや異なる造作である。

杭列Aの検出範囲の中央部付近、 $X=61042$ 、 $Y=-92393$ 付近を大凡の中心として、段差面に自然石を積み上げた石組状の造作が施されていた自然石・礫等と木杭とが集中して出土した箇所が検出された。4区北区1面2号段差の中央部である $X=61030$ 、 $Y=-92403$ 付近において木杭とともに自然石が集中して出土した箇所と比べると、3段にわたって石を積み上げ、よりしっかりと造作されているように見受けられるが、4区北区1面2号段差におけるような、屈曲部の補強目的とは看做し難く、造作の目的は不明である。

杭列A $X=61040\sim 045$ 、 $Y=-92382\sim 402$ の東西約20m・南北約5m前後の範囲から155本の杭が集中して出土した。

杭の大部分は、先端部を南・南西・南東側に向けた状態で検出されているが、一部、完全に横向き状態のものもある。横向きものは段差の芯材・補強材として横架されていた材と考えられる。

木杭は、大きく傾いた状態で出土したものが多い。地

面に比して約40°前後傾斜したものから直立に近いものまでであるが、傾斜度はおおむね60～80°前後である。また、杭の長さは約0.4～0.6m前後ものが多く見受けられる。

先述したように、検出範囲の中央部付近のX=61042、Y=-92393周辺を中心として、段差面に自然石を積み上げた石組状の造作が施されている箇所が検出された。木杭はこの周囲からかなりの量が纏まって出土しており、この石組部分の北側約1.5mの北壁際周辺では長さ1m前後の木杭があたかも井桁状に折り重なって纏まって出土した。出土地点において何がしかの木杭による構

造物が構築されていたという訳ではなく、段差面で組まれていた木杭が泥流の流入によって北側に移動した状態で検出されたものと考えられる。元来はどのような構造物であったのかは不明である。

この、石組状の自然石集中出土箇所から西側へ約3.5mまでの範囲を含む東西約6m・南北約4.5mの範囲に自然石と木杭が集中的に散乱しているが、他の部分では杭頭を北・北東・北西側に向けた状態で、ほぼ0.3～1m間隔で比較的小短めの木杭が点々と出土した。

段差西側部分中央部の自然石集中箇所を除けば、杭列Aから出土した木杭は、段差内からの出土が多く、木杭

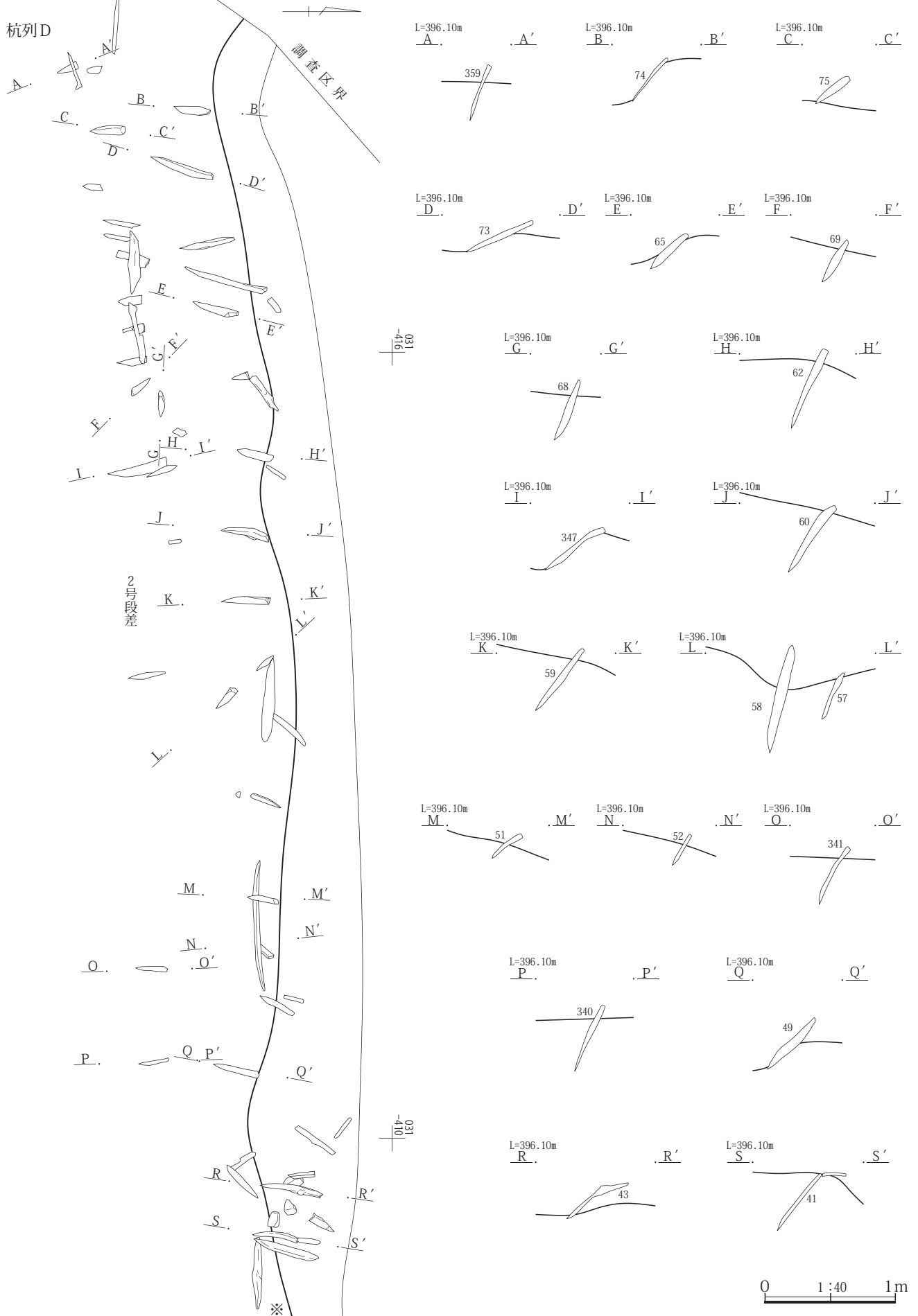
杭列E



第29図 4区北区1面1号段差杭列E平面図、杭出土状況断面図

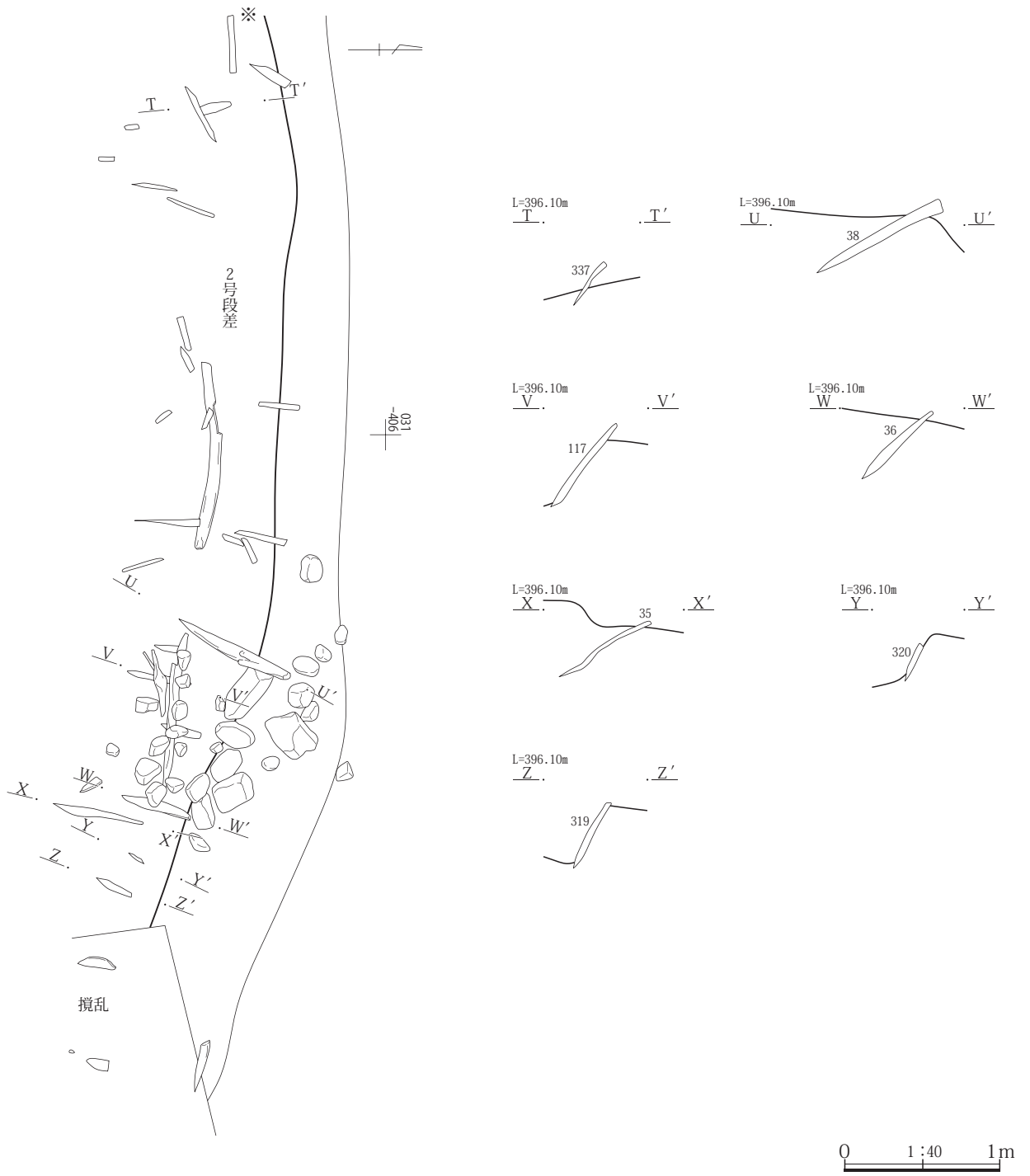
第3章 検出された遺構と遺物

杭列D

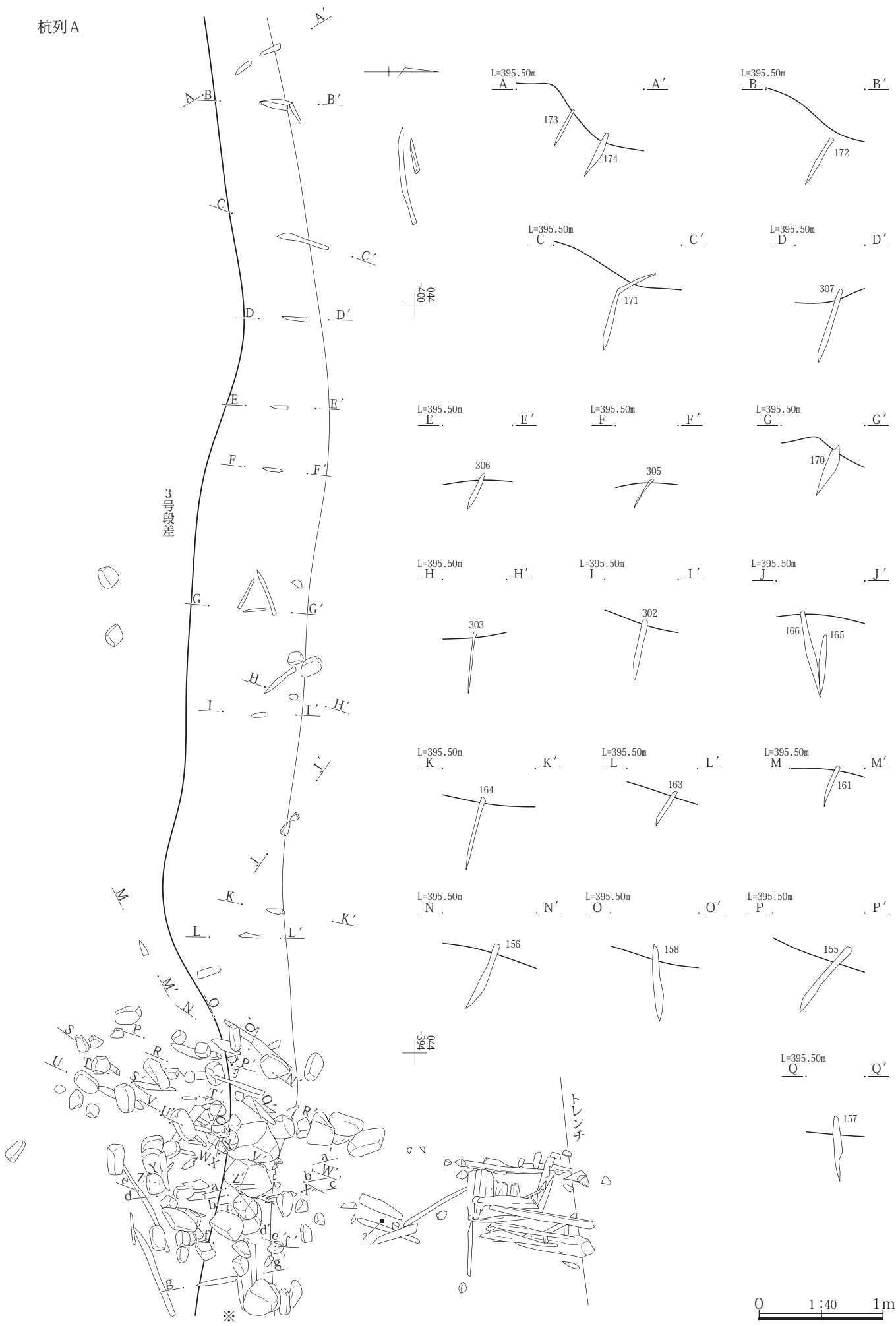


第30図 4区北区1面2号段差杭列D平面図、杭出土状況断面図(1)

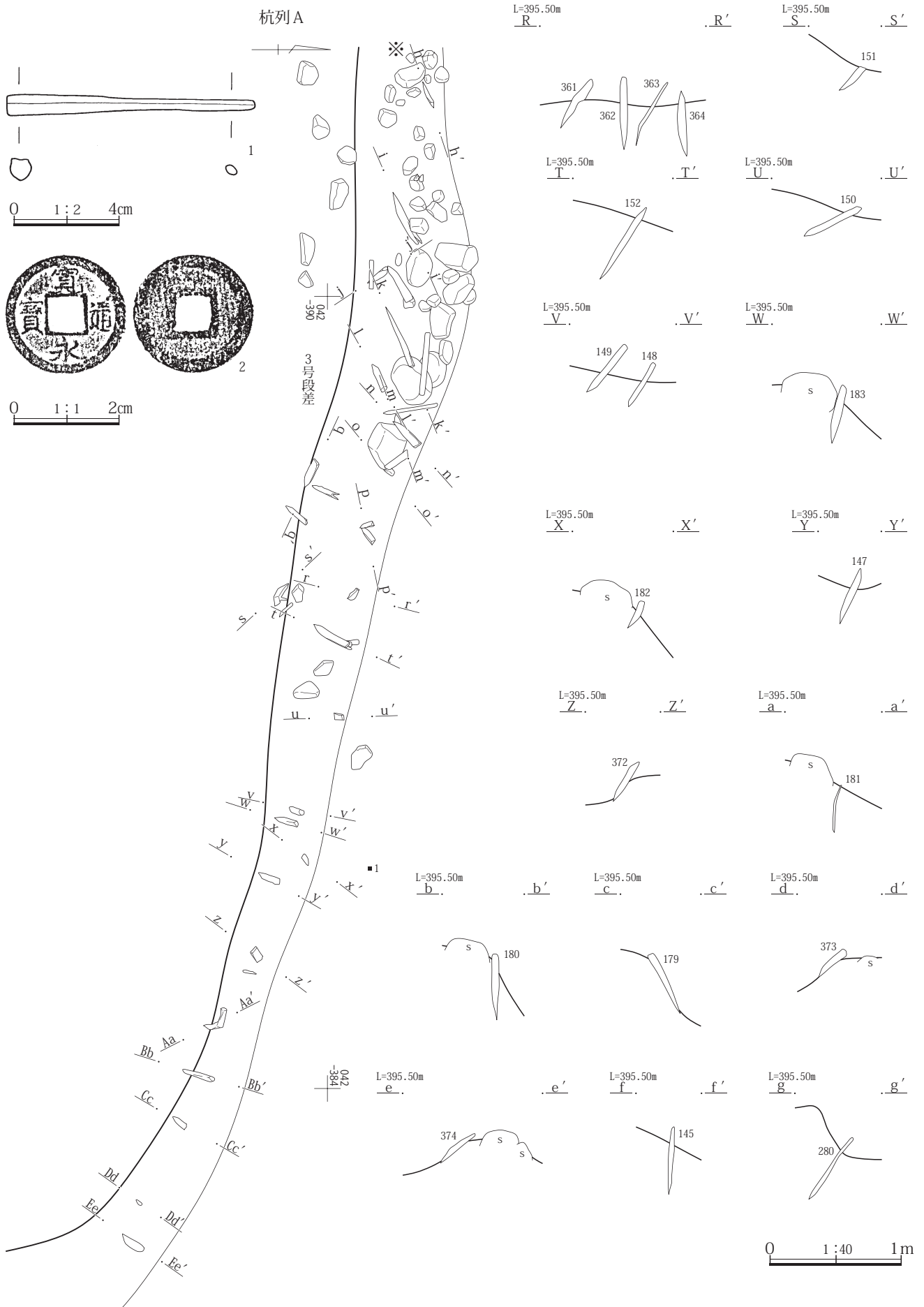
杭列D



第31図 4区北区1面2号段差杭列D平面図、杭出土状況断面図(2)

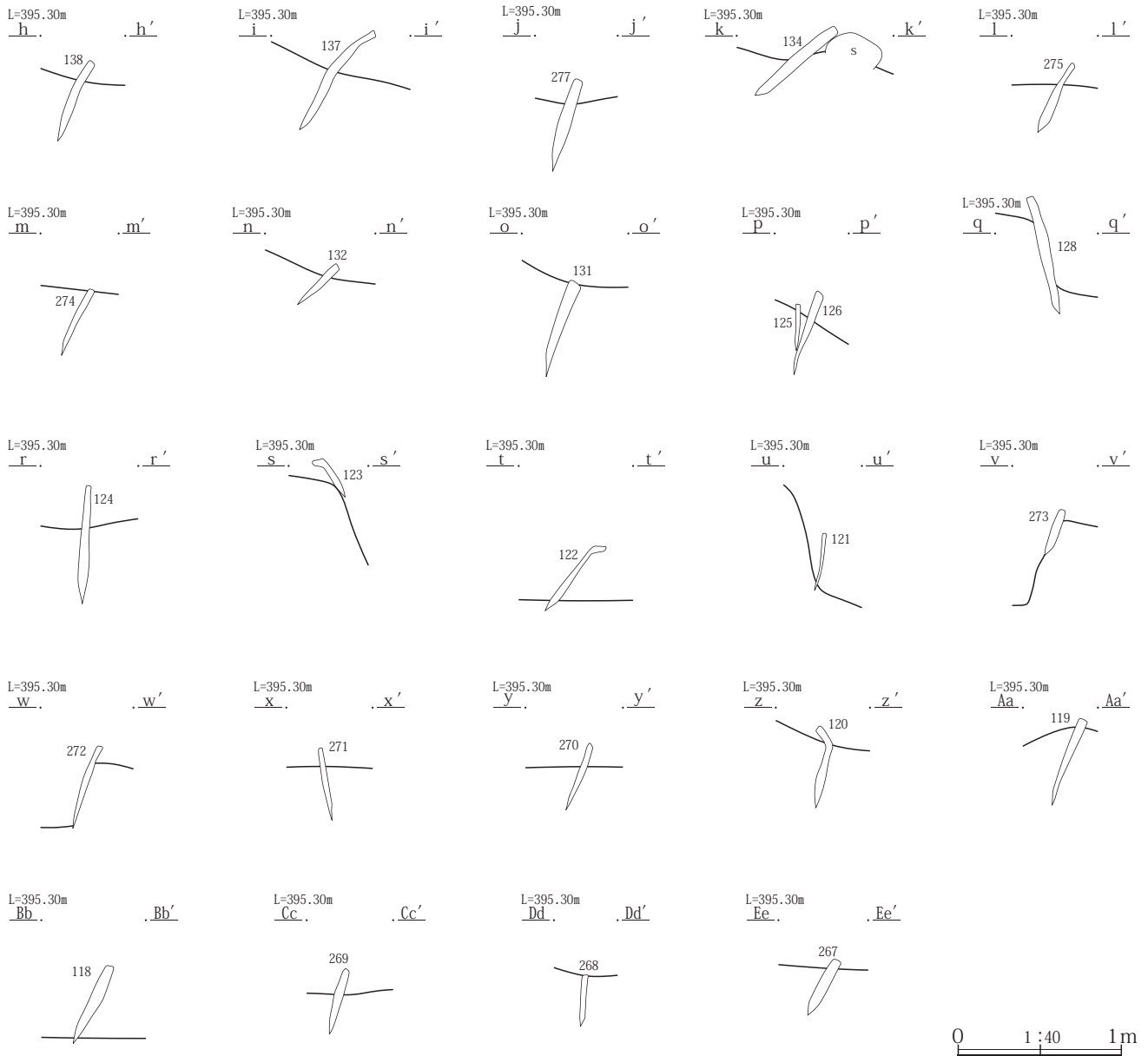


第32图 4区北区1面3号段差杭列A平面图、杭出土状况断面图(1)



第33図 4区北区1面3号段差杭列A平面図、杭出土状況断面図(2)、出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物



第34図 4区北区1面3号段差杭列A杭出土状況断面図(3)

施工方法としては、現状で見る限り本調査区で検出された杭列Cに近い。本遺跡他調査区で検出された段差に伴う杭列における木杭の出土状況の大勢とはやや異なる部分がある。

木杭列の間から金属製煙管の吸口部分1点(第33図1)、寛永通宝1点(第33図2)が出土した。

(4) 4区北区1面4号段差(第27・35図)

位置 4区北区1面。X = 61042 ~ 047、Y = -92366 ~ 367。

主軸方位 N-12°-W。

規模 検出全長4.9m、幅0.60 ~ 0.70m、比高差約0.45 ~ 0.55m前後。

遺物 木杭16本。

所見 棚田第4段目の水田面である西側の4区北区5号水田と、棚田最下段・第5段目の水田面である東側の4区北区6号水田とを東西に画する段差で、調査区北東隅において北北西-南南西方向に検出された。

段差自体も、段差によって画された水田面も、いずれも検出範囲が狭小であるため、不明な点が多い。

杭列C 調査区北東隅で検出された4区北区1面4号段差の芯材・補強材としての造作で、X = 61042 ~ 045、

Y = -92366 ~ 367の東西約1 m・南北約3 m前後の範囲に16本の杭が集中して出土した。

段差の検出範囲が極めて狭小であるため不明な点が多いが、木杭は段差内から出土している。現状で見る限り、出土状況としては本調査区で検出された杭列Aに近い状況である。

木杭の大部分は、先端部を西側に向けた状態で出土しており、北西・南西に向けた状態のものも少なくない。横向きで出土したものも3点ほどある。

木杭の多くが地面に比して約40°前後傾斜して出土している。また、杭の長さは約0.3~1 m前後であり、

長さ1 m前後のものが最も多い。

(5) 4区北区1面1号畦畔(第27・36~38図、PL.75)

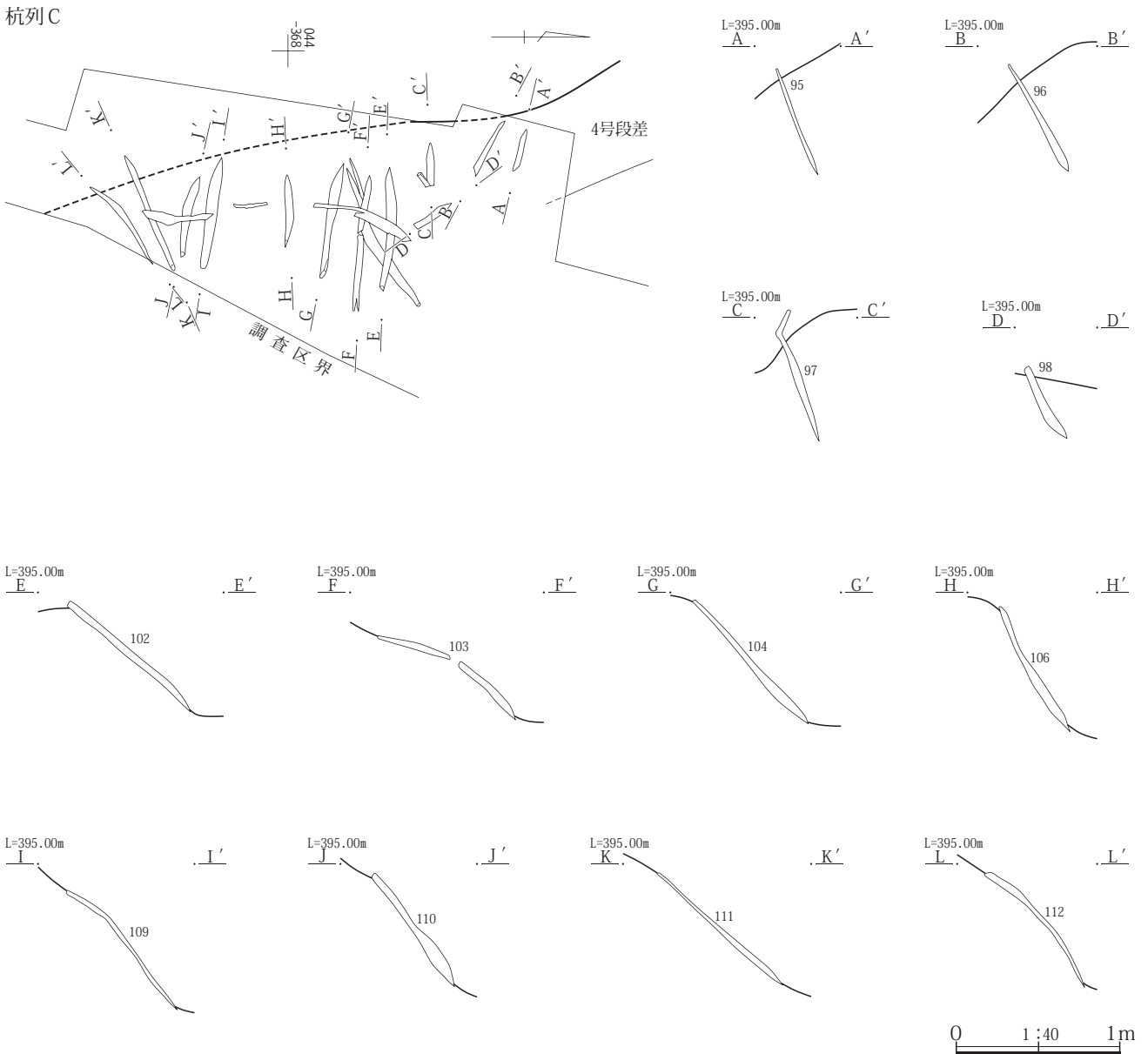
位置 4区北区1面。X = 61030 ~ 039、Y = -92380 ~ 387。

主軸方位 N-30 ~ 42° - E。

規模 検出全長10.00m、基底部幅0.90 ~ 1.10m、高さ約0.03 ~ 0.06m程度。

遺物 木杭131本。

所見 調査区の中央からやや東寄りに位置している。4



第35図 4区北区1面4号段差杭列C平面図、杭出土状況断面図

区北区1面3号段差から北東-南西方向に派生するが、畦畔の両側が検出出来たのはX=61030～034、Y=-92383～387の長さ約4mの範囲である。それ以北の、4区北区1面3号段差と接するまでの間では、畦畔の西側は検出されず、東側の段差の部分のみが検出されたに過ぎなかった。

畦畔はX=61031、Y=-92387付近で止まっており、この南側が水口に当たるものと考えられるが、南側に続く畦畔は調査範囲では検出することが出来なかった。

畦畔の東側には、4区北区1面3号段差と接する部分からあたかも谷状に畦畔に沿って南西側に掘り込まれた溝状の部分がある。調査区の中央から東寄りの位置であるX=61030～040、Y=-92380～387の範囲で、南西側に長さ約11m程度、幅0.2～1.2mである。この溝状の掘り込みの東岸がそのまま3号段差に続いている。

4区北区1面1号畦畔の東側に沿う溝状の部分の主軸方位や位置から見ると、南側に隣接する4区中区1面で検出された4区中区2号溝の北東-南西方向部分とほぼ合致しており、4区中区2号溝の北側継続部分とも考えられるが、溝状の落ち込みはX=61031、Y=-92387付近で止まっているため、検出状況から見れば溝としては継続していない。しかしながら、主軸方位と位置は合致しており、4区中区2号溝の北側継続部分との案もなお捨てきれない。

4区北区1面1号畦畔東側の溝状部分の東岸の中央部から4区北区1面3号段差にかけて、杭列BがL字状に検出された。溝状に南西側に向かって狭く一段と深く掘り込まれた箇所東壁に当たる位置から約90°屈曲して3号段差が北西から南東方向に造作された部分にかけての範囲である。

杭列B X=61028～037、Y=-92376～387の東西約12m・南北約10mの範囲から131本の杭が集中して出土した。

南西側に張り出した部分では、杭の大部分は杭頭を東・南東・北東に向けた状態で出土したが、一部、南北方向に横向きの状態で出土したものもある。

4区北区1面3号段差から南西側に張り出す部分の、「付け根」に当たるX=61036～038、Y=-92375～379の範囲からは先端部を南側に向けたものが最も多く、南西・南東側に向けた状態で出土したものも混じっている。

杭列を構成する木杭は、段上側から出土したものが比較的多く、また、4区北区1面1号畦畔の南端寄りでは、段上の東側水田面に木杭が散乱している様子が少なからず看取出来た。杭列Bを構成する木杭の多くは段上側から打ち込まれていたものと考えられる。

また、4区北区1面1号畦畔に沿った部分においても、X=61035、Y=-92381付近に自然石を積み上げて石組状の造作がなされた箇所がある。4区北区1面3号段差の西側部分において検出された杭列Aにおける石組状の造作と同様、特段、屈曲部分の補強目的の造作ではない。

杭列Bでは、杭列Aのように石組部分からの木杭の出土が特段集中するということはなく、むしろ、南西側への張り出し部の先端側から段上段側の水田面にかけて、比較的短めの杭が散乱しており、出土量が多い。

この4区北区1面1号畦畔に沿って南西側に張り出すように溝状に深く掘り込まれた部分の東壁では、この石組状の造作箇所以外でも自然石が散乱した状態で出土しており、石を積み上げて法面部分を補強した箇所が他よりも広範囲であったように見受けられる。ただし、この南西側への溝状張り出し部分の西壁段差箇所からは自然石の出土は全く見られない。

東西方向に横向きの状態で出土した、段差の補強材として角材を横架したもの一部と考えられる木杭は、他の調査区で検出された段差よりも概して少ない。

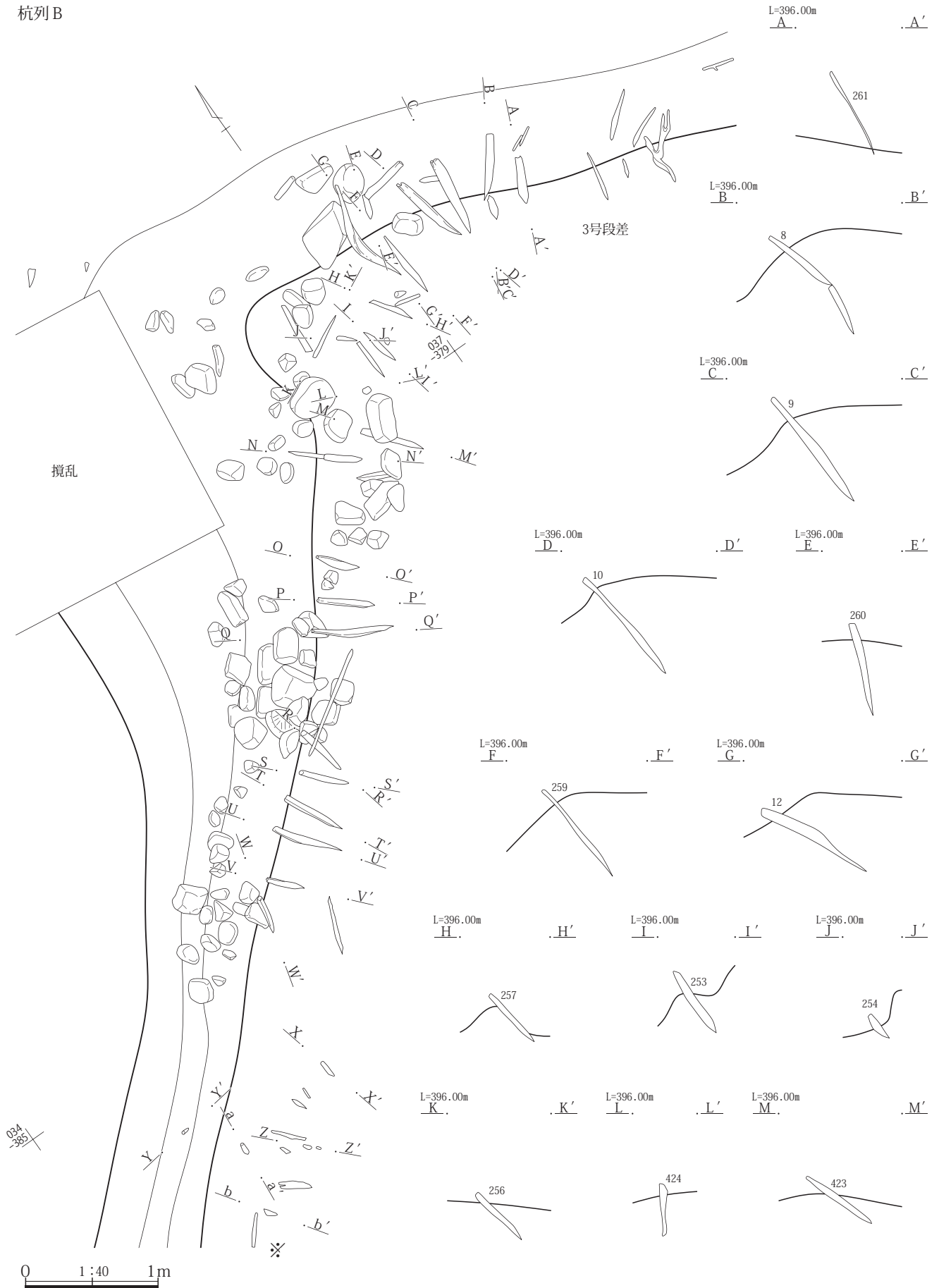
木杭の出土状況は、杭列Aと同様、傾斜度が大きなものが概して多く、地面に比して約40～80°程度傾斜した状態で出土したことが多い。中にはほぼ直立に近い状態で出土したものもある。

また、杭の長さは、杭列Aに比して約0.2～0.4m程度短いものが圧倒的に多く見受けられる。ただし、X=61035、Y=-92381付近に自然石を積み上げて石組状の造作がなされた箇所の周辺や、「張り出し」状の「付け根」に当たる部分から出土した木杭の中には長さ約0.6m前後の、比較的長めのものも多く見受けられる。

木杭列の間からは金属製の煙管の雁首部分が1点出土した(第37図1)。

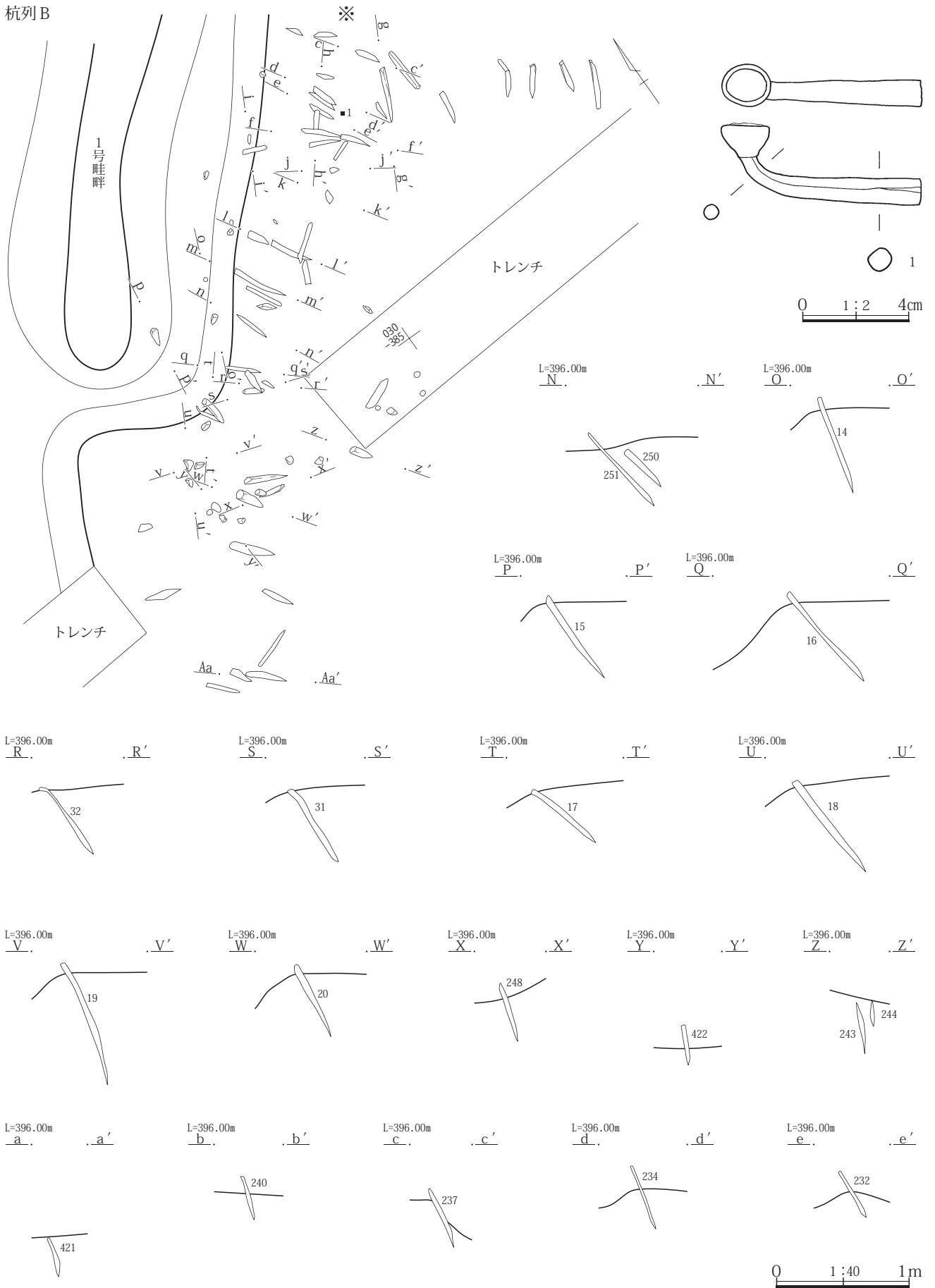
時期 天明3(1783)年以前で近世のものと考えられる。

杭列B

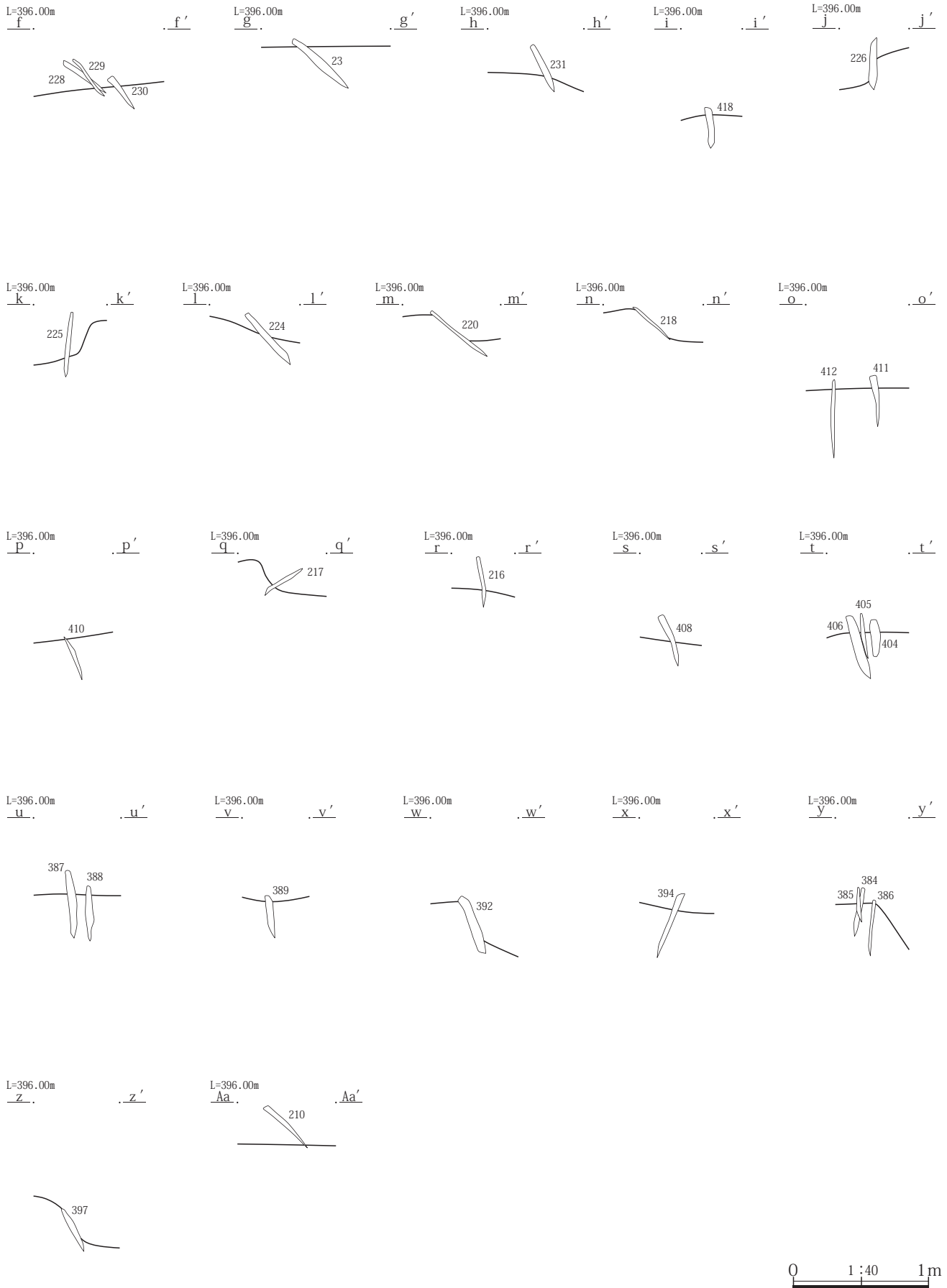


第36図 4区北区1面3号段差・1号畦畔杭列B平面図、杭出土状況断面図(1)

杭列B



第37図 4区北区1面3号段差・1号畦畔杭列B平面図、杭出土状況断面図(2)、出土遺物



第38図 4区北区1面3号段差・1号畦畔杭列B杭出土状況断面図(3)

第6節 4区2面の遺構と遺物

12世紀前半と天仁元(1108)年の浅間山噴火による火山灰で覆われた面である。4区南区と北区とが平成25(2013)年度に、中区が翌平成26(2014)年度に調査された。

4区南区では、平成25(2013)年10月末から11月上旬にかけて2面目の調査を実施し、調査区全域において水田面と、調査区の西側で4条の畦畔状の高まりが検出された。

4区北区では、4区南区2面目の調査が終了した後の11月下旬に2面目の調査が行われた。調査区の東側約2/3弱の範囲において、やや起伏を有する黒色耕作土の平坦面が検出されたが、畦畔や溝等は全く検出されず、水田の明瞭な痕跡は検出されなかった。

4区中区では、1面目の調査終了後の平成26(2014)年11月中～下旬に調査が行われ、調査区の西側と東側のごく一部において畦畔と水田面が検出された。明瞭な畦畔は1か所だけで、不明瞭な段差や溝状に土を掘り込んだ畦畔の痕跡が辛うじて検出できた程度である。

全体的に見れば、4区では、12世紀前半と天仁元(1108)年の浅間山噴火による火山灰で覆われた水田は、あまり明瞭には検出されなかった。また、2面においては段差や、段差及び畦畔における木杭による芯材・補強は検出されなかった。

第1項 4区南区の遺構と遺物

4区南区2面の調査範囲内においては、南西高北東低の地形であるが、調査範囲内からは段差は全く検出されなかった。標高が最も高い南西端側と、標高が最も低い北端の東寄りの地点との標高差は約0.4m弱であった。

1. 水田(第39図、PL.25・26)

検出された水田面には高低差が若干あり、調査区内における比高差は約0.4m弱であるが、段差等は全く検出されず、棚田状の造成の痕跡は検出されていない。

調査区西寄りの、ほぼ $Y = -92428 \sim 435$ の範囲において、計4本の畦畔状の高まりが纏まって検出された。

北北東-南南西方向の細長い畦畔状の高まりである4区南区2面1号畦畔と、北北西ないし北西側から南南東・

南東方向に向かって弧状に屈曲する不明瞭な畦畔状の高まりである4区南区2面2～4号畦畔が、南西側から北東側にかけて3本並列した状態で検出された。これら計4本の畦畔状の高まりは纏まった位置に並列しており、各々の畦畔が同時併存して畦畔として機能していたとは考え難い。ほぼ似たような位置において、何回にもわたって畦畔の造り替えがなされた結果、このような状況で検出されたとでも考える外はないが、不明な点が多い。また、畦畔相互の重複も皆無であり、新旧関係も全く明瞭にはし難い。

畦畔の検出状況はいずれも悪い。調査区の壁の土層断面の状況からは、泥炭化した黒色土の地山を削り出して形成したものと考えられる。

調査区の南西隅付近において、大小の自然石が纏まって出土した。段差面の補強に使用された石組が、西側調査区外に存在していた可能性が考えられる。

(1) 4区南区2面1号畦畔(第39図、PL.25)

位置 4区南区2面。X = 60990 ~ 997、Y = -92433 ~ 435。

主軸方位 N-10 ~ 13° - E。

規模 検出全長7.00m、基底部幅約0.50 ~ 0.70m前後、高さ約0.02 ~ 0.06m前後。

遺物 なし。

所見 本調査区で検出された4本の畦畔のうち最も西寄りの位置から検出された畦畔で、最も明瞭に検出された畦畔である。

北北東-南南西方向に一直線に伸び、南北両端とも調査区外に伸びている。

(2) 4区南区2面2号畦畔(第39図、PL.25)

位置 4区南区2面。X = 60991 ~ 994、Y = -92432 ~ 433。

主軸方位 N-10° - W。

規模 検出全長2.00m、基底部幅約0.50 ~ 1.20m前後、高さ約0.01 ~ 0.13m前後。

遺物 なし。

所見 4区南区2面1号畦畔の東側、4区南区2面3号畦畔の西側、両畦畔に挟まれた位置から検出された。

北北西-南南東方向で、北端はX = 60994.2、Y =

−92435.5付近で検出出来なくなり、南端は調査区外に伸びている。南壁際で検出された部分の幅は、急に広く膨らんだような形状になっている。

(3) 4区南区2面3号畦畔(第39図、PL.25)

位置 4区南区2面。X = 60992 ~ 995、Y = −92430 ~ 433。

主軸方位 N−38 ~ 42°−W。

規模 検出全長3.20m、基底幅約0.18 ~ 1.33m程度、高さ約0.01 ~ 0.06m前後。

遺物 なし。

所見 4区南区2面2号畦畔の東側、4区南区2面4号畦畔の西側から検出された。北西−南東方向で、南側で東寄りにわずかに屈曲している。

北端部は4区南区2面2号畦畔と同様、調査区の中央部のX = 60995.6、Y = −92433.2付近で検出出来なくなる。

南端部は調査区外に伸びている。南側では幅が大きく膨張し、南端部は、東側に大きく屈曲して4区南区2面4号畦畔に並行している。

(4) 4区南区2面4号畦畔(第39図、PL.25)

位置 4区南区2面。X = 60993 ~ 997、Y = −92429 ~ 432。

主軸方位 N−2 ~ 85°−W。

規模 検出全長5.80m、基底幅約0.40 ~ 0.72m程度、高さ約0.02 ~ 0.10m前後。

遺物 なし。

所見 4区南区2面3号畦畔の東側から検出された。南東側に向かって大きく弧を描くように検出された。

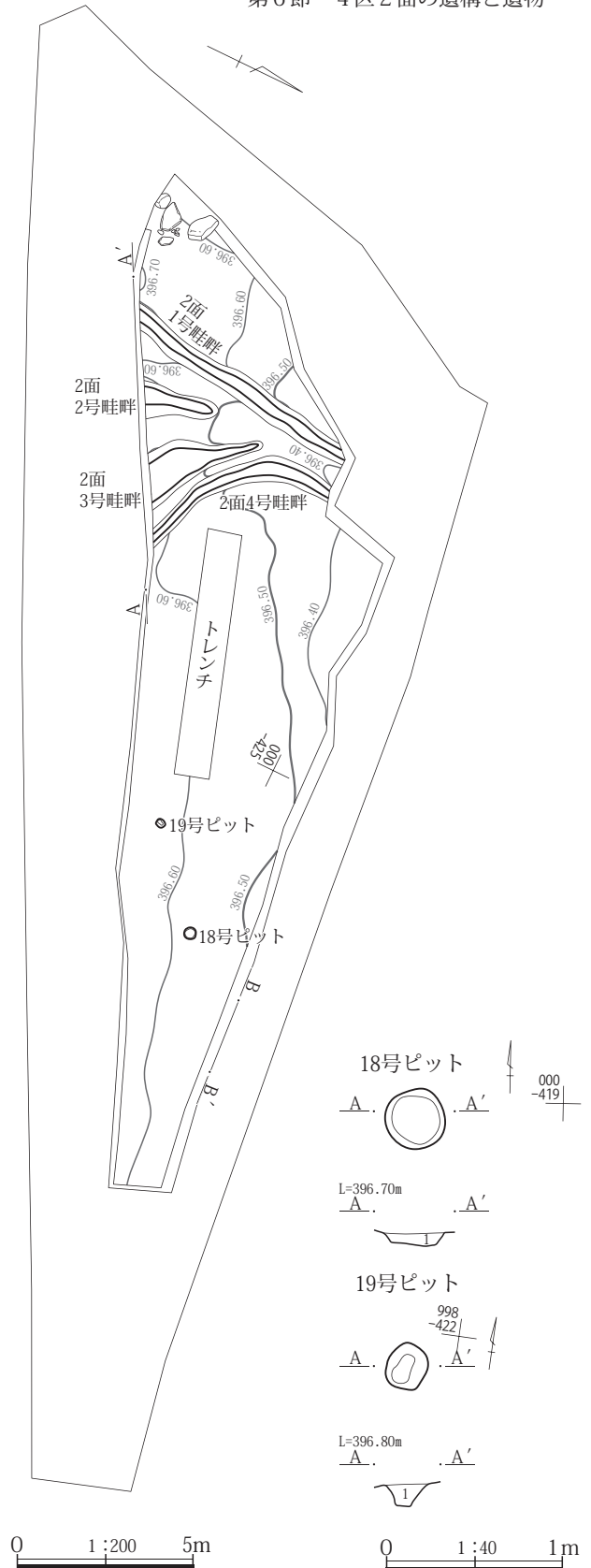
本調査区で最も東側から検出された畦畔で、南北両端は調査区外に伸びている

時期 天仁元(1108)年以前で古代のものと考えられる。

2. ピット

調査区の中央からやや南東及びやや北東寄りの位置からは、18・19号の2基のピットが検出されたが、これらのピットの用途・機能は全く不明であり、水田面との関連性も不明である。

12世紀前半に降下した浅間山火山灰As−Kk軽石を掘り



4区南区18・19号ピットA−A′

1層 10YR褐灰色シルト質土 φ 2 ~ 10mm程度のAs−kk軽石を約15%程度含む。

第39図 4区南区2面全体図、18・19号ピット平面図、土層断面図

込んだもので、浅間山火山灰As-Kk降下の12世紀前期以降近世以前の段階で形成された遺構と考えられるが、面的には確認することが出来なかった。

これらの遺構については、天仁元(1108)年降下の浅間山火山灰As-Bによって覆われた遺構確認面における調査で検出されたものであり、浅間山火山灰As-B層下から検出された遺構とともに報告する。

(1) 18号ピット(第39図、PL.26)

位置 4区南区2面。X=60999、Y=-92419。

重複 なし。

平面形状 ほぼ円形。

規模 径0.34m、深さ0.08m。

埋土 径約2～10mm程度のAs-Kk軽石を約15%程度含む褐灰色シルト質土。

遺物 なし。

所見 調査区の東寄りの中央、19号ピットの北東約2.8mに位置する。掘方は浅く、断面は扁平な逆台形状を呈する。

時期 12世紀初頭以降、天明3(1783)年以前で、古代末期～中世のものと考えられる。

(2) 19号ピット(第39図、PL.26)

位置 4区南区2面。X=60997、Y=-92422。

重複 なし。

平面形状 南北にやや長い楕円形状を呈する。

主軸方位 N-5°-E。

規模 長径0.26m、短径0.23m、深さ0.12m。

埋土 径約2～10mm程度のAs-Kk軽石を約15%程度含む褐灰色シルト質土。

遺物 なし。

所見 調査区の中央からやや東寄りの位置の南側に位置する。18号ピットの南西約2.8m。比較的しっかりとした掘方を有しており、断面は逆台形状を呈する。

時期 12世紀初頭以降、天明3(1783)年以前で、古代末期～中世のものと考えられる。

第2項 4区中区の遺構と遺物

4区中区2面でも、調査された範囲内においては南高北低の地形であるが、調査範囲内からは段差は全く検出

されなかった。標高が最も高い調査区南端中央と標高が最も低い北端の東寄りの地点との標高差は0.55mである。

なお、2面の下位からは多量の地下水の湧出があり、水田耕作土の下位には泥炭化したような植物遺体が多数含まれる土砂が堆積している。

1. 水田(第40図、PL.26～28)

検出された水田面には高低差が若干あり、調査区内では比高差は約0.55mであるが、段差等は全く検出されず、棚田状の造成の痕跡は検出出来ず、明確にし難い。

畦畔によって区画された水田面が調査区の西側で3か所(4区中区11～13号水田)、東端付近で1か所検出された(4区中区14号水田)。

調査区の大部分を占める南西端から中央部、東寄りにかけての一带では、水田耕作土が検出され、水田面とは認定できたが、段差・畦畔・溝等が全く検出出来なかったため、水田区画としては把握することが出来なかった。

畦畔は、調査区の西端付近で3本、東端付近で1本の計4本が検出され(西南側から順に4区中区2面1～4号畦畔)、水田区画4か所が検出されたが、明瞭な畦畔は調査区の東端付近から検出された4区中区14号水田の西側を画する4区中区2面4号畦畔のみであった。4区中区2面1～3号畦畔の検出状況は概して悪く、不明瞭な高低差やごく浅く溝状に掘り込まれた痕跡によってわずかに検出出来る程度であった。調査区の壁の土層断面の状況から見て、畦畔はいずれも泥炭化した黒色土の地山を削り出して形成されたと考えられる。

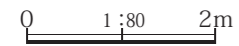
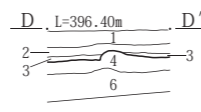
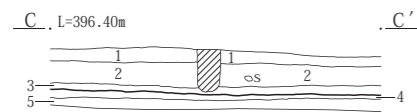
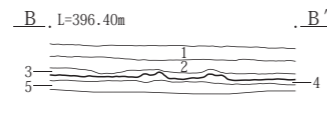
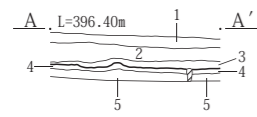
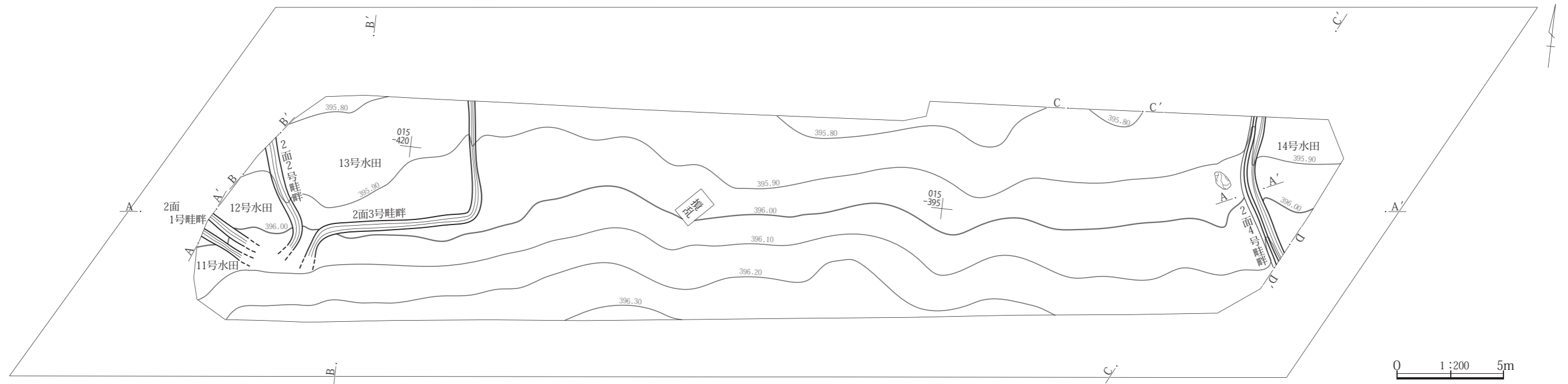
調査区の大部分では水田区画を検出し得なかったため、不明な点が少なくない。

4区中区11号水田(X=61006～009、Y=-92427～429) 調査区の南西隅部に位置する1号畦畔と調査区の南西隅との間の水田区画である。

南側及び西側は調査区外にさらに広がっているが、東側を画する畦畔が検出されていないため、不明瞭である。また、北側を画する1号畦畔も検出された東端部は不明瞭になっているので、北境も不明瞭な部分が多い。

南高北低で、傾斜度はきつくと、比高差は約0.25mである。

4区中区12号水田(X=61009～014、Y=-92425～



4区中区A-A'・B-B'・C-C'・D-D'

- 1層 10YR4/1褐色土 φ2～5mm程度の軽石を約20%程度含む。砂質味強く、締まりややあり。
- 2層 10YR5/4鈍い黄褐色土 φ1～30mm程度の発泡したAs-Kk軽石の堆積層。ざらざらした質感。
- 3層 7.5 YR5/2灰褐色土 As-Bに伴う灰層。白色鉱物細粒を含む。粘性ややあり。厚さ最大約25mm。下部に鈍い黄褐色(10YR5/4)を呈し、φ1～10mm程度の発泡した軽石の堆積層あり(φ1～3mm程度のものを主とし、まれにφ30mmのものが入る。ざらざらした砂質感あり)。
- 4層 10YR1.7/1黒色土 締まりややあり。粘性あり。細い根や茎が僅かに入る。
- 5層 10YR4/3鈍い黄褐色土 泥炭化している。植物茎や幅約20mm程度の長葉脈の葉などの植物遺体をやや多く含む。4層より締り弱く、粘性あり。
- 6層 10YR5/1褐色土 締り・粘性ともにあまりなし。一部にφ10～30mm程度の小礫を含む。



第40図 4区中区2面全体図、土層断面図、4号畦畔エレベーション図

428) 調査区西端の中央から南寄りに位置し、南側を1号畦畔、北側及び東側を2号畦畔によって画された4区中区11号水田の北側、4区中区13号水田の南西側に隣接する水田区画である。西側は調査区外に広がっており、水田区画の南東側が検出された状態であるが、南側を画する4区中区2面1号畦畔の東端部と、東側を画する4区中区2面2号畦畔の南端部が不明瞭である。検出面積は9.40㎡である。

4区中区11号水田に比して、検出範囲内における南北の高低差は小さく、0.05m前後である。

4区中区13号水田(X=61011～017、Y=-92416～426) 調査区の北西隅部に位置し、4区中区2面2・3号畦畔によって方形に区画された水田区画で、西側を画する4区中区2面2号畦畔を挟んで4区中区12号水田の東側に隣接する。

4区中区2面では、唯一、ある程度の大きさの水田区画が検出出来た事例であるが、区画の北側は調査区外に伸びているため、区画の全容を明らかにすることは出来なかった。

南辺約7.4m、東辺5m以上、西辺4m以上になる。区画内における南北の高低差は0.15m、出検面積は48.67㎡である。

区画南端部では、4区中区2面2・3号畦畔が東西両側から接近し、窄まっており、南側から配水するための水口と考えられる。水口部分は南側がわずかに撥状に広がっており、開口部の幅は約0.5～0.6m前後であった。

4区中区14号水田(X=61013～021、Y=-92376～380) 調査区の北東端で検出された4区中区2面4号畦畔と、調査区東・北端との間の水田区画である。北・東・南側はいずれも調査区外に広がっている。水田区画の西端のごく一部が検出されたに過ぎない状態である。南北高低差は0.25m、検出面積は16.47㎡である。

(1) 4区中区2面1号畦畔(第40図、PL.27)

位置 4区中区2面。X=61008～010、Y=-92427～429。

主軸方位 N-60°-W。

規模 検出全長2.50m、基底部幅約0.30～0.44m前後、高さは検出出来ず。

遺物 なし。

所見 調査区の西端の南寄りの位置に、短いながら北西-南東方向に2本の畦畔状の高まりが南西側と北東側とに並列して検出されており、南西・北東の両畦畔の高まりの間は水路であった可能性が考えられるが、畦畔の高まりの検出状況は悪く、検出範囲も狭いため、あまり明確には出来なかった。

西端は調査区西壁の外へ伸びており、東端はX=61009、Y=-92426付近で検出出来なくなる。

(2) 4区中区2面2号畦畔(第40図、PL.27)

位置 4区中区2面。X=61009～014、Y=-92424～426。

主軸方位 N-30°-W～N-32°-E。

規模 検出全長5.50m、基底部幅約0.36～0.54m程度、高さは検出出来ず。

遺物 なし。

所見 調査区西壁の中央から北寄りの位置より南東方向に伸び、南西側に屈曲して調査区南西X=61009、Y=-92465付近で検出出来なくなる。南端は4区中区2面3号畦畔の南端と共に、水田の水口を構成していたものと考えられる。西端は調査区外に伸びている。

検出状況は悪く、ごく浅く溝状に掘り込まれた畦畔の痕跡が検出出来た程度である。

(3) 4区中区2面3号畦畔(第40図、PL.27)

位置 4区中区2面。X=61009～017、Y=-92417～424。

主軸方位 N-15°-W～N-10°-79°-E。

規模 検出全長14.00m、基底部幅約0.28～0.48m前後、高さは検出出来ず。

遺物 なし。

所見 調査区北壁の中央からかなり西に寄った位置から南南東方向に伸び、X=61012、Y=-92416.7付近ではほぼ直角に屈曲して西南西方向となりX=61010.5、Y=-92423.5付近で約70°南西に屈曲し、X=61008.5、Y=-92424付近から検出出来なくなる。

4区中区2面2号畦畔と同様、検出状況は悪く、ごく浅く溝状に掘り込まれた畦畔の痕跡が検出出来た程度である。

北端は調査区北壁の外にさらに伸びており、南端は水

田の水口を構成していたものと考えられる。

(4) 4区中区2面4号畦畔(第40図、PL.27・28)

位置 4区中区2面。X=61014～020、Y=-92378～381。

主軸方位 N-5°-E～N-26°-W。

規模 検出全長7.50m、基底部幅約0.40～0.72m前後、高さ約0.02～0.09m前後。

遺物 なし。

所見 調査区の北東隅寄りの北壁から南側に、途中南東側に屈曲して調査区東壁の南寄りの位置までの間検出された。南北両端とも調査区の北壁及び東壁の外にさらに伸びている。

泥炭化した黒色土の地山を削り出して形成したのと考えられる。

畦畔基部の東隣に並行して上幅0.14～0.28m前後、深さ0.01～0.05m前後の、溝状に掘り窪められた箇所があり、水路と考えられる。畦畔の構造は、4区中区2面1号畦畔と同様である。

時期 天仁元(1108)年以前で古代のものと考えられる。

第3項 4区北区の遺構と遺物

(第41図、PL.29・30)

4区北区2面でも、調査された範囲内においては南高北低の地形であるが、調査範囲内からは段差は全く検出されなかった。標高が最も高い調査区南端中央と標高が最も低い北端の東寄りの地点との比高差は0.6mである。

調査区の東側約半分弱であるY=-92386ライン付近以東では、水田面を形成する黒色耕作土は検出されなかった。

また、調査区全域でも段差や畦畔、溝等も全く検出されなかったため、水田区画も明らかに出来なかった。

調査区内では比高差は約0.6mであるが、段差等は全く検出されず、棚田状の造成の痕跡は検出されていない。

調査区の中央からやや西寄りの位置、X=61029～043、Y=-92400～407の範囲に、調査区北壁から南西方向に伸び、途中で南東側にくの字状に屈曲する長さ約15.5m前後、幅約0.2～0.25m前後、深さ約0.09～0.13m前後の溝状の部分が検出されたが、不自然に屈曲しており、また、幅も一定ではないので、水田に伴う水路とは

全く考えにくい。また、調査区の中央、Y=-92385～403の範囲でも不整形に若干深くなっている部分が見られ、黒色耕作土こそ検出されているものの、平坦な水田面が形成されていたとは考えにくい状況である。

第7節 5区の遺構と遺物

5区は、東西方向の現道を挟んだ4区北区の北側約7～8m、南北方向の現道を挟んだ3区の東側約10m、北流する田中川を挟んだ7-1区の西側約20mに位置し、東西約48m・南北約3.5～6.5mの細長い長方形状を呈する。

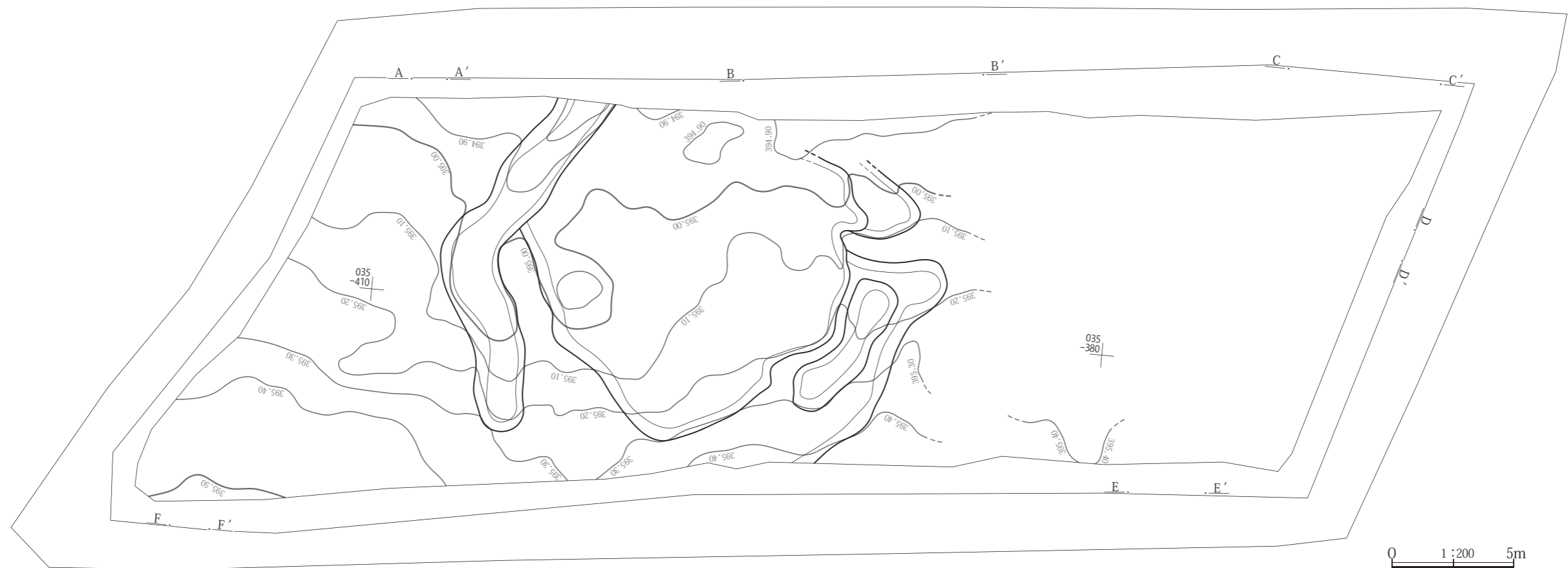
平成25(2012)年12月初旬より1面の調査が着手され、12月上旬の内に終了している。

調査範囲が狭い上に、水田耕作土と考えられる黒色粘質土が検出された範囲がさらに限られているため、正確な地形は全体的に不明であるが、調査対象範囲においては調査区の中央から南西に寄った南壁際の標高が最も高く、南東隅部が最も低くなっており、標高差は約1.5m前後と傾斜が大きい。全体的には他の調査区と同様、南西側から北東側に向かって傾斜する地形である。東側に田中川とそれが形成した小規模な谷が存在しているためである。

西側に隣接する3区と同様、天明3(1783)年の浅間山噴火に伴うAs-A泥流下において検出された1面と、12世紀前期の浅間山噴火によって降下した火山灰As-Kk及び天仁元(1108)年の浅間山噴火によって降下した火山灰As-Bによって覆われた2面の両面で水田耕作土と見られる黒色土の面が検出された。

1面では調査区の西側約半分弱の範囲において段差の補強材として打ち込まれた大量の木杭からなる杭列が検出され、少なくとも1面においては天明泥流下の水田が存在していたことは間違いのないが、段差自体はあまり明瞭ではなく、杭列の存在によって判明するような状況である。また、畦畔や水田に伴う水路等も、調査範囲内では全く検出することが出来なかった。しかしながら、他の調査区と同様、棚田状に造成されていたものと考えられる。

調査区の西半分強では、天明3(1783)年の浅間山噴火に伴うAs-A泥流下から水田耕作土の黒色土が検出され



第41图 4区北区2面全体图

た。先述したように、調査区西寄りの北壁付近から、調査区中央からやや西寄りの位置にかけて多量の木杭によって構築された杭列が検出され、それが棚田形成に伴う段差の補強材として打ち込まれていたものと考えられる状況から、近世の水田面が存在したことは明白である。

また、調査区の東半分では、ほぼ $Y = -92371$ ライン辺りを境に、東側に向けて地形が急傾斜しているため、調査の安全のために調査区の中央部分をトレンチ状に東西に細長く調査せざるを得ない状況であった。

調査範囲内において黒色土の面は全域において検出されたが、調査区東半分では、東に向かって地形が急激に下がっているにもかかわらず、棚田形成のための段差等は検出されなかった。

なお、12世紀前半と、12世紀打初頭の天仁元(1108)年の浅間山噴火による火山灰で覆われた2面は、1面の調査終了後の平成25年12月中旬に調査され、調査区の西側半分弱に当たる $Y = -92390$ ライン以西で水田耕作土と考えられる黒色の粘質土の面が検出されたが、段差や畦畔は全く検出されず、明確な水田遺構とは言い難い状況であった(第45図、PL.33)。

2面では、南西隅から北東隅に向かって緩やかに傾斜する地形で、比高差は0.3mであった。 $Y = -92390$ ライン以東の調査区の東半分強では、As-Bによって覆われた面は全く検出されなかった。

1. 1面の水田(第42図、PL.31・32)

先述した通り、調査範囲全域において天明3(1783)年の浅間山噴火によって生じた天明泥流によって覆われた水田の耕作土とみられる黒色耕作土は検出されたものの、水田が造られていたことが確実なのは、段差と、それに伴う木杭列が検出された調査区の西側半分強である $Y = -92385$ ライン以西である。

調査区西寄りの北壁際の位置である $X = 61059$ 、 $Y = -92402.5$ 付近から、調査区の中央部、 $X = 61059$ 、 $Y = -92387$ 付近にかけて、直線距離にして約15.5m程度、東西ラインに沿って緩やかに屈曲・蛇行するかのような段差が検出された。段差の東端は、確認調査時の試掘坑によって破壊されていたため、検出出来なかった。

木杭列は北壁に接する部分から約12mにわたって検出された。段差の検出範囲全域において検出された訳では

ない。

先述したように調査範囲内において畦畔等は検出されなかった。

標高は、南側段上ではおおむね394.8m前後で、東に向かって緩やかに傾斜している。 $Y = -92395 \sim 400$ 付近の南壁側が最も標高が高く、標高が最も低い北東側段下では標高394.55m前後である。比高差約0.2m前後の南西高北東低の棚田である。

なお、出土した杭の主なものは後掲の一覧表(第4表)に示した。また、遺構外から瀬戸・美濃陶器菊皿口縁部片1点(第81図6)が出土した。

・5区1面1号段差(第42・43図、PL.31・32・75)

位置 5区1面。 $X = 61058 \sim 059$ 、 $Y = -92387 \sim 402$ 。

主軸方位 $N - 55 \sim 85^\circ - W \sim N - 87^\circ - E$

規模 検出全長16.50m、幅0.20～1.30m、比高差約0.20m前後。

遺物 杭列から木杭367本が出土。

所見 水田面は地山を削り出して段差を設け、地形に応じた平坦面を造り出したものと考えられる。

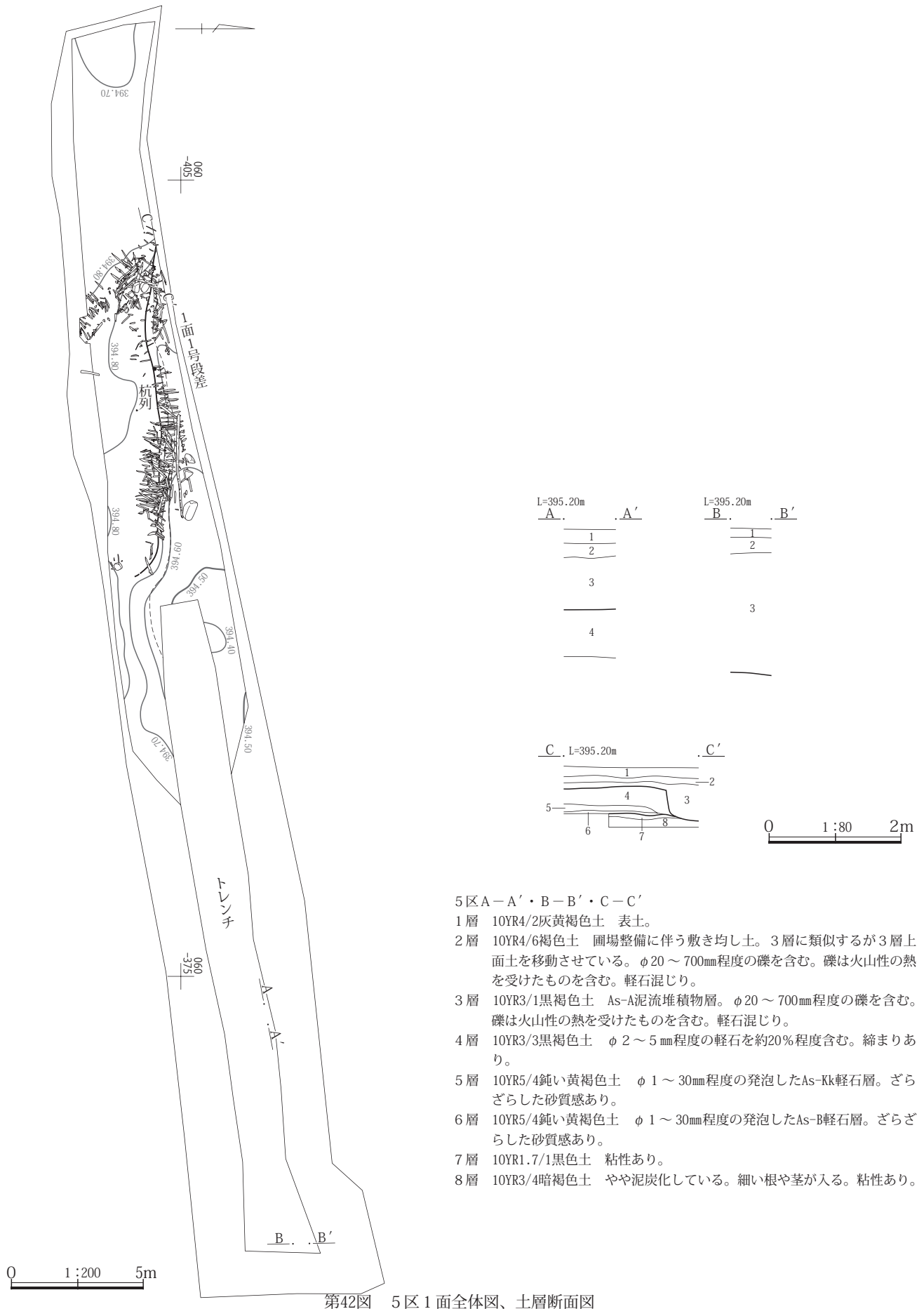
長さ約0.25～1.40m前後の先を尖らせた角材と、長さ約0.50m前後の細身で小型の角材とを、あたかも櫛状に組み合わせ、石組列と共に堰状の土留めを構成している。棚田上段から下段への土砂の流失を防ぐための堅牢な構造物と見られる。

杭列 $X = 61056 \sim 060$ 、 $Y = -92390 \sim 403$ の東西約12m・南北約3.5mの範囲に367本の杭が集中して出土した。

土留めとして打ち込まれた木杭は、突き刺さったままの状態のものから上面を覆った天明泥流層流入の際の土圧によって根元から抜けてしまっているものまでであるが、突き刺さったままの状態で検出されたものがほとんどで、さらにその大部分は、約 $30 \sim 70^\circ$ 程、北・北東・北西側に傾斜した状態で出土した。

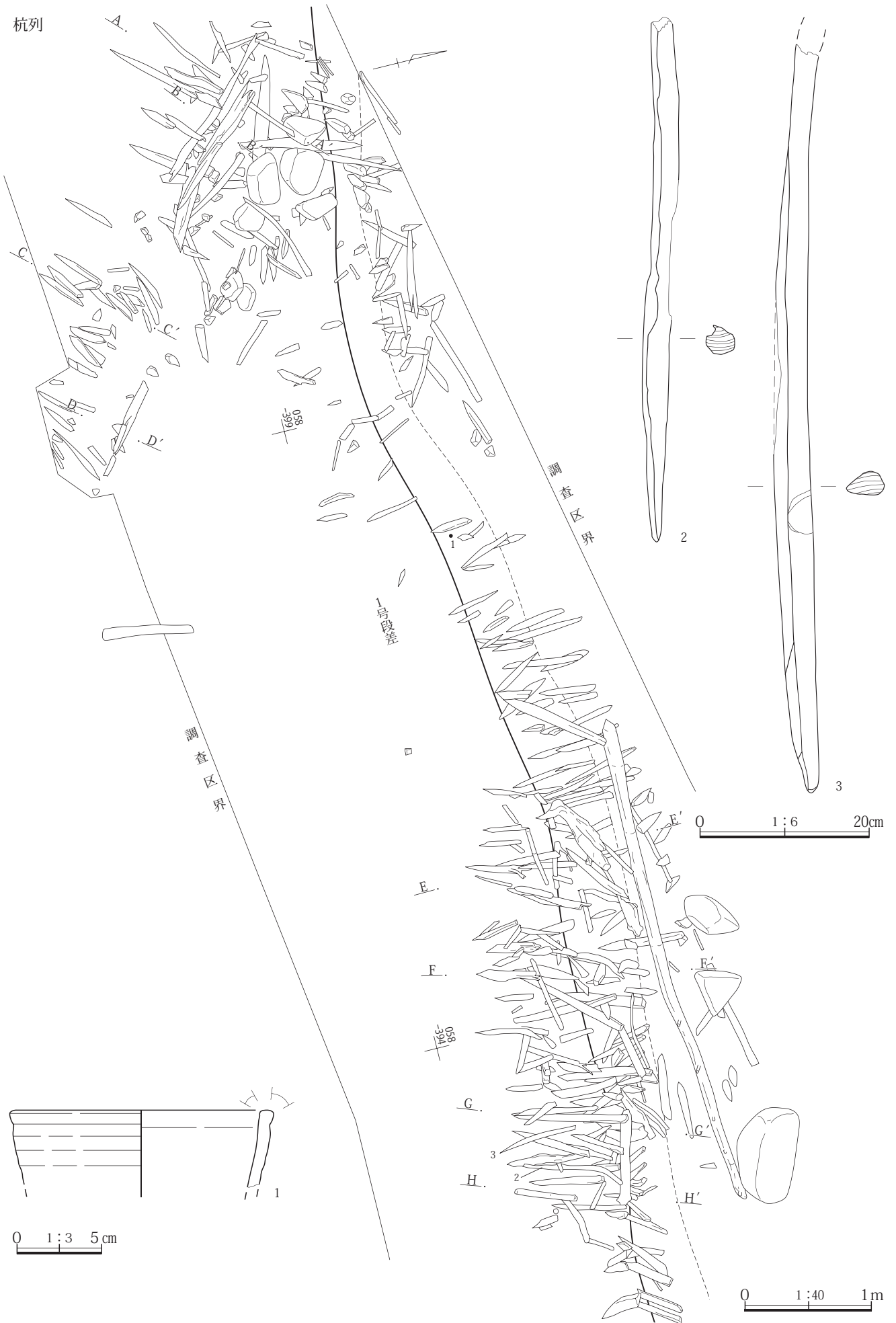
木杭はとくに $X = 61056 \sim 059$ 、 $Y = -92400 \sim 402$ の範囲と、段差西寄りの位置である $X = 61058 \sim 060$ 、 $Y = -92391 \sim 395$ の範囲に集中している。

北壁から南東側に列をなして検出された木杭列は、頭を北東側に向けたものが主であるが、北西方向に傾いて



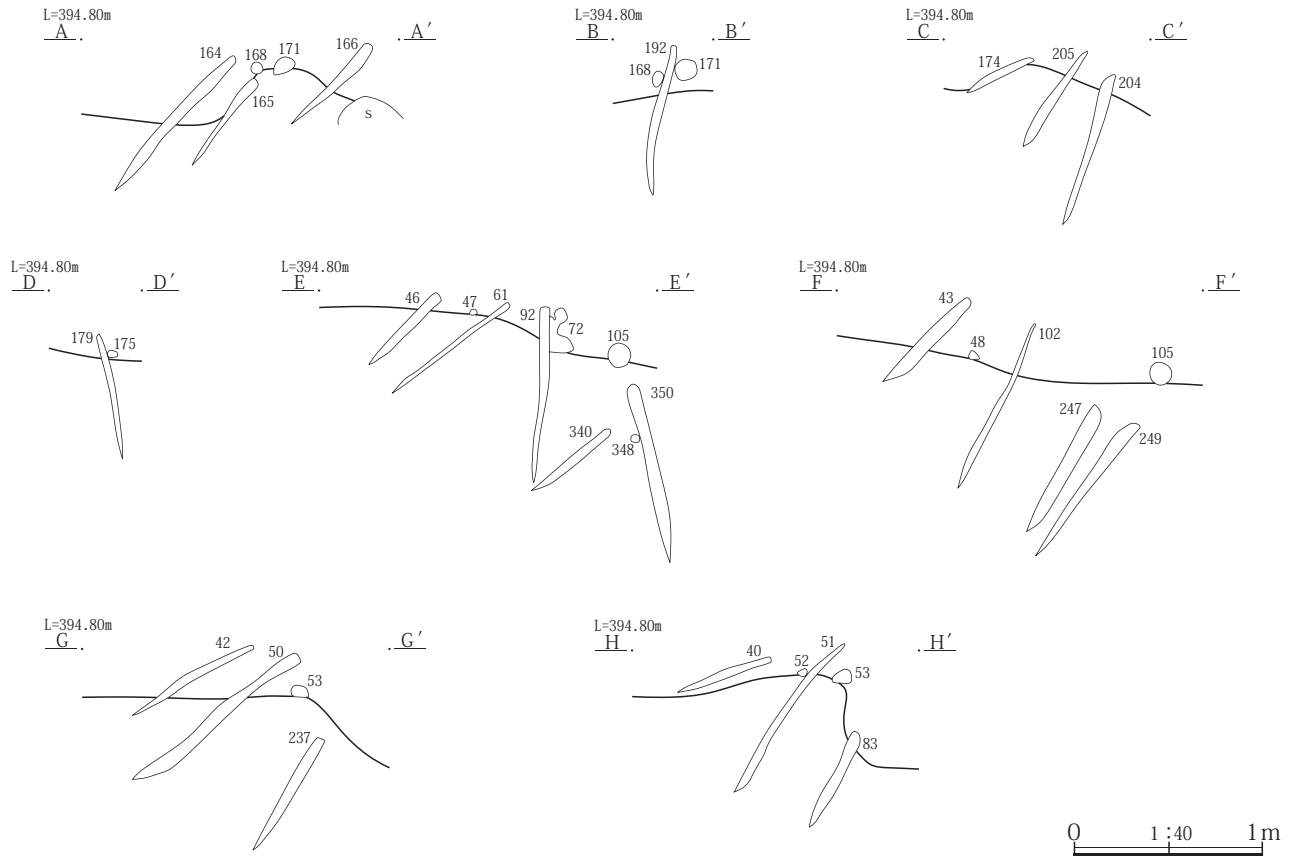
- 5区A-A'・B-B'・C-C'
- 1層 10YR4/2灰黄褐色土 表土。
 - 2層 10YR4/6褐色土 圃場整備に伴う敷き均し土。3層に類似するが3層上面土を移動させている。φ20～700mm程度の礫を含む。礫は火山性の熱を受けたものを含む。軽石混じり。
 - 3層 10YR3/1黒褐色土 As-A泥流堆積物層。φ20～700mm程度の礫を含む。礫は火山性の熱を受けたものを含む。軽石混じり。
 - 4層 10YR3/3黒褐色土 φ2～5mm程度の軽石を約20%程度含む。締まりあり。
 - 5層 10YR5/4鈍い黄褐色土 φ1～30mm程度の発泡したAs-Kk軽石層。ざらざらした砂質感あり。
 - 6層 10YR5/4鈍い黄褐色土 φ1～30mm程度の発泡したAs-B軽石層。ざらざらした砂質感あり。
 - 7層 10YR1.7/1黒色土 粘性あり。
 - 8層 10YR3/4暗褐色土 やや泥炭化している。細い根や茎が入る。粘性あり。

杭列



第43図 5区1面1号段差杭列平面図、出土遺物、出土杭の例

第3章 検出された遺構と遺物



第44図 5区1面1号段差杭列杭出土状況断面図

出土したものもあり、段差の補強のために縦に打ち込まれた杭と、横架したものを組みあわせることによって、補強機能をより増強したと考えられる。

一方、段差に平行して打ち込まれた木杭は、北～北東方向に傾いた状態で出土したものが多く、段差の西側では比較的短めの、長さ約0.5m以下の杭が多く、横架されていたとみられる東西方向に向いて出土した杭も少なくない。

段差の東側では、長さ1mないしそれ以上に長い杭が多く出土し、横架されたとみられる木杭の出土は若干少なくなる。

なお、段差東側部分では長さ約2mにも達する長大な角材が、東西方向に据えられた状態で出土しており、杭列を横向きに固定するための材と見られる。

段差にこれほど密に、大量に木杭が打ち込まれた例はなく、傾斜角度が大きくなる北側の棚田面の維持のための造作と考えられる。

なお、杭列北寄りの位置から瀬戸・美濃陶器片口鉢か大型香炉口縁部片1点が出土している(第43図1)。

時期 天明3(1783)年以前で近世のものと考えられる。

第8節 6区1面の遺構と遺物

6区は、北流する田中川を挟んで4区北区の約15m東側に、また、東西方向の小規模な生活道路を挟んで7区の約7～10m南側に、さらに、南北方向の一般県道郷原停車場線を挟んで8区の約25～30m西側に位置する調査区である。東西方向に長い、やや扁平な不整形の南東端部が南側に大きく三角形状に張り出したような形状を呈している。

調査区南東端の、三角形状に大きく張り出した部分は、上信自動車道と一般県道郷原停車場線との交差部分である。また、調査区北東隅部は、調査区北側に隣接する東西方向の現道と、調査区東側に隣接する南北方向の一般県道郷原停車場線との交差部分に当たっている。

平成25(2012)年11月上旬より表土掘削を開始し、11月末に1面の調査を終えている。

全体的に、南東から北西方向にかけて緩やかに傾斜している。北流する田中川の東岸に位置するため、西側が

低い地形となっている。

隣接する4区北区、7-1区、8-1区等と同様、天明3(1783)年の浅間山噴火に伴うAs-A泥流下において検出された1面と、12世紀前期の浅間山噴火によって降下した火山灰As-Kk及び天仁元(1108)年の浅間山噴火によって降下した火山灰As-Bによって覆われた2面の両面が調査され、1面では棚田状に形成された水田面とそれに伴う畦畔や段差等が検出された。

調査区の全域が、棚田状に造成されていた様子が看取出来た。

なお、遺構外から磁器碗底部片が1点出土している(第81図7)。

1. 水田(第46図、PL.33～36・75)

調査区の全域において天明3(1783)年の浅間山噴火によって生じた天明泥流によって覆われた水田が検出された。検出されたのは段差4か所、畦畔2か所、杭列2か所である。

先述した通り、南東側から北西側に向かって緩やかに傾斜する地形で、比高差は0.85mと比較的大きい。

段差が4か所で検出され、検出された水田面は5段である。他の調査区に比して比高差が大きいため、幾段にもわたって棚田が形成されたものと考えられる。

畦畔は、調査区南側中央部からやや東に寄った位置で、北西-南東方向のかなり大規模な6区1面2号畦畔と、調査区の東側を南北に分断する東西方向の6区1面3号段差の北側段下側に沿って6区1面1号畦畔が検出された。

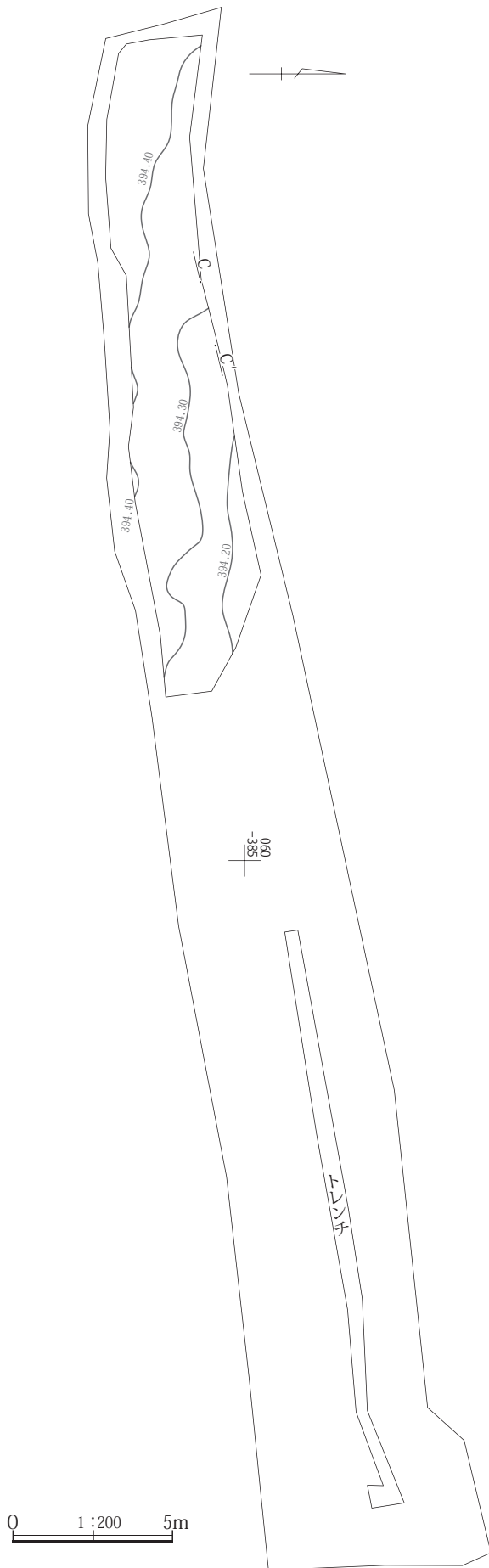
また、水田面は比較的良好に検出された。水田面は地山を削り出して段差を設け、地形に応じた平坦面を造り出したものと考えられる。

なお、出土した杭の主なものは後掲の一覧表(第4表)に示した。

6区1号水田(X=61037～039、Y=-92322～329)

調査区南壁際の中央よりやや西寄りの位置に、南側に向かって緩やかに弧を描くような形でわずかに検出された6区1面1号段差の南側、調査区南壁との間にわずかに検出された水田面で、本調査区1面において最上段の水田面である。

ごくわずかな面積しか検出されていないので、詳細は



第45図 5区2面全体図

不明な部分が多い。

検出範囲内における水田面の標高は395.75～395.80m前後で、検出面積は2.77㎡である。

6区2号水田(X=61030～048、Y=-92316～348)

6区1面1号段差下北側一帯の、本調査区1面第2段目に当たる水田面で、検出面積は100.47㎡である。

北側は、調査区を東西に横断する6区1面3号段差に画されている。

西側は、調査区西南隅から北壁中央の西寄りにかけて緩やかに弧を描くように設けられた6区1面4号段差と、その段上中央からやや北寄りに、コの字状に取りつく小規模な6区1面2号段差に画されている。

東側は、北西-南東方向の、幅広の2号畦畔によって画されている。

6区1面1号段差が検出されたのは、検出範囲南端中央のごく一部であり、南側大部分は調査区外へと広がっている。

全体的に北側に向かって緩やかに傾斜している。水田面の標高はおおむね395.40～395.50m前後で、6区1面2号畦畔を挟んだ東側に位置する6区3号水田と比べると、比較的平坦面が大きいように見受けられる。但し、区画の西南隅部が急激に下がっており、区画内で最も標高が高い6区1面1号段差際との比高差が約0.7m程度になるので、傾斜度が高くなるY=-92345ライン以西の西南隅部は同一の水田面とは考えにくい。

6区3号水田(X=61038～049、Y=-92292～315)・**杭列B**(X=61041～046、Y=-92295～298) 調査区の東南側の一帯に当たり、北側は6区1面3号段差に、西側は6区1面2号畦畔によって画される。東側と南側はそれぞれ調査区外へと広がっている。

北西-南東方向の6区1面2号畦畔を隔てた西側に隣接する6区2号水田と同様、6区1面3号段差上に位置する本調査区第2段目の水田面で、検出面積は104.15㎡である。

およそY=-92300ライン以西、6区1面2号畦畔までの範囲では、標高395.40～395.55m前後の比較的安定した面が形成されている。

南西側から北東方向に緩やかに傾斜していくが、Y=-92300ライン以東の東壁際までの間では、北から南に向かって急に傾斜しており、直線距離で約12mの間の南

北の比高差は約0.6m以上となっている。この部分では水田面が形成されていたとは考えにくい。

なお、X=61041～046、Y=-92295～298の範囲内の南北約6m、東西約3mの範囲において木杭群が検出された。この木杭群を杭列Bとした。本遺跡では、段差や畦畔に伴わずに検出された杭列は異例である。

長さ0.50～1.00m前後の木杭計28本が、おおむね北西-南東方向に、纏まって地中に打ち込まれた状態で検出された。本遺跡から検出された他の杭列と同様、横架されたものと見られる長さ1m程度の角材も併せて出土している。

また、木杭群検出範囲のほぼ中央からは、併せて径0.3m程度の自然石も2点出土している。

この杭列Bを構成する木杭は、本遺跡から検出された他の杭列を構成する木杭と異なって、地中に打ち込まれた状態で出土した木杭のほとんどのものが傾斜角65°以上と大きくない状態で出土している点である。中には、ほぼ直立に近い状態で出土したものも少なくない。

畦畔状の高まりや、段差のような起伏は全く検出されておらず、また構成する木杭の数も決して大きいわけではなく、密とは言い難いが、杭列Bの構成要素が畦畔や段差に伴って検出された杭列と共通しているので、杭列Bは畦畔あるいは段差の芯材・補強材である可能性は充分考えられる。

この杭列Bの検出範囲付近に、東西を画する南北方向の畦畔、あるいは段差が存在していた可能性が考えられる。

6区4号水田(X=61040～047、Y=-92325～332) 調査区の中央から西寄りに位置する。

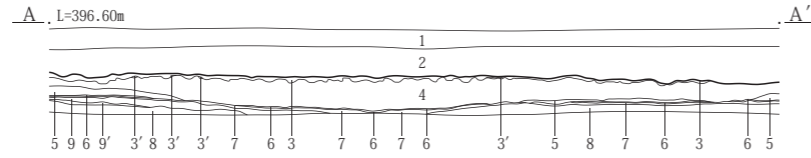
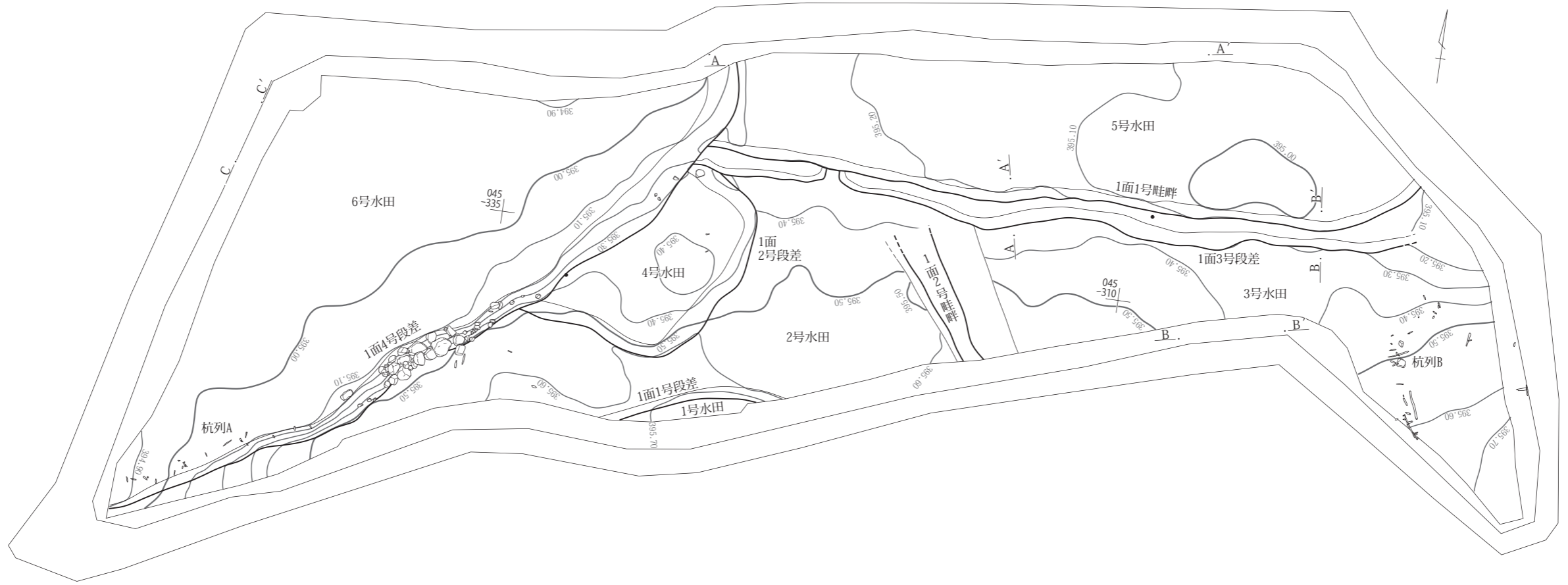
6区1面2号段差によってコの字状に画された非常に小さな水田区画で、検出面積は26.90㎡である。標高はおおむね395.35mで、本調査区で検出された水田面の中では、最も安定した平坦面が形成されている。

本調査区1面における第3段目の水田面である。

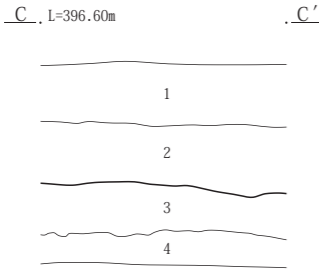
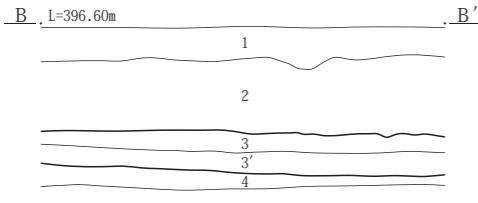
6区5号水田(X=61048～051、Y=-92298～326)

6区1面4号段差の東側段上、調査区の中央から北西寄りの位置から調査区東壁の中央にかけて東西に検出された6区1面3号段差の北側段下に位置し、検出面積は130.97㎡である。

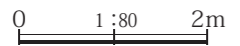
北側と東側はそれぞれ調査区の外側へと広がってお



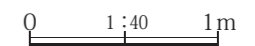
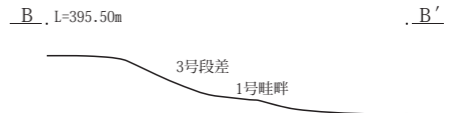
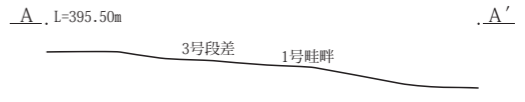
- 6区南壁B-B'
- 1層 10YR4/6褐色土 圃場整備に伴う敷き均し土。2層に類似するが2層上面土を移動させている。φ20～700mm程度の礫を含む。礫は火山性の熱を受けたものを含む。軽石混じり。
 - 2層 10YR3/1黒褐色土 As-A泥流堆積物層。φ20～700mm程度の礫を含む。礫は火山性の熱を受けたものを含む。軽石混じり。
 - 3層 10YR3/3暗褐色土 浅間山給源のφ2～5mm程度の軽石と砂が混じる砂質土とφ10～50mm程度の円礫からなる。安定性なく二次堆積層と思われる。
 - 3'層 10YR3/3暗褐色土 粘性あり。
 - 4層 10YR1.7/1黒色土 粘性あり。



- 6区西壁C-C'
- 1層 10YR4/6褐色土 圃場整備に伴う敷き均し土。2層に類似するが2層上面土を移動させている。φ20～700mm程度の礫を含む。礫は火山性の熱を受けたものを含む。軽石混じり。
 - 2層 10YR3/1黒褐色土 As-A泥流堆積物層。φ20～700mm程度の礫を含む。礫は火山性の熱を受けたものを含む。軽石混じり。
 - 3層 10YR3/3暗褐色土 φ2～5mm程度の軽石を約20%程度含む。締まりあり。
 - 4層 10YR4/2灰黄褐色砂質土 粒子の大きさが異なる砂質土がラミナ状に堆積。水平堆積部分と傾斜堆積している部分とがある。一部にφ5mm程度の軽石を含む。



- 6区北壁A-A'
- 1層 10YR4/6褐色土 圃場整備に伴う敷き均し土。2層に類似するが2層上面土を移動させている。φ20～700mm程度の礫を含む。礫は火山性の熱を受けたものを含む。軽石混じり。
 - 2層 10YR3/1黒褐色土 As-A泥流堆積物層。φ20～700mm程度の礫を含む。礫は火山性の熱を受けたものを含む。軽石混じり。
 - 3層 10YR5/6黄褐色土 φ20mm以下の軽石を含む。
 - 3'層 10YR5/4鈍い黄褐色土 シルト質土が僅かに水平堆積している。
 - 4層 10YR3/3暗褐色土 浅間山給源のφ2～5mm程度の軽石と砂質土からなるが安定性なく二次堆積層と考えられる。
 - 5層 10YR5/4鈍い黄褐色土 φ1～30mm程度の発泡したAs-Kk軽石層。ざらざらした質感。
 - 6層 10YR5/4鈍い黄褐色土 φ1～10mm程度の発泡したAs-B軽石層。ざらざらした質感。
 - 7層 10YR1.7/1黒色土 粘性あり。
 - 8層 10YR3/4暗褐色土 やや泥炭化している。細い根や茎が入る。粘性あり。
 - 9層 10YR5/3鈍い黄褐色土 河川堆積物。粗い砂層。φ50～120mm程度の円礫を含む。締まっている。
 - 9'層 10YR6/2灰黄褐色土 ラミナ状堆積細砂粒土。サラサラしている。



第46図 6区1面全体図、土層断面図、3号段差・1号畦畔エレベーション図

り、南側は6区1面3号段差によって画されている。6区2・3号水田の北側下段に当たっており、本調査区1面では第4段目の水田面であるが、先述した6区4号水田が、小規模な水田区画であるので、実質的には、本水田が1面第3段目の水田に当たる。

水田面は、西から東に向かって緩やかに傾斜しており、比高差は0.2m程度である。主要部分の標高は395.1m前後で、比較的傾斜度が高い南側段上の6区2・3号水田に比べれば、かなり安定した平坦面が形成されている。

南側6区2・3号水田との比高差は約0.30～0.40m前後、西側6区6号水田との比高差は約0.10～0.30m

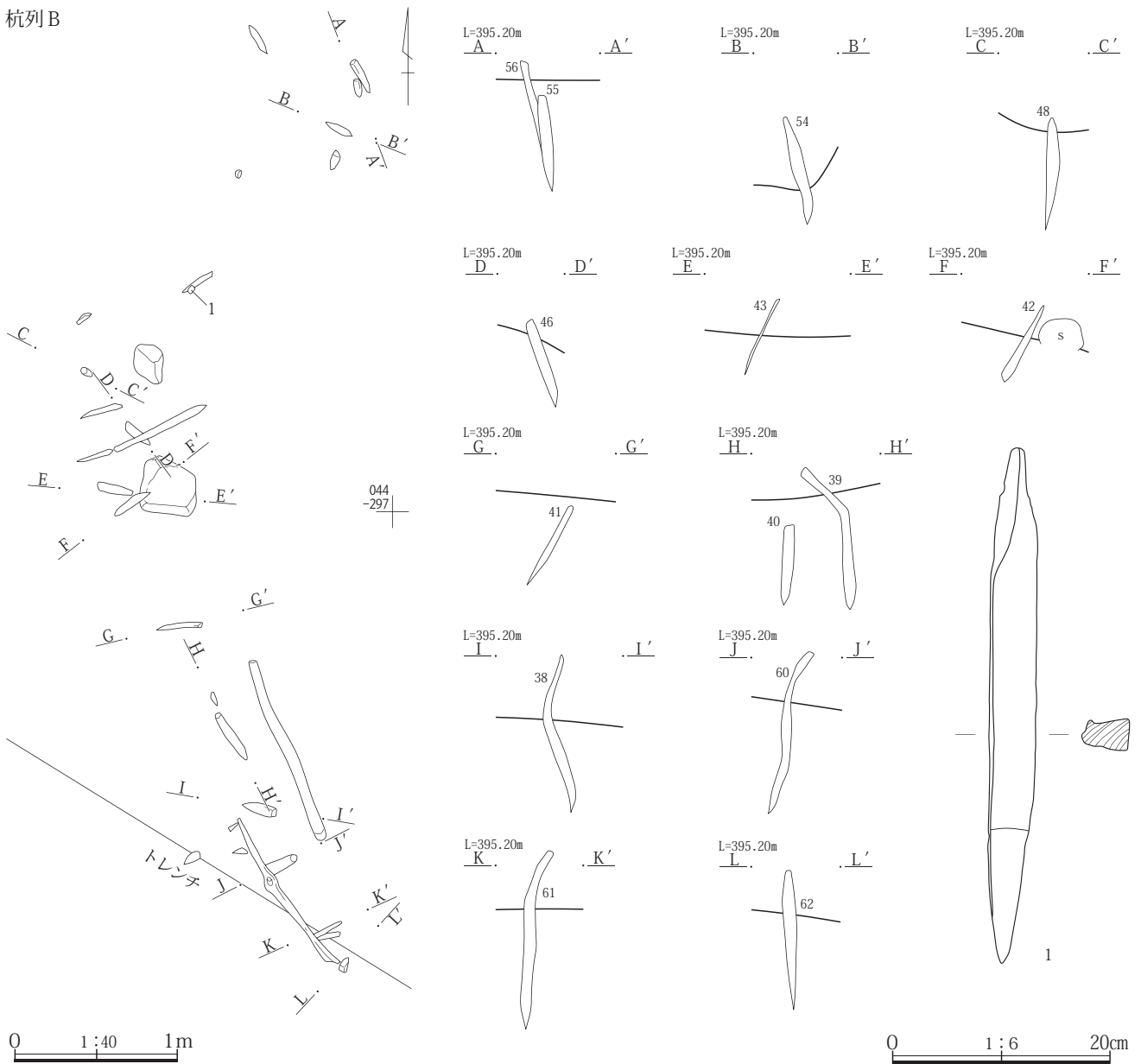
程度である。

6区6号水田(X=61030～052、Y=-92327～348) 調査区の西南隅から北壁の中央から西寄りの位置にかけて緩やかな弧を描くように設けられた6区1面4号段差によって東側を画された本調査区1面最下段の水田面である。

西側と北側は、それぞれ調査区の北壁・西壁の外側へと広がっている。検出面積は181.90㎡である。

水田面は、東側を画する6区1面4号段差側から調査区北壁の中央方向に向かって緩やかに傾斜している。6区1面4号段差際では傾斜度はやや急であるが、検出さ

杭列B



第47図 6区1面3号水田杭列B平面図、杭出土状況断面図、出土杭の例

れた範囲内の中央部分では、比較的安定した平坦面が形成され、標高はおよそ394.95～395.00m前後である。

東側に隣接する6区2号水田との比高差は約0.50～0.70m前後、6区4号水田との比高差は約0.35～0.50m前後、6区5号水田との比高差は約0.10m前後である。

(1) 6区1面1号段差(第46図)

位置 6区1面。X=61038～039、Y=-92322～329。

主軸方位 N-68～90°-E。

規模 検出全長約8.00m、幅約0.30～0.50m、比高差約0.05～0.10m前後。

遺物 なし。

所見 本調査区で検出された最上段の水田面である6区1号水田と、その下段の6区2号水田とを画する段差である。

段差が検出されたのが南壁際の極めて狭い範囲であるため、詳細は不明である。

(2) 6区1面2号段差(第46図)

位置 6区1面。X=61040～047、Y=-92324～334。

主軸方位 N-60～85°-W～N-30°-E。

規模 検出全長約17.00m、幅約0.50～0.80m、比高差約0.15m前後。

遺物 なし。

所見 調査区の西南隅X=61030、Y=-92349の地点から北壁の中央から西寄りの位置であるX=61052、Y=-92327にかけて、緩やかな弧を描くように設けられた6区1面4号段差の段上中央からやや北寄りの位置にコの字型に取り付く小規模な範囲を区画する段差である。段差の内側が6区4号水田である。

6区1面4号段差との接点であるX=61048、Y=-92328から南東方向に約3m程度、X=61046、Y=-92325付近でほぼ直角に屈曲して南西方向に約7m程度、X=61040、Y=-92328付近で再びほぼ直角に屈曲して約5.5m程度、X=61041.5、Y=-92333.5付近で6区1面4号段差に取り付く。

比高差も規模も小さい。

(3) 6区1面3号段差・1号畦畔(第46図、PL.34・35)

位置 6区1面。X=61047～051、Y=-92296～327。

主軸方位 N-50～90°-E。

規模 検出全長約30.00m、幅約1.00～2.60m、比高差約0.15m前後。

遺物 なし。

所見 調査区のほぼ中央からやや北寄りの位置を東西方向に横断し、西端はX=61048.5、Y=-92327.5付近で4号段差に取り付く。また、段差の中央からやや西寄りの位置であるX=61047、Y=-92316付近で、北西-南東方向の2号畦畔が段差の南側に取り付く。

本調査区1面第2段目の水田面である南側段上の6区2・3号水田と、本調査区1面第4段目の水田面である北側段下の6区5号水田とを画する段差で、6区1面1号畦畔が付随する。上下段の比高差は、およそ0.10～0.35mである。

6区1面1号畦畔では、東壁から直線距離で約26mの地点であるX=61048.5、Y=-92322付近において水口が検出された。

(4) 6区1面4号段差(第46・48図、PL.35・36)

位置 6区1面。X=61030～052、Y=-92326～348。

主軸方位 N-30～58°-E。

規模 検出全長約30.80m、幅約0.20～1.50m、比高差約0.15m前後。

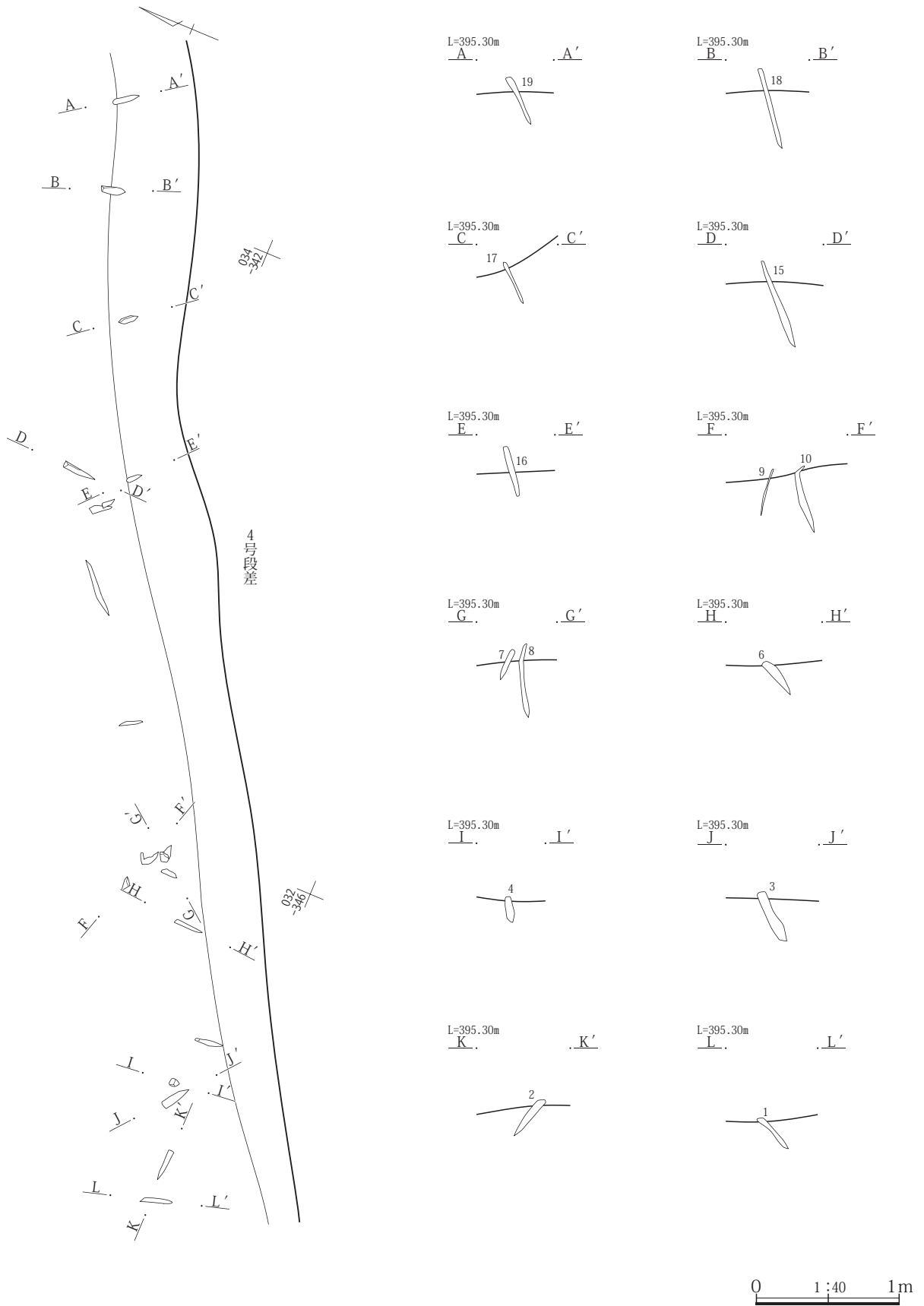
遺物 なし。

所見 調査区の西南隅X=61030、Y=-92349の地点から、北壁の中央から西寄りの位置であるX=61052、Y=-92327にかけて、大きく緩やかな弧を描くように設けられた段差である。

東側段上の、本調査区1面第2段目の水田面である6区2号水田、第3段目の水田面である6区4号水田、第4段目の水田面である6区5号水田等と、本調査区1面最下段の水田面である第5段目の6区6号水田とを画する段差である。

段差検出範囲の中央からやや南西寄りの位置、X=61036～041、Y=-92332～340の範囲において、西側に緩く湾曲した平面形態を呈する石組が検出された。石

杭列A



第48図 6区1面4号段差杭列A平面図、杭出土状況断面図

垣と言うほど緻密に構築された状態ではないが、径0.10～0.80m前後の礫が部分的に数段積み上げられており、部分的にしか検出されなかったものの、段差面を丹念に補強している様子がうかがえる。

また、段差が検出された範囲の南西端付近、調査区の南西隅寄りでは杭列Aが検出された。

杭列A X=61031～034、Y=-92341～348の東西約7m・南北約3m程度の範囲に19本の杭が集中して出土した。ほぼ全ての杭が、地面に深く突き刺さったままの状態であった。

杭列は、段差が検出された範囲の南西隅でのみ検出された。段の斜面の上側に突き刺さったままの状態で検出されたものの多くは50～80°程度傾いた状態で検出され、中には低い角度で傾いているものも見受けられ、土砂流動の様子が窺える。

杭は段差面に直角に突き刺さった状態で出土したものが多く、北西～北東側に傾斜した状態で出土したものも見られる。また、南西寄りでは段上側からも多く出土している。

6区1面4号段差に打ち込まれた木杭は、全体に疎らであり、段差の全域に満遍なく木杭が打ち込まれていたわけではなく、部分的な造作であったものと考えられる。

また、段差検出範囲の中央からやや南西寄りの位置から検出された石組とは全く併用されておらず、他の調査区において検出されたような石組と木杭とを組み合わせた段差の補強の造作はなされていない。

(5) 6区1面2号畦畔(第46図、PL.35)

位置 6区1面。X=61041～046、Y=-92313～319。

主軸方位 N-30°-W。

規模 検出全長約5.50m、幅約2.40～3.20m、比高差約0.10m前後。

遺物 なし。

所見 調査区南壁からほぼ中央にかけて北西-南東方向の畦畔が検出された。

南端は調査区南壁外に伸びており、北端は6区1面3号段差の南側、段差検出範囲の中央からやや西寄りの位置であるX=61047、Y=-92316付近に取り付く。

基底部の幅は広いが、実際には高まりはあまり顕著に

は検出されなかった。

時期 天明3(1783)年以前で近世のものと考えられる。

第9節 6区2面の遺構と遺物

12世紀前半と12世紀初頭の天仁元(1108)年の浅間山噴火による火山灰で覆われた面である。平成25(2013)年12月初頭から中旬にかけて、1面の調査終了後に引き続いて調査された。

北流する田中川の東岸に位置するため、調査区西端側が低い地形となっている点は、天明泥流下の1面と同様ではあるが、As-B軽石下の地形は1面の状況とはやや異なり、調査区西端側、Y=-92336ライン付近を境に調査区西端に向かって急に傾斜しており、約1m近く落ち込んでいく。

Y=-92336ライン以東では、おおむね南西側から北東側に向かって比較的緩やかに傾斜しており、標高が最も高い調査区西寄り南壁際X=61035、Y=-92335付近と、標高が最も低い調査区東寄りの北壁際X=61054、Y=-92311付近との比高差は約1.7mである。

北西隅の低くなっている部分では、遺構確認面は検出されなかった。それ以外の全域では、水田耕作土の黒色粘質土が面的に検出されたが、全体的に傾斜が大きい地形であるにもかかわらず、平坦面を形成した様子は全く看取することが出来ず、また、段差や畦畔も全く検出することが出来なかったため、調査区の全域に12世紀前期以前の水田が形成されていたとは考えにくい。

検出された明確な遺構は、調査区の中央を南から北にやや蛇行しながら流れる12号溝1条のみであった。

なお、遺構外から龍泉窯系青磁碗高台部片が1点出土している(第81図7)。

1. 溝

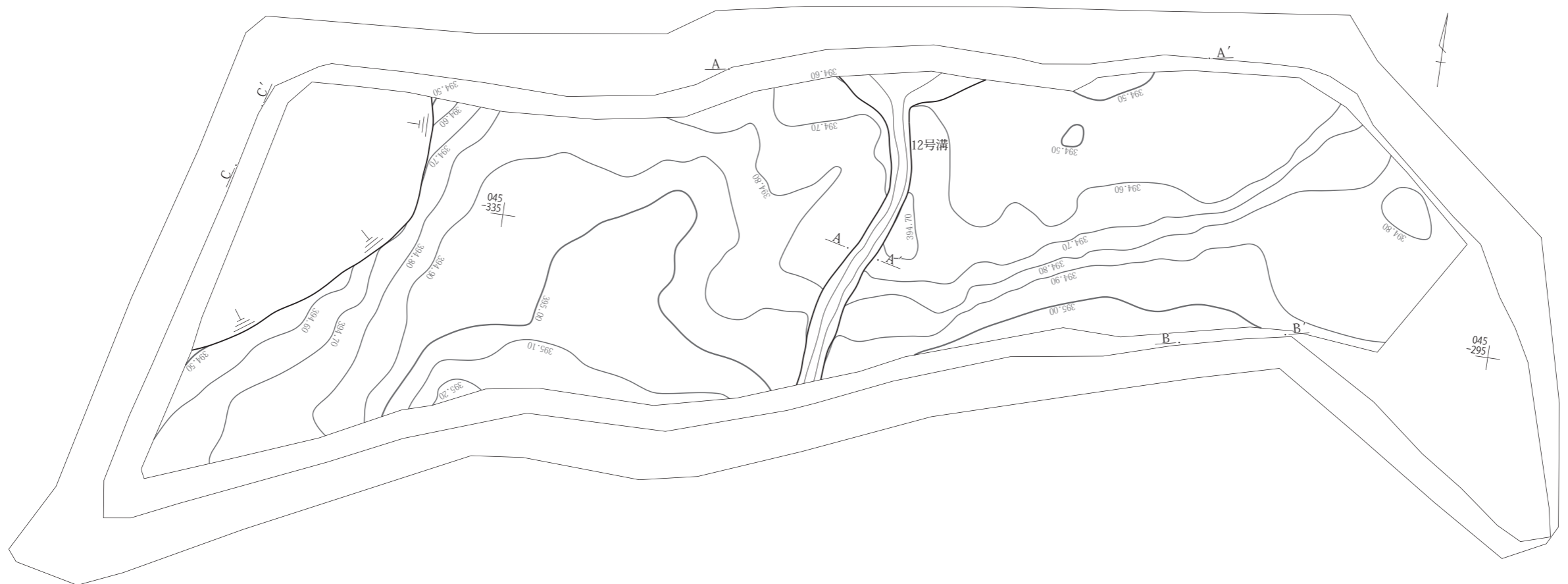
・12号溝(第49図、PL.37)

位置 6区2面。X=61039～052、Y=-92316～322。

重複 なし。

主軸方位 N-5～20°-E～N-3～10°-W。

規模 検出全長13.20m、上幅0.70～1.10m、下幅0.20～0.40m、北端開口部上幅5.90m、北端開口部下



0 1:200 5m

12号溝
A, L=395.00m A'



0 1:40 1m

- 6区12号溝A-A'
- 1層 10YR5/4鈍い黄褐色土 φ 1～30mm程度の発泡したAs-Kk軽石層。ざらざらした質感。
 - 2層 10YR5/4鈍い黄褐色土 φ 1～10mm程度の発泡したAs-B軽石層。ざらざらした砂質感がある。

第49図 6区2面全体図、12号溝土層断面図

幅2.70m、深さ0.05～0.10m、北端開口部深さ0.21～0.28m。

埋土 灰・軽石を含み砂質感のある鈍い黄褐色土。

遺物 なし。

所見 調査区の中央部を南北にやや屈曲・蛇行しながら南から北に流れ、北壁間際で扇状に大きく広がっている。

南北両端とも調査区外に伸びているが、検出された位置や方向等から見て、東西方向の現道を挟んで約9.5m北側に位置する7-1区2面において検出された1号溝に繋がっている可能性が考えられる。

時期 天仁元(1108)年以前で古代のものと考えられる。

第10節 7区1面の遺構と遺物

7区は、北流する田中川を挟んで5区の約20m東側、東西方向の小規模な現道を挟んで6区の約7～10m北側、南北方向の一般県道郷原停車場線を挟んで9区の約25～30m西側に、それぞれ位置する調査区で、調査区の南東隅は、調査区の南側に隣接する東西方向の生活道路と調査区の東側に接する南北方向の一般県道郷原停車場線との交差点に当たっている。ちょうど、吾妻西バイパスと一般県道郷原停車場線との交差部分に面しており、南北方向の一般県道郷原停車場線に取り付く部分のため、調査区の北端の東側半分が、北側に大きく撥状に広がっている。

用地の関係によって、ほぼ $Y = -92320$ ラインを境にして、東西に調査区を分割し、調査年次も分けられた。西側の調査区である7-1区は、平成25(2013)年8月から調査に着手し、9月上旬に1面の調査を終了した。その後、引き続き2面目の調査を行い、9月下旬にすべての調査を終えている。

隣接する5区、6区、9区等で検出された天明3(1783)年の浅間山噴火に伴うAs-A泥流下の遺構確認面である1面は、平成25(2013)年度に調査された西側の7-1区では、天明泥流下の近世の水田面と水口部を伴う畦畔が検出されたが、平成28(2016)年度に調査された7-2区では検出することが出来なかった。

一方、隣接する6区、9区から検出された12世紀前期の浅間山噴火によって降下した火山灰As-Kk及び天仁元(1108)年の浅間山噴火によって降下した火山灰As-Bに

よって覆われた2面の遺構は、7-1区7-2区両調査区において検出され、As-B軽石下の古代の水田が営まれていたことが判明した。

7-1区の1面では、北西隅付近が攪乱されており、遺構面は検出出来なかった。

1. 水田(第50図、PL.39・40・75)

調査区の全域において天明3(1783)年の浅間山噴火によって生じた天明泥流によって覆われた水田が検出された。検出されたのは水田区画3区画分、畦畔2か所である。

検出面の地形は、他の調査区と同様、基本的には南高北低であるが、本調査区以西で検出された1面の遺構確認面の状況と比較すると、傾斜度はかなり緩やかであり、最も標高が高い調査区南壁中央付近と最も低い調査区北東隅の、北側に大きく張り出した部分の先端部分との差は最大でも約0.4m程度である。調査区の範囲は狭いものの、調査区の広い範囲において標高394.00m前後の、安定した平坦面が形成されていた様子がうかがえる。

そのせいか、本調査区では段差は一箇所も検出されおらず、棚田状の水田造成の形跡は認められなかった。東西方向の生活道路を挟んで約7～10m南側に位置する6区の1面では、本調査区に近い北側の水田区画付近でも水田面の標高は395.05～395.20m前後であり、本調査区におけるほぼ平均的な標高と比べて1.00～1.20m程の比高差があり、南から北への傾斜度が高い6区の南側の水田区画との比高差はさらに広がって、1.40～1.55mにもなる。

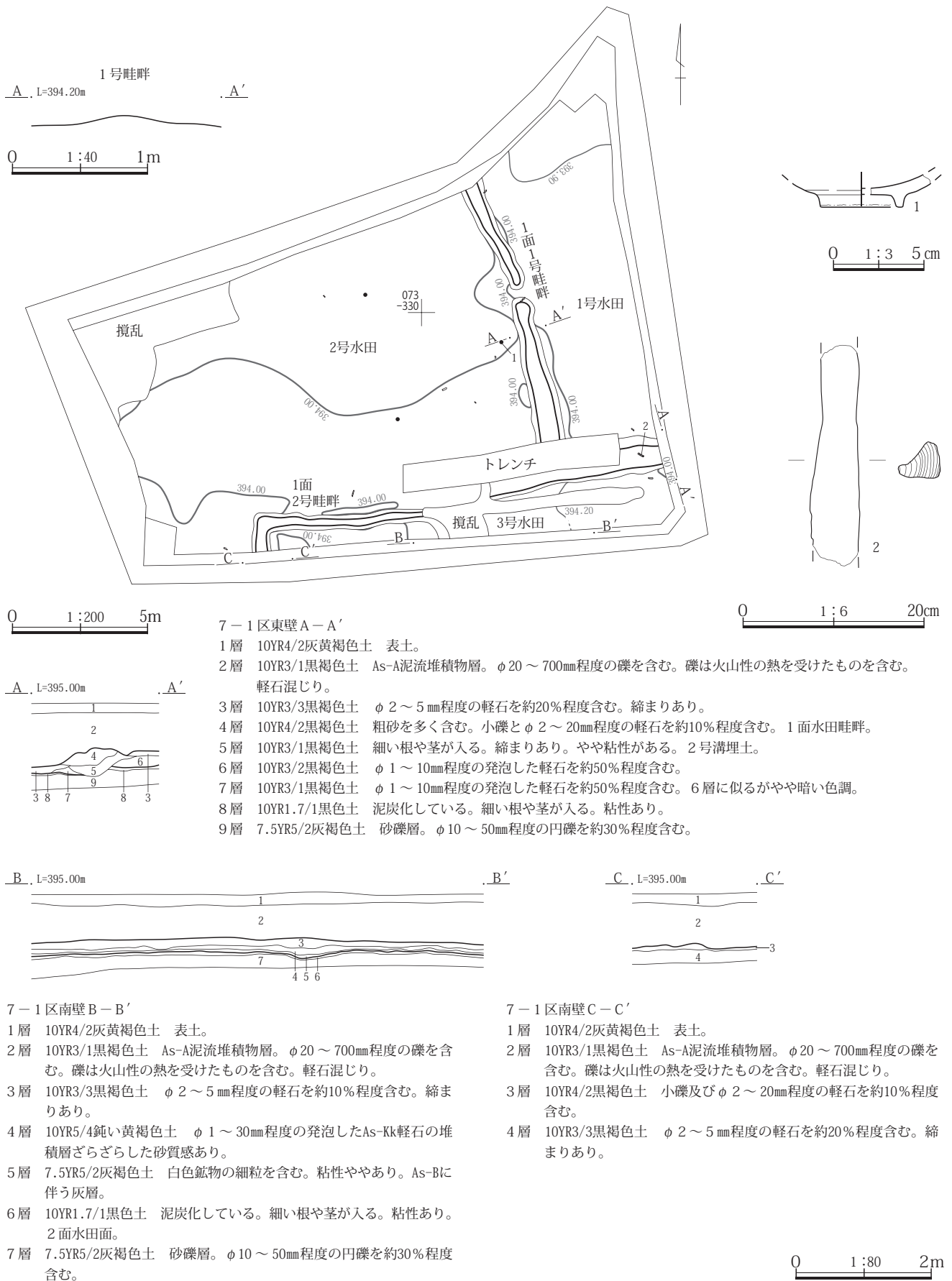
南側の6区側から北側7区側に向かって大きく傾斜している様子が判明する。

なお、出土した杭の主なものは後掲の一覧表(第4表)に示した。また、遺構外から肥前陶器器手碗体部～底部片1点(第81図8)と瀬戸・美濃陶器播鉢体部片1点(第81図9)が出土した。

7-1区1号水田($X = 61068 \sim 080$ 、 $Y = -92320 \sim 327$) 調査区の東寄り。調査区の中央から東寄りの位置で南北方向に検出された7-1区1面1号畦畔と、調査区東壁との間に南北に細長く検出された水田区画である。

南側は調査区南寄りの位置を調査区南壁に沿って東西

第3章 検出された遺構と遺物



第50図 7-1区1面全体図、土層断面図、1号畦畔エレベーション図、出土遺物、出土杭の例

方向に検出された7-1区1面2号畦畔によって画されている。また、北側及び東側は調査区外へと広がっている。

西側を画する7-1区1面1号畦畔の中央付近には水口がある。

標高は、西高東低で、南西隅部が最も高く、北東隅が最も低い。比高差は0.15mである。

検出された範囲における水田面の大部分の標高は395.90m前後で安定している。検出面積は46.63㎡である。

7-1区2号水田(X=61064~077、Y=-92325~341) 7-1区1面1号畦畔の西側、調査区の中央から西端までの範囲である。

東側を南北方向の7-1区1面1号畦畔に、南側の大部分を7-1区1面2号畦畔によって画されるが、南西隅付近では調査区外へと広がっている。また、北側、西側も調査区外に広がっている。北西隅は攪乱されている。検出面積は127.47㎡である。

標高は、7-1区1号水田とは逆に、南東隅が最も高く、北西側が最も低くなっており、比高差は0.1mである。検出範囲の大部分では標高394.00mの安定した平坦面が形成されている。東側に隣接する7-1区1号水田に比べておおむね0.1mほど高い。

7-1区1面1号畦畔南側部分の西際の水田面から瀬戸・美濃陶器腰鍔碗1点(第50図1)が出土している。

7-1区3号水田(X=61064~066、Y=-92320~335) 調査区の南壁際から検出された。7-1区1面2号畦畔と南壁との間の、南北幅わずかな範囲でしか検出することが出来ず、水田区画の北端のごく一部が検出されたに過ぎない。検出面積は11.83㎡である。

北側及び西側は7-1区2号畦畔によって画される。東側と南側はそれぞれ調査区外へと広がっている。

また、中央部を攪乱されているために詳細については明らかに出来ない部分が多いが、標高は、北側に隣接する7-1区1・2号水田に比べて変化が大きいように見受けられる。検出された範囲の中央からやや東寄りの位置で最も標高が高く、西端が最も低くなり、比高差は0.25mである。検出範囲における平均的な標高は、おおむね394.10~394.20m前後である。

なお、出土した杭の主なもののは後掲の一覧表(第4

表)に示した。

(1) 7-1区1面1号畦畔(第50・51図、PL.40)

位置 7-1区1面。X=61068~077、Y=-92324~328。

主軸方位 N-12~28°-W。

規模 検出全長約9.30m、基底部幅約0.60~1.00m、比高差約0.01~0.07m前後。

遺物 木杭14本。

所見 調査区の中央から東寄りの位置で、南北方向の畦畔が検出された。北端部は調査区北壁の外側へと伸びており、南端部はX=61068、Y=-92325.5付近で東西方向の7-1区2号畦畔に取り付いていたものと考えられるが、取り付く部分がちょうど、確認調査時の試掘坑によって破壊されており、不明である。

東側の7-1区1号水田と西側の7-1区2号水田とを東西に画する畦畔で、北壁側から約4mの位置X=61073.8、Y=-92326.2付近に水口が開く。水田面で検出された標高から見て、畦畔西側の7-1区2号水田から東側の7-1区1号水田に配水されたものと考えられる。

畦畔の芯材・補強材として木杭14本が出土した。

木杭はいずれも頭を西側に傾けた状態で、地中に深く刺さった状態で出土した。傾斜度は高くなく、10~26°程度であった。杭列を形成するほど密に打ち込まれているわけではなく、疎らに打ち込まれているという状態である。

(2) 7-1区1面2号畦畔(第50図)

位置 7-1区1面。X=61064~067、Y=-92320~335。

主軸方位 N-62~85°-E。

規模 検出全長約11.83m、基底部幅約0.60~1.30m、比高差約0.01~0.21m前後。

遺物 なし。

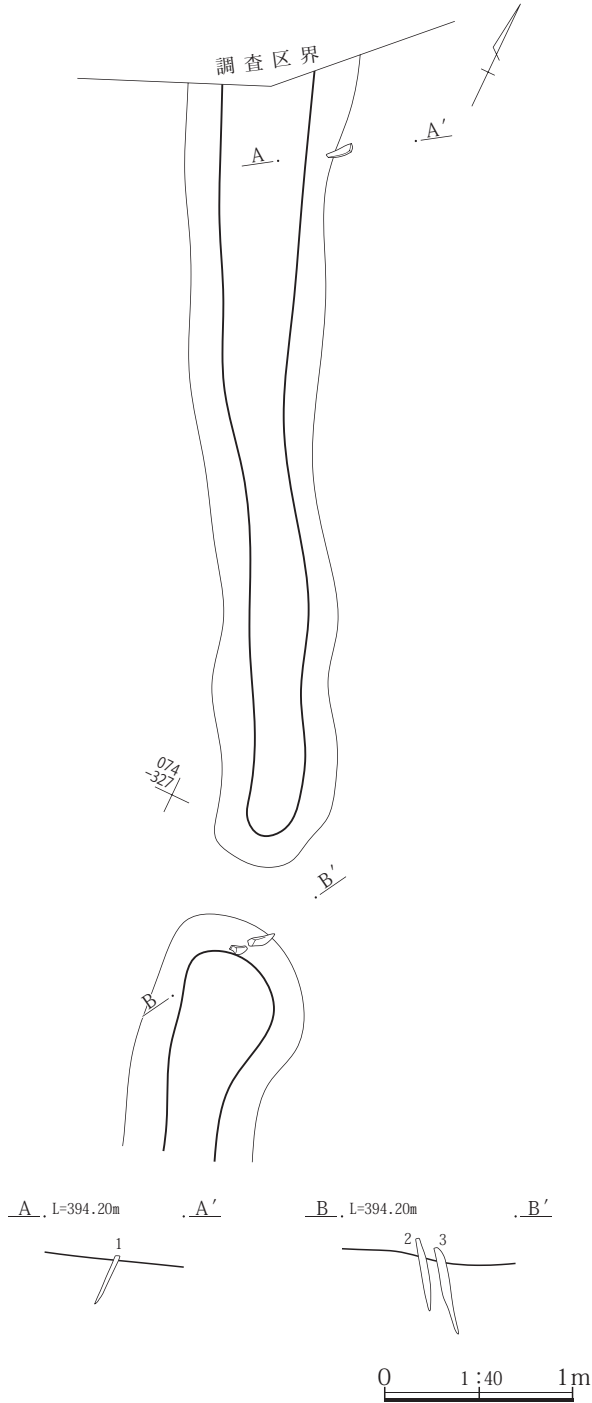
所見 調査区の南端部で東西方向に検出された。北側7-1区1・2号水田と南側7-1区3号水田とを画する。西端はX=61065、Y=-92336付近で直角に屈曲し、調査区南壁の外へと伸びている。東端も調査区東壁外へと伸びている。

中央部が大きく攪乱されているため、詳細は不明な点が多い。なお、畦畔の芯材・補強材とされた木杭や礫等は検出されなかった。

2面で検出された2号溝の位置とほぼ重複して造られており、2号溝を埋めた黒褐色土の上に、さらに黒褐色土を貼り付けて形成されている。

時期 天明3(1783)年以前で近世のものと考えられる。

1号畦畔



第51図 7-1区1面1号畦畔平面図、杭出土状況断面図

第11節 7区2面の遺構と遺物

12世紀前半と天仁元(1108)年の浅間山噴火による火山灰で覆われた面である。2面の標高は南高東低で、最も標高が低い北東端部が393.49m前後、標高が最も高い調査区南端部付近で393.90～394.00mで、比高差は最大で0.51mである。

先述した通り、7区は用地の関係によって、ほぼY=-92320ラインを境にして、東西に調査区を分割し、調査年次も分けられた。西側の、北壁が東側に行くにつれて弓なりに広がっている撥状の平面形状を呈する7-1区は、平成25(2013)年9月上旬に1面の調査を終了した後、引き続いて2面目の調査を行い、9月下旬にすべての調査を終えた。

東側の調査区である7-2区では、平成28(2015)年10月下旬から2面のみ調査を行い、11月初旬に調査を終了した。

12世紀前期の浅間山噴火によって降下した火山灰As-Kk及び、12世紀初頭の天仁元(1108)年に起こった浅間山噴火によって降下した火山灰As-Bによって覆われた2面の遺構は、隣接する6区、9区からも検出されており、7-1区7-2区両調査区においてAs-B軽石下の古代の水田が営まれていたことが判明した。

2面からは柱穴列4条、溝2条、ピット2基、耕作痕1か所、水田などの遺構が検出された。

4条の柱穴列、2条の溝のうちの2号溝、6・7号の2基のピットは、12世紀前半に降下した浅間山火山灰As-Kk層を掘り込んで造られているので、12世紀前半以降、天明泥流到達時以前の時間幅の中のどこかの段階で営まれた遺構と位置付けることが出来る。

調査区中央の南端付近でわずかにごく浅く検出された耕作痕は、断片的にしか過ぎないものの、12世紀前半に降下した浅間山火山灰を掘り込んでおらず、且つ、12世紀前半及び天仁元(1108)年降下の浅間山火山灰層下から検出された古代の水田面を明らかに掘り込んで造られているので、その次の段階に営まれた遺構と考えられる。すなわち、12世紀前半に降下した浅間山火山灰を掘り込んで造られた柱穴列や2号溝、6・7号ピット等の遺構よりも古く、12世紀前半と天仁元年に降下した火山灰に

よって覆われた古代の水田よりも新しい時期のものと位置付けることが出来る。

古代の水田は、さらにそれよりも1段階古い時期のものと位置付けられる。水田は、調査区の東側約2/3の範囲から検出されており、当該期には、水田は調査区の全域に及んでいたものと考えられるが、残存状態はあまり良くない。

調査区の中央から東寄りの位置を、わずかに屈曲・蛇行しながら南から北へと貫流する1号溝は、土層断面から見ると、水田面を形成した泥炭化した黒色土が溝底を完全に覆っているため、古代の水田よりも先行する遺構であると位置づけることが出来る。

このように、7-1区2面の遺構は、まず、古代の溝である1号溝が南北に流れた時期があり、その次の段階として、12世紀前半と12世紀初頭の天仁元(1108)年に降下した浅間山火山灰によって覆われた古代の水田が営まれた時期があり、さらにその次の段階で、水田を掘り込んで畝が造られた時期があつて、最後に12世紀前半に降下した浅間山火山灰を掘り込んで造られた1~4号柱穴列、6・7号ピットと2号溝が営まれた時期があつたと

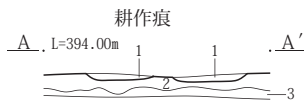
いう4段階にわたる遺構の変遷が存在したということになる。

ただし、調査時には、それら4段階にわたる遺構の確認面を個々に検出することは出来ず、すべて12世紀前半及び12世紀初頭の天仁元(1108)年降下の浅間山火山灰に覆われた遺構確認面において検出され、同時に調査されている。

第1項 7-1区12世紀前期以降の遺構と遺物

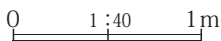
12世紀前半に起こった浅間山噴火によって降下した火山灰As-Kkを掘り込んで造られた柱穴列4条(1~4号柱穴列)、ピット2基(6・7号ピット)、溝1条(2号溝)などの遺構が検出された。

12世紀前半に降下したAs-Kk軽石層を掘り込んで造られているので、12世紀前半以降、天明3(1783)年泥流到達以前という幅広い年代幅の中のどこかに属する遺構ということになるが、本調査区においては、12世紀前半に降下したAs-Kkと天仁元(1108)年降下のAs-B軽石によって覆われた遺構面においてはじめて検出されたもので、



7-1区耕作痕 A-A'

- 1層 10YR3/2黒褐色土 φ 1~10mm程度の発泡した軽石を約50%程度含む。
- 2層 10YR1.7/1黒色土 泥炭化している。細い根や茎が入る。粘性あり。
- 3層 7.5YR5/2灰褐色土 砂礫層。φ 10~50mm程度の円礫を約30%程度含む。



第52図 7-1区2面12世紀前期以降の遺構検出状況、耕作痕断面図

遺構確認面から見ても天仁元(1108)年以降のものであることは確実であるが、かと言いつて天明3年以前ではあるが近世の段階における遺構とは考えにくいように思われる。天仁元年以降中世くらいまでの間の年代幅を考えておくのが妥当であろう。

この時期に属する遺構は、4区の一部でも検出されているが、本調査区の東側に隣接する7-2区では検出されていない。先述した通り、平成25(2013)年度に実施された4区や本調査区においては、12世紀前半と天仁元年降下の浅間山火山灰によって覆われた遺構確認面の調査において、古代の水田遺構と同時に調査されている。

1. 柱穴列

本遺跡で検出された柱列は全て本調査区の2面で検出された12世紀初頭天仁元(1108)年以降のもののみである。

柱穴列は4条検出された。いずれも全長7m以下と小規模で、1号柱穴列以外、柱間2~3間である。1号柱穴列のみ4間と異例ではあるが、長さ約2m程度と、2~3間の2~4号柱穴列に比べて格段に小規模であり柱間も格段に狭い。また、2~4号柱穴列がおおむね東西ないし南北方向であるのに対して、1号柱穴列のみは北東-南西方向と異例である。2~4号柱穴列と1号柱穴列とは機能が異なっていたものと考えられる。

3号柱穴列が畝の柵の一部と見られる耕作痕を掘り込んでおり、また、畝の柵の方向とも異なっているため、耕作痕よりは新しい段階の遺構と見られるため、畝の一部を囲うような障壁とは考えにくい。

また、本調査区2面において検出された水田は、12世紀前半に降下した火山灰As-Kkと天仁元(1108)年に降下した火山灰As-Biによって覆われたもので、確実に12世紀前半以前のものである。これら柱穴列の柱穴は、12世紀前半に降下した浅間山火山灰As-Kkを掘り込んでいるので、柱穴列と水田とは同時に併存していた可能性は無い。一見すると調査区中央のやや西寄りの位置で検出された3号柱穴列のすぐ東側まで水田区画が検出され、3号柱穴列の西側では水田耕作土の面は検出されたものの、水田区画は検出されていないので、あたかも3号柱穴列が水田の範囲を画しているかのように見受けられなくもないが、3号柱穴列の北側に隣接する東西方向の2号柱穴

列や、約15m程度北東側に位置する南北方向の4号柱穴列は明らかに水田区画を掘り込んでいる。本調査区において検出された柱穴列やピットが水田を掘り込んでいることからみても、本調査区で検出された水田を画するような柵あるいは塀のようなものとも考えられない。いずれにしてもこれらの柱穴列によって構成された柵ないし塀のような遮蔽施設が画した対象は不明と言わざるを得ない。

また、それぞれの柱穴列は重複せず、それぞれ位置が異なっており、近接するものもそれぞれ主軸方位が異なるので、それぞれの新旧関係や建て替えの有無、あるいは同時併存か否かということも明らかにはし難い。

(1) 1号柱穴列(第52・53図、PL.42・44)

位置 7-1区2面。X=61069~070、Y=-92337~339。

重複 なし。

平面形状 4間。

主軸方位 N-58°-E。

規模 全長1.99m。

柱穴 5基が検出された。埋土はいずれも径約1~10mm程度の発泡した軽石を約50%程度含む黒褐色土。P1とP2、P3~5にそれぞれ規模・形状による共通性が見られる。

P1：西端。平面形態は北西-南東方向にやや長い楕円形状。長径0.28m・短径0.23m・深さ0.06m。

P2：西から2番目。平面形態は北西-南東方向にやや長い楕円形状。長径0.28m・短径0.24m・深さ0.05m。

P3：中央。平面形態は北西-南東方向にやや長い楕円形状。長径0.24m・短径0.17m・深さ0.06m。

P4：東から2番目。平面形態は南北にわずかに長い楕円形状。長径0.23m・短径0.21m・深さ0.16m。

P5：東端。平面形態は北西-南東方向にやや長い楕円形状。長径0.22m・短径0.16m・深さ0.08m。

柱間 P1~2間：0.20m、P2~3間：0.32m、P3~4間：0.13m、P4~5間0.29m。

遺物 なし。

所見 調査区西寄りの中央、6・7号ピットの西側に隣接する。本遺跡で検出された唯一の柱間4間の柱穴列であるが、他の3条の柱穴列に比して、各柱穴そのものの

大きさも小さく、柱間も異様に狭く、規模も極端に小さい。また、主軸方位も本例のみが北東-南西方向と異例である。本遺跡で検出された4条の柱穴列の中ではすべてにおいて異質である。

時期 12世紀初頭以降、天明3(1783)年以前で、古代末期~中世のものと考えられる。

(2) 2号柱穴列(第52・53図、PL.42・44)

位置 7-1区2面。X=61073、Y=-92329~335。

重複 7-1区7・8号水田を掘り込む。

平面形状 2間。

主軸方位 N-85°-E。

規模 全長5.77m。

柱穴 3基が検出された。埋土はいずれも径約1~10mm程度の発泡した軽石を約50%程度含む黒褐色土。P3のみがP1・2に比して小型である。

P1：西端。平面形態は東西にわずかに長い楕円形状。

長径0.34m・短径0.32m・深さ0.28m。

P2：中央。平面形態は東西にわずかに長い楕円形状。長径0.34m・短径0.32m・深さ0.30m。

P3：東端。平面形態はほぼ円形状。径0.22m・深さ0.26m。

柱間 P1~2間：2.76m、P2~3間：2.07m。

遺物 なし。

所見 調査区のほぼ中央、北寄りの位置。3号柱穴列の北側に隣接する柱間2間でほぼ東西方向の柱穴列。本遺跡で検出された2~4号柱穴列は、位置や主軸方位は異なるが、ほぼ類似した規模・形状である。

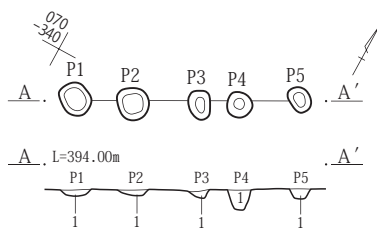
時期 12世紀初頭以降、天明3(1783)年以前で、古代末期~中世のものと考えられる。

(3) 3号柱穴列(第52・53図、PL.42・43・45)

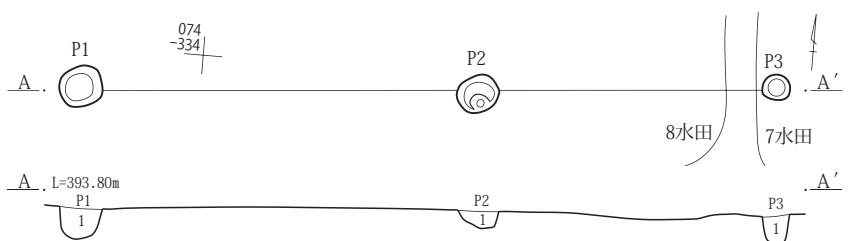
位置 7-1区2面。X=61066~073、Y=-92332。

重複 P4が耕作痕を掘り込む。

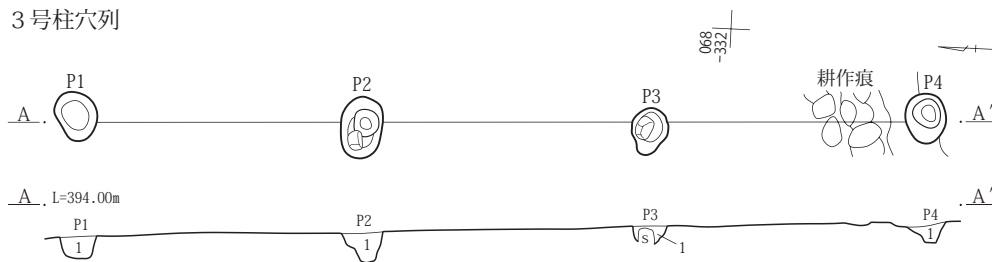
1号柱穴列



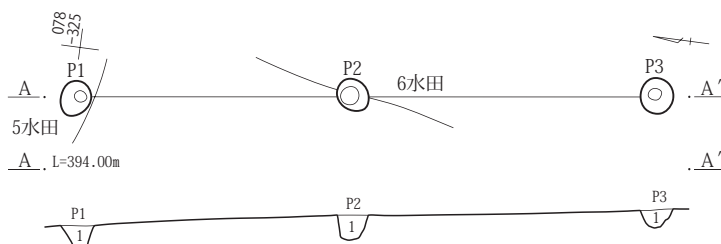
2号柱穴列



3号柱穴列

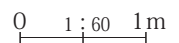


4号柱穴列



7-1区1~4号柱穴列A-A'

1層 10YR3/2黒褐色土 φ1~10mmの発泡した軽石が約50%程度混じる。



第53図 7-1区2面1~4号柱穴列平面図、土層断面図

平面形状 3間。

主軸方位 N-4°-W。

規模 全長7.05m。

柱穴 4基が検出された。いずれもほぼ東西に長い楕円形状を呈し、規模もほぼ類似している。

埋土はいずれも径約1～10mm程度の発泡した軽石を約50%程度含む黒褐色土。

P1：北端。平面形態は北東-南西方向に長い楕円形状。長径0.41m・短径0.31m・深さ0.17m。

P2：北から2番目。径0.15m程の川原石が北西寄りの浅い位置から検出された。元来、柱の根石だったものがやや動いた状態で出土したものか。平面形態は東西に長い楕円形状。長径0.49m・短径0.34m・深さ0.24m。

P3：南から2番目。径0.21m程の川原石が坑底中央から検出され、元来の据えられた状態を保っていると思われる。柱の根石か。平面形態は東西に長い楕円形状。長径0.38m・短径0.30m・深さ0.26m。

P4：南端。平面形態は東西に長い楕円形状。長径0.40m・短径0.33m・深さ0.19m。

柱間 P1～2間：1.94m、P2～3間：1.98m、P3～4間：1.90m。

遺物 なし。

所見 調査区の中央からやや西寄りの位置。2号柱穴列の南側に隣接する柱間3間のほぼ南北方向の柱穴列。P2では坑内の北西寄りのやや浅い位置から、またP3では坑底の中央で、それぞれ丸い川原石が検出されており、柱根石かと考えられる。P2ではやや動かされた状態、P3では据えられたままの状態であると考えられる。

時期 12世紀初頭以降、天明3(1783)年以前で、古代末期～中世のものと考えられる。

(4) 4号柱穴列(第52・53図、PL.42・45)

位置 7-1区2面。X=61073～077、Y=-92324～325。

重複 7-1区5・6号水田を掘り込む。

平面形状 2間。

主軸方位 N-6°-W。

規模 全長4.87m。

柱穴 3基が検出された。いずれもほぼ東西にやや長楕円形状を呈し、規模もほぼ類似している。埋土はいずれ

も径1～10mmの発泡した軽石を約50%程度含む黒褐色土。

P1：北端。平面形態は東西方向にやや長い楕円形状。長径0.29m・短径0.24m・深さ0.19m。

P2：中央。平面形態は北東-南西方向にやや長い楕円形状。長径0.28m・短径0.25m・深さ0.19m。

P3：南端。平面形態は北北東-南南西方向にごくわずかに長い楕円形状。長径0.28m・短径0.27m・深さ0.13m。

柱間 P1～2間：1.94m、P2～3間：2.15m。

遺物 なし。

所見 調査区の北東寄りの位置。柱間2間のほぼ南北方向の柱穴列。

時期 12世紀初頭以降、天明3(1783)年以前で、古代末期～中世のものと考えられる。

2. ピット

調査区西寄りの中央から6・7号の2基のピットが南北に近接して検出された。これらのピットは柱穴列を構成しておらず、用途・機能は全く不明である。

両ピットとも、形状はそれぞれ異なる。柱穴列群の柱穴ともやや異なる形状である。

(1) 6号ピット(第52・54図、PL.42・45)

位置 7-1区2面。X=61069～070、Y=-92337。

重複 なし。

平面形状 不整形。

主軸方位 N-10°-E

規模 径0.47m、深さ0.05m。

埋土 径約1～10mm程度の発泡した軽石が約50%程度、灰褐色の火山灰がブロック状に混じる黒褐色土。

遺物 なし。

所見 調査区西寄りの中央。7号ピットの南側に近接する。柱穴列群の柱穴ともやや異なる。断面は薄く上面が広く浅い扁平な逆レンズ状を呈する。

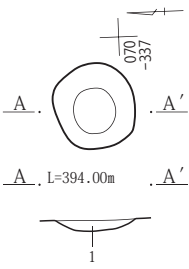
時期 12世紀初頭以降、天明3(1783)年以前で、古代末期～中世のものと考えられる。

(2) 7号ピット(第52・54図、PL.42・45)

位置 7-1区2面。X=61070、Y=-92337。

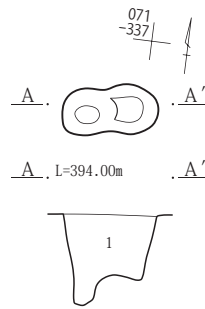
重複 なし。

6号ピット

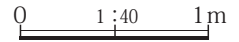


7-1区6号ピットA-A'
1層 10YR3/2黒褐色土 φ1~10mm程度の発泡した軽石が約50%程度混じり、灰褐色(7.5YR5/2)の火山灰がブロック状に入る。

7号ピット



7-1区7号ピットA-A'
1層 10YR3/2黒褐色土 φ1~10mmの発泡した軽石が約50%程度混じる。



第54図 7-1区2面6・7号ピット平面図、土層断面図

平面形状 東北東-西南西方向に長い双円形状を呈する。

主軸方位 N-84°-E。

規模 長径0.5m、短径0.24m、深さ0.47m。

埋土 径約1~10mm程度の発泡した軽石が約50%程度混じる黒褐色土。

遺物 なし。

所見 調査区西寄りの中央。6号ピットの北側に近接する。規模形状共に柱穴列群の柱穴とかなり異なる。しっかりとした掘方を有しており、断面は西側が深く掘り込まれた不整形形状を呈する。

時期 12世紀初頭以降、天明3(1783)年以前で、古代末期~中世のものと考えられる。

3. 溝

本調査区では、調査区の南端付近で検出された東北東-西南西方向の2号溝と、調査区の中央からやや東寄りの位置をやや蛇行しながら南から北へと流れる1号溝の2条の溝が検出されたが、1号溝は古代の水田よりも先行する遺構と考えられるので、ここでは2号溝のみについて触れる。

・2号溝(第52図、PL.43)

位置 7-1区2面。X=61064~067、Y=-92321~335。

重複 7-1区13~15号水田、それよりもさらに古い時期の1号溝を掘り込む。

主軸方位 N-70~74°-E。

規模 検出全長14.20m、上幅0.49~0.71m、下幅0.29~0.36m、深さ0.05~0.10m。

埋土 細い根や茎が入る黒褐色土。

遺物 なし。

所見 調査区の南端付近を北東から西南へとほぼ直線状に流れる。西端は調査区南壁外に、東端は調査区東壁の外側へと伸びている。東端手前の部分及び西端部付近を確認調査時の試掘坑によって掘り込まれている。比較的しっかりとした掘方を有しており、断面は口が大きく開いたU字形を呈している。

調査区中央の南端寄りの位置で検出された耕作痕とは、方向に共通性が見られるので、一見すると併存した可能性も考えられなくもないが、耕作痕は明らかに古代の水田面を掘り込んでおり、古代の水田よりも新しい時期の遺構であることには間違いないものの、柱穴列や2基のピット、2号溝のように12世紀前半に降下した浅間山火山灰As-Kkを掘り込んだ形跡を確認することは出来なかった。また、耕作痕の検出範囲における南端の一部は、本溝と極めて近接し、ほとんど接していると言って良い状況であるが、重複は確認することが出来なかった。よって、耕作痕との新旧関係、あるいは同時併存かという点については不明である。

時期 12世紀初頭以降、天明3(1783)年以前で、古代末期~中世のものと考えられる。

4. 畠

・耕作痕(第52図、PL.43)

位置 7-1区2面。X=61065~067、Y=-92328

～334。

重複 12世紀前半以前の水田面を掘り込む。3号柱穴列に掘り込まれる。

主軸方位 N-71～80°-E。

検出された畝間の長さ 0.31～5.72m。

畝間の幅 0.72m。

検出された畝間の深さ 0.01～0.04m。

遺物 なし。

所見 調査区南端寄りの中央で検出された。上面を甚だしく削平されている上に、検出された範囲における西端部を確認調査時の試掘坑によって掘り込まれており、残存状態は極めて悪い。北東-南西方向の畝間の柵が溝状に3条分のみ検出された程度である。2号溝とほとんど接して検出された南端の柵は、小規模な穴状の掘り込みが連鎖するような形状での部分的な検出であった。また、北端の柵とその南側に隣接する柵との間は、非常にわずかな部分の箇所もあり、この間に畝が造られていたとは考え難いので、柵の造り替えが行われていたものと考えられる。

柱穴列や2基のピット、2号溝のように12世紀前半に降下した浅間山火山灰As-Kkを掘り込んだ形跡を確認することは出来なかったため、それらの遺構よりは前の時期の遺構である可能性が高いが、明らかに古代の水田面を掘り込んでおり、古代の水田よりも新しい時期の遺構であることには間違いない。

先述した通り、2号溝の方向とは共通性が見られるので、一見すると併存したかのように見えなくもないが、重複は確認することが出来なかったため、新旧関係、あるいは同時併存かという点については不明である。

本調査区において、畝の耕作痕はこの場所に限定して検出されているので、古代の水田が廃された後に、一時的ながらも全面的に畝が営まれたということにはならないように見受けられる。また、本調査区では、調査区の南端付近は全般的に標高393.90m前後であり、耕作痕が検出された範囲が、調査区内において必ずしも標高が最も高い部分と言う訳でもない。

時期 12世紀初頭以降、天明3(1783)年以前で、古代末期～中世のものと考えられる。

第2項 7-1区12世紀初頭以前の遺構と遺物

12世紀前半に降下した浅間山火山灰As-Kk及び12世紀初頭の天仁元(1108)年に降下した浅間火山灰As-Bによって覆われた水田遺構である。

7-2区2面では、調査された範囲内においては南高北低の地形であるが、調査範囲内からは段差は全く検出されなかった。標高が最も高い調査区南端中央と標高が最も低い北端の東寄りの地点との標高差は0.51mである。

1. 水田(第52・55図、PL.41・42)

水田区画の検出状況は悪く、上面がかなり削平されている。

検出された水田区画は、一見するといわゆる小区画・極小区画水田と見紛うばかりの形状であるが、現在の古代水田遺跡の研究水準では、小区画水田は、縄文時代晩期とされる水田耕作の伝来以降、古墳時代までに見られる時代的な所産と捉えられている(齋藤英敏「小区画水田の歴史的価値—群馬から東アジアへ—」『群馬文化』329号 2017ほか)。

本調査区で検出された12世紀前半及び初頭に降下した浅間山火山灰層下から検出された古代の水田の区画は、現象面として小区画水田のように見受けられるだけのこと、現在の古代水田遺跡の研究水準における小区画水田という概念には該当しないものと見るべきである。

12世紀初頭と前半とに降下した浅間山火山灰によって覆われた小区画状の水田区画は、後述するように本遺跡9区2面でも検出されている。9区2面では、西側では本調査区と同様の、比較的定型化した小区画状の水田区画になっているが、東側では広さも形状もまちまちな区画になっている。この点も地形に応じた区画の造成が行われていたことを示しているものと考えられる。

先述したように、調査区内では比高差は約0.51mであるが、段差等は全く検出されず、柵田状の造成の痕跡は検出出来ず、明確にはし難い。しかしながら、本遺跡全体が、南側の山裾の丘陵部から北側を西から東へと流れる吾妻川に向かって急激に傾斜していく地形に立地し、

その中で狭隘な、限られた条件下にある比較的安定した平地を選んで、そこに平坦面を造成した上で水田を造っているため、水田区画の造成にも相当な工夫がなされたのであろう。限定された立地条件の中で、最大限に有効な水田経営を実践するために、結果的に、小区画・極小区画水田に類似した形態の水田区画が造成されたものと考えられる。

また、検出された水田区画は、北辺ないし東辺が調査区外へと広がっているものがほとんどで、一区画が完全に検出された区画はわずかに2例に過ぎないが、断片的にしか検出出来ない状況にあっても区画の大きさは非常にまちまちであった。このことも限定された厳しい地形の制約下で、最大限効率的に収穫量を確保するために、地形に応じた臨機応変の区画設定がなされていたことを示しているように思われる。

畦畔によって区画された水田区画は調査区の中央から東側と北側にかけて、調査区の約2/3の範囲で12区画分が検出された(7-1区4~15号水田)。調査区の南西側約1/3程度の範囲では畦畔は全く検出されなかったが、水田耕作土である泥炭化した黒色粘質土の平坦面は検出されている。

また、調査区中央からやや東寄りの位置をわずかに屈曲・蛇行しながら南から北へと流れる1号溝内には、水田耕作土の黒色粘質土が層として均質に堆積しているので、この溝はこれらの水田よりも先行する時代のものと考えられるが、この溝の上面では水田区画は検出することが出来なかった。また、1号溝は水田区画よりも先行し、水田が営まれた時期には耕作土で覆われており、溝として機能していなかったはずであるが、1号溝の両側では、水田区画は特に狭小で、南北に細長い隅丸長方形の区画となっている部分がある(7-1区5・7・11号水田等)。1号溝を覆って水田が造られた時代にも、かつて1号溝が存在していた場所では、地形が低くなっており、1号溝の「跡地」を避けて水田区画が造られていたために、溝跡の両側では南北に細長い極端に狭小な水田区画となったものと考えられる。

水田区画が完全に検出されたのは、調査区のほぼ中央に位置する7-1区11・12号水田の2か所のみである。このうち、7-1区11号水田は、1号溝跡の西側に隣接しており、極端に狭小で、南北に細長い隅丸長方形を

呈する区画であるので、本調査区で検出された水田区画として、一般的な形状のものとは言い難い。その他の区画は、端部が調査区外へと広がっていたり、あるいは検出出来なかったりである。

畦畔の検出状況も悪い。いずれも調査区の壁の土層断面の状況からは、畦畔の高まりは全く認識することが出来ない状況であった。検出された畦畔の高さは0.01~0.05m程度で、形状は扁平であった。

畦畔基底部の幅は0.54~1.19m程度で、北側7-1区7・8号水田と南側11・12号水田との間の東西方向の畦畔と東側7-1区9・13号水田と西側10・14号水田との間の南北方向の畦畔の幅が殊の外広く、大畦畔である可能性も指摘できるが、いずれも東西ないし南北に貫く大畦畔という訳ではない。

7-1区4号水田(X=61077~079、Y=-92322~323) 調査区の北東隅部に位置する。7-1区5号水田のすぐ東側、7-1区6号水田のすぐ北側に隣接する。

北側及び東側が調査区東壁外へと広がっており、区画の南西隅がわずかに検出された程度であるので、詳細は不明である。

7-1区5号水田(X=61077~080、Y=-92323~326) 調査区の北東隅部に位置する。7-1区4号水田のすぐ西側、7-1区6号水田のすぐ北側に隣接する。

北側が調査区北壁外へと広がっており、区画の南側が検出された。東西幅2.35m、南北長2.50m以上で、南北に細長い隅丸長方形を呈する区画であったと推測できる。

区画内では南から北へ配水されたものと考えられる。

7-1区6号水田(X=61072~077、Y=-92322~325) 調査区の北東部に位置する。7-1区4・5号水田のすぐ南側、7-1区9号水田のすぐ北側に隣接する。

東側が調査区東壁外へと広がっており、区画の西側が検出された。検出された範囲での南北最大長4.63m、東西幅2.84m以上、検出された範囲内における区画の面積は9.63㎡である。

区画内では南西から北東への排水がなされたものと考えられる。

7-1区7号水田(X=61073~077、Y=-92327~329) 調査区の中央からやや東寄りの位置の北端。北側が調査区北壁外へと広がっており、区画の南側大半が検



第55図 7-1区2面12世紀前期以前の水田検出状況

出されたものと考えられる。7-1区8号水田のすぐ東側、11号水田のすぐ北側に隣接する。

南北長3.72m以上、東西幅1.30mで南北に異様に細長い隅丸長方形形状を呈する区画と考えられる。検出された範囲内における区画の面積は4.63㎡である。

南側に隣接する11号水田も異様に細長い区画であるので、このY=-92328ライン付近では、地形の関係からか、南北に細長い水田区画が造られたものと考えられる。

区画内では南から北への配水がなされたものと考えられる。

7-1区8号水田(X=61073~076、Y=-92329~338) 調査区中央の北寄りに位置する。北側が調査区北壁外へと広がっており、区画の南側の一部が検出されたものと考えられる。7-1区7号水田のすぐ西側、12号水田の北側に隣接する。

南北長3.05m以上、東西幅7.50m以上で、検出された水田区画では東西長が最も長い、北側大部分が調査区外に出るため、区画の形状や大きさについては推測出来ない。検出された範囲内における区画の面積は11.89㎡で、最大である。

7-1区9号水田(X=61070~072、Y=-92321~324) 調査区東端のほぼ中央に位置する。東側が調査区東壁外へと広がっており、区画の西側の一部が検出されたものと考えられる。7-1区6号水田のすぐ南側、13号水田のすぐ北側に隣接する。

南北長2.05m、東西幅2.25m以上で、東西に長い隅丸長方形を呈する区画であったと推定出来る。検出された範囲内における区画の面積は4.43㎡である。

南西から北東への配水がなされたものと考えられる。

7-1区10号水田(X=61069~072、Y=-92324~326) 調査区東寄りのほぼ中央に位置する。7-1区9号水田のすぐ西側に隣接する。

水田区画の東側の一部が検出されたものと考えられる。南北長2.48m、東西幅1.50m以上で、東西に長い隅丸長方形を呈する区画であったと推定出来る。西側約半分以上が検出されず、詳細は不明である。

南から北への配水がなされたものと考えられる。

7-1区11号水田(X=61069~072、Y=-92328~329) 調査区の中央からやや東寄りの位置。7-1区7号水田のすぐ南側、7-1区10号水田の西側、7-1区12号水田のすぐ東側に隣接する。

水田区画が完全に検出出来た数少ない区画の一つで、南北長2.98m、東西幅0.78mの北側がわずかに広がった南北に細長い隅丸台形状を呈する。面積は1.81㎡と極めて小規模である。

南から北への配水がなされたものと考えられる。南北の比高差は0.09mである。

7-1区12号水田(X=61068~072、Y=-92329~332) 調査区のほぼ中央に位置する。7-1区8号水田のすぐ南側、7-1区11号水田のすぐ西側に隣接する。

水田区画が完全に検出出来た数少ない例の一つで、南北長4.07m、東西幅2.40mの南北にやや細長い隅丸長方形を呈する。面積は9.94㎡である。

区画の南東隅から東側に向かって伸びる区画への導水路が検出されているが、先端は検出出来ず、給水元は不明である。

南から北への配水がなされたものと考えられる。南北の比高差は0.10mである。

7-1区13号水田(X=61065~069、Y=-92320~323) 調査区の南東隅に位置する。7-1区9号水田の

すぐ南側、14号水田のすぐ東側に隣接する。

西側の中央部分を確認調査時の試掘坑によって破壊され、また、2号溝によって中央部を東西に掘り込まれ、東側が調査区東壁外へと広がっているため、全容は不明であるが、南北長3.67m、東西幅2.44m以上とやや大きめの区画であったことが推測出来る。検出された部分の面積は7.99㎡である。

南西から北東への配水がなされたものと考えられる。検出された範囲内における比高差は最大で0.13mである。

7-1区14号水田(X=61065~068、Y=-92324~327) 調査区の南東に位置する。7-1区10号水田のすぐ南側、13号水田のすぐ西側、15号水田の東側に隣接する。

東側、中央よりやや北寄りの位置を確認調査時の試掘坑によって破壊され、また、2号溝によって中央部を東西に掘り込まれ、西側約半分以上が検出出来なかったため、全容は不明である。

検出状況が良くないため、配水も不明である。

7-1区15号水田(X=61065~066、Y=-92327~329) 調査区中央の南端に位置する。7-1区14号水田の西側に隣接するが、北側の7-1区7・11号水田の状況から、14号水田との間に南北に細長い区画が存在した可能性も否定出来ない。

南西側が調査区南壁外へと広がっており、北側は2号溝によって掘り込まれ、2号溝以北では区画が全く検出されなかったため、全容は不明である。検出状況が良くないため、配水も不明である。

時期 天仁元(1108)年以前で古代のものと考えられる。

2. 溝

先述したように、本調査区では、調査区の南端付近で検出された東北東-西南西方向の2号溝と、調査区の中央からやや東寄りの位置をやや蛇行しながら南から北へと流れる1号溝の2条の溝が検出されたが、2号溝は、12世紀前半に降下した浅間山火山灰As-Kkを掘り込んでいる遺構で、浅間山火山灰As-Kk及びAs-B層下で検出された古代の水田よりも新しい時期の遺構であるので、前項で既に報告した。ここでは古代の水田よりも先行する遺構である1号溝について触れる。

・1号溝(第52図、PL.43)

位置 7-1区2面。X=61064～078、Y=-92326～328。

重複 12紀前半以前の水田によって覆われている。また、南端付近を2号溝に掘り込まれる。

主軸方位 N-20°-W～N-16°-E。

規模 検出全長14.20m、上幅0.49～0.71m、下幅0.19～0.22m、深さ0.07～0.15m。

埋土 古代水田の耕作土である細い根や茎が入る黒色粘質土。

遺物 なし。

所見 調査区の中央から東寄りの位置を南から北へやや屈曲・蛇行して流れる。北端は調査区北壁外に、南端は調査区南壁の外側へとそれぞれ伸びている。南端付近、X=61067、Y=-92327付近で2号溝によって掘り込まれる。

掘方は浅く、断面は口が大きく開いた扁平なU字形を呈している。

本溝の西側に隣接する7-1区7・11号水田が、あたかも本溝を避けるかのように、本溝とは重複することなく南北に細長い区画に造られており、12号水田区画南東隅から東へと伸びる区画への導水路があたかも本溝に接するように検出されているため、一見すると本溝は水田に伴う南北方向の水路と見紛うばかりであるが、土層断面には明らかに水田耕土が堆積しているため、水田よりも古い時期の水路で、水田形成時には埋められ、機能していなかったものと考えられる。

溝が埋められた後も、溝の跡が窪んでいたためか、溝跡の部分を避けて区画が造られたため、一見すると水田と溝とが共存していたように見えるのだと考えられる。本溝の東側に位置する7-1区10・14号水田の区画の西側が検出されなかったのも、溝跡が窪んでいたことによるものと見られる。

規模・形状・方向から、南側6区2面で検出された12号溝の北側に隣接する部分と推測することが可能である。ただし、両溝の検出範囲は、直接距離で約12mも離れている。また、6区2面では水田は検出されていないものの、12号溝の土層断面には水田耕作土に相当する黒色粘質土が溝を覆うような状態では認められない。よって、12世紀初頭と前半に降下した浅間山火山灰によって

覆われた水田よりも古い時期のものと見られる本溝と、6区2面で検出された12号溝とを同一の溝と認定するには若干の疑問が残らないではない。

時期 天仁元(1108)年以前の古代のもので、浅間山火山灰As-Kk及びAs-B層下から検出された古代水田よりも古い時期のものと考えられる。

第3項 7-2区の遺構と遺物

先述したように、7区は用地の関係によって、ほぼY=-92320ラインを境にして、東西に調査区を分割し、調査年次も分けられた。

東側の調査区である7-2区は、平成28(2015)年10月下旬から調査に着手され、11月初旬に調査を終了した。

7-2区では、隣接する5区、6区、7-1区、9区等で検出された江戸時代の天明3(1783)年の浅間山噴火に伴うAs-A泥流下の遺構確認面である1面は全く検出することが出来ず、12世紀初頭の天仁元(1108)年に起こった浅間山噴火によって降下した火山灰As-Bによって覆われた2面の遺構のみが検出され、本調査区においても古代に水田が営まれていたことが判明した。

なお、本遺跡では、12世紀前半に起こった浅間山噴火の際に降下した火山灰As-Kkの堆積は部分的にしか認められず、As-Kk堆積層下の遺構確認面を検出することは出来なかった。そこで平成28年度の7-2区の調査時に、部分的に堆積が認められたAs-Kk層直下の土層についてプラントオパール分析を委託・実施したところ、イネ科のプラントオパールが多量に検出されたため、12世紀初頭の浅間山火山灰As-B降下後、12世紀前半の浅間山火山灰As-Kk降下までの短い期間にも、本遺跡の地では水田が営まれていた可能性が高いことが判明した。

本調査区古代水田に伴う、主に東西方向の6本の畦畔(7-2区2面1～6号畦畔)と、東西方向の溝1条(13号溝)が検出されたが、13号溝は北側に隣接する畦畔の南端を掘り込んでおり、水田よりも新しい時期の遺構と考えられる。

水田に伴う畦畔の形状は、明確ではないものも少なくなく、また、明瞭に検出された水田区画も少なく、全体的に不明な点が多い。

1. 水田(第56図、PL.46～49)

調査区の全域において12世紀前半に降下した浅間山火山灰As-Kk、及び12世紀初頭の天仁元年(1108)年に降下した浅間山火山灰As-Bによって覆われた水田が検出された。

5本の東西方向の畦畔とL字形の畦畔の残骸1本が検出されたが、明確な水田区画の検出事例は少なかった。

畦畔の高まりは、調査区壁における土層断面ではあまり明確には確認できなかったが、水田面よりも地山を高く掘り残して畦畔を形成したものと考えられる。

約5m程度西側に隣接する7-1区で検出された小区画状の水田区画に続くような水田区画は本調査区においては全く検出されず、7-1区で検出された水田区画の畦畔に接続するような畦畔も一切検出されなかった。主に東西方向の畦畔が検出され、なかには水口が明瞭に検出されたものもあるが、水田区画自体はあまり明瞭ではない。畦畔によって区画された3か所を水田区画として報告するが、形状も不整形で、水田区画としては全く明瞭ではない。

検出面の地形は、他の調査区と同様、南高北低であるが、隣接する7-1区2面に比べて全体的にわずかに低くなっている。南北の最大比高差は0.61mになる。

水田面では、北東-南西ないし東北東-西南西方向で3列、北北東-南南西方向で1列の足跡が検出された。なお、検出された足跡は、重複しているものが皆無であり、足跡列相互の新旧関係は不明である。

北北東-南南西方向の足跡は $X=61075.5\sim 081.5$ 、 $Y=-92313.5\sim 315.5$ の範囲に4号畦畔西側部分を踏み越えて並んでおり、形状から牛馬のものと見られる。ただし、検出状態はあまり良くないため、牛か馬かの判別は明確には付きにくい。

北東-南西方向の足跡は2列検出された。北側の列は $X=61076\sim 080$ 、 $Y=-92308\sim 315$ の範囲で検出され、調査区西壁際の4号畦畔西端付近の $X=61078$ 、 $Y=-92314$ 辺りで北北東-南南西方向の足跡列と交叉しており、どちら側の足跡列に属する足跡なのか明確でないものもある。この足跡列も、形状から牛馬のものと見られる。

北東-南西方向に連なる足跡は、もう一列、北側の7

-2区2面4号畦畔と南側の7-2区2面2・3号畦畔によって画された7-2区3号水田内の $X=61074\sim 075$ 、 $Y=-92310.5\sim 314$ の範囲から検出された。明瞭に列をなして検出されたのは、いずれも牛馬のものと考えられる足跡であるが、それに混じってランダムに4点ほど明らかに人間のものと見られる足跡が検出されている。

調査区の南端付近の $X=61069\sim 071$ 、 $Y=-92305\sim 313$ の範囲において東北東-西南西方向に検出された足跡列が、本調査区において最も顕著に検出された足跡列である。13号溝の南際で、あたかも溝に沿うような状態で検出されたが、先述したように13号溝は水田よりも新しい時期の遺構と考えられるので、溝と足跡列との関連性は無い。

ところどころ人間のものと見られる足跡が混在しており、足跡は7-2区2面1号畦畔を踏み越えた状態で検出されている。

12世紀初頭及び前半に降下した浅間山火山灰によって覆われた水田面における牛馬等動物を含む足跡の検出事例は珍しい。

7-2区1号水田($X=61070\sim 072$ 、 $Y=-92311\sim 315$) 調査区の南西寄りの位置。7-2区2面2号畦畔を隔てて東側7-2区2面2号水田と隣接する。

調査区南寄りに位置する東北東-西南西方向の7-2区2面2号畦畔は、中央よりやや西寄りの位置で南北に分叉するが、その中間に当たる極狭小な東西に細長い紡錘形の平面形態を呈する部分で水田面が確認されているので、水田区画として報告するが、検出範囲が極めて狭いため詳細は不明である。西側は調査区西壁外へと広がっている。

東西最大長3.60m以上、南北最大幅1.10m、検出面積 3.33m^2 、標高は363.65m前後である。

7-2区2号水田($X=61072\sim 075$ 、 $Y=-92305\sim 310$) 調査区の南東寄りの位置。南側及び西側を7-2区2面2号畦畔、北側を7-2区2面3号畦畔によって画され、北西側に水口が開く。西側2号畦畔を隔てて7-2区1号水田と、北側は3号畦畔を隔てて7-2区3号水田と隣接する。東側は調査区東壁外へと広がっている。

東西最大長5.30m以上、南北最大幅1.95m、検出面積

9.40m²。東西に細長い紡錘形状の平面形態を呈している。

標高はおおむね393.65m前後で、区画内では東側に向かってわずかに低くなっている。

水口は、北東側から伸びる7-2区2面3号畦畔と南西側7-2区2号畦畔との間に設けられており、開口部の幅は0.70mである。7-2区2号水田側から、標高が低い北側7-2区3号水田側への配水を意図したものと見られる。

7-2区3号水田(X=61073~076、Y=-92305~315) 調査区中央の南寄りの位置。南東側は7-2区2面3号畦畔によって画され、7-2区2号水田に隣接する。南西側は2号畦畔によって画され、7-2区1号水田に隣接する。北側は4号畦畔によって画される。東側及び西側はそれぞれ調査区外へと広がっている。

東西最大長9.82m、南北最大幅3.95m、検出面積27.07m²。標高はおおむね395.55~395.60mで、区画内は南高東低である。区画内の最大比高差は0.1mである。

本水田区画南端中央に開口する水口は、南西側7-2区2号水田側からの配水を意図したものである。また、北端中央の7-2区2面4号畦畔に開口する水口は、北側への配水のためのもと考えられるが、本水田区画北側では、調査区東壁側から西側へと伸びる2本の短い畦畔(7-2区2面5・6号畦畔)は検出されたものの、西側から伸びる畦畔が検出されなかったため、水田区画を認識することは出来なかった。本水田区画の北側を画する4号畦畔の中央部に開口する水口の幅は0.69mである。

(1) 7-2区2面1号畦畔(第56図)

位置 7-2区2面。X=61068~069、Y=-92307~309。

主軸方位 北西-南東方向N-22°-W。北東-南西~東北東-西南西方向N-80°-E

規模 北西-南東方向検出全長1.29m、北東-南西~東北東-西南西方向検出全長1.71m、基底部幅約0.34~0.87m、比高差約0.01~0.06m前後。

遺物 なし。

所見 調査区南端部の中央から検出された。南端部は調査区南壁の外側へと伸びている。調査区南壁側から北東方向に伸び、X=61068.5、Y=-92309付近で一方は北

西方向に、もう一方は東北東方向に分岐する。北西方向へと伸びる部分は13号溝の手前、X=61069.5、Y=-92309.5付近で検出出来なくなるが、幅広くしっかりとした畦畔であり、こちら側がメインの畦畔となるものと考えられる。東北東側に分岐した畦畔は、幅が狭く小規模で、主なる畦畔から派生した部分と考えられ、X=61069、Y=-92307.3付近で止まっている。

(2) 7-2区2面2号畦畔(第56図)

位置 7-2区2面。X=61069~072、Y=-92305~315。

主軸方位 N-78~88°-E。

規模 検出全長約10.10m、基底部幅約0.78~(1.39)m、比高差約0.01~0.07m前後。

遺物 なし。

所見 調査区の南寄りで東北東-西南西方向に検出された。東西両端はそれぞれ調査区外へと伸びている。中央からやや西寄りの位置X=61072、Y=-92311.6付近で南北に分叉するが、その中間に当たる極狭小な東西に細長い紡錘形の平面形態を呈する部分を7-2区1号水田として報告した。畦畔の北東側が7-2区2号水田、北西側が7-2区3号水田である。

畦畔の南側は畦畔とほぼ類似した走向の13号溝によって掘り込まれており、南側の基部は検出されなかった。

(3) 7-2区2面3号畦畔(第56図)

位置 7-2区2面。X=61074~075、Y=-92305~310。

主軸方位 N-62~86°-E。

規模 検出全長約5.00m、基底部幅約0.34~0.81m、比高差約0.02~0.04m前後。

遺物 なし。

所見 調査区の中央からやや南東寄り、東西方向に検出されたが、西端部寄りでは南西方向に屈曲している。東端は調査区東壁外へと伸びており、西端はX=61073.8、Y=-92310.3付近で止まり、南西側の7-2区2面2号畦畔との間に、7-2区2号水田の北西側水口となっている。

南側7-2区2号水田と北側3号水田とを画する畦畔である。

(4) 7-2区2面4号畦畔(第56図)

位置 7-2区2面。X=61076~077、Y=-92306~315。

主軸方位 N-77~85°-W~N-70~87°-E。

規模 検出全長東側約4.50m・西側4.30m、基底部幅約0.59~1.02m、比高差約0.01~0.08m前後。

遺物 なし。

所見 調査区の中央でほぼ東西方向に検出された。部分的に若干屈曲・蛇行している。東西両端ともそれぞれ調査区外へと伸びている。

検出部分の中央、X=61077.5、Y=-92311.5付近が途切れ、幅0.69mの水口となっており、南側7-2区3号水田から北側へ配水されたものと考えられる。

7-2区3号水田の北側を画する畦畔であるが、その北側では明確な水田区画は検出出来なかった。

(5) 7-2区2面5号畦畔(第56図)

位置 7-2区2面。X=61079~080、Y=-92306~308。

主軸方位 N-64°-E。

規模 検出全長約1.50m、基底部幅約0.46~0.58m、比高差約0.01~0.05m前後。

遺物 なし。

所見 調査区の北東寄りでは北東-南西方向に検出された。

東端は調査区東壁外へと伸びている。西端はX=61079.2、Y=-92308.6付近で止まる。

西側では対応する部分が全く検出されず、東壁から西へ約1.5m程度の部分しか検出されなかったため、詳細は不明である。また、本畦畔によって画された水田区画も検出されなかった。

(6) 7-2区2面6号畦畔(第56図)

位置 7-2区2面。X=61082、Y=-92308~311。

主軸方位 N-88°-E。

規模 検出全長約2.90m、基底部幅約0.48~0.76m、比高差約0.01~0.07m前後。

遺物 なし。

所見 調査区の北東隅寄りではほぼ東西方向に検出された。東端は調査区東壁外へと伸びている。西端は

X=61082.5、Y=-92311.1付近で止まる。

7-2区2面5号畦畔と同様、西側では対応する部分が全く検出されず、東壁から西へ約3m程度の部分しか検出されなかったため、詳細は不明である。また、本畦畔によって画された水田区画も検出されなかった。

時期 天仁元(1108)年以前で古代のものと考えられる。

2. 溝

本調査区では、調査区の南端付近で検出された東北東-西南西方向の13号溝1条が検出された。7-2区2面2号畦畔の南側を掘り込んでおり、本調査区で検出された水田よりは新しい時期の遺構と考えられる。

・13号溝(第56図、PL.47)

位置 7-2区2面。X=61069~072、Y=-92304~314。

重複 7-2区2面2号畦畔を掘り込む。

主軸方位 N-70~74°-E。

規模 検出全長10.20m、上幅0.24~0.98m、下幅0.12~0.36m、深さ0.08~0.15m。

埋土 径約2~5mm程度の軽石を少量含む黒褐色土。

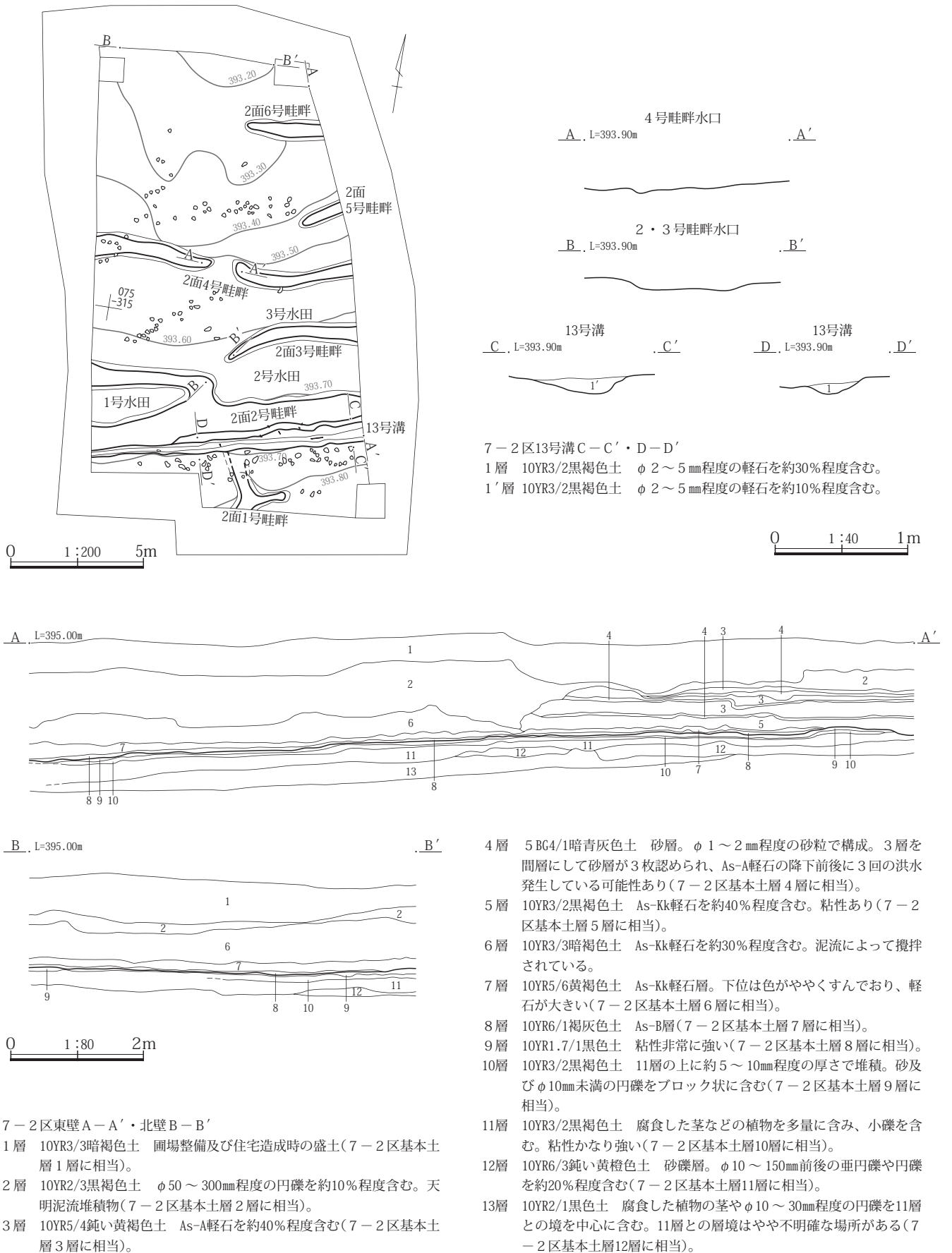
遺物 礫、自然木などが出土したが、遺物は出土しなかった。

所見 調査区の南端付近を東北東から西南西へとほぼ直線状に流れる。上流東北東側と下流西南西側との溝底の比高差は0.02mとわずかである。

東西両端はそれぞれ調査区外へと伸びている。掘方は浅く、断面は口が大きく開いた扁平なU字形を呈している。

規模・形状・走向・埋土等の状況から見て、西側に隣接する7-1区2面で検出された2号溝との共通性が多く看取できるので、本溝が7-1区2面で検出された2号溝の東側に継続する部分である可能性が高いものと考えられる。7-1区2面で検出された2号溝は、12世紀前半に降下した浅間山火山灰As-Kkを掘り込んでおり、12世紀初頭及び前半に降下した浅間山火山灰層の下から検出された古代の水田よりは新しい時期の遺構と考えられた。

本溝では、7-1区2号溝のように、12世紀前半に降下した浅間山火山灰を掘り込んでいる明確な痕跡は見出



第56図 7-2区2面全体図、土層断面図、2~4号畦畔水口エレベーション図、13号溝土層断面図

すことが出来なかったが、7-2区2面2号畦畔の南側基部を掘り込んでおり、12世紀初頭及び前半に降下した浅間山火山灰層の下から検出された古代の水田と同一面において確認され、調査されたものの、この古代水田よりは新しい時期の遺構であることは確実である。

このことによっても、本遺跡7-1区2面において検出された2号溝の東側の継続部分である可能性は高いと言えるだろう。

なお、本調査区の東側約30mにおいて隣接する9区2面で検出された18号溝が、本溝のさらに東側継続部分である可能性が高い。

時期 12世紀初頭以降、天明3(1783)年以前で、古代末期～中世のものと考えられる。

第12節 8-1区1面の遺構と遺物

8区は、南北方向に走向する一般県道郷原停車場線を挟んで6区の約25～30m東側に、また、東西方向の生活道路を挟んで9区の約11m南側に位置する逆L字形の平面形態を呈する調査区で、調査区の北辺は東西方向の生活道路に、西辺は南北方向の一般県道郷原停車場線にそれぞれ面している。調査区の北西隅は、東西方向の生活道路と南北方向の一般県道郷原停車場線との交差点に当たっている。

用地の関係によって、ほぼX=61045ラインを境にして、南北に調査区を分割し、調査年次も分けられた。

北側に位置する鉤の手状の平面形態を呈する調査区である8-1区は、平成25(2013)年9月下旬から調査に着手し、10月初旬に1面の調査を終了し、その後、引き続き2面目の調査を行い、10月下旬に調査を終えている。

本調査区においても1面では天明泥流下の水田面が検出された。

1. 水田(第57・58図、PL.49・50・75)

調査区の全域において天明3(1783)年の浅間山噴火によって生じた天明泥流によって覆われた水田が検出された。水田耕作土である黒色粘質土は全域で検出されたが、畦畔によって画された水田区画が検出されたのは、調査区の東端付近の一部のみである。北壁際と調査区の中央を西-東南東方向に流れる3号溝に沿って南側に畦畔が

検出されているが、明確な水田区画はあまり検出されなかった。

検出されたのは水田区画7区画分、畦畔7本である。水田区画全域が検出されたものは一つとしてなく、区画のごく一部が部分的に検出されたに過ぎないものの、調査区東端部では、隅丸方形ないし長方形の小規模な区画であったことが推測出来る。天明泥流下から検出された近世水田で、古墳時代の小区画水田と見紛うばかりの小区画状の水田区画が造られていた例は、これまで皆無であり、地形的な制約によって、たまたま見かけ上、小区画状の水田区画が営まれたものと考えられる。

Y=-92243ライン以西では水田耕土は全域で検出されているものの、水田区画は検出されなくなる。東端部で検出された小規模な水田区画の中で、最も西側から検出された8-1区5号水田は、明らかに西側に続く様相であるので、水田区画自体が造られなかったということではなく、上面の削平等の状況によって検出出来ないだけで、水田区画自体は造られていた可能性が高いものと考えられる。また、調査区内において棚田を形成した段差は一箇所も検出されなかった。調査区内では高低差はあるものの、調査区全域にわたって比較的安定した平坦な水田面が形成されていたものと推定することが出来る。

検出面の地形は、おおむね南西から北東方向に徐々に低くなっているが、最も標高が高いのは調査区の中央部のX=61058.5、Y=-92252.5付近で、その地点と最も低い調査区北東隅との比高差は約0.45m程度である。調査区南西隅付近と調査北東隅付近との比高差は約0.35m程度である。調査区の南端から3号溝までの間は、かなり広い範囲で標高395.10～395.15m程度の平坦面が形成されている。調査区中央部をほぼ東西方向で流れる3号溝のすぐ北東側一帯が最も標高が高く、395.25～395.30m前後であり、そこから北側に向かって低くなっており、またY=-92255ラインより東側では、東側に向かって緩やかに低くなっている。

3号溝の北岸では杭列Aが検出された。3号溝の北側護岸のための杭列であると考えられるが、杭はまばらに打ち込まれた状態で、溝北岸の若干の補強程度のものと思われる。なお、出土した杭の主なもののは後掲の一覧表(第4表)に示した。

また、8-1区1面5号畦畔東側の水田面から寛永通宝1点が出土している(第57図1)。

8-1区1号水田(X=61068~069、Y=-92230~232) 調査区東端の南東隅。調査区東端部の南壁際で東北東-西南西方向で検出され8-1区1面1号畦畔に北側を、1号畦畔が西側に取り付く調査区東端部で検出された北西-南東方向の8-1区1面2号畦畔に西側を画された水田区画で、区画の北西隅のごく一部がわずか0.46㎡検出されたに過ぎない。

8-1区1面1号畦畔を隔てた北側に8-1区2号水田、8-1区1面2号畦畔を隔てた西側に8-1区3号水田が隣接する。

8-1区2号水田(X=61069~073、Y=-92230~234) 調査区東端部の南東隅で検出された8-1区1号水田北側に8-1区1面1号畦畔を隔てて隣接する水田区画である。西側は8-1区1面2号畦畔によって画され、8-1区4号水田に隣接する。北側及び東側はそれぞれ調査区外へと広がっている。

水田区画の南西隅部の一部が9.67㎡検出されているに過ぎない。検出面の標高はおおむね394.80mである。

8-1区3号水田(X=61065~069、Y=-92232~241) 調査区東端部の南端付近で水田区画の北東隅部分が東西に細長い範囲にわずかに検出された。東側は8-1区1面2号畦畔に画され8-1区1号水田に隣接し、北側は北東-南西方向の8-1区1面3号畦畔によって画され8-1区4号水田に隣接する。

区画の南側大半は調査区外へと広がっており、水田区画北辺と北東隅が5.73㎡検出されたに過ぎず、詳細は不明である。辛うじて北西隅の一部が検出出来、区画の東西長は9.20mである。

8-1区4号水田(X=61067~072、Y=-92234~241) 調査区東端部で水田区画の南側が検出された。区画の南北長は3.20m以上、東西幅は6.50mで、検出面積は18.43㎡である。

東側は8-1区1面2号畦畔に画され8-1区2号水田に隣接し、南側は8-1区1面3号畦畔によって画され8-1区3号水田に隣接し、西側は8-1区1面4号畦畔に画され8-1区5号水田に隣接する。区画の北側大半は調査区外へと広がっている。

区画内の標高はおおむね394.80~394.85mで、区画

内の高低差はほとんど検出出来なかった。

なお、水田面において萱状の植物遺存体が2か所で検出された。

8-1区5号水田(X=61068~070、Y=-92242) 調査区東端部の北端付近で水田区画の南東隅のごく一部が検出された。

東側は8-1区1面4号畦畔に画され8-1区4号水田に隣接し、区画の北側大半は調査区外へと広がっている。

8-1区1面4号畦畔西側のごくわずかな部分しか検出されず、詳細は全く不明である。なお、本水田区画から西側8-1区6号水田の東側を画する8-1区1面5号畦畔までの間は、水田区画は検出出来なかった。

8-1区6号水田(X=61060~066、Y=-92254~261) 調査区北端部の北西寄りに位置する。東側を北北西-南南東方向の8-1区5号畦畔に、西側を同じく北北西-南南東方向の8-1区1面6号畦畔によって画される。南側3号溝北岸側に、3号溝に沿って部分的に帯状に標高がわずかに高い部分が認められるが、畦畔として検出できるようなレベルのものではないので、南側がどのように画されたのかは全く不明である。また、北側の大半は調査区北壁外へと広がっており、検出範囲の北寄りの部分を確認調査時の試掘坑によって破壊されてもいるため、詳細は不明な点が多い。検出面積は27.36㎡である。

区画内は南西側から北東側に向かってごくわずか、緩やかに低くなっていく様子が看取できる。

東側を画する8-1区1面5号畦畔、西側を画する8-1区1面6号畦畔いずれも、南側先端部が北壁からおおよそ3~4m付近のところまで止まっているため、南側に水口が開いていた可能性も想定出来る。

8-1区7号水田(X=61044~058、Y=-92253~266) 調査区の中央で東西方向に検出された8-1区1面7号畦畔に北側を画され、東・西・南の三方向はそれぞれ調査区外へと広がっている。本調査区において検出された水田区画としては最大となり、調査区北東部で検出された小区画状の8-1区1~4号水田とは明らかに様相が異なる。南北長約7.3~13.5m、東西幅約9.3m、検出面積約105.6㎡。

検出範囲内では本調査区において最も安定した平坦面

が形成されており、標高はおおむね395.10～395.15m前後であり、西側から東側に向かって非常に緩やかに傾斜している。

(1) 8-1区1面1号畦畔(第57図)

位置 8-1区1面。X=61069、Y=-92230～232。

主軸方位 N-75°-E。

規模 検出全長約2.20m、基底部幅約0.65～0.78m、比高差約0.02～0.07m前後。

遺物 なし。

所見 調査区東端部南壁際で検出された東北東-西南西方向の畦畔。東端部は調査区東壁の外側へと伸びており、西端部はX=61069.5、Y=-92232.5付近で北西-南東方向の8-1区2号畦畔に取り付く。

南側の8-1区1号水田と北側の8-1区2号水田とを東西に画する畦畔であるが、わずかに2.20mしか検出されなかったため、詳細は不明である。

(2) 8-1区1面2号畦畔(第57図、PL.49)

位置 8-1区1面。X=61068～072、Y=-92232～235。

主軸方位 N-22～26°-W。

規模 検出全長約4.20m、基底部幅約0.36～0.62m、比高差約0.02～0.05m前後。

遺物 なし。

所見 調査区東端部で北西-南東方向に検出された。東側8-1区1・2号水田と西側8-1区3・4号水田とを画する。

南北両端はそれぞれ調査区外へと伸びている。南端近くのX=61069.5、Y=-92232.5付近で東北東-西南西方向の8-1区1号畦畔が東側に取り付き、中央よりやや南側に寄った位置のX=61070、Y=-92233.5付近で西側に8-1区1面3号畦畔が取り付く。

畦畔の高まりの部分は浸食を受けたせいか、凹凸が激しく残存状態は良くない。

(3) 8-1区1面3号畦畔(第57図、PL.49)

位置 8-1区1面。X=61066～069、Y=-92232～241。

主軸方位 N-60°-E。

規模 検出全長約9.20m、基底部幅約0.65～1.27m、比高差約0.01～0.08m前後。

遺物 なし。

所見 調査区東端部で北東-南西方向に検出された。南側8-1区3号水田と北側8-1区4号水田とを画する。

東端は8-1区1面2号畦畔の中央よりやや南側に寄った位置のX=61070、Y=-92233.5付近に取り付く。西端はX=61066.4、Y=-92242付近で南北方向の畦畔に取り付いているが、取り付く南北方向の畦畔が不明瞭である。

(4) 8-1区1面4号畦畔(第57図)

位置 8-1区1面。X=61068～070、Y=-92240～242。

主軸方位 N-15°-W。

規模 検出全長約2.30m、基底部幅約0.90～1.10m、比高差約0.01m前後。

遺物 なし。

所見 調査区の東寄りでは北北西-南南東方向に検出された。東側8-1区4号水田と西側8-1区5号水田とを画する。北端は調査区北壁外へと伸びており、南端はX=61068.5、Y=-92241.5付近で西側にほぼ直角に屈曲するが、東西方向の畦畔に取り付いているか、あるいは形状や走向の変化なのかは不明である。

(5) 8-1区1面5号畦畔(第57図、PL.49・50)

位置 8-1区1面。X=61062～066、Y=-92253～255。

主軸方位 N-25°-W。

規模 検出全長約3.80m、基底部幅約0.82～0.95m、比高差約0.01m前後。

遺物 なし。

所見 調査区北端の中央から西寄りの位置で北北西-南南東方向に検出された。8-1区6号水田の東側を画する。北端は調査区北壁外へと伸びており、南端はX=61062.5、Y=-92253.5付近で止まる。南端部分は水口の可能性もある。

北壁際の部分を確認調査時の試掘坑によって破壊されている。



8-1区A-A'・B-B'・C-C'

- 1層 10YR4/2灰黄褐色土 表土、水田耕作土(8-1区基本土層1層に相当)。
- 2層 10YR4/2黒褐色土 平成5(1993)年土地改良に伴う圃場整備にて移動した堆積土(8-1区基本土層2層に相当)。
- 3層 10YR3/1黒褐色土 As-A泥流堆積物層。φ20~700mm程度の礫を含む。礫は火山性の熱を受けたものを含む。軽石混じり(8-1区基本土層3層に相当)。
- 4層 10YR3/3黒褐色土 φ2~5mm程度の軽石を約10%程度含む。締まりあり。1面水田面(8-1区基本土層4層に相当)。
- 5層 10YR5/4鈍い黄褐色土 φ1~30mm程度の発泡したAs-Kk軽石層。ざらざらした砂質感あり(8-1区基本土層5層に相当)。
- 6層 10YR5/4鈍い黄褐色土 φ1~30mm程度の発泡したAs-B軽石層。ざらざらした砂質感あり(8-1区基本土層6層に相当)。
- 7層 10YR1.7/1黒色土 泥炭化している。細い根や茎が入る。粘性あり。2面水田面(8-1区基本土層7層に相当)。
- 8層 7.5YR5/2灰褐色土 砂礫層。φ10~50mm程度の円礫を約30%程度含む。
- 9層 10YR4/1褐灰色土 細砂粒土。φ2~8mm程度の黄褐色円礫と軽石とが混入。φ20mm程度の火山灰に似たブロックが斑に混じる(8-1区基本土層8層に相当)。
- 10層 10YR5/2灰黄褐色土 鈍い黄褐色のφ2~10mm程度の軽石を約7%程度含む。軽石はφ5mm程度のものが多く、指で潰れる硬さ(8-1区基本土層9層に相当)。
- 11層 10YR6/1褐灰色土 Hr-FA層。層厚約0.5~20mm程度(8-1区基本土層10層に相当)。
- 12層 10YR2/1黒色土 水田面を検出すべく調査を行ったが水田跡と確認できる畦や溝などは未検出であった。本層上面には起伏があり、部分的に洪水で面が削られた痕跡と見られる。砂礫層が堆積(8-1区基本土層11層に相当)。

第57図 8-1区1面全体図、土層断面図、出土遺物

(6) 8-1区1面6号畦畔(第57図、PL.49)

位置 8-1区1面。X=61060~062、Y=-92261~262。

主軸方位 N-4°-W。

規模 検出全長約2.20m、基底部幅約0.80~1.11m、比高差約0.01~0.03m前後。

遺物 なし。

所見 調査区北西寄りの位置で北北西-南南東方向に検出された。8-1区6号水田の西側を画する。北端は調査区北壁外へと伸びており、南端はX=61060.7、Y=-92261.5付近で止まる。南端部分は水口の可能性もある。

北端部分を確認調査時の試掘坑によって破壊されており、試掘坑と調査区北壁の間のわずかの部分では検出することが出来なかった。

(7) 8-1区1面7号畦畔(第57図、PL.49)

位置 8-1区1面。X=61055~059、Y=-92253~266。

主軸方位 N-65~90°-W。

規模 検出全長約12.50m、基底部幅約0.92~1.45m、比高差約0.01~0.04m前後。

遺物 なし。

所見 調査区の中央で西-東南東方向に検出された3号

溝の南岸に沿う。畦畔の南側は標高395.10~395.15m前後の安定した平坦面が広がっている。畦畔南側から調査区の東・西・南壁を越えた範囲が1筆の広い水田区画であったと考えられる。

時期 天明3(1783)年以前で近世のものと考えられる。

2. 溝

調査区の中央部で西-東南東方向の溝が1条検出された。水田に伴う水路と考えられる。

・3号溝(第57・59図、PL.50)

位置 8-1区1面。X=61055~059、Y=-92253~266。

重複 なし。

主軸方位 N-65~90°-W。

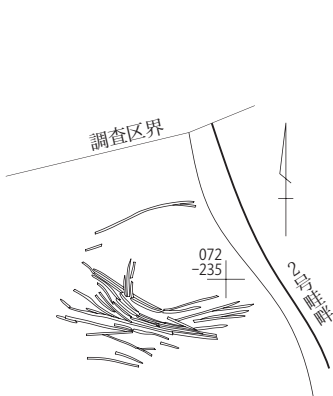
規模 検出全長12.50m、上幅0.55~0.84m、下幅0.26~0.62m、深さ0.29~0.73m。

埋土 天明泥流層の黒褐色土に直接覆われている。

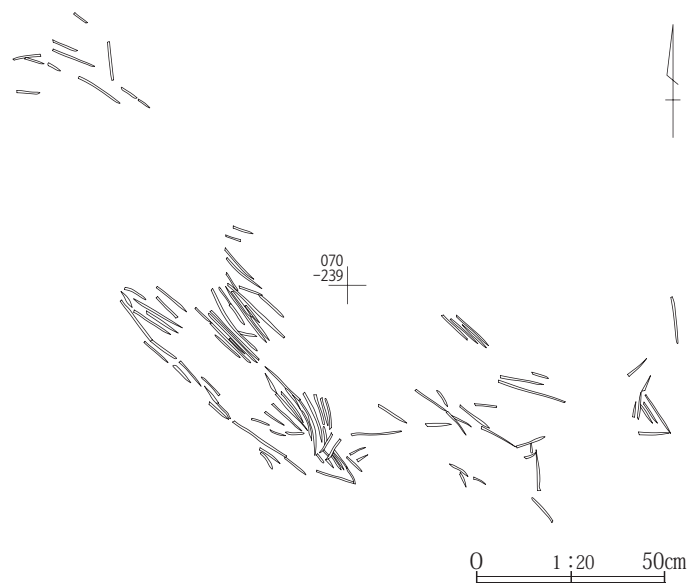
遺物 北側に沿う杭列Aから流れ込んだとみられる木杭片が出土。

所見 調査区の中央で西-東南東方向に検出された。地形自体は西側から東側に向かって非常に緩やかに傾斜しているが、溝底の標高は394.83~394.93mで、東西のどちらか一方に傾斜しているわけではなく、全体的にわ

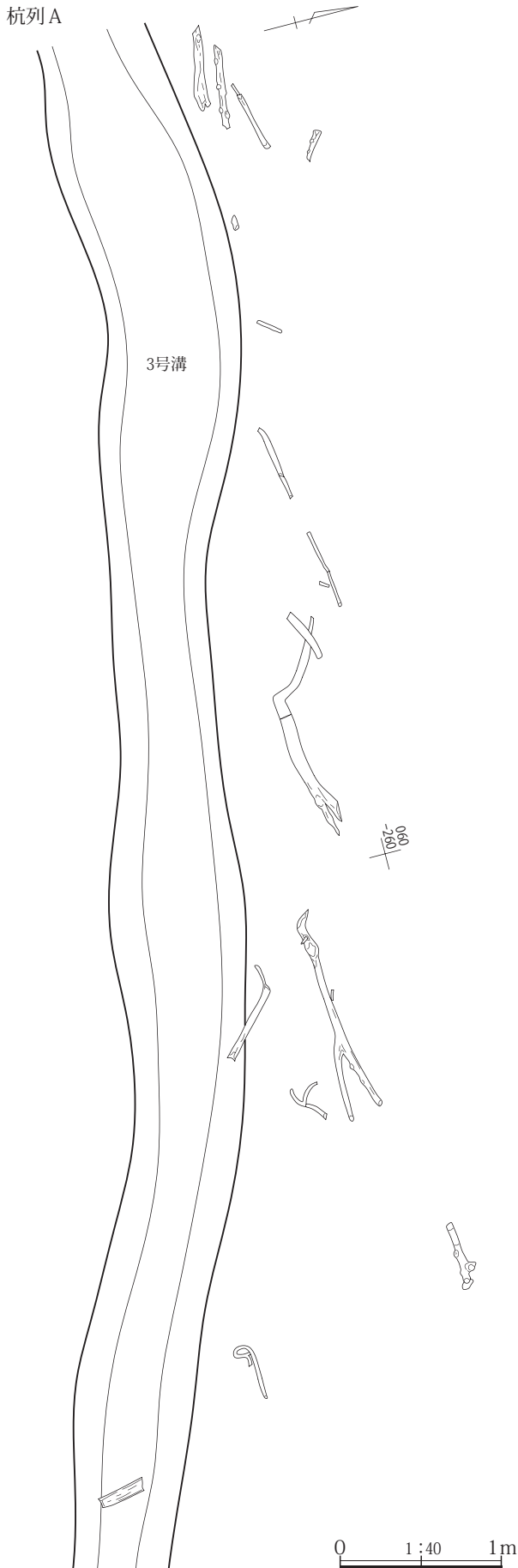
4号水田植物遺存体出土状況1



4号水田植物遺存体出土状況2



第58図 8-1区1面4号水田植物遺存体出土状況



第59図 8-1区1面3号溝杭列A平面図

ずかな差異はあるものの平均しており、概して平坦である。一気に天明泥流によって埋没しており、溝自体の堆積土は検出されなかったので、溝埋土の状況からも流れた方向は明確にはし難い。

比較的しっかりとした掘方を有し、断面はやや扁平なU字形を呈する。

溝の南側には8-1区1面7号畦畔が造られており、水田に伴う水路であることは間違いなさだろうが、北岸側では部分的に周囲よりも標高が高くなっている箇所が認められるものの、散漫な状態で、明確に畦畔の存在を検出することは出来なかった。また、水田に伴うことは明白ながらも、溝から水田区画への取水・配水の状況も明確にはし難かった。

北岸側で杭列Aが検出された。水路の護岸・補強のための造作と見られる。水路の南岸側の7-1区1面7号畦畔では、杭列等による護岸・補強の施工は一切行われていない。

杭列A X=61058～060、Y=-92256～265の東西約8.5m・南北約1.7m程度の範囲に15本の杭が集中して出土した。地中に突き刺された状態ではなく遺構確認面の表面からの出土であった。

元来は3号溝北岸側の護岸・補強のため造作されたものと考えられる。

時期 天明3(1783)年以前で近世のものと考えられる。

第13節 8-1区2面の遺構と遺物

12世紀前半と天仁元(1108)年の浅間山噴火による火山灰で覆われた面である。2面では、隣接する6区、8-2区、9区と同様、12世紀前期の浅間山噴火によって降下した火山灰As-Kk及び天仁元(1108)年の浅間山噴火によって降下した火山灰As-Biによって覆われた古代の水田面とそれに伴う畦畔が2か所(8-1区2面1・2号畦畔)、畦畔によって画された水田区画1か所(8-1区8号水田)、溝6条(6～9・20・21号溝)などの遺構が検出された。

2面も1面と同様、南西側から北東側へと傾斜する地形で、とくに鉤の手状の平面形態である調査区の「把手」に当たる部分、X=61045～060の範囲ではやや傾斜度が高い。最も標高が低い北東端部が394.15m前後、標高

が最も高い調査区南西端部付近では395.15mで、比高差は最大で1.00mとなる。

8-1区2面は、1面の調査に引き続いて平成25(2013)年10月上旬から調査に着手され、10月下旬に調査を終了した。

12世紀前半の浅間山噴火によって降下した火山灰As-Kk及び天仁元(1108)年の浅間山噴火によって降下した火山灰As-Bによって覆われた遺構は、隣接する6区、8-2区、9区からも検出されている。

本調査区の西側に隣接する6区では南北方向の溝が1条検出されただけで水田区画や段差等は全く検出されず、水田が営まれていたか否かは不明確であったが、本調査区の南側に隣接する8-2区や北側に隣接する9区では小区画状の水田区画を含む水田区画が明瞭に検出された。

本調査区でも、水田耕土の黒色粘質土が全域にわたって検出され、調査区東端部では中央に水口を有する南北方向の畦畔が検出され(8-1区2面2号畦畔)、水田が営まれていたことは明白であるものの、約1.2~1.3mの間隔で並行する溝(8・9号溝と20・21号溝)が検出されるなど、水田面のかなりの部分が攪乱されており、水田の状況をあまり明瞭にはし難かった。

調査区中央やや北寄りの位置から検出された6・7号溝は、6号溝が調査区の中央で検出された東西方向の8-1区2面1号畦畔の東端を掘り込んでおり、また、7号溝が8号溝の南端を掘り込んでいるため、明らかに水田よりは新しい時期の遺構と考えられる。しかしながら、7-1区2面から検出された柱穴列やピット、溝の一部などのように、12世紀前半に降下した浅間山火山灰As-Kkを掘り込んでいるような検出状況ではないので、12世紀に降下した浅間山火山灰によって覆われた遺構よりも明確に新しい時期のものとはまでは確定することが出来ない。

なお、2面の調査終了後、平成25(2013)年10月下旬から11月初頭にかけてさらに下層の古墳時代後期の6世紀中葉に降下した榛名山二ツ岳火山灰Hr-FA層下の遺構の有無を確認するため、調査区の南西、南端、南東側に試掘坑を設定して確認調査を実施した。南西側から北東方向に向かって、比較的急に傾斜する地形であることを確認することは出来たが、遺構は確認することが出来な

かった(第62図)。

1. 水田(第60図、PL.51~54)

調査区の全域において12世紀前半と12世紀初頭の天仁元(1108)年の浅間山噴火によって覆われた水田耕作土である黒色粘質土が検出されたが、畦畔によって画された水田区画が検出されたのは、調査区の東北端付近のごく狭い範囲のみである。

調査区西寄りの中央でも東西方向の畦畔状の高まりが検出され、畦畔として報告するが(8-1区2面1号畦畔)、畦畔の北側では6条の溝が検出され、水田面はかなり攪乱された状態である。明瞭に検出出来た水田区画は一箇所も無く、調査区北東隅で水田区画の西端部の一部が辛うじて検出出来たに過ぎなかった。

8-1区8号水田(X=61068~073、Y=-92230~238) 調査区北東隅。調査区北東端付近で北北西-南南東方向に検出された8-1区2面2号畦畔によって西側を画された水田区画で、東側、北側、南側いずれも調査区外へと広がっており、区画の西端部のごく一部がわずかに検出されたに過ぎない。検出面積は24.03㎡である。

検出範囲内では標高394.15~394.20mの比較的安定した平坦面が形成されており、水田面は西高東低である。

区画の西側を画する8-1区2面2号畦畔の中央では水口が検出され、西側から区画への配水がなされたものと考えられる。

(1) 8-1区2面1号畦畔(第60図、PL.51・52)

位置 8-1区2面。X=61055~056、Y=-92256~265。

重複 東端を6号溝に掘り込まれる。

主軸方位 N-87~89°-E。

規模 検出全長約8.50m、基底部幅約0.58~0.61m、比高差約0.01~0.10m前後。

遺物 なし。

所見 調査区西端部で東西方向に検出された。西端は調査区西壁外へと伸びている。東端は6号溝によって掘り込まれている。

先述したように、畦畔の北側では、畦畔よりも明らかに新しい6・7号溝ばかりでなく、南西-北東方向の並行する8・9・20・21号溝が検出されているなど、安定

した水田が営まれていたとは考えにくい状況ではあるが、これら8・9・20・21号溝は、不明確ながらも水田よりも新しい時期のものである可能性も考えられる。

また、畦畔の南側は、調査区南西隅から北東方向にやや急に傾斜する地形であり、調査区南東隅と畦畔南側との比高差は0.45mとなっている。畦畔から南の調査区東・西・南壁までの範囲では、水田区画も一切検出されおらず、比高差から見ても畦畔南側についても安定した水田面が形成されていたとは考えにくい状況である。

(2) 8-1区2面2号畦畔(第60図、PL.51)

位置 8-1区2面。X=61067～071、Y=-92235～239。

主軸方位 N-30～34°-W。

規模 検出全長約4.26m、基底部幅約1.06～1.80m、比高差約0.01～0.12m前後。

遺物 なし。

所見 調査区東端部で北西-南東方向に検出された。東側8-1区8号水田を画する。畦畔の西側からは水田区画は検出されなかった。

中央部に西側に向けて水口が開く。水口の幅は約0.18～0.24m前後で、西側から東側8-1区8号水田への配水を意図したものと考えられる。水口部分から8-1区8号水田面は約0.03～0.1m程低くなっている。

時期 天仁元(1108)年以前で古代のものと考えられる。

2. 溝

本調査区2面では、調査区中央から北寄りの位置で計6条の溝が検出された。

このうち最も南寄りの位置から北西-南東方向に検出された6号溝は、調査区中央で東西方向に検出された7号溝から分岐して派生した溝である。

調査区北寄りの位置を南西-北東方向に検出された南側8号溝と北側9号溝とは、両溝心々間約2m等間隔で並行しており、走向もほぼ一致している。両溝の埋土の状況も類似しており、共通性が認められる。

同様に、調査区の北西寄りでも、8・9号溝の間から検出された20号溝と、9号溝の北側に位置する21号溝も約2.5m間隔でほぼ同じ走向で並行して検出されており、8・9号溝程長く検出された訳ではないものの、両溝は、

8・9号溝と同質の相関関係にある可能性が高いものと考えられる。

6号溝は8-1区2面1号畦畔を掘り込んでおり、また、8号溝は7号溝によって掘り込まれている。6・7号溝が1号畦畔や8号溝よりも新しい時期のものである。また、8号溝が20号溝を掘り込んでいることから見れば、相関関係にあると見られる8・9号溝は、同様に相関関係にあると見られる20・21号溝を掘り直したものである可能性も考えられる。

6号溝が8-1区2面1号畦畔を掘り込んでいるので、6号溝とその本流である7号溝は、明らかに水田よりは新しい時期のものと考えられる。

8・9号溝も、また、それらよりも先行する20・21号溝も、走向が本調査区2面において検出された2本の畦畔とは全く異なるので、水田に伴う水路とは考えにくく、水田面と同レベルにおいて検出されていることから見ても、水田よりも新しい時期の溝と考えざるを得ない。

なお、本調査区で検出された6条の溝の継続部分は、他の調査区では全く検出されなかった。

(1) 6号溝(第60・61図、PL.51)

位置 8-1区2面。X=61055～058、Y=-92254～263。

重複 8-1区2面1号畦畔を掘り込む。

主軸方位 N-57～63°-W。

規模 検出全長8.00m、上幅0.60～1.00m、下幅0.25～0.45m、深さ0.11～0.26m。

埋土 発泡した軽石小粒を約30%程度含む褐灰色土。

遺物 なし。

所見 調査区中央からやや北寄りに位置する東西方向の7号溝の西壁から約4.5mの地点で分岐し、北西から南東方向に流れ東端は調査区東壁外へと伸びる。溝底の標高は394.41～394.50mである。

しっかりと掘方をして、断面はやや扁平な逆台形状を呈する。

杭列B X=61055～057、Y=-92255～260の東西約5m・南北約2m程度の範囲に19本の杭が集中して出土した。本遺跡の調査において、2面で検出された唯一の杭列である。

6号溝の南側に、比較的ランダムに地中に突き刺さっ

た状態で出土している。杭の長さはあまり長いものではなくほぼ30cm以内に収まるもので、斜めに地中に打ち込まれてはいるが、直立に近い状態のものも少なくない。

杭列に伴って畦畔や堤状の高まりは全く検出されていない。また、溝岸の斜面に打ち込まれていたものは少ない。6号溝南岸側の護岸というよりは、溝岸の補強のため造作されたものと考えられるが、本遺跡の各調査区1面で検出された他の杭列に多く見られるように密集した状態で検出された訳ではないので、最小限の補強を目的にしたものと推測できる。

杭の状態はかなり疎らであり、溝岸の補強を目的とした造作で有ったとすれば、果たして効果はどれほど期待できたのか、若干、疑問の余地が無いわけではない。

時期 天仁元(1108)年以前で古代のものと考えられるが、検出された水田面よりは新しい時期のものと見られる。

(2) 7号溝(第60図、PL.51)

位置 8-1区2面。X=61058~061、Y=-92251~266。

重複 8号溝を掘り込む。

主軸方位 N-80~85°-E。

規模 検出全長14.90m、上幅0.60~0.80m、下幅0.20~0.40m、深さ0.13~0.33m。

埋土 発泡した軽石小粒を約50%程度含む黒褐色土。

遺物 なし。

所見 調査区中央からやや北寄りに位置する東西方向の溝。溝底の標高は394.29~394.43mで、東西どちらか一方に傾いておらず、流れた方向は不明である。

しっかりとした掘方を有し、断面は逆台形状を呈する。

時期 天仁元(1108)年以前で古代のものと考えられるが、検出された水田面よりは新しい時期のものと見られる。

(3) 8号溝(第60図、PL.51・53)

位置 8-1区2面。X=61060~066、Y=-92245~258。

重複 7号溝に西端を掘り込まれる。20号溝東端を掘り込む。

主軸方位 N-54~76°-E。

規模 検出全長14.00m、上幅0.50~1.0m、下幅0.20~0.50m、深さ0.01~0.18m。

埋土 上層に発泡した軽石を約50%程度含む黒褐色土、下層に鈍い黄褐色土。

遺物 なし。

所見 調査区北寄りの中央を南西側にやや屈曲する南西-北東方向の溝。西端は7号溝によって掘り込まれる。東端は北側に並行する9号溝と同様、Y=-92245ライン付近で検出出来なくなる。

溝底は部分的に深く掘り下げられる箇所もあり、溝底面は若干の起伏があり一定していない。部分的に長大な土坑が連結したような形状になっている箇所もある。

溝底の標高は東側約3/5では394.37~394.44m、西側約2/5では394.48~394.59mと東側3/5の方が若干低めであるが、一方的な傾斜は全く検出出来ない。

掘方は全体に浅く、断面は扁平な逆レンズ状を呈している。

北側に並行する9号溝とは走向がほぼ一致している上、心々間約2mでほぼ一定しており、両溝は一体のものであったと考えられる。両溝とも底面に起伏があり、埋土に水流の痕跡が無いことや、部分的に長大な土坑が連結しているかのような構造になっていることから見て、両溝の中間部分において硬化面は検出されなかったものの、道路の両側溝であった可能性も考えられる。

時期 天仁元(1108)年以前で古代のものと考えられるが、検出された水田面よりは新しい時期のものと見られる。

(4) 9号溝(第60図、PL.51・53)

位置 8-1区2面。X=61061~068、Y=-92245~259。

重複 なし。

主軸方位 N-54~76°-E。

規模 検出全長16.80m、上幅0.45~0.95m、下幅0.20~0.50m、深さ0.01~0.22m。

埋土 発泡した軽石を約50%程度含む黒褐色土主体で、底に薄く鈍い黄褐色土が堆積している。

遺物 なし。

所見 調査区北寄りから北壁際の中央を南西側にやや屈曲する南西-北東方向の溝。西端はX=61061.5、Y=

—92259.5付近で止まる。東端は約1.2m程度南側に並行する8号溝と同様、 $Y = -92245$ ライン付近で検出出来なくなる。

8号溝と同様、溝底は部分的に深く掘り下げられる箇所もあり、溝底面は若干の起伏があり一定していない。検出範囲では東端1/5、中間部1/5、東側3/5と東側溝状の部分の西に2つの細長い土坑が連結したような形状になっている。

溝底の標高は東側約3/5では394.36～394.46m、中間部約1/5では394.30～394.48m、東端約1/5では394.51～394.55mと東端約1/5が浅く、中間部から東端にかけては若干深めになっている。全体的に浅い東端1/5の部分以外では、部分的な高低差はあるが、南側に並行する8号溝と同様、一方的な傾斜は全く検出出来ない。

掘方は、全体的に浅い東端約1/5部分を除いて8号溝よりも比較的しっかりと掘方を有しており、断面はやや扁平な逆台形状を呈している。

先述したように、南側に並行する8号溝とは走向がほぼ一致している上、溝の心々間約2mでほぼ一定しており、両溝は一体のもので、道路の両側溝であった可能性も考えられる。

時期 天仁元(1108)年以前で古代のものと考えられるが、検出された水田面よりは新しい時期のものと見られる。

(5)20号溝(第60図、PL.51・53)

位置 8-1区2面。X=61061～063、 $Y = -92253 \sim 258$ 。

重複 東端を8号溝に掘り込まれる。

主軸方位 N-61～72°-E。

規模 検出全長5.50m、上幅0.40～0.60m、下幅0.10～0.30m、深さ0.01～0.05m。

埋土 発泡した軽石を約50%程度含む黒褐色土。

遺物 なし。

所見 調査区北西寄りに位置する。南西側にやや屈曲する南西-北東方向の溝。西端はX=61061、 $Y = -92258.5$ 付近で止まる。東端の南側を8号溝に掘り込まれるが、 $Y = -92253$ ライン付近で検出出来なくなる。

約1.5m北側にほぼ同じ走向の21号溝があり、溝の心々

間約2.5mで並行している。8・9号溝と同様、21号溝とともに道路の両側溝である可能性が考えられる。

20号溝は8号溝によって東南端部を掘り込まれているので、8・9号溝が道路の両側溝であると仮定すると、20・21号溝はそれよりも先行する道路の南北側溝であり、走向から見て、20・21号溝を側溝とする道路を造り替えたものが8・9号溝を側溝とする道路であると見ることが出来る。なお、8・9号溝の間の部分同様、20・21号溝の間の部分でも硬化面等は検出されなかった。

溝底の標高は394.55～394.59mで、比較的平坦であり、片側に傾斜した様子は全く見られない。また、検出範囲が少ないため、8・9号溝のような土坑連結状の形状も確認することが出来なかった。

掘方は、浅く極めて扁平な逆レンズ状を呈する。

時期 天仁元(1108)年以前で古代のものと考えられるが、検出された水田面よりは新しい時期のものと見られる。

(6)21号溝(第60図、PL.51・53)

位置 8-1区2面。X=61063～065、 $Y = -92255 \sim 258$ 。

重複 なし。

主軸方位 N-62°-E。

規模 検出全長2.80m、上幅0.40～0.75m、下幅0.20～0.40m、深さ0.02～0.03m。

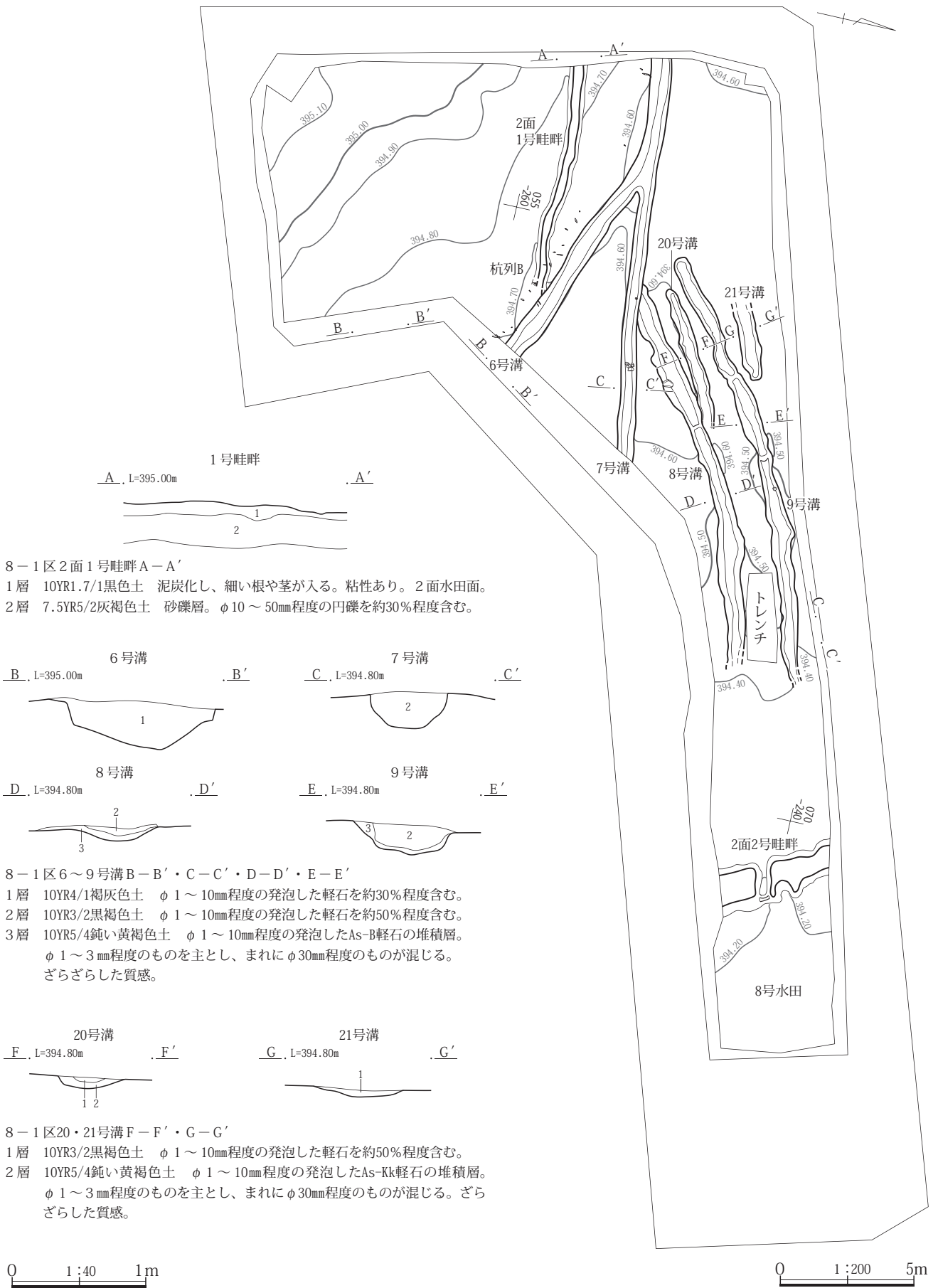
埋土 発泡した軽石を約50%程度含む黒褐色土。

遺物 なし。

所見 調査区北西寄りの北壁際に位置する。南西側にやや屈曲する南西-北東方向の溝。西端は $Y = -92258.5$ 付近から検出することが出来なくなる。東端はX=61065、 $Y = -92255.5$ 付近で止まる。

約1.5m南側にほぼ同じ走向の20号溝があり、溝の心々間約2.5mで並行している。8・9号溝と同様、21号溝とともに道路の両側溝である可能性が考えられる。先述したように8・9号溝が両側溝となる道路に先行する道路の北側溝であると考えられる。

溝底の標高は394.50～394.53mで、比較的平坦であり、検出範囲内では片側に傾斜した様子は全く見られない。また、検出範囲が少ないため、20号溝と同様、8・9号溝のような土坑連結状の形状も確認することが



8-1区2面1号畦畔A-A'
 1層 10YR1.7/1黒色土 泥炭化し、細い根や茎が入る。粘性あり。2面水田面。
 2層 7.5YR5/2灰褐色土 砂礫層。φ10～50mm程度の円礫を約30%程度含む。

6号溝 B-B', L=395.00m
 7号溝 C-C', L=394.80m
 8号溝 D-D', L=394.80m
 9号溝 E-E', L=394.80m

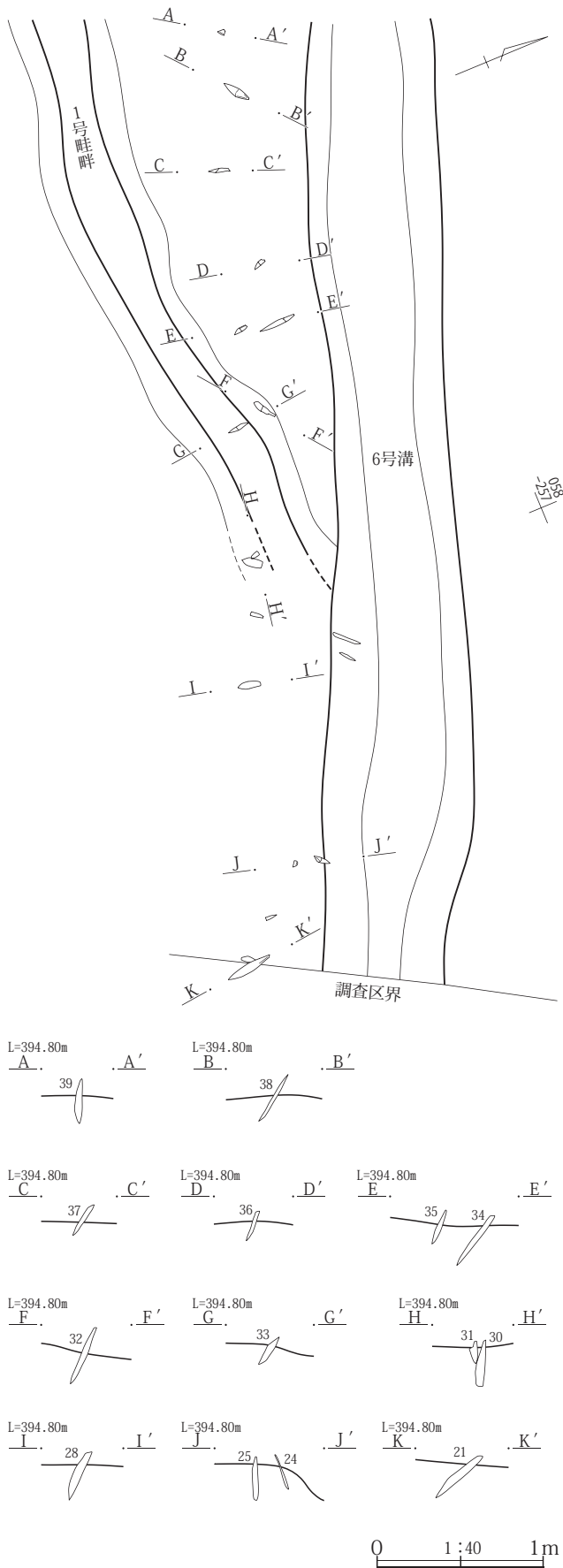
8-1区6～9号溝B-B'・C-C'・D-D'・E-E'
 1層 10YR4/1褐灰色土 φ1～10mm程度の発泡した軽石を約30%程度含む。
 2層 10YR3/2黒褐色土 φ1～10mm程度の発泡した軽石を約50%程度含む。
 3層 10YR5/4鈍い黄褐色土 φ1～10mm程度の発泡したAs-B軽石の堆積層。
 φ1～3mm程度のものを主とし、まれにφ30mm程度のものが混じる。
 ざらざらした質感。

20号溝 F-F', L=394.80m
 21号溝 G-G', L=394.80m

8-1区20・21号溝F-F'・G-G'
 1層 10YR3/2黒褐色土 φ1～10mm程度の発泡した軽石を約50%程度含む。
 2層 10YR5/4鈍い黄褐色土 φ1～10mm程度の発泡したAs-Kk軽石の堆積層。
 φ1～3mm程度のものを主とし、まれにφ30mm程度のものが混じる。ざらざらした質感。

第60図 8-1区2面全体図、1号畦畔、6～9・20・21号溝土層断面図

杭列B



第61図 8-1区2面6号溝杭列B平面図、杭出土状況断面図

出来なかった。

掘方は、浅く極めて扁平な逆レンズ状を呈する。

時期 天仁元(1108)年以前で古代のものと考えられるが、検出された水田面よりは新しい時期のものと見られる。

第14節 8-2区1面の遺構と遺物

先述したように、8区は用地の関係によって、ほぼX=61045ラインを境にして、南北に調査区を分割し、調査年次も分けられた。北側に位置する8-1区における調査内容は、先述した通りである。

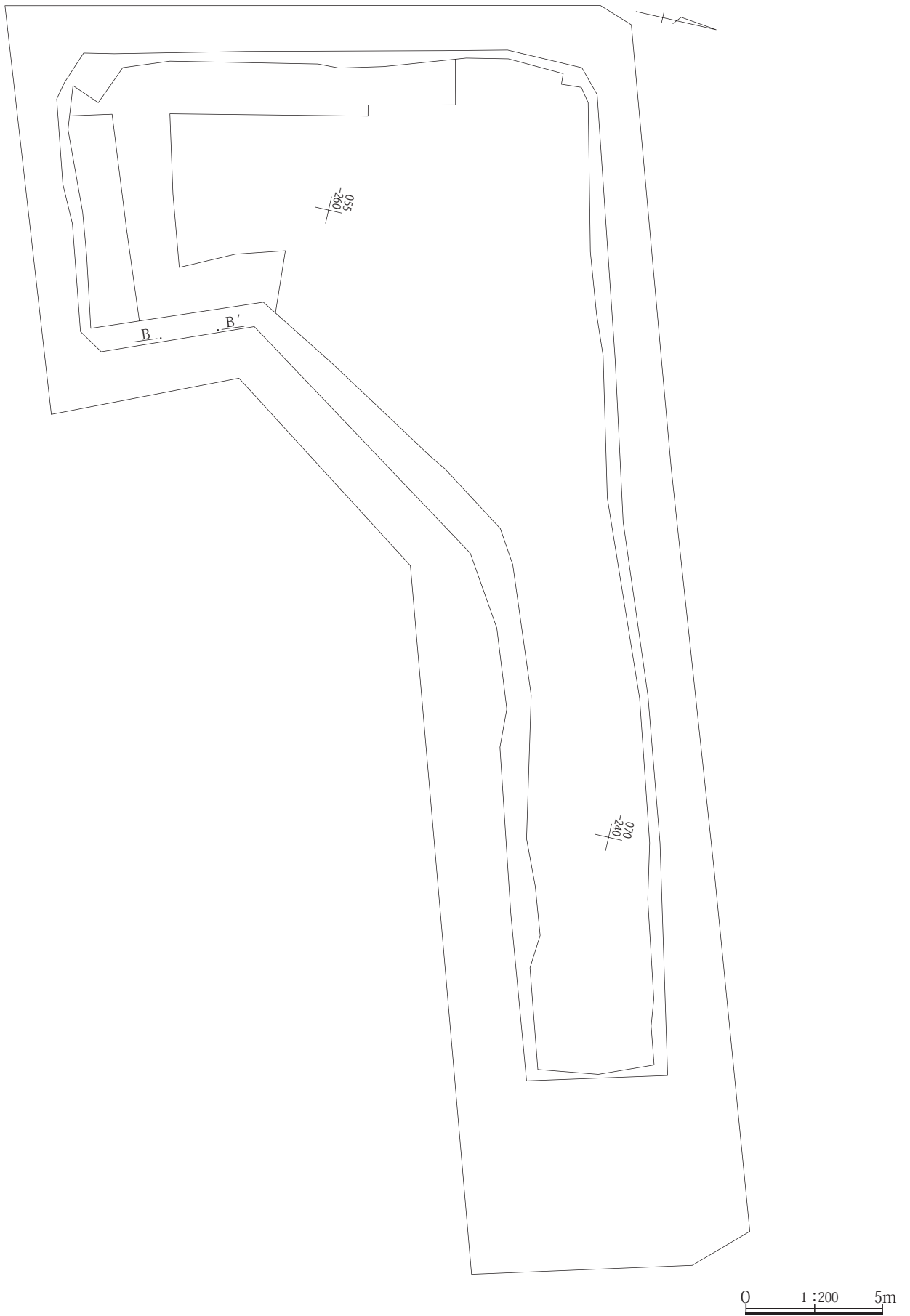
南側の調査区である北西-南東方向にやや長い両角が取れた長方形の平面形態を呈する8-2区は、平成28(2015)年10月下旬から天明3(1783)年に発生した浅間山噴火に伴う火山泥流堆積物直下の遺構確認面である1面の調査に着手され、11月上旬に1面の調査を終了した。

本調査区と9区においては、天明泥流層直下層のすぐ下層で洪水堆積層が検出され、天明3(1783)年の浅間山噴火後に洪水が発生していたこと、その後の火山泥流の発生までの期間にわずかの内に水田が復旧されていたことが判明した。

本調査区と9区の1面で検出された水田や畑は、天明3年の浅間山噴火直後に発生した洪水後、天明泥流によって覆い尽くされるまでのごく短い期間に営まれていたものと位置付けることが出来る。他調査区における天明泥流下の遺構確認面である1面において検出された遺構が、ほぼ天明3年浅間山噴火以前の遺構と考えられるのに対して、本調査区と9区の1面から検出された水田と畑については、天明3年の浅間山噴火以降のものと特定することが出来たことの意義は大きい。

1. 水田(第63図、PL.55~60・76)

調査区の全域において天明3(1783)年の浅間山噴火によって生じた天明泥流によって覆われた水田が検出された。先述したように、天明3年の浅間山噴火直後に発生した洪水後に復旧された水田である。噴火直後に発生した洪水の後の水田復旧から天明泥流層によって覆われてしまうまでの間はごくわずかな期間であったと推測出来る。



第62図 8-1区2面下確認調査試掘坑平面図

調査区内において、段差が2か所で検出され、3段にわたる棚田状の水田面が検出された。

調査区の地形は南高北低で、調査区南西隅部が最も標高が高く、調査区北端部、北壁際で検出された8-2区1面2号段差の下段側が最も標高が低く、比高差は0.95mである。

他の調査区において、段差面に部分的な石組程度のもので施された事例が検出されることはあったが、段差面全域にわたって石垣が造られていたことが明瞭に検出されたのは、本調査区と、並行して実施された9区の調査区においてのみである。

また、石垣に伴う木杭列も検出されている。なお、出土した杭の主なものは後掲の一覧表(第4表)に示した。

8-2区1号水田(X=61026~037、Y=-92246~260) 調査区のほぼ中央を東西に鉤の手状に横断するように検出された8-2区1面1号段差の南側一帯で、調査区の南側半分弱を占める。

水田区画は、東・西・南ともそれぞれ調査区外へと広がっているため、全容は不明であるが、検出範囲内では、東西幅は最大で約12m前後、南北長は約5~8m程度で、検出面積は78.77㎡であった。8-2区1面1号段差を隔てた北側には8-2区2号水田が隣接する。

検出された範囲内における区画の中央、西寄りの部分は、東西辺約6.2m×南北辺約3.6mの直角三角形形状の約11.16㎡にわたって攪乱され、水田面は検出されなかった。

区画内は南高北低で、最も高い調査区南西隅が標高396.15m、最も低い区画北東隅部で標高395.70m、比高差は0.45mで、検出範囲内における水田面ではおおむね標高395.90~396.10mの緩やかな傾斜である。南西側から北東方向への配水が行われていたものと考えられる。

なお、区画内において畦畔は全く検出されなかった。

水田面からは3点の遺物が出土している。水田面中央からやや南西寄りの位置から肥前磁器碗体部~底部片1点(第64図1)、水田面の中央、東壁寄りの位置から瀬戸・美濃陶器菊皿体部~底部片1点(第64図2)、調査区南西隅の水田面から瀬戸・美濃陶器碗体部~底部片1点(第64図3)が出土している。

8-2区2号水田(X=61034~042、Y=-92249~

262) 調査区のほぼ中央を横断する8-2区1面1号段差を隔てて8-2区1号水田の北側に隣接する、調査区のほぼ北半分を占める水田区画である。北側は調査区北端部で検出された8-2区1面2号段差によって画され、8-2区3号水田の南側に隣接する。

区画の東西両側はそれぞれ調査区外へと広がっているため、区画の全容は不明であるが、検出範囲内においては、東西幅は約12.5m、南北長は約3.5~7m、検出面積は70.47㎡であった。南側の8-2区1号水田との間を画する8-2区1面1号段差が鉤の手状の平面形状を呈するため、検出範囲内においては、東端近くでは南北長が最大箇所の半分近くまで短くなっている。

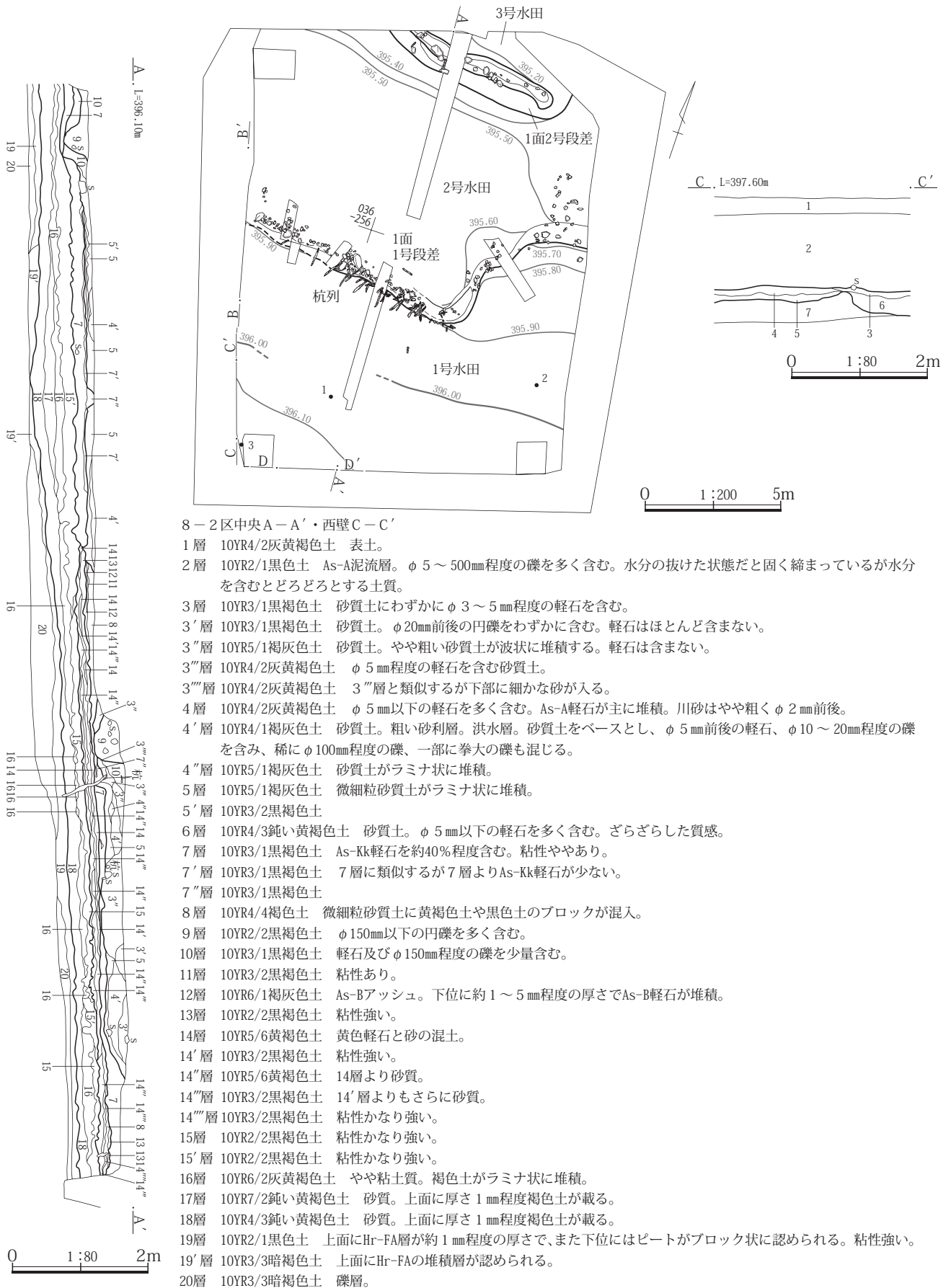
水田面の標高はほぼ395.50~395.60mで、南高北低ながらも8-2区1面1号水田よりも安定した平坦面が形成されていた様子がうかがえ、南側から北側への配水がなされていたと考えられる。区画内で最も標高が高い区画南端と標高が最も低い区画北端との比高差はわずか0.1mに過ぎない。8-2区1面1号段差南側の8-2区1号水田面中央部の平均的な標高が395.90~396.10mであるので、段下の本区画はおおよそ0.4~0.5m程度低いということになる。

なお、8-2区1号水田と同様、区画内において畦畔は全く検出されなかった。

8-2区3号水田(X=61043、Y=-92251~256) 8-2区1面2号段差を隔てて、8-2区2号水田の北側に隣接する水田区画であるが、本調査区内においては、8-2区1面2号段差と調査区北壁とのわずかな間の、東西約5m・南北約0.5~1mに及ぶごくわずかな範囲でしか検出することが出来なかった。

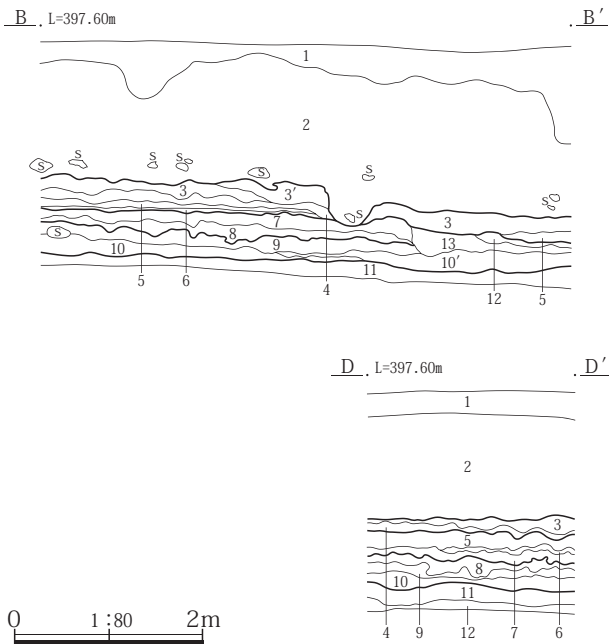
北側に隣接する8-1区1面の中央で北西-南東方向で検出された8-1区1面7号畦畔と、本調査区北端部で検出された8-2区1面2号段差との間の南北約12mの範囲である8-1区7号水田と一体の水田区画であると見るのが自然であると感じられなくもない。

8-2区1面2号段差の主軸方位がN-78~82°-W、8-1区1面7号畦畔の主軸方位がN-65~90°-Wと両者はほぼ類似しており、ほぼ並行していると言って良い状態である。また、8-2区1面2号段差の北側段直下の標高が395.20mで、8-1区7号水田の標高が395.10~395.20mの間であることから見ても、ほぼ同



第63図 8-2区1面全体図、土層断面図(1)

第3章 検出された遺構と遺物



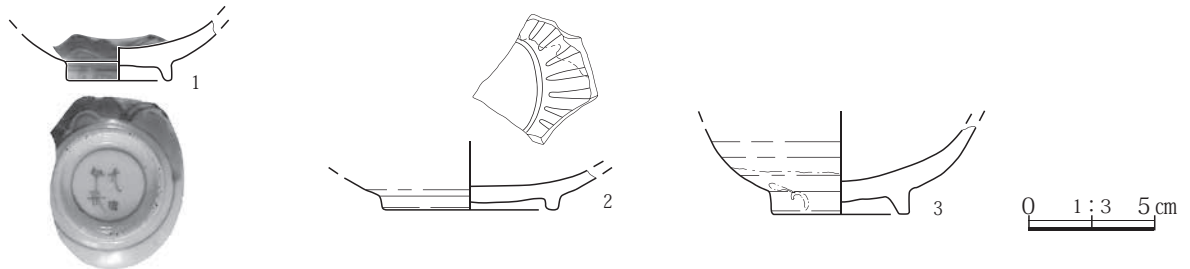
8-2区南壁D-D'

- 1層 10YR4/2灰黄褐色土 表土、水田耕作土。
- 2層 10YR2/1黒色土 As-A泥流層。φ 5～500mm程度の礫が多く含む。水分の抜けた状態だと固く締まっているが水分を含むとどろどろとする土質。
- 3層 10YR4/2灰黄褐色土 φ 5mm以下の軽石を多く含む。As-A軽石が主に堆積。川砂はやや粗くφ 2mm前後。
- 4層 10YR5/1褐灰色土 微細粒砂質土がラミナ状に堆積。
- 5層 10YR3/1黒褐色土 やや粘性ある土をベースとし、As-Kk軽石を約40%程度含む。

8-2区西壁B-B'

- 1層 10YR4/2灰黄褐色土 表土、水田耕作土。
- 2層 10YR2/1黒色土 As-A泥流層。φ 5～500mm程度の礫が多く含む。水分の抜けた状態だと固く締まっているが水分を含むとどろどろとする土質。
- 3層 10YR3/1黒褐色土 砂質土にわずかにφ 3～5mm程度の軽石を含む。
- 3'層 2層と3層の土の混土。天明泥流層。砂質土。軽石をわずかに含む。
- 4層 10YR4/3鈍い黄褐色土 砂質土をベースとし、φ 5mm以下の軽石を多く含む。ざらざらした質感。
- 5層 10YR5/1褐灰色土 微細粒砂質土がラミナ状に堆積。
- 6層 10YR3/2黒褐色土 7層よりAs-Kk含有量が少ない。粘性強い。
- 7層 10YR3/1黒褐色土 As-Kk軽石を約40%程度含む。粘性ややあり。1面下面水田耕作土。
- 8層 10YR3/2黒褐色土 砂質。
- 9層 10YR2/2黒褐色土 粘性強い。
- 10層 10YR4/3鈍い黄褐色土 砂質度高い。上面に厚さ約1mm程度褐色土が載る。
- 10'層 10YR4/3鈍い黄褐色土 10層よりもさらに砂質度高い。
- 11層 10YR2/1黒色土 上面に灰色のHr-FAの堆積層が厚さ約1mm程度堆積。また、下位にはビートがブロック状に認められる。粘性強い。
- 12層 10YR5/1褐灰色土
- 13層 10YR3/1黒褐色土

- 6層 10YR5/6黄褐色土 黄色軽石と砂の混土。
- 7層 10YR3/2黒褐色土 砂質。
- 8層 10YR2/2黒褐色土 粘性かなり強い。
- 9層 10YR6/2灰黄褐色土 やや粘土質。褐色土がラミナ状に堆積。
- 10層 10YR4/3鈍い黄褐色土 砂質。上面に厚さ約1mm程度褐色土が載る。
- 11層 10YR2/1黒色土 上面に灰色のHr-FA堆積層が約1mm程度の厚さで載る。下位にはビートがブロック状に認められる。粘性強い。
- 12層 10YR3/3暗褐色土 礫層。



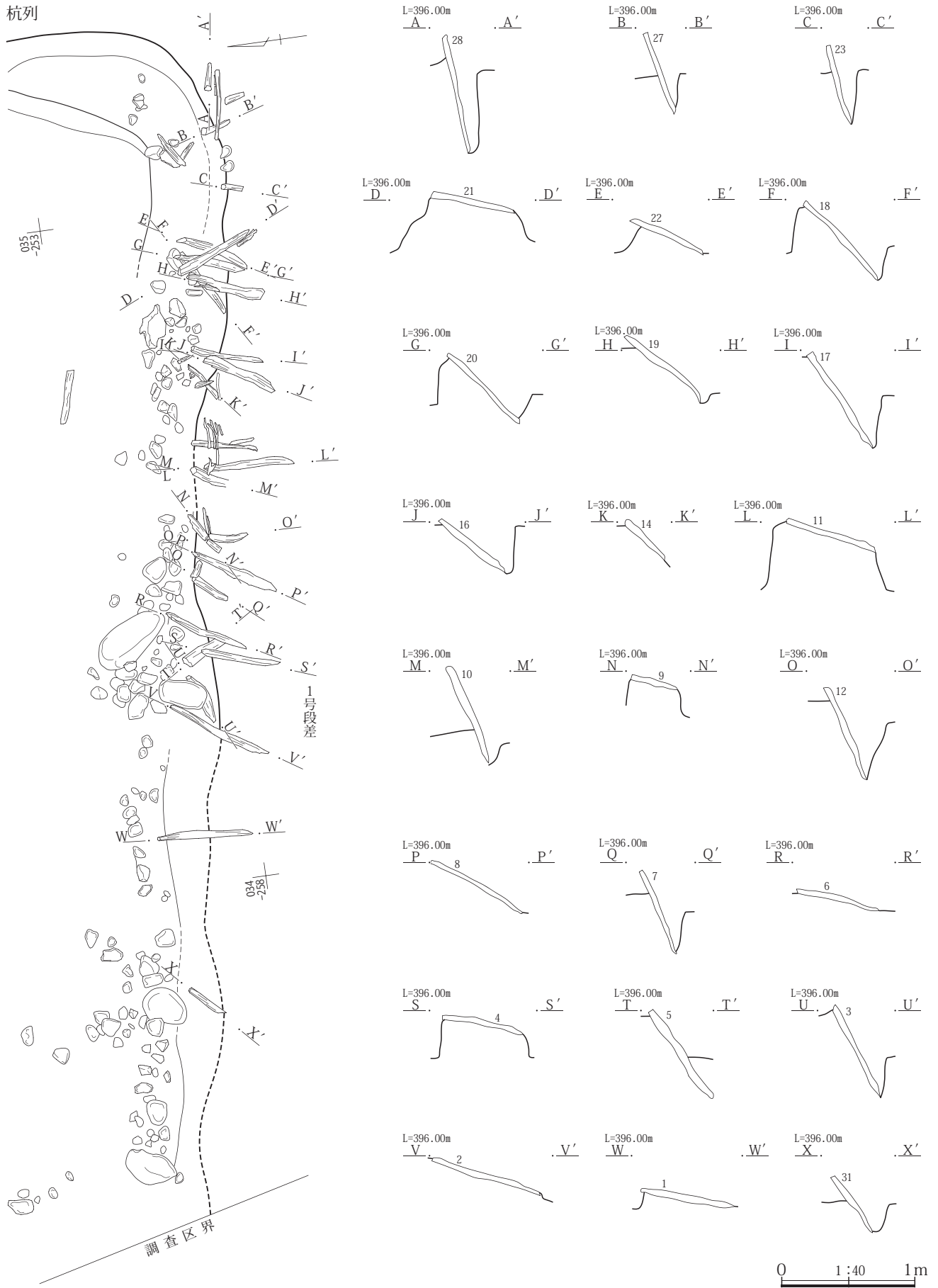
第64図 8-2区土層断面図(2)、出土遺物

一レベルの平坦面である。これらの点から見れば、8-1区1面7号畦畔を北端とし、8-2区1面2号段差を南端とした一つの水田区画と見ることが妥当なように考えられる。

ただし、検出範囲内においては、8-1区7号水田は8-1区1面では最も安定した平坦面が形成されているものの、西から東に向かって緩やかに傾斜しており、南高北低の8-2区1面水田面の全体的な様相とは異なっていること、また、8-2区1面2号段差の北西の続きの部分が、当然、検出されるべき8-1区7号水田側では全く検出されていないこと、さらには、8-2区

3号水田の検出範囲が狭小過ぎて水田面の詳細が全く不明であり、8-1区7号水田との比較材料が全く得られなかったこと、などの点から見ると、8-1区7号水田と8-2区3号水田とを単純に一つの水田区画と看做すには、なお、若干の疑問の余地が遺る。

なお、8-2区北端部で検出された8-2区1面2号段差の北西側の続きの部分が8-1区7号水田側において検出されなかった点については、8-1区1面に対応するのが、8-2区では天明泥流発生以前の天明3年の浅間山噴火直後に起こった洪水堆積層によって覆われた1面下の遺構確認面であり、8-1区7号水田と8-2



第65図 8-2区1面1号段差杭列平面図、杭出土状況断面図

区3号水田とは同一のレベルではないからだとすれば一応の説明は付く。

しかしながら、8-2区1面下においても8-2区1面2号段差と全く同位置において8-2区1面下3号段差が検出されている。8-1区1面と8-2区1面下とが対応する遺構確認面であったと仮定しても、8-1区7号水田側において8-2区1面下3号段差の続きの部分が検出されていないことについては、依然として説明付け難い。

(1) 8-2区1面1号段差(第63・65・66図、PL.55～60)

位置 8-2区1面。X=61033～038、Y=-92248～260。

主軸方位 N-78°～85°-W～N-10°～88°-E。

規模 検出全長約15.00m、幅約0.50～1.80m、比高差約0.35m前後。

遺物 木杭36本。

所見 調査区のほぼ中央を鉤の手状に東西に横断する段差で、南側段上8-2区1号水田と北側段下8-2区2号水田とを画する。東西両端はそれぞれ調査区外へと伸びている。

調査区西壁のほぼ中央から南東方向に約8m程度伸び、X=61033.5、Y=-92252.5付近で直角に屈曲し北東方向となり、X=61037.5、Y=-92250.5付近で屈曲して東西方向となる。

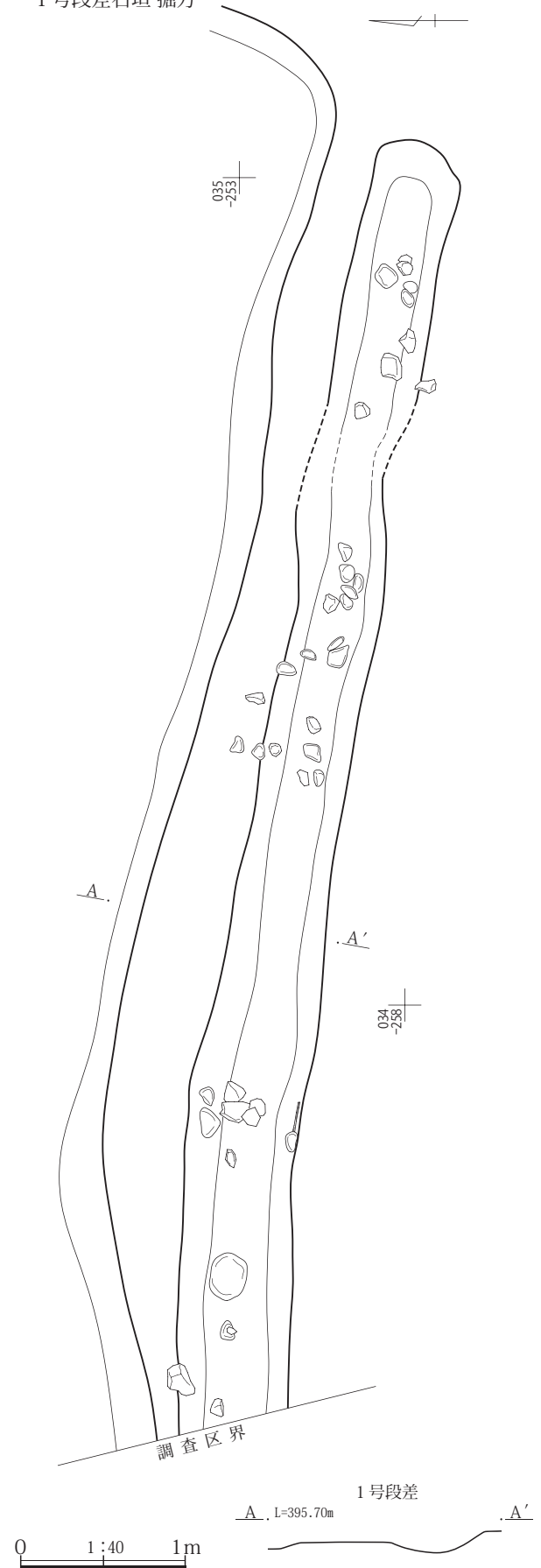
段差には石垣を伴う。石垣は緻密に構築されているわけではなく、比較的粗く、現状ではかなり疎らな部分もある。使用されている礫は径0.10m程度のものが主であるが、0.3～0.5m程度の大きめのものも若干混じる。

石垣は、東西長約7.3m・南北幅約0.5～0.7m・深さ0.1～0.15m程の浅い溝状の掘り込みに石を充填して構築されている。

杭列 X=61033～035、Y=-92251～259の東西約7.5m・南北約1.5mの範囲に36本の杭が集中して出土した。

段差の土留めとして打ち込まれた木杭は、突き刺さったままの状態のものから上面を覆った天明泥流層流入の際の土圧によって根元から抜けてしまっているものもあるが、突き刺さったままの状態で検出されたものがほと

1号段差石垣 掘方



第66図 8-2区1面1号段差石組掘方平面図、エレベーション図

んどで、そのほとんどのものが約10～70°程度北西側に傾斜した状態で出土した。他の調査区から検出された杭列を構成する木杭に比べて、大きく傾いた状態で出土したものが比較的多く見られる。

これらの木杭の中には、先端が天明泥流直下層のすぐ下層である洪水堆積層に達するものもあることから、天明の浅間山噴火直後の洪水発生後、天明泥流によって水田面が覆われてしまうまでの間に、水田の土留め用のしがらみとして施工されたものと見られる。石垣に沿うように上段面から杭を打ち、しがらみを組んでいる。下段の水田面への土砂の流出を防止するための施工と考えられる。

(2) 8-2区1面2号段差(第63・67図、PL.55・60)

位置 8-2区1面。X=61041～043、Y=-92251～257。

主軸方位 N-80～86°-W。

規模 検出全長約6.70m、基底部幅約1.10～1.50m前後、比高差約0.10～0.15m前後。

遺物 なし。

所見 調査区北端部で検出された南側8-2区2号水田と北側8-2区3号水田とを画する段差で、調査区北西側壁から東へとわずかに屈曲・蛇行しながら伸び、X=61041.5、Y=-92251付近で弧を描いて約90°屈曲し、北へと伸び調査区北東側壁外へと伸びている。

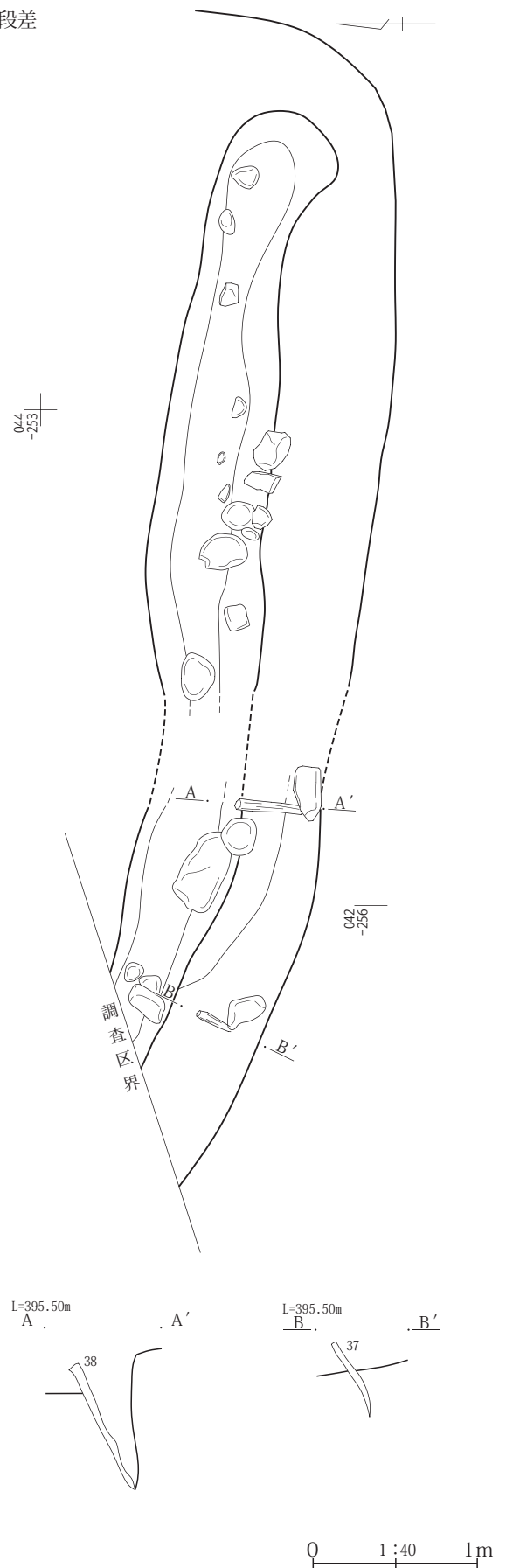
8-2区1面1号段差と同様、段差面には石垣が構築されていたものと考えられるが、ほとんど掘方の状態で検出された。石垣の掘方は長さ約5.50m・幅約0.40～0.70m前後・深さ約0.10～0.17m前後の溝状の掘り込みである。

石垣の遣りは悪く、石垣を構成したであろう礫は、全体的に非常に疎らな状態で検出された。礫の大きさは0.07～0.5m程度である。

石垣部分では、また、段差面の西側で打ち込まれた木杭が2本検出されたが、検出されたのは2本のみであり、1号段差のように広範囲に土留めの木杭が杭列として打ち込まれていたわけではない。

時期 天明3(1783)年浅間山噴火直後の洪水発生後、天明泥流までの時期のものと考えられる。18世紀末葉。

2号段差



第67図 8-2区1面2号段差平面図、杭出土状況断面図

第15節 8-2区1面下の遺構と遺物

先述した通り、8-2区と9区では、天明泥流下直下の遺構確認面である1面の直下から、天明3(1783)年の浅間山噴火時に降下した浅間Aテフラ(As-A)を含む洪水堆積層によって覆われた遺構確認面が検出された。このことによって、この地域においては天明3年の浅間山噴火直後に洪水が発生したことや、その後の天明泥流発生までのごく短い期間に水田や畑が復旧されていたことが判明した。この遺構確認面を1面下と称する。

この、天明3年の浅間山噴火直後に発生したと考えられる洪水による堆積層は、本調査区と9区でのみ検出されており、本遺跡の他の調査区においては全く検出することが出来なかった。洪水が及んだ範囲がごく限定されており、被害が1-7-1・8-1区には及んではいなかったという可能性ももちろん考えられる。あるいは、本遺跡の1-7-1・8区の地点においては、洪水被害は受けたものの、洪水堆積層が比較的薄かったため、洪水堆積層そのものを撤去してから水田の復旧が行われ、本調査区と9区では洪水堆積層が厚く堆積したため、洪水堆積層上に新たに水田や畑を復旧せざるを得なかったため、天明泥流直下の遺構と、天明3年浅間山噴火直後に発生した洪水以前の遺構の2面が検出可能であったという想定も出来る。

この、浅間山噴火直後に発生した洪水による被害を受けた水田や畑を短期間に復旧して形成されたのが、前節で報告した8-2区1面において検出された水田と、後述する9区1面から検出された畑である。それらに先行する、天明3(1783)年の浅間山噴火直後に発生した洪水によって被害を受けたのが、本節で報告する8-2区1面下から検出された水田と、9区1面下から検出された畑である。いずれも、天明3(1783)年の浅間山噴火前の遺構と位置付けられる。本遺跡1-7-1区と8-1区における1面において検出された遺構の多くはこの時期のものであると考えられ(7-2区では天明泥流下の遺構確認面は未検出)、1-7-1・8-1区1面は、8-2・9区では1面下に対応する遺構確認面と見るのが、まず穏当なところであろうが、1-7-1・8-1区1

面が、8-2・9区では1面上・下どちらの遺構確認面に対応するのかという問題は、1-7-1・8-1区では天明3年の浅間山噴火直後に発生した洪水による堆積層が検出されていないため、明確には決し難いところである。

いずれも天明泥流によって覆われた近世の遺構であることには違いないものの、8-2区と9区1面で検出された水田と畑は、明らかに天明3年の浅間山噴火後のものと明確に位置付けることが可能であるのに対して、1-7-1・8-1区1面において検出された天明泥流下の水田等については、天明泥流発生以前の近世の遺構として、天明3(1783)年浅間山噴火直後を含めた幅広い時間軸を想定しておく必要があると言えよう。

8-2区1面下の調査は、平成28(2015)年11月上旬に1面の調査を終了した後、引き続いて着手され、11月下旬に調査を終了している。

1. 水田(第68図、PL.55・60・61)

調査区の全域において天明3(1783)年の浅間山噴火直後に発生した洪水による堆積層によって覆われた水田が検出された。

調査区内において、段差が4か所、畦畔が1か所、水路が1条検出され、調査区の東寄りを南から北へと流れる水路とそのすぐ西側に並行して取り付く畦畔の西側で4段、水路の東側で2段にわたる棚田状の水田面が検出された。

調査区の地形は南高北低で、調査区南西隅付近が最も標高が高く、調査区北端部、北壁際で検出された8-2区1面下4号段差下段側が最も標高が低く、比高差は0.91mである。洪水後に洪水堆積層の上に復旧された1面の水田面との標高差は約0.15~0.35m程度となる。洪水後の復旧面である洪水堆積層上の1面では、南北の比高差は0.95mであったので、ほぼ同程度の比高差である。地形的に見れば、洪水後に復旧された1面で検出された水田面は、洪水前の水田面である1面下の水田面を踏襲していると言える。

ただし、水田区画の構造は大きく異なっており、洪水前の、1面下の水田では、南北方向の水路とその西側に取り付く畦畔があり、畦畔の西側では4段、東側では2段にわたる棚田が形成されていたのに対し、洪水後に復

旧された1面の水田では、調査範囲内では南北方向の水路も畦畔もなく、棚田も3段に減少されている。水田区画の大きさも復旧後には拡大されており、段差の位置も復旧前後で変化している。

復旧後の段差に見られたような石垣や杭列も復旧前には無く、段差の比高差も復旧前は小規模である。

このように、1面下から検出された天明3年の浅間山噴火直後に発生した洪水の堆積土で埋没した天明3年以前の水田の遺構の状況からは、1面において検出された復旧水田が、短期間で復旧されたものとは言え、復旧前水田をかなり大きく改変していたことが判明するのである。

なお、各区画内における畦畔は全く検出されなかった。

8-2区4号水田(X=61026~030、Y=-92250~258) 調査区の南端寄りで西南西-東北東方向に検出された8-2区1面下1号段差によって北側を画された段上の水田区画で、北側段下には8-2区5号水田が隣接する。本調査区1面下から検出された4段にわたる棚田の最上段に当たる。

西・南側ともそれぞれ調査区外へと広がっており、水田区画の東北の一部が検出されたに過ぎないため、全容は不明である。東側は南北方向の水路である15号溝に沿って、15号溝の西側に隣接する8-2区1面下1号畦畔に接続し、15号溝によって画されている。15号溝を隔てた東側には8-2区8号水田が隣接する。

検出範囲内では、東西幅は約8.00m前後、南北長は約1.90~2.40m程度で、検出面積は17.00㎡、水田面の標高はおおむね395.90m前後の安定した平坦面が広く形成されている。

西から東側への配水がなされていたものと考えられるが、東西の比高差は0.08~0.10m程度とごくわずかで、非常に平坦であることが特徴である。

8-2区5号水田(X=61029~037、Y=-92251~260) 調査区南端寄りの位置に西南西-東北東方向に造られた8-2区1面下1号段差によって南側を、また、調査区の中央からやや北寄りの位置を同じく西南西-東北東方向に造られた8-2区1面下2号段差によって北側を、東側は南北方向の8-2区1面下1号畦畔とその東側に接する15号溝によって画されている。南側8-2区1面下1号段差を隔て8-2区4号水田の北側に、北

側8-2区1面下2号段差を隔てて8-2区6号水田の南側に、東側8-2区1面下1号畦畔と15号溝を隔てて8-2区8号水田の西側に当たる。

水田面の中央から北寄りの位置を上面の8-2区1面1号段差によって掘り込まれ、破壊されている。

検出範囲内では、東西幅は約7.40~8.70m前後、南北長は約6.80~7.00m前後で、検出面積は53.63㎡、水田面の標高は395.50~75mで、比高差は0.25mとやや大きく感じられるが、おおむね395.60~70m前後の平坦面が広がっており、全体的に南西側から北東方向への配水がなされていたものと考えられる。

8-2区6号水田(X=61036~042、Y=-92251~261) 調査区中央からやや北寄りの位置に西南西-東北東方向に造られた8-2区1面下2号段差によって南側を、また、調査区の北壁際に東西方向に造られた8-2区1面下3号段差によって北側を、南北方向の8-2区1面下1号畦畔とその東側に接する15号溝によって東側を画されている。南側8-2区1面下2号段差を隔て8-2区5号水田の北側に、北側8-2区1面下3号段差を隔てて8-2区7号水田の南側に、東側8-2区1面下1号畦畔と15号溝を隔てて8-2区9号水田の西側に当たる。

検出範囲内では、東西幅は約9.2~10.0m前後、南北長は約4.80~5.50m前後で、検出面積は50.97㎡、水田面の標高は395.30~43mで、比高差は0.13mと小さく、おおむね395.40m前後の平坦面が広がっており、全体的に西側から東への配水がなされていたものと考えられる。

8-2区7号水田(X=61042~044、Y=-92251~256) 調査区の北壁際、8-2区1面下3号段差と調査区北壁との間の東西約5.60m、南北約1.20~1.80mのごくわずかな範囲しか検出されなかった。また、段差下は、1面の8-2区1面2号段差によって掘り込まれており、水田面の検出範囲はさらに小さくなり、詳細は全く不明である。

南を画する8-2区1面下3号段差の南側には、8-2区6号水田が隣接し、東側は南北方向の15号溝によって画され、8-2区9号水田に隣接する。なお、8-2区1面下1号畦畔は、本調査区の東側にまでは及んでいない。

8-2区1面下3号段差は、8-2区1面2号段差と全く同位置にあり、踏襲している。復旧前の段差を復旧後にも同位置に踏襲しているのは、検出範囲内ではこの8-2区1面下3号段差のみである。

8-2区8号水田(X=61028~037、Y=-92246~250) 調査区の南東側で検出された水田区画で、南北方向の15号溝によって西側を、また、調査区東壁際の中央に東西方向に造られた8-2区1面下4号段差によって北側を画される。南側と東側とはそれぞれ調査区外へと広がっている。

検出範囲内では、東西幅は約2.50~3.50m前後、南北長は約6.70~8.40m前後で、水田区画の北西隅を含む北西側の一部が南北に細長く検出された。検出面積は21.03㎡、水田面の標高は395.65~73mで、比高差は最大で0.08mと小さく、おおむね395.60~70m前後の平坦面が広がっており、全体的に南側から北への配水がなされていたものと考えられる。

15号溝を隔てて西側に隣接する西高東低の8-2区4号水田に比べて約0.15~0.20m前後低く、また、15号溝と8-2区1面下1号畦畔を隔てて同じく西側に隣接する南高北低の8-2区5号水田にくらべて0.04~0.10m程低くなっている。また、8-2区1面下4号段差を隔てて北側に隣接する8-2区9号水田からは、おおむね0.25m程度高くなっている。

8-2区9号水田(X=61038~042、Y=-92249~250) 調査区の北東側で検出された水田区画で、区画の南西隅を含む南西側のごく一部が南北に細長く検出された。

南北方向の15号溝によって西側を、調査区東壁際の中央に東西方向に造られた8-2区1面下4号段差によって南側を画される。北側と東側とはそれぞれ調査区外へと広がっている。

検出範囲内では、東西幅は約1.00~2.20m前後、南北長は約4.00~4.50m前後で、検出面積は5.95㎡、水田面の標高は395.44m前後であるが、検出範囲が狭いため、詳細は不明である。

検出範囲内では、南北方向の15号溝及び8-2区1面1号畦畔を隔てた西側の8-2区6号水田の標高とはほとんど大差が無い。

(1) 8-2区1面下1号段差(第68図)

位置 8-2区1面下。X=61028~030、Y=-92251~258。

主軸方位 N-82~84°-E。

規模 検出全長約7.50m、幅約0.11~0.19m、比高差約0.18~0.26m前後。

遺物 なし。

所見 調査区の南寄りの位置で検出された西南西-東北東方向の段差で、南側段上8-2区4号水田と北側段下8-2区5号水田とを画する。西端は調査区西壁外へと伸び、東端は南北方向の8-2区1面下1号畦畔に取り付く。

これまで本遺跡各調査区において検出された段差に比べて、異例に段の上下における高低差も規模も小さい。

8-2区1面下で検出された段差には、天明3年浅間山噴火直後に発生した洪水後に復旧された1面の水田に伴う段差にあった石垣や杭列を伴うものはない。

(2) 8-2区1面下2号段差(第68図)

位置 8-2区1面下。X=61036~038、Y=-92251~260。

主軸方位 N-73~85°-E。

規模 検出全長約9.20m、幅約0.05~0.23m、比高差約0.10~0.17m前後。

遺物 なし。

所見 調査区の中央からやや北に寄った位置で検出された西南西-東北東方向の段差で、南側段上8-2区5号水田と北側段下8-2区6号水田とを画する。西端は調査区西壁外へと伸び、東端は約45°屈曲して南北方向の8-2区1面下1号畦畔に取り付く。

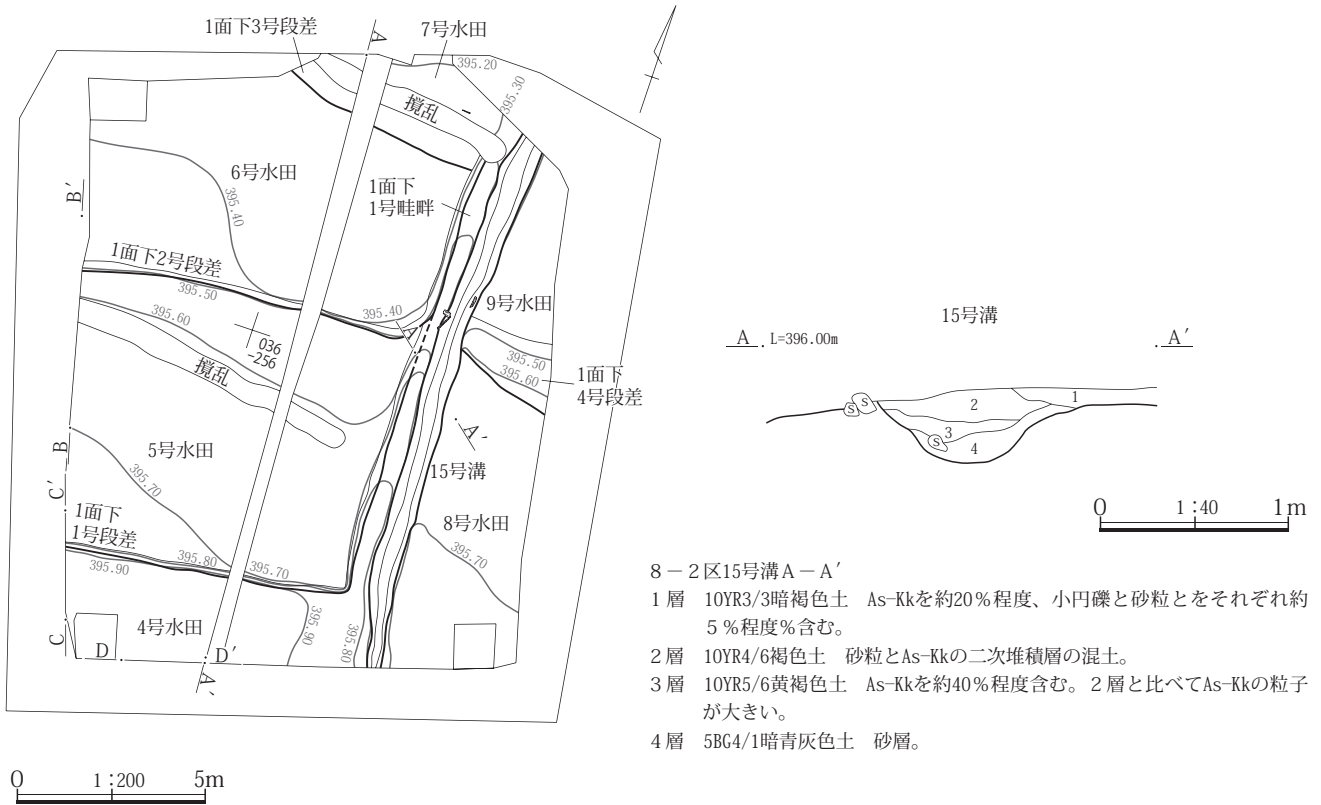
8-2区1面下1号段差と同様、これまで本遺跡各調査区において検出された段差に比べて、異例に段の上下における高低差も規模も小さい。

(3) 8-2区1面下3号段差(第68図)

位置 8-2区1面下。X=61041~042、Y=-92251~257。

主軸方位 N-67~85°-W。

規模 検出全長約5.40m、基底部幅約0.46~0.67m前後、比高差約0.20~0.22m前後。



第68図 8-2区1面下全体図、15号溝土層断面図

遺物 なし。

所見 調査区北端部で検出された北側8-2区7号水田と南側8-2区6号水田とを画する段差で、ほぼ東西方向に伸びる。西端は調査区北西側壁外へと伸び、東端は8-2区1面下1号畦畔に取り付く。

天明3年浅間山噴火直後に発生した洪水後に復旧された8-2区1面の2号段差とはほぼ同位置であり、1面2号段差は、本段差を踏襲している。復旧後にはほぼ同位置に踏襲された唯一の段差である。

(4) 8-2区1面下4号段差(第68図)

位置 8-2区1面下。X=61036~037、Y=-92247~250。

主軸方位 N-80~85°-W。

規模 検出全長約2.63m、幅約0.91~1.62m、比高差約0.19~0.20m前後。

遺物 なし。

所見 調査区中央の東壁寄りの位置で検出された東西方向の段差で、南側段上8-2区8号水田と北側段下8-2区9号水田とを画する。西端は南北方向の15号溝に取

り付き、東端は調査区東壁外へと伸びている。

わずかな範囲の検出に限られたため、詳細は不明である。

(5) 8-2区1面下1号畦畔(第68図)

位置 8-2区1面下。X=61030~042、Y=-92251。

重複 なし。

主軸方位 N-0°。

規模 検出全長約12.00m、基底部幅約0.44~1.61m、比高差約0.02~0.12m前後。

遺物 なし。

所見 調査区東寄りの位置を南北方向に検出された。西側に隣接する15号溝と完全に並行している。8-2区5・6号水田の東端を画している。

南端は、X=61030.2、Y=-92251付近で、調査区内最上段の水田区画である8-2区4号水田にはほぼ同標高で取り付き、調査区北端寄りの8-2区1面下3号段差との接点であるX=61042.2、Y=-92251.5付近で止まる。

東側はそのまま15号溝の西岸法面へと続く。

時期 天明3(1783)年以前で近世のものと考えられる。

2. 溝

本調査区1面下では、調査区の東寄りの位置を8-2区1面下1号畦畔の東側に沿って南北に縦断する15溝1条が検出された。

・15号溝(第68図、PL.60)

位置 8-2区1面下。X=61028~043、Y=92250。

重複 なし。

主軸方位 N-0°。

規模 検出全長14.45m、上幅0.36~0.92m、下幅0.10~0.49m、深さ0.18~0.33m。

埋土 上層に12世紀前半に降下した浅間山火山灰As-Kkの二次堆積と砂が混じった褐色土。下層に暗青灰色土。

遺物 埋土中から木杭が2点出土(非掲載)。

所見 調査区東寄りの位置を南から北へ貫流する。底面の標高は、最上流の南端部で395.56m、最下流の北端部で395.15m、南北の比高差は0.41mとなる。

しっかりと掘方を有し、断面は上が広く開口したU字形を呈する。

時期 天明3(1783)年以前で近世のものと考えられる。

第16節 8-2区2面の遺構と遺物

天仁元(1108)年の浅間山噴火による火山灰で覆われた面である。2面では、古代の水田面とそれに伴う畦畔が5か所(8-2区2面1~5号畦畔)、畦畔によって画された水田区画9枚(8-2区10~18号水田)が検出された。ただし一枚の水田区画が完全に検出出来た事例は皆無であり、1枚ごとの面積の比較等は全くできない状況であった。

2面も1面と同様、南西側から北東側へと傾斜する地形で、比高差は最大0.64mとなる。

8-2区2面の調査は、1面下の調査に引き続いて平成28(2015)年11月下旬から調査に着手され、11月末に終了した。

本調査区や9区では小区画状の水田区画を含む水田区

画が明瞭に検出されている。ただし、本調査区では調査区の北壁と東壁に沿って逆L字形に水田区画が検出されたが、調査区の南西側約1/2の範囲では、後世の水流によって削り取られてしまっており、畦畔等水田を構成する遺構はおろか、水田耕作土である黒色粘質土すらごく一部でしか検出されなかった。

なお、本調査区でも7-2区や9区と同様、12世紀前半に降下した浅間山火山灰As-Kkテフラ層は部分的にしか検出されなかった。先述したように、7-2区において浅間山火山灰As-Kk層下の土層プラントオパール分析を実施したところ、イネ科の植物のプラントオパールが多量に検出されたことから、天仁元(1108)年の浅間山噴火に伴うAs-Bテフラ降下以降、12世紀前半の浅間川テフラAs-Kk降下までの時期についても、本地域において水田が造られていた可能性が非常に高いことが判明している。

1. 水田(第69図、PL.61)

調査区の北側から東側にかけての、調査区全域の約2/3において12世紀初頭の天仁元(1108)年の浅間山噴火によって覆われた水田耕作土である黒色粘質土が検出されたが、先述したように、畦畔によって画された水田区画が検出されたのは、調査区の北壁際と東壁際の限られた範囲のみで、調査区の南西側、調査区全体のほぼ半分を占める部分では、畦畔によって区画された水田区画は全く検出されなかった。

調査区東寄りの位置を南北方向に貫通する畦畔が1本あり(8-2区2面2号畦畔)、この他に部分的に検出された畦畔が計4本ある。

調査区の北側では、東西方向の畦畔が1本(8-2区2面1号畦畔)と南北方向の畦畔が1本(8-2区2面3号畦畔)、調査区東壁際の中央と南寄りで東西方向の畦畔が2本(8-2区2面4・5号畦畔)検出された。検出された東西方向の畦畔は、すべて調査区東寄りの位置を南北に貫通する8-2区2面2号畦畔に取り付いている。

先述した通り、水田面の標高は南西側から北東側に向かって緩やかに傾斜しており、南西隅付近の最高地点で356.72m、調査区北端の最低地点で395.08mである。調査区の南西側の約半分を占めるエリア、すなわち、調査

区南西隅から東側はほぼ $Y = -92251$ ライン、北側は $X = 61038$ ライン位までの間では、傾斜度はやや急であり、標高差は約0.5m程である。これに対して、水田区画が明瞭に検出された箇所では、各区画内では平坦で均等であった。

検出された水田区画では、各水田区画内の標高から、おおむね南西側から北東側への配水がなされていたであろうことは明らかであるものの、水田に伴う水路や、各水田区画の水口は検出することが出来なかった。

また、1区画の水田区画が完全に検出出来たものは一箇所も無かったが、検出された部分から推測すると、おおむね、南北長3.00～3.50m程度であり、ほぼ3.00～3.50m四方の、方形ないし長方形の平面形態を呈する水田区画からなる、いわゆる、「小区画」状水田であったと考えられる。

先述したように、本遺跡7-1区からも、浅間山火山灰As-Bテフラによって覆われた面から、いわゆる「小区画」状の古代水田が検出されており、地形の制約が厳しい場所では、古墳時代後期以降の、古代に属する水田においても、見かけ上の「小区画」水田が形成されることもあったということは、すでに判明していた。また、同じく先述したように、本遺跡8-1区では、天明泥流層下から検出された近世の水田さえも、「小区画」状に形成されたものが検出されており、「小区画」状の水田は、地形の制約がある場所では、年代に関わらず形成されることが有り得るということが明らかになった。なお、天仁元(1108)年降下の浅間山火山灰As-Bテフラによって覆われた「小区画」状の古代水田は9区でも検出されている。

本調査区の北側に隣接する8-1区2面では、本調査区で検出された「小区画」状水田は全く検出されておらず、継続性が見られないことに疑問の余地が遺る。

8-2区10号水田($X = 61040 \sim 043$ 、 $Y = -92249 \sim 251$) 調査区北東隅。調査区北寄りの位置で西南西-東北東方向に検出された8-2区2面1号畦畔によって南側を、また、調査区東寄りの位置を北北西-南南東方向に貫通する8-2区2面2号畦畔によって西側を画された水田区画で、東側、北側ともに調査区外へと広がっており、区画の南西端部のごく一部がわずかに検出されたに過ぎない。西側は8-2区11号水田に隣接する。

検出最大南北長2.31m、検出最大東西幅1.55mで、検

出面積は2.58 m^2 である。

なお、西側は、近世の天明3(1773)年の浅間山噴火直後に起こった洪水堆積層によって覆われた1面下の近世中期以前の水田に伴う水路である15号溝によって掘り込まれ、破壊されている。

検出範囲は、水田区画のごくわずかの部分に過ぎないが、検出範囲内では標高395.10m前後の比較的安定した平坦面が形成されており、南から北への緩やかな傾斜を呈する。

8-2区11号水田($X = 61039 \sim 042$ 、 $Y = -92252 \sim 254$) 調査区北東寄りの位置。西南西-東北東方向の8-2区2面1号畦畔によって南側を、また、北北西-南南東方向の8-2区2面2号畦畔によって東側を画された水田区画で、北側は1面下3号段差によって掘り込まれ、破壊されており、西側も攪乱されている。

区画の南東側が検出されている。

検出最大南北長2.20m、検出最大東西幅2.25m、検出面積は4.93 m^2 である。

検出範囲は、区画の一部ではあるが、検出範囲内では標高395.20m前後の比較的安定した平坦面が形成されており、南西側から北東側への緩やかな傾斜を呈する。

8-2区12号水田($X = 61040 \sim 043$ 、 $Y = -92255 \sim 258$) 調査区北西寄りの位置。西南西-東北東方向の8-2区2面1号畦畔によって南側を、また、調査区の北西寄りに位置し、南端が8-2区2面1号畦畔に取り付く北北西-南南東方向の畦畔である8-2区2面3号畦畔によって西側を画された水田区画で、北側は調査区北壁外へと広がっている。

東側は攪乱されているが、8-2区11号水田と隣接する。また、西側は3号畦畔を隔てて8-2区13号水田に隣接する。

区画の南西側大半が検出されたものと考えられる。検出最大南北長3.25m、検出最大東西幅2.72m、検出面積は6.64 m^2 である。検出範囲内では標高395.20m前後の比較的安定した平坦面が形成されており、南側から北側への緩やかな傾斜を呈する。最も標高が高い区画南端と最も低い検出範囲北端との最大比高差は0.05mである。

8-2区13号水田($X = 61039 \sim 041$ 、 $Y = -92259 \sim 261$) 調査区北西隅。西南西-東北東方向の8-2区2面1号畦畔によって南側を、また、北北西-南南東方向

の8-2区2面3号畦畔によって東側を画された水田区画で、北側と西側はそれぞれ調査区外へと広がっている。

検出最大南北長1.46m、検出最大東西幅2.48m、検出面積は2.01㎡である。区画の南東側のごく一部が検出されているものと考えられる。検出範囲内では標高395.20m前後の比較的安定した平坦面が形成されていたものと推測出来る。

8-2区14号水田(X=61036~040、Y=-92248~250) 調査区東端のやや北寄りの位置。西南西-東北東方向の8-2区2面1号畦畔によって北側を、北北西-南南東方向の8-2区2面2号畦畔によって西側を、また、西端が8-2区2面2号畦畔に取り付く西南西-東北東方向の8-2区2面4号畦畔によって南側を画された水田区画で、東側は調査区東壁外へと広がっている。

検出最大南北長3.03m、検出最大東西幅1.70m、検出面積は4.73㎡である。

区画の西側約半分程度が検出されているものと考えられる。検出範囲内では標高395.30m前後の比較的安定した平坦面が形成されていたものと推測出来、南西側から北東側へと緩やかに傾斜しており、標高が最も高い区画南西隅と最も低い検出範囲内北東隅との比高差は0.15mである。

8-2区15号水田(X=61035~039、Y=-92250~254) 調査区中央から東寄りの位置。北北西-南南東方向の8-2区2面2号畦畔によって東側を画され、8-2区14号水田の西側に隣接する。

北・南・西側をすべて1面下で検出された15号溝によって破壊されており、水田区画の南東隅付近のごく一部が0.22㎡程度検出されたにすぎず、詳細は全く不明である。

8-2区16号水田(X=61032~035、Y=-92247~249) 調査区東端のやや南寄りの位置。西南西-東北東方向の8-2区2面4号畦畔によって北側を、北北西-南南東方向の8-2区2面2号畦畔によって西側を、また、8-2区2面2号畦畔の南端に取り付く南西-東北東方向の8-2区2面5号畦畔によって南側を画された水田区画で、東側は調査区東壁外へと広がっている。

北側は8-2区14号水田、西側は8-2区17号水田、南側は8-2区18号水田にそれぞれ隣接する。

検出最大南北長3.59m、検出最大東西幅1.67m、検出面積は4.41㎡である。

区画の西側約半分弱程度が検出されているものと考えられる。検出範囲内では標高395.45m前後の比較的安定した平坦面が形成されていたものと推測出来、南側から北側へと緩やかに傾斜しており、標高が最も高い区画南端と最も低い検出範囲内北東隅との比高差は0.16mである。

8-2区17号水田(X=61030~035、Y=-92248~250) 調査区の南東寄りの位置。北北西-南南東方向の8-2区2面2号畦畔によって東側を、また、8-2区2面2号畦畔の南端に取り付く南西-東北東方向の8-2区2面5号畦畔によって南側を画された水田区画で、北側と西側は1面下で検出された15号溝によって破壊されている。

北側は8-2区15号水田、東側は8-2区16号水田、南側は8-2区18号水田にそれぞれ隣接する。検出最大南北長3.88m、検出最大東西幅2.56m、検出面積は4.31㎡である。

南東隅を含む区画の東側一部が検出されているものと考えられる。検出範囲内では標高395.45~50m前後の比較的安定した平坦面が形成されていたものと推測出来、南側から北側へと緩やかに傾斜している。

本調査区2面から検出された8-2区10~16号水田が、ほぼ北北西-南南東方向を主軸とする区画であるのに対し、この区画は北西-南東方向に大きく傾いている。この区画と南側に隣接する8-2区18号水田とは、検出範囲内では異質の区画と言え、本調査区より南側では、標高の高まりによって、地形に応じて、区画の形態が変化していくものとも考えられる。

8-2区18号水田(X=61028~031、Y=-92246~250) 調査区の南東隅。南西-東北東方向の8-2区2面5号畦畔によって北側を画され、8-2区16・17号水田の南側に隣接する。東側と南側は調査区外へと広がっている。西側は1面下で検出された15号溝によって破壊されている。

検出最大南北長2.11m、検出最大東西幅3.16m、検出面積は3.82㎡である。

区画北端の一部が検出されているものと考えられる。検出範囲内では標高395.57m前後の比較的安定した平坦面が形成されていたものと推測出来、南側から北側へと緩やかに傾斜しているものと推測できる。

先述したように、本調査区2面から検出された水田区画の中で、この区画と北西側に隣接する8-2区17号水田とは、検出範囲内では異質の区画である。

(1) 8-2区2面1号畦畔(第69図)

位置 8-2区2面。X=61038~040、Y=-92248~261。

重複 なし。

主軸方位 N-66~87°-E。

規模 検出全長約8.50m、基底部幅約0.86~1.48m、比高差約0.01~0.10m前後。

遺物 1面下で検出された15号溝によって東寄りの一部を掘り込まれ、破壊されている。

所見 調査区北寄りの位置を西南西-東南東方向に横断する。東・西端ともそれぞれ調査区壁外へと伸びている。

調査区北東寄りのX=61040、Y=-92251付近で北北西-南南東方向の8-2区2面2号畦畔と交差するが、交差部分は1面下で検出された15号溝によって掘り込まれ、破壊されている。畦畔北側における水田面の標高は、おおむね395.20m前後である。

上面を度重なる洪水や火山灰等の堆積によって破壊され、残存状態は良くないが、規模・形状から見て、西南西-東北東方向の大畦畔であると考えられる。

1面下で検出された15号溝によって破壊されているY=-92251ライン付近より西側では、本畦畔南側において水田区画は検出されていない。北側には、本畦畔によって南側を画された8-2区10~13号水田が造られている。

調査区の北西寄り、X=61039.8、Y=-92258.5付近では、北北西-南南東方向の8-2区2面3号畦畔が本畦畔の北側に取り付く。

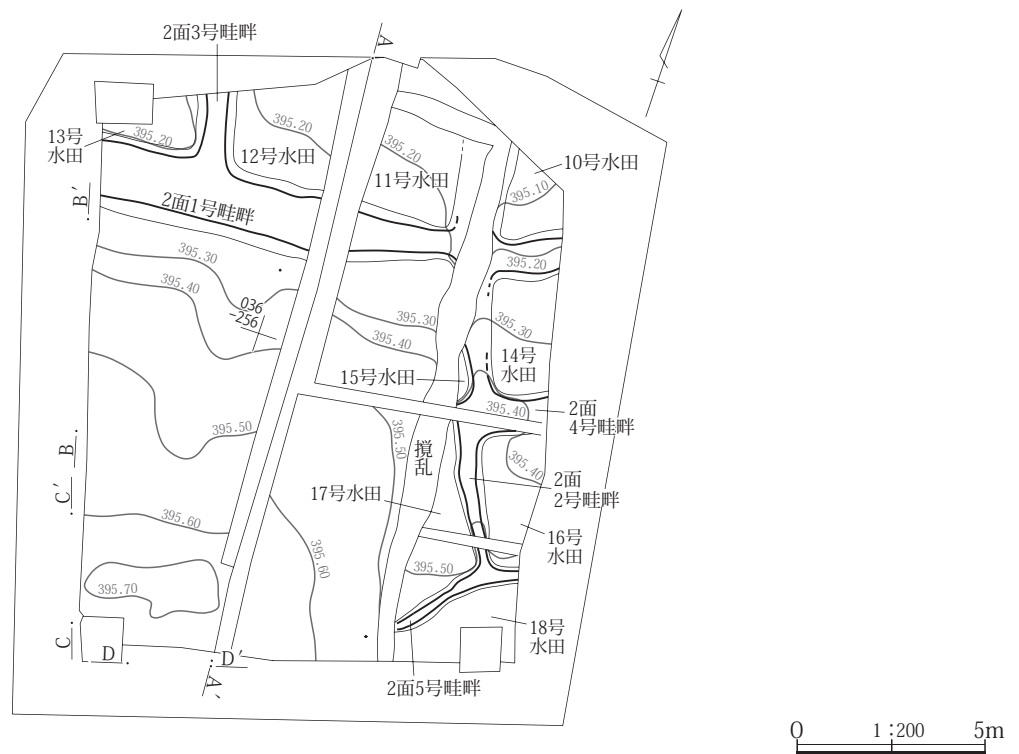
(2) 8-2区2面2号畦畔(第69図)

位置 8-2区2面。X=61032~042、Y=-92248~252。

重複 1面下で検出された15号溝によって北寄りから中央にかけての一部を掘り込まれ、破壊されている。

主軸方位 N-20~30°-W。

規模 検出全長約11.00m、基底部幅約0.41~0.78m、比高差約0.01~0.06m前後。



第69図 8-2区2面全体図

遺物 なし。

所見 調査区東寄りの位置を北北西-南南東方向にほぼ縦断し、南端は調査区の南東隅付近で検出された南西-東北東方向の8-2区5号畦畔にX=61032、Y=-92248付近で取り付く。北端は1面下3号段差によって破壊されている。

調査区北東寄りのX=61040、Y=-92251付近で西南西-東北東方向の8-2区2面1号畦畔と交差するが、交差部分を含め、本畦畔の西側部分は1面下で検出された15号溝によって掘り込まれ、破壊されている。また、調査区中央の東端寄り位置X=61036、Y=-92249.5付近で西南西-東北東方向の8-2区2面4号畦畔が東側に取り付くが、4号畦畔の接続部分付近の一部も確認調査時の試掘坑によって部分的に破壊されている。8-2区5号畦畔に取り付く調査区の南東隅付近では、畦畔の幅が次第に狭まっており、南端付近ではかなり幅が狭くなっている。

残存状態は良くないが、規模・形状から見て、北北西-南南東方向の大畦畔であると考えられる。

(3) 8-2区2面3号畦畔(第69図)

位置 8-2区2面。X=61039~041、Y=-92258~259。

重複 なし。

主軸方位 N-13~15°-W。

規模 検出全長約2.00m、基底部幅約0.26~0.29m、比高差約0.01~0.03m前後。

遺物 なし。

所見 調査区北西寄りに位置する北北西-南南東方向の畦畔で、南端はX=61039.8、Y=-92258.5付近で西南西-東北東方向の大畦畔である8-2区2面1号畦畔に取り付く。北端は調査区北壁外へと伸びている。

東側8-2区12号水田と西側13号水田とを画する。残存状態は良くない。

(4) 8-2区2面4号畦畔(第69図)

位置 8-2区2面。X=61035~036、Y=-92248~249。

重複 なし。

主軸方位 N-71~78°-E。

規模 検出全長約1.70m、基底部幅約1.11~1.13m、比高差約0.01~0.04m前後。

遺物 なし。

所見 調査区中央の東端付近で検出された西南西-東北東方向の畦畔で、西端はX=61036、Y=-92249.5付近で北北西-南南東方向の大畦畔である8-2区2面2号畦畔に取り付く。東端は調査区東壁外へと伸びている。

北側8-2区14号水田と南側16号水田とを画する。残存状態は良くない。

(5) 8-2区2面5号畦畔(第69図)

位置 8-2区2面。X=61029~032、Y=-92247~250。

重複 西端を1面下で検出された15号溝によって破壊されている。

主軸方位 N-38~71°-E。

規模 検出全長約3.40m、基底部幅約0.42~0.61m、比高差約0.01~0.06m前後。

遺物 なし。

所見 調査区の南東隅付近で検出された南西-東北東方向の畦畔。北側に北北西-南南東方向の大畦畔である8-2区2面2号畦畔が取り付くX=61032、Y=-92248付近で南側に緩やかに屈曲し、西南西-東北東方向になる。

西端はX=61029.5、Y=-92250.1付近で1面下から検出された15号溝によって破壊され検出出来なくなる。東端は調査区東壁外へと伸びている。

北側8-2区16・17号水田と南側18号水田とを画する。残存状態は良くない。

時期 天仁元(1108)年以前で古代のものと考えられる。

第17節 8-2区2面下の遺構と遺物

本調査区では、天仁元(1108)年の浅間山噴火によって降下した火山灰As-Bテフラによって覆われた2面の調査が完了した後に、2面と6世紀初頭の榛名山二ツ岳噴火によって降下した火山灰榛名-渋川テフラHr-FA層の下層から検出された3面との中間の層に、黒色粘質土の層が一部で認められたため、水田面の存在を仮定して面的

な調査を実施したところ、水田を検出することは出来なかった。

この2面下の遺構確認面は、本調査区においてのみ、検出が可能であり、北側に隣接する8-1区やさらにその他の調査区においては全く検出することが出来なかった。

2面で検出された古代水田と、3面で検出された古墳時代後期水田との間で黒色粘質土面が検出されたのは、西端X=61035、Y=-92260.5、東端X=61039.5、Y=-92249.2を結ぶライン以南の、調査区のおよそ2/3弱を占める範囲である。

プラントオパール分析を実施したところ、少ないながらもイネ科のプラントオパールが検出され、少なくとも周辺域では古墳時代初期から平安時代後期に至るまでの間も連綿と水田耕作が行われていたことが推測出来る。

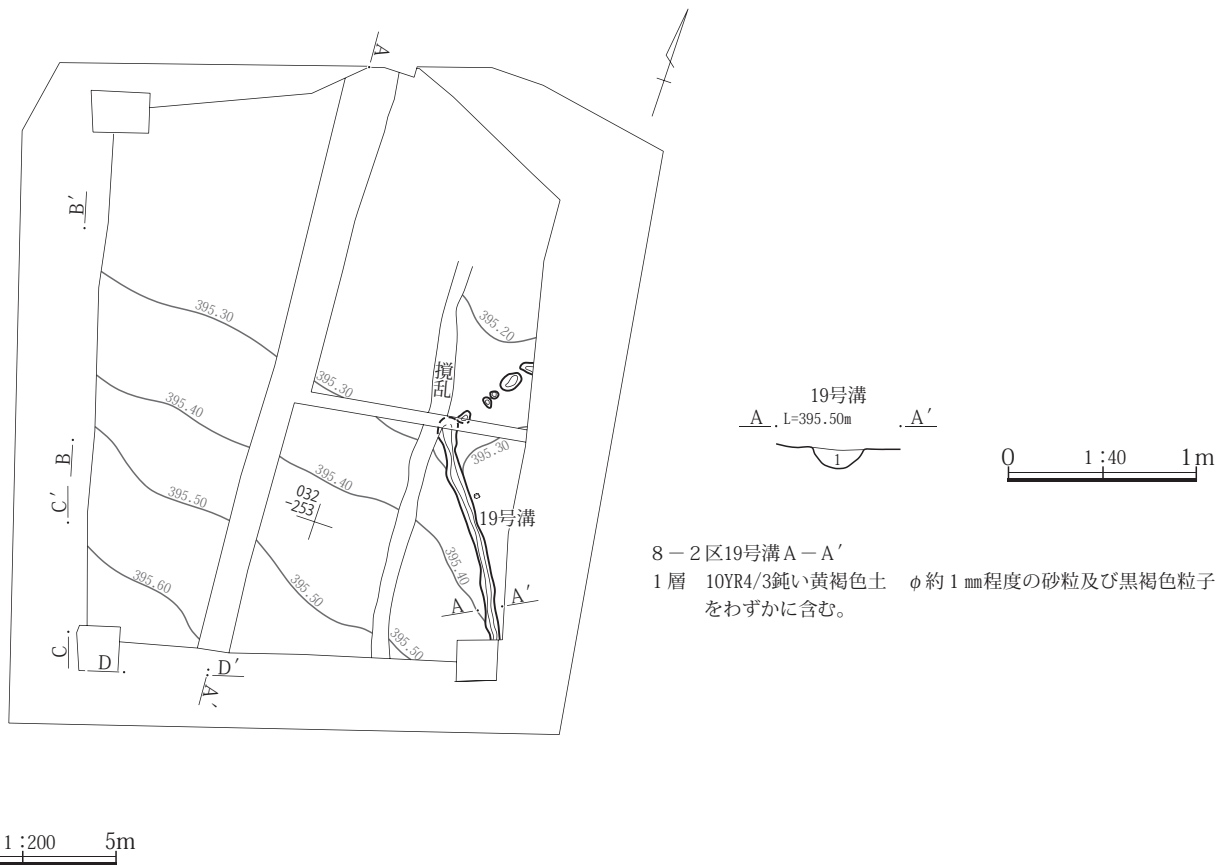
2面水田下の堆積層には洪水堆積層を複数枚確認することが出来、各堆積層を挟んで2面で検出された水田耕

作土と類似する黒色粘質土が薄く堆積している様子を確認することが出来た。本地域では繰り返し洪水に襲われていたことが判明する。

2面下の調査は、2面の調査終了後、平成28(2015)年11月末に実施した。調査区の南東隅付近で北西-南東方向の溝が1条検出されたのみである(19号溝)。溝の北西端から北東方向に、小規模なピット状のくぼみが連なって検出されたが、いずれも不整形で、規模も非常に小さいもので、人為的な掘り込みと認定できるような積極的な根拠も無いため、遺構としての認定はしなかった。

2面下の遺構確認面も、1・2面と同様、南西側から北東側へと傾斜する地形である。黒色粘質土の平坦面が検出された部分で、最も標高が高い調査区南西隅付近における標高は395.68m、最も低い検出範囲北東隅の東端X=61039.5、Y=-92249.2付近では395.19mで、比高差は最大0.49mとなる。

水田面が検出された面に比べると、等高線の密度が高



第70図 8-2区2面下全体図、19号溝土層断面図

く、傾斜はやや急であるように見受けられ、安定した平坦面とはあまり言い難いような状況である。

1. 溝

・19号溝(第70図、PL.62)

位置 8-2区2面下。X=61030～035、Y=-92247～250。

重複 なし。

主軸方位 N-24～31°-W。

規模 検出全長6.00m、上幅0.19～0.41m、下幅0.06～0.08m、深さ0.04～0.12m。

埋土 径約1mm程度の砂と黒褐色土粒をわずかに含む鈍い黄褐色土。

遺物 なし。

所見 調査区南東隅付近を南東から北西へ流れる。南東端は調査区南側及び東側壁外へと伸びている。北西端はX=61035.6、Y=-92251付近で止まる。

底面の標高は、最上流側の南東端部で395.37m、最下流側の北西端部で395.22m、南北の比高差は0.15mとなる。

比較的しっかりとした掘方を有し、断面は上が広く開口したU字形を呈する。

時期 天仁元(1108)年以前で古代のものと考えられる。

第18節 8-2区3面の遺構と遺物

本調査区と9区においてのみ、6世紀初頭の榛名山二ツ岳噴火に際して降下した火山灰である渋川テフラHr-FA層の下層から、1辺が1～2m程度の極小区画水田が計39枚検出された。

本遺跡が位置する吾妻地域西部では榛名山二ツ岳渋川テフラ直下の水田の検出事例は無く、古墳時代極小区画水田としては群馬県内最西における検出事例となった。古墳時代後期における吾妻地域西部の歴史解明に大きな意義を有するものであった。

なお、古墳時代後期の水田面の下層からは遺構は全く検出されなかったため、本調査区における最下層の遺構確認面ということになる。

本調査区3面の調査は、2面下の調査に引き続き、平成28(2015)年12月初頭から中旬までの間、実施された。

1. 水田(第71・72図、PL.63)

3面でも1・2面・2面下等、上層の遺構確認面と同様、南西側から北東側へと緩やかに傾斜しており、調査区内で最も標高が高い調査区南西隅付近でおおむね395.40m程度、最も標高が低い調査区北東隅付近で394.50m程度、標高差は最大で0.9m程である。

調査区のほぼ全域にわたって1～2㎡前後の水田区画が計39枚検出された。1区画が完全に検出出来た区画はわずか11区画に過ぎないが、全体の形状や大きさが比較的類推出来るものが多かった。

調査区の北東隅部、ほぼX=61039ラインY=-92255ラインの北東側は、調査区の西寄りを南から北へと流れる水田の水路と考えられる22号溝の氾濫により大きく破壊されている。

調査区南端の中央から北東側にかけて、X=61039ラインまでの間に区画が作られていない部分があり、その両側の水田区画は、不整形で配置も不揃いである。残存状態が悪いために検出されなかったわけではなく、地形の制約によって、不規則的・不整形的な水田区画にならざるを得なかったと考えられる。

一方、調査区の西側、とくに22号溝よりも西側では隅丸方形ないし長方形を呈する比較的均質な水田区画が整然と配置されている。

このように、調査区の中央からやや西寄りの位置を南から北へと流れる22号溝の東側と西側とで、水田区画の検出状況は大きく異なっており、水田区画の設計理念が異なっていた可能性が高い。

1枚の水田区画が完全に検出されたものは0.5～2.2㎡と大小にかなりのばらつきがある。先述したように調査区の西寄りの位置を南から北へ流れる22号溝の東側から検出された水田区画は、概して不整形で不揃いな配置であり、水田1枚分の面積も0.50～2.00㎡と不揃いである。一方、22号溝西側では、比較的均質な大きさの水田区画が整然と並列しており、水田区画1枚の大きさもおおむね2.00㎡前後と均質である。

8-2区19号水田(X=61038～039、Y=-92248～249) 調査区東壁際の北寄り。8-2区20号水田の北側に隣接する。東側は調査区東壁外へと広がっている。また北側は22号溝の氾濫原によって破壊されている。

検出最大南北長1.50m、検出最大東西幅0.98m、検出面積1.19㎡、水田面の標高は394.71～394.74m前後で、南側から北側への配水がなされていたものと考えられる。

8-2区20号水田(X=61036～037、Y=-92248～249) 調査区東壁際の北寄り。東側は調査区東壁外へと広がっている。8-2区19号水田の南側、21号水田の北側に隣接する

検出最大南北長0.95m、検出最大東西幅0.89m、検出面積0.79㎡、水田面の標高は394.77～394.84m前後で、南西側から北東側への配水がなされていたものと考えられる。

8-2区21号水田(X=61036、Y=-92248) 調査区東壁際のやや北寄り。東側は調査区東壁外へと広がっている。8-2区20号水田の南側、22号水田の北側に隣接する。

水田区画の東側大半が調査区外に出ており、区画南西隅を含む区画のごく一部が検出されたに過ぎないものと考えられる。

検出最大南北長0.74m、検出最大東西幅0.34m、検出面積0.22㎡、水田面の標高は394.80m前後である。

8-2区22号水田(X=61034～035、Y=-92248～249) 調査区ほぼ中央の東壁際。東側は調査区東壁外へと広がっている。8-2区21号水田の南側、23・24号水田の北側に隣接する。

水田区画の西側の大半が検出された。検出最大南北長1.02m、検出最大東西幅0.92m、検出面積0.80㎡、水田面の標高は394.81～394.85m前後で、西から東への配水がなされたものと考えられる。

8-2区23号水田(X=61033～034、Y=-92247～248) 調査区ほぼ中央の東壁際。東側は調査区東壁外へと広がっている。8-2区22号水田の南側、25号水田の北側、24号水田の東側に隣接する。

水田区画の西側が検出された。検出最大南北長1.05m、検出最大東西幅0.57m、検出面積0.54㎡、水田面の標高は394.81～394.85m前後で、南西から北東への配水がなされたものと考えられる。

8-2区24号水田(X=61033～034、Y=-92248～249) 調査区ほぼ中央の東壁寄り。8-2区22号水田の南側、26号水田の北側、23号水田の西側に隣接する。

北東-南西方向に長い楕円形状を呈する水田区画1枚が完全に検出されたが、極めて小規模である。南北長0.97m、東西幅0.63m、面積0.52㎡、水田面の標高は394.93m前後である。

8-2区25号水田(X=61031～032、Y=-92247～248) 調査区南寄りの東壁際。東側は調査区東壁外へと広がっている。8-2区23号水田の南側、27号水田の北側、26号水田の東側に隣接する。

水田区画の西側の大半が検出された。検出最大南北長1.47m、検出最大東西幅0.97m、検出面積1.36㎡、水田面の標高は394.80～394.87m前後で、西から東への配水がなされたものと考えられる。

8-2区26号水田(X=61032、Y=-92249～250) 調査区南東隅寄り。8-2区24号水田の南側、28号水田の北側、25号水田の西側に隣接する。

東西にやや長い小規模な隅丸長方形の水田区画1枚が完全に検出された。南北長0.71m、東西幅0.86m、面積0.53㎡、水田面の標高は394.98m前後である。

8-2区27号水田(X=61030～031、Y=-92247～248) 調査区南東隅。東側は調査区東壁外へと広がっている。8-2区25号水田の南側、29号水田の東側に隣接する。

水田区画の東端が調査区外に出る程度で、区画の大部分が検出された。検出最大南北長0.91m、検出最大東西幅1.28m、検出面積1.00㎡、水田面の標高は394.80～394.90m前後で、南西から北東への配水がなされたものと考えられる。

8-2区28号水田(X=61030～031、Y=-92249～250) 調査区南東隅寄り。東西に細長い隅丸不整長方形の水田区画1枚が完全に検出された。

8-2区26号水田の南側、25・27号水田の西側、29・30号水田の北側に隣接する。南北長0.75m、東西幅1.45m、面積0.93㎡、水田面の標高は394.97～395.05m前後で、西から東への配水がなされたものと考えられる。

8-2区29号水田(X=61029～031、Y=-92248～250) 調査区南東隅寄り。南壁際。南側が調査区南壁外へと広がっているが、水田区画のほとんどは検出されているものと考えられる。

8-2区28号水田の南側、27号水田の西側に隣接する。

30号水田の東側に隣接する。検出最大南北長1.56m、検出最大東西幅1.15m、検出面積2.13㎡、水田面の標高は394.93～395.04m前後で、南西から北東への配水がなされたものと考えられる。

8-2区30号水田(X=61028～030、Y=-92250) 調査区南端の東寄り。南壁際。南側が調査区南壁外へと広がっているが、検出範囲では南北に細長い平面形状を呈しており、水田区画の形状としては異例な形状であるが、水田区画のほとんどは検出されているものと考えられる。8-2区28号水田の南側、29号水田の西側、31号水田の東側に隣接する。

検出最大南北長1.58m、検出最大東西幅0.69m、検出面積0.85㎡、水田面の標高は395.09～395.13m前後で、南から北への配水がなされたものと考えられる。

8-2区31号水田(X=61028～029、Y=-92251～252) 調査区南端の中央付近、南壁際。南側が調査区南壁外へと広がっているが、検出範囲では南北にやや長い平行四辺形状を呈する。8-2区30号水田の西側、32号水田の東側に隣接する。

検出最大南北長1.13m、検出最大東西幅0.92m、検出

面積1.01㎡、水田面の標高は395.06～395.12m前後で、南から北への配水がなされたものと考えられる。

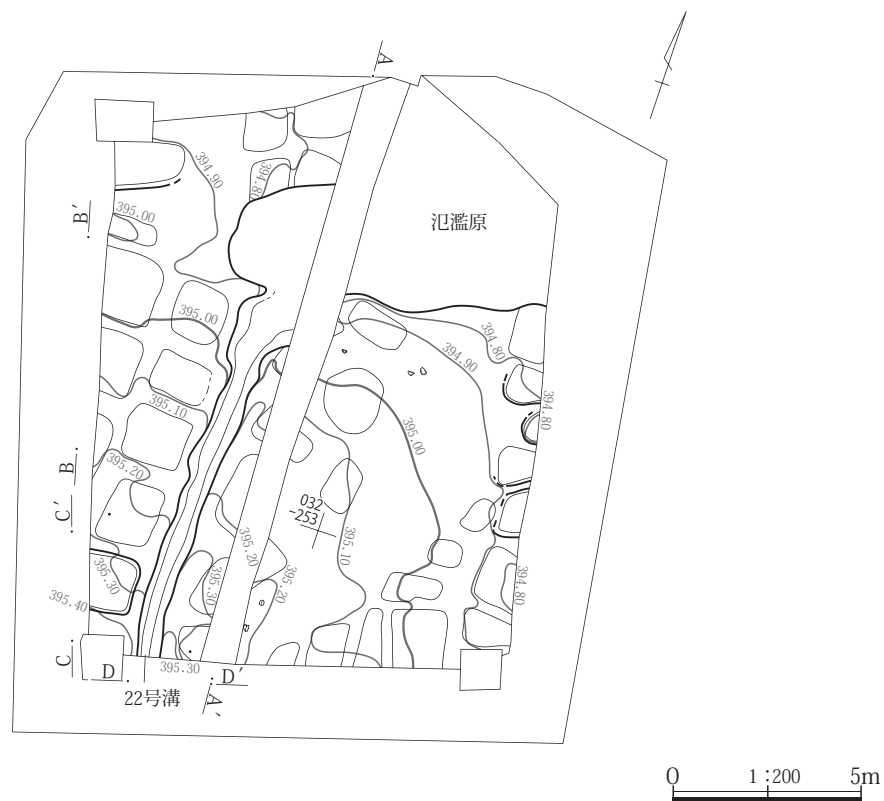
8-2区32号水田(X=61028、Y=-92252～253) 調査区南端の中央付近、南壁際。南側が調査区南壁外へと広がっているが、検出範囲では不整楕円形状を呈する。8-2区31号水田の西側、43号水田の東側に隣接する。

検出最大南北長0.68m、検出最大東西幅0.64m、検出面積0.35㎡、水田面の標高は395.10～395.15m前後で、南から北への配水がなされたものと考えられる。

8-2区33号水田(X=61037、Y=-92252～254) 調査区中央からやや北寄りの位置。1枚の水田区画が完全に検出されており、西北西-東南東方向に長い隅丸長方形形状を呈する。8-2区34号水田の北東側、35号水田の北側に隣接する。

南北長0.80m、東西幅1.55m、面積1.17㎡、水田面の標高は394.89～95m前後で、南から北への配水がなされたものと考えられる。

8-2区34号水田(X=61037、Y=-92254) 調査区中央からやや北寄りの位置。8-2区33号水田の南西側、35号水田の北西側に隣接する。



第71図 8-2区3面全体図

調査区中央に南北方向に設定された長大な土層観察用ベルトの東側に水田区画の北東隅が0.06㎡のみごくわずかに検出されたに過ぎない。区画の西側大半は土層観察用ベルトに掛かっており調査されなかった。

8-2区35号水田(X=61034~036、Y=-92252~253) 調査区のほぼ中央に位置する。1枚の水田区画が完全に検出されており、南北にやや長い不整楕円形状を呈する。8-2区36・37号水田の北側、33・34号水田の南側に隣接する。

南北長1.74m、東西幅1.50m、面積2.09㎡、水田面の標高は395.00~08m前後で、南から北への配水がなされたものと考えられる。

8-2区36号水田(X=61033~034、Y=-92253~254) 調査区のほぼ中央からやや南寄りに位置する。

調査区中央に南北方向に設定された長大な土層観察用ベルトの東側に、水田区画の東側半分弱程度が検出されているものと思われる。土層断面観察用ベルトを挟んだ西側から検出された8-2区40号水田と同一の水田区画であった可能性もあるが、詳細は不明である。8-2区37号水田の西側に隣接する。

検出最大南北長0.72m、検出最大東西幅0.46m、検出面積0.30㎡、水田面の標高は395.13m前後である。

8-2区37号水田(X=61032~034、Y=-92252~253) 調査区のほぼ中央からやや南東寄りに位置する。1枚の水田区画が完全に検出されており、北東-西南方向にやや長い隅丸長方形形状を呈する。8-2区36号水田の東側、35号水田の南側に隣接する。

南北長1.30m、東西幅0.85m、面積1.02㎡、水田面の標高は395.09~14m前後で、南西から北東への配水がなされたものと考えられる。

8-2区38号水田(X=61030~031、Y=-92253~254) 調査区南端付近の中央に位置する。調査区中央に南北方向に設定された土層観察用ベルトの東側に、水田区画の北東隅を含む一角が約半分弱程度検出されているものと考えられる。西側は土層観察用ベルトに掛かっており、調査されていない。

土層観察用ベルトの西側に隣接する8-2区41号水田とは形状が全く整合しない。ベルトを挟んで本区画の南西に隣接する42号水田とは主軸方位や形状が類似するが、両区画が同一のものだとすると長径が約2.8m近くと

なり、他の区画と比較しても異様に長大すぎるので、同一区画とは考えにくい。

検出最大南北長1.18m、検出最大東西幅0.81m、検出面積0.54㎡、水田面の標高は395.18~395.20m前後で、南から北への配水がなされたものと考えられる。

8-2区39号水田(X=61035~036、Y=-92255) 調査区のほぼ中央に位置する。8-2区40号水田の北側に隣接する。

調査区中央に南北方向に設定された土層観察用ベルトの西側に水田区画の西側が部分的に検出された。区画の東側は土層観察用ベルトに掛かり調査されず、また、区画の北側は22号溝下流の氾濫により破壊されており、区画の形状は不明である。

検出最大南北長0.49m、東西幅0.35m、面積0.17㎡、水田面の標高は394.95~394.99m前後で、南西から北東への配水がなされたものと考えられる。

8-2区40号水田(X=61033~034、Y=-92255) 調査区中央のやや南寄り。8-2区39号水田の南側、41号水田の北側に隣接する。

調査区中央に南北方向に設定された土層観察用ベルトの西側に、水田区画の南西側の一部が検出された。区画の東側は土層観察用ベルトに掛かり調査されていない。

検出最大南北長0.88m、検出最大東西幅0.42m、検出面積0.23㎡、水田面の標高は395.07~395.12m前後で、南西から北東への配水がなされたものと考えられる。

8-2区41号水田(X=61031~033、Y=-92255) 調査区中央の南寄り。8-2区40号水田の南側、42号水田の北側に隣接する。

調査区中央に南北方向に設定された土層観察用ベルトの西側に水田区画の西側が検出された。区画の東側は土層観察用ベルトに掛かり調査されていない。検出された範囲内においてさえ、区画の南北長は検出されたすべての区画の中で最長である。

検出最大南北長2.10m、検出最大東西幅0.68m、検出面積1.15㎡、水田面の標高は395.12~20m前後で、南から北への配水がなされたものと考えられる。

8-2区42号水田(X=61028~030、Y=-92255) 調査区中央の南端寄り。8-2区41号水田の南側、43号水田の北側に隣接する。

調査区中央に南北方向に設定された土層観察用ベルト

の西側に水田区画の北西隅から南西側が検出された。区画の東側は土層観察用ベルトに掛かり調査されていないが、水田区画の約半分以上は検出されているものと考えられる。

検出最大南北長1.63m、検出最大東西幅0.76m、検出面積0.81㎡、水田面の標高は395.27～33m前後で、南西から北東への配水がなされたものと考えられる。

8-2区43号水田(X=61027～028、Y=-92254～255) 調査区中央の南端。8-2区42号水田の南側に隣接する。

調査区中央に南北方向に設定された土層観察用ベルトの西側に水田区画の北西隅から西側が検出された。区画の東側は土層観察用ベルトに掛かり調査されておらず、また、南側は残存状態が悪く検出出来なかった。

検出最大南北長0.48m、検出最大東西幅0.90m、検出面積0.54㎡、水田面の標高は395.29～395.33m前後で、西から東への配水がなされたものと考えられる。

8-2区44号水田(X=61041～043、Y=-92255～256) 調査区中央の北端。8-2区45号水田の北側、46号水田の東側に隣接する。

水田区画の東端部は調査区中央に南北方向に設定された土層観察用ベルトに掛かり調査されていないが、その範囲はごくわずかであると考えられる。また、区画の北側は調査区北壁外へと広がっている。水田区画南側の大半は検出されているものと考えられる。

南側に隣接する8-2区45号水田とその西側に隣接する47号水田との間には幅約0.31～0.69m前後の南西-北東方向の畦畔、また、西側に隣接する46号水田とその南側の47号水田との間には幅約0.18～0.21m前後の北西-南東方向の畦畔が存在する。十字に交差する北西-南東方向と南西-北東方向の畦畔によって区画された44～47号の4枚の水田区画は、計画的に配置された様子が見える。

なお、北西-南東方向の畦畔の高さは約0.01～0.13m前後、南西-北東方向の畦畔の高さは約0.01～0.18m前後である。

検出最大南北長1.10m、検出最大東西幅1.69m、検出面積1.66㎡、水田面の標高は394.76～79m前後で、西から東への配水がなされたものと考えられる。

8-2区45号水田(X=61040～041、Y=-92255～

256) 調査区中央の北端寄り。8-2区44号水田の南側、47号水田の東側に隣接する。

水田区画の東端部は調査区中央に南北方向に設定された土層観察用ベルトに掛かり調査されていないが、その範囲はごくわずかであると考えられる。また、区画の南側は22号溝下流の氾濫によって破壊されているが、水田区画北側の大半は検出されているものと考えられる。

検出最大南北長1.05m、検出最大東西幅1.08m、検出面積0.89㎡、水田面の標高は394.77～80m前後で、北西から南東への配水がなされたものと考えられる。

8-2区46号水田(X=61040～042、Y=-92257～258) 調査区の北西、北壁際。8-2区47号水田の北側、44号水田の西側に隣接する。

水田区画の北端部は調査区北壁外へと出るが、その範囲はごくわずかであると考えられ、区画のほとんどが検出されているものと考えられる。

検出最大南北長1.06m、東西幅1.13m、検出面積1.13㎡、水田面の標高は394.80～85m前後で、西から東への配水がなされたものと考えられる。

8-2区47号水田(X=61039～041、Y=-92256～257) 調査区の北西、北壁寄り。8-2区46号水田の南側、45号水田の西側に隣接する。

水田区画の南端部は22号溝下流の氾濫によって破壊されているが、区画の大部分が検出されているものと考えられる。

検出最大南北長0.97m、東西幅1.02m、検出面積0.92㎡、水田面の標高は394.77～84m前後で、北西から南東への配水がなされたものと考えられる。

8-2区48号水田(X=61038～040、Y=-92259～261) 調査区の北西隅。8-2区49号水田の北側に隣接する。東側に位置する8-2区46・47号水田とは約1.5m程度離れており、東側の46・47号水田と西側に位置する48・49号水田の間には、東西約1.5～2.3m、南北約4.2m程度の水田区画が検出されない空間が存在している。この、水田区画が検出されない箇所では、等高線が他の部分に比べてやや密であり、水田区画を形成するには傾斜があり過ぎるという問題のため、水田区画が造られなかった可能性が考えられる。

8-2区48号水田の西側は、調査区西壁外へと広がっているが、区画の大部分が検出されているものと考えら

れ、東西に細長くやや扁平な隅丸長方形形状を呈するものと考えられる。

1.05m、検出最大東西幅1.83m、検出面積1.89㎡、水田面の標高は394.96～395.03m前後で、南西から北東への配水がなされたものと考えられる。

8-2区49号水田(X=61037～038、Y=-92259～260) 調査区の北西隅寄り。8-2区48号水田の南側、51号水田のすぐ北側に隣接する。西側は調査区西壁外へと広がっているが、区画の大部分が検出されているものと考えられ、東西に細長く扁平な隅丸長方形形状を呈するものと考えられる。

検出最大南北長0.56m、検出最大東西幅1.29m、検出面積0.70㎡、水田面の標高は394.96～395.00m前後で、西から東への配水がなされたものと考えられる。

8-2区50号水田(X=61035～037、Y=-92257～258) 8-2区50～57号の8枚の水田区画が、水田に伴う水路と考えられる南から北へと流れる22号溝の西側に、Y=-92258.6ライン付近に南北に貫く幅0.30～0.50m、高さ0.01～13m程度の畦畔の東西両側に、比較的整然と1.5～2.5㎡前後の水田区画が配置されており、それぞれの水田区画1枚ごとの形状は、東西にやや長いものと南北にやや長いものがあり、斉一性・均一性はあまり感じられないものの、いずれも隅丸長方形形状を呈しており、計画的な水田区画の設営がうかがわれる。

それらの中で最も北東側に位置する50号水田は、水田区画1枚分が検出された。その南側にそれぞれ畦畔を挟んで連なる52、54、56号水田は、いずれも1枚の水田区画が完全に検出されている。

調査区の北西寄りに位置し、51号水田の東側、52号水田の北側、22号溝の西側に隣接する。

南北にわずかに長い隅丸長方形形状を呈し、南北長1.50m、東西幅1.40m、面積1.88㎡、水田面の標高は394.92～395.03m前後で、南から北への配水がなされたものと考えられる。

8-2区51号水田(X=61035～037、Y=-92258～260) 調査区の北西寄り、西壁際。8-2区49号水田の南側、50号水田の西側、53号水田の北側に隣接する。西端は調査区西壁外へと広がっているが、水田区画の大部分は検出されているものと考えられる。

東西に長い隅丸長方形形状を呈し、南北長1.80m、検出

東西幅1.48m、検出面積2.57㎡で、1枚分の区画全体が検出された訳ではないにもかかわらず、本調査区で検出された範囲内における最大の広さを有する水田区画である。

水田面の標高は394.93～395.01m前後で、南から北への配水がなされたものと考えられる。

8-2区52号水田(X=61034～035、Y=-92256～258) 調査区中央、西寄り。8-2区50号水田の南側、53号水田の東側、54号水田の北側、22号溝の西側に隣接する。1枚の水田区画が完全に検出されている。

東西にやや長い隅丸長方形形状を呈し、南北長1.05m、東西幅1.55m、面積1.56㎡で、水田面の標高は395.06～395.09m前後で、南から北への配水がなされたものと考えられる。

8-2区53号水田(X=61033～035、Y=-92258～260) 調査区中央の西端。西壁際。8-2区51号水田の南側、52号水田の西側、55号水田の北側に隣接する。区画の西側は調査区西壁外へと広がっているが、水田区画のほぼ大半が検出されているものと考えられる。

検出最大南北長1.65m、検出最大東西幅1.02m、検出面積1.59㎡で、水田面の標高は395.08～395.12m前後で、南西から北東への配水がなされたものと考えられる。

8-2区54号水田(X=61032～033、Y=-92257～258) 調査区の南西寄り。8-2区52号水田の南側、53・55号水田の東側、56号水田の北側、22号溝の西側に隣接する。1枚の水田区画が完全に検出されている。

東西にやや長い隅丸長方形形状を呈し、南北長1.41m、東西幅1.63m、面積2.23㎡で、水田面の標高は395.11～19m前後で、南西から北東への配水がなされたものと考えられる。

8-2区55号水田(X=61031～033、Y=-92258～259) 調査区南西寄り。西壁際。8-2区53号水田の南側、54・56号水田の西側に隣接する。区画の西側大半は調査区西壁外へと広がっており、水田区画の北東隅を含む一部が検出されている。50～53号水田が東西南北いずれにもほぼ列と段をなしてやや整然とした配置であるのに対し、東側に隣接する54・56号水田とは段としては整合しないが、地形の制約の中、効率的な区画の設定を期したために、段を崩すような配置になったものと考えられる。22号溝の東側に展開する水田区画は整然とし



第72図 8-2区3面水田検出状況、22号溝エレベーション図

た区画配置とは言い難い状況であると同様の理由であろう。

検出最大南北長1.61m、検出最大東西幅0.50m、検出面積0.50㎡で、水田面の標高は、検出範囲内では395.16～395.22m前後である。

8-2区56号水田(X=61030～031、Y=-92257～258) 調査区の南西隅寄り。8-2区54号水田の南側、57号水田の北側、22号溝の西側に隣接する。1枚の水田区画が完全に検出されている。

南北にやや長い隅丸長方形を呈し、南北長1.66m、

東西幅1.38m、面積2.21㎡で、水田面の標高は395.18～395.23m前後で、南西から北東への配水がなされたものと考えられる。

8-2区57号水田(X=61028～029、Y=-92257～258) 調査区の南西隅。8-2区56号水田の南側、22号溝の西側に隣接する。区画の西側が調査区西壁外へと広がっているが、区画の大半が検出されているものと考えられる。

隅丸方形ないし長方形を呈していたものと考えられ、南北長1.39m、検出最大東西幅1.26m、検出面積

1.53㎡で、水田面の標高は395.29～35m前後で、南西から北東への配水がなされたものと考えられる。

時期 6世紀初頭以前で古墳時代後期のものと考えられる。

2. 溝

本調査区3面では、調査区の西寄りの位置を南から北へ流れる22号溝1条が検出された。水田耕作に伴う水路と考えられるが、調査区の北側では、北東側に大きく氾濫した痕跡が検出され、この氾濫によって、調査区の北東側から北東隅にかけての約1/6強の範囲において、水田区画は破壊されており、検出出来なかった。また、検出された水田区画の中にも、8-2区19・39・45・47号水田などで、区画の一部が氾濫によって破壊されている様子がかがえたため、水田区画が全く検出されなかった調査区北東隅部にも、元来は水田区画が形成されていた可能性が高いものと考えられる。

・22号溝(第71・72図)

位置 8-2区3面。溝本体部分X=61027～035、Y=-92255～256。北東側氾濫部分X=61035～044、Y=-92249～257。

重複 なし。

主軸方位 N-0～2°-E。

規模 溝本体部分：検出全長8.48m、上幅0.68～0.92m、下幅0.24～0.58m、深さ0.14～0.24m。北東側氾濫部分：検出南北最大長5.91m、検出東西最大幅8.71m、検出最大深度0.25m。

埋土 鈍い黄褐色土。

遺物 なし。

所見 調査区西寄りの位置を南から北へ貫流する。水田に伴う水路と考えられるが、検出された水田区画には水口は一切検出されておらず、どのように取水され区画に配水されていたのかを明らかにすることは出来なかった。

底面の標高は、最上流の南端部で395.31m、氾濫部分に接する溝として検出された部分の最下流に当たる部分で394.73～394.78mで、溝として検出された範囲内の南北の比高差は0.53～0.58m程度となる。

しっかりとした掘方を有し、断面は上が広く開口した

U字形を呈する。

氾濫部分では、南東側から北西方向へ向かって次第に深くなっており、氾濫部分における最も手前である南西側の部分の標高は394.73m、最深箇所であるX=61042、Y=-92252付近の標高は394.49mで、比高差は約0.24mである。

時期 6世紀初頭以前で古墳時代後期のものと考えられる。

第19節 9区1面の遺構と遺物

9区は、南北方向に走向する一般県道郷原停車場線を挟んで7-2区の約25～29m東側に、また、東西方向の生活道路を挟んで8-1区の約11m北側に位置する東西に長い長方形の平面形態を呈する調査区で、調査区の北辺は水田に、西辺は南北方向の生活道路にそれぞれ面している。調査区の南西隅は、調査区の南側を東西方向に走行する生活道路と調査区の西側を南北方向に走行する一般県道郷原停車場線との交差点に当たっている。

平成28(2015)年10月末から、天明3(1783)年に発生した浅間山噴火に伴う火山泥流堆積物直下の遺構確認面である1面の調査に着手され、11月上旬に1面の調査を終了した。

先述した通り、本調査区と8-2区においては、天明泥流層直下層のすぐ下層から洪水堆積層が検出され、天明3(1783)年の浅間山噴火後に洪水が発生していたこと、その後の火山泥流の発生までの期間にわずかの内に水田や畑が復旧されていたことが判明した。本調査区と8-2区の1面から検出された水田と畑については、天明3年の浅間山噴火以降のものと特定出来たことの意義は大きい。

なお、1面遺構外から肥前磁器仏飯器口縁部～体部片1点(81図10)及び瀬戸・美濃陶器志野丸皿口縁部～体部片1点(第81図11)が出土している。

1. 畑

調査区の北東側を除く約2/3弱の範囲において天明3(1783)年の浅間山噴火によって生じた天明泥流によって覆われた畑が検出された。先述したように、天明3年の浅間山噴火直後に発生した洪水後に復旧された畑であ

る。噴火直後に発生した洪水の後の畑の復旧から天明泥流層によって覆われてしまうまでの間はごくわずかな期間であったと推測出来る。

天明泥流直下の遺構確認面において畑が検出されたのは本遺跡の中では本調査区が唯一である。

調査区内は、全般的には南側から北側に向かって低くなる地形で、本遺跡のすべての調査区においてほぼ共通する地形である。また、本遺跡において調査された調査区の中では最も北側に当たる調査区の一つであるため、調査対象範囲の中でもむしろ標高は低く、393.40～394.90mである。他の調査区に比べて、全面的標高が低いにもかかわらず、本調査区で検出されたのは水田ではなく、畑であった。

本調査区では、傾斜が比較的急であり、調査区内における比高差が1.50mにもなるため、棚田を造成したとしても、生産効率が高い安定した水田面を形成しにくかったという事情から、本調査区の位置に限っては水田ではなく畑が造られたものと推測出来る。

調査区の中央からやや南側において、南西—北東方向の段差が1か所で検出され、段の上下に亘り、計3か所の畑地が造られていたことが判明した。段上・段下で検出された畑は、いずれも畝間の柵の痕跡が辛うじて検出されたに過ぎない。残存状態は極めて悪く、柵の掘り込みの深さは、ほとんど確認することが出来なかった。

残存状態は必ずしも良くなく、段差面に遺る石はかなり疎らな場所もあるが、段差面全域にわたって石垣が造られていた様子が看取出来、他の調査区において検出された棚田に伴う段差と同様、石垣に伴う木杭列も検出されている。

南側段上では北西—南東方向の畑の畝間の柵の痕跡が30条程検出された。検出された畑の畝間の柵の痕跡は、部分的に重複している箇所があり、造り替えられた部分も存在しているが、全体的には大規模な造り替えはなされておらず、ほぼ、一定のスタイルであったと考えられる。この段上側で検出された畑を9区1号畑と称する。

一方、段下側では、ほぼY＝-92260ライン以東では畑の畝間の痕跡はほとんど検出されず、主に西側半分弱における検出にとどまった。検出された畑の畝間の柵の痕跡は北東—南西方向のものが主で、14本分が検出された。検出された北東—南西方向の畑の畝間の痕跡を9区

2号畑と称する。この2号畑においても若干の造り替えがなされていた痕跡が検出された。

さらに段下西半分弱の南東隅では、ごくわずかながら北西—南東方向の畝間の柵の痕跡が4条分検出された。2号畑と重複関係にはないため、併存していたものと考えられる。段上側で検出された1号畑と同様、北西—南東方向の畝間の柵の痕跡であるが、段上側1号畑に比べて、主軸方向の傾斜度は低い。この小規模に検出された畑を9区3号畑と称する。

なお、1号段差段下の畑未検出面から、肥前磁器陶胎染付碗体部1/4片1点(第73図3)と丹波陶器播鉢口縁部片1点(第73図4)が出土。

(1) 9区1号畑(第73・74図、PL.64・65)

位置 9区1面。X＝61078～090、Y＝-92241～270。

重複 なし。

畝間の柵の主軸方位 N-60°-W。

検出された畝の長さ 1.62～7.42m。

検出された畝の幅 0.22～0.60m。

検出された畝間の深さ 確認出来ず。

検出面積 97.40m²

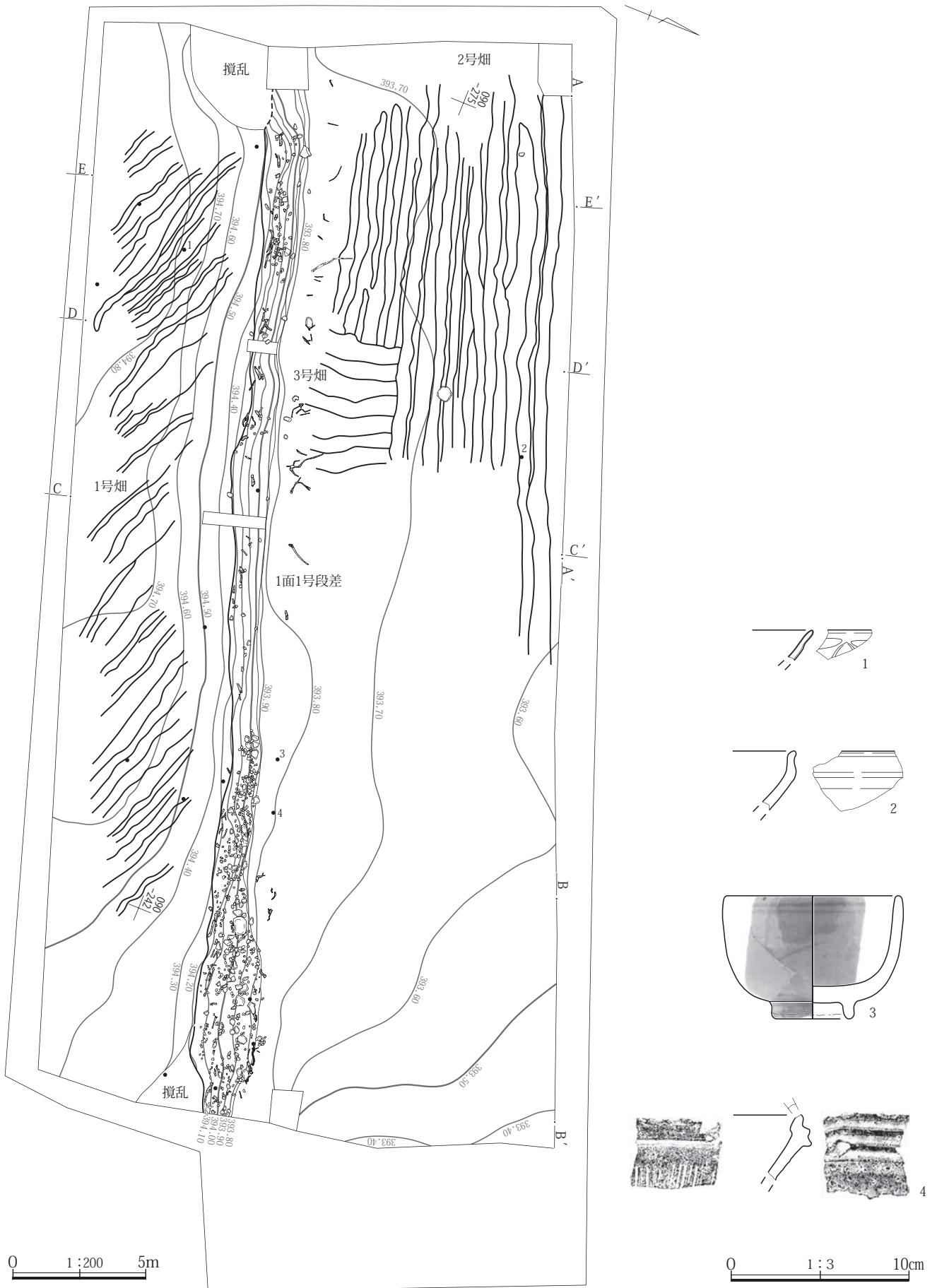
遺物 畑の中央から北西寄りの位置から龍泉窯系青磁碗口縁部片1点(第73図1)が出土。

所見 調査区の中央から南側を南西—北東方向に横断するかのよう検出された9区1面1号段差の南側の段上から調査区南壁際までの範囲において、ほぼ全域にわたって検出された。

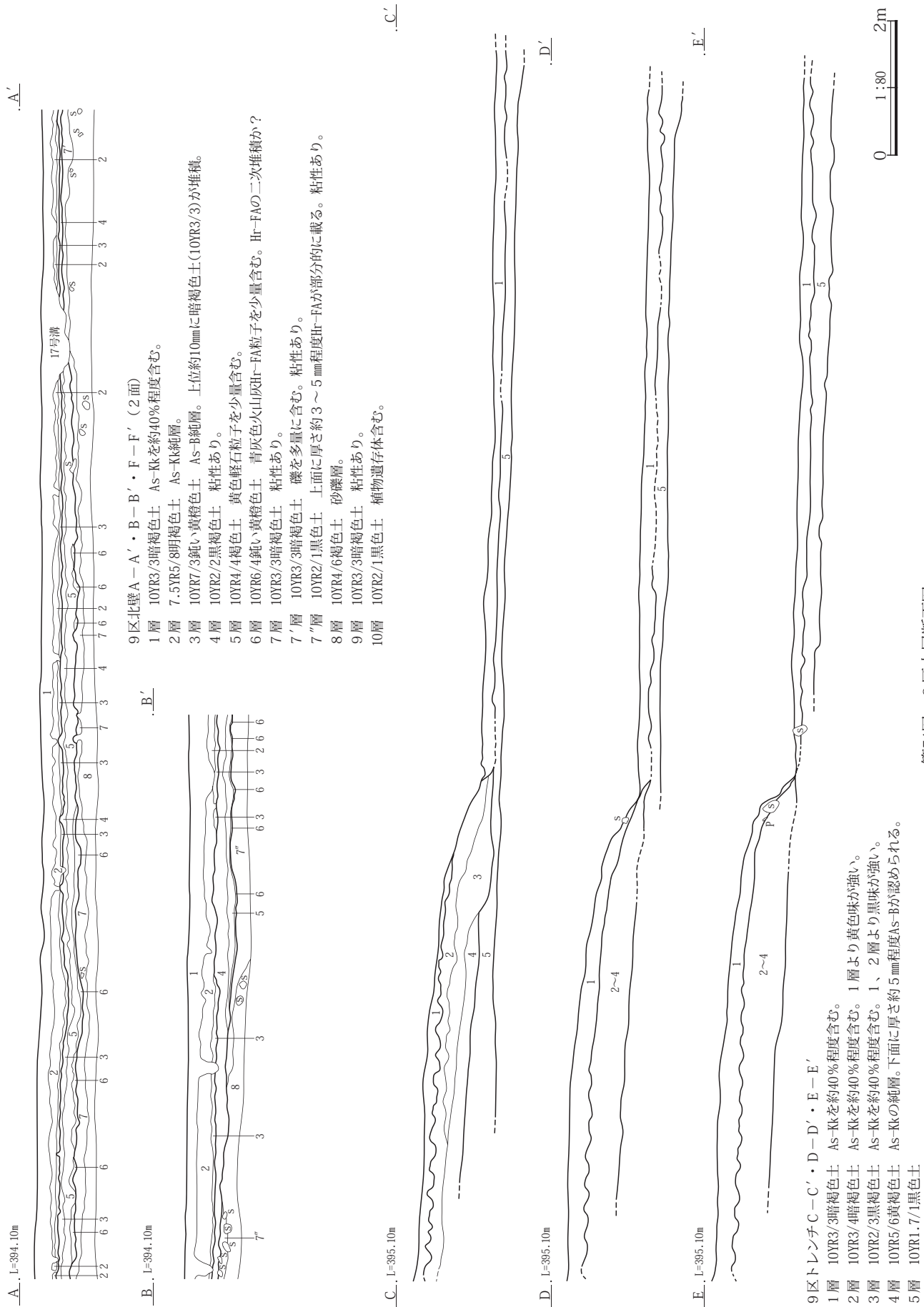
天明泥流層によって上面を甚だしく削平されており、残存状態は極めて悪い。北西—南東方向の畝間の柵の痕跡が溝状に30条分のみ検出された。

先述したように畝間の柵が重複している部分が何箇所かで認められたため、天明3(1783)年の浅間山噴火直後に起こった洪水後から天明泥流到達までの短期間に造られた畑ながらも、その間にあっても造り替えがなされていたことが判明する。

なお、天明3(1783)年の浅間山噴火直後に起こった洪水によって埋没した1面下の畑の畝間の柵とは主軸方位が全く異なっており、洪水後に復旧された畑が1面で検出された1号畑とは言え、復旧前の畑を忠実に再現した



第73図 9区1面全体図、出土遺物



第74図 9区土層断面図



第75図 9区1面1号段差平面図、エレベーション図、出土遺物

ものではないことが判明する。

時期 天明3(1783)年浅間山噴火直後の洪水発生後、天明泥流までの時期のものと考えられる。17世紀末葉。

(2) 9区2号畑(第73・74図、PL.64・65)

位置 9区1面。X=61087～100、Y=-92256～277。

重複 なし。

主軸方位 N-73°-E。

検出された畝の長さ 8.47～20.52m。

検出された畝の幅 0.30～0.54m。

検出された畝間の深さ 検出出来ず。

検出面積 120.13㎡

遺物 畑の北東隅付近から瀬戸・美濃陶器天目碗口縁部片が1点出土(第73図2)。

所見 9区1面1号段差北側の段下から調査区北壁際までの範囲において、段下西側の約1/3強の範囲にわたって検出された。

天明泥流層によって上面を甚だしく削平されており、残存状態は極めて悪い。北東-南西方向の畝間の柵の痕跡が溝状に15条分が検出された。

検出された畝間の柵の痕跡は、9区1号畑において検出されたものに比べて長大であり、且つ主軸方位も大きく異なっている。畝間の柵が重複している部分が1号畑と同様に何箇所かで認められたため、1号畑と同様に段下の2号畑においても天明3年の浅間山噴火直後に起こった洪水後から天明泥流到達までの短期間に造られた畑ながらも、その間にあっても造り替えがなされていたことが判明する。

なお、天明3年の浅間山噴火直後に起こった洪水によって埋没した1面下の畑では、9区1面1号段差段下からは畑は全く検出されなかったため、洪水前の畑の状況は不明である。

時期 天明3(1783)年浅間山噴火直後の洪水発生後、天明泥流までの時期のものと考えられる。17世紀末葉。

(3) 9区3号畑(第73・74図、PL.64)

位置 9区1面。X=61088～092、Y=-92259～265。

重複 なし。

主軸方位 N-20°-W。

検出された畝の長さ 2.64～3.46m。

検出された畝の幅 0.54～0.68m。

検出された畝間の深さ 検出出来ず。

検出面積 14.40㎡

遺物 なし。

所見 9区1号段差の北側の段下、9区2号畑の検出範囲の南東側、1号段差段下近くまでの間の狭い範囲に北西-南東方向の畝間の柵の痕跡4条が検出された。9区1・2号畑と同様、天明泥流層によって上面を甚だしく削平されており、残存状態は極めて悪い。検出範囲は、段上の9区1号畑、段下の9区2号畑に比べて極端に狭く、異質である。

検出された畝間の柵の溝状の痕跡の北端ではあたかも2号畑によって掘り込まれているかのように見えなくもないが、検出された範囲の西端では逆に2号畑を掘り込んでいるため、2号畑の南東側、1号段差段下際近くまでの狭い範囲に、2号畑を掘り込んで造られたものと考えられる。

検出範囲内においては、1・2号畑で見られたような、部分的に造り替えられたような痕跡は全く検出されなかったものの、この3号畑自体が、2号畑の造り替えによるものと看做すことができる。

時期 天明3(1783)年浅間山噴火直後の洪水発生後、天明泥流までの時期のものと考えられる。17世紀末葉。

(4) 9区1面1号段差(第73～75図・PL.65・66)

位置 9区1面。X=61083～095、Y=-92236～273。

主軸方位 N-76°-E。

規模 検出全長約39.00m、幅約0.98～2.41m、比高差約0.46～0.73m前後。

遺物 木杭27本は人為的な加工がなされていない自然木の枝・根を使用したものなので、計測データは集約しなかった。また、段差面東寄りから肥前陶器陶胎染付碗体部～底部片1点(第75図1)及び瀬戸・美濃陶器碗底部片1点(第75図2)が出土。さらに段差の中央からやや東寄りの段上側から瀬戸・美濃陶器挿鉢口縁部片1点(第75図3)が出土。

所見 調査区の中央から南側を南西-北東方向に横断す

るかのように検出された段差で、南側段上9区1号畑と北側段下9区2・3号畑とを画する。東西両端はそれぞれ調査区外へと伸びているが、検出範囲内における東西両端の北側の部分はそれぞれ攪乱されている。

段差には石垣を伴っていたものと推測出来るが、検出された範囲では、段差表面に部分的に川原石が検出された程度で、部分的に粗密の差が大きい。堅牢且つ緻密に構築された石垣と言うわけではなく、かなり粗く、段差面の保護程度のもと考えられる。使用されている礫は径0.1m程度のものが主であるが、0.3～0.5m程度の大きめのものも若干混じる。

また、段差面において部分的に木杭が出土したが、大半が土中から抜けてしまった状態であり、杭列の形では検出されず、他の調査区で検出されたような柵田を造成する際に設けられた段差の木杭とはかなり異なっている。

木杭は、段下側の段差斜面下からも植物遺存体に混じって、かなり疎らな状態ではあるが数本が出土している。天明の浅間山噴火直後の洪水発生後、天明泥流によって畑面が覆われてしまうまでの間に、畑の土留め用のしがらみとして施工されたものと見られ、元来は下段の畑への土砂の流出を防止するための施工と考えられる。

時期 天明3(1783)年浅間山噴火直後の洪水発生後、天明泥流までの時期のものと考えられる。18世紀末葉。

第20節 9区1面下の遺構と遺物

先述したように8-2区と9区では、天明泥流下直下の遺構確認面である1面の直下から、天明3(1783)年の浅間山噴火時に降下した浅間Aテフラ(As-A)を含む洪水堆積層によって覆われた遺構確認面が検出された。このことによって、この地域においては天明3年の浅間山噴火直後に洪水が発生したことや、その後の天明泥流発生までのごく短い期間に水田や畑が復旧されていたことが判明したのであった。

この、浅間山噴火直後に発生した洪水による被害を受けた水田や畑を短期間に復旧して形成されたのが、先述した8-2区1面において検出された水田と、9区1面から検出された畑である。それに先行する、天明3年の浅間山噴火直後に発生した洪水によって被害を受けたの

が、8-2区1面下から検出された水田と、9区1面下から検出された畑である。いずれも、天明3年の浅間山噴火前の遺構と位置付けることが可能である。

9区1面下の調査は、1面の調査に引き続き平成28(2015)年11月上旬から調査に着手され、11月中旬に調査を終了した。

調査区の南側、1面1号段差が存在していた位置から南側で、3か所の畑が検出された。1面1号段差が検出された位置から北側においては、天明3年の浅間山噴火直後に起こった洪水堆積層下の遺構確認面自体が検出されなかった。ただし、その部分からは1面では明瞭には検出されなかった北西-南東方向の溝状の掘り込みが1条検出されたので、17号溝として報告する。

1面1号段差に当たるような段差は、1面下の面からは検出されていないが、自然地形は1面1号段差が造られている位置において急に下がっており、1面下において人為的な段差そのものは検出されていないものの、自然地形を活かして、標高が高い南側にのみ畑を造ったものと考えられる。また、1面1号段差は、下段側にも畑を造る平坦面を構成するために人為的に造られた段差であるが、自然地形を最大限活かして造成された段差であったことが、1面下の調査によって判明した。

また、検出された3か所の畑は、重複は無く、規模の大小の差は大きいものの、同時に併存していたものと考えられる。

1. 畑

調査区の南側、1面1号段差の南側では天明3(1783)年の浅間山噴火直後に生じた洪水によって埋没した畑が検出された。先述したように、天明3年の浅間山噴火直後に発生した洪水後に復旧された畑である1面で検出された畑より以前の、言わば復旧前の畑である。

調査区内は1面と同様、全般的には南側から北側に向かって低くなる地形であり、本遺跡のすべての調査区においてほぼ共通する地形である。畑が検出された調査区南側の標高は393.80～394.80mで、南北約7～8mの間で約1mも下がっていることになる。1面と同様、他の調査区における地形と比べて、比較的急な傾斜であるため、本調査区の範囲では、この時期においても水田ではなく、畑が造られたと考えられる。

遺構確認面が検出された調査区南側の大部分を占めるのは北東—南西方向の畝間の柵が溝状に検出された4号畑で、調査区南側の中央からやや東寄りの位置まで及ぶ比較的広い範囲から検出されている。5号畑と6号畑は、4号畑が検出されないY=-92251ライン以東から南北に検出された。

9区4～6号畑は、1面1号段差上段側でも、特に標高394.40mの等高線よりも高い箇所には纏まって造られている。1面下では、標高394.40mの等高線よりも低い位置からは畑の遺構は全く検出されなかった。地形を綿密に勘察した上で、畑を造成していたことが判明する。

(1) 9区4号畑(第76図、PL.66・67)

位置 9区1面下。X=61077～087、Y=-92251～273。

重複 なし。

畝間の柵の主軸方位 N-57°-E。

検出された畝の長さ 0.95～20.64m。

検出された畝の幅 0.11～0.23m。

検出された畝間の深さ 0.02～0.09m。

検出面積 87.10m²

遺物 なし。

所見 調査区の南側、X=61084、Y=-92274.6からX=61096.4、Y=-92236.5を結ぶラインの南側から調査区南壁際までの範囲において、ほぼ全域にわたって南西—北東方向の長大な畝間の柵の痕跡が溝状に18条検出された。

多くの畝間の柵の溝は、ほぼY=-92251ライン位まで検出されているが、北寄りでは途中で検出出来ない箇所もあった。

1面から検出された畑の畝間の柵の痕跡とは異なり、重複している部分はないので、造り替えがなされることは無かったと考えられる。

時期 天明3(1783)年以前で近世のものと考えられる。

(2) 9区5号畑(第76図、PL.66・67)

位置 9区1面下。X=61087～089、Y=-92246～250。

重複 なし。

畝間の柵の主軸方位 N-65～90°-E。

検出された畝の長さ 2.91～3.90m。

検出された畝の幅 0.22～0.32m。

検出された畝間の深さ 0.02～0.11m。

検出面積 6.10m²

遺物 なし。

所見 調査区南側の中央からやや東寄りの位置。9区4号畑の東側、6号畑のすぐ北側に隣接する。

わずかに屈曲・蛇行するほぼ東北東—西南西方向の畑の畝間の柵の痕跡が4条分検出された。なお、最北側の畝間の柵の北側の立ち上がりは検出されていない。

長大な畝と畝間の柵とが特徴的な9区4号畑とは形状も面積も大きく異なり、主軸方位も造り方もごく小規模である。

時期 天明3(1783)年以前で近世のものと考えられる。

(3) 9区6号畑(第76図、PL.66・67)

位置 9区1面下。X=61084～087、Y=-92245～249。

重複 なし。

畝間の柵の主軸方位 N-5°-W。

検出された畝の長さ 1.48～2.71m。

検出された畝の幅 0.11～0.20m。

検出された畝間の深さ 0.03～0.06m。

検出面積 6.80m²

遺物 なし。

所見 調査区の南側の東寄りの位置。9区4号畑の東側、5号畑のすぐ南側に隣接する。

ごくわずかに屈曲・蛇行する北東—南西方向の畑の畝間の柵の痕跡が10条分検出された。

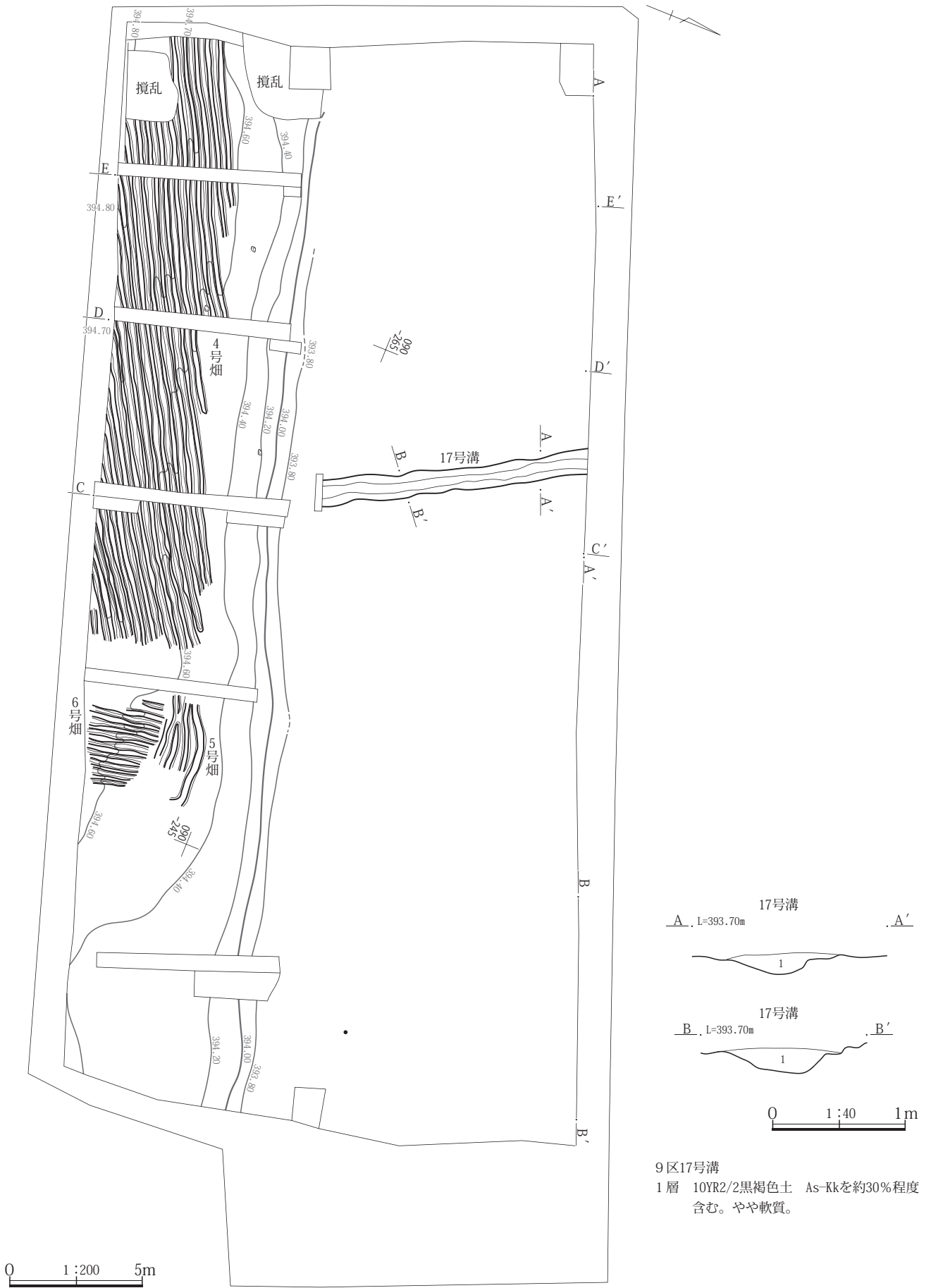
5号畑と同様、長大な畝と畝間の柵とが特徴的な9区4号畑とは形状も面積も大きく異なり、主軸方位も造り方もごく小規模である。

時期 天明3(1783)年以前で近世のものと考えられる。

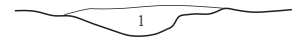
2. 溝

本調査区1面下では、調査区北側の中央からやや西寄りの位置を南東—北西方向の17号溝1条が検出された。

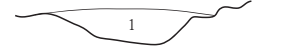
調査区北壁の土層断面から見れば、明らかに天明3年の浅間山噴火直後に発生した洪水堆積土によって覆われているが、検出された1面下北側では遺構確認面自体が



17号溝
A, L=393.70m A'



17号溝
B, L=393.70m B'



0 1:40 1m

9区17号溝
1層 10YR2/2黒褐色土 As-Kkを約30%程度含む。やや軟質。

第76図 9区1面下全体図、17号溝土層断面図

検出されていない。

天明3年の浅間山噴火直後に発生した洪水よりも以前の時代の遺構であることは確実であるものの、遺構の正確な年代は明確にし難いところである。

・17号溝(第76図)

位置 9区1面下。X=61089～098、Y=-92258～264。

重複 なし。

主軸方位 N-22°-W。

規模 検出全長10.00m、上幅0.79～0.95m、下幅0.22～0.40m、深さ0.12～0.21m。

埋土 12世紀前半に降下した浅間山火山灰As-Kkの粒子を約30%程度含む黒褐色土。

遺物 なし。

所見 調査区北約半分の中央からやや西寄りの位置を南東から北西へ貫流する。底面の標高は、上流の南端部で393.53m、下流側で393.30～34m、南北の比高差は0.19～0.23m程度である。

浅いが比較的しっかりとした掘方を有し、断面は上が広く開口した逆台形状を呈する。

時期 天明3(1783)年以前で近世のものと考えられる。

第21節 9区2面の遺構と遺物

12世紀初頭の天仁元(1108)年の浅間山噴火による火山灰As-Bによって覆われた面である。1面下の調査に引き続いて平成28(2015)年11月中旬から着手し、11月末に調査を終了した。

2面では、1面1号段差が存在した位置とほぼ同位置に、北東-南西方向の18号溝が検出されたが、この溝の主軸方位は水田の畦畔とは全く異なっており、且つ水田区画を掘り込んで破壊しているため水田区画よりは新しい時期の遺構である。この18号溝の南側では全域にわたって水田区画が検出された。一方、18号溝の北側では、調査区の中央からやや東寄りの位置で南北方向に検出された大畦9区2面9号畦畔以東では、ほぼ全域にわたって水田区画が検出されたが、大畦よりも西側では、調査区北西隅の一角のみであった。

18号溝以北の、調査区中央から西にかけての一角では水田区画が検出されていない範囲が広がっているが、水

田耕作土である黒色粘質土の面は検出されているので、12世紀における浅間山噴火時に噴出した火山灰によって覆われた時点では、その部分においては、水田区画が形成されていなかったものと見られる。また、この水田区画が検出されなかった一帯では後世に攪乱されている部分も多い。

調査区全体では、古代の水田面とそれに伴う畦畔が29か所(9区2面1～29号畦畔)、畦畔によって画された水田区画28枚(9区1～28号水田)が検出された。ただし水田区画が完全に検出出来たのは1枚のみであった。

8-2区と同様、小区画状の水田区画を含む水田区画が比較的明瞭に検出されている。本調査区では、調査区中央の北側では畦畔は全く検出されなかった箇所があるものの、本来は全域にわたって水田区画が造られていたものと考えられる。

2面も1面・1面下と同様、南から北へと傾斜する地形で、比高差は最大1.01mである。

畦畔の検出状態はあまり良く無く、検出された畦畔の高まりはあまり明瞭ではない部分も少なからず存在していた。畦畔はいずれも地山を削り出して高まりを造っている。

調査区の中央やや南寄りの位置と調査区の東寄りの位置とで、下層の礫層の露出が確認された範囲があった。この礫層の露出によって、畦畔や水田面が破壊されており、後世の地震や河川の氾濫等による影響と考えられる。

1. 水田(第77図、PL.68～70)

先述したように、1面1号段差とほぼ同位置に水田区画を掘り込んで造られている18号溝の北側では、一部に水田区画が検出されない箇所も存在するが、元来は調査区のほぼ全域にわたって水田区画が造られていたものと考えられる。調査区内はおおむね南から北へと傾斜する地形で、標高差も最大で1m強になるが、調査範囲では段差は検出されなかった。段差を造成して棚田状の平坦面を確保するのではなく、水田区画を画する畦畔の一部が段差としての役割を果たしていた箇所があり、畦畔によって画された水田区画ごとに平坦面が形成され、結果的に棚田状の水田が営まれていたものと推測出来る。

先述したように、調査区の中央からやや東寄りの位置、Y=-92253ラインにほぼ沿って南北方向の幅約1～3m

に及ぶ大畦である9区2面9号畦畔が検出された。

この南北方向の大畦9区2面9号畦畔の東側では、中央部東壁寄りの一部を除いて、ほぼ全域にわたって水田区画が検出された。15本の畦畔によって区画された13枚の水田区画が検出された。1枚の水田区画の全域が検出されたのは、調査区の北東寄り、大畦畔の東側に取り付く9区4号水田のみであった。

水田区画の形状は不整形で、面積もまちまちである。傾斜する地形の制約の中で、最大限有効に区画を造り、生産力を高めようとしたため、区画はまちまちな形状・大きさにならざるを得なかったものと考えられる。

南北方向の大畦9号畦畔の西側では、14本の畦畔とそれらによって画された15枚の水田区画が検出された。

大畔東側の9区1～13号水田から大畔西側南寄りから検出された14～16号水田までの水田区画では、水田1枚の面積や形状がそれぞれで異なる不均質な造りであるのに対し、大畔から西側で調査区の西寄りから検出された9区20・21・24～28号水田は、1枚ごとの面積は異なるものの、比較的類似した造りとなっているのが特徴的である。

1区画の水田区画が完全に検出出来たものは一か所しか無かったが、検出された部分から推測すると、おおむね10～20㎡程度の水田区画からなる、いわゆる、「小区画」状水田であったと考えられる。

先述したように、本遺跡7-1区からも、浅間山火山灰As-Bテフラによって覆われた面からいわゆる「小区画」状の古代水田が検出されており、地形の制約が厳しい場所では、古墳時代後期以降の、古代に属する水田においても、見かけ上の「小区画」水田が形成されることもあったということは、すでに判明していた。

また、同様に、本遺跡8-1区では、天明泥流層下から検出された近世の水田さえも、「小区画」状に形成されたものが検出されており、「小区画」状の水田は、地形の制約がある場所では、年代に関わらず形成されることが有り得ると言うことが、本遺跡の調査で判明したと言えるだろう。

9区1号水田(X=61101～106、Y=-92238～243) 調査区北東隅。北西-南東方向に検出された9区2面1号畦畔によって南側を、また、北東-南西方向に検出された9区2面2号畦畔によって西側を画された水田区画

で、東側・北側ともに調査区外へと広がっており、区画の南西端部がわずかに検出されたに過ぎない。西側は9区2面2号畦畔を隔てて9区2号水田に隣接する。

検出最大南北長5.32m、検出最大東西幅5.15mで、検出面積は14.90㎡である。

検出範囲は、区画全体から見れば部分的に過ぎないが、検出範囲内では南から北への緩やかな傾斜を呈しており、南側から北側への配水がなされていたものと見られる。水田面の標高は、検出された範囲内では393.20～35m前後である。

9区2号水田(X=61101～105、Y=-92242～245) 調査区北東寄りの位置。北東-南西方向の9区2面2号畦畔によって南東側を、また、南北方向の9区2面3号畦畔によって西側を画された水田区画で、北側は調査区外へと広がっている。区画の南西隅が検出されている。東側は9区2面2号畦畔を隔てて9区1号水田に、西側は9区2面3号畦畔を隔てて3号水田に隣接する。

区画の南西隅、9区2面2号畦畔と3号畦畔との間には開口部幅0.82m程の水口が設けられ、9区4号水田側からの配水がなされていたものと見られる。

検出最大南北長2.65m、検出最大東西幅3.61m、検出面積は6.57㎡である。

検出範囲は、区画の一部ではあるが、検出範囲内では標高393.20～25m前後の比較的安定した平坦面が形成されている。南西から北東への緩やかな傾斜を呈し、南西側から北東側への配水がなされていたものと見られる。

9区3号水田(X=61102～105、Y=-92246～251) 調査区北東寄りの位置。南北方向の9区2面3号畦畔によって東側を、東西方向の9区2面4号畦畔によって南側を画されており、北側及び西側はそれぞれ調査区外へと広がっている。東側は9区2面3号畦畔を隔てて9区2号水田と、南側は4号畦畔を隔てて4号水田と隣接する。

区画の南東隅が検出されており、検出最大南北長1.58m、検出最大東西幅5.25m、検出面積は7.07㎡である。検出範囲内では標高393.20～25m前後の比較的安定した平坦面が形成されており、南から北への緩やかな傾斜を呈している。

南東隅、3号畦畔と4号畦畔との間に幅約0.48m程度

の水口が開口し、南側4号水田側から北側への配水がなされていたものと見られる。

9区4号水田($X=61097 \sim 102$ 、 $Y=-92246 \sim 251$)
調査区の北東寄り。東西方向の9区2面4号畦畔によって北側を、南北方向の大畔である9号畦畔によって西側を、東北東-西南西方向の6号畦畔によって南側を、南北方向の5号畦畔によって東側をそれぞれ画された水田区画で、本調査区2面において、唯一、1枚の水田区画が完全に検出された。なお、北東隅には2号畦畔の南西側先端部が伸びて来ている。北側は4号畦畔を隔てて9区2面3号水田に、南側は6号畦畔を隔てて6号水田とそれぞれ隣接するが、5号畦畔の東側と9号畦畔の西側では水田面は検出されていない。

南北長4.05m、東西幅6.52m、検出面積は20.67㎡である。検出範囲内の標高は395.30～45m前後で、南西から北東に緩やかに傾斜している。

区画の北東隅、北東側から伸びる9区2面2号畦畔の南西端部と区画の北側を画する4号畦畔の東端部との間に幅約0.30m程度の水口が設けられているが、9区2・3号水田への配水を目的とした水口であり、4号水田への配水がなされた水口は検出されなかった。しかしながら、標高から見れば南西側から北東側へ配水がなされていたことには相違ない。

9区5号水田($X=61094 \sim 096$ 、 $Y=-92242 \sim 245$)
調査区東寄りの中央。南北方向から北東-南西方向に鉤の手状に屈曲する9区2面8号畦畔によって北側と西側を画される。東側では水田面を画する高まりは辛うじて検出されたものの、畦畔としては認識することが不可能で、水田面も検出されなかった。南側は攪乱されている。

検出最大南北長1.60m、検出最大南北幅3.24m、検出面積は5.40㎡である。

北西・北東のそれぞれの隅を含む区画の北側が検出されたものと考えられる。検出範囲内の標高はおおむね393.65m前後で、南西側から北東側へと緩やかに傾斜する。

区画北辺の北東隅からやや中央に寄った位置、9区2面8号畦畔の東端の先に幅約0.36m程度の水口が開口するが、南側への配水のためのものであり、5号水田への配水のための水口は検出されなかった。

9区6号水田($X=61093 \sim 096$ 、 $Y=-92245 \sim 250$)

調査区の中央からやや東寄りの位置。東北東-西南西方向の9区2面6号畦畔によって北側を、北北西-南南東方向の7号畦畔によって西側を、南北方向から北東-南西方向に鉤の手状に屈曲する8号畦畔によって東側をそれぞれ画されている。南側は攪乱され、さらに下層から浮き上がった礫層によって破壊されている。北側は9区2面6号畦畔を隔てて9区4号水田に、東側は8号畦畔を隔てて5号水田にそれぞれ隣接するが、7号畦畔を隔てた西側では、7号畦畔とその西側に位置する大畔9号畦畔との間では水田面は検出されなかった。

検出最大南北長3.23m、検出最大東西幅3.60m、検出面積10.29㎡で、検出範囲における標高はおおむね393.65～70m前後で、南から北へと緩やかに傾斜している。

区画東辺の北東隅寄りでは9区2面6号畦畔と8号畦畔の間に幅約0.24m程度の水口が造られている。区画内では南側から北側への配水がなされていたと考えられるので、この水口は6号水田側から北東側への配水のためのものと考えられる。6号水田への配水のための水口は検出されなかった。

9区7号水田($X=61092 \sim 094$ 、 $Y=-92236 \sim 242$)
調査区東端のやや南寄りの位置。東西方向の9区2面10号畦畔によって南側を画され、北側と西側は18号溝によって破壊されており、東側は調査区外へと広がっている。区画の南側のごく一部がわずかに検出されたに過ぎない。

南側9区2面10号畦畔を隔てて9区8～10号水田の北側に隣接する。

検出最大南北長1.40m、検出最大東西幅6.50m、検出面積5.67㎡。検出範囲内における水田面の標高は393.60～75mで、南から北に向かって傾斜している。

9区8号水田($X=61089 \sim 093$ 、 $Y=-92235 \sim 236$)
調査区の南東隅。南北方向の9区2面11号畦畔によって西側を、東西方向の10号畦畔によって北側を画され、東側と南側は調査区外へと広がっている。区画の北西隅を含む西端の一部がごくわずかに検出された程度である。北側9区2面10号畦畔を隔てて9区7号水田に、西側9区11号畦畔を隔てて9区9号水田に隣接する。

検出最大南北長4.60m、検出最大東西幅0.65m、検出面積は1.48㎡である。

検出範囲はごくわずかであるが、南から北へ傾斜している様子が看取出来た。

9区9号水田($X = 61086 \sim 091$ 、 $Y = -92237 \sim 242$)
調査区の南東隅寄り。東西方向の9区2面10号畦畔によって北側を、南北方向の11号畦畔によって東側を、同じく南北方向の12号畦畔によって西側をそれぞれ画され、南側は調査区外へと広がっている。北側は10号畦畔を隔てて9区7号水田と、東側は11号畦畔を隔てて8号水田と、西側は12号畦畔を隔てて10号水田にそれぞれ隣接する。

検出最大南北長4.25m、検出最大東西幅4.15m、検出面積は16.10㎡で、南北に細長い隅丸長方形の水田区画の北側の大部分が検出されているものと考えられる。

検出範囲内における水田面の標高はおおむね393.90～394.00m前後で、北側から検出された9区1～7号水田に比べて比較的平坦な面が形成されているが、南西から北東に向かって緩やかに傾斜しており、南西側から北東側への配水がなされていたものと見られる。

9区10号水田($X = 61085 \sim 091$ 、 $Y = -92242 \sim 245$)
調査区の南東寄り。東西方向の9区2面10号畦畔によって北側を、北東－南西方向の12号畦畔によって東側を、南北方向の13号畦畔によって西側をそれぞれ画され、南側は調査区外へと広がっている。なお、区画の北西隅付近は18号溝によって破壊されている。北側は10号畦畔を隔てて9区7号水田と、東側は12号畦畔を隔てて9号水田と、西側は13号畦畔を隔てて11・13号水田にそれぞれ隣接する。

検出最大南北長5.85m、検出最大東西幅4.15m、検出面積は20.43㎡で、南北方向に細長い不整隅丸長方形の水田区画の北側大部分が検出されているものと見られる。

検出範囲内における水田面の標高はおおむね393.93～394.05m前後で、南西から北東に向かって緩やかに傾斜しており、南西側から北東側への配水がなされていたものと見られる。

9区11号水田($X = 61086 \sim 090$ 、 $Y = -92246 \sim 248$)
調査区の南東寄り。南北方向の9区2面13号畦畔によって東側を、東西方向の15号畦畔によって南側を、南北方向で、南端部が東側に屈曲する14号畦畔によって西側をそれぞれ画され、北側は18号溝によって破壊されている。

東側は9区2面13号畦畔を隔てて9区10号水田に、南側は15号畦畔を隔てて13号水田に、西側は14号畦畔を隔てて12号水田に隣接する。

検出最大南北長4.65m、検出最大東西幅1.42m、検出面積は6.23㎡で、南北方向に細長い不整隅丸台形状の水田区画の南側の大部分が検出されているものと見られる。

検出範囲内における水田面の標高はおおむね393.95～394.10m前後で、南から北に向かって緩やかに傾斜しており、南西側から北東側への配水がなされていたものと見られる。

9区12号水田($X = 61087 \sim 090$ 、 $Y = -92248 \sim 252$)
調査区の南東寄り。南北方向で、南端が東側に屈曲する9区2面14号畦畔によって東側を、東西方向の15号畦畔によって南側を、南北方向の大畔9号畦畔によって西側をそれぞれ画され、北側は18号溝と18号溝に重複する礫層の露出によって破壊されている。東側は9区2面14号畦畔を隔てて9区11号水田に、南側は15号畦畔を隔てて13号水田に、西側は9号畦畔を隔てて14号水田に隣接する。

検出最大南北長3.45m、検出最大東西幅3.45m、検出面積は9.57㎡で、南北方向に長い不整隅丸長方形の水田区画の南側の大部分が検出されているものと見られる。

検出範囲内における水田面の標高はおおむね394.00～394.10m前後で、南から北に向かって緩やかに傾斜しており、南側から北側への配水がなされていたものと見られる。

9区13号水田($X = 61084 \sim 086$ 、 $Y = -92246 \sim 251$)
調査区南端中央からやや東寄り。南北方向の9区2面13号畦畔によって東側を、東西方向の15号畦畔によって北側を、南北方向の大畔9号畦畔によって西側をそれぞれ画され、南側は調査区南壁外へと広がっている。東側は9区2面13号畦畔を隔てて9区10号水田に、北側は15号畦畔を隔てて11・12号水田に、西側は9号畦畔を隔てて14号水田に隣接する。

検出最大南北長2.10m、検出最大東西幅4.51m、検出面積は8.47㎡で、不整隅丸台形状の水田区画の北側部分が検出されているものと見られる。

検出範囲内における水田面の標高はおおむね393.20m

前後で、比較的安定した平坦面が形成されているが、西から東に向かって非常に緩やかに傾斜しており、西側から東側への配水がなされていたものと見られる。

9区14号水田(X=61081～087、Y=-92254～260) 調査区南端のほぼ中央。南北方向の大畔9区2面9号畦畔によって東側を、9号畦畔の検出範囲における南端部分に取り付く東西方向の畦畔によって南側を、南北方向の17号畦畔によって西側をそれぞれ画され、北側は18号溝によって破壊されている。東側は大畔9区2面9号畦畔を隔てて9区12・13号水田に、西側は17号畦畔を隔てて15・16号水田に隣接する。

検出最大南北長4.55m、検出最大東西幅6.05m、検出面積は24.47m²で、不整隅丸台形状の水田区画の南側大部分が検出されているものと見られる。

検出範囲内における水田面の標高はおおむね393.90～394.10m前後で、南東から北西に向かって傾斜しており、南東側から北西側への配水がなされていたものと見られる。

9区15号水田(X=61082～085、Y=-92260～263) 調査区南西寄り。南北方向の9区2面17号畦畔によって東側を、東西方向の18号畦畔によって南側を、南北方向の19号畦畔によって西側をそれぞれ画され、北側は18号溝と試掘調査時の試掘坑によって破壊されている。東側は9区2面17号畦畔を隔てて9区14号水田に、南側は18号畦畔を隔てて16号水田と、西側は19号畦畔を隔てて17号水田に隣接する。

区画の南側を画する9区2面18号畦畔の西端に、幅約0.14m程度の水口が開いている。南側に隣接する9区16号水田側からの配水を目的としたものと見られる。

検出最大南北長3.42m、検出最大東西幅2.48m、検出面積は8.15m²で、隅丸長方形の水田区画の南側大部分が検出されているものと考えられる。

検出範囲内における水田面の標高はおおむね393.90～394.00m前後で、南から北に向かって緩やかに傾斜しており、南側から北側への配水がなされていたものと見られる。

9区16号水田(X=61080～082、Y=-92260～263) 調査区南西寄り。南北方向の9区2面17号畦畔によって東側を、東西方向の18号畦畔によって北側を、南北方向の19号畦畔によって西側をそれぞれ画され、南側は調査

区南壁外へと広がっている。東側は9区2面17号畦畔を隔てて9区14号水田に、北側は18号畦畔を隔てて15号水田に、西側は19号畦畔を隔てて19号水田にそれぞれ隣接する。

前述した通り、区画の北側を画する9区2面18号畦畔の西端に、幅約0.14m程度の水口が開いており、北側に隣接する9区15号水田側への配水を目的としたものと考えられる。

検出最大南北長1.25m、検出最大東西幅2.84m、検出面積は3.15m²で、隅丸長方形の水田区画の北側の一部が検出されているものと考えられる。

検出範囲内における水田面の標高はおおむね394.10m前後で、南から北に向かって緩やかに傾斜しており、おおむね南側から北側への配水がなされていたものと見られるが、検出範囲が狭小であるため、正確なところは不明である。

9区17号水田(X=61083～084、Y=-92263～264) 調査区南西寄り。南北方向の9区2面19号畦畔によって東側を、北東-南西方向の22号畦畔によって南側を画され、北側は試掘調査時の試掘坑によって破壊されている。東側は9区2面19号畦畔を隔てて9区15号水田に、南側は22号畦畔を隔てて19号水田に、西側は20号畦畔を隔てて18号水田にそれぞれ隣接する。

区画の南側を画する9区2面22号畦畔の東端と区画の東側を画する19号畦畔との間に幅約0.48m程度の水口が開き、南側の9区19号水田側からの配水を、また、区画の西側を画する20号畦畔と南側を画する22号畦畔との間には幅約0.24m程度の水口が開き、南側から17号水田の西側に隣接する18号水田側への配水を目的としたものと考えられる。また、19号畦畔の北端部も試掘調査時の試掘坑の手前で止まっており、19号畦畔北端部の先にも水口が造られていた可能性が高い。

検出最大南北長2.04m、検出最大東西幅0.71m、検出面積1.15m²で、検出範囲内における標高はおおむね393.88m前後であり、南側から北側への配水がなされていたものと見られる。

水田区画本体はさらに北側に存在しており、水田区画への取水口の部分が辛うじて検出されているに過ぎない。検出範囲が極めて狭小であるため、正確なところは不明である。

9区18号水田(X = 61082 ~ 084、Y = -92265 ~ 266) 調査区南西寄り。南北方向の9区2面20号畦畔によって東側を、北東-南西方向の22号畦畔によって南側を、北西-南東方向の21号畦畔によって西側をそれぞれ画され、北側は試掘調査時の試掘坑によって破壊されている。東側は9区2面20号畦畔を隔てて9区17号水田に、南側は22号畦畔を隔てて19号水田に、西側は21号畦畔を隔てて20号水田にそれぞれ隣接する。

先述した通り、区画の南側を画する9区2面22号畦畔の東端と区画の東側を画する19号畦畔との間に幅約0.48m程度の水口が開口し、南側の9区19号水田側からの配水を、また、区画の東側を画する20号畦畔と南側を画する22号畦畔との間には、幅約0.24m程度の水口が開口し、南側から17号水田の西側に隣接する18号水田側への配水がなされていたものと見られる。

検出最大南北長1.92m、検出最大東西幅1.08m、検出面積2.07㎡で、検出範囲内における標高は393.87 ~ 94mで、南から北に向かって緩やかに傾斜しており、南側から北側への配水がなされていたものと考えられるが、東側に隣接する9区17号水田と同様、検出範囲が狭小であるため、正確なところは不明である。

9区19号水田(X = 61080 ~ 081、Y = -92264 ~ 265) 調査区南西寄り。南北方向の9区2面19号畦畔によって東側を、北東-南西方向の22号畦畔によって北側を、北西-南東方向の21号畦畔によって西側をそれぞれ画され、南側は調査区南壁外へと広がっている。東側は9区2面19号畦畔を隔てて9区16号水田に、北側は22号畦畔を隔てて18号水田に、西側は21号畦畔を隔てて21号水田にそれぞれ隣接する。

先述した通り、区画の北側を画する9区2面22号畦畔の東端と区画の東側を画する19号畦畔との間に幅約0.48m程度の水口が開口し、北側の9区17・18号水田側への配水を目的としたものと見られる。

検出最大南北長1.20m、検出最大東西幅1.70m、検出面積1.82㎡で、検出範囲内における標高は394.07 ~ 13mで、南から北に向かって緩やかに傾斜しており、南側から北側への配水がなされていたものと見られるが、北側に隣接する9区17・18号水田と同様、検出範囲が狭小であるため、正確なところは不明である。

9区20号水田(X = 61081 ~ 084、Y = -92266 ~ 270)

調査区南西隅寄り。北西-南東方向の9区2面21号畦畔によって東側を、北東-南西方向の22号畦畔によって南側を、北西-南東方向の23号畦畔によって西側をそれぞれ画され、北側は確認調査時の試掘坑によって破壊されている。東側は9区2面21号畦畔を隔てて9区18号水田に、南側は22号畦畔を隔てて21号水田に、西側は23号畦畔を隔てて22号水田にそれぞれ隣接する。隅丸長方形形状を呈する水田区画の南側のかかなりの部分が検出されているものと見られる。

検出最大南北長2.10m、検出最大東西幅4.00m、検出面積8.64㎡で、検出範囲内における標高はおおむね393.90 ~ 95m前後で、南西から北東に向かって緩やかに傾斜しており、南西側から北東側への配水がなされていたものと考えられる。

9区21号水田(X = 61079 ~ 080、Y = -92265 ~ 268) 調査区南西隅寄り。北西-南東方向の9区2面21号畦畔によって東側を、北東-南西方向の22号畦畔によって北側を、北西-南東方向の23号畦畔によって西側をそれぞれ画され、南側は調査区南壁外へと広がっている。東側は9区2面21号畦畔を隔てて9区19号水田に、北側は22号畦畔を隔てて20号水田に、西側は23号畦畔を隔てて23号水田にそれぞれ隣接する。隅丸長方形形状を呈する水田区画の北側のかかなりの部分が検出されているものと見られる。

検出最大南北長1.52m、検出最大東西幅2.90m、検出面積3.94㎡で、検出範囲内における標高はおおむね394.10 ~ 15m前後で、南西から北東に向かって緩やかに傾斜してはいるものの、安定した平坦面が形成されている。南西側から北東側への配水がなされていたものと見られる。

9区22号水田(X = 61080 ~ 082、Y = -92271 ~ 273) 調査区南西隅付近。北西-南東方向の9区2面23号畦畔によって東側を、北東-南西方向の24号畦畔によって南側をそれぞれ画され、北側は攪乱され、西側は調査区西壁外へと広がっている。東側は9区2面23号畦畔を隔てて9区20号水田に、南側は24号畦畔を隔てて23号水田にそれぞれ隣接する。水田区画の南東隅の一部が検出されているものと考えられる。区画の南側を画する24号畦畔の東端と区画の東側を画する23号畦畔との間には幅約0.32m程度の水口が開口し、南側の23号水田側からの配

水を目的にしたものと見られる。

検出最大南北長2.20m、検出最大東西幅2.20m、検出面積3.84㎡で、検出範囲内における標高はおおむね393.95m前後で、南から北に向かって緩やかに傾斜してはいるものの、安定した平坦面が形成されている。南側から北側への配水がなされていたものと見られる。

9区23号水田(X=61077～079、Y=-92269～272) 調査区南西隅。北西-南東方向の9区2面23号畦畔によって東側を、北東-南西方向の24号畦畔によって北側をそれぞれ画され、南側及び西側は調査区壁外へと広がっている。東側は9区2面23号畦畔を隔てて9区21号水田に、北側は24号畦畔を隔てて22号水田にそれぞれ隣接する。水田区画の北東隅の一部が検出されているものと見られる。

先述した通り、区画の北側を画する24号畦畔の東端と区画の東側を画する23号畦畔との間には幅約0.32m程度の水口が開口し、南側の本区画から北側22号水田側への配水を目的にしたものと見られる。

検出最大南北長1.01m、検出最大東西幅3.40m、検出面積3.03㎡で、検出範囲内における標高はおおむね394.10m前後で、南から北に向かって緩やかに傾斜してはいるものの、安定した平坦面が形成されている。南側から北側への配水がなされていたものと見られる。

9区24号水田(X=61093～096、Y=-92268～271) 調査区北西寄り。南北方向の9区2面27号畦畔によって西側を、東西方向の26号畦畔によって南側をそれぞれ画され、北側は調査区北壁外へと広がっている。東側は畦畔の痕跡らしきものは辛うじて検出出来たが、畦畔の高まり等はまったく確認することが出来ず、畦畔としては認識することが出来なかった。西側は9区2面27号畦畔を隔てて9区25号水田に隣接する。隅丸長形状の水田区画の南側大半が検出されているものと見られる。

検出最大南北長2.52m、検出最大東西幅3.31m、検出面積7.19㎡で、検出範囲内における標高はおおむね393.45m前後で、南から北に向かって緩やかに傾斜してはいるものの、安定した平坦面が形成されている。南側から北側への配水がなされていたものと見られる。

9区25号水田(X=61093～095、Y=-92272～274) 調査区北西隅寄り。南北方向の9区2面27号畦畔によって東側を、東西方向の26号畦畔によって南側を、南北方

向の28号畦畔によって西側をそれぞれ画され、北側は調査区北壁外へと広がっている。東側は9区2面27号畦畔を隔てて9区24号水田に、南側は26号畦畔を隔てて26号水田に、西側は28号畦畔を隔てて27号水田にそれぞれ隣接する。南北に長い隅丸長形状の水田区画の南側が検出されているものと見られる。

検出最大南北長2.00m、検出最大東西幅1.98m、検出面積2.89㎡で、検出範囲内における標高はおおむね393.46m前後で、南から北に向かって緩やかに傾斜してはいるものの、安定した平坦面が形成されている。南側から北側への配水がなされていたものと見られる。

9区26号水田(X=61090～092、Y=-92271～274) 調査区北西隅寄り。南北方向の9区2面27号畦畔によって東側を、東西方向の26号畦畔によって北側を、南北方向の29号畦畔によって西側をそれぞれ画され、南側は検出することが出来なかった。北側は9区2面26号畦畔を隔てて9区25号水田に、西側は29号畦畔を隔てて28号水田にそれぞれ隣接する。南北に長い隅丸長形状の水田区画の北側の一部が検出されているものと見られる。

検出最大南北長1.58m、検出最大東西幅2.31m、検出面積2.58㎡で、検出範囲内における標高はおおむね393.54m前後で、南から北に向かって緩やかに傾斜してはいるものの、安定した平坦面が形成されている。南側から北側への配水がなされていたものと見られる。

9区27号水田(X=61092～093、Y=-92275～276) 調査区北西隅。南北方向の9区2面28号畦畔によって東側を、東西方向の26号畦畔によって南側をそれぞれ画され、北側及び西側はそれぞれ調査区外へと広がっている。東側は9区2面28号畦畔を隔てて9区25号水田に、南側は26号畦畔を隔てて28号水田にそれぞれ隣接する。水田区画の南東隅のごく一部が検出されているものと見られる。

検出最大南北長0.60m、検出最大東西幅1.90m、検出面積1.06㎡で、検出範囲内における標高はおおむね393.48m前後であるが、検出範囲が狭小であるため、配水の方向等は不明である。

9区28号水田(X=61088～092、Y=-92275～277) 調査区北西隅。南北方向の9区2面29号畦畔によって東側を、東西方向の26号畦畔によって北側をそれぞれ画され、西側は調査区西壁外へと広がっている。区画の南限

は辛うじて検出出来たものの、区画の南側を画する畦畔は全く検出することが出来なかった。区画の東側を画する29号畦畔も南側では検出することが出来なくなっている。東側は9区2面29号畦畔を隔てて9区26号水田に、北側は26号畦畔を隔てて27号水田にそれぞれ隣接する。水田区画の東側の大部分が検出されているものと見られる。

検出最大南北長3.18m、検出最大東西幅2.70m、検出面積7.25㎡で、検出範囲内における標高はおおむね393.55m前後で、比較的安定した平坦面が形成されている。南側から北側への配水がなされていたものと見られる。

(1) 9区2面1号畦畔(第77図・PL.69)

位置 9区2面。X=61101～103、Y=-92238～243。

重複 なし。

主軸方位 N-45～77°-W。

規模 検出全長約5.50m、基底部幅約0.38～0.40m、比高差約0.01～0.07m前後。

遺物 なし。

所見 調査区北東寄りの位置。西北西-東南東方向から西端側では北西-南東方向へと屈曲する。東南端は調査区東壁外へと伸びている。北西端はX=61103.5、Y=-92243.5付近で北東-南西方向の9区2面2号畦畔に取り付く。

9区1号水田の南側を画する畦畔である。

(2) 9区2面2号畦畔(第77図・PL.69)

位置 9区2面。X=61101～106、Y=-92241～246。

重複 なし。

主軸方位 N-35～70°-E。

規模 検出全長約7.00m、基底部幅約0.31～0.44m、比高差約0.02～0.07m前後。

遺物 なし。

所見 調査区北東寄りの位置。北東-南西方向で、北東端は調査区北壁外へと伸びている。南西端はX=61101.5、Y=-92247付近で止まる。X=61103.5、Y=-92243.5付近で北西-南東方向の9区2面1号畦畔

に取り付く。

南西端は北側に位置する東西方向の9区2面4号畦畔東端と共に、9区4号水田の北東隅水口を形成する。

南東側9区1号水田と北西側9区2号水田とを画する。

(3) 9区2面3号畦畔(第77図・PL.69)

位置 9区2面。X=61103～105、Y=-92246。

重複 なし。

主軸方位 N-1°-E。

規模 検出全長約2.10m、基底部幅約0.32～0.42m、比高差約0.01～0.07m前後。

遺物 なし。

所見 調査区北東寄りの位置。南北方向で、北端は調査区北壁外へと伸びている。南端はX=61103、Y=-92246付近で止まり、西側から伸びる9区2面4号畦畔とともに3号水田南東隅の水口を形成する。

東側9区2号水田と、西側9区3号水田とを画する。

(4) 9区2面4号畦畔(第77図・PL.69)

位置 9区2面。X=61102、Y=-92246～251。

重複 なし。

主軸方位 N-80°-W～N-78°-E。

規模 検出全長約5.20m、基底部幅約0.44～0.63m、比高差約0.04～0.11m前後。

遺物 なし。

所見 調査区北東寄りの位置。東西方向で、東端は9区3号水田南東隅・4号水田北東隅のX=61102.5、Y=-92246.5付近で止まり、3・4号水田双方の隅で水口を形成する。西端はX=61102.5、Y=-92251.3付近で調査区の中央からやや東寄りに位置する南北方向の大畔9区2面9号畦畔に取り付く。

北側9区3号水田と、南側9区4号水田とを画する。

(5) 9区2面5号畦畔(第77図・PL.69)

位置 9区2面。X=61098～101、Y=-92245。

重複 なし。

主軸方位 N-5°-W。

規模 検出全長約3.00m、基底部幅約0.38～0.42m、比高差約0.01～0.04m前後。

遺物 なし。

所見 調査区北東寄りの位置。南北方向で、北端はX=61102、Y=-92246付近で北東-南西方向の9区2面2号畦畔に取り付き、南端はX=61098.5、Y=-92245.5付近で東北東-西南西方向の9区2面6号畦畔に取り付く。

9区4号水田の東側を画する。畦畔の東側では水田区画は検出されなかった。

(6) 9区2面6号畦畔(第77図・PL.69)

位置 9区2面。X=61096~099、Y=-92243~250。

重複 なし。

主軸方位 N-80°-E。

規模 検出全長約6.32m、基底部幅約1.14~2.28m、比高差約0.01~0.11m前後。

遺物 なし。

所見 調査区中央からやや北東寄り。東北東-西南西方向で、東端はX=61098.4、Y=-92243.6付近で止まり、西端はX=61096、Y=-92250付近で北西-南東方向の9区2面7号畦畔に取り付く。畦畔の東寄りの南側に突起状に南側に張り出している部分があり、南側に隣接する北東-南西方向から北西-南東方向に鉤の手状に屈曲する9区8号畦畔との間に9区6号水田北東隅付近の水口を形成している。

北側9区4号水田と南側9区6号水田とを画する。

(7) 9区2面7号畦畔(第77図・PL.69)

位置 9区2面。X=61093~096、Y=-92250。

重複 なし。

主軸方位 N-4°-W。

規模 検出全長約6.42m、基底部幅約0.48~0.58m、比高差約0.01~0.04m前後。

遺物 なし。

所見 調査区中央からやや北東寄り。北西-南東方向で、北端はX=61097.8、Y=-92251付近で9区4号水田南西隅に取り付き、南端は下層から湧き上がった礫によって破壊されている。

9区6号水田の西側を画する。畦畔の西側では水田区画は検出されなかった。

(8) 9区2面8号畦畔(第77図・PL.69)

位置 9区2面。X=61094~096、Y=-92244~245。

重複 なし。

主軸方位 N-4°-W~N-60°-E。

規模 検出全長約3.74m、基底部幅約0.31~0.54m、比高差約0.02~0.05m前後。

遺物 なし。

所見 調査区中央から東寄り。北東-南西方向からX=61096、Y=-92246付近で北西-南東方向に鉤の手状に屈曲する。東端はX=61096.5、Y=-92244.3付近で止まり、9区5号水田北東隅付近に水口を形成する。南端は下層から湧き上がった礫によって破壊されている。

西側9区6号水田と東側9区5号水田とを画する。

(9) 9区2面9号畦畔(第77図・PL.69)

位置 9区2面。X=61082~102、Y=-92251~254。

重複 なし。

主軸方位 N-10°-E。

規模 検出全長約19.50m、基底部幅約1.04~2.66m、比高差約0.02~0.20m前後。

遺物 なし。

所見 調査区中央からわずかに東寄り。南北方向の大畔。中央からやや南寄りの幅約3.8mの範囲が、下層から湧き上がった礫によって破壊されているが、調査区の北端から南端に至るまで検出された。

検出範囲内における北端では南北最大幅2.81m・東西最大幅1.82m、調査区南端寄りの部分では南北最大幅2.04m・東西最大幅3.14mの2か所において、礫が集中して出土した部分が存在した。地山下層に含まれる礫を掘り出して、大畦の補強材として用いていたことが判明した。

調査範囲内の南端部では西側に大きく裾が広がるように、本畔が東側を画する9区14号水田の南側を画する東西方向の畦畔が取りついているものと考えられるが、検出範囲が狭小であるため、本畦とその西側に取り付く東西方向の畦畔との関係の詳細は明らかにすることが出来なかった。また、検出範囲内における南端寄りのX=61086.5、Y=-92251.5付近で、東西方向の9区2面15

号畦畔が取り付く。

大畔を境としてその両側で水田区画の広さ・形状・構成等が大きく変化するようなケースが多いのであるが、礫層の沸き上がりによって破壊された箇所より西北側では水田区画が全く検出することが出来なかった部分が、東西約15～21.5m・南北約12mにわたって存在しているため、大畔を境とした水田区画の構成の変化については明らかにすることが出来なかった。

(10) 9区2面10号畦畔(第77図)

位置 9区2面。X=61091～093、Y=-92235～243。

重複 西端を18号溝に掘り込まれる。

主軸方位 N-65～88°-E。

規模 検出全長約8.00m、基底部幅約0.98～1.12m、比高差約0.01～0.12m前後。

遺物 なし。

所見 調査区南東隅寄り。ほぼ東西方向で、検出範囲の東寄りのX=61093.5、Y=-92237.5付近で北寄りに屈曲し、北東-南西方向となる。東端は調査区東壁外へと伸びている。西端は18号溝によって破壊されている。また、中央部を一部攪乱されている。

北側9区7号水田と南側9区8～10号水田とを画する。

(11) 9区2面11号畦畔(第77図)

位置 9区2面。X=61089～092、Y=-92237。

重複 なし。

主軸方位 N-5°-E。

規模 検出全長約3.70m、基底部幅約0.70m前後、比高差約0.07m前後。

遺物 なし。

所見 調査区南東隅。ほぼ南北方向で、北端はX=61091.5、Y=-92237付近で東西方向の9区2面10号畦畔に取り付く。南端は調査区南壁外へと伸びている。

東側9区8号水田と西側9区9号水田とを画する。

(12) 9区2面12号畦畔(第77図)

位置 9区2面。X=61086～091、Y=-92240～243。

重複 なし。

主軸方位 N-22°-E。

規模 検出全長約5.30m、基底部幅約0.52～0.69m、比高差約0.01～0.04m前後。

遺物 なし。

所見 調査区の南東寄り。北東-南西方向で、北端はX=61091.5、Y=-92241付近で東西方向の9区2面10号畦畔に取り付く。南端は調査区南壁外へと伸びている。

東側9区9号水田と西側9区10号水田とを画する。

(13) 9区2面13号畦畔(第77図)

位置 9区2面。X=61085～091、Y=-92245～246。

重複 北端を18号溝に掘り込まれる。

主軸方位 N-4°-E。

規模 検出全長約6.00m、基底部幅約0.34～0.52m、比高差約0.01～0.08m前後。

遺物 なし。

所見 調査区の南東寄り。ほぼ南北方向で、北端は18号溝に破壊されている。南端は調査区南壁外へと伸びている。検出範囲内の南端近くのX=61086.5、Y=-92246.5付近で東西方向の9区2面15号畦畔に取り付く。

東側9区10号水田と西側9区11・13号水田とを画する。

(14) 9区2面14号畦畔(第77図)

位置 9区2面。X=61086～090、Y=-92247～248。

重複 北端を18号溝に掘り込まれる。

主軸方位 N-0～30°-W。

規模 検出全長約4.00m、基底部幅約0.42～0.58m、比高差約0.01～0.02m前後。

遺物 なし。

所見 調査区の南東寄り。検出範囲における南端近くの約1.2m程度は北西-南東方向であり、それ以北は東側に屈曲してほぼ南北方向となる。北端は18号溝に破壊されている。南端はX=61086.5、Y=-92248付近で東西方向の9区2面15号畦畔に取り付く。

東側9区11号水田と西側9区12号水田とを画する。

(15) 9区2面15号畦畔(第77図)

位置 9区2面。X=61086、Y=-92246～251。

重複 なし。

主軸方位 N-80°-E～N-80°-W。

規模 検出全長約5.00m、基底部幅約0.28～0.58m、比高差約0.01～0.09m前後。

遺物 なし。

所見 調査区の南東寄り。やや湾曲するがほぼ東西方向である。西端はX=61086.5、Y=-92251.5付近で南北方向の大畔9区2面9号畦畔に取り付く。東端はX=61086.5、Y=-92246.5付近で南北方向の9区2面13号畦畔に取り付く。また、東寄りのX=61086.5、Y=-92248付近で南北方向の9区2面14号畦畔に取り付く。北側9区11・12号水田と南側9区13号水田とを画する。

(16) 9区2面16号畦畔(第77図)

位置 9区2面。X=61087～089、Y=-92260。

重複 なし。

主軸方位 N-0°。

規模 検出全長約1.80m、基底部幅約0.54～0.68m、比高差約0.01～0.04m前後。

遺物 なし。

所見 調査区中央の北端。北壁際にほぼ南北方向に造られる。北端は調査区北壁外へと伸び、南端は攪乱されている。

南北方向の畦畔状の高まりは検出されたものの、周辺では標高393.45m前後の安定した平坦面が形成されているにもかかわらず、水田区画は一切検出されていない。

(17) 9区2面17号畦畔(第77図・PL.70)

位置 9区2面。X=61081～085、Y=-92260

重複 北端部を18号溝に掘り込まれる。

主軸方位 N-8°-W。

規模 検出全長約4.80m、基底部幅約0.46～0.56m、比高差約0.03～0.09m前後。

遺物 なし。

所見 調査区の南西寄りに北西-南東方向に造られる。北端は18号溝に破壊されている。南端は調査区南壁外へと伸び、東側に9区14号水田の南側を画する東西方向の畦畔が取り付く。検出範囲内の南端寄りX=61082.5、Y=-92260.5付近に東西方向の9区2面18号畦畔が取り付く。

東側9区14号水田と西側9区15・16号水田を画する。

(18) 9区2面18号畦畔(第77図・PL.70)

位置 9区2面。X=61082、Y=-92260～263。

重複 なし。

主軸方位 N-90°-W。

規模 検出全長約2.60m、基底部幅約0.48～0.50m、比高差約0.01～0.04m前後。

遺物 なし。

所見 調査区の南西寄りに東西方向に造られる。西端はX=61082.5、Y=-92263付近で止まり、西側に位置する9区2面19号畦畔とともに南側9区16号水田北西隅に開口する水口を形成している。東端はX=61082.5、Y=-92260.5付近で北西-南東方向の9区2面17号畦畔の検出範囲内における南端寄りに取り付く。

北側9区15号水田と南側9区16号水田とを画する。

(19) 9区2面19号畦畔(第77図・PL.70)

位置 9区2面。X=61080～085、Y=-92263～264。

重複 なし。

主軸方位 N-9°-W。

規模 検出全長約4.50m、基底部幅約0.38～0.50m、比高差約0.01～0.06m前後。

遺物 なし。

所見 調査区の南西寄りにほぼ南北方向に造られる。検出範囲内における南寄りでは西側にやや屈曲している。

北端はX=61085、Y=-92264付近で止まり、9区15号水田北西隅付近に開口した水口を構成していた可能性が考えられるが、畦畔北端に接するように18号溝が掘り込まれているので、確定することは不可能である。南端は調査区南壁外へと伸びている。

東側9区15・16号水田と西側9区17・19号水田とを画する。

(20) 9区2面20号畦畔(第77図)

位置 9区2面。X=61083～084、Y=-92264～265。

重複 なし。

主軸方位 N-20°-W。

規模 検出全長約1.52m、基底部幅約0.60～0.70m、比高差約0.01m前後。

遺物 なし。

所見 調査区の南西寄りにほぼ北西—南東方向に造られる。残存状態は極めて悪く、ほぼ痕跡程度にしか検出することが出来なかった。北端は試掘調査時の試掘坑によって破壊されており、南端は $X=61083.4$ 、 $Y=-92264.7$ 付近で止まり、9区2面22号畦畔東端とともに9区17・18号水田側への水口を形成する。

東側9区17号水田と西側9区18号水田とを画する。

(21) 9区2面21号畦畔(第77図)

位置 9区2面。 $X=61080\sim 084$ 、 $Y=-92265\sim 267$ 。

重複 なし。

主軸方位 $N-17^{\circ}-W$ 。

規模 検出全長約4.34m、基底部幅約0.46～0.50m、比高差約0.01m前後。

遺物 なし。

所見 調査区の南西寄りにほぼ南北方向に造られる。残存状態は極めて悪く、ほぼ痕跡程度にしか検出することが出来なかった。北端は試掘調査時の試掘坑によって破壊されており、南端は調査区南壁外へと伸びている。

$X=61081\sim 082.5$ 、 $Y=-92265.6\sim 266.6$ 付近で、北東—南西方向の9区2面22号畦畔と交差する。

東側9区18・19号水田と西側9区20・21号水田とを画する。

(22) 9区2面22号畦畔(第77図)

位置 9区2面。 $X=61080\sim 083$ 、 $Y=-92264\sim 269$ 。

重複 なし。

主軸方位 $N-74^{\circ}-E$ 。

規模 検出全長約5.74m、基底部幅約0.98～1.50m、比高差約0.01～0.13m前後。

遺物 なし。

所見 調査区の南西寄りに北東—南西方向に造られる。東端は $X=61082$ 、 $Y=-92264$ 付近で止まり、東側に隣接する南北方向の9区2面19号畦畔とともに9区19号水田の北東隅に開口する水口を形成する。西端は $X=61081$ 、 $Y=-92270$ 付近で北西—南東方向の9区2面23号畦畔に取り付く。また、 $X=61081\sim 082.5$ 、 $Y=-92265.6\sim 266.6$ 付近で北西—南東方向の9区2面21号畦畔と交差する。

北側9区18・20号水田と南側9区19・21号水田とを画する。

(23) 9区2面23号畦畔(第77図)

位置 9区2面。 $X=61079\sim 083$ 、 $Y=-92268\sim 272$ 。

重複 なし。

主軸方位 $N-40^{\circ}-W$ 。

規模 検出全長約6.30m、基底部幅約0.88～1.40m、比高差約0.01～0.12m前後。

遺物 なし。

所見 調査区の南西寄りに北西—南東方向に造られる。南端は調査区南壁外へと伸びている。北端は確認調査時の試掘坑によって破壊されており、不明である。 $X=61081$ 、 $Y=-92270$ 付近で北東—南西方向の9区2面22号畦畔が取り付く。

東側9区20・21号水田と西側9区22・23号水田とを画する。

(24) 9区2面24号畦畔(第77図)

位置 9区2面。 $X=61078\sim 080$ 、 $Y=-92270\sim 272$ 。

重複 なし。

主軸方位 $N-78^{\circ}-E$ 。

規模 検出全長約1.80m、基底部幅約1.66～1.76m、比高差約0.01～0.11m前後。

遺物 なし。

所見 調査区の南西隅に北東—南西方向に造られる。東端は $X=61080$ 、 $Y=-92271$ 付近で止まり、東側に隣接する北西—南東方向の9区2面23号畦畔とともに9区22号水田の南東隅、9区23号水田北東隅に開口する水口を形成する。西端は調査区西壁外へと伸びている。

北側9区22号水田と南側9区23号水田とを画する。

(25) 9区2面25号畦畔(第77図)

位置 9区2面。 $X=61085\sim 088$ 、 $Y=-92270\sim 275$ 。

重複 なし。

主軸方位 $N-75^{\circ}-E$ 。

規模 検出全長約5.00m、基底部幅約1.50～1.76m、比高差約0.01～0.16m前後。

遺物 なし。

所見 調査区西壁際の中央に北東—南西方向に造られ

る。東端は $X=61088$ 、 $Y=-92270.7$ 付近で止まる。西端は調査区西壁外へと伸びている。

残存状態はあまり良くないが、規模が大きな畦畔である。しかしながら、畦畔周囲では水田区画は全く検出されていないので、詳細は不明である。

(26) 9区2面26号畦畔(第77図)

位置 9区2面。 $X=61092 \sim 093$ 、 $Y=-92267 \sim 276$ 。

重複 なし。

主軸方位 $N-85^\circ-E$ 。

規模 検出全長約8.50m、基底部幅約0.52～0.84m、比高差約0.01～0.08m前後。

遺物 なし。

所見 調査区の北西隅にほぼ東西方向に造られる。西端は調査区北西隅に達するが、調査区北西隅付近は攪乱されている。東端は $X=61094$ 、 $Y=-92267.5$ 付近で検出することが出来なくなる。 $X=61093$ 、 $Y=-92272$ 付近で南北方向の9区2面27号畦畔と、 $X=61093$ 、 $Y=-92275$ 付近で同じく南北方向の9区2面28号畦畔が北側に取り付き、 $X=61092$ 、 $Y=-92274.5$ 付近で南側に南北方向の9区2面29号畦畔が取り付く。また、 $X=61092.5$ 、 $Y=-92271$ 付近でも南側に取り付く南北方向の畦畔の痕跡が検出された。

北側9区24・25・27号水田と南側9区26・28号水田とを画する。

この9区2面26号畦畔によって南北に画された9区24～28号水田は、本調査区において検出された他の水田の形状や広さがまちまちで共通点がほとんど見られなかったのに対して、水田区画それぞれの広さこそ異なっているものの、形状や構造にある程度の共通点が見い出せることが特徴的である。

(27) 9区2面27号畦畔(第77図)

位置 9区2面。 $X=61093 \sim 095$ 、 $Y=-92271 \sim 272$ 。

重複 なし。

主軸方位 $N-10^\circ-E$ 。

規模 検出全長約2.20m、基底部幅約1.11～1.14m、比高差約0.02～0.06m前後。

遺物 なし。

所見 調査区の北西隅寄りにほぼ南北方向に造られる。

北端は調査区北壁外へと伸びている。南端は $X=61093$ 、 $Y=-92272$ 付近で東西方向の9区2面26号畦畔に取り付く。

東側9区24号水田と西側9区25号水田とを画する。

(28) 9区2面28号畦畔(第77図)

位置 9区2面。 $X=61093 \sim 094$ 、 $Y=-92274$ 。

重複 なし。

主軸方位 $N-9^\circ-E$ 。

規模 検出全長約1.06m、基底部幅約0.52～0.56m、比高差約0.01～0.02m前後。

遺物 なし。

所見 調査区の北西隅にほぼ南北方向に造られる。北端は調査区北壁外へと伸びている。西端は $X=61093$ 、 $Y=-92275$ 付近で東西方向の9区2面26号畦畔に取り付く。

東側9区25号水田と西側9区27号水田とを画する。

(29) 9区2面29号畦畔(第77図)

位置 9区2面。 $X=61091 \sim 092$ 、 $Y=-92274$ 。

重複 なし。

主軸方位 $N-8^\circ-E$ 。

規模 検出全長約1.50m、基底部幅約0.92m前後、比高差約0.01～0.04m前後。

遺物 なし。

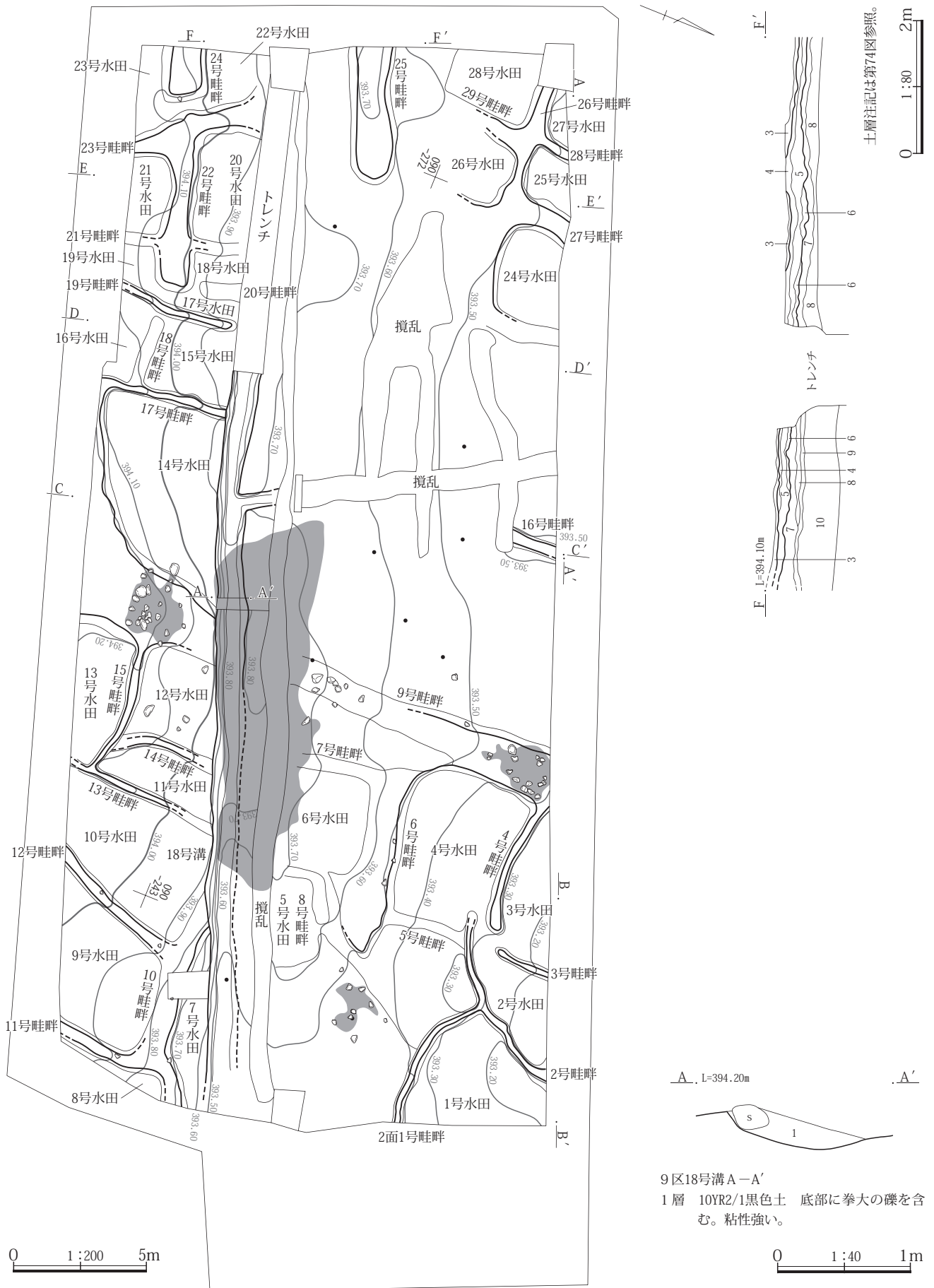
所見 調査区の北西隅付近にほぼ南北方向に造られる。北端は $X=61092$ 、 $Y=-92274.5$ 付近で東西方向の9区2面26号畦畔に取り付く。

東側9区26号水田と西側9区28号水田とを画する。

時期 天仁元(1108)年以前で古代のものと考えられる。

2. 溝

本調査区2面からは、調査区の中央からやや南寄りの位置から北東-南西方向の18号溝1条が検出された。調査区壁の土層断面から見れば、12世紀の浅間山噴火時に降下した火山灰によって覆われた水田を掘り込んでいたことは明白で、間違いなくAs-B軽石層下から検出された水田よりも新しい時期の遺構であるが、12世紀前半以降に降下した浅間-粕川テフラAs-Kk層との前後関係までは確定することが出来なかった。



いずれにしても検出された古代の水田を破壊しており、古代水田の廃絶後に掘り込まれた溝であることには間違いはないが、遺構の正確な年代は明確にし難い。検出された水田区画とは無関係と見られる。

・18号溝(第77図、PL.70)

位置 9区2面。X=61085～095、Y=-92237～262。

重複 なし。

主軸方位 N-75°-E。

規模 検出全長26.50m、上幅0.42～0.54m、下幅0.16～0.38m、深さ0.08～0.24m。

埋土 粘性が強い黒色土。

遺物 なし。

所見 調査区の中央からやや南寄りの位置を南西側から北東側へと貫流していたものと考えられるが、西側は試掘調査時の試掘坑によって、Y=-92262.5ライン以西の約12mは破壊されてしまっている。また、東端もY=-92237.5ライン付近以東、調査区東壁に至るまでの約m程が検出出来なかった。

1面1号段差が造られた位置にほぼ重なっており、Y=-92245ライン付近からY=-92256.5ライン付近に至る約12m弱の範囲も、下層から沸き上がった礫によってかなり大きく破壊されており、さらにY=-92251ライン以東、調査区東壁までの範囲では、溝の北岸が9区1面1号段差造成時の造作で攪乱され、現状をとどめていない状態である。このように、残存状態は概して良くない。

底面の標高は、西側で393.63m、東端付近で393.44m、東西の比高差は、最大で約0.19mとなる。

浅いが比較的しっかりと掘方を有し、断面は上が広く開口した扁平な逆レンズ状を呈する。

時期 12世紀以降下した浅間山火山灰層下から検出された古代水田よりは新しいと考えられる。

第22節 9区3面の遺構と遺物

本調査区と8-2区においてのみ、6世紀初頭の榛名山二ツ岳噴火に際して降下した火山灰である渋川テフラHr-FA層の下層から、1辺が1～2m程度の極小区画水田が計80枚検出された。

本遺跡が位置する吾妻地域西部では、榛名山二ツ岳渋川テフラ直下の水田の検出事例は無く、古墳時代極小区画水田としては群馬県内最西における検出事例となった。古墳時代後期における吾妻地域西部の歴史解明に大きな意義を有するものと位置付けられる。

調査区の中央から東寄りにかけて、南北方向に蛇行する河川の流路が検出された。この河川流路は、X=61083～103、Y=-92239～261の範囲、南北約17.5m・東西約11～21mと広範に及んでいる。この河川を用水・排水に利用して水田を形成していた可能性が考えられる。

なお、古墳時代後期の水田面の下層にも粘質土の堆積層が認められたため、遺構の有無を確認したが、遺構は全く検出されなかったため、3面が本調査区における最下層の遺構確認面ということになる。

本調査区3面の調査は、平成28(2015)年11月末に2面の調査を終了した後、直ちに着手され、12月上旬にすべての調査を終えた。

1. 水田(第78～80図、PL.70～73)

調査区の中央から東寄りにかけて南北方向に、やや屈曲・蛇行する河川流路の東側から53枚、西側から33枚の水田区画が検出された。

調査対象範囲内において、この河川が、直接水田区画を浸食している部分は無く、多少の氾濫が生じるようなことはあったかもしれないが、基本的に河川を避けて水田区画が造られていたものと見られる。それゆえ、調査区中央部から東寄りにわたる広範囲に検出された河川を用水・排水に利用して、水田が形成されていた可能性が考えられる。

地形は、1面・1面下・2面等、上層の遺構確認面や他の調査区の状況と同様、おおむね南西側から北東側へと緩やかに傾斜している。ただし、本調査区3面では調査区南西隅付近が大きく攪乱されており、また、調査区の中央から東寄りにかけて、河川の流路跡が検出されているため、標高の最高点は、調査区中央から西寄りの南壁際の位置で、393.65mである。最も標高が低い調査区北東隅付近における標高は392.90mなので、比高差は最大で0.75mとなる。

河川の東側では、南壁際における標高393.65m、北壁

際には標高392.90m、比高差0.75mで、傾斜度が高い。

一方、河川跡の西側では、調査区の南西隅付近が大きく攪乱されているため、水田区画が検出されたのは調査区の北西寄りの一画のみであった。標高が最も高い調査区西壁際中央における標高が393.50m、最も低い北壁際の標高が393.20mと、比高差は約0.30mと、河川東側と比べて、南側から北側へと緩やかに傾斜する安定した平坦面を造成しやすかったものと考えられる。そのためか、河川西側から検出された33枚の水田は、水田1枚ごとの面積の大小はあるが、隅丸長方形形状ないし、隅丸方形形状の水田区画が、比較的整然と配置されている。

これに対して河川の東側では、水田区画1枚ごとの形状は不整形で大きさや配置も不揃いである。地形の制約によって、不規則的・不整形的な水田区画にならざるを得なかったものと考えられる。

南から北へと流れる河川の東側と西側とで、水田区画の検出状況は大きく異なっており、水田区画の設計理念が異なっていた可能性が高い。

8-2区3面において検出された古墳時代の水田においても、調査区の西寄りの位置を南から北へと貫流する水田耕作に伴う水路の西側では、大きさ・形状・方向等が比較的均質な水田区画が整然と配置されていたのに対して、水路の東側では、大きさも形状もまちまちであり、方向もランダムであった。地形の状況に応じて、その中で最大限効率良く、生産性を高めるために、水田区画1枚の形状や大きさがランダムにならざるを得なかったものと考えられるが、9区の河川両側における水田区画の状況についても、同様のことが想定出来る。

(1)河川東側の水田区画

先述したように、河川の東側では53枚の水田区画が検出された。調査区の北東寄り、河川が大きく東側に張り出している箇所があるが、水田区画はその部分を避けて造られており、河川の流路によって破壊されている箇所はほとんどない。

この河川流路の張り出し部分の北側、調査区の北東隅寄り、調査区の南東隅寄りにおいて、水田区画は纏まって検出された。

①調査区北東隅付近から検出された水田区画

調査区の北東隅では、南側から北側に向かってやや傾斜が急で、標高は392.90～393.20mである。この部分からは9区29～61号水田の、計33枚の水田区画が検出された。この、調査区北東隅付近から検出された33枚の水田区画は、検出範囲内において、さらに3つのグループに分けられる。

$X=61103$ 、 $Y=-92240$ ～ $X=61106$ 、 $Y=-92243$ を結ぶラインをほぼ中心として北西-南東方向の幅約0.40～1.00m前後の「通路」と考えられる空間があり、その北東側から検出されたのが、9区29～43号水田の15枚の水田区画である。

$X=61103$ 、 $Y=-92240$ ～ $X=61106$ 、 $Y=-92243$ を結ぶラインをほぼ中心として北西-南東方向の「通路」と考えられる空間を挟んだ南西側には、水田区画の形状や大きさはまちまちではあるが、主軸方位をほぼ北東-南西方向に揃え、通路東側小群に較べて整然と配置されているかのように見受けられる9区44～59号の16枚の水田区画が小群として纏まっている。

さらに、調査区北端部北壁際で、河川流路のすぐ東側から検出された9区60・61号水田の2枚の水田区画は、北東隅通路東側および西側のそれぞれの小群とも主軸方向、形状等が異なっているので、また、一つ別の水田区画のグループと看做すことが出来る。

ア)「通路」東側小群の水田区画

$X=61103$ 、 $Y=-92240$ ～ $X=61106$ 、 $Y=-92243$ を結ぶラインをほぼ中心として、北西-南東方向の幅0.40～1.00m前後の「通路」と考えられる空間があり、その北東側から9区29～43号水田の15枚の水田区画が検出された。

通路を挟んだ南西側の9区44～59号水田、あるいは調査区北端部北壁際で、河川流路のすぐ東側から検出された9区60・61号水田の2枚の水田区画とも、主軸方向、形状等が異なっているので、水田区画の一つのグループと看做すことが出来る。

15枚の水田区画は、検出範囲内において、調査区北東隅寄りの東西約4m・南北約4.5mの範囲に纏まっているが、主軸方位や形状にはばらつきが多く、まちまちな形状・大きさである。

確認調査時の試掘坑によって中央部を破壊されてお

り、また、調査区北壁に掛かっている水田区画も少なくないので、1枚の水田区画の全体が検出出来たのは9区33～38、40・41号水田の8枚のみであった。

大きさも0.26～0.81㎡とまちまちで、形状も全くばらばらであり、東西・南北方向ともに通る畦畔も無い。

9区29号水田(X=61106～107、Y=-92237～238) 調査区北東隅。北壁に掛かる。9区30号水田の東側、33号水田の北側に隣接する。北側は調査区北壁外へと広がっている。

水田区画の北側大半が調査区外に出ており、区画南東・南西隅を含む区画南側のごく一部が検出されたに過ぎないものと考えられる。

検出最大南北長0.61m、検出最大東西幅0.89m、検出面積0.50㎡、水田面の標高は392.91～95m前後で、東側から西側への配水がなされていたものと考えられる。

9区30号水田(X=61106～107、Y=-92238～239) 調査区北東隅寄り。北壁に掛かる。北側は調査区北壁外へと広がっている。9区29号水田の西側、34号水田の北側、31号水田の東側に隣接する。

9区29・31・32号水田と同様、水田区画の北側大半が調査区外に出ているものと考えられ、区画の南東・南西隅を含む区画南側のごく一部が検出されたに過ぎないものと考えられる。

検出最大南北長0.70m、検出最大東西幅0.59m、検出面積0.34㎡、水田面の標高は392.92～95m前後で、南側から北側への配水がなされていたものと考えられる。

9区31号水田(X=61106、Y=-92239～240) 調査区北東隅寄り。北壁に掛かる。北側は調査区北壁外へと広がっている。9区30号水田の西側、35号水田の北側、32号水田の東側に隣接する。

9区31号水田及びその南側に隣接する35号水田とそれらの西側に隣接する32・36号水田の間には畦畔の高まりが比較的明瞭に検出された。この9区3面1号畦畔については後述する。

水田区画の北側大半が調査区外に出ており、9区29・30・32号水田と同様、区画南東・南西隅を含む区画南側のごく一部が検出されたに過ぎないものと考えられる。

検出最大南北長0.45m、検出最大東西幅0.79m、検出面積0.34㎡、水田面の標高は392.91～93m前後である。

9区32号水田(X=61105～106、Y=-92240～242)

調査区の北東隅寄り。北壁に掛かる。北側は調査区北壁外へと広がっている。

9区3面1号畦畔を挟んで9区31号水田の西側に隣接する。また、36号水田の北側に隣接し、約1m離れて南西側には45号水田が隣接する。X=61103、Y=-92240～X=61106、Y=-92243を結ぶラインをほぼ中心として北西-南東方向の幅0.40～1.00m前後の通路と考えられる空間に西側が面している。

水田区画の南側の大半が検出された。9区29～31号水田と同様、区画南東・南西隅を含む区画南側の一部が検出された。

検出最大南北長0.74m、検出最大東西幅1.46m、検出面積1.05㎡。水田面の標高は392.88～94mで、東側から西側への配水がなされていたものと考えられる。

9区33号水田(X=61105～106、Y=-92238) 調査区の北東隅寄り。9区29号水田の南側、37号水田の北側、34・38号水田の東側に隣接する。

隅丸台形状を呈する1枚の水田区画が完全に検出された。

南北長1.01m、東西幅0.52m、面積0.61㎡。水田面の標高は392.87m前後である。

9区34号水田(X=61105～106、Y=-92239) 調査区の北東隅寄り。9区30号水田の南側、38号水田の北側、33号水田の西側、35号水田の東側に隣接する。

北東-南西方向にわずかに長い隅丸長方形を呈する1枚の水田区画がほぼ完全に検出された。南西隅のごく一部を確認調査時の試掘坑によって破壊されている。

南北長0.76m、東西幅0.78m、検出面積0.53㎡。水田面の標高は392.92～95m前後である。

9区35号水田(X=61105～106、Y=-92239～240) 調査区の北東隅寄り。9区3面1号畦畔を挟んで9区36号水田の東側に隣接する。また、北側には31号水田、南西側には39号水田、南東側には34号水田がそれぞれ隣接する。

隅丸三画形状を呈する1枚の水田区画がほぼ完全に検出された。

南北長0.82m、東西幅0.46m、面積0.26㎡。水田面の標高は392.95m前後である。

9区36号水田(X=61104～105、Y=-92240～241) 調査区の北東隅寄り。9区3面1号畦畔を挟んで東側に

9区35号水田が隣接し、また、南側には39号水田、約0.4m離れて南西側には52号水田が隣接する。南西側は「通路」に面している。

北東—南西方向に長い隅丸台形状を呈する1枚の水田区画がほぼ完全に検出された。

南北長1.15m、東西幅0.92m、面積0.81㎡。水田面の標高は392.94m前後である。

9区37号水田(X=61105、Y=-92237～238) 調査区の北東隅寄り。9区40号水田の北西側、41号水田の北側、33号水田の南側に隣接する。

北東—南西方向に長い隅丸長方形形状を呈する1枚の水田区画が完全に検出された。

南北長0.79m、東西幅0.54m、面積0.35㎡。水田面の標高は392.95m前後である。

9区38号水田(X=61104～105、Y=-92238～239) 調査区の北東隅寄り。9区34号水田の南側、33・37号水田の西側、39号水田の東側、41号水田の北西側、42号水田の北側に隣接する。

北東—南西方向に長い隅丸長方形形状を呈する1枚の水田区画が完全に検出された。

南北長0.76m、東西幅0.78m、面積0.53㎡。水田面の標高は392.92～95m前後である。

9区39号水田(X=61104～105、Y=-92239～240) 調査区の北東隅寄り。9区35号水田の南側、36号水田の南東側、38号水田の西側、43号水田の北側に隣接する。南西側は「通路」に面し、通路を挟んだ南西側約0.7mに53号水田が位置している。

北東—南西方向に長い不整形楕円形状を呈する1枚の水田区画がほぼ検出されたが、北東隅を確認調査時の試掘坑によって破壊されている。

南北長1.15m、東西幅0.69m、検出面積0.59㎡。水田面の標高は392.96～97m前後である。

9区40号水田(X=61104～105、Y=-92237～238) 調査区の北東隅寄り。9区37号水田の南東側、41号水田の北東側に隣接する。

やや崩れた隅丸方形形状を呈する1枚の水田区画が完全に検出された。

南北長0.58m、東西幅0.53m、検出面積0.28㎡。水田面の標高は392.99m前後である。

9区41号水田(X=61104、Y=-92237～238) 調査区

の北東隅寄り。9区37号水田の南側、40号水田の南西側、42号水田の東側に隣接する。

北東—南西方向に長い不整形の1枚の水田区画が完全に検出された。

南北長0.86m、東西幅0.53m、検出面積0.31㎡。水田面の標高は392.97m前後である。

9区42号水田(X=61103～104、Y=-92238～239) 調査区の北東隅寄り。9区38号水田の南側、41号水田の西側、43号水田の東側に隣接する。

西側大半を確認調査時の試掘坑によって破壊されているため全容は不明であるが、小群内で検出された他の水田区画の大きさの状況から見て、試掘坑によって東側を破壊されている43号水田と一体の水田区画とは看做し難い。

検出最大南北長0.70m、検出最大東西幅0.53m、検出面積0.30㎡。水田面の標高は392.96～393.06m前後で、南側から北側への配水がなされていたものと考えられる。

9区43号水田(X=61103～104、Y=-92239～240) 調査区の北東隅寄り。9区39号水田の南側、42号水田の西側に隣接する、「通路」を挟んだ約0.4m西側に53号水田が位置する。

東側を確認調査時の試掘坑によって破壊されているため全容は不明であるが、東西に長い楕円形状を呈する水田区画であったものと推測出来る。先述したように、小群内で検出された他の水田区画の大きさの状況から見て、試掘坑によって西側を破壊されている42号水田と一体の水田区画とは看做し難い。

検出最大南北長0.80m、検出最大東西幅0.77m、検出面積0.52㎡。水田面の標高は393.02m前後である。

イ)「通路西側」小群の水田区画

北西—南東方向の「通路」と考えられる空間の南西側から検出されたのが9区44～59号の16枚の水田区画である。

先述したように、水田区画の形状や大きさはまちまちではあるが、主軸方位をほぼ北東—南西方向に揃え、「通路」東側小群に較べてやや規則的に配置されているかのように見受けられるが、北東—南西方向と北西—南東方向の畦畔の軸は揃っている部分とそうでない部分とがあ

る。「通路」東側小群の水田区画に較べればという程度で、整然とした規則性高い配置とまでは言い難い。

「通路西側」小群では9区45～59号水田の15枚の水田区画が、1枚完全に検出されている。これらの水田区画は、概して北東－南西方向に細長い隅丸長方形ないし平行四辺形状の水田区画で、面積は0.18～0.71㎡と大小あるが、0.4～0.5㎡前後のものが主流である。また、全般的には南西側から北東側への配水が行われていたものと見られる。

9区44号水田(X=61104～105、Y=-92243～244) 調査区北東寄り。北壁に掛かる。9区45号水田の西側、46号水田の北側、約0.5mおいて60号水田の東側に隣接する。水田区画の北西隅を含む北側の一部が調査区北壁外へと広がっている。

水田区画の北西隅から北辺が調査区外に出ているが、区画のほとんどの部分は検出されているものと考えられる。

検出最大北東－南西長1.12m、北西－南東幅0.56m、検出面積0.49㎡、水田面の標高は392.88～89m前後である。

9区45号水田(X=61103～105、Y=-92242～243) 調査区北東寄り。9区44号水田の東側、46号水田の北東側、48号水田の北西側に隣接する。北東側は「通路」に面している。

北東－南西方向に長い隅丸平行四辺形状の水田区画が完全に検出された。

北東－南西長1.12m、北西－南東幅0.62m、検出面積0.71㎡、水田面の標高は392.86～88m前後である。

9区46号水田(X=61102～103、Y=-92243～244) 調査区北東寄り。9区45号水田の南西側、50号水田の北西側、47号水田の北東側に隣接する。

北東－南西方向に長い隅丸平行四辺形状の水田区画が完全に検出された。

北東－南西1.05m、北西－南東幅0.60m、検出面積0.54㎡、水田面の標高は392.92～93m前後で、南西側から北東側への配水がなされていたものと見られる。

9区47号水田(X=61101～102、Y=-92243～244) 調査区北東寄り。9区46号水田の南西側、51号水田の北西側に隣接する。51号水田とは非常に近接している。すぐ西側に河川流路東岸が迫っているが、水田が営まれて

いた時期には、流路は今少し西側であったものと推測出来る。

北東－南西方向に長い台形状の水田区画が完全に検出された。

北東－南西長1.22m、北西－南東幅0.45m、検出面積0.45㎡、水田面の標高は392.97～393.06m前後で、南西側から北東側への配水がなされていたものと見られる。

9区48号水田(X=61103～104、Y=-92241～242) 調査区北東寄り。9区45号水田の南東側、52号水田の北西側、49号水田の北側に隣接する。北東側は「通路」に面しており、約0.6m離れて32号水田が位置している。

北東－南西方向に長い不整長方形の水田区画が完全に検出された。

北東－南西長1.19m、北西－南東幅0.52m、検出面積0.50㎡、水田面の標高は392.89～91m前後で、南側から北側への配水がなされていたものと見られる。

9区49号水田(X=61102～103、Y=-92242) 調査区北東寄り。9区54号水田の北西側、48・52号水田の南西側、50号水田の北東側、55号水田の北側に隣接する。

東西に長い不整楕円形状の水田区画が完全に検出された。

南北長0.63m、東西幅0.88m、検出面積0.38㎡、水田面の標高は392.89m前後である。

9区50号水田(X=61102～103、Y=-92242～243) 調査区北東寄り。9区55号水田の北西側、46号水田の南東側、49号水田の南西側、51号水田の北東側、56号水田の北側に隣接する。

北東－南西方向に長い隅丸長方形の水田区画が完全に検出された。

北東－南西長0.84m、北西－南東幅0.70m、検出面積0.54㎡、水田面の標高は392.94m前後で、南西側から北東側への配水がなされていたものと見られる。

9区51号水田(X=61100～102、Y=-92243～244) 調査区北東寄り。9区56号水田の北西側、47号水田の南東側、50号水田の南西側に隣接する。

北東－南西方向に細長い隅丸長方形の水田区画が完全に検出された。

北東－南西長1.52m、北西－南東幅0.47m、検出面積0.66㎡、水田面の標高は392.97～393.04m前後で、南

西側から北東側への配水がなされていたものと見られる。

9区52号水田(X=61103～104、Y=-92241～242) 調査区北東寄り。9区53号水田の北西側、48号水田の南東側、49号水田の北東側に隣接する。北東側は「通路」に面しており、北東側約0.40m離れて36号水田が位置する。

北東-南西方向にやや長い隅丸長方形の水田区画が完全に検出された。

北東-南西長0.81m、北西-南東幅0.68m、検出面積0.42㎡、水田面の標高は392.90m前後である。

9区53号水田(X=61103、Y=-92240～241) 調査区北東寄り。9区57号水田の北側、52号水田の南東側、54号水田の北東側に隣接する。北側は「通路」に面しており、北東側約0.7m離れて39号水田が位置する。

49号水田に類似した東西に長い不整楕円形状の水田区画が完全に検出された。

0.61m、東西幅0.96m、検出面積0.42㎡、水田面の標高は392.90m前後である。

9区54号水田(X=61102～103、Y=-92241～242) 調査区北東寄り。9区55号水田の北東側、49号水田の南東側、57号水田の北西側に隣接する。

北東-南西方向にやや長い不整楕円形状の水田区画が完全に検出された。

北東-南西長0.61m、北西-南東幅0.52m、検出面積0.25㎡、水田面の標高は392.95m前後である。

9区55号水田(X=61101～102、Y=-92242) 調査区北東寄り。9区56号水田の北東側、50号水田の南東側、54号水田の南西側、58号水田の北西側に隣接する。

北東-南西方向に長い隅丸長方形の水田区画が完全に検出された。

北東-南西長0.75m、北西-南東幅0.48m、検出面積0.33㎡、水田面の標高は393.01m前後である。

9区56号水田(X=61101、Y=-92242～243) 調査区北東寄り。9区59号水田の北西側、50号水田の南側、58号水田の西側に隣接する。

北東-南西方向に長い隅丸長方形の水田区画が完全に検出された。

北東-南西長0.98m、北西-南東幅0.39m、検出面積0.34㎡、水田面の標高は393.03m前後である。

9区57号水田(X=61102、Y=-92240～241) 調査区

北東寄り。河川流路がすぐ南東側に迫っている。9区53号水田の南側、54号水田の南東側、58号水田の北東側に隣接する。

北東-南西方向に長い隅丸台形状の水田区画が完全に検出された。

北東-南西長0.78m、北西-南東幅0.55m、検出面積0.38㎡、水田面の標高は392.96m前後である。

9区58号水田(X=61100～101、Y=-92241～242) 調査区北東寄り。河川流路がすぐ東側に迫っている。9区57号水田の南西側に隣接するが約0.4m距離が開く。55・56号水田の南東側に隣接するが約0.3～0.4m距離が開く。また、59号水田の北東側に隣接する。

北東-南西方向に長い隅丸台形状の水田区画が完全に検出された。

北東-南西長1.08m、北西-南東幅0.61m、検出面積0.61㎡、水田面の標高は393.04～08m前後である。

9区59号水田(X=61100、Y=-92242) 調査区北東寄り。9区56号水田の南東側に隣接するが約0.35m距離が開く。また58号水田の南西側に隣接する。

北東-南西方向にわずかに長い隅丸台形状の水田区画が完全に検出された。

北東-南西長0.48m、北西-南東幅0.42m、検出面積0.18㎡、水田面の標高は393.08m前後である。

・9区3面1号畦畔(第78・79図)

位置 9区3面。X=61005～006、Y=-92240。

重複 なし。

主軸方位 N-25°-W。

規模 検出全長約1.39m、基底部幅約0.08～0.18m、比高差約0.03～0.04m前後。

遺物 なし。

所見 調査区の北東隅寄りに北西-南東方向に造られる。北端は調査区北壁外へと伸びている。南端はX=61105.3、Y=-92240.2付近で北東-南西方向の畦畔に取り付くような気配が認められるが、定かではない。

本調査区3面河川流路東側において検出された水田区画の中で唯一明瞭に検出された畦畔である。北東側9区31・35号水田と西側9区32・36号水田とを画する。

ウ)北壁際河川東際小群の水田区画

調査区北端部北壁際、河川流路のすぐ東側から検出された9区60・61号水田の2枚の水田区画は、北東隅通路東側および西側のそれぞれの小群とも主軸方向、形状等が異なっているので、また、一つ別の水田区画のグループと看做した。検出されたのは上記2枚の水田区画であるが、群の主体は北壁外のさらに北側に展開していたものと推測できる。

9区60号水田(X=61103～104、Y=-92244～245) 調査区北東隅。北壁に掛かる。9区44号水田の約0.6m西側、61号水田の北東側に隣接する。北側は調査区北壁外へと広がっている。

水田区画の北側大半が調査区外に出ており、区画南東・南西隅を含む区画南側のごく一部が検出されたに過ぎない。

検出最大北西-南東長0.61m、検出最大北東-南西幅1.08m、検出面積0.37㎡、水田面の標高は392.96～393.02m前後で、南西側から北東側への配水がなされていたものと見られる。

9区61号水田(X=61103～104、Y=-92245～246) 調査区北東隅。北壁に掛かる。9区60号水田の南西側に隣接する。北側は調査区北壁外へと広がっている。

水田区画の北側の一部が調査区外に出ているが、区画南東・南西隅を含む大部分が検出された。

検出最大北西-南東長0.85m、検出最大北東-南西幅1.04m、検出面積0.83㎡、水田面の標高は393.00～393.04m前後で、南西側から北東側への配水がなされていたものと見られる。

②調査区東壁際中央付近から検出された水田区画

調査区の北東隅、河川流路の北東側から検出された9区29～61号水田の計33枚の水田区画群から南側へ約3.5～4m程度、調査区南東隅付近から検出された9区64～81号水田の計18枚の水田から約4m程度離れて、河川流路が入り江状に大きく東側に張り出した部分の南東側から、9区62・63号水田の2枚の水田区画が検出された。調査区北東隅付近から検出された水田区画のグループとも、また、調査区南東隅付近から検出された水田区画のグループとも、それぞれ離れた位置から検出されたため、それらのグループとは、また、別個の水田区画と位置付けられる。群の主体は調査区東壁の外側に広がっ

ているものと考えられる。

調査区東壁際から検出された2枚の水田区画は大きさも主軸方位も異なっているものの、形状は類似している。地形は、この部分では西側から東側に向かって非常に緩やかに傾斜しているものの、ほとんど平坦と言って良い状態で、周辺の標高は393.22～393.25mである。

9区62号水田(X=61098～100、Y=-92238～239) 調査区の中央からやや北寄りの位置。東壁際。9区63号水田のすぐ北東側に隣接する。

北西-南東方向にやや細長い隅丸台形状の水田区画が完全に検出された。

北西-南東長0.85m、北東-南西幅0.74m、検出面積0.60㎡、水田面の標高は393.16m前後である。

9区63号水田(X=61098、Y=-92238～239) 調査区の中央からやや北寄りの位置。東壁際。9区62号水田のすぐ南西側に隣接する。

北東-南西方向にやや細長い隅丸長方形形状の水田区画が完全に検出された。

北東-南西長0.73m、北西-南東幅0.62m、検出面積0.41㎡、水田面の標高は393.18～20m前後で、南西側から北東側への配水がなされたものと見られる。

③調査区南東隅付近から検出された水田区画

調査区の南東隅では、南西側から北東側に向かってやや傾斜が急で、標高は393.20～393.65mである。調査区北東隅部よりもさらに傾斜は強い。この部分からは9区64～81号水田の計18枚の水田区画が検出された。南西-北東方向の河川流路右岸に沿うように水田区画が造られているが、1枚の区画の形状や大きさ、主軸方位等は、調査区北東隅部「通路」東側小群の水田区画よりもさらにまちまちである。

18枚の水田区画の内、1枚の水田区画が完全に検出されたのは9区64～74・76・78号水田の計13枚である。大きさも0.26～1.77㎡と大小の差が大きく、形状も全くばらばらであり、不整形のものが多く、また、畦畔の軸も全く揃っていない。傾斜があることや、河川流路の存在という自然地形の制約が大きいと、大きさも主軸方位も形状もまちまちな区画とせざるを得なかったものと考えられる。

9区64号水田(X=61094～095、Y=-92237～238)

調査区中央からやや南寄りの位置。東壁に掛かる。9区65号水田の北東側に隣接する。

東隅のごく一部が調査区東壁にかかるが、区画のほぼ全域が検出されているものと見られる。区画はほぼ隅丸形状を呈する。

北東-南西長0.98m、北西-南東幅0.97m、面積0.89㎡、水田面の標高は393.18m前後である。

9区65号水田(X=61093~094、Y=-92238~239) 調査区中央から南寄りの位置。東壁際。9区64号水田の南西側、66号水田の北東側、70号水田の北側に隣接する。

ほぼ隅丸形状の水田区画が完全に検出された。

北東-南西長0.88m、北西-南東幅0.82m、面積0.71㎡、水田面の標高は393.25m前後である。

9区66号水田(X=61091~093、Y=-92238~240) 調査区南東隅寄り。9区65号水田の南西側、67号水田の東側、71号水田の北西側に隣接する。

北東-南西方向に細長い不整楕円形状の水田区画が完全に検出された。

北東-南西長1.50m、北西-南東幅0.95m、面積1.11㎡、水田面の標高は393.34m前後である。

9区67号水田(X=61091~092、Y=-92240) 調査区南東隅寄り。9区66号水田の西側、68号水田の東側、72号水田の北側に隣接する。

南北に細長い隅丸長方形形状の水田区画が完全に検出された。

南北長1.25m、東西幅0.62m、面積0.66㎡、水田面の標高は393.39m前後である。

9区68号水田(X=61091~092、Y=-92241) 調査区南東隅寄り。9区67号水田の西側、69号水田の東側、72号水田の北側に隣接する。

南北に細長い隅丸楕円形状の水田区画が完全に検出された。

南北長0.99m、東西幅0.58m、面積0.47㎡、水田面の標高は393.42~393.46m前後である。

9区69号水田(X=61090~091、Y=-92241~242) 調査区南東隅寄り。9区68号水田の西側、72号水田の北西側、73号水田の北側に隣接する。

南北に細長い隅丸楕円形状の水田区画が完全に検出された。

南北長0.88m、東西幅0.65m、面積0.47㎡、水田面の

標高は393.45~48m前後で、南側から北側への配水がなされていたものと見られる。

9区70号水田(X=61091~092、Y=-92237~238) 調査区南東隅寄り。9区65号水田の南側、71号水田の北東側に隣接する。

北西-南東方向に細長い不整楕円形の水田区画が完全に検出された。

北西-南東長0.98m、北東-南西幅0.84m、面積0.59㎡、水田面の標高は393.33~393.40m前後で、南東側から北西側への配水がなされていたものと見られる。

9区71号水田(X=61090~092、Y=-92238~239) 調査区南東隅寄り。9区70号水田の南西側、66号水田の南東側、72号水田の北東側に隣接する。

隅丸不整形の水田区画が完全に検出された。

北西-南東長1.09m、北東-南西幅1.08m、面積1.10㎡、水田面の標高は393.40~45m前後で、南東側から北西側への配水がなされていたものと見られる。

9区72号水田(X=61089~091、Y=-92239~241) 調査区南東隅寄り。9区67・68号水田の南側、71号水田の南西側、73号水田の北東側、76号水田の北側に隣接する。

東西に長い不整形の水田区画が完全に検出された。9区3面東側から検出された水田区画の中で、1枚当たりの広さが最も広い水田区画である。

南北長1.27m、東西幅1.60m、面積1.77㎡、水田面の標高は393.41~393.48m前後で、南西側から北東側への配水がなされていたものと見られる。

9区73号水田(X=61088~090、Y=-92241~242) 調査区南東隅寄り。9区69号水田の南側、72号水田の南西側、74号水田の北東側、78号水田の北側に隣接する。

北東-南西方向に長い不整隅丸長方形形状の水田区画が完全に検出された。

北東-南西長1.43m、北西-南東幅0.70m、面積0.89㎡、水田面の標高は393.45~393.54m前後で、南西側から北東側への配水がなされていたものと見られる。

9区74号水田(X=61087~089、Y=-92242~243) 調査区南東隅寄り。9区73号水田の南西側、78・79号水田の北西側に隣接する。

北東-南西方向に長い隅丸長方形形状の水田区画が完全に検出された。

北東—南西長1.08m、北西—南東幅0.80m、面積0.77㎡、水田面の標高は393.57～393.63m前後で、南西側から北東側への配水がなされていたものと考えられる。

9区75号水田(X=61088～089、Y=-92238～239) 調査区南東隅付近。9区76号水田の南東側、77号水田の北東側に隣接する。

南北に細長い隅丸楕円形の水田区画の北側が検出されているものと見られる。南側は調査区南壁外に出る。

検出南北長1.05m、検出東西幅1.00m、検出面積0.91㎡、水田面の標高は393.52m前後である。

9区76号水田(X=61089～090、Y=-92239～241) 調査区南東隅付近。9区75号水田の北西側、77号水田の北側、72号水田の南側に隣接する。

北東—南西方向に細長い隅丸長方形の水田区画が完全に検出された。

検出北西—南東長0.75m、検出北東—南西幅1.37m、検出面積0.87㎡、水田面の標高は393.52～393.54m前後で、南西側から北東側への配水がなされていたものと見られる。

9区77号水田(X=61087～088、Y=-92240) 調査区南東隅付近。9区76号水田の南側、75号水田の南西側に隣接する。

南北に細長い隅丸長方形の水田区画の北東及び北西隅を含む北側の一部が検出された。

検出南北長0.70m、検出北東西幅0.82m、検出面積0.37㎡、水田面の標高は393.56m前後である。

9区78号水田(X=61088～089、Y=-92242) 調査区南東隅付近。9区73号水田の南側、74号水田の東側、79号水田の北側に隣接する。

西北西—東南東方向に長い非常に小規模な隅丸長方形の水田区画が完全に検出された。このような0.3㎡以下の小規模な水田区画は調査北東隅地区では9区35・40・54・59号水田など4枚検出されている。

北北東—南南西長0.44m、西北西—東南東幅0.64m、検出面積0.26㎡、水田面の標高は393.58m前後である。

9区79号水田(X=61087、Y=-92242) 調査区南東隅付近。9区78号水田の南側、80号水田の東側に隣接する。

水田区画の北西隅を含むごく一部が検出された。南側大半は調査区南壁外へと広がっている。

検出最大南北長0.22m、検出最大東西幅0.68m、検出

面積0.11㎡、水田面の標高は393.62m前後である。

9区80号水田(X=61087、Y=-92243～244) 調査区南東隅付近。9区74号水田の南側、81号水田の東側、79号水田の西側に隣接する。

水田区画の北西隅を含むごく一部が検出された。南側大半は調査区南壁外へと広がっている。

検出最大南北長0.18m、検出最大東西幅0.84m、検出面積0.08㎡、水田面の標高は393.64m前後である。

9区81号水田(X=61086～087、Y=-92244～246) 調査区南東隅付近。9区80号水田の西側、河川流路のすぐ東側に隣接する。

水田区画の北西・北東隅を含む北側のごく一部が検出された。南側大半は調査区南壁外へと広がっている。

検出最大南北長0.42m、検出最大東西幅1.40m、検出面積0.52㎡、水田面の標高は393.64～66m前後で、西側から東側への配水がなされていたものと考えられる。

(2) 河川西側の水田区画

河川の西側では、調査区の南西隅付近が大きく攪乱されているため、水田区画が検出されたのは調査区の北西寄りの一画のみであったが、標高が最も高い調査区西壁際中央における標高は393.50m、最も低い北壁際の標高は393.20m、標高差は約0.30m程度で、河川跡の東側に比べて、南側から北側へと緩やかに傾斜する安定した平坦面を造成しやすかったものと考えられる。

そのためか、河川西側から検出された33枚の水田は、水田1枚ごとの面積の大小はまちまちであるものの、隅丸長方形ないし、隅丸形状の水田区画が、軸をほぼ揃えて比較的整然と配置されている。

9区82号水田(X=61095～096、Y=-92266～269) 調査区北西寄り。北壁に掛かる。9区83号水田の北側に隣接する。

水田区画の南西・南東隅を含む南側約半分程度が検出された。北側約半分程度は調査区北壁外へと広がっている。

検出最大南北長2.28m、検出最大東西幅1.07m、検出面積1.95㎡、水田面の標高は393.18～23m前後で、西側から東側への配水がなされていたものと見られる。

9区83号水田(X=61093～095、Y=-92267～269) 調査区北西寄り。北壁際。9区82号水田の南側、89号水

田の北側、84・90号水田の東側に隣接する。

北側が広がった南北に長い隅丸台形状の水田区画の全域が検出された。

南北長1.60m、東西幅1.53m、面積2.27㎡。水田面の標高は393.19～393.26m前後で、南東側から北西側への配水がなされていたものと考えられる。

9区84号水田(X=61093～095、Y=-92269～271) 調査区北西寄り。北壁に掛かる。9区83号水田の西側、90号水田の北側、85号水田の東側に隣接する。

西側にひしゃげた隅丸平行四辺形の水田区画のほぼ全域が検出された。北西隅のごく一部が調査区北壁に掛かる。

南北長1.48m、東西幅1.38m、面積1.85㎡。水田面の標高は393.17～393.21m前後で、南西側から北東側への配水がなされていたものと考えられる。

9区85号水田(X=61093～095、Y=-92271～272) 調査区北西寄り。北壁に掛かる。9区84号水田の西側、91号水田の北側、86号水田の東側に隣接する。

南側が幅広い隅丸台形状の水田区画と見られる。北端部は調査区北壁外に出る。

検出最大南北長1.25m、東西幅0.90m、検出面積0.79㎡。水田面の標高は393.18～393.21m前後で、南東側から北西側への配水がなされていたものと考えられる。

9区86号水田(X=61093～094、Y=-92272～274) 調査区北西隅寄り。北壁に掛かる。9区85号水田の西側、93号水田の北側、87号水田の東側に隣接する。

北東-南西方向に長い隅丸長方形形状の水田区画の南側大部分が検出されているものと推測出来る。北端部は調査区北壁外に出る。

検出最大南北長1.66m、東西幅0.70m、面積1.07㎡。水田面の標高は393.17～393.21m前後で、南側から北側への配水がなされていたものと見られる。

9区87号水田(X=61093～094、Y=-92274～275) 調査区北西隅付近。北壁に掛かる。9区86号水田の西側、94号水田の北側、88号水田の東側に隣接する。

北東-南西方向に長い隅丸長方形形状の水田区画の南側およそ半分程度が検出されているものと推測出来る。北側約半分程度は調査区北壁外に出る。

検出最大南北長1.04m、東西幅0.83m、面積0.75㎡。

水田面の標高は393.19～393.24m前後である。

9区88号水田(X=61092～093、Y=-92275～276) 調査区北西隅。北壁及び西壁に掛かる。9区87号水田の西側、94号水田の北側に隣接する。

北側及び西側がそれぞれ調査区外へと広がっているため、全容は不明である。水田区画の南東隅を含むごく一部が検出されたに過ぎない。

検出最大南北0.67m、東西幅0.74m、検出面積0.49㎡。水田面の標高は393.25～393.28m前後である。

9区89号水田(X=61092～093、Y=-92267～268) 調査区の北西寄り。9区83号水田の南側、95号水田の北側、90・96号水田の東側に隣接する。

東西にやや長い隅丸長方形形状の水田区画の全域が検出された。

南北長1.00m、東西幅1.26m、面積1.13㎡。水田面の標高は393.18～393.26m前後で、東から西への配水がなされていたものと見られる。

9区90号水田(X=61092～093、Y=-92269～270) 調査区の北西寄り。9区84号水田の南側、96号水田の北側、83・89号水田の西側、91号水田の東側に隣接する。

東西にやや長い隅丸長方形形状の水田区画の全域が検出された。

南北長1.09m、東西幅1.16m、面積1.29㎡。水田面の標高は393.20～393.25m前後で、西側から東側への配水がなされていたものと見られる。

9区91号水田(X=61092～093、Y=-92271～272) 調査区の北西寄り。9区85号水田の南側、97号水田の北側、92号水田の東側、90号水田の西側に隣接する。

東西にやや長い隅丸台形状の水田区画の全域が検出された。

南北長1.08m、東西幅1.22m、面積1.14㎡。水田面の標高は393.19～393.24m前後で、西側から東側への配水がなされていたものと見られる。

9区92号水田(X=61091～092、Y=-92272～273) 調査区の北西寄り。9区86号水田の南側、100号水田の北側、91・97号水田の西側、93号水田の東側に隣接する。

南北に細長い隅丸長方形形状の水田区画の全域が検出された。この9区92号水田の南側には100・102・110号水田と南北に細長い形状の水田区画が列をなして造られている。地形の特質を踏まえて、そのような水田区画が最

も効率的と考えられ、そのように造られたのであろう。

南北長1.56m、東西幅0.46m、面積0.66㎡。水田面の標高は393.16～393.22m前後で、北側から南側への配水がなされていたものと見られる。

9区93号水田(X=61091～092、Y=-92273～274) 調査区の北西隅寄り。9区86号水田の南側、101号水田の北側、92号水田の西側、94号水田の東側に隣接する。南北に長く南辺が長い隅丸台形状の水田区画の全域が検出された。

南北長1.54m、東西幅1.18m、面積1.47㎡。水田面の標高は393.24～393.29m前後で、南西側から北東側への配水がなされていたものと見られる。

9区94号水田(X=61089～092、Y=-92274～276) 調査区の北西隅寄り。9区88号水田の南側、105号水田の北側、93・101号水田の西側に隣接する。

南北に長く北辺が長い隅丸台形状の水田区画の全域が検出された。9区99号水田とともに、本調査区3面で検出された最大級の広さの水田区画の一つである。

南北長2.20m、東西幅1.48m、面積2.87㎡。水田面の標高は393.28～393.33m前後で、南西側から北東側への配水がなされていたものと見られる。

9区95号水田(X=61089～091、Y=-92266～268) 調査区の北西寄り。9区89号水田の南側、106・107号水田の北側、96・98号水田の東側に隣接する。

南北に長く、南辺が長い隅丸台形状の水田区画の全域が検出された。

南北長1.84m、東西幅1.30m、検出面積2.17㎡。水田面の標高は393.20～393.28m前後で、南東側から北西側への配水がなされていたものと見られる。

9区96号水田(X=61090～092、Y=-92268～270) 調査区の北西寄り。9区90号水田の南側、98号水田の北側、97号水田の東側、95号水田の西側に隣接する。

東西にやや長い隅丸長方形形状の水田区画の全域が検出された。

南北長1.02m、東西幅1.20m、面積1.27㎡。水田面の標高は393.20～393.25m前後で、南から北への配水がなされていたものと見られる。

9区97号水田(X=61090～092、Y=-92270～272) 調査区の北西寄り。9区91号水田の南側、99号水田の北側、92号水田の東側、96号水田の西側に隣接する。

東西に長い隅丸長方形形状の水田区画の全域が検出された。

南北長1.08m、東西幅1.59m、面積1.52㎡。水田面の標高は393.20～393.24m前後で、東から西への配水がなされていたものと見られる。

9区98号水田(X=61089～090、Y=-92268～270) 調査区の北西寄り。9区96号水田の南側、108号水田の北側、99号水田の東側、95号水田の西側に隣接する。

東西にやや長い隅丸長方形形状の水田区画の全域が検出された。

南北長1.13m、東西幅1.32m、面積1.42㎡。水田面の標高は393.24～393.36m前後で、南西側から北東側への配水がなされていたものと見られる。

9区99号水田(X=61088～091、Y=-92270～272) 調査区の北西隅寄り。9区97号水田の南側、109号水田の北側、100・102号水田の東側、98号水田の西側に隣接する。

南北に長く、西辺が長い隅台形状の水田区画の全域が検出された。9区3面において1枚としては最大面積の水田区画である。南側に隣接する9区109号水田、北側に隣接する97号水田、さらにその北側に隣接する91号水田と、東西に幅広く、面積が比較的広めの水田区画が縦列している地点に当たる。

南北長2.28m、東西幅1.60m、面積3.16㎡。水田面の標高は393.25～393.36m前後で、南から北への配水がなされていたものと見られる。

9区100号水田(X=61089～090、Y=-92272) 調査区の北西寄り。9区92号水田の南側、102号水田の北側、101号水田の東側、99号水田の西側に隣接する。

南北に細長い隅丸長方形形状の水田区画の全域が検出された。先述したようにすぐ北側に隣接する9区92号水田、すぐ南側に隣接する102号水田、さらにその南側に隣接する110号水田と、いずれも大きさは異なるが南北に細長い隅丸長方形形状を呈する水田区画4枚が南北に1列に縦列している。

南北長0.93m、東西幅0.35m、面積0.32㎡。水田面の標高は393.21～393.26m前後で、南から北への配水がなされていたものと見られる。

9区101号水田(X=61089～090、Y=-92273～275) 調査区の北西隅寄り。9区93号水田の南側、103号水田

の北側、94号水田の東側、100号水田の西側に隣接する。

東西に長く、南辺が長い隅丸台形状の水田区画の全域が検出された。

南北長1.19m、東西幅1.60m、面積1.71㎡。水田面の標高は393.24～393.32m前後で、南西側から北東側への配水がなされていたものと見られる。

9区102号水田(X=61088～089、Y=-92271～272) 調査区の北西寄り。9区100号水田の南側、110号水田の北側、103号水田の東側、99号水田の西側に隣接する。

南北に細長い隅丸長方形形状の水田区画の全域が検出された。先述したようにすぐ北側に隣接する9区100号水田、さらにその北側に隣接する92号水田、すぐ南側に隣接する110号水田と、いずれも大きさは異なるが南北に細長い隅丸長方形形状を呈する水田区画4枚が南北に1列に縦列している。

南北長1.30m、東西幅0.52m、面積0.71㎡。水田面の標高は393.28～393.37m前後で、南から北への配水がなされていたものと見られる。

9区103号水田(X=61087～089、Y=-92272～274) 調査区の北西寄り。9区101号水田の南側、111号水田の北側、104号水田の東側、102号水田の西側に隣接する。

南北に長い隅丸長方形形状の水田区画の全域が検出された。

南北長1.64m、東西幅1.27m、面積1.99㎡。水田面の標高は393.26～393.40m前後で、南から北への配水がなされていたものと見られる。

9区104号水田(X=61087～088、Y=-92274～275) 調査区の北西隅寄り。9区101号水田の南側、105号水田の東側、103号水田の西側に隣接する。

南北に細長い隅丸長方形形状を呈しており、区画の形状は、東側に隣接する9区103号水田のさらに東側に隣接する102号水田と、その北側に縦列する92・100号水田や102号水田の南側に隣接する110号水田などと類似している。水田区画の全域が検出された。

南北長1.22m、東西幅0.54m、面積0.60㎡。水田面の標高は393.35～393.43m前後で、南から北への配水がなされていたものと見られる。

9区105号水田(X=61087～088、Y=-92275～276) 調査区の北西隅寄り。西壁に掛かる。9区94号水田の南側、104号水田の西側に隣接する。

区画の西側約半分程度は調査区西壁外へと広がっており、1枚の水田区画の北東隅を含む区画の東側約半分程度が検出されているものと見られる。

検出南北長1.34m、検出東西幅0.66m、検出面積0.67㎡。水田面の標高は393.36～393.42m前後で、南から北への配水がなされていたものと見られる。

9区106号水田(X=61089～090、Y=-92265～266) 調査区の北西寄り。9区95号水田の南側、112号水田の北側、107号水田の東側に隣接する。

ほぼ隅丸方形形状を呈する水田区画の全域が検出された。

南北長0.56m、東西幅0.62m、面積0.31㎡。水田面の標高は393.32m前後である。

9区107号水田(X=61088～089、Y=-92266～267) 調査区の北西寄り。9区95号水田の南側、113号水田の北側、106号水田の西側、108号水田の東側に隣接する。

東西に長い隅丸長方形形状を呈する水田区画の全域が検出された。

南北長0.69m、東西幅0.93m、面積0.59㎡。水田面の標高は393.29～393.32m前後で、南から北への配水がなされていたものと見られる。

9区108号水田(X=61088～089、Y=-92268～269) 調査区の北西寄り。9区98号水田の南側、114号水田の北側、107号水田の西側に隣接する。

ほぼ隅丸平行四辺形状を呈する水田区画の全域が検出された。

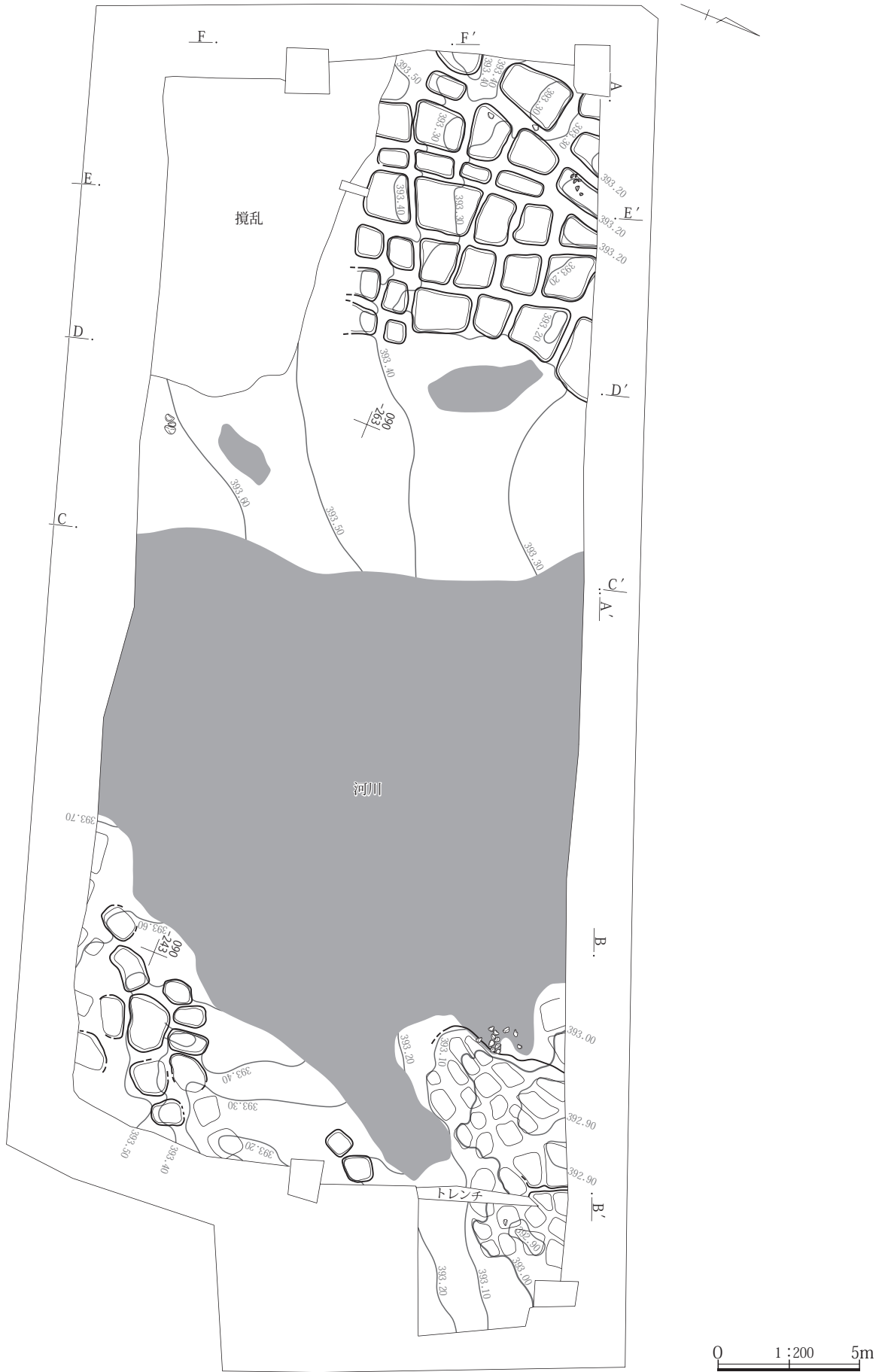
南北長0.90m、東西幅0.81m、面積0.69㎡。水田面の標高は393.27～393.36m前後で、南から北への配水がなされていたものと見られる。

9区109号水田(X=61086～088、Y=-92269～271) 調査区の北西寄り。9区99号水田の南側、108・114号水田の西側、110号水田の東側に隣接する。

東西に長く、東辺が長い隅丸台形状を呈する水田区画の全域が検出された。区画の南辺中央を確認調査時の試掘坑によって攪乱されている。

南北長1.50m、東西幅1.57m、面積2.03㎡。水田面の標高は393.37～393.41m前後で、南から北への配水がなされていたものと見られる。

9区110号水田(X=61086～087、Y=-92271～272) 調査区の北西寄り。9区102号水田の南側、111号水田の



第78図 9区3面全体図(断面図は第77図に)



第79図 9区3面河川東側水田検出状況



第80図 9区3面河川西側水田検出状況

東側、109号水田の西側に隣接する。

南北に細長い隅丸長方形の水田区画の全域が検出された。

南北長0.96m、東西幅0.49m、面積0.43㎡。水田面の標高は393.41～393.42m前後である。

9区111号水田(X=61086～87、Y=-92272～274) 調査区の北西寄り。9区103号水田の南側、110号水田の西側に隣接する。南側が攪乱されているが、南北に長い隅丸長方形の水田区画の北側のかんりの部分が検出されているものと見られる。

検出南北長1.06m、検出東西幅1.15m、検出面積1.22㎡。水田面の標高は393.39～393.43m前後で、南から北への配水がなされていたものと見られる。

9区112号水田(X=61087～89、Y=-92265～266) 調査区の北西寄り。9区106号水田の南側、113号水田の東側に隣接する。

南側を攪乱されているため全容は不明であるが、南北に細長い隅丸長方形ないし台形状の水田区画の北側大半

が検出されているものと見られる。

検出南北長0.85m、検出東西幅0.79m、検出面積0.59㎡。水田面の標高は393.34～393.44m前後で、南から北への配水がなされていたものと見られる。

9区113号水田(X=61087～88、Y=-92267～268) 調査区の北西寄り。9区107号水田の南側、112号水田の西側、114号水田の東側に隣接する。

区画南辺付近を攪乱されているため全容は不明であるが、隅丸長方形ないし台形状の水田区画の北側大半が検出されているものと見られる。

検出南北長0.76m、検出東西幅0.89m、検出面積0.61㎡。水田面の標高は393.35～393.43m前後で、南から北への配水がなされていたものと見られる。

9区114号水田(X=61087～88、Y=-92268～269) 調査区の北西寄り。9区108号水田の南側、113号水田の西側、109号水田の東側に隣接する。

東西にやや長い隅丸長方形の水田区画が完全に検出された。

第3章 検出された遺構と遺物

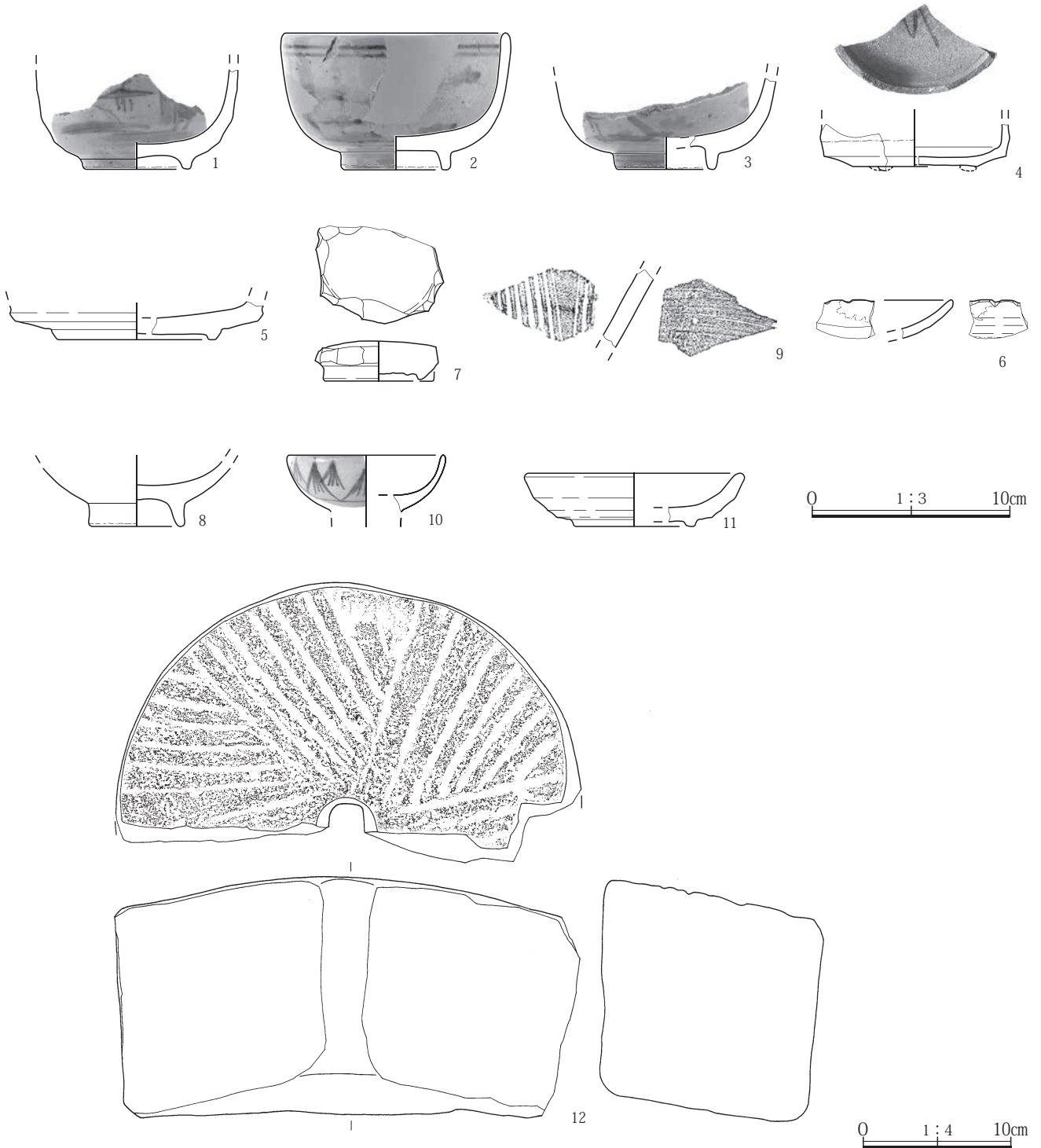
南北長0.82m、東西幅0.90m、検出面積0.70m²。水田面の標高は393.35～393.42m前後で、南から北への配水がなされていたものと見られる。

・遺構外出土遺物(第81図、PL.76)

各調査区の遺構外から出土した遺物の実測図を下記に

一括して掲載した。

各遺物については出土した各調査区についての記述の中で言及している。また、遺物の詳細については第6表遺物観察表を参照されたい。



第81図 遺構外出土遺物

第4章 調査成果の整理とまとめ

第1節 近世の水田と畑

本遺跡では、天明3(1783)年の浅間山噴火後に発生した天明泥流層下からは、1区と7-2区以外の調査区において、近世の水田ないし畑が検出された。

南の榛名山側から北側を西から東にやや蛇行しながら流れる吾妻川に向かって地形が低くなっているところを水田として開発しており、水田面は、地山を削り出して段差を設け、地形に応じた平坦面を造り出したものと考えられる。

おおむね南高北低の棚田が形成されていたが、平成5(1993)年に行われた圃場整備に伴う工事による攪乱・削平や、上面を厚く覆う天明泥流層の流入時における削平を受け、必ずしも良好とは言い難い検出状態であり、棚田の段差や水田畦畔、水路等は明瞭に検出可能であっても、水田面自体は破壊されていたような事例も存在した。

また、棚田の段差下では湧水点が検出され、それを起点とした水路が検出された事例も存在する。湧水点からは、調査時にもなお豊富な湧水があり、しばしば調査が難航するようなこともあった。

各水田面の段差部分では、大量の木杭が、その多くが打ち込まれた状態で出土し、段差の土留めとしての機能を果たしていたものと考えられる。それらの木杭には1mを越えるような長いものもあり、大半は割材を用いているが、一部には住宅建材を転用したものも存在していた。土中に打ち込まれた状態で出土した木杭の多くは低地側に向かって傾斜した状態で検出された。中には段差の土留めとして石垣が構築されている箇所も存在し、石垣列に沿ってさらに木杭列も検出されたが、段差全面に石垣が構築されていたような箇所は本遺跡では多くは検出されなかった。

また、こうした造作は、段差の土留めのみにとどまらず、径0.3m前後の円礫や表面を焼け焦がした木杭を組み合わせ、畦畔の芯を形成した様子も多くの調査区において検出された。

畦畔の芯材として使用されていた木杭には、横架され

たものもあり、また、木杭の他に藁や小枝なども畦畔の芯材として利用されていた。

また、9区では、扇状地地形に沿って、複数面にわたって段々畑が形成されていた状況が検出された。

なお、各調査区において検出された棚田・段々畑の面を形成するための段差が、隣接する調査区に継続するような事例はほとんど見られなかった。

なお、8-2区と9区では、天明泥流層の下から、浅間山火山灰As-Aを含む洪水堆積層が認められた。調査区の間を南から北に向かって流れる吾妻川支流の小河川の氾濫によるものと見られるが、この洪水堆積層を挟んで水田や畑が検出されたこと、洪水層の上面に土留めやしらがみが見出されたことから、浅間山噴火直後から天明泥流発生までの短期間のうちに、洪水が発生したことと、それに伴う水田・畑の復旧が行われたことが判明した。この天明3年の浅間山噴火直後に発生した洪水堆積層によって覆われた遺構確認面は、8-2区と9区でしか検出することが出来なかったため、両調査区においては、確実に天明3年の浅間山噴火後に営まれた水田や畑などの遺構を検出することが出来たのであるが、1-7-1・8-1区において検出された遺構は、天明泥流発生以前の近世の段階と考えられるものの、厳密な年代を特定することは難しい状況であった。

1. 1区の調査

本遺跡の調査対象の南西隅に位置する1区は、南側に向かって急に標高が高くなる傾斜度が高い地形であるため、遺構の検出は望みにくい状況であることが当初より予測されていたが、天明泥流層の到達範囲を明確にするために、部分的に調査を実施した。

埋土の堆積状況から、As-A泥流堆積物が北向きの斜面に沿うように西から東に向けて吾妻川の右岸を流れ、堆積した状況をうかがうことが出来た。

2. 2区の水田

2区では調査区の全域で水田が形成されていた様子は

推測出来るものの、水田面の残存状態は極めて悪く、とくに2区西区では水田耕作土の黒色粘質土が検出出来た範囲は、ごく一部に止まった。

2区西区 南東側から北西側に向かって傾斜する地形であり、調査区の北東から南西にかけて緩やかに蛇行する棚田形成のための段差が1か所検出され、中央からやや西寄りの位置で、北から南にやや屈曲・蛇行する畦畔が1か所検出された。

2区東区 2区西区と同様、全般的には南東側から北西側に向かって傾斜する地形であり、段差は検出されていないものの、東西方向の各畦畔の北側の傾斜が南側に比べて大きくなっており、畦畔ごとに棚田状に水田が形成されていた様子がうかがえた。

ほぼ東西方向の3条の畦畔が、およそ10～11m間隔で検出された。また、南北方向に1条の畦畔が検出された。1枚の水田区画が完全に検出出来た例は無い。

限られた範囲における検出結果に過ぎないが、検出された各水田面の高低差や傾斜はそれぞれ異なっている部分が存在する。

吾妻川と、そこに南側から流入するいくつもの小河川によって形成された小規模な谷地形が複雑に入り込む地形の制約を受けながらも、地形を改変しながら、狭小な範囲を活かしつつ、少しでも効率的な生産性が見込まれるよう、水田を形成していった様子が看取出来る。

3. 3区の水田

調査区内は大きく攪乱されており、水田耕作土の黒色粘質土が検出されたのは東区の東側約2/5程度の範囲のみであった。

畦畔や段差は一切検出されなかったが、水田面検出範囲のほぼ中央部において南西―北東方向の木杭列が検出された。

4. 4区の水田

4区では全域において水田耕作土である黒色粘質土が検出され、棚田状に造成された水田が営まれていたことが判明した。

調査区は全般的には、南西側から北東側にかけて傾斜する地形であり、棚田状に造成された水田では2区西区で検出されたものと同様の段差の補強に使用された大量

の木杭が出土した。

4区では計7段の棚田が検出された。

棚田最上段 南区南辺から南区北寄りを西南西―東北東方向に調査区北壁に沿って蛇行するように検出された4区南区1号段差までの間が4区で検出された棚田の最上段である。

第2段目 南区北寄りを西南西―東北東方向に調査区北壁に沿って蛇行するように検出された4区南区1面1号段差の段下から、中区南側に位置する東西方向の4区中区1面1号段差までの間が第2段目の水田面である。

第3段目 4区中区1面1号段差段下から中区北壁を越えて、北区南西隅でわずかに検出された北西―南東方向に屈曲・蛇行する4区北区1面1号段差までの間が第3段目の水田面である。

第4段目 北区南西隅付近から検出された北西―南東方向に屈曲・蛇行する4区北区1面1号段差段下から北区の南寄りで北西―南東方向に検出された4区北区1面2号段差までの間が第4段目の水田面である。

第5段目 北区南寄りで北西―南東方向に検出された4区北区1面2号段差段下から北区北寄りで北西―南東方向に検出された4区北区1面3号段差までの間が第5段目の水田面である。

第6段目 さらに、その北区北寄りで北西―南東方向に検出された4区北区1面3号段差から、4区北区北壁を越えた北側に位置し、東西方向に屈曲・蛇行する5区1面1号段差までの間が第6段目の水田面ということになる。

第7段目 また、4区北区北東隅から北北西―南南東方向に検出された4区北区1面4号段差は、3号段差段下水田よりもさらに下位の水田面で、第7段目の水田面となる。

5区に及ぶ第8段目 ちなみに、5区1面1号段差の段下側がさらにその下の段の水田面ということになるので、4区とその北側に隣接する5区とを合計すると計8段に及び棚田が形成されていたことになるが、この8段目の棚田面と4区北区北東隅で検出された4区北区1面4号段差段下東側の水田面との上下関係については、現状では明らかにし難い。

4区南区 4区南区では、調査区北寄りの位置を西南西―東北東方向に調査区北壁に沿って蛇行するように検出

された1号段差の南北両側に2段にわたって水田が形成されていた。

水田面は比較的良好に検出されたが、調査範囲内において、畦畔等は全く検出されなかった。

4区中区 4区中区でも、調査区のほぼ全域において水田が検出された。

調査区南寄りの位置で東西方向の段差が、また、調査区北東隅で北西—南東方向の段差がそれぞれ検出され、南西側から北東側に向かって低くなっていく棚田状の水田が形成されていた様子が看取出来た。

調査区の南端付近で東西方向に検出された1号段差及び調査区の北東隅部で北西—南東方向に検出された2号段差によって、南高北低の3段にわたる棚田が形成されている。

水田区画は10区画分が検出されたが、調査区の西端寄りでは1枚の水田区画の規模は小さく、東側では広大になっている。

4区中区1号段差段上南側の1・2号水田、段下北側の3～8号水田、それぞれのレベルはほぼ同一である。2号溝北側の4区中区9・10号水田は、南側の4区中区5・6号水田よりさらに低く造られている様子が判明している。

なお、調査区北東隅部で北西—南東方向に検出された2号段差は、北側に隣接する4区北区南寄りから検出された4区北区1面2号段差の南東側継続部分である可能性が高い。

4区北区 4区北区でも調査区のほぼ全面で水田が検出された。

4区南・中区と同様、全般的には、南西側から北東側にかけて傾斜する地形である。

調査区の南西隅付近、調査区の南西側、調査区の中央から北寄りの位置、調査区北東隅付近の計4か所において、おおむね北西—南東方向の段差が検出された。この4区北区の範囲内だけで、地形に沿って、南西側から北東側に向かって次第に低くなる5段にわたる棚田状の水田面が形成されていた。

5. 5区の水田

5区は、調査範囲が狭い上に、水田耕作土である黒色粘質土が検出された範囲がさらに限られているため、正

確な地形は全体的に不明であるが、調査対象範囲においては全体的には他の調査区と同様、南西側から北東側に向かって傾斜する地形である。東側に田中川とそれが形成した小規模な谷が存在するためである。

天明泥流によって覆われた水田の耕作土とみられる黒色耕作土は検出されたものの、水田が造られていたことが確実なのは、段差と、それに伴う木杭列が検出された調査区の西側半分強で、畦畔等は検出されなかった。

6. 6区の水田

6区では、他の調査区とは異なり、全体的に、南東から北西方向にかけて緩やかに傾斜する地形である。これは北流する田中川の東岸に接し、田中川が開析した谷地形によるためである。

他の調査区と同様、調査区の全域が棚田状に造成されていた様子が看取出来、段差4か所、畦畔2か所、杭列2か所、水田区画6区画が検出され、4か所の段差によって5段にわたる棚田が形成されていたことが判明した。

調査区の地形が他の調査区に比して傾斜度が高く、高低差が大きいため、幾段にもわたって棚田が形成されたものと考えられる。

水田面は比較的良好に検出された。水田面は地山を削り出して段差を設け、地形に応じた平坦面を造り出したものと考えられる。各区画の大小の差は、元来の、傾斜度が高い地形に応じたためであると考えられる。

7. 7区の水田

7区は、用地の関係によって、ほぼY＝－92320ラインを境にして、東西に調査区を分割し、調査年次も分けられた。

北流する田中川を挟んだ5区の東側に当たる7－1区では、天明泥流下の近世の水田面が検出されたが、その東側に位置する7－2区では検出することが出来なかった。

地形は、他の調査区と同様、基本的には南高北低で、南側の6区側から北側7区側に向かって大きく傾斜しているが、本調査区以西と比較すると、調査区内の傾斜はかなり緩やかであり、調査区の広い範囲において安定した平坦面が形成されていた様子がうかがえた。そのせいか、本調査区では段差は一箇所も検出されておらず、棚

田状の水田造成の形跡は認められなかった。

7-1区では、調査区の全域において水田耕作土の黒色粘質土が検出され、水田区画3区画分と畦畔2か所が検出された。

調査区の全域において天明3(1783)年の浅間山噴火によって生じた天明泥流によって覆われた水田が検出された。検出されたのは水田区画3区画分、畦畔2か所である。

8. 8区の水田

8区は、用地の関係によって、南北に調査区を分割し、調査年次も分けられた。

8-1区 北側の8-1区では、地形は、おおむね南西から北東方向に徐々に低くなっているが、かなり広い範囲で平坦面が形成されている。

調査区の全域において水田耕作土である黒色粘質土が検出された。

調査区の東側を中心に、水田区画7区画分、畦畔7本が検出されたが、1枚の水田区画の全域が検出されたものは一つとしてなく、区画のごく一部が部分的に検出されたに過ぎない。

調査区東端部では、1枚の水田区画の形状は、隅丸方形ないし長形状で、小規模な区画であったことが推測出来る。天明泥流下から検出された近世水田で、古墳時代の小区画水田と見紛うばかりの小区画状の水田区画が造られていた例は、これまで皆無であり、地形的な制約によって、たまたま見かけ上、小区画状の水田区画が営まれたものと考えられる。

調査区西側でも水田耕作土の黒色粘質土が全域において検出された。

調査区東端付近から検出された小規模な水田区画の中で、最も西側から検出された8-1区5号水田は、明らかに西側に続いているような様相であるので、水田区画自体が造られなかったということではなく、上面の削平等の状況によって検出出来ないだけで、水田区画自体は造られていた可能性が高いものと考えられる。

また、調査区内において棚田を形成した段差は一箇所も検出されなかった。調査区内では高低差はあるものの、調査区全域にわたって比較的安定した平坦な水田面が形成されていたものと推定することが出来る。

8-2区 南側の8-2区においても、同様に調査区の地形は南高北低である。

8-2区と、現道を挟んで8-1区の北側に隣接する9区においては、天明泥流層直下層下から洪水堆積層が検出された。このことによって、天明3(1783)年の浅間山噴火直後に洪水が発生したこと、その後の火山泥流の発生までのわずかの間に水田が一旦復旧されていたことが判明した。

本調査区と9区の1面で検出された水田や畑は、天明3年の浅間山噴火直後に発生した洪水後、天明泥流によって覆い尽くされるまでのごく短い期間に営まれていたものと位置付けることが出来る。他調査区における天明泥流下の遺構確認面である1面において検出された遺構が、ほぼ天明3年浅間山噴火以前の遺構と考えられるのに対して、本調査区と9区の1面から検出された水田と畑については、天明3年の浅間山噴火以降のものとして特定することが出来たことの意義は大きい。

調査区の全域において天明3(1783)年の浅間山噴火によって生じた天明泥流によって覆われた水田が検出された。天明3年の浅間山噴火直後に発生した洪水後に復旧された水田である。噴火直後に発生した洪水の後の水田復旧から天明泥流層によって覆われてしまうまでの間はごくわずかな期間であったと推測出来る。

調査区内において、段差が2か所検出され、3段にわたる棚田状の水田面が検出された。

他の調査区において、段差面に部分的な石組程度のものが施された事例が検出されることはあったが、段差面全域にわたって石垣が造られていたことが明瞭に検出されたのは、本調査区と、並行して実施された9区の調査においてのみである。また、石垣に伴う木杭列も検出された。

8-2区1面下 先述した通り、8-2区と9区では、天明泥流下直下の遺構確認面である1面の直下から、天明3年の浅間山噴火時に降下した浅間Aテフラ(As-A)を含む洪水堆積層によって覆われた遺構確認面が検出された。

この、天明3年の浅間山噴火直後に発生したと考えられる洪水による堆積層は、本調査区と9区でのみ検出されており、本遺跡の他の調査区においては全く検出することが出来なかった。

洪水が及んだ範囲がごく限定されており、被害が1～7-1・8-1区には及んではいなかったという可能性ももちろん考えられる。あるいは、本遺跡の1～7-1・8-1区の地点においては、洪水被害は受けたものの、洪水堆積層が比較的薄かったため、洪水堆積層そのものを撤去してから水田等の復旧が行われ、本調査区と9区では洪水堆積層が厚く堆積したので、洪水堆積層を除去せず、洪水堆積層の上に新たに水田や畑を造らざるを得なかったため、天明泥流直下の遺構と、天明3年浅間山噴火直後に発生した洪水以前の遺構との2面が検出可能であったという想定も可能である。いずれにしても、天明3年の浅間山噴火前の遺構と位置付けられる。

8-2区と9区1面で検出された水田と畑は、明らかに天明3年の浅間山噴火後のものと明確に位置付けることが可能であるのに対して、1～7-1・8-1区1面において検出された天明泥流下の水田等については、天明泥流発生以前の近世の遺構として、天明3年浅間山噴火直後を含めた幅広い時間軸を想定しておく必要があると言えよう。

調査区の全域において水田が検出され、段差が4か所、畦畔が1か所、水路が1条検出された。調査区の東寄りを南から北へと流れる水路とそのすぐ西側に並行して取り付く畦畔の西側で4段、水路の東側で2段にわたる棚田状の水田面が検出された。

調査区の地形は南高北低で、地形的に見れば、洪水後に復旧された1面で検出された水田面は、洪水前の水田面である1面下の水田面を踏襲しているものの、水田区画の構造は大きく異なっており、洪水前の、1面下の水田では、南北方向の水路とその西側に取り付く畦畔があり、畦畔の西側では4段、東側では2段にわたる棚田が形成されていたのに対し、洪水後に復旧された1面の水田では、調査範囲内では南北方向の水路も畦畔もなく、棚田も3段に減少されている。水田区画の大きさも復旧後には拡大されており、段差の位置も復旧前後で変化している。

復旧後の段差に見られたような石垣や杭列も復旧前には無く、段差の比高差も復旧前は小規模である。

このように、1面下から検出された天明3年の浅間山噴火直後に発生した洪水の堆積土で埋没した天明3年以前の水田の遺構の状況からは、1面において検出された

復旧水田が、短期間で復旧されたものとはいえ、復旧前水田をかなり大きく改変していると言える。なお、各区画内における畦畔は全く検出されなかった。

9. 9区の畑

本調査区と8-2区においては、天明泥流層直下層のすぐ下層から洪水堆積層が検出され、天明3(1783)年の浅間山噴火後に洪水が発生していたこと、その後の火山泥流の発生までの期間にわずかの内に水田や畑が復旧されていたことが判明した。本調査区と8-2区の1面から検出された水田と畑については、天明3年の浅間山噴火以降のものと特定出来たことの意義は大きい。

調査区の北東側を除く約2/3弱の範囲において天明3(1783)年の浅間山噴火によって生じた天明泥流によって覆われた畑が検出された。先述したように、天明3年の浅間山噴火直後に発生した洪水後に復旧された畑である。天明泥流直下の遺構確認面において畑が検出されたのは本遺跡の中では本調査区のみである。

調査区内は、全般的には南側から北側に向かって低くなる地形で、本遺跡のすべての調査区においてほぼ共通する地形である。また、本遺跡において調査された調査区の中では最も北側に当たる調査区の一つであるため、調査対象範囲の中でもむしろ標高は低く、他の調査区に比べて、全面的標高が低いにもかかわらず、本調査区で検出されたのは水田ではなく、畑であった。

本調査区では、傾斜が比較的急であり、調査区内における比高差が1.50mにもなるため、棚田を造成したとしても、生産効率が高い安定した水田面を形成しにくかったという事情から、本調査区の位置に限っては水田ではなく畑が造られたものと推測出来る。

1面 調査区の中央からやや南側において、南西-北東方向の段差が1か所で検出され、段の上下に亘り、計3か所の畑地が造られていた。段上・段下で検出された畑は、いずれも畝間の柵の痕跡が辛うじて検出されたに過ぎない。残存状態は極めて悪く、柵の掘り込みの深さは、ほとんど確認することが出来なかった。

残存状態は必ずしも良くなく、段差面に遺る石はかなり疎らな場所もあるが、段差面全域にわたって石垣が造られていた様子が看取出来、他の調査区において検出された棚田に伴う段差と同様、石垣に伴う木杭列も検出さ

れている。

南側段上では北西—南東方向の畑の畝間の柵の痕跡が30条程検出された。検出された畑の畝間の柵の痕跡は、部分的に重複している箇所があり、造り替えられた部分も存在しているが、全体的には大規模な造り替えはなされておらず、ほぼ、一定のスタイルであったと考えられる。一方、段下側では、畑の畝間の痕跡が検出されたのは西側半分弱の範囲に止まった。

検出された畑の畝間の柵の痕跡は北東—南西方向のものが主で、14本分が検出された。検出された北東—南西方向の畑の畝間の痕跡を9区2号畑と称する。この2号畑においても若干の造り替えがなされていた痕跡が検出された。

さらに段下西半分弱の南東隅では、ごくわずかながら北西—南東方向の畝間の柵の痕跡が4条分検出された。2号畑と重複関係にはないため、併存していたものと考えられる。段上側で検出された1号畑と同様、北西—南東方向の畝間の柵の痕跡であるが、段上側1号畑に比べて、主軸方向の傾斜度は低い。

1面下 天明3年の浅間山噴火直後に発生した洪水によって被害を受けた、天明3年浅間山噴火以前の遺構と位置付けられる遺構で、調査区の南側、1面1号段差が存在していた位置から南側で、3か所の畑が検出された。1面1号段差が検出された位置から北側においては、天明3年の浅間山噴火直後に起こった洪水堆積層下の遺構確認面自体が検出されなかった。ただし、その部分からは1面では明瞭には検出されなかった北西—南東方向の17号溝が検出された。

1面1号段差に当たるような段差は、1面下の面からは検出されていないが、自然地形は1面1号段差が造られている位置において急に下がっており、1面下において人為的な段差そのものは検出されていないものの、自然地形を活かして、標高が高い北側にのみ畑を造ったものと考えられる。また、1面1号段差は、下段側にも畑を造る平坦面を構成するために人為的に造られた段差であるが、自然地形を最大限活かして造成された段差であったことが、1面下の調査によって判明した。

また、検出された3か所の畑は、重複は無く、規模の大小の差は大きいものの、同時に併存していたものと考えられる。

調査区内は1面と同様、全般的には南側から北側に向かって低くなる地形であり、本遺跡のすべての調査区においてほぼ共通する地形である。1面と同様、他の調査区における地形と比べて、比較的急な傾斜であるため、本調査区の範囲では、この時期においても水田ではなく、畑が造られたと考えられる。

遺構確認面が検出された調査区南側の大部分を占めるのは北東—南西方向の畝間の柵が溝状に検出された4号畑で、調査区南側の中央からやや東寄りの位置まで及ぶ比較的広い範囲から検出されている。

9区1面下から検出された畑は、1面1号段差上段側でも、特に標高394.40mの等高線よりも高い箇所に纏まって造られている。1面下では、標高394.40mの等高線よりも低い位置からは畑の遺構は全く検出されなかった。地形を綿密に勘察した上で、畑を造成していたことが判明する。

第2節 古代の水田

12世紀初頭の天仁元(1108)年と12世紀前半に起こった浅間山噴火時に降下した火山灰によって覆われた面から、2・4・6～9区において水田面が検出された。

4区と7—1区で検出された一部の溝とピットに、12世紀前半に降下した浅間山火山灰浅間粕川テフラ(As-Kk)を掘り込んだものが検出されており、12世紀前半以降、近世以前の段階で形成された遺構の存在が確認できたが、遺構面としては確認することが出来なかった。

9区でも12世紀前半に降下した浅間粕川テフラ(As-Kk)を鋤き込んだ畝の畝間が、調査区の壁の一部の土層断面では確認できたが、面的な遺構として検出することは出来なかった。

本遺跡では、12世紀前半に降下した浅間山火山灰As-Kk層の検出は部分的であり、火山灰下の遺構確認面としては検出することは出来なかった。ただ、7—2区においてプラントオパール分析調査を実施したところ、イネ科のプラントオパールが多量に検出されたことから、この時期にも水田が形成されていた可能性は高い。

1. 2区の水田

2区西区では、調査区の中央からやや南寄りの位置に

遺構の確認調査のためのトレンチを設定し遺構の有無を確認したが、遺構はなんら検出されなかった。

2区東区では、平安時代の水田面を構成する黒色粘質土が調査区の全域において検出されたが、水田区画は全く明瞭ではない。

南東側から西に向かって、また、中央部から北東に向かって緩やかに傾斜する地形である。とくに南東隅部と南西隅にかけては傾斜度がきつく、水田面形成には全く向いていない地形であり、調査区の南端寄り一帯では水田が形成されていたとは考えにくい。高低差があるにもかかわらず、近世水田のような棚田状造成の痕跡は検出されなかった。

調査区の北寄りから中央にかけて西南西―東方向と南西―北東方向の2本の畦畔が、また、調査区の中央部で北西から東に向かって緩やかに屈曲する畦畔の計3か所の畦畔が検出された。検出状況から畦畔の範囲が判断されたが、いずれも検出状況は悪く、畦畔の高まりはほとんど明確には検出することは出来なかった。調査区の壁の土層断面の状況からは、黒色粘質土の地山を削り出して畦畔を形成したものと考えられるが、土層断面の状況からも畦畔の高まりは全く明瞭ではない。面的な調査によって、遺構確認面の状況によって辛うじて畦畔の存在が確認出来た程度である。

また、調査区の中央部では、2条の溝(4・5号溝)が検出されたが、これらも水田に伴う水路とは考えにくい。

2. 4区の水田

4区でも南・中・北各区で水田面を構成する黒色粘質土が、比較的広範囲に検出されたが、明瞭な水田区画が検出されたのは中区のごく一部の範囲に止まった。全体的に見れば、4区では、12世紀前半と天仁元(1108)年の浅間山噴火による火山灰で覆われた水田は、あまり明瞭には検出されなかった。また、段差や、段差及び畦畔における木杭による芯材・補強は検出されなかった。

4区南区 南区では、調査区全域において水田面を構成する黒色粘質土の面と、調査区の西側で4条の畦畔状の高まりが検出された。

4区南区2面の調査範囲内においては、南西高北東低の地形であるが、調査範囲内からは段差は全く検出されず、棚田状の造成の痕跡は検出されていない。

調査区西寄りにおいて、計4本の畦畔状の高まりが纏まって検出された。北北東―南南西方向と、北北西ないし北西側から南南東・南東方向に向かって弧状に屈曲する不明瞭な畦畔状の高まりである。これら計4本の畦畔状の高まりは纏まった位置に並列しており、各々の畦畔が同時併存して畦畔として機能していたとは考え難い。ほぼ似たような位置において、何回にもわたって畦畔の造り替えがなされた結果、このような状況で検出されたとでも考える外はないが、不明な点が多い。また、畦畔相互の重複も皆無であり、新旧関係も全く明瞭にはし難い。

4区中区 中区では、調査区の西側と東側の一部において畦畔と水田面が検出された。

南高北低の地形であるが、調査範囲内からは段差は全く検出されなかった。

畦畔によって区画された水田面は、区の西側で3か所、東端付近で1か所検出された。

調査区の大部分を占める南西端から中央部、東寄りにかけての一帯では、水田耕作土が検出され、水田面とは認定できたが、段差・畦畔・溝等が全く検出出来なかったもので、水田区画としては把握することが出来なかった。

畦畔は、調査区の西端付近で3本、東端付近で1本の計4本が検出され、水田区画4か所が検出されたが、明瞭な畦畔は調査区の東端付近から検出された4区中区14号水田の西側を画する4区中区2面4号畦畔のみであった。4区中区2面1～3号畦畔の検出状況は概して悪く、不明瞭な高低差やごく浅く溝状に掘り込まれた痕跡によってわずかに検出出来る程度であった。

4区北区 北区では、調査区の西側約2/3弱の範囲において、やや起伏を有する黒色耕作土の平坦面が検出されたが、調査区全域において畦畔、溝等も全く検出されなかったもので、水田区画も明らかに出来ず、水田の明瞭な痕跡は検出されなかった。

南高北低の地形であるが、調査範囲内からは段差は全く検出されず、棚田状の造成の痕跡は検出されていない。

調査区中央部では、不整形に若干深くなっている部分がみられ、水田耕作土と見られる黒色粘質土こそ検出されているものの、平坦な水田面が形成されていたとは考えにくい状況である。

3. 6区の水田

北流する田中川の東岸に位置するため、調査区西端側が低い地形となっている点は、天明泥流下の1面と同様ではあるが、As-B軽石下の地形は1面の状況とはやや異なり、調査区西端側、調査区西壁から東へ約10m付近を境に、調査区西端に向かって急に傾斜し、約1m近く落ち込んでいく。一方、それ以东では、おおむね南西側から北東側に向かって比較的緩やかに傾斜している。

調査区北西隅一帯の、標高が低くなっている部分では水田耕作土である黒色粘質土の面は検出されなかったが、それ以外の全域では、水田耕作土の黒色粘質土が面的に検出されたが、全体的に傾斜が大きい地形であるにもかかわらず、平坦面を形成した様子は全く看取することが出来ず、また、段差や畦畔も全く検出することが出来なかったため、調査区の全域に12世紀前期以前の水田が形成されていたとは考えにくい。

検出された明確な遺構は、調査区の中央を南から北にやや蛇行しながら流れる12号溝1条のみであった。

4. 7区の水田

7-1区12世紀前期以降の遺構 7-1区では12世紀前半に起こった浅間山噴火によって降下した火山灰As-Kkを掘り込んで造られた柱穴列4条、ピット2基、溝1条が検出された。

12世紀前半に降下したAs-Kk軽石層を掘り込んで造られているので、12世紀前半以降、天明3(1783)年泥流到達以前という幅広い年代幅の中のどこかに属する遺構と言うことになるが、本調査区においては、12世紀前半に降下したAs-Kkと天仁元(1108)年降下のAs-B軽石によって覆われた遺構面においてはじめて検出されたもので、遺構確認面から見ても天仁元年以降のものであることは確実であるものの、天明3年以前ではあるが近世の段階における遺構とは考えにくい。天仁元年以降中世くらいまでの間の年代幅の遺構と見られる。本遺跡において、この時期、この地点においてのみ、耕作地ではない土地利用がされていた訳である。

この時期に属する遺構は、4区の一部でも検出されているが、本調査区の東側に隣接する7-2区では検出されていない。

調査区中央の南端付近でわずかにごく浅く検出された耕作痕は、断片的にしか過ぎないものの、12世紀前半に降下した浅間山火山灰を掘り込んでおらず、且つ、12世紀前半及び天仁元年降下の浅間山火山灰層下から検出された古代の水田面を明らかに掘り込んで造られているので、その次の段階に営まれた遺構と考えられる。すなわち、12世紀前半に降下した浅間山火山灰を掘り込んで造られた柱穴列や2号溝、6・7号ピット等の遺構よりも古く、12世紀前半と天仁元年に降下した火山灰によって覆われた古代の水田よりも新しい時期のものとして位置付けることが出来る。

7-1区12世紀初頭以前の遺構 古代の水田は、さらにそれよりも1段階古い時期のものとして位置付けられる。

調査区の中央から東寄りの位置を、わずかに屈曲・蛇行しながら南から北へと貫流する1号溝内には、水田耕作土の黒色粘質土が層として均質に堆積しているため、この溝の上面では水田区画は検出することが出来なかった。

また、1号溝は水田区画よりも先行し、水田が営まれた時期には耕作土で覆われており、溝として機能していなかったはずであるが、1号溝の両側では、水田区画は特に狭小で、南北に細長い隅丸長形状の区画となっている部分がある。かつて1号溝が存在していた場所では、地形が低くなっており、1号溝の「跡地」を避けて水田区画が造られていたために、溝跡の両側では南北に細長い極端に狭小な水田区画となったものと考えられる。

畦畔によって区画された水田区画は調査区の中央から東側と北側にかけて、調査区の約2/3の範囲で12区分が検出された。調査区の南西側約1/3程度の範囲では畦畔は全く検出されなかったが、水田耕作土である泥炭化した黒色粘質土の平坦面は検出されている。

水田区画が完全に検出されたのは、調査区のほぼ中央に位置する2枚のみである。水田の上面がかなり削平されており、残存状態はあまり良くない。

畦畔の検出状況も悪い。いずれも調査区の壁の土層断面の状況からは、畦畔の高まりは全く認識することが出来なかった。検出された畦畔の高さは0.01～0.05m程度で、形状は扁平であった。

畦畔基底部の幅は0.54～1.19m程度で、北側7-1区7・8号水田と南側11・12号水田との間の東西方向の

畦畔と東側7-1区9・13号水田と西側10・14号水田との間の南北方向の畦畔の幅が殊の外広く、大畦畔である可能性も指摘できるが、いずれも東西ないし南北に貫く大畦畔という訳ではない。

検出された水田区画は、一見するといわゆる小区画・極小区画水田と見紛うばかりの形状であるが、現在の古代水田遺跡の研究水準では、小区画水田は、縄文時代晩期とされる水田耕作の伝来以降、古墳時代までに見られる時代的な所産と捉えられているので、本調査区で検出された古代の水田の区画は、現象面として小区画水田のように見受けられるだけのことで、現在の古代水田遺跡の研究水準における小区画水田という概念には該当しないものと見るべきである。

12世紀初頭と前半とに降下した浅間山火山灰によって覆われた小区画状の水田区画は、後述するように本遺跡9区2面でも検出されている。9区2面では、西側では本調査区と同様の、比較的定型化した小区画状の水田区画になっているが、東側では広さも形状もまちまちな区画になっている。この点も地形に応じた区画の造成が行われていたことを示しているものと考えられる。

調査区内では段差等は全く検出されず、棚田状の造成の痕跡は検出出来ない。しかしながら、本遺跡全体が、南側の山裾の丘陵部から北側を西から東へと流れる吾妻川に向かって急激に傾斜していく地形に立地し、その中で狭隘な、限られた条件下にある比較的安定した平地を選んで、そこに平坦面を造成した上で水田を造っているため、水田区画の造成にも相当な工夫がなされたのであろう。限定された立地条件の中で、最大限に有効な水田経営を実践するために、結果的に、小区画・極小区画水田に類似した形態の水田区画が造成されたものと考えられる。

また、検出された水田区画は、北辺ないし東辺が調査区外へと広がっているものがほとんどで、一区画が完全に検出された区画はわずかに2例に過ぎないが、断片的にしか検出出来ない状況にあっても区画の大きさは非常にまちまちであった。このことも限定された厳しい地形の制約下で、最大限効率的に収穫量を確保するために、地形に応じた臨機応変の区画設定がなされていたことを示しているように思われる。

7-1区2面まとめ このように、7-1区2面の遺構

は、まず、古代の溝である1号溝が南北に流れた時期があり、その次の段階として、12世紀前半と12世紀初頭の天仁元年に降下した浅間山火山灰によって覆われた古代の水田が営まれた時期があり、さらにその次の段階で、水田を掘り込んで畠が造られた時期があって、最後に12世紀前半に降下した浅間山火山灰を掘り込んで造られた1~4号柱穴列、6・7号ピットと2号溝が営まれた時期があったという4段階にわたる遺構の変遷が存在したということになる。

ただし、調査時には、それら4段階にわたる遺構の確認面を個々に検出することは出来ず、すべて12世紀前半及び12世紀初頭の天仁元(1108)年降下の浅間山火山灰に覆われた遺構確認面において検出され、同時に調査されている。

7-2区 7-2区2面も、調査範囲内においては南高北低の地形であるが、調査範囲内からは段差は全く検出されなかった。

7-2区では、隣接する5区、6区、7-1区、9区等で検出された江戸時代の天明3(1783)年の浅間山噴火に伴うAs-A泥流下の遺構確認面である1面は全く検出することが出来ず、12世紀初頭の天仁元(1108)年に起こった浅間山噴火によって降下した火山灰As-Bによって覆われた2面の遺構のみが検出された。

なお、本遺跡では、12世紀前半に起こった浅間山噴火の際に降下した火山灰As-Kkの堆積は部分的にしか認められず、As-Kk堆積層下の遺構確認面を検出することは出来なかった。そこで平成28年度の7-2区の調査時に、部分的に堆積が認められたAs-Kk層直下の土層についてプラントオパール分析を委託・実施したところ、イネ科のプラントオパールが多量に検出されたため、12世紀初頭の浅間山火山灰As-B降下後、12世紀前半の浅間山火山灰As-Kk降下までの短い期間にも、本遺跡の地では水田が営まれていた可能性が高いことが判明した。

調査区の全域において12世紀前半に降下した浅間山火山灰As-Kk、及び12世紀初頭の天仁元年(1108)年に降下した浅間山火山灰As-Bによって覆われた水田が検出された。5本の東西方向の畦畔とL字形の畦畔の残骸1本が検出されたが、明確な水田区画の検出事例は少なかった。また、東西方向の溝1条が検出されたが、溝は北側に隣接する畦畔の南端を掘り込んでおり、水田よりも新しい

時期の遺構と考えられる。

水田に伴う畦畔の形状は、明確ではないものも少なくなく、また、明瞭に検出された水田区画も少なく、全体的に不明な点が多い。畦畔の高まりは、調査区壁における土層断面ではあまり明確には確認できなかったが、水田面よりも地山を高く掘り残して畦畔を形成したものと考えられる。

約5m程度西側に隣接する7-1区で検出された小区画状の水田区画に続くような水田区画は本調査区においては全く検出されず、7-1区で検出された水田区画の畦畔に接続するような畦畔も一切検出されなかった。

水田面では、北東-南西ないし東北東-西南西方向で3列、北北東-南南西方向で1列の足跡が検出された。なお、検出された足跡は、重複しているものが皆無であり、足跡列相互の新旧関係は不明である。足跡には、形状から牛馬のものと見られるが、検出状態が不良のため、牛か馬かの判別は明確には付きにくいもの、形状から牛馬のものと判断できるもの、明らかに人間のものと見られるものがあつた。

12世紀初頭及び前半に降下した浅間山火山灰によって覆われた水田面における牛馬等動物を含む足跡の検出事例は珍しい。

5. 8区の水田

8-1区 1面と同様、南西側から北東側へと傾斜する地形で、本調査区でも、水田耕作土の黒色粘質土が全域にわたって検出され、調査区東端部では中央に水口を有する南北方向の畦畔が検出され、水田が営まれていたことは明白であるものの、約1.2~1.3mの間隔で並行する溝が検出されるなど、水田面のかかなりの部分が攪乱されており、水田の状況をあまり明瞭にはし難かった。畦畔によって画された水田区画が検出されたのは、調査区の東北端付近のごく狭い範囲のみである。

調査区西寄りの中央でも東西方向の畦畔状の高まりが検出され、畦畔として報告したが、畦畔の北側では6条の溝が検出され、水田面はかなり攪乱された状態である。明瞭に検出出来た水田区画は一箇所も無く、調査区北東隅で水田区画の西端部の一部が辛うじて検出出来たに過ぎなかった。

8-2区 2面も1面と同様、南西側から北東側へと緩

やかに傾斜する地形である。

本調査区においては、畦畔によって画された水田区画が検出されたのは、調査区の北壁際と東壁際の限られた範囲のみで、調査区の南西側約1/2の範囲では、後世の水流によって削り取られてしまっており、畦畔等水田を構成する遺構はおろか、水田耕作土である黒色粘質土すらごく一部でしか検出されなかった。

古代の水田面に伴う畦畔が5か所検出された。調査区東寄りの位置を南北方向に貫通する畦畔が1本あり、この他に部分的に検出された畦畔が計4本ある。これらの畦畔によって画された水田区画9枚が検出された。ただし一枚の水田区画が完全に検出出来た事例は皆無であり、1枚ごとの面積の比較等は全くできない状況であったが、検出された部分から推測すると、ほぼ3.00~3.50m四方の、方形ないし長方形の平面形態を呈する水田区画からなる、いわゆる、「小区画」状水田であったと考えられる。

先述したように、本遺跡7-1区からも、浅間山火山灰As-Bテフラによって覆われた面から、いわゆる「小区画」状の古代水田が検出されており、地形の制約が厳しい場所では、古墳時代後期以降の、古代に属する水田においても、見かけ上の「小区画」水田が形成されることもあつたということは、すでに判明していた。また、同じく先述したように、本遺跡8-1区では、天明泥流層下から検出された近世の水田さえも、「小区画」状に形成されたものが検出されており、「小区画」状の水田は、地形の制約がある場所では、年代に関わらず形成されることが有り得るということが明らかになった。なお、天仁元(1108)年降下の浅間山火山灰As-Bテフラによって覆われた「小区画」状の古代水田は9区でも検出されている。ただし、本調査区の北側に隣接する8-1区2面では、本調査区で検出された「小区画」状水田は全く検出されておらず、継続性が見られないことに疑問の余地が遺る。

検出された水田区画では、各水田区画内の標高から、おおむね南西側から北東側への配水がなされていたであろうことは明らかであるものの、水田に伴う水路や、各水田区画の水口は検出することが出来なかった。

なお、本調査区でも、7-2区や9区と同様、12世紀前半に降下した浅間山火山灰As-Kkテフラ層は部分的にしか検出されなかった。先述したように、7-2区にお

いて浅間山火山灰As-Kk層下の土層プラントオパール分析を実施したところ、イネ科の植物のプラントオパールが多量に検出されたことから、天仁元(1108)年の浅間山噴火に伴うAs-Bテフラ降下以降、12世紀前半の浅間粕川テフラAs-Kk降下までの時期についても、本地域において水田が造られていた可能性が非常に高いことが判明している。

8-2区2面下 本調査区では、天仁元年の浅間山噴火によって降下した火山灰As-Bテフラによって覆われた2面の調査が完了した後に、2面と6世紀初頭の榛名山二ツ岳噴火によって降下した火山灰榛名-渋川テフラ層の下層から検出された3面との中間の層に、黒色粘質土の層が一部で認められたため、水田面の存在を仮定して面的な調査を実施したところ、水田を検出することは出来なかった。調査区の南東隅付近で北西-南東方向の溝が1条検出されたのみである。

1・2面と同様、南西側から北東側へと傾斜する地形で、等高線の密度が高く、傾斜はやや急であり、安定した平坦面とはあまり言い難いような状況である。

この2面下の遺構確認面は、本調査区においてのみ、検出が可能であり、北側に隣接する8-1区やさらにその他の調査区においては全く検出することが出来なかった。

プラントオパール分析を実施したところ、少ないながらもイネ科のプラントオパールが検出され、少なくとも周辺域では古墳時代初期から平安時代後期に至るまでの間も連綿と水田耕作が行われていたことが推測出来た。

2面水田下の堆積層には洪水堆積層を複数枚確認することが出来、各堆積層を挟んで2面で検出された水田耕作土と類似する黒色粘質土が薄く堆積している様子を確認することが出来た。本地域では繰り返し洪水に襲われていたことが判明する。

6. 9区の水田

9区2面でも、地形は1面・1面下と同様、南から北へと傾斜している。調査範囲では段差は検出されず、段差を造成して棚田状の平坦面を確保するのではなく、水田区画を画する畦畔の一部が段差としての役割を果たしていた箇所があり、畦畔によって画された水田区画ごとに平坦面が形成され、結果的に緩やかな棚田状の水田が

営まれていたものと推測出来る。

調査区全体では、古代の水田面とそれに伴う畦畔が29か所、畦畔によって画された水田区画28枚が検出された。ただし水田区画が完全に検出出来たのは1枚のみであった。

8-2区と同様、小区画状の水田区画を含む水田区画が比較的明瞭に検出されている。本調査区では、調査区中央の北側では畦畔は全く検出されなかった箇所があるものの、本来は全域にわたって水田区画が造られていたものと考えられる。

1面1号段差が存在した位置とほぼ同位置に、北東-南西方向の溝が検出されたが、この溝の主軸方位は水田の畦畔とは全く異なっており、且つ水田区画を掘り込んで破壊しているため水田区画よりは新しい時期の遺構である。

この北東-南西方向の溝の南側では、全域にわたって水田区画が検出された。一方、溝の北側では、調査区の中央からやや東寄りの位置で南北方向に検出された大畦より東側では、ほぼ全域にわたって水田区画が検出されたものの、大畦よりも西側で水田区画が検出されたのは、調査区北西隅の一角のみであった。北東-南西方向の溝より北側の、調査区中央から西にかけての一角では、水田区画が検出されていない範囲が広がっているが、水田耕作土である黒色粘質土の面は検出されている。

南北方向の大畦の東側では、一部を除いたほぼ全域にわたって、15本の畦畔によって区画された13枚の水田区画が検出された。

畦畔の検出状態はあまり良く無く、検出された畦畔の高まりはあまり明瞭ではない部分も少なからず存在していた。調査区の中央やや南寄りの位置と調査区の東寄りの位置とで、下層の礫層の露出が確認された範囲があった。この礫層の露出によって、畦畔や水田面が破壊されており、後世の地震や河川の氾濫等による影響と考えられる。

水田区画の形状は不整形で、面積もまちまちである。傾斜する地形の制約の中で、最大限有効に区画を造り、生産力を高めようとしたため、区画はまちまちな形状・大きさにならざるを得なかったものと考えられる。

大畦東側から検出された水田区画は、1枚の面積や形状がそれぞれで異なる不均質な造りであるのに対し、大

畔の西側、調査区西寄りから検出された水田は、1枚ごとの面積は異なるものの、比較的類似した造りとなっているのが特徴的である。検出された部分から推測すると、おおむね10～20㎡程度の水田区画からなる、いわゆる、「小区画」状水田であったと考えられる。

先述したように、本遺跡7-1区からも、浅間山火山灰As-Bテフラによって覆われた面からいわゆる「小区画」状の古代水田が検出されており、地形の制約が厳しい場所では、古墳時代後期以降の、古代に属する水田においても、見かけ上の「小区画」水田が形成されることもあったということは、すでに判明していた。

また、同様に、本遺跡8-1区では、天明泥流層下から検出された近世の水田さえも、「小区画」状に形成されたものが検出されており、「小区画」状の水田は、地形の制約がある場所では、年代に関わらず形成されることが有り得ると言うことが、本遺跡の調査で判明したと言えるだろう。

第3節 古墳時代の水田

最も東寄りの調査区である8-2区と9区において、6世紀初頭におこった榛名山二ツ岳の噴火時に降下した火山灰である榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA)層下から1区画1～2㎡程度の小区画水田が検出された。

本遺跡が位置する吾妻西部地域では、これまで榛名山二ツ岳渋川テフラ直下の水田の検出事例は皆無であり、初めて確認されたHr-FA層下の水田遺構であり、群馬県内における古墳時代水田の、最も西で確認出来た事例となった。古墳時代極小区画水田としては群馬県内最西における検出事例となった訳であり、古墳時代後期における吾妻地域西部の歴史解明に大きな意義を有するものであった。古墳時代後期6世紀の吾妻西部地域における水田耕作の実態を解明する上での端緒となる発見であり、地域の歴史解明に向けて、大変意義深い発見であると位置づけることが出来る。

8-2区では調査区内を南北に縦断する水路が、また9区では調査区内を南北に縦断する河川流路が検出されており、これらの水路や河川の水利を用いた水田の構築・経営がなされていたことが判明した。

1. 8-2区の水田

3面でも、1・2面・2面下等上層の遺構確認面と同様、南西側から北東側へと緩やかに傾斜した地形である。

本調査区と9区においてのみ、6世紀初頭の榛名山二ツ岳噴火に際して降下した火山灰である渋川テフラHr-FA層の下層から、1辺が1～2m程度の極小区画水田が計39枚検出された。

なお、この榛名山二ツ岳火山灰Hr-FA層下から検出された古墳時代後期水田面の下層からは、遺構は全く検出されなかったため、この面が本調査区における最下層の遺構確認面である。

調査区のほぼ全域にわたって1～2㎡前後の水田区画が計39枚検出された。1区画が完全に検出出来た区画はわずか11区画に過ぎないが、全体の形状や大きさが比較的類推出来るものが多かった。水田1枚の面積は0.5～2.2㎡程度と大小にかなりのばらつきがある。

調査区の北東隅部は、調査区の西寄りを南から北へと流れる水田耕作に伴う水路の氾濫により大きく破壊されている。また、調査区南端の中央から北東側にかけて、水田区画が作られていない部分が存在している。その両側の水田区画の形状は、概して不整形で、配置も不揃いであり、1枚の面積も0.50～2.00㎡と不均等である。遺構の残存状態が悪いために明瞭に検出出来なかったという訳ではなく、地形の制約によって、不規則的・不整形的な水田区画にならざるを得なかったものと考えられる。

一方、調査区の西側、とくに南北方向の水路よりも西側では、隅丸方形ないし長形状を呈する比較的均質な水田区画が整然と配置された状態で検出された。水田区画1枚の大きさもおおむね2.00㎡前後と均質である。

このように、調査区の中央からやや西寄りの位置を南から北へと流れる水路の東側と西側とで、水田区画の検出状況は大きく異なっており、水田区画の設計理念が異なっていた可能性が高い。

2. 9区の水田

9区も、1面・1面下・2面等、上層の遺構確認面や他の調査区の状況と同様、おおむね南西側から北東側へと緩やかに傾斜した地形であるが、本調査区3面では、

調査区南西隅付近が大きく攪乱されている。

調査区の中央から東寄りにかけて南北方向に、やや屈曲・蛇行する河川流路の東側から53枚、西側から33枚の1辺が1～2m程度の極小区画水田が検出された。

調査区の中央から東寄りにかけて検出された南北方向の河川流路は、南北約17.5m・東西約11～21mと広範に及んでいるが、この河川を用水・排水に利用して水田を形成していた可能性が考えられる。

なお、古墳時代後期の水田面の下層にも粘質土の堆積層が認められたため、遺構の有無を確認したが、遺構は全く検出されなかったため、この3面が、本調査区における最下層の遺構確認面である。

調査対象範囲内において、この河川が、直接水田区画を浸食している箇所は無く、多少の氾濫が生じるようなことはあったかもしれないが、基本的に河川を避けて水田区画が造られていたものと見られる。それゆえ、調査区中央部から東寄りにわたる広範囲に検出された河川を用水・排水に利用して、水田が形成されていた可能性が考えられる。

河川の西側では、調査区の南西隅付近が大きく攪乱されているため、水田区画が検出されたのは調査区の北西寄りの一画のみであった。河川東側と比べて、南側から北側へと緩やかに傾斜する安定した平坦面を造成しやすかったためか、河川西側から検出された33枚の水田は、水田1枚ごとの面積の大小はあるが、隅丸長方形形状ないし、隅丸方形形状の水田区画が、比較的整然と配置されている。

これに対して河川の東側では、水田区画1枚ごとの形状は不整形で大きさや配置も不揃いである。地形の制約によって、不規則的・不整形的な水田区画にならざるを得なかったものと考えられる。

8-2区3面において検出された古墳時代の水田においても、調査区の西寄りの位置を南から北へと貫流する水田耕作に伴う水路の西側では、大きさ・形状・方向等が比較的均質な水田区画が整然と配置されていたのに対して、水路の東側では、大きさも形状もまちまちであり、方向もランダムであった。地形の状況に応じて、その中で最大限効率良く、生産性を高めるために、水田区画1枚の形状や大きさがランダムにならざるを得なかったものと考えられるが、9区の河川両側における水田の状況

についても、同様のことが想定出来る。

まとめ

本遺跡所在地では、扇状地上のごくわずかな平坦面を長期にわたって土地利用しており、現在は水田地帯となっている。今回の調査において検出された遺構も、そのほとんどが水田であり、この地では、古墳時代以来、連綿と水田が営まれてきたことが判明した。

水田や畑の面が検出されたのは、天明3(1783)年に起こった浅間山噴火によって生じたいわゆる天明泥流(浅間A泥流)で埋没した遺構検出面、12世紀初頭の天仁元(1108)年と12世紀前半とに起こった浅間山噴火時に降下した火山灰(As-B)層下の面、さらに古墳時代後期6世紀初頭に起こった榛名山二ツ岳噴火時に降下した火山灰(Hr-FA)層下の面の3面を主体とする。

ただし、それにとどまらず、8-2区と9区では、浅間山噴火直後に起こった洪水から天明泥流発生までの短期間のうちに復旧された水田と畑とが検出された。また、4区の一部と7-1区では、12世紀前半に起こった浅間山噴火によって降下した火山灰As-Kkを掘り込んで造られた遺構が検出された。さらに、各調査区の土層断面を観察すると、複数の洪水堆積層を確認することが出来た。

現在は美田が広がる厚田地区ではあるが、幾度となく繰り返して発生する自然災害の中、苦心して水田をひらき、維持し、生産域を確保する人々の絶え間ない営みの歴史があったことをうかがい知ることが出来る資料が得られたことは、本遺跡調査の大きな意義であったと言えるだろう。

第4章 調査成果の整理とまとめ

第4表 水田出土木杭一覧表

通番	挿図 番号	区	面	杭列	杭番	長さcm	幅cm	傾斜度	備考
1		2区西区	1	A	1	90.0	11.5		
2	12	2区西区	1	A	2	32.0	3.0	38°	
3	12	2区西区	1	A	3	50.0	4.0	17°	4片
4	12	2区西区	1	A	4	32.0	14.0	22°	
5	12	2区西区	1	A	5	58.0	6.5	68°	14片
6		2区西区	1	A	6	12.0	7.5		2片
7		2区西区	1	A	7	9.0	4.5		
8	12	2区西区	1	A	8	13.0	5.0	59°	
9		2区西区	1	A	9	40.0	4.5		3片
10	12	2区西区	1	A	10	46.0	6.0	58°	
11	12	2区西区	1	A	11	58.0	4.5	76°	
12	12	2区西区	1	A	12	28.0	6.0	87°	2片
13	12	2区西区	1	A	13	15.0	3.5	58°	
14	12	2区西区	1	A	14	27.0	5.5	54°	
15	12	2区西区	1	A	15	79.0	9.0	32°	
16	12	2区西区	1	A	16	67.0	6.0	40°	
17	12	2区西区	1	A	17	67.0	6.0	54°	
18	12	2区西区	1	A	18	19.0	3.5	66°	
19		2区西区	1	A	19	11.5	3.0		
20		2区西区	1	A	20	35.0	4.0		4片
21		2区西区	1	A	21	34.0	4.5		3片
22		2区西区	1	A	22	23.0	6.0		2片
23		2区西区	1	B	23	38.0	5.5		2片
24		2区西区	1	A	24	—	4.5		4片
25		2区西区	1	A	25	49.0	9.0		4片
26	12	2区西区	1	A	26	19.0	6.0	54°	2片
27	12	2区西区	1	A	27	97.0	7.0		3片
28	12	2区西区	1	A	28	45.0	4.5	70°	2片
29		2区西区	1	A	29	—	7.5		13片
30	12	2区西区	1	A	30	22.0	5.5	54°	
31		2区西区	1	A	31	22.0	4.5		第12図1
32		2区西区	1	A	32	31.0	4.0		第12図2
33		2区西区	1	A	33	17.0	3.0		
34		2区西区	1	A	34	27.0	4.0		2片
35		2区西区	1	A	35	—	5.0		3片
36		2区西区	1	A	36	11.0	4.5		
37		2区西区	1	A	37	16.0	5.0		
38		2区西区	1	A	38	—	3.5		5片
39		2区西区	1	A	39	10.5	5.0		
40		2区西区	1		40	125.0	6.5	15°	
41		2区西区	1		41	—	4.5		4片
42	13	2区西区	1	B	42	56.5	6.0	13°	
43	13	2区西区	1	B	43	49.0	6.5	75°	
44	13	2区西区	1	B	44	64.0	8.0	58°	
45	13	2区西区	1	B	45	90.0	6.0	33°	
46	13	2区西区	1	B	46	83.0	8.0	20°	
47	13	2区西区	1	B	47	89.5	11.0	15°	
48	13	2区西区	1	B	48	100.0	8.5	41°	
49	13	2区西区	1	B	49	92.0	8.0	33°	
50	13	2区西区	1	B	50	90.0	9.0	12°	
51	13	2区西区	1	B	51	17.5	4.0	42°	
52	13	2区西区	1	B	52	103.0	11.5	23°	
53	13	2区西区	1	B	53	22.5	8.0		
54	13	2区西区	1	B	54	90.0	8.0	22°	
55	13	2区西区	1	B	55	125.0	9.0	33°	
56		2区西区	1	B	56	116.0	5.0		
57	14	2区西区	1	C	57	18.0	2.5		3片
58	14	2区西区	1	C	58	—	2.5		3片
59		2区西区	1		59	—	2.5		3片
60		2区西区	1	C	60	—	2.0		4片
61		2区西区	1	C	61	—	3.5		3片
62		2区西区	1	C	62	24.0	3.5		2片
63		2区西区	1	C	63	47.0	3.0		
64	14	2区西区	1	C	64	49.0	4.0	83°	
65	14	2区西区	1	C	65	30.0	6.5	57°	
66	14	2区西区	1	C	66	33.0	4.5	70°	
67	14	2区西区	1	C	67	63.0	5.0	57°	

通番	挿図 番号	区	面	杭列	杭番	長さcm	幅cm	傾斜度	備考
68	14	2区西区	1	C	68	43.0	5.0	15°	
69	14	2区西区	1	C	69	50.0	5.0	65°	
70	14	2区西区	1	C	70	50.0	5.0	79°	
71	14	2区西区	1	C	71	48.0	5.0	86°	
72	14	2区西区	1	C	72	54.0	7.0	67°	
73		2区西区	1		73	40.0	5.0	66°	2片
74		2区西区	1		74	45.0	6.5	77°	
75		2区西区	1		75	55.0	7.0	85°	
76		2区西区	1		76	66.0	5.0	83°	
77		2区西区	1		77	61.0	4.5	67°	
78		2区西区	1		78	24.0	7.0	78°	
79		2区東区	1		80	14.0	4.0		
80		2区東区	1		82	23.0	3.0		
81		2区東区	1		83	9.0	8.5		
82		2区東区	1		84	34.0	5.5		
83		2区東区	1		85	—	3.0		5片
84		2区東区	1		86	42.0	3.5		
85		2区東区	1		87	4.0	5.0		2片
86		2区東区	1	D	88	42.0	5.5		
87		2区東区	1	D	89	28.0	4.0		
88		2区東区	1	D	90	50.0	7.0		
89		2区東区	1	D	91	42.0	6.0		
90		2区東区	1		92	50.0	6.0		
91		2区東区	1		94	24.0	3.5		
92		2区東区	1		95	20.0	7.0		
93		2区東区	1		96	16.0	3.0		
94		2区東区	1		97	25.0	4.5		
95		2区東区	1		98	28.0	3.0		
96		2区東区	1		99	21.0	3.5		
97		2区東区	1		100	19.0	4.5		
98		2区東区	1		101	22.0	3.5		
99		2区東区	1		102	10.0	4.5		
100		2区東区	1		103	19.0	2.5		
101		2区東区	1		104	25.0	4.5		
102		2区東区	1		105	—	5.0		4片
103		2区東区	1		107	—	2.5		3片
104		2区東区	1		108	—	2.0		3片
105		2区東区	1		109	18.0	3.0		
106		2区東区	1		110	43.0	4.5	80°	
107		2区東区	1		111	25.0	3.0	85°	
108		2区東区	1	D	112	16.0	3.5		
109	16	2区東区	1	D	113	40.0	5.0	72°	
110		2区東区	1	D	114	—	4.5		4片
111		2区東区	1	D	115	19.0	4.5		
112		2区東区	1	D	116	25.0	6.0		
113		2区東区	1		117	23.5	3.5		
114		2区東区	1		118	—	2.5		3片
115		2区東区	1		119	20.0	5.0		
116		2区東区	1	D	120	12.0	5.0		
117		2区東区	1	D	121	16.0	2.0		
118		2区東区	1	D	122	66.0	7.0		
119		2区東区	1	D	123	81.5	7.0		
120		2区東区	1	D	124	—	1.5		4片
121		2区東区	1	D	125	16.0	1.5		
122		2区東区	1	D	126	13.0	5.0		
123		2区東区	1	D	127	24.0	4.0		
124		2区東区	1	D	128	—	4.0		5片
125		2区東区	1	D	129	42.0	5.0		2片
126		2区東区	1	D	130	—	2.0		2片
127		2区東区	1	D	131	15.0	3.5		
128		2区東区	1	D	132	12.5	5.0		
129		2区東区	1	D	133	9.0	3.5		
130		2区東区	1	D	134	—	4.0		3片
131		2区東区	1	D	135	11.5	2.0		
132		2区東区	1	D	136	11.0	3.0		
133		2区東区	1	D	137	55.0	5.0		
134		2区東区	1	D	138	—	4.0		2片

第4表 水田出土木杭一覧表

通番	挿図番号	区	面	杭列	杭番	長さcm	幅cm	傾斜度	備考
135		2区東区	1		139	—	3.5		4片
136		2区東区	1		140	18.5	4.5		
137		2区東区	1		141	7.5	3.5		
138	16	2区東区	1	D	142	44.0	6.0	67°	
139	16	2区東区	1	D	143	21.0	7.0	46°	
140	16	2区東区	1	D	144	40.0	7.0	55°	
141	16	2区東区	1	D	145	55.0	5.5	59°	
142		2区東区	1		150	15.5	3.0		
143		3区	1	3-1	2	35.0	4.0		
144		3区	1	3-1	3	40.0	5.0		
145		3区	1	3-1	4	42.0	3.5		
146		3区	1	3-1	5	59.0	5.0		
147		3区	1	3-1	6	39.0	4.0		
148		3区	1	3-1	7	16.0	4.0		
149		3区	1	3-1	8	52.0	5.0		
150		3区	1	3-1	9	30.0	10.5		
151		3区	1	3-1	10	28.0	3.5		
152		3区	1	3-1	11	76.0	5.0		
153		3区	1	3-1	12	20.0	5.5		6片
154		3区	1	3-1	13	6.0	4.0		5片
155		3区	1	3-1	14	55.0	5.0		2片
156		3区	1	3-1	15	12.0	3.5		2片
157		3区	1	3-1	16	9.0	3.0		
158		3区	1	3-1	17	21.0	3.5		8片
159		3区	1	3-1	18	25.5	8.5		建築部材
160		3区	1	3-1	19	66.0	3.5		
161		3区	1	3-1	20	11.0	2.5		2片
162		3区	1	3-1	21	24.0	4.0		
163		3区	1	3-1	22	103.0	13.0		建築部材
164	20	3区	1	3-1	23	81.0	8.0	48°	
165	20	3区	1	3-1	24	77.0	9.0	79°	
166	20	3区	1	3-1	25	85.0	9.5	58°	
167	20	3区	1	3-1	26	42.0	4.5	59°	
168	20	3区	1	3-1	27	47.0	7.5	68°	
169	21	3区	1	3-1	28	71.0	6.0	71°	
170	21	3区	1	3-1	29	113.0	5.5	75°	
171	21	3区	1	3-1	30	48.0	8.0	64°	8片
172	21	3区	1	3-1	31	70.0	4.0	66°	
173	20	3区	1	3-1	32	78.0	9.5	76°	2片
174	21	3区	1	3-1	33	87.0	8.0	72°	
175	21	3区	1	3-1	34	54.0	5.5	68°	
176	21	3区	1	3-1	35	68.0	8.5	70°	
177	21	3区	1	3-1	36	64.0	5.0	77°	
178	21	3区	1	3-1	37	76.0	7.5	80°	
179	21	3区	1	3-1	38	70.0	5.5	39°	
180	21	3区	1	3-1	39	83.0	5.5	51°	
181	21	3区	1	3-1	40	72.0	5.5	49°	
182	21	3区	1	3-1	41	85.0	6.0	37°	
183	21	3区	1	3-1	42	72.0	5.5	64°	
184	21	3区	1	3-1	43	56.0	7.0	72°	
185	21	3区	1	3-1	44	113.0	7.0	63°	4片
186	21	3区	1	3-1	45	35.0	4.0	67°	
187	21	3区	1	3-1	46	40.0	6.0	77°	
188		3区	1	3-1	47	85.0	5.0		
189		3区	1	3-1	48	71.0	4.0		
190	21	3区	1	3-1	49	79.0	6.0	65°	
191	21	3区	1	3-1	50	69.0	6.0	52°	
192		3区	1	3-1	51	15.0	11.0		
193	20	3区	1	3-1	52	65.0	9.0	23°	
194	20	3区	1	3-1	53	69.0	5.0	12°	
195	20	3区	1	3-1	54	70.0	7.5	28°	
196	20	3区	1	3-1	55	68.0	6.5	52°	
197	20	3区	1	3-1	56	79.0	6.5	51°	
198	21	3区	1	3-1	57	51.0	7.0	69°	
199	21	3区	1	3-1	58	98.0	7.5	84°	
200	21	3区	1	3-1	59	99.0	8.5	72°	
201	21	3区	1	3-1	60	68.0	9.0	79°	
202	21	3区	1	3-1	61	86.0	9.0	83°	4片
203		3区	1	3-1	62	16.0	9.0		

通番	挿図番号	区	面	杭列	杭番	長さcm	幅cm	傾斜度	備考
204		3区	1	3-1	63	13.0	4.0		
205		3区	1	3-1	64	54.0	6.0		
206	20	3区	1	3-1	65	82.0	7.0	48°	
207		3区	1	3-1	66	29.0	6.0		
208	20	3区	1	3-1	67	84.0	5.5	29°	
209	20	3区	1	3-1	68	68.0	7.5	26°	2片
210	20	3区	1	3-1	69	62.0	5.0	26°	
211		3区	1	3-1	70	9.0	5.5		
212		3区	1	3-1	71	99.0	6.0		
213		3区	1	3-1	72	97.0	6.0		
214		3区	1	3-1	73	104.0	7.5		
215		3区	1	3-1	74	38.0	7.0		
216		3区	1	3-1	75	41.0	6.5		
217		3区	1	3-1	76	58.0	5.5		
218		3区	1	3-1	77	73.0	5.5		
219		3区	1	3-1	78	44.0	5.0		3片
220		3区	1	3-1	79	62.0	4.5		
221		3区	1	3-1	80	62.0	6.5		
222		3区	1	3-1	81	67.0	6.0		
223		3区	1	3-1	82	64.0	5.5		
224		3区	1	3-1	83	96.0	7.0		
225		3区	1	3-1	84	81.0	5.0		
226		3区	1	3-1	85	86.0	6.0		
227		3区	1	3-1	86	83.0	7.5		
228		3区	1	3-1	87	69.0	5.0		
229		3区	1	3-1	88	79.0	7.0		
230		3区	1	3-1	89	68.0	5.5		
231		3区	1	3-1	90	69.0	4.5		
232		3区	1	3-1	91	72.0	6.5		
233		3区	1	3-1	92	77.0	6.0		
234		3区	1	3-1	93	94.0	8.5		
235		3区	1	3-1	94	46.0	6.0		
236		3区	1	3-1	95	16.0	4.0		
237		3区	1	3-1	96	109.0	6.0		
238		3区	1	3-1	97	42.0	5.0		第21図2
239		3区	1	3-1	98	82.0	6.0		2片
240		3区	1	3-1	99	64.0	5.5		
241		3区	1	3-1	100	46.0	5.5		4片
242		4区南区	1	4-南-1	1	54.0	4.0		第25図3
243		4区南区	1	4-南-1	2	—	2.5		15片
244		4区南区	1	4-南-1	3	59.0	5.0	26°	
245		4区南区	1	4-南-1	4	57.0	4.0	16°	11片
246		4区南区	1	4-南-1	5	190.5	11.0		長箱
247		4区南区	1	4-南-1	6	57.0	10.0	57°	
248		4区南区	1	4-南-1	7	26.0	5.5		第25図2
249	24	4区南区	1	4-南-1	8	115.0	9.0	42°	
250		4区南区	1	4-南-1	9	73.0	5.0	44°	第25図1
251	24	4区南区	1	4-南-1	10	71.0	5.5	50°	
252		4区南区	1	4-南-1	11	66.0	7.5		板
253		4区南区	1	4-南-1	12	56.0	4.0	8°	
254		4区南区	1	4-南-1	13	67.0	6.0	31°	
255		4区南区	1	4-南-1	14	21.0	4.0		2片
256		4区南区	1	4-南-1	15	19.5	2.5		
257		4区南区	1	4-南-1	16	61.0	6.0	75°	
258		4区南区	1	4-南-1	17	10.0	2.0		3片
259	24	4区南区	1	4-南-1	18	66.0	6.0	72°	
260		4区南区	1	4-南-1	19	73.0	4.5	71°	
261		4区南区	1	4-南-1	20	63.0	4.5	21°	
262		4区南区	1	4-南-1	21	46.0	4.5	78°	
263		4区南区	1	4-南-1	22	19.0	16.0		木端
264		4区南区	1	4-南-1	23	70.0	5.5	52°	
265	24	4区南区	1	4-南-1	24	73.0	5.0	33°	
266		4区南区	1	4-南-1	25	35.0	5.0		
267		4区南区	1	4-南-1	26	53.0	4.0		3片
268		4区南区	1	4-南-1	27	19.0	10.0		木端
269		4区南区	1	4-南-1	28	13.0	9.0		
270		4区南区	1	4-南-1	29	92.0	4.0		
271		4区南区	1	4-南-1	30	52.0	6.0		2片
272		4区南区	1	4-南-1	31	69.0	4.0		

第4章 調査成果の整理とまとめ

通番	挿図番号	区	面	杭列	杭番	長さcm	幅cm	傾斜度	備考
273		4区南区	1	4-南-1	32	19.0	6.0		板2片
274		4区南区	1	4-南-1	33	16.0	5.5		板
275		4区南区	1	4-南-1	34	22.0	4.5		
276		4区南区	1	4-南-1	35	33.0	3.5		2片
277		4区南区	1	4-南-1	36	11.0	9.0		木端
278		4区南区	1	4-南-1	37	15.0	1.5		2片
279		4区南区	1	4-南-1	38	76.0	5.5		4片
280		4区南区	1	4-南-1	39	144.0	5.0		
281	24	4区南区	1	4-南-1	40	110.5	5.5	83°	
282		4区南区	1	4-南-1	41	51.0	4.0		
283		4区南区	1	4-南-1	42	82.0	7.0		2片
284		4区南区	1	4-南-1	43	21.0	4.5		2片
285		4区南区	1	4-南-1	44	34.0	3.5		
286		4区南区	1	4-南-1	45	29.5	6.0		2片
287		4区南区	1	4-南-1	46	19.5	5.0		
288		4区南区	1	4-南-1	47	31.0	1.5		2片
289		4区南区	1	4-南-1	48	44.0	4.5		
290		4区南区	1	4-南-1	49	20.0	4.0		
291		4区南区	1	4-南-1	50	116.5	11.0		
292		4区南区	1	4-南-1	51	22.0	3.5		4片
293		4区南区	1	4-南-1	52	25.0	15.0		木端
294		4区南区	1	4-南-1	53	18.0	4.0		3片
295		4区南区	1	4-南-1	54	33.0	4.0		
296		4区南区	1	4-南-1	55	—	2.5		5片
297		4区南区	1	4-南-1	57	—	2.5		5片
298		4区南区	1	4-南-1	58	—	2.0		7片
299		4区南区	1	4-南-1	59	29.0	4.5		
300		4区南区	1	4-南-1	60	16.0	3.0		3片
301		4区南区	1	4-南-1	61	82.5	8.0	46°	
302	24	4区南区	1	4-南-1	62	47.0	4.0	68°	
303	24	4区南区	1	4-南-1	63	56.0	4.5	76°	
304		4区南区	1	4-南-1	64	—	3.0		6片
305		4区南区	1	4-南-1	65	102.0	7.0		2片
306		4区南区	1	4-南-1	66	—	2.0		8片
307		4区南区	1	4-南-1	67	52.0	5.5		
308		4区南区	1	4-南-1	68	17.5	5.5		建築部材
309		4区南区	1	4-南-1	69	14.0	7.5		木端
310		4区中区	1		7	31.0	4.0		割材
311		4区中区	1		8	12.0	1.0		木端
312		4区中区	1		10	56.0	4.0		割材
313		4区中区	1		12	46.0	5.0		割材
314		4区中区	1		13	81.0	7.0		割材
315		4区中区	1		14	46.0	8.0		割材
316		4区中区	1		15	19.0	6.0	10°	破片
317		4区中区	1		16	46.0	6.0		角材
318		4区中区	1		17	47.0	6.0		割材
319		4区中区	1		18	46.0	5.0		割材
320		4区中区	1		19	40.0	5.0		割材
321		4区中区	1		20	3.0	2.0		木端
322		4区中区	1		21	35.0	4.0		割材
323		4区中区	1		22	18.0	10.0	66°	板材転用
324		4区中区	1		23	15.0	11.0		建築部材
325		4区中区	1		24	21.0	6.0		丸材
326		4区中区	1		25	13.0	9.0		曲物底板
327		4区中区	1		35	18.0	4.0		木端
328		4区中区	1		36	21.0	1.0		枝材
329		4区中区	1		37	13.0	10.0		枝材
330		4区中区	1		38	39.0	4.0		割材
331		4区中区	1		39	16.0	5.0	12°	板材転用
332		4区中区	1		40	22.0	5.0		割材
333		4区中区	1		52	61.0	6.0	73°	割材
334		4区中区	1		53	43.0	7.0	76°	割材
335		4区中区	1		54	77.0	3.0		割材
336		4区中区	1		55	37.0	6.0		割材、横架
337		4区中区	1		56	39.0	5.0	79°	
338		4区中区	1		57	11.0	3.0		木端
339		4区中区	1		58	59.0	4.0	86°	丸材
340		4区中区	1		59	35.0	6.0	6°	樹皮
341		4区中区	1		60	50.0	6.0	80°	割材

通番	挿図番号	区	面	杭列	杭番	長さcm	幅cm	傾斜度	備考
342		4区中区	1		61	88.0	5.0	20°	割材
343		4区中区	1		62	87.0	6.0	10°	割材
344		4区中区	1		75	15.0	2.0		枝材
345		4区中区	1		83	27.0	5.0	0°	割材
346		4区中区	1		86	43.0	4.0		割材
347		4区中区	1		88	74.0	6.0		割材
348		4区中区	1		89	83.0	5.0	89°	割材
349		4区中区	1		90	10.0	3.0	4°	木端
350		4区中区	1		91	60.0	8.0		丸材
351		4区中区	1		92	24.0	3.0		木端
352		4区中区	1		93	71.0	6.0		割材
353		4区中区	1		94	80.0	6.0		丸材
354		4区中区	1		95	27.0	5.0		板材転用
355		4区中区	1		96	78.0	6.0		割材
356		4区中区	1		97	73.0	3.0		枝材
357		4区中区	1		98	42.0	4.0		角材?
358		4区中区	1		99	48.0	5.0	6°	割材
359		4区中区	1		100	43.0	5.0		割材
360		4区中区	1		101	13.0	4.0		枝材
361		4区中区	1		102	15.0	2.0		枝材
362		4区中区	1		103	18.0	1.0		枝材
363		4区中区	1		104	10.0	1.0		枝材
364		4区中区	1		105	75.0	7.0		割材
365		4区中区	1		106	75.0	5.0		割材
366		4区中区	1		107	71.0	5.0		角杭
367		4区中区	1		108	50.0	6.0		割材
368		4区中区	1		109	23.0	4.0	84°	破片?
369		4区中区	1		125	115.0	8.0	9°	角材
370		4区中区	1		126	36.0	5.0	5°	割材、横架
371		4区中区	1		127	75.0	6.0	78°	割材
372		4区中区	1		128	42.0	5.0	15°	割材
373		4区中区	1		129	7.0	2.0		木端樹皮?
374		4区中区	1		130	99.0	7.0	5°	角材、横架
375		4区中区	1		131	101.0	9.0	90°	割材
376		4区中区	1		132	79.0	5.0		板材転用
377		4区中区	1		133	112.0	7.0		割材
378		4区中区	1		134	70.0	4.0	90°	割材
379		4区中区	1		135	65.0	5.0		割材
380		4区中区	1		137	96.0	6.0	7°	割材
381		4区中区	1		138	22.0	6.0		樹皮
382		4区中区	1		139	100.0	7.0		丸材
383		4区中区	1		140	70.0	4.0	8°	枝材
384		4区中区	1		141	83.0	7.0	11°	丸材
385		4区中区	1		142	84.0	6.0		割材
386		4区中区	1		143	73.0	7.0		割材
387		4区中区	1		144	87.0	6.0		割材
388		4区中区	1		146	39.0	6.0		割材
389		4区中区	1		147	9.0	4.0		割材
390		4区中区	1		148	26.0	2.0		枝材
391		4区中区	1		149	97.0	5.0		割材
392		4区中区	1		150	36.0	5.0		割材
393		4区中区	1		151	37.0	3.0		割材
394		4区中区	1		152	62.0	7.0		割材
395		4区中区	1		153	75.0	4.0		割材
396		4区中区	1		154	58.0	2.0		枝材
397		4区中区	1		155	35.0	14.0		桶底板、第26図2
398		4区中区	1		157	85.0	6.0	6°	割材
399		4区中区	1		164	26.0	4.0		丸材
400		4区中区	1		165	147.0	10.0	2°	丸材
401		4区中区	1		175	66.0	9.0	87°	割材
402		4区中区	1		177	61.0	5.0		割材
403		4区中区	1		178	39.0	6.0	11°	割材
404		4区中区	1		179	27.0	2.0	5°	樹皮
405		4区中区	1		180	9.0	5.0		木端
406		4区中区	1		181	23.0	2.0		枝材
407		4区中区	1		183	7.0	2.0		枝材
408		4区中区	1		184	10.0	5.0		木端
409		4区中区	1		185	7.0	2.0		枝材

第4表 水田出土木杭一覧表

通番	挿図番号	区	面	杭列	杭番	長さcm	幅cm	傾斜度	備考
410		4区中区	1		186	36.0	4.0	8°	割材
411		4区中区	1		187	60.0	6.0		割材
412		4区北区	1		1	37.0	9.0		
413		4区北区	1		2	54.0	3.5		
414		4区北区	1	B	3	7.0	4.0		木端
415		4区北区	1	B	4	52.0	7.0		
416		4区北区	1	B	5	19.0	4.0		6片
417		4区北区	1	B	6	42.0	3.0		
418		4区北区	1	B	7	14.0	2.0		2片
419	36	4区北区	1	B	8	65.0	6.0	62°	2片
420	36	4区北区	1	B	9	102.0	6.0	52°	2片
421	36	4区北区	1	B	10	98.0	6.5	48°	
422		4区北区	1	B	11	38.0	6.0		
423	36	4区北区	1	B	12	94.0	5.0	28°	2片
424		4区北区	1	B	13	23.0	4.5		2片
425	37	4区北区	1	B	14	77.0	6.5	68°	2片
426	37	4区北区	1	B	15	73.0	4.5	54°	
427	37	4区北区	1	B	16	89.0	5.5	48°	2片
428	37	4区北区	1	B	17	61.0	5.5	38°	
429	37	4区北区	1	B	18	89.0	6.0	51°	
430	37	4区北区	1	B	19	94.0	5.0	68°	
431	37	4区北区	1	B	20	61.0	6.5	61°	
432		4区北区	1	B	21	43.0	4.0		
433		4区北区	1	B	22	37.0	5.0		
434	38	4区北区	1	B	23	54.0	6.5	37°	
435		4区北区	1	B	24	33.0	3.5		
436		4区北区	1	B	25	45.0	3.5	58°	
437		4区北区	1	B	26	43.0	5.5	55°	
438		4区北区	1	B	27	38.0	4.5	42°	
439		4区北区	1	B	28	58.0	5.0	44°	
440		4区北区	1	B	29	29.0	4.0		
441		4区北区	1	B	30	55.0	3.5		3片
442	37	4区北区	1	B	31	45.0	4.5	56°	4片
443	37	4区北区	1	B	32	56.0	5.5	56°	4片
444		4区北区	1	D	33	34.0	6.0		
445		4区北区	1	D	34	47.0	7.0	57°	
446	31	4区北区	1	D	35	67.0	5.0	30°	
447	31	4区北区	1	D	36	64.0	7.0	45°	
448		4区北区	1	D	37	18.0	4.0		
449	31	4区北区	1	D	38	90.0	8.0	27°	
450		4区北区	1	D	39	53.0	6.0		
451		4区北区	1	D	40	56.0	5.0		
452	30	4区北区	1	D	41	67.0	3.5	51°	3片
453		4区北区	1	D	42	20.0	7.0		
454	30	4区北区	1	D	43	27.0	6.0	42°	2片
455		4区北区	1	D	44	20.0	3.0		2片
456		4区北区	1	D	45	43.0	3.0		
457		4区北区	1	D	46	17.0	4.5		4片
458		4区北区	1	D	47	37.0	6.0		
459		4区北区	1	D	48	20.0	3.0		
460	30	4区北区	1	D	49	51.0	7.0	44°	
461		4区北区	1	D	50	96.0	5.0		
462	30	4区北区	1	D	51	29.0	4.5	34°	
463	30	4区北区	1	D	52	30.0	3.5	60°	2片
464		4区北区	1	D	53	38.0	5.0		
465		4区北区	1	D	54	15.0	3.0		3片
466		4区北区	1	D	55	66.0	7.5		
467		4区北区	1	D	56	50.0	5.0		2片
468	30	4区北区	1	D	57	40.0	5.0	66°	
469	30	4区北区	1	D	58	84.0	7.5	75°	
470	30	4区北区	1	D	59	60.0	7.0	52°	
471	30	4区北区	1	D	60	62.5	5.0	54°	
472		4区北区	1	D	61	19.0	2.5		
473	30	4区北区	1	D	62	64.5	7.0	64°	3片
474		4区北区	1	D	63	34.0	6.5		2片
475		4区北区	1	D	64	16.5	4.5		
476	30	4区北区	1	D	65	39.0	5.5	44°	2片
477		4区北区	1	D	66	67.0	6.0		
478		4区北区	1	D	67	49.0	5.0		

通番	挿図番号	区	面	杭列	杭番	長さcm	幅cm	傾斜度	備考
479	30	4区北区	1	D	68	51.0	6.0	70°	
480	30	4区北区	1	D	69	37.0	4.5	59°	
481		4区北区	1	D	70	—	7.5		21片
482		4区北区	1	D	71	14.0	7.0		板材転用
483		4区北区	1	D	72	22.0	8.0		板材転用
484	30	4区北区	1	D	73	54.0	6.0	25°	
485	30	4区北区	1	D	74	44.0	6.0	50°	
486	30	4区北区	1	D	75	32.0	7.0	34°	
487		4区北区	1	D	76	19.0	4.0		5片
488	29	4区北区	1	E	77	55.0	5.5	23°	
489	29	4区北区	1	E	78	42.5	5.5	76°	2片
490	29	4区北区	1	E	79	51.0	4.0	16°	
491		4区北区	1	E	80	54.5	5.5		2片
492		4区北区	1	E	81	77.0	5.5		
493		4区北区	1	E	82	58.5	3.5		
494	29	4区北区	1	E	83	77.0	3.5	67°	
495	29	4区北区	1	E	84	80.0	5.5	21°	
496	29	4区北区	1	E	85	65.5	6.0	9°	
497	29	4区北区	1	E	86	65.0	5.5	7°	
498		4区北区	1	E	87	30.0	4.5		
499	29	4区北区	1	E	88	98.0	5.5	76°	2片
500	29	4区北区	1	E	89	62.0	7.5	17°	
501	29	4区北区	1	E	90	75.0	5.0	68°	
502		4区北区	1	E	91	77.0	8.0		
503	29	4区北区	1	E	92	74.5	6.0	30°	
504	29	4区北区	1	E	93	76.0	6.0	34°	
505	29	4区北区	1	E	94	48.0	6.0	76°	
506	35	4区北区	1	C	95	70.5	4.5	69°	
507	35	4区北区	1	C	96	72.0	5.0	61°	
508	35	4区北区	1	C	97	81.0	5.5	69°	
509	35	4区北区	1	C	98	52.0	7.0	61°	
510		4区北区	1	C	99	40.0	6.0		3片
511		4区北区	1		100	39.0	7.0	66°	
512		4区北区	1	B	101	42.0	3.5	59°	
513	35	4区北区	1	C	102	97.0	7.0	40°	
514	35	4区北区	1	C	103	—	6.0	44°	2片
515	35	4区北区	1	C	104	100.0	7.5	46°	
516		4区北区	1	C	105	93.0	5.0		長箱
517	35	4区北区	1	C	106	84.5	5.5	59°	
518		4区北区	1	C	107	16.0	3.5		2片
519		4区北区	1	C	108	—	6.5		7片
520	35	4区北区	1	C	109	66.5	8.0	52°	2片
521	35	4区北区	1	C	110	83.0	3.5	53°	2片
522	35	4区北区	1	C	111	98.0	5.5	41°	2片
523	35	4区北区	1	C	112	60.0	4.5	57°	2片
524		4区北区	1	D	113	33.0	7.0		2片
525		4区北区	1	D	114	—	5.0		21片
526		4区北区	1	D	115	13.5	1.5		2片
527		4区北区	1	D	116	14.0	4.0		3片
528	31	4区北区	1	D	117	69.0	4.5	53°	
529	34	4区北区	1	A	118	50.5	5.5	63°	2片
530	34	4区北区	1	A	119	61.0	7.0	67°	2片
531	34	4区北区	1	A	120	54.0	7.0	76°	
532	34	4区北区	1	A	121	35.0	5.0	80°	
533	34	4区北区	1	A	122	56.0	6.5	54°	2片
534	34	4区北区	1	A	123	43.5	5.5	56°	
535	34	4区北区	1	A	124	74.0	6.5	86°	
536	34	4区北区	1	A	125	33.0	3.5	89°	
537	34	4区北区	1	A	126	50.0	7.0	68°	
538		4区北区	1	A	127	37.0	4.5	52°	
539	34	4区北区	1	A	128	73.0	8.0	76°	3片
540		4区北区	1	A	129	32.0	5.5		
541		4区北区	1	A	130	22.0	8.5		
542	34	4区北区	1	A	131	69.0	8.0	68°	
543	34	4区北区	1	A	132	35.0	7.5	44°	
544		4区北区	1	A	133	42.0	6.5		
545	34	4区北区	1	A	134	80.0	5.5	40°	
546		4区北区	1	A	135	34.0	6.5		
547		4区北区	1	A	136	22.0	4.0		

第4章 調査成果の整理とまとめ

通番	挿図番号	区	面	杭列	杭番	長さcm	幅cm	傾斜度	備考
548	34	4区北区	1	A	137	76.0	5.0	59°	
549	34	4区北区	1	A	138	73.0	7.5	64°	2片
550		4区北区	1	A	140	81.0	5.0		
551		4区北区	1	A	141	28.0	2.0		3片
552		4区北区	1	A	142	83.0	5.5		
553		4区北区	1	A	143	30.0	3.5		3片
554		4区北区	1	A	144	44.0	4.5		
555	33	4区北区	1	A	145	52.0	5.0	87°	
556		4区北区	1	A	146	38.0	11.0		
557	33	4区北区	1	A	147	45.0	5.5	63°	
558	33	4区北区	1	A	148	44.0	6.0	58°	
559	33	4区北区	1	A	149	52.0	6.5	50°	
560	33	4区北区	1	A	150	46.0	5.5	27°	
561	33	4区北区	1	A	151	23.0	4.5	45°	
562	33	4区北区	1	A	152	63.0	4.5	57°	
563		4区北区	1	A	153	38.0	8.0		
564		4区北区	1	A	154	45.0	5.5		
565	32	4区北区	1	A	155	65.0	8.5	49°	
566	32	4区北区	1	A	156	61.0	7.0	65°	
567	32	4区北区	1	A	157	52.0	6.5	85°	
568	32	4区北区	1	A	158	62.0	7.0	85°	
569		4区北区	1	A	159	36.0	7.5		2片
570		4区北区	1	A	160	49.0	4.5		
571	32	4区北区	1	A	161	33.0	4.0	67°	
572		4区北区	1	A	162	26.0	6.0		
573	32	4区北区	1	A	163	33.0	4.5	56°	
574	32	4区北区	1	A	164	68.0	6.0	74°	
575	32	4区北区	1	A	165	70.0	7.0	85°	
576	32	4区北区	1	A	166	51.0	6.0	71°	
577		4区北区	1	A	167	33.0	3.5		
578		4区北区	1	A	168	26.0	3.0		
579		4区北区	1	A	169	42.0	4.0		
580	32	4区北区	1	A	170	47.0	7.0	62°	
581	32	4区北区	1	A	171	83.0	7.0	75°	
582	32	4区北区	1	A	172	40.0	7.0	59°	
583	32	4区北区	1	A	173	33.0	4.0	62°	
584	32	4区北区	1	A	174	32.0	6.5	63°	2片
585		4区北区	1		175	39.0	5.5	66°	
586		4区北区	1		176	62.0	3.0		
587		4区北区	1		177	73.0	6.5	66°	
588		4区北区	1		178	67.0	6.0	86°	
589	33	4区北区	1	A	179	50.0	6.5	60°	
590	33	4区北区	1	A	180	50.0	5.0	88°	
591	33	4区北区	1	A	181	39.0	5.5	81°	
592	33	4区北区	1	A	182	28.0	4.0	65°	
593	33	4区北区	1	A	183	43.0	7.0	76°	
594		4区北区	1	A	184	47.0	6.5		
595		4区北区	1	A	185	26.0	2.5		
596		4区北区	1	A	186	37.0	8.5		板材転用、 2片
597		4区北区	1	A	187	19.0	7.5		
598		4区北区	1	A	188	33.0	6.0		
599		4区北区	1	A	189	24.0	4.0		4片
600		4区北区	1	A	190	66.0	4.5		
601		4区北区	1	A	191	86.0	7.0		
602		4区北区	1	A	192	69.0	5.0		
603		4区北区	1	A	193	67.0	5.5		
604		4区北区	1	A	194	67.0	5.5		
605		4区北区	1	A	195	43.0	9.5		11片
606		4区北区	1	A	196	35.5	4.5		
607		4区北区	1	A	197	39.0	4.0		
608		4区北区	1	A	198	32.5	6.0		
609		4区北区	1	A	199	21.0	4.0		
610		4区北区	1	A	200	—	18.0		13片
611		4区北区	1	A	201	18.0	6.0		2片
612		4区北区	1	A	202	—	7.0		4片
613		4区北区	1	A	203	68.0	6.5		3片
614		4区北区	1	A	204	19.0	4.5		3片
615		4区北区	1	A	205	—	5.0		9片

通番	挿図番号	区	面	杭列	杭番	長さcm	幅cm	傾斜度	備考
616		4区北区	1	A	206	33.0	4.5		
617		4区北区	1	A	207	46.0	8.5		7片
618		4区北区	1	A	208	32.0	4.5		2片
619		4区北区	1	A	209	29.0	6.0		2片
620	38	4区北区	1	B	210	41.0	6.0	41°	
621		4区北区	1	B	211	19.0	5.0		
622		4区北区	1	B	212	23.0	3.0		
623		4区北区	1	B	213	44.0	3.0		
624		4区北区	1	B	214	26.0	3.0		
625		4区北区	1	B	215	27.0	4.0		
626	38	4区北区	1	B	216	43.0	4.0	81°	
627	38	4区北区	1	B	217	23.0	3.0	33°	
628	38	4区北区	1	B	218	34.0	3.0	41°	
629		4区北区	1	B	219	28.0	3.0		
630	38	4区北区	1	B	220	66.0	5.5	39°	
631		4区北区	1	B	221	18.0	5.0		
632		4区北区	1	B	222	21.0	3.0		3片
633		4区北区	1	B	223	16.5	3.5		
634	38	4区北区	1	B	224	60.0	6.0	49°	
635	38	4区北区	1	B	225	50.0	6.0	84°	
636	38	4区北区	1	B	226	43.0	4.0	90°	
637		4区北区	1	B	227	16.0	3.0		2片
638	38	4区北区	1	B	228	50.0	4.0	54°	
639	38	4区北区	1	B	229	39.0	4.5	33°	
640	38	4区北区	1	B	230	33.0	5.5	48°	
641	38	4区北区	1	B	231	43.0	5.0	64°	
642	37	4区北区	1	B	232	41.0	4.0	58°	
643		4区北区	1	B	233	25.0	3.5		
644	37	4区北区	1	B	234	51.0	6.0	68°	
645		4区北区	1	B	235	31.0	4.0		
646	37	4区北区	1	B	237	43.0	6.0	65°	
647		4区北区	1	B	238	30.0	4.0		
648		4区北区	1	B	239	26.0	3.0		
649	37	4区北区	1	B	240	36.0	5.0	73°	
650		4区北区	1	B	241	35.0	4.0		2片
651		4区北区	1	B	242	21.0	3.5		
652	37	4区北区	1	B	243	42.0	4.5	79°	
653	37	4区北区	1	B	244	18.5	2.0	86°	
654		4区北区	1	B	245	29.0	3.5		
655		4区北区	1	B	246	26.0	3.0		
656		4区北区	1	B	247	21.0	1.5		
657	37	4区北区	1	B	248	47.0	4.0	70°	
658		4区北区	1	B	249	35.0	4.5		
659	37	4区北区	1	B	250	37.0	5.0	41°	
660	37	4区北区	1	B	251	75.0	5.0	47°	
661		4区北区	1	B	252	23.0	3.0		3片
662	36	4区北区	1	B	253	59.0	11.0	56°	
663	36	4区北区	1	B	254	22.0	3.5	51°	
664		4区北区	1	B	255	41.0	6.5		
665	36	4区北区	1	B	256	43.0	4.5	41°	
666	36	4区北区	1	B	257	54.0	6.0	45°	
667		4区北区	1	B	258	24.5	4.5		
668	36	4区北区	1	B	259	95.0	3.5	49°	
669	36	4区北区	1	B	260	67.0	5.5	76°	
670	36	4区北区	1	B	261	69.0	6.5	60°	
671		4区北区	1	B	262	38.0	3.5		
672		4区北区	1	B	263	21.0	2.0		
673		4区北区	1	B	265	26.0	4.0	73°	
674		4区北区	1	B	266	31.0	6.0	73°	
675	34	4区北区	1	A	267	35.0	5.5	61°	
676	34	4区北区	1	A	268	33.0	4.0	85°	2片
677	34	4区北区	1	A	269	36.0	6.0	74°	
678	34	4区北区	1	A	270	40.0	5.0	68°	
679	34	4区北区	1	A	271	43.0	4.5	80°	
680	34	4区北区	1	A	272	56.0	5.0	70°	
681	34	4区北区	1	A	273	27.0	5.0	71°	
682	34	4区北区	1	A	274	43.0	6.0	62°	
683	34	4区北区	1	A	275	45.0	6.0	63°	
684		4区北区	1	A	276	30.0	3.0		2片

第4表 水田出土木杭一覧表

通番	挿図番号	区	面	杭列	杭番	長さcm	幅cm	傾斜度	備考
685	34	4区北区	1	A	277	47.0	6.5	73°	
686		4区北区	1	A	278	31.0	3.0		
687		4区北区	1	A	279	37.0	3.5		
688	33	4区北区	1	A	280	57.0	4.5	55°	
689		4区北区	1	A	281	26.0	7.5		
690		4区北区	1	A	282	44.0	6.5		
691		4区北区	1	A	283	42.0	7.0		
692		4区北区	1	A	284	50.0	5.5		
693		4区北区	1	A	285	65.0	7.0		
694		4区北区	1	A	286	18.0	5.0		5片
695		4区北区	1	A	287	74.0	7.0		
696		4区北区	1	A	288	21.0	4.0		
697		4区北区	1	A	289	38.0	5.5		
698		4区北区	1	A	290	37.0	6.5		
699		4区北区	1	A	291	36.0	3.5		
700		4区北区	1	A	292	40.0	6.5		3片
701		4区北区	1	A	293	47.0	6.0		
702		4区北区	1	A	294	47.0	9.0		
703		4区北区	1	A	295	65.0	5.5		
704		4区北区	1	A	296	43.0	6.0		
705		4区北区	1	A	297	48.0	4.0		
706		4区北区	1	A	298	62.0	5.0		
707		4区北区	1	A	299	33.0	8.0		2片
708		4区北区	1	A	300	27.0	6.0		
709		4区北区	1	A	301	77.0	9.0		
710	32	4区北区	1	A	302	54.0	6.0	77°	
711	32	4区北区	1	A	303	42.0	5.0	81°	
712		4区北区	1	A	304	35.0	5.0		
713	32	4区北区	1	A	305	29.0	3.0	56°	
714	32	4区北区	1	A	306	30.0	4.0	64°	
715	32	4区北区	1	A	307	60.0	4.0	70°	
716		4区北区	1	A	308	18.0	4.0		
717		4区北区	1	A	309	32.0	5.5		
718		4区北区	1	A	310	87.0	4.5		
719		4区北区	1	A	311	49.0	6.5		
720		4区北区	1		312	48.0	5.0	67°	
721		4区北区	1		313	66.0	8.0	65°	
722		4区北区	1		314	67.0	5.0	64°	
723		4区北区	1		315	23.0	5.5	77°	
724		4区北区	1		316	45.0	6.0	46°	
725		4区北区	1	D	317	32.0	9.0	67°	
726		4区北区	1	D	318	26.0	6.0	83°	
727	31	4区北区	1	D	319	48.0	4.0	61°	2片
728	31	4区北区	1	D	320	26.0	5.0	62°	
729		4区北区	1	D	321	13.0	2.0		6片
730		4区北区	1	D	322	45.0	4.5		
731		4区北区	1	D	323	34.0	6.0		
732		4区北区	1	D	324	17.0	4.0		2片
733		4区北区	1	D	325	27.0	4.0		
734		4区北区	1	D	326	30.0	5.0		
735		4区北区	1	D	327	15.0	3.0		
736		4区北区	1	D	328	—	4.0		5片
737		4区北区	1	D	329	—	6.0		21片
738		4区北区	1	D	330	39.0	5.5		
739		4区北区	1	D	331	—	3.5		5片
740		4区北区	1	D	332	32.0	4.0		
741		4区北区	1	D	333	26.0	3.0		2片
742		4区北区	1	D	334	11.0	3.5		
743		4区北区	1	D	335	25.0	4.0		
744		4区北区	1	D	336	51.0	5.0		
745	31	4区北区	1	D	337	33.0	7.0	50°	
746		4区北区	1	D	338	30.0	5.0		
747		4区北区	1	D	339	38.0	3.5		
748	30	4区北区	1	D	340	54.0	4.0	64°	
749	30	4区北区	1	D	341	45.0	4.5	60°	
750		4区北区	1	D	342	16.0	3.0		
751		4区北区	1	D	343	38.0	3.5		
752		4区北区	1	D	344	36.0	4.0		
753		4区北区	1	D	345	27.0	3.5		

通番	挿図番号	区	面	杭列	杭番	長さcm	幅cm	傾斜度	備考
754		4区北区	1	D	346	26.0	6.0		
755	30	4区北区	1	D	347	53.0	6.5	34°	
756		4区北区	1	D	348	39.0	5.0		2片
757		4区北区	1	D	349	26.0	5.5		
758		4区北区	1	D	350	13.0	2.5		
759		4区北区	1	D	351	28.0	8.0		
760		4区北区	1	D	352	16.0	4.5		板材転用
761		4区北区	1	D	353	31.0	4.0		
762		4区北区	1	D	354	29.0	4.0		
763		4区北区	1	D	355	11.0	4.5		
764		4区北区	1	D	356	29.0	3.0		
765		4区北区	1	D	357	15.0	5.0		
766		4区北区	1	D	358	—	5.5		3片
767	30	4区北区	1	D	359	41.0	5.0	68°	
768		4区北区	1	A	360	49.0	8.0		板材転用、2片
769	33	4区北区	1	A	361	43.0	5.5	54°	
770	33	4区北区	1	A	362	45.0	6.0	90°	2片
771	33	4区北区	1	A	363	57.0	6.0	60°	
772	33	4区北区	1	A	364	51.0	5.0	87°	
773		4区北区	1	A	365	22.0	2.5		
774		4区北区	1	A	366	24.0	3.0		
775		4区北区	1	A	367	32.0	3.5		2片
776		4区北区	1	A	368	25.0	6.0		
777		4区北区	1	A	369	30.0	3.0		
778		4区北区	1	A	370	32.0	2.5		2片
779		4区北区	1	A	371	24.0	3.5		
780	33	4区北区	1	A	372	33.0	7.5	58°	
781	33	4区北区	1	A	373	25.0	6.0	38°	
782	33	4区北区	1	A	374	34.0	5.5	39°	
783		4区北区	1	A	375	23.0	4.0		
784		4区北区	1		381	27.0	3.0		
785		4区北区	1	B	382	37.0	5.5		
786		4区北区	1	B	383	43.0	8.5		
787	38	4区北区	1	B	384	34.0	4.0	77°	
788	38	4区北区	1	B	385	26.0	5.5	94°	4片
789	38	4区北区	1	B	386	45.0	5.0	84°	4片
790	38	4区北区	1	B	387	54.0	7.0	83°	
791	38	4区北区	1	B	388	39.0	4.5	88°	
792	38	4区北区	1	B	389	30.0	7.0	83°	2片
793		4区北区	1	B	390	24.0	4.0		
794		4区北区	1	B	391	35.0	4.5		
795	38	4区北区	1	B	392	34.0	7.5	68°	8片
796		4区北区	1	B	393	19.0	5.0		
797	38	4区北区	1	B	394	55.0	5.5	67°	
798		4区北区	1	B	395	20.0	5.0		
799		4区北区	1	B	396	27.0	4.5		
800	38	4区北区	1	B	397	20.0	4.5	59°	2片
801		4区北区	1	B	398	52.0	8.5	56°	
802		4区北区	1	B	399	9.0	4.5		2片
803		4区北区	1	B	400	42.0	6.5	84°	2片
804		4区北区	1	B	401	11.0	4.5		
805		4区北区	1	B	402	16.0	5.0		3片
806		4区北区	1	B	403	13.0	5.0		
807	38	4区北区	1	B	404	28.0	9.0	83°	
808	38	4区北区	1	B	405	36.0	5.0	82°	
809	38	4区北区	1	B	406	52.0	6.5	74°	
810		4区北区	1	B	407	22.0	4.5		
811	38	4区北区	1	B	408	41.0	5.5	66°	
812		4区北区	1	B	409	24.0	5.0		
813	38	4区北区	1	B	410	28.0	5.5	66°	
814	38	4区北区	1	B	411	20.0	5.0	80°	4片
815	38	4区北区	1	B	412	62.0	4.5	89°	
816		4区北区	1	B	413	35.0	5.0		
817		4区北区	1	B	414	17.0	3.0		
818		4区北区	1	B	415	18.0	3.0		
819		4区北区	1	B	416	19.0	4.5		2片
820		4区北区	1	B	417	30.0	4.0		
821	38	4区北区	1	B	418	31.0	5.0	81°	

第4章 調査成果の整理とまとめ

通番	挿図 番号	区	面	杭列	杭番	長さcm	幅cm	傾斜度	備考
822		4区北区	1	B	419	24.0	4.0		
823		4区北区	1	B	420	35.0	4.0		
824	37	4区北区	1	B	421	30.0	5.0	74°	
825	37	4区北区	1	B	422	30.0	4.0	80°	
826	36	4区北区	1	B	423	61.0	6.5	35°	
827	36	4区北区	1	B	424	41.0	3.5	90°	
828		4区北区	1	B	425	9.0	3.5		
829		4区北区	1	B	426	23.0	4.5		
830		4区北区	1	A	427	31.0	3.0		2片
831		4区北区	1	A	428	17.0	4.5		2片
832		4区北区	1	A	429	44.0	4.5		
833		4区北区	1	A	430	17.0	3.5		
834		4区北区	1	A	431	18.0	2.5		
835		4区北区	1	A	432	19.0	4.5		
836		4区北区	1	A	433	37.0	4.0		4片
837		4区北区	1		434	34.0	4.5		
838		4区北区	1		435	20.0	4.0		
839		4区北区	1		436	34.0	4.0		
840		4区北区	1		437	36.0	6.0		2片
841		4区北区	1		438	11.0	4.0		
842		4区北区	1		439	34.0	4.5		2片
843		4区北区	1		440	68.0	5.0	72°	
844		4区北区	1		441	38.0	4.0	62°	6片
845		4区北区	1		442	82.0	7.0	76°	
846		5区	1		1	76.0	7.0		
847		5区	1		2	130.0	6.0		
848		5区	1		3	28.0	3.0		
849		5区	1	5-1	4	124.0	8.0		3片
850		5区	1	5-1	5	36.0	5.5		5片
851		5区	1	5-1	6	67.0	6.0		
852		5区	1	5-1	7	86.0	5.5		
853		5区	1	5-1	8	63.0	4.5		第43図2
854		5区	1	5-1	9	81.0	5.0		第43図3
855		5区	1	5-1	10	43.0	4.0		
856		5区	1	5-1	11	44.0	4.0		2片、樹皮
857		5区	1	5-1	12	62.0	5.0		
858		5区	1	5-1	13	77.0	4.5		
859		5区	1	5-1	14	59.0	5.0		樹皮
860		5区	1	5-1	15	49.0	4.5		8片、樹皮
861		5区	1	5-1	16	37.0	5.0		2片
862		5区	1	5-1	17	22.0	3.5		
863		5区	1	5-1	18	75.0	8.0		
864		5区	1	5-1	19	40.0	3.0		
865		5区	1	5-1	20	47.0	2.5		
866		5区	1	5-1	21	45.0	5.5		
867		5区	1	5-1	22	46.0	3.5		
868		5区	1	5-1	23	18.0	3.5		
869		5区	1	5-1	24	40.0	4.0		
870		5区	1	5-1	25	18.0	4.0		
871		5区	1	5-1	26	7.5	4.5		
872		5区	1	5-1	27	40.0	5.5		
873		5区	1	5-1	28	111.0	9.0		
874		5区	1	5-1	29	36.0	4.0		
875		5区	1	5-1	30	40.0	4.5		
876		5区	1		31	48.0	5.0		
877		5区	1		32	30.0	3.5		
878		5区	1		33	41.0	4.0		
879		5区	1		34	23.0	2.0		
880		5区	1	5-1	35	56.0	6.0		5片、樹皮
881		5区	1	5-1	36	63.0	5.0		
882		5区	1	5-1	37	73.0	5.5		
883		5区	1	5-1	38	125.0	8.0		4片
884		5区	1	5-1	39	28.0	7.0		
885	44	5区	1	5-1	40	44.0	4.0	19°	4片
886		5区	1	5-1	41	68.0	5.0		樹皮
887	44	5区	1	5-1	42	45.0	5.0	29°	2片
888	44	5区	1	5-1	43	69.0	7.0	47°	
889		5区	1	5-1	44	47.0	4.0		
890		5区	1	5-1	45	46.0	5.0		2片

通番	挿図 番号	区	面	杭列	杭番	長さcm	幅cm	傾斜度	備考
891	44	5区	1	5-1	46	65.0	5.0	44°	
892	44	5区	1	5-1	47	20.0	2.5		3片
893	44	5区	1	5-1	48	72.0	5.5		
894		5区	1	5-1	49	97.0	7.0		
895	44	5区	1	5-1	50	110.0	7.0	39°	樹皮
896	44	5区	1	5-1	51	110.0	4.5	54°	2片
897	44	5区	1	5-1	52	11.0	3.5		8片
898	44	5区	1	5-1	53	77.0	6.5		
899		5区	1	5-1	54	98.0	7.0		
900		5区	1	5-1	55	41.0	6.0		
901		5区	1	5-1	56	40.0	6.0		
902		5区	1	5-1	57	60.0	6.0		
903		5区	1	5-1	58	82.0	5.0		
904		5区	1	5-1	59	46.0	6.5		
905		5区	1		60	109.0	7.0		
906	44	5区	1	5-1	61	80.0	6.0	36°	
907		5区	1	5-1	62	22.0	4.5		2片
908		5区	1	5-1	63	16.0	5.5		2片
909		5区	1	5-1	64	95.0	5.0		
910		5区	1	5-1	65	89.0	6.0		
911		5区	1	5-1	66	48.0	5.0		
912		5区	1	5-1	67	96.0	5.5		
913		5区	1	5-1	68	70.0	5.0		
914		5区	1	5-1	69	—	4.0		
915		5区	1	5-1	70	—	7.0		
916		5区	1	5-1	71	94.0	5.5		
917	44	5区	1	5-1	72	127.0	13.0		12片
918		5区	1	5-1	73	45.0	6.0		2片
919		5区	1	5-1	74	43.0	6.0		
920		5区	1	5-1	75	150.0	6.0		
921		5区	1	5-1	76	110.0	6.0		3片
922		5区	1	5-1	77	46.0	6.0		4片
923		5区	1	5-1	78	90.0	9.0		
924		5区	1	5-1	79	102.0	5.5		
925		5区	1	5-1	80	35.0	6.0		2片
926		5区	1	5-1	81	38.0	5.0		
927		5区	1	5-1	82	52.0	5.5		
928	44	5区	1	5-1	83	50.0	5.5	60°	
929		5区	1	5-1	84	40.0	4.5		
930		5区	1	5-1	85	138.0	7.0		
931		5区	1	5-1	86	86.0	5.5		樹皮
932		5区	1	5-1	87	112.0	4.5		2片
933		5区	1	5-1	88	51.0	5.0		2片
934		5区	1	5-1	89	105.0	5.0		
935		5区	1	5-1	90	123.0	7.0		4片
936		5区	1	5-1	91	105.0	7.0		
937	44	5区	1	5-1	92	91.0	6.0	86°	
938		5区	1	5-1	93	29.0	5.0		
939		5区	1	5-1	94	65.0	2.0		
940		5区	1	5-1	95	27.0	3.5		
941		5区	1	5-1	96	30.0	5.0		2片
942		5区	1	5-1	97	95.0	5.5		
943		5区	1	5-1	98	27.0	3.0		
944		5区	1	5-1	99	59.0	4.5		
945		5区	1	5-1	100	54.0	6.0		
946		5区	1	5-1	101	142.0	8.0		
947	44	5区	1	5-1	102	90.0	6.0	63°	
948		5区	1	5-1	103	146.0	7.0		
949		5区	1	5-1	104	99.0	5.0		
950	44	5区	1	5-1	105	395.0	10.5		
951		5区	1		106	45.0	6.0		
952		5区	1		107	40.0	4.0		
953		5区	1		108	26.0	4.0		
954		5区	1		109	19.0	5.0		
955		5区	1		110	19.0	4.0		
956		5区	1		111	28.0	4.5		
957		5区	1		112	20.0	4.0		4片
958		5区	1	5-1	113	33.0	5.0		
959		5区	1	5-1	114	45.0	4.0		

第4表 水田出土木杭一覧表

通番	挿図番号	区	面	杭列	杭番	長さcm	幅cm	傾斜度	備考
960		5区	1	5-1	115	62.0	8.0		
961		5区	1	5-1	116	65.0	5.0		
962		5区	1	5-1	117	41.0	6.0		
963		5区	1	5-1	118	50.0	5.5		
964		5区	1	5-1	119	96.0	7.5		
965		5区	1	5-1	120	107.0	6.5		
966		5区	1	5-1	121	40.0	5.0		
967		5区	1	5-1	122	49.0	4.0		
968		5区	1	5-1	123	85.0	6.0		
969		5区	1	5-1	124	39.0	5.0		
970		5区	1	5-1	125	31.0	5.0		
971		5区	1	5-1	126	17.0	4.0		
972		5区	1	5-1	127	37.0	5.0		
973		5区	1	5-1	128	36.0	5.0		
974		5区	1	5-1	129	16.0	2.5		
975		5区	1	5-1	130	19.0	2.0		
976		5区	1	5-1	131	16.0	4.5		
977		5区	1	5-1	132	40.0	5.0		
978		5区	1	5-1	133	45.0	3.5		
979		5区	1	5-1	134	47.0	4.0		
980		5区	1	5-1	135	38.0	4.0		
981		5区	1	5-1	136	20.0	3.5		2片
982		5区	1	5-1	137	49.0	6.0		
983		5区	1	5-1	138	66.0	5.5		
984		5区	1	5-1	139	25.0	4.5		
985		5区	1	5-1	140	73.0	6.0		
986		5区	1	5-1	142	26.0	3.5		
987		5区	1	5-1	143	25.0	4.0		
988		5区	1	5-1	144	20.0	3.0		
989		5区	1	5-1	145	57.0	5.0		
990		5区	1	5-1	146	46.0	5.0		
991		5区	1	5-1	147	52.0	6.0		
992		5区	1	5-1	148	40.0	4.0		
993		5区	1	5-1	149	32.0	3.0		
994		5区	1	5-1	150	44.0	4.5		
995		5区	1	5-1	151	52.0	6.0		
996		5区	1	5-1	152	62.0	5.5		
997		5区	1	5-1	153	56.0	6.0		
998		5区	1	5-1	154	28.0	5.5		
999		5区	1	5-1	155	59.0	5.0		
1000		5区	1	5-1	156	29.0	3.5		
1001		5区	1	5-1	157	18.0	4.5		
1002		5区	1	5-1	158	77.0	5.5		
1003		5区	1	5-1	159	25.0	5.0		
1004		5区	1	5-1	160	26.0	3.0		
1005		5区	1	5-1	161	78.0	7.5		
1006		5区	1	5-1	162	46.0	6.0		
1007		5区	1	5-1	163	44.0	4.5		
1008	44	5区	1	5-1	164	96.0	5.0	48°	
1009	44	5区	1	5-1	165	60.0	6.5	50°	
1010	44	5区	1	5-1	166	62.0	6.0	38°	
1011		5区	1	5-1	167	26.0	12.0		
1012	44	5区	1	5-1	168	133.0	4.5		
1013		5区	1	5-1	169	72.0	4.5		
1014		5区	1	5-1	170	60.0	5.0		
1015	44	5区	1	5-1	171	142.0	10.0		建築部材
1016		5区	1	5-1	172	34.0	4.5		
1017		5区	1	5-1	173	16.0	3.0		5片
1018	44	5区	1	5-1	174	40.0	7.0	26°	2片
1019	44	5区	1	5-1	175	27.0	8.0		8片
1020		5区	1	5-1	176	113.0	5.0		
1021		5区	1	5-1	177	146.0	7.0		2片
1022		5区	1	5-1	178	100.0	6.0		
1023	44	5区	1	5-1	179	82.0	5.0	78°	
1024		5区	1	5-1	180	34.0	3.0		
1025		5区	1	5-1	181	21.0	3.5		
1026		5区	1	5-1	182	80.0	6.0		
1027		5区	1	5-1	183	94.0	4.5		
1028		5区	1	5-1	184	62.0	5.5		

通番	挿図番号	区	面	杭列	杭番	長さcm	幅cm	傾斜度	備考
1029		5区	1	5-1	185	128.0	5.0		
1030		5区	1	5-1	186	83.0	4.0		
1031		5区	1	5-1	187	86.0	5.5		3片
1032		5区	1	5-1	188	39.0	7.5		
1033		5区	1	5-1	189	89.0	5.5		
1034		5区	1	5-1	190	78.0	6.0		
1035		5区	1	5-1	191	56.0	5.5		
1036	44	5区	1	5-1	192	85.0	6.0	80°	
1037		5区	1	5-1	193	87.0	6.5		
1038		5区	1	5-1	194	54.0	5.0		
1039		5区	1	5-1	195	57.0	5.0		
1040		5区	1	5-1	196	101.0	5.5		
1041		5区	1	5-1	197	104.0	8.5		
1042		5区	1	5-1	198	45.0	10.5		板材転用
1043		5区	1	5-1	199	97.0	6.0		5片
1044		5区	1	5-1	200	34.0	5.0		
1045		5区	1	5-1	201	65.5	4.0		
1046		5区	1	5-1	202	41.0	7.0		
1047		5区	1	5-1	203	70.0	7.0		
1048	44	5区	1	5-1	204	83.0	6.5	70°	
1049	44	5区	1	5-1	205	63.0	4.5	58°	
1050		5区	1	5-1	206	86.0	5.5		
1051		5区	1	5-1	207	59.0	5.5		3片
1052		5区	1	5-1	208	74.0	5.5		
1053		5区	1	5-1	209	62.0	5.5		2片
1054		5区	1	5-1	210	60.0	5.5		
1055		5区	1	5-1	211	104.0	7.5		
1056		5区	1	5-1	212	43.0	5.5		
1057		5区	1	5-1	213	102.5	6.0		
1058		5区	1	5-1	214	91.0	7.0		6片
1059		5区	1	5-1	215	87.5	6.5		
1060		5区	1	5-1	216	45.0	5.5		
1061		5区	1	5-1	217	47.0	5.0		
1062		5区	1	5-1	218	68.0	6.0		
1063		5区	1	5-1	219	63.0	7.5		
1064		5区	1	5-1	220	63.5	4.5		
1065		5区	1	5-1	221	58.0	8.0		
1066		5区	1	5-1	222	79.0	6.5		
1067		5区	1	5-1	223	45.0	6.0		
1068		5区	1	5-1	224	25.0	3.0		
1069		5区	1	5-1	225	145.0	6.0		
1070		5区	1	5-1	226	104.0	7.0		
1071		5区	1	5-1	227	30.0	6.0		
1072		5区	1	5-1	228	56.5	7.5		
1073		5区	1	5-1	229	72.0	5.0		
1074		5区	1	5-1	230	15.0	6.0		
1075		5区	1	5-1	231	46.0	8.0		
1076		5区	1	5-1	232	49.0	4.0		
1077		5区	1	5-1	233	47.0	7.0		
1078		5区	1	5-1	234	35.0	7.0		
1079		5区	1	5-1	235	51.0	7.0		
1080	44	5区	1	5-1	237	104.0	6.0	60°	
1081		5区	1	5-1	238	48.0	6.0		2片
1082		5区	1	5-1	239	134.0	8.0		
1083		5区	1	5-1	240	108.0	7.0		
1084		5区	1	5-1	241	52.0	7.0		
1085		5区	1	5-1	242	93.0	8.0		
1086		5区	1	5-1	243	98.0	6.0		
1087		5区	1	5-1	244	70.0	5.0		
1088		5区	1	5-1	245	45.0	5.0		樹皮、5片
1089		5区	1	5-1	246	49.0	7.0		
1090	44	5区	1	5-1	247	85.0	7.0	57°	
1091		5区	1	5-1	248	75.0	7.0		
1092	44	5区	1	5-1	249	118.0	5.5	51°	
1093		5区	1	5-1	250	143.0	6.5		
1094		5区	1	5-1	251	62.0	7.0		
1095		5区	1	5-1	252	101.0	6.0		
1096		5区	1	5-1	253	105.0	4.5		
1097		5区	1	5-1	254	116.0	4.0		

第4章 調査成果の整理とまとめ

通番	挿図番号	区	面	杭列	杭番	長さcm	幅cm	傾斜度	備考
1098		5区	1	5-1	255	140.0	6.5		
1099		5区	1	5-1	256	104.0	5.0		2片
1100		5区	1	5-1	257	66.0	6.0		
1101		5区	1	5-1	258	121.0	8.0		
1102		5区	1	5-1	259	57.0	9.0		
1103		5区	1	5-1	260	21.0	4.0		
1104		5区	1	5-1	261	63.0	5.5		
1105		5区	1	5-1	262	15.0	4.5		
1106		5区	1	5-1	263	47.0	5.0		2片
1107		5区	1	5-1	264	32.0	3.5		2片
1108		5区	1	5-1	265	48.0	4.5		4片
1109		5区	1	5-1	266	83.0	5.5		3片
1110		5区	1	5-1	267	66.5	5.0		
1111		5区	1	5-1	268	66.0	6.0		
1112		5区	1	5-1	269	64.0	8.0		
1113		5区	1	5-1	270	61.0	5.0		
1114		5区	1	5-1	271	73.0	5.0		2片
1115		5区	1	5-1	272	65.0	5.0		
1116		5区	1	5-1	273	95.0	6.0		
1117		5区	1	5-1	274	68.0	6.0		
1118		5区	1	5-1	275	51.0	3.0		
1119		5区	1	5-1	276	74.0	4.0		
1120		5区	1	5-1	277	72.0	5.5		
1121		5区	1	5-1	278	67.0	6.0		
1122		5区	1	5-1	279	61.0	5.0		
1123		5区	1	5-1	280	67.0	6.0		
1124		5区	1	5-1	281	55.0	4.5		
1125		5区	1	5-1	282	57.0	4.5		
1126		5区	1	5-1	283	52.0	4.5		
1127		5区	1	5-1	284	102.0	8.0		
1128		5区	1	5-1	285	84.0	7.0		
1129		5区	1	5-1	286	61.0	4.0		
1130		5区	1	5-1	287	58.0	6.5		
1131		5区	1	5-1	288	56.0	6.0		
1132		5区	1	5-1	289	35.0	5.0		4片
1133		5区	1	5-1	290	48.0	6.5		
1134		5区	1	5-1	291	89.0	5.0		
1135		5区	1	5-1	292	113.0	7.5		
1136		5区	1	5-1	293	100.0	6.0		
1137		5区	1	5-1	294	68.0	5.5		
1138		5区	1	5-1	295	77.0	5.5		
1139		5区	1	5-1	296	85.0	8.5		
1140		5区	1	5-1	297	60.0	6.0		
1141		5区	1	5-1	298	44.0	6.0		
1142		5区	1	5-1	299	41.0	5.5		
1143		5区	1	5-1	300	52.0	6.5		
1144		5区	1	5-1	301	73.0	5.0		
1145		5区	1	5-1	302	55.0	4.0		
1146		5区	1	5-1	303	65.5	7.5		
1147		5区	1	5-1	304	55.0	4.5		
1148		5区	1	5-1	305	52.5	4.5		
1149		5区	1	5-1	306	69.5	5.5		
1150		5区	1	5-1	307	44.0	4.5		
1151		5区	1	5-1	308	34.0	4.5		
1152		5区	1	5-1	309	49.0	10.0		
1153		5区	1	5-1	310	47.0	4.5		
1154		5区	1	5-1	311	44.0	5.0		
1155		5区	1	5-1	312	46.0	6.0		
1156		5区	1	5-1	313	105.0	7.0		
1157		5区	1	5-1	314	89.0	8.0		
1158		5区	1	5-1	315	42.0	5.5		
1159		5区	1	5-1	316	45.0	6.0		
1160		5区	1	5-1	317	28.0	4.0		
1161		5区	1	5-1	318	38.0	5.5		
1162		5区	1	5-1	319	31.0	5.5		
1163		5区	1	5-1	320	78.5	5.5		
1164		5区	1	5-1	321	32.0	5.0		
1165		5区	1	5-1	322	36.0	4.5		2片
1166		5区	1	5-1	323	105.0	7.0		

通番	挿図番号	区	面	杭列	杭番	長さcm	幅cm	傾斜度	備考
1167		5区	1	5-1	324	74.5	7.0		
1168		5区	1	5-1	325	67.0	6.5		
1169		5区	1	5-1	326	68.0	6.0		
1170		5区	1	5-1	327	31.0	5.5		
1171		5区	1	5-1	328	29.5	4.0		
1172		5区	1	5-1	329	56.0	3.5		
1173		5区	1	5-1	330	85.0	6.0		
1174		5区	1	5-1	331	148.0	7.0		
1175		5区	1	5-1	332	101.0	9.0		
1176		5区	1	5-1	333	150.0	6.0		2片
1177		5区	1	5-1	334	101.0	6.0		
1178		5区	1	5-1	335	98.0	6.0		
1179		5区	1	5-1	336	52.0	6.5		
1180		5区	1	5-1	337	42.0	6.0		
1181		5区	1	5-1	338	110.0	9.5		
1182		5区	1	5-1	339	38.0	3.5		
1183	44	5区	1	5-1	340	62.0	4.5	40°	
1184		5区	1	5-1	341	57.0	6.5		
1185		5区	1	5-1	342	84.0	6.5		
1186		5区	1	5-1	343	84.0	5.0		
1187		5区	1	5-1	344	—	4.5		
1188		5区	1	5-1	345	93.0	7.0		
1189		5区	1	5-1	346	75.0	7.0		
1190		5区	1	5-1	347	96.0	7.0		
1191	44	5区	1	5-1	348	79.0	3.0		
1192		5区	1	5-1	349	97.0	6.0		
1193	44	5区	1	5-1	350	100.0	7.0	76°	
1194		5区	1	5-1	351	104.0	5.5		
1195		5区	1	5-1	352	70.0	6.0		
1196		5区	1	5-1	353	66.0	5.0		
1197		5区	1	5-1	354	74.0	5.5		
1198		5区	1	5-1	355	100.0	6.5		
1199		5区	1	5-1	356	105.5	7.0		
1200		5区	1	5-1	357	93.0	5.5		
1201		5区	1	5-1	358	70.0	5.5		
1202		5区	1	5-1	359	35.0	5.0		
1203		5区	1	5-1	360	23.0	5.0		2片
1204		5区	1	5-1	361	70.0	7.5		
1205		5区	1	5-1	362	60.5	6.5		
1206		5区	1	5-1	363	80.5	5.0		
1207		5区	1	5-1	364	41.0	5.0		
1208		5区	1	5-1	365	47.0	5.5		
1209		5区	1	5-1	366	72.0	5.0		
1210		5区	1	5-1	367	53.0	5.0		
1211		5区	1	5-1	368	43.0	5.0		
1212		5区	1	5-1	369	58.5	6.5		
1213		5区	1	5-1	370	93.0	5.0		
1214		5区	1	5-1	371	87.0	6.5		
1215		5区	1	5-1	372	75.0	6.0		
1216		5区	1	5-1	373	46.0	4.5		
1217		5区	1	5-1	374	61.0	7.5		
1218		5区	1	5-1	375	70.5	5.5		
1219		5区	1	5-1	376	61.0	5.0		
1220		5区	1	5-1	377	51.0	5.0		
1221		5区	1	5-1	378	73.0	6.0		
1222		5区	1	5-1	379	57.5	4.0		
1223		5区	1	5-1	380	72.0	6.5		
1224		5区	1	5-1	381	100.0	6.0		
1225		5区	1	5-1	382	76.0	7.5		
1226		5区	1	5-1	383	89.0	8.5		
1227	48	6区	1	A	1	31.0	6.0	50°	
1228	48	6区	1	A	2	33.0	5.5	49°	
1229	48	6区	1	A	3	42.0	6.0	64°	
1230	48	6区	1	A	4	18.0	4.5	82°	
1231		6区	1	A	5	21.0	4.0		5片、樹皮
1232	48	6区	1	A	6	32.0	8.0	45°	
1233	48	6区	1	A	7	25.0	4.0	63°	
1234	48	6区	1	A	8	53.0	4.5	84°	
1235	48	6区	1	A	9	35.0	5.0	75°	

第4表 水田出土木杭一覧表

通番	挿図番号	区	面	杭列	杭番	長さcm	幅cm	傾斜度	備考
1236	48	6区	1	A	10	44.0	5.0	76°	
1237		6区	1	A	11	7.5	3.5		5片
1238		6区	1	A	12	45.0	6.0		
1239		6区	1	A	13	22.0	6.0		
1240		6区	1	A	14	23.0	4.5		
1241	48	6区	1	A	15	65.0	7.0	70°	
1242	48	6区	1	A	16	38.0	4.0	73°	
1243	48	6区	1	A	17	32.0	5.0	64°	
1244	48	6区	1	A	18	57.0	6.5	75°	
1245	48	6区	1	A	19	41.0	4.5	62°	
1246		6区	1		20	14.0	4.0		12片
1247		6区	1		21	36.0	5.0	31°	3片
1248		6区	1		22	10.0	3.0		2片
1249		6区	1		23	6.0	2.5		3片
1250		6区	1		24	85.0	7.0	78°	
1251		6区	1		26	9.5	2.5		
1252		6区	1		27	16.0	3.5		
1253		6区	1		28	5.5	4.0		4片
1254		6区	1		30	13.0	3.5		
1255		6区	1		31	57.0	7.0		
1256		6区	1		32	38.0	5.0	63°	
1257		6区	1		33	58.0	4.0	35°	
1258		6区	1		34	75.0	6.5		2片
1259		6区	1	B	35	105.0	5.0		
1260		6区	1	B	36	28.0	3.5		
1261		6区	1	B	37	30.0	3.0		
1262	47	6区	1	B	38	96.0	6.0	70°	
1263	47	6区	1	B	39	97.0	6.0	87°	2片
1264	47	6区	1	B	40	50.0	5.0	85°	3片
1265	47	6区	1	B	41	54.0	3.5	62°	
1266	47	6区	1	B	42	51.0	8.0	64°	
1267	47	6区	1	B	43	54.0	6.0	65°	
1268		6区	1	B	44	34.0	6.0		
1269		6区	1	B	45	64.0	4.0		
1270	47	6区	1	B	46	62.0	6.0	69°	
1271		6区	1	B	47	30.0	4.0		
1272	47	6区	1	B	48	68.0	4.0	88°	
1273		6区	1	B	49	29.0	6.5		
1274		6区	1	B	50	49.0	4.5		第47図1
1275		6区	1	B	51	34.0	5.0		
1276		6区	1	B	52	24.0	4.0		
1277		6区	1	B	53	51.0	5.0		
1278	47	6区	1	B	54	77.0	7.0	76°	
1279	47	6区	1	B	55	76.0	6.0	84°	
1280	47	6区	1	B	56	84.0	5.0	76°	
1281		6区	1	B	57	40.0	4.0		
1282		6区	1	B	58	49.0	5.0		
1283		6区	1	B	59	40.0	6.0		8片
1284	47	6区	1	B	60	101.0	9.0	82°	
1285	47	6区	1	B	61	114.0	7.0	86°	
1286	47	6区	1	B	62	85.0	6.0	84°	5片
1287	51	7-1区	1		1	32.0	3.5	64°	
1288	51	7-1区	1		2	39.0	5.0	79°	
1289	51	7-1区	1		3	56.0	4.5	76°	
1290		7-1区	1		4	-	1.5		7片
1291		7-1区	1		5	25.0	6.0		第50図2
1292		7-1区	1		6	16.0	5.0		3片
1293		7-1区	1		8	9.0	5.0		
1294		7-1区	1		9	12.0	3.0		
1295		7-1区	1		10	18.0	5.5		
1296		7-1区	1		12	24.0	3.0		
1297		7-1区	1		13	16.0	6.0		
1298		7-1区	1		14	8.0	3.0		2片
1299		7-1区	1		16	75.0	7.0	89°	
1300		7-1区	1		17	55.0	4.0	92°	
1301		8-1区	1	A	3	50.0	8.0		3片
1302		8-1区	1	A	4	55.0	4.5		2片
1303		8-1区	1	A	5	42.0	4.0		2片
1304		8-1区	1	A	6	21.0	4.0		

通番	挿図番号	区	面	杭列	杭番	長さcm	幅cm	傾斜度	備考
1305		8-1区	1	A	7	19.0	3.0		
1306		8-1区	1	A	8	53.0	3.5		4片
1307		8-1区	1	A	9	-	1.5		8片
1308		8-1区	1	A	10	82.0	10.0		14片
1309		8-1区	1	A	11	34.0	5.0		4片
1310		8-1区	1	A	12	126.0	9.0		7片
1311		8-1区	1	A	13	65.0	5.0		
1312		8-1区	1	A	14	47.0	6.0		
1313		8-1区	1	A	15	46.0	4.5		
1314		8-1区	1	A	16	27.0	3.0		2片
1315		8-1区	1	A	17	31.0	9.5		
1316		8-1区	1		18	-	4.0		10片
1317		8-1区	2		20	24.0	5.0		
1318	61	8-1区	2	B	21	38.0	6.0	39°	
1319		8-1区	2	B	22	13.0	3.5		
1320		8-1区	2	B	23	12.0	2.0		
1321	61	8-1区	2	B	24	24.0	2.5	70°	
1322	61	8-1区	2	B	25	28.0	4.5	88°	
1323		8-1区	2	B	26	11.0	2.0		
1324		8-1区	2	B	27	17.0	2.0		
1325	61	8-1区	2	B	28	30.0	5.0	61°	
1326		8-1区	2	B	29	17.0	3.0		
1327	61	8-1区	2	B	30	31.0	5.0	86°	
1328	61	8-1区	2	B	31	15.0	3.0	71°	
1329	61	8-1区	2	B	32	38.0	4.0	67°	
1330	61	8-1区	2	B	33	18.0	4.0	55°	
1331	61	8-1区	2	B	34	38.0	6.0	51°	
1332	61	8-1区	2	B	35	24.0	4.0	72°	
1333	61	8-1区	2	B	36	21.0	4.0	72°	
1334	61	8-1区	2	B	37	23.0	4.0	56°	
1335	61	8-1区	2	B	38	33.0	5.0	59°	
1336	61	8-1区	2	B	39	28.0	4.5	87°	
1337		8-1区	2		40	25.0	2.5	71°	
1338		8-1区	2		41	50.0	4.5	51°	
1339		8-1区	2		42	14.0	3.5	34°	
1340	65	8-2区	1	8-2-1	1	67.0	4.0	10°	ミカン割
1341	65	8-2区	1	8-2-1	2	77.0	6.0	17°	ミカン割
1342	65	8-2区	1	8-2-1	3	79.0	7.0	62°	ミカン割
1343	65	8-2区	1	8-2-1	4	32.0	4.0	11°	板割、厚さ0.8cm
1344	65	8-2区	1	8-2-1	5	76.0	8.5	56°	ミカン割
1345	65	8-2区	1	8-2-1	6	63.0	4.5	13°	ミカン割
1346	65	8-2区	1	8-2-1	7	60.0	7.0	68°	ミカン割
1347	65	8-2区	1	8-2-1	8	70.0	6.5	30°	ミカン割
1348	65	8-2区	1	8-2-1	9	21.0 11.0	5.0 4.0	13°	ミカン割、 半裁、2片
1349	65	8-2区	1	8-2-1	10	78.0	7.0	67°	ミカン割
1350	65	8-2区	1	8-2-1	11	69.0	5.5	18°	ミカン割
1351	65	8-2区	1	8-2-1	12	70.0	5.5	67°	ミカン割
1352		8-2区	1	8-2-1	13	21.0	1.2		自然木枝、 しがらみ 横木
1353	65	8-2区	1	8-2-1	14	74.0	7.0	42°	ミカン割
1354		8-2区	1	8-2-1	15	21.0	1.2		2片、 自然木枝、 しがらみ 横木
1355	65	8-2区	1	8-2-1	16	71.0	6.5	40°	ミカン割
1356	65	8-2区	1	8-2-1	17	83.0	5.0	56°	ミカン割 後、板割
1357	65	8-2区	1	8-2-1	18	75.0	5.0	46°	ミカン割
1358	65	8-2区	1	8-2-1	19	78.0	7.0	41°	ミカン割
1359	65	8-2区	1	8-2-1	20	70.0	6.5	44°	ミカン割 後、板割、 厚さ3.0cm
1360	65	8-2区	1	8-2-1	21	63.0	4.5	11°	半裁
1361	65	8-2区	1	8-2-1	22	38.0	5.0	24°	ミカン割
1362	65	8-2区	1	8-2-1	23	53.0	4.0	75°	ミカン割
1363		8-2区	1	8-2-1	24	44.0	7.0		栗表皮、 厚さ0.5cm

第4章 調査成果の整理とまとめ

通番	挿図 番号	区	面	杭列	杭番	長さcm	幅cm	傾斜度	備考
1364		8-2区	1	8-2-1	25	18.0	5.0		破片
1365		8-2区	1	8-2-1	26	39.0	2.0		3片、 自然木
						17.0	1.5		
						12.0	1.5		
1366	65	8-2区	1	8-2-1	27	84.0	4.5	71°	ミカン割
1367	65	8-2区	1	8-2-1	28	80.0	4.0	78°	ミカン割
1368		8-2区	1	8-2-1	29	22.0	3.5		破片
1369		8-2区	1	8-2-1	30	12.0	3.0		破片
1370	65	8-2区	1	8-2-1	31	44.0	5.0	54°	ミカン割
1371		8-2区	1	8-2-1	32	83.0	4.0		ミカン割
1372		8-2区	1	8-2-1	33	19.0	1.0		自然木、 横木
1373		8-2区	1	8-2-1	34	14.0	0.8		自然木、 横木
1374		8-2区	1	8-2-1	35	16.0	1.4		自然木、 横木
1375		8-2区	1	8-2-1	36	18.0	2.5		板割
1376		8-2区	1		37	47.0	6.0	62°	厚さ1.8cm、 ミカン割
1377		8-2区	1		38	80.0	5.5	63°	ミカン割

第5表 杭列別木杭本数一覧表

調査区	面	杭列所属遺構名	杭列名	本数(本)	
2区西区	1	1号段差	杭列A	38	
			杭列B	16	
			杭列C	15	
2区東区	1	2号畦畔	杭列D	32	
3区	1		杭列	99	
4区南区	1	1号段差	杭列	68	
4区北区	1	3号段差	杭列A	155	
			1号畦畔	杭列B	131
			4号段差	杭列C	16
			2号段差	杭列D	92
			1号段差	杭列E	18
5区	1	1号段差	杭列	367	
6区	1	4号段差	杭列A	19	
			杭列B	28	
8-1区	1	3号溝	杭列A	15	
	2	6号溝	杭列B	19	
8-2区	1	1号段差	杭列	36	

第6表 出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長 幅	厚 重	2.4 127.1	2.4 127.1			
第12図	1	木製品 杭	2区西区1面1 号段差杭列A 一部欠損	長 幅	16.8 4.7	厚 重	2.4 127.1	広葉樹栗材	一部欠損し、割れた部分は劣化が進んでいるが、同一個体。 残存状態不良。	近世(18世紀 末以前)
第12図	2	木製品 杭	2区西区1面1 号段差杭列A 一部欠損	長 幅	29.2 5.5	厚 重	34.0 259.4	樹種不明	芯持材。全体に割れ・欠けが顕著。自然木転用。	近世(18世紀 末以前)
第15図 PL.74	1	銅製品 切羽	2区東区1面3 号水田水田面 ほぼ完形	長 幅	4.2 3.0	厚 重	0.1 3.9	銅製	真鍮製。一部欠失し、全体に歪みが認められる。器面には 細かな刻みが入る。	近世(18世紀 末以前)
第15図 PL.74	2	銭貨 寛永通寶	2区東区1面4 号水田水田面 完形	縦 横	2.372 2.368	厚 重	0.86 2.2	銅製	新寛永。表面は彫りが深く、銭文の輪郭は明瞭である。裏 面の彫りは浅いが、輪郭は明瞭である。表面に細かな傷が 認められる。	近世(18世紀 末以前)
第18図 PL.74	1	礫石器 石皿	2区東区2面遺 物包含層中 1/4	長 幅	(14.8) (14.6)	厚 重	4.7 1270.1	粗粒輝石安山岩	裏面は他の部分より風化が進んでおり、自然面の可能性あり。 表面の中央付近に皿状のくぼみが認められ、くぼみの 中央付近は磨滅し、非常に滑らかになっている。	不明
第21図 PL.74	1	肥前磁器 染付碗	3区東区1面杭 列 1/2	口 底	(9.6) 4.1	高	5.2	灰白/夾雑物無/	外面に雪輪梅樹文。高台境に一重の圈線。高台内に不明銘。	18世紀後葉 漆継ぎ 2点接合
第21図	2	木製品 杭	3区東区1面杭 列 完形	長 幅	40.2 4.3	厚 重	3.2 241.1	広葉樹	両端尖端加工。断面三角形に側面取加工。	近世(18世紀 末以前)
第25図 PL.74	1	木製品 杭	4区南区1面1 号段差杭列 ほぼ完形	長 幅	71.4 4.7	厚 重	2.8 431.5	広葉樹栗材	表面面取加工。尖端加工。	近世(18世紀 末以前)
第25図 PL.74	2	木製品 杭	4区南区1面1 号段差杭列 ほぼ完形	長 幅	26.7 4.3	厚 重	3.5 210.5	樹種不明	先端部はやや丸味を帯びる。頭部切り落とし。	近世(18世紀 末以前)
第25図 PL.74	3	木製品 杭	4区南区1面1 号段差杭列 ほぼ完形	長 幅	53.1 6.0	厚 重	3.6 498.3	広葉樹	芯持材。端部は大きく割れ。自然木利用。広葉樹。	近世(18世紀 末以前)
第26図 PL.74	1	鉄製品 釘	4区中区1面5 号水田水田面 完形	長 幅	8.0 0.6	厚 重	0.7 5.7	鉄製	細釘。頭部は材を折り返し、叩いて形成している。全体に やや反りが認められる。	近世(18世紀 末以前)
第26図 PL.74	2	木製品 底板	4区中区1面1 号畦畔 ほぼ完形	長 幅	36.0 13.9	厚 重	2.1 751.8	樹種不明	半円形状を呈する底板の半分。裏面に材の接続痕あり。	近世(18世紀 末以前)
第26図 PL.74	3	木製品 底板	4区中区1面2 号水田水田面 完形	長 幅	19.3 3.9	厚 重	2.1 85.7	樹種不明	円形状の底板の端部約1/3。2ヶ所に材の接続痕あり。	近世(18世紀 末以前)
第28図 PL.75	1	肥前磁器 皿か	4区北区1面3 号水田水田面 口縁部片					白/夾雑物無/	内面に染付文。外面に唐草文	江戸時代 2点接合
第28図 PL.75	2	銅製品 爛鍋	4区北区1面3 号水田水田面 ほぼ完形	長 幅	22.7 19.2	厚 重	10.8 282.4	銅製	注口が口縁部とが一体として造られ、体部上端に把手の支 部とともに取り付けている。倒位で、土圧で押しつぶされ、 拉げた状態で出土したため、底面の劣化・損傷が激しい。	近世(18世紀 末以前)
第28図 PL.75	3	鉄製品 馬銜	4区北区1面2 号水田水田面 一部欠損	長 幅	11.6 5.7	厚 重	1.4 48.3	鉄製	円環状の部分と接続する棒状の留め具からなる。円環状の 部分はほぼ円形を呈する。残存状態良好。	近世(18世紀 末以前)
第28図 PL.75	3	鉄製品 馬銜	4区北区1面2 号水田水田面 一部欠損	長 幅	12.1 6.2	厚 重	1.4 36.4	鉄製	円環状の部分と接続する留め具からなる。円環状の部分は やや歪み、楕円形状を呈する。残存状態は伊より悪い。	近世(18世紀 末以前)
第33図 PL.75	1	銅製品 煙管吸口	4区北区1面3 号段差杭列A 完形	長 幅	9.4 0.8	厚 重	0.8 5.5	銅製	繫目が明瞭に認められるが、残存状態は悪い。	近世(18世紀 末以前)
第33図 PL.75	2	銭貨 寛永通寶	4区北区1面3 号段差杭列A 完形	縦 横	2.265 2.274	厚 重	1.08 2.3	鉄製	新寛永。表面は彫りは深く、銭文の輪郭は明瞭である。裏 面の彫りは浅く、輪郭は一部不明瞭な部分が認められる。	近世(18世紀 末以前)
第37図 PL.75	1	銅製品 煙管雁首	4区北区1面3 号段差・1号畦 畔杭列B 完形	長 幅	7.5 1.1	厚 重	3.0 12.3	銅製	側面に繫目が認められ、補修痕が認められる。表面の劣化 が目立つ。	近世(18世紀 末以前)
第43図	1	瀬戸・美濃 陶器 片口鉢か 大型香炉	5区1面1号段 差杭列 口縁部片	口	(15.2)			灰黄/黒色鈹物粒 少量/	口縁部外面側に一条の沈線。内外面に餾釉。口縁部内面 に叩打によると推定される小さい釉刺が連続する。	江戸時代。
第43図 PL.75	2	木製品 杭	5区1面1号段 差杭列 ほぼ完形	長 幅	62.0 4.4	厚 重	5.0 240.4	広葉樹栗材	側面一部欠損。全体的に劣化が進む。断面は元来三角形 を呈していたものと思われるが、変形している。	近世(18世紀 末以前)
第43図 PL.75	3	木製品 杭	5区1面1号段 差杭列 一部欠損	長 幅	88.0 4.2	厚 重	2.5 536.0	広葉樹栗材	下部尖端加工。一部欠失。	近世(18世紀 末以前)
第47図 PL.75	1	木製品 杭	6区1面3号水 田杭列B 完形	長 幅	47.3 4.3	厚 重	2.9 357.6	広葉樹栗材か	両端尖端加工。	近世(18世紀 末以前)

第6表 出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				底	(4.6)					
第50図 PL.75	1	瀬戸・美濃 陶器 腰鎗碗	7-1区1面2 号水田水田面 体部下位~高台 部1/2	底	(4.6)			淡黄/夾雑物無/ 高台端部を除く外面に鎗釉。内面に灰釉。灰釉に貫入する。	江戸時代 2点接合	
第50図 PL.75	2	木製品 杭	7-1区1面2 号畦畔 一部欠損	長 幅	24.4 5.5	厚 重	4.0 227.7	広葉樹栗材	両端部欠失。劣化による形状の変化が見られる。割ったま まの木材を使用か。	近世(18世紀 末以前)
第57図 PL.75	1	銭貨 寛永通宝	8-1区1面水 田面 完形	縦 横	2.480 2.479	厚 重	1.13 2.8	銅製	新寛永。両面とも彫りが深く、銭文の輪郭は明瞭である。 銭文の「寛」の字が鑄造時にやや潰れ、掠れている。	近世(18世紀 末以前)
第64図 PL.76	1	肥前磁器 碗	8-2区1面1 号水田水田面 体部~高台部	底	4.2			灰白/夾雑物無/ 外面に染付文。高台に二重の圏線。高台内に一重圏線内に 「大明年製」崩れ銘。	17世紀末~ 18世紀中葉	
第64図	2	瀬戸・美濃 陶器 菊皿	8-2区1面1 号水田水田面 体部下位~高台 部	底	(7.0)			灰白/夾雑物少量/ 内面に灰釉、部分的に銅緑釉。内面に布疋痕。内面は型押 しによる菊花文。外面は無文。	17世紀後葉~ 18世紀前葉	
第64図 PL.76	3	瀬戸・美濃 陶器 碗	8-2区1面1 号水田水田面 体部下位~高台 部	底	5.4			淡黄/夾雑物少量/ 体部外面下位に篋削り。内外面に鉛釉、体部外面下位から 高台内の釉を拭う。	18前葉~中葉	
第73図 PL.76	1	龍泉窯系青 磁 碗	9区1面1号畑 柵埋土中 口縁部片					灰白/夾雑物無/ 外面に鎗蓮弁文。内外面に青磁釉。	13世紀	
第73図 PL.76	2	瀬戸・美濃 陶器 天目碗	9区1面2号畑 柵埋土中 口縁部片					灰白/夾雑物少量/ 内外面に鉄釉。口縁端部は外反。	江戸時代	
第73図 PL.76	3	肥前陶器 陶胎染付碗	9区1面 体部1/4	口 底	(9.7) (4.4)	高	6.9	灰白/夾雑物微量/ 口唇端部直下に二重の圏線。高台境、高台に各々一重の圏 線。貫入する。	17世紀末~ 18世紀中葉 2点接合	
第73図	4	丹波陶器 すり鉢	9区1面 口縁部片					灰/黒色・白色鉱 物粒/ 口縁部内面に小さい段差。内面に自然釉班状にかかる。	17世紀末~ 18世紀中葉	
第75図 PL.76	1	肥前陶器 陶胎染付碗	9区1面1号段 差段差面 体部中位~高台 部1/3	底	(5.2)			灰/夾雑物微量/ 外面に染付文。高台に二重の圏線。染付は不鮮明。	17世紀末~ 18世紀中葉	
第75図 PL.76	2	瀬戸・美濃 陶器 碗	9区1面1号段 差 高台部	底	5.0			浅黄/夾雑物少量/ 内面から高台脇に灰釉。	江戸時代	
第75図 PL.76	3	瀬戸・美濃 陶器 すり鉢	9区1面1号段 差段差面 口縁部片					灰白/黒色鉱物粒 少量/ 口縁部は外側に折り返されたようにして肥厚する。内面に 櫛目。鎗釉。	17世紀末~ 18世紀前葉 口縁端部凹凸 のある擦れ	
第81図 PL.76	1	肥前陶器 陶胎染付碗	2区東区1面遺 構外 体部下位~高台 部1/3	底	5.4			灰黄褐/夾雑物微 量/ 外面に東屋山水文か。貫入する。体部外面下位顕著な回転 ヘラケズリ。体部外面中位の轆轤目も顕著。	17世紀末~ 18世紀中葉	
第81図 PL.76	2	肥前陶器 陶胎染付碗	4区中区1面遺 構外 1/2	口 底	(11.2) 5.2	高	7.0	灰白/夾雑物少量/ 口唇端面直下に二重の圏線。体部に簡略化した東屋山水文 か。貫入する。	17世紀末~ 18世紀中葉 5点接合	
第81図 PL.76	3	肥前陶器 陶胎染付碗	4区中区1面遺 構外 体部下位~高台 部1/2	底	(4.9)			灰/夾雑物少量/ 体部外面に東屋山水文。高台境、高台に各々一重の圏線。 貫入する。	18世紀後葉~ 19世紀初頭	
第81図 PL.76	4	瀬戸・美濃 陶器 筒形香炉	4区中区1面遺 構外 体部下位~高台 部1/3	底	(6.3)			灰/夾雑物微量/ 残存部外面回転ヘラケズリ。体部外面下位まで鉛釉。底部 外面貼付脚2ヶ所残存。	江戸時代 底部内面不明 墨書	
第81図	5	瀬戸・美濃 陶器 半銅甕	4区北区1面遺 構外 底部片	底	(8.0)			灰黄/夾雑物少量/ 外面回転篋削り。高台は削出し。体部外面に鉛釉。内面鉄 化粧風に鉄釉薄くかかる。	江戸時代	
第81図	6	瀬戸・美濃 陶器 菊皿	5区1面遺構外 口縁部片					灰白/夾雑物微量/ 内面から体部外面に灰釉。口縁部部分的に銅緑釉。内面型 押しによる菊花文。外面は無文。	17世紀後葉~ 18世紀前葉	
第81図 PL.76	7	龍泉窯系青 磁 碗	6区2面遺構外 高台部片	底	(5.5)			灰/夾雑物無/ 内面から高台内周縁に青磁釉。底部器壁は厚い。高台脇を 外面側からの叩打で打ち欠く。	二次加工 15世紀か	
第81図 PL.76	8	肥前陶器 呉器手碗	7-1区1面遺 構外 体部~高台部片	底	(4.7)			淡黄/夾雑物無/ 高台端部を除き貫入の入る透明釉。	17世紀後葉~ 18世紀前葉	
第81図	9	瀬戸・美濃 陶器? すり鉢	7-1区1面遺 構外 体部片					灰黄/粗砂粒少量/ 内面に櫛目。鎗釉。	江戸時代	

第6表 出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	(口)	高	厚			
第81図 PL.76	10	肥前磁器 仏飯器か	9区1面遺構外 口縁部から体部 下位片	口	(7.8)			灰白/夾雑物無/	外面に染付文。	江戸時代
第81図 PL.76	11	瀬戸・美濃 陶器 志野丸皿	9区1面遺構外 口縁部1/4	口 底	(10.8) (6.0)	高	2.2	灰白/夾雑物少量/	内面から高台内に長石釉。貫入入る。	17世紀前葉～ 中葉
第81図 PL.76	12	石製品 石臼(下)	4区北区1面遺 構外 1/2	径 高	32.0 16.2	厚 重	11030.0	粗粒輝石安山岩	上面には挽目の痕跡が明瞭。側面には平鑿の工具痕がわずかに残る。軸孔径約30mm。	近世(18世紀 未以前)

写真図版



1 上信自動車道吾妻西バイパス路線域全景(南西から)



2 厚田中村遺跡所在地全景(南から)



1 調査区西側遠景(東から)



2 調査区東側遠景(南から)



1 1区西区1面全景(東から)



2 1区東区1面全景(東から)

PL.4



1 1区東区1面10号溝全景(北から)



2 1区東区1面10号溝全景(西から)



3 1区東区1面東壁土層断面A-A' (西から)



4 1区西区1面西壁土層断面B-B' (東から)



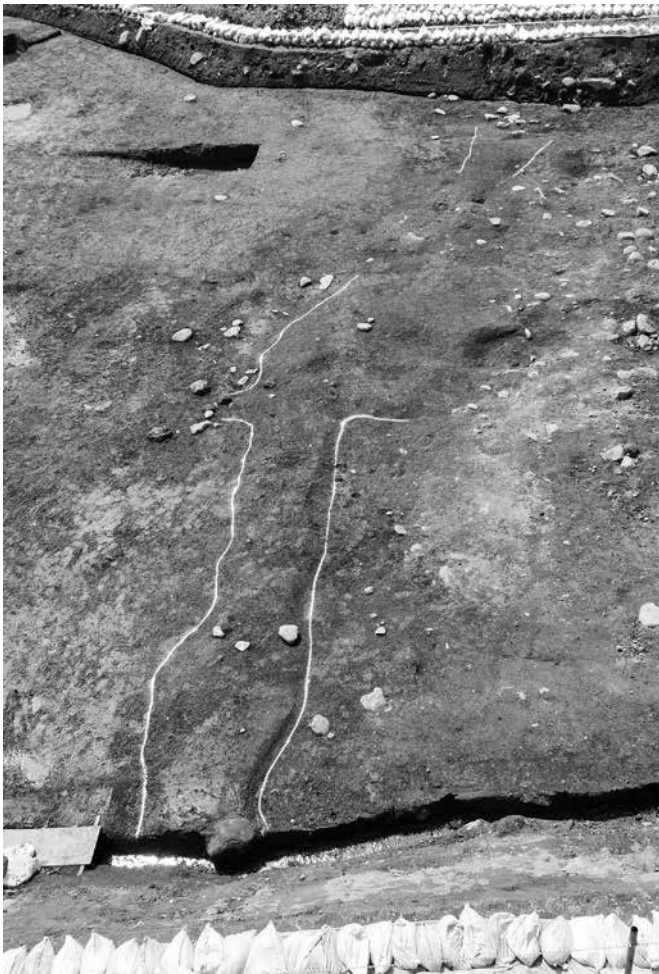
5 2区西区1面全景(南東から)



1 2区西区1面東側1号段差検出状況(北西から)



2 2区西区1面東側1号段差検出状況(北西から)



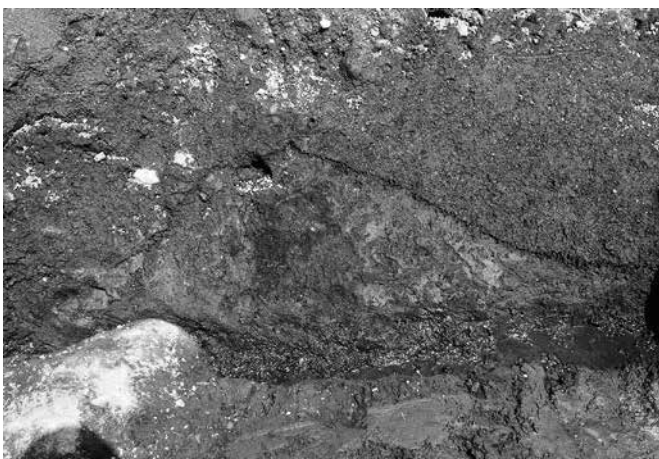
3 2区西区1面西側1号畦畔検出状況(北から)



4 2区西区1面西側1号畦畔検出状況(北から)



5 2区西区1面1号畦畔土層断面A-A'(南から)



6 2区西区1面1号畦畔土層断面A-A'(南から)



7 2区西区1面1号段差杭列A検出状況(北から)



1 2区西区1面1号段差杭列A検出状況(北西から)



2 2区西区1面1号段差杭列A杭出土状況(南から)



3 2区西区1面1号段差杭列A杭出土状況(西から)



4 2区西区1面1号段差杭列A杭出土状況(南から)



5 2区西区1面1号段差杭列A杭出土状況(西から)



6 2区西区1面1号段差杭列B検出状況(北西から)



7 2区西区1面1号段差杭列B検出状況(北から)



8 2区西区1面1号段差杭列B杭出土状況(南から)



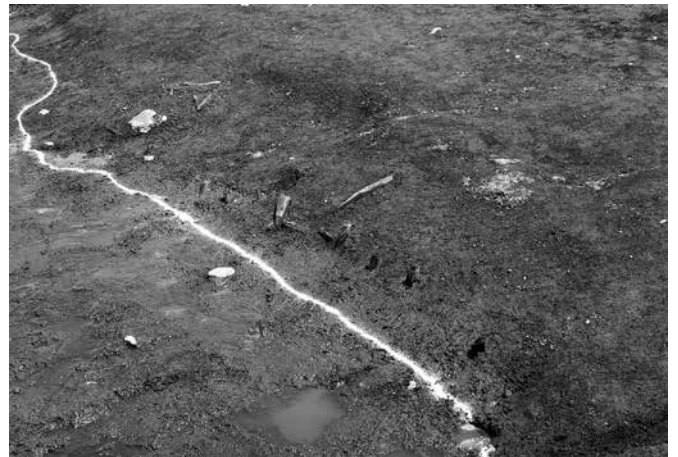
1 2区西区1面1号段差杭列B杭出土状況(北西から)



2 2区西区1面1号段差杭列C検出状況(南から)



3 2区西区1面1号段差杭列C検出状況(北から)



4 2区西区1面1号段差杭列C検出状況(南西から)



5 2区西区1面1号段差杭列C検出状況(北西から)



6 2区西区1面1号段差杭列C検出状況(北から)



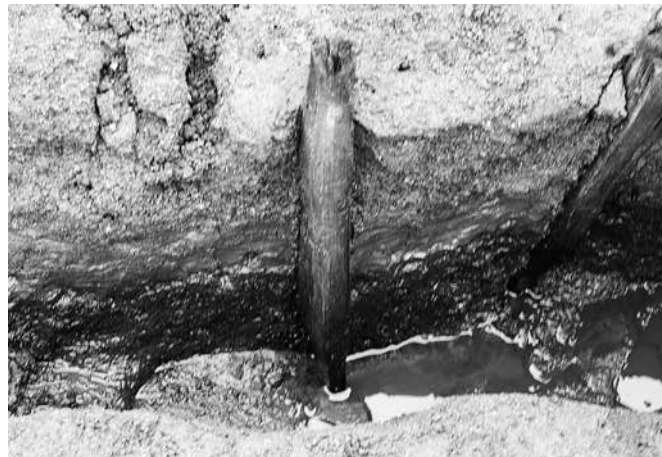
7 2区西区1面1号段差杭列C検出状況(南から)



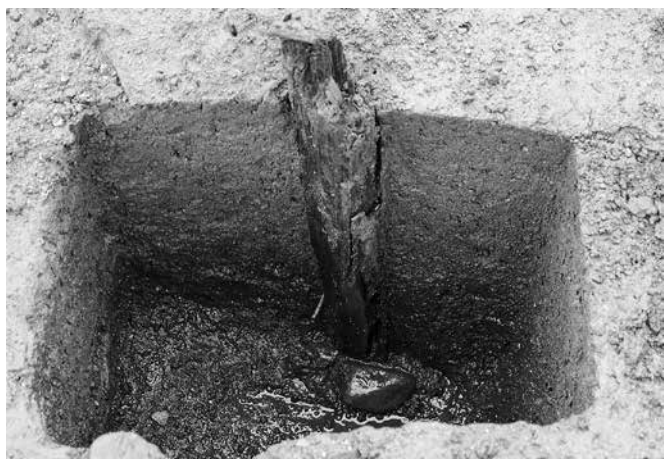
8 2区西区1面1号段差杭列C検出状況(西から)



1 2区西区1面1号段差杭列C検出状況(西から)



2 2区西区1面1号段差杭列C杭出土状況(北西から)



3 2区西区1面杭出土状況(北西から)



4 2区東区1面水田全景(北西から)



5 2区東区1面全景(東から)



1 2区東区1面1号水田検出状況(北西から)



2 2区東区1面2号水田、1号畦畔検出状況(北西から)



3 2区東区1面1・2号水田、1号畦畔検出状況(西から)



4 2区東区1面3号水田、2号畦畔検出状況(北西から)



5 2区東区1面2・3号水田、2・3号畦畔検出状況(西から)



6 2区東区1面2号水田、3号畦畔検出状況(北西から)



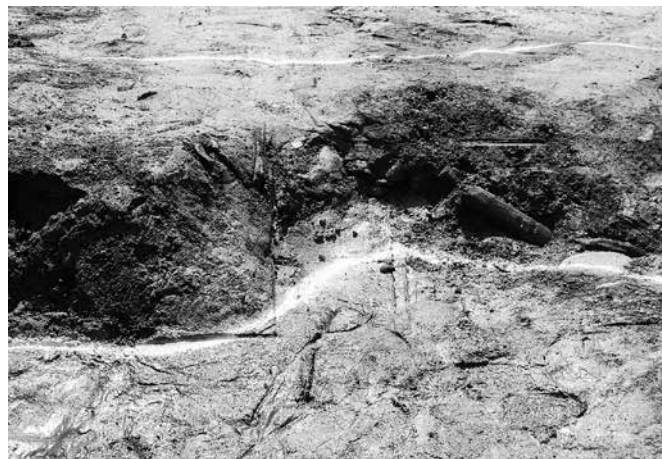
7 2区東区1面3号水田、4号畦畔検出状況(西から)



8 2区東区1面4号水田検出状況(北西から)



1 2区東区1面2号畦畔杭列D検出状況(北西から)



2 2区東区1面2号畦畔杭列D検出状況(北西から)



3 2区東区1面2号畦畔杭列D検出状況(西から)



4 2区東区1面2号畦畔杭列D検出状況(北西から)



5 2区東区2面全景(東から)



1 2区東区2面1・2号畦畔検出状況(東から)



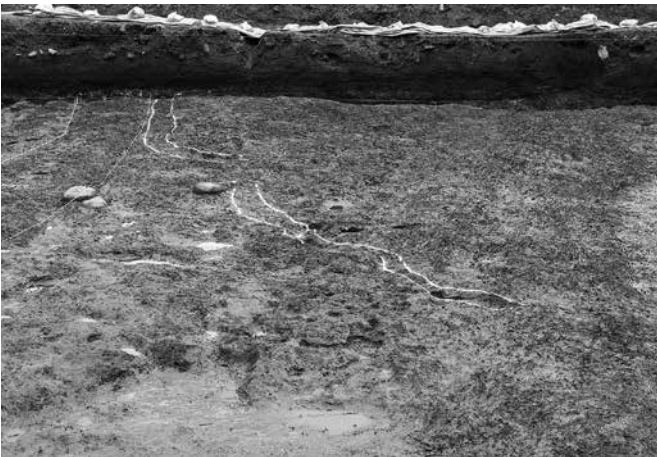
2 2区東区2面1・2号畦畔検出状況(東から)



3 2区東区2面3号畦畔検出状況(東から)



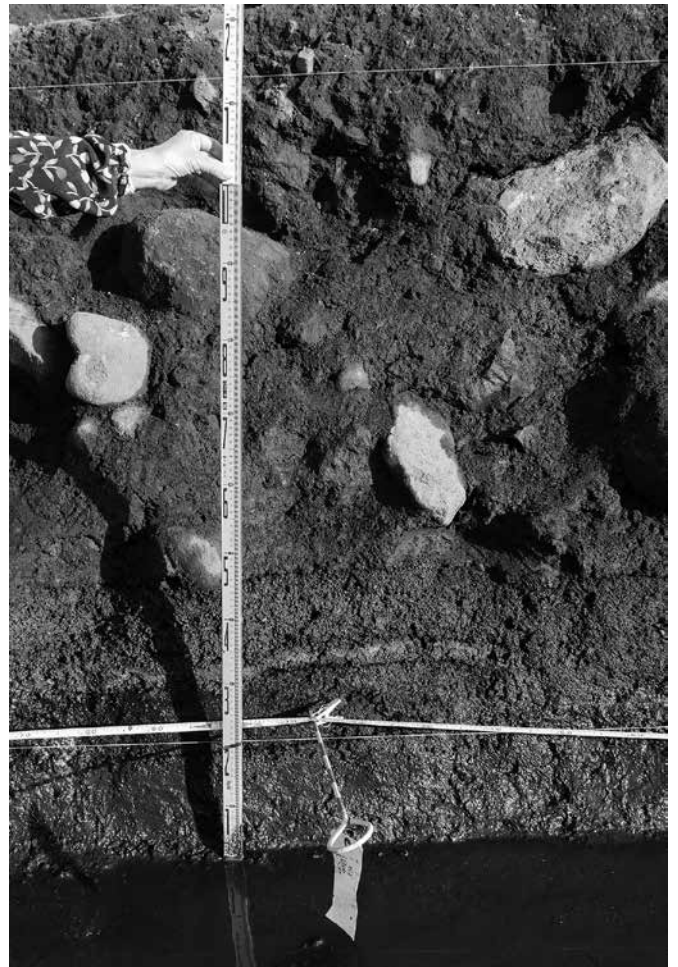
4 2区東区2面3号畦畔、4・5号溝検出状況(西から)



5 2区東区2面3号畦畔、4号溝検出状況(西から)



6 2区東区東壁土層断面A-A' (北西から)



7 2区東区東壁土層断面A-A' (西から)



1 3区西区1面全景(南から)



2 3区東区1面全景(東から)



3 3区東区1面杭列検出状況(北から)



4 3区東区1面杭列検出状況(北から)



1 3区東区1面杭列検出状況(東から)



2 3区東区1面杭列検出状況(北西から)



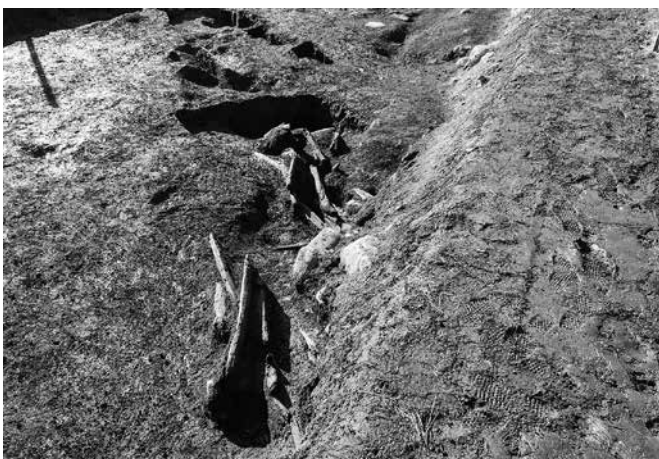
3 3区東区1面杭列検出状況(東から)



4 3区東区1面杭列検出状況(北西から)



5 3区東区1面杭列検出状況(南西から)



6 3区東区1面杭列検出状況(北東から)



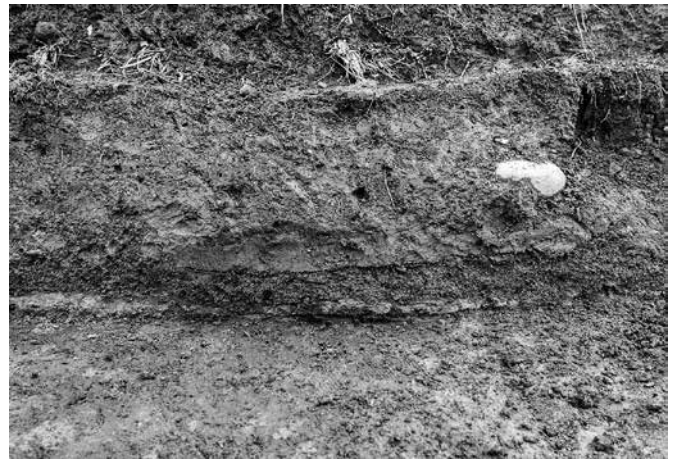
7 3区東区2面全景(西から)



1 3区東区2面全景(東から)



2 3区東区東壁土層断面A-A' (西から)



3 3区東区南壁土層断面B-B' (北から)



4 4区南区1面1号段差堰全景(東から)



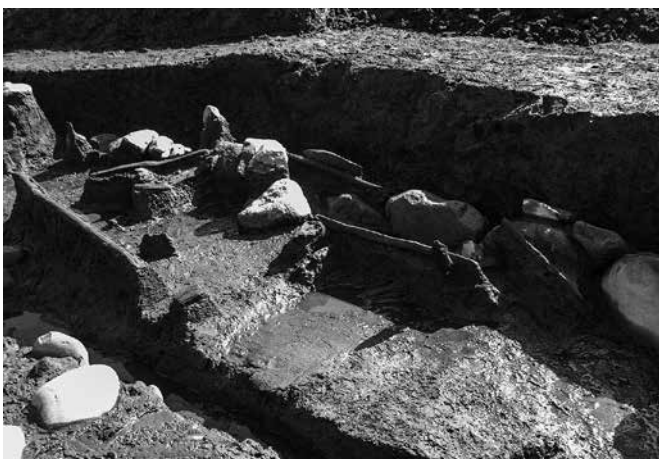
5 4区南区1面1号段差堰検出状況(北東から)



1 4区南区1面全景(東から)



2 4区南区1面1号段差堰検出状況(北から)



3 4区南区1面1号段差堰検出状況(西から)



4 4区南区1面1号段差堰検出状況(北西から)



1 4区南区1面1号段差堰石積検出状況(北東から)



2 4区南区1面1号段差堰石積検出状況(北東から)



3 4区南区1面1号段差石積検出状況(東から)



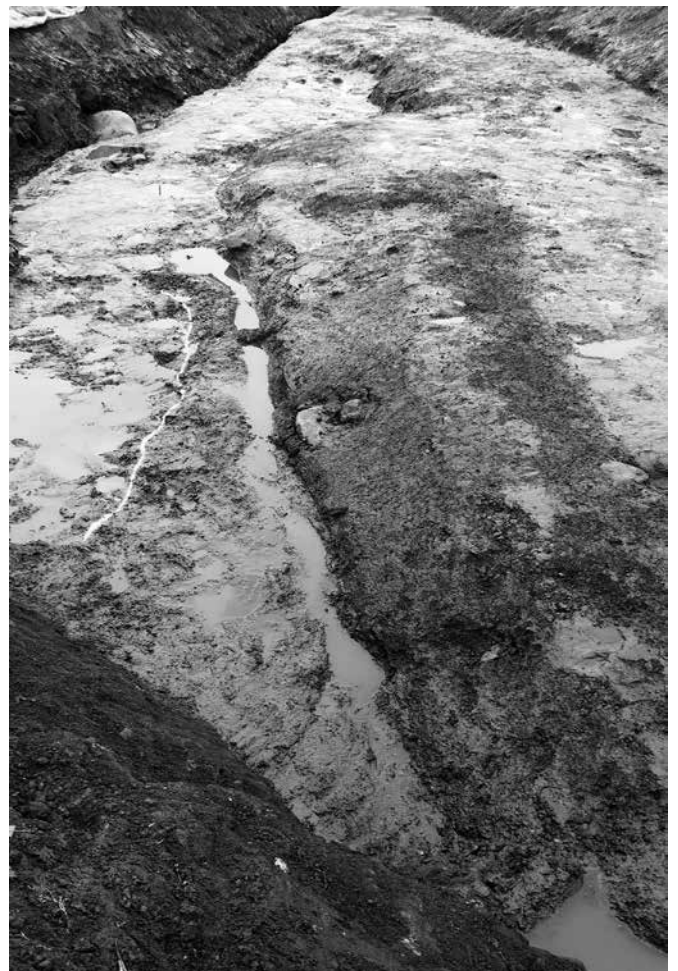
4 4区南区1面1号段差杭出土状況(西から)



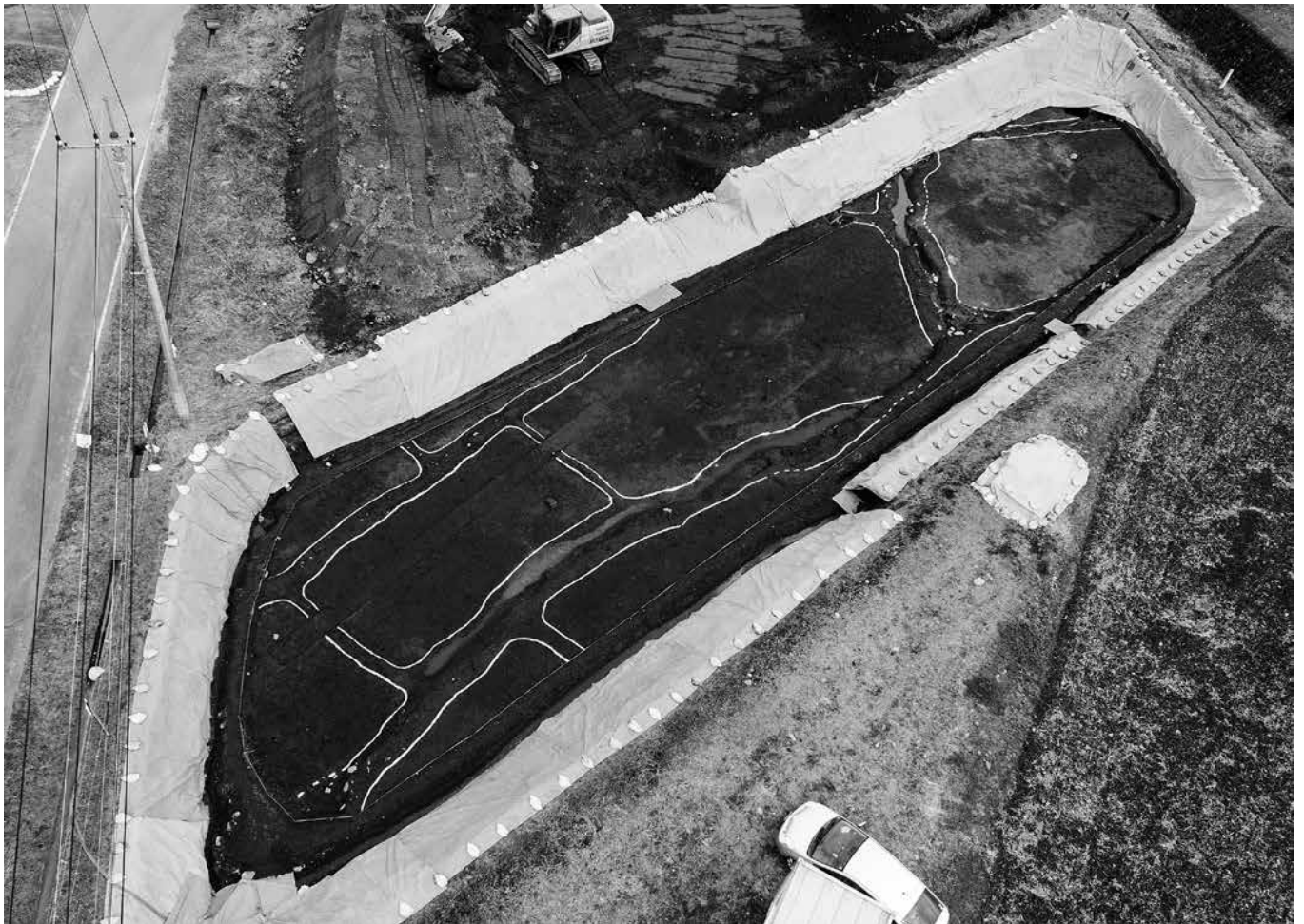
5 4区南区1面1号段差杭出土状況(西から)



6 4区南区1面1号段差杭出土状況(北東から)



7 4区南区1面11号溝全景(西から)



1 4区中区1面全景(南から)



2 4区中区1面1～5・7・8号水田、1～5・7～9号畦畔検出状況(東から)



1 4区中区1面1・2・4号水田、4号畦畔検出状況(西から)



2 4区中区1面5・6号水田、5号畦畔検出状況(東から)



3 4区中区1面6号水田検出状況(東から)



4 4区中区1面3・4・7・8号水田、1・2号畦畔検出状況(西から)



5 4区中区1面1号畦畔芯材出土状況(南から)



6 4区中区1面1号畦畔芯材出土状況(南から)



7 4区中区1面1号畦畔芯材出土状況(南から)



8 4区中区1面1号畦畔芯材出土状況(南から)



1 4区中区1面1号段差、4号畦畔芯材出土状況(北から)



2 4区中区1面1号段差、4号畦畔芯材出土状況(北から)



3 4区中区1面1号段差、4号畦畔芯材出土状況(北から)



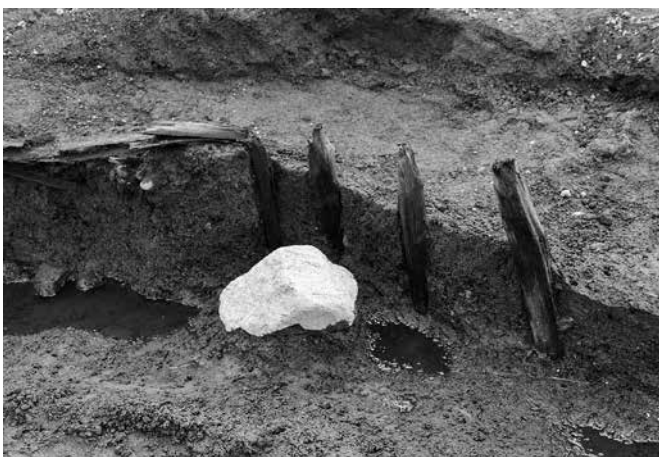
4 4区中区1面1号段差、4号畦畔芯材出土状況(北から)



5 4区中区1面1号段差、4号畦畔芯材出土状況(北から)



6 4区中区1面1号段差、4号畦畔芯材出土状況(北から)



7 4区中区1面1号段差、4号畦畔芯材出土状況(北から)



8 4区中区1面1号段差、4号畦畔芯材出土状況(北から)



1 4区中区1面2号溝、5号畦畔芯材出土状況(北から)



2 4区中区1面2号段差、6号畦畔芯材出土状況(西から)



3 4区中区1面2号段差、6号畦畔芯材出土状況(西から)



4 4区中区1面2号段差、6号畦畔芯材出土状況(北から)



5 4区中区1面1号溝、4号畦畔検出状況(西から)



6 4区中区1面1号溝、4号畦畔検出状況(東から)



7 4区中区1面1号溝、4号畦畔検出状況(東から)



8 4区中区1面1号溝、4号畦畔検出状況(東から)



1 4区中区1面2号溝、5号畦畔検出状況(東から)



2 4区中区1面2号溝、5号畦畔検出状況(北西から)



3 4区中区1面2号溝、5号畦畔検出状況(北西から)



4 4区中区1面2号溝、6号畦畔検出状況(東から)



5 4区中区1面2号溝湧水点検出状況(北から)



1 4区中区1面2号溝湧水点検出状況(北から)



2 4区中区1面2号溝湧水点検出状況(北から)



3 4区中区1面2号溝湧水点検出状況(北から)



4 4区中区1面2号水田遺物出土状況(南から)



1 4区北区1面全景(南から)



2 4区北区1面全景(北西から)



1 4区北区1面3号段差杭列A検出状況(北西から)



2 4区北区1面3号段差杭列B検出状況(北西から)



3 4区北区1面3号段差杭列B検出状況(北西から)



4 4区北区1面3号段差石積検出状況(北西から)



5 4区北区1面3号段差石積検出状況(北西から)



6 4区北区1面白玉、馬銜出土状況(北西から)



7 4区北区1面馬銜出土状況(北西から)



8 4区北区1面爛鍋出土状況(西から)



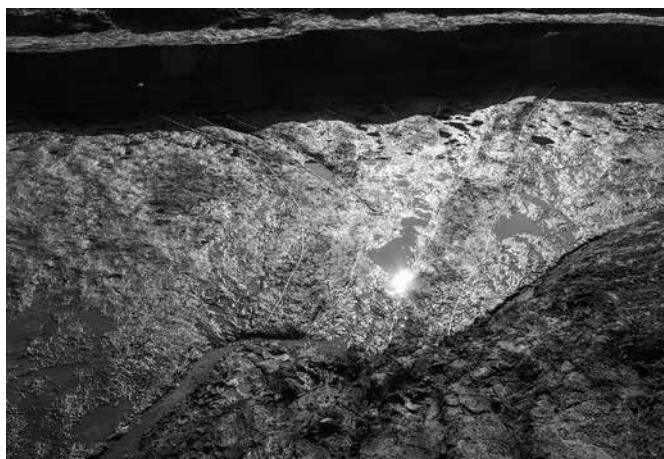
1 4区南区2面全景(北から)



2 4区南区2面1～4号畦畔検出状況(西から)



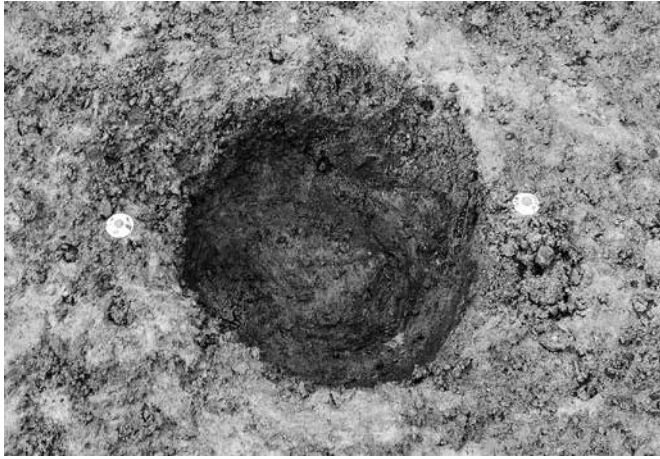
3 4区南区2面1～4号畦畔検出状況(北から)



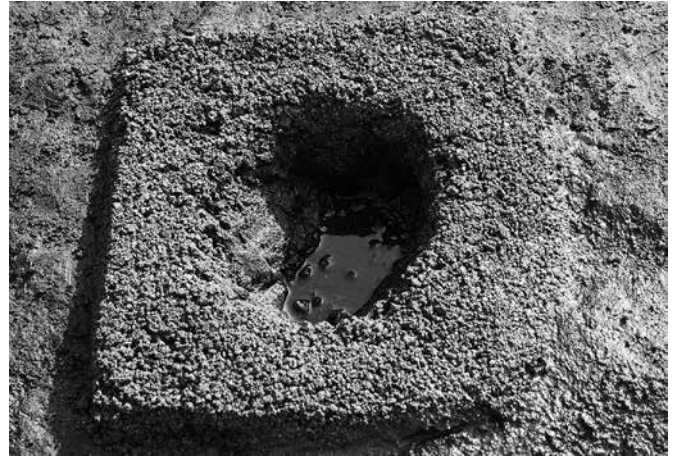
4 4区南区2面1～4号畦畔検出状況(北から)



5 4区南区2面南壁付近1～3号畦畔検出状況(北から)



1 4区南区2面18号ピット全景(南から)



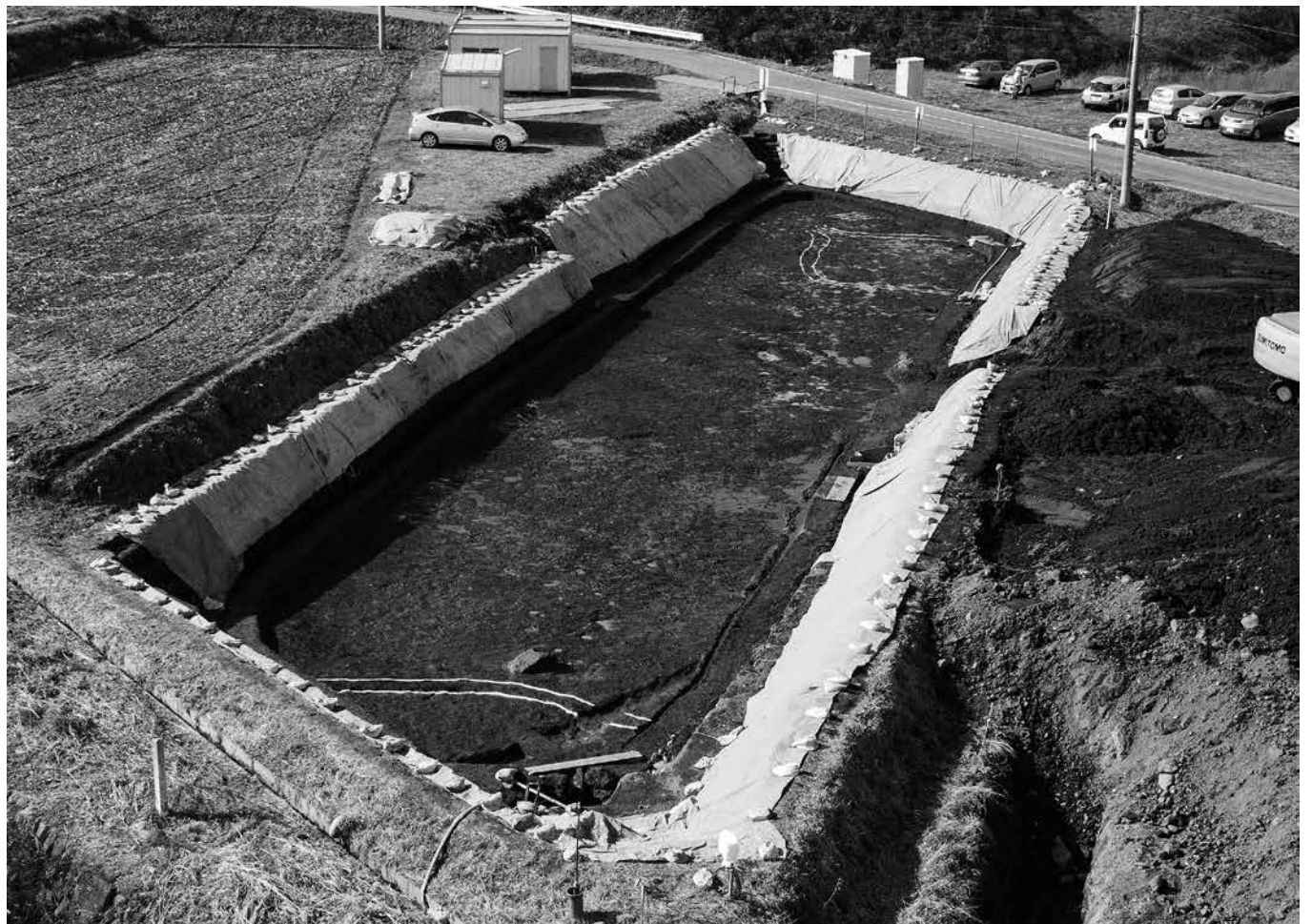
2 4区南区2面19号ピット全景(北から)



3 4区南区南壁土層断面A-A' (北から)



4 4区南区南壁土層断面A-A' (北から)



5 4区中区2面全景(東から)



1 4区中区2面西側11～13号水田、1～3号畦畔検出状況(南から)



2 4区中区2面東側14号水田、4号畦畔検出状況(東から)



1 4区中区2面東側14号水田、4号畦畔検出状況(北から)



2 4区中区2面東側14号水田、4号畦畔検出状況(北から)



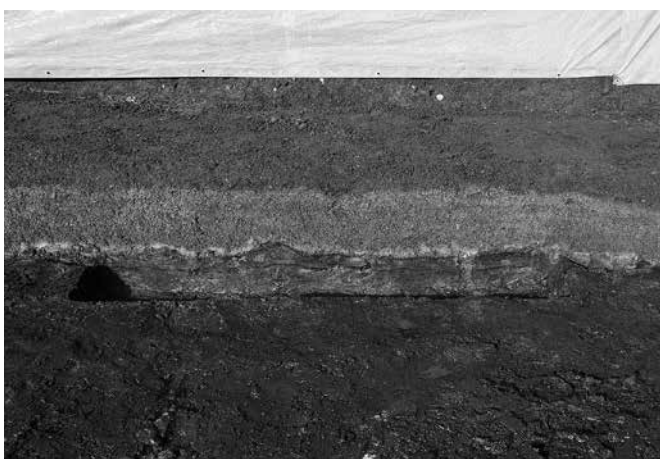
3 4区中区2面東側14号水田、4号畦畔検出状況(北から)



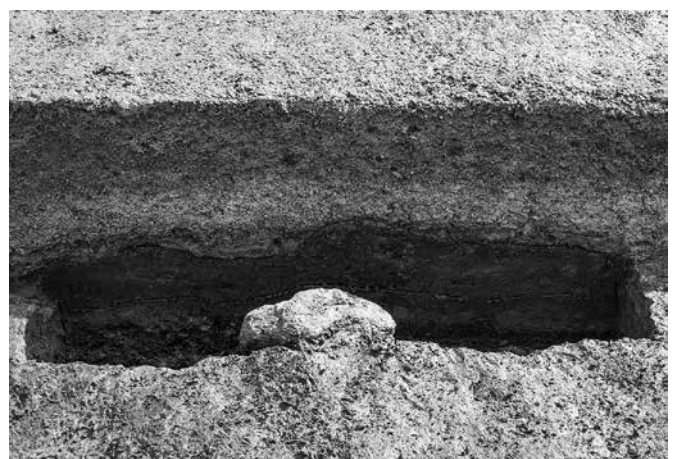
5 4区中区2面下確認調査試掘坑全景(西から)



4 4区中区2面北壁土層断面C-C' (南から)



6 4区中区2面下確認調査試掘坑土層断面(東から)



7 4区中区2面下確認調査試掘坑土層断面(西から)



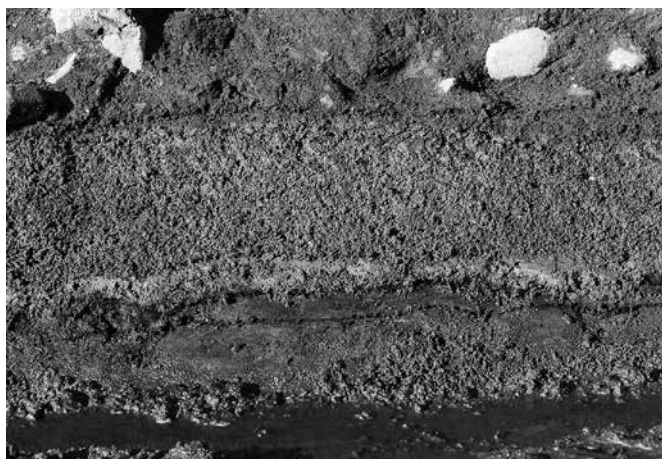
1 4区北区2面全景(南から)



2 4区北区2面水田検出状況(北西から)



1 4区北区北壁土層断面B-B' (南から)



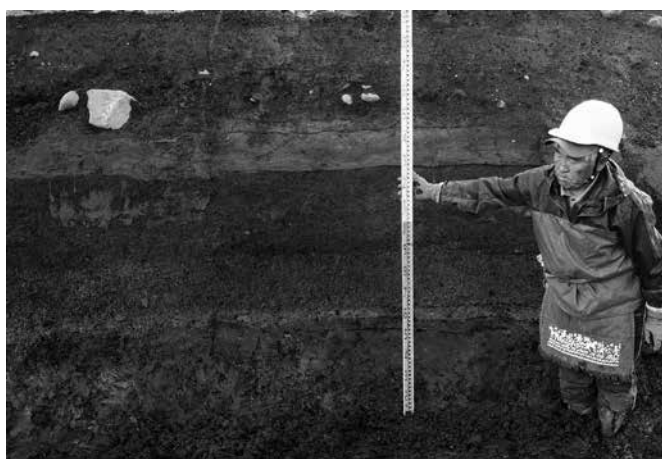
2 4区北区北壁土層断面B-B' (南から)



3 4区北区北壁土層断面B-B' (南から)



4 4区北区東壁土層断面D-D' (西から)



5 4区北区南壁土層断面F-F' (北から)



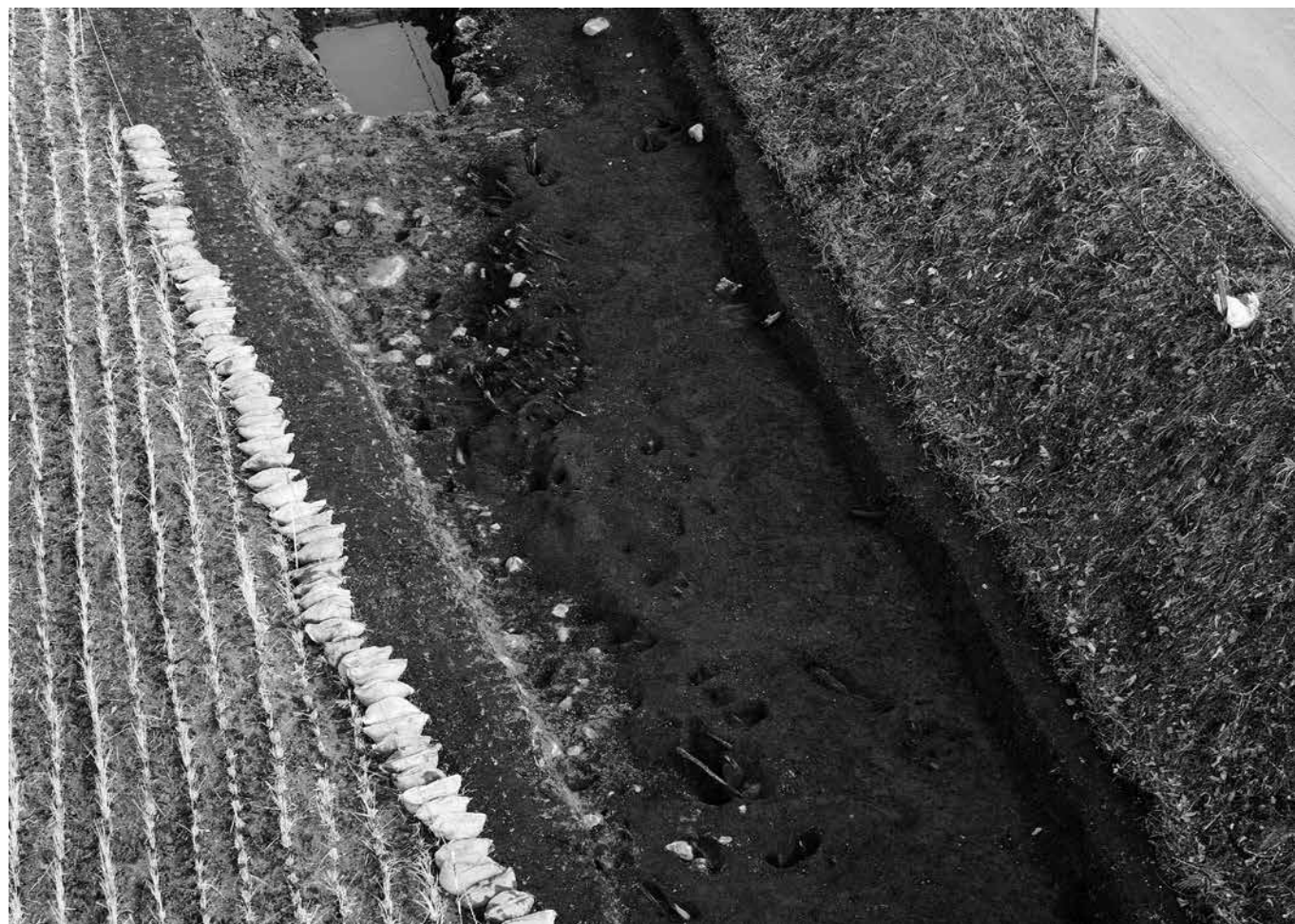
6 4区北区南壁土層断面E-E' (北から)



1 5区1面全景(西から)



2 5区1面1号段差杭列検出状況(西から)



3 5区1面1号段差杭列検出状況(西から)



1 5区1面1号段差杭列検出状況(西から)



2 5区1面1号段差杭列検出状況(南東から)



3 5区1面1号段差杭列検出状況(南東から)



4 5区1面1号段差杭列検出状況(西から)



5 5区1面1号段差杭列検出状況(西から)



1 5区2面全景(西から)



2 5区北壁土層断面C-C' (南から)



3 6区遠景(西から)



4 6区1面全景(東から)



1 6区1面全景(西から)



2 6区1面2・4・5・6号水田、1号畦畔検出状況(西から)



1 6区1面2・3・5号水田、1・2号畦畔検出状況(西から)



2 6区1面2・3・5号水田、2号畦畔検出状況(西から)



3 6区1面4号段差石組検出状況(北東から)



4 6区1面4号段差石組検出状況(北から)



5 6区1面4号段差杭列A検出状況(南西から)



1 6区1面4号段差杭列A検出状況(南西から)



2 6区1面4号段差杭列A検出状況(西から)



3 6区1面4号段差杭列A検出状況(東から)



4 6区1面3号水田杭列B検出状況(西から)



5 6区1面3号水田杭列B検出状況(西から)



6 6区北壁土層断面A-A' (南西から)



7 6区南壁土層断面B-B' (北から)



8 6区西壁土層断面C-C' (東から)



1 6区2面全景(西から)



2 6区2面12号溝検出状況(北から)



3 6区2面12号溝検出状況(北から)



4 6区2面12号溝土層断面A-A' (北から)



5 7区遠景(東から)



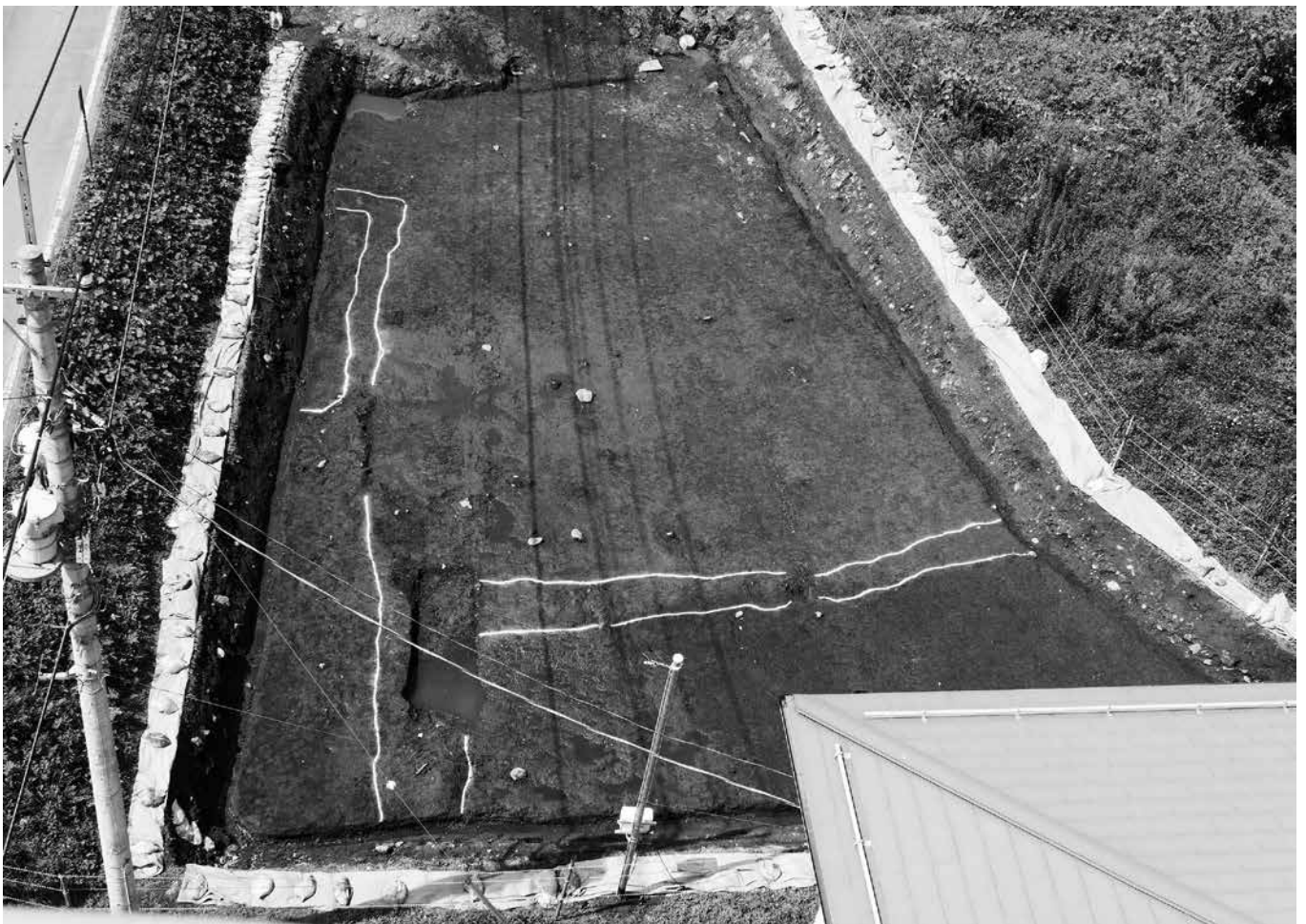
1 7～9区遠景(東から)



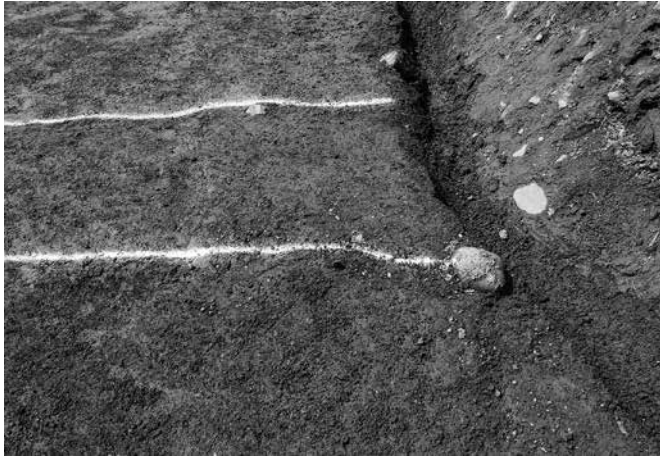
2 7～9区遠景(南から)



1 7-1区1面全景(南西から)



2 7-1区1面全景(東から)



1 7-1区1面1号畦畔検出状況(東から)



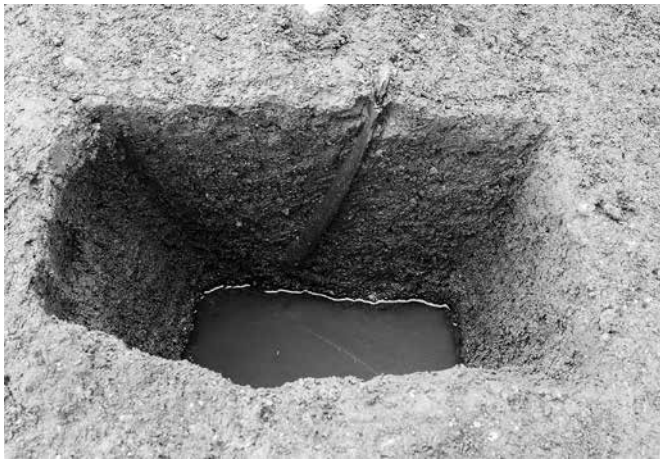
2 7-1区1面1号畦畔検出状況(東から)



3 7-1区1面1号畦畔検出状況(東から)



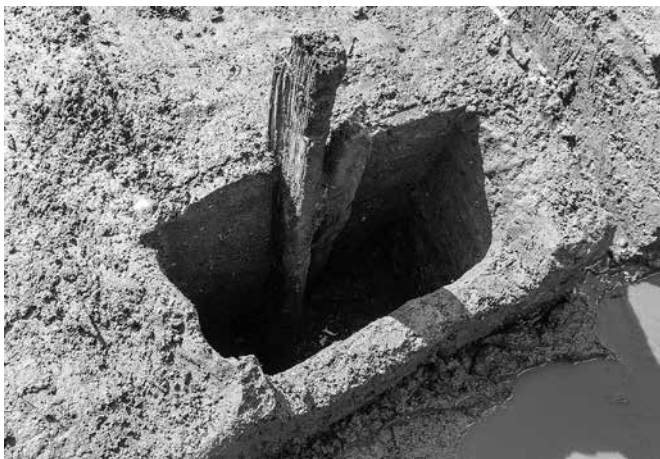
4 7-1区1面1号畦畔検出状況(東から)



5 7-1区1面杭出土状況(南から)



6 7-1区1面杭出土状況(南東から)



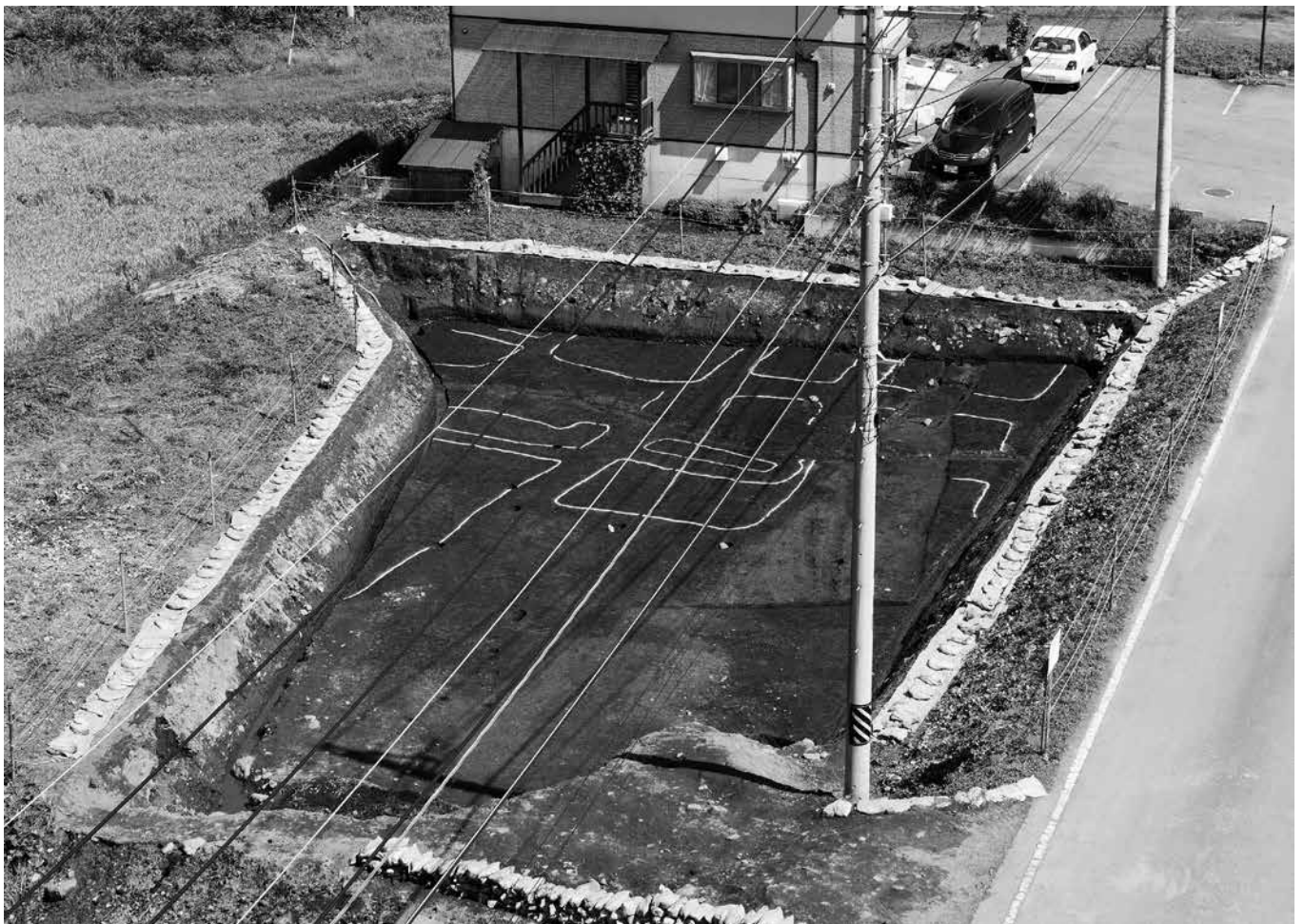
7 7-1区1面杭出土状況(東から)



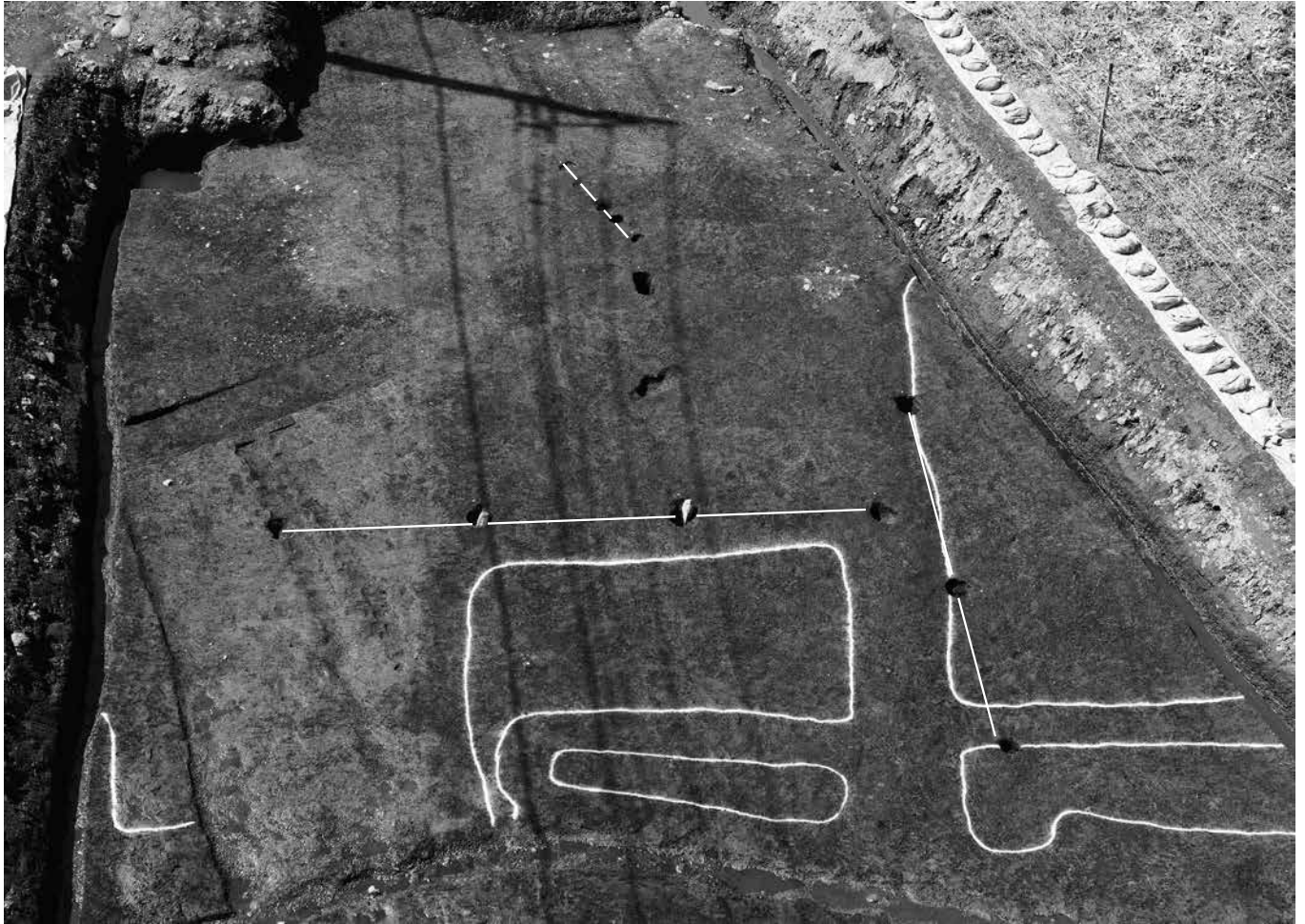
8 7-1区東壁土層断面A-A' (西から)



1 7-1区2面全景(東から)



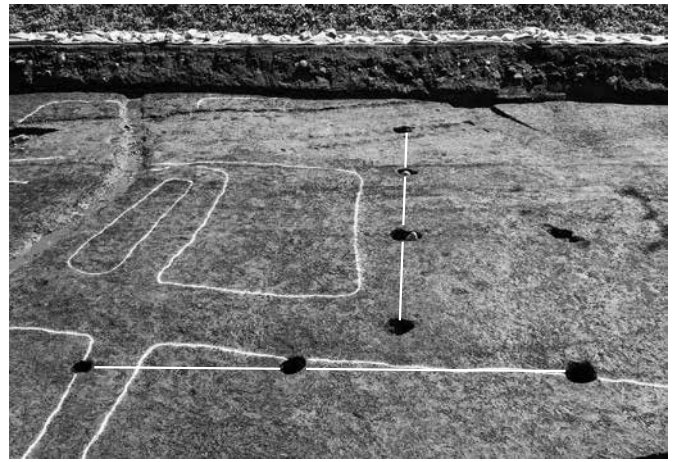
2 7-1区2面全景(南西から)



1 7-1区2面7・8・11・12・15号水田、1～3号柱穴列、6・7号ピット検出状況(東から)



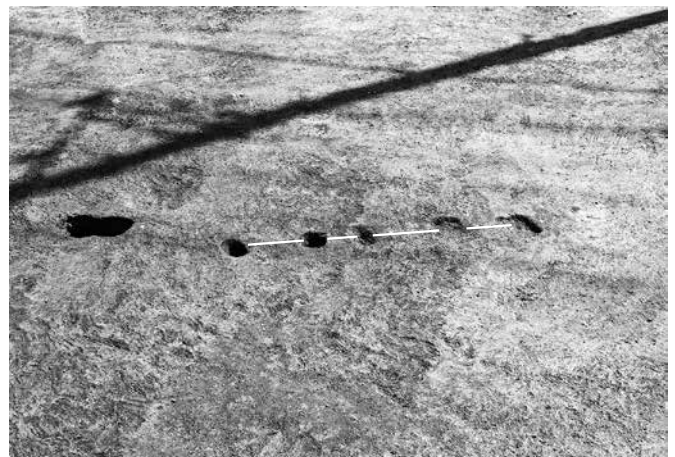
2 7-1区2面6～8・11・12号水田、2・4号柱穴列検出状況(東から)



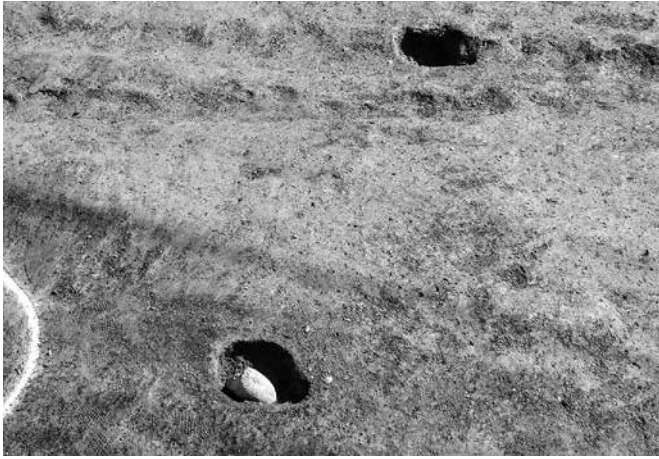
3 7-1区2面7・8・11・12号水田、2・3号柱穴列検出状況(北から)



4 7-1区2面4～7・9～11号水田、4号柱穴列検出状況(北から)



5 7-1区2面1号柱穴列、6・7号ピット検出状況(北から)



1 7-1区2面3号柱穴列P3・4検出状況(北から)



2 7-1区2面1号溝検出状況(南から)



3 7-1区2面2号溝検出状況(東から)



4 7-1区2面畠耕作痕検出状況(東から)



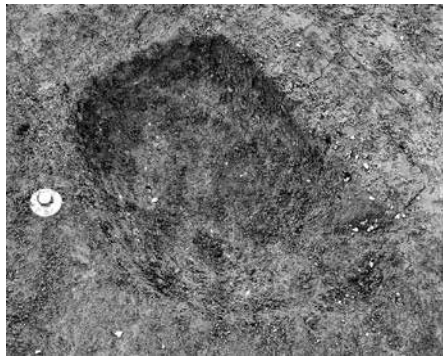
5 7-1区2面畠耕作痕検出状況(北から)



6 7-1区2面畠耕作痕検出状況(西から)



7 7-1区南壁土層断面B-B' (北から)



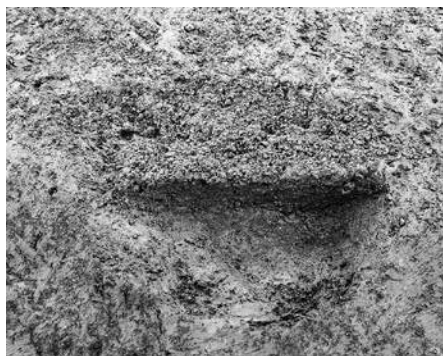
1 7-1区2面1号柱穴列P 1全景(南から)



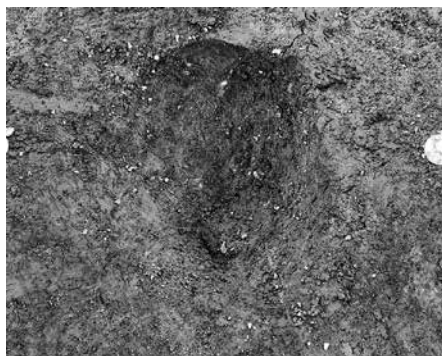
2 7-1区2面1号柱穴列P 1土層断面A-A' (南から)



3 7-1区2面1号柱穴列P 2全景(南から)



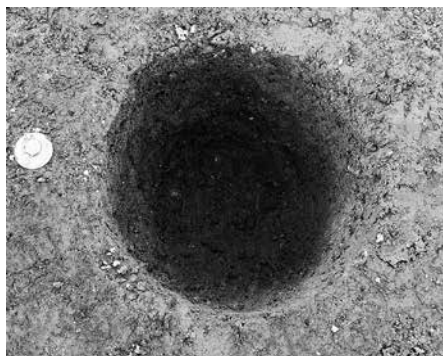
4 7-1区2面1号柱穴列P 2土層断面A-A' (南から)



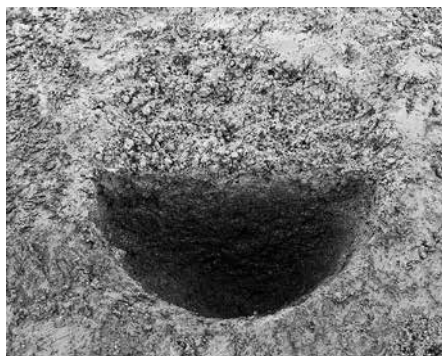
5 7-1区2面1号柱穴列P 3全景(南から)



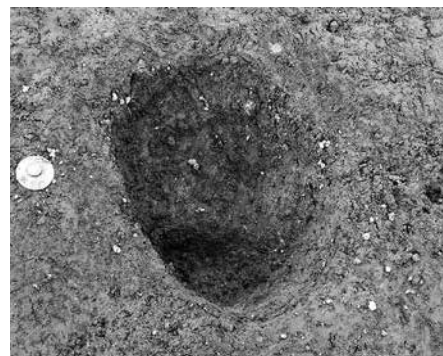
6 7-1区2面1号柱穴列P 3土層断面A-A' (南から)



7 7-1区2面1号柱穴列P 4全景(南から)



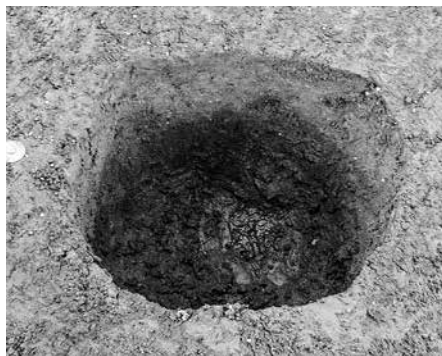
8 7-1区2面1号柱穴列P 4土層断面A-A' (南から)



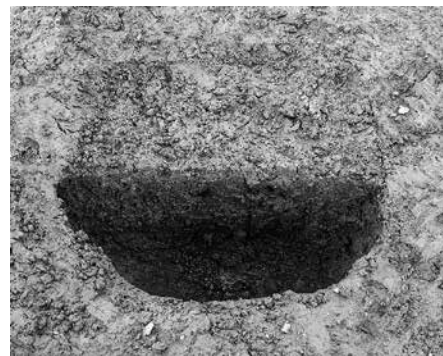
9 7-1区2面1号柱穴列P 5全景(南から)



10 7-1区2面1号柱穴列P 5土層断面A-A' (南から)



11 7-1区2面2号柱穴列P 1全景(南から)



12 7-1区2面2号柱穴列P 1土層断面A-A' (南から)



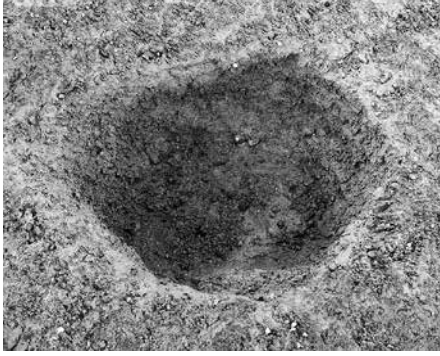
13 7-1区2面2号柱穴列P 2全景(南から)



14 7-1区2面2号柱穴列P 2土層断面A-A' (南から)



15 7-1区2面2号柱穴列P 3全景(西から)



1 7-1区2面3号柱穴列P 1 全景(南から)



2 7-1区2面3号柱穴列P 2 全景(南から)



3 7-1区2面3号柱穴列P 2 土層断面A-A' (南から)



4 7-1区2面3号柱穴列P 3 全景(南から)



5 7-1区2面3号柱穴列P 3 土層断面A-A' (南から)



6 7-1区2面3号柱穴列P 4 全景(西から)



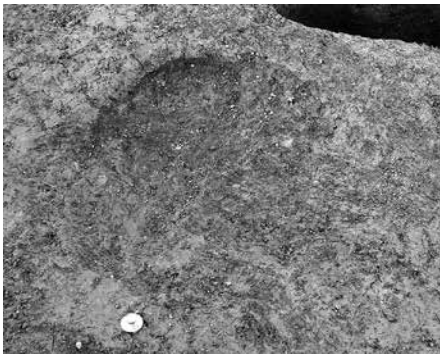
7 7-1区2面4号柱穴列P 1 全景(西から)



8 7-1区2面4号柱穴列P 2 全景(西から)



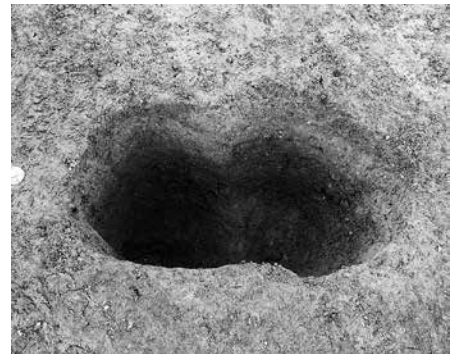
9 7-1区2面4号柱穴列P 3 全景(西から)



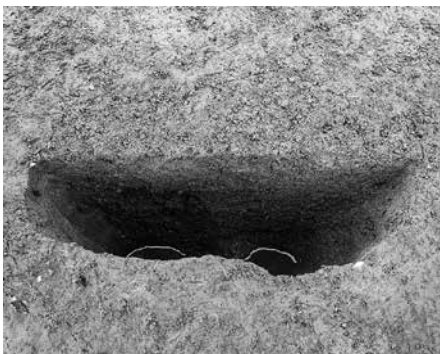
10 7-1区2面6号ピット全景(南から)



11 7-1区2面6号ピット土層断面A-A' (西から)



12 7-1区2面7号ピット全景(南から)



13 7-1区2面7号ピット土層断面A-A' (南から)



1 7-2区 2面全景(北から)



2 7-2区 2面全景(東から)



1 7-2区2面全景(北西から)



2 7-2区2面13号溝及び足跡検出状況(東から)



3 7-2区2面13号溝及び足跡検出状況(北西から)



4 7-2区2面13号溝土層断面C-C' (西から)



5 7-2区2面13号溝土層断面D-D' (西から)



1 7-2区2面水田畦畔土層断面A-A' (西から)



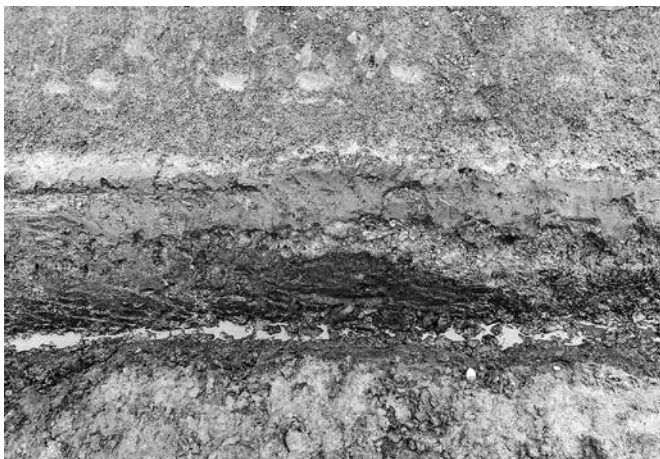
2 7-2区2面水田畦畔土層断面A-A' (西から)



3 7-2区東壁土層断面A-A' (西から)



4 7-2区東壁土層断面A-A' (西から)



5 7-2区東壁土層断面A-A' (西から)



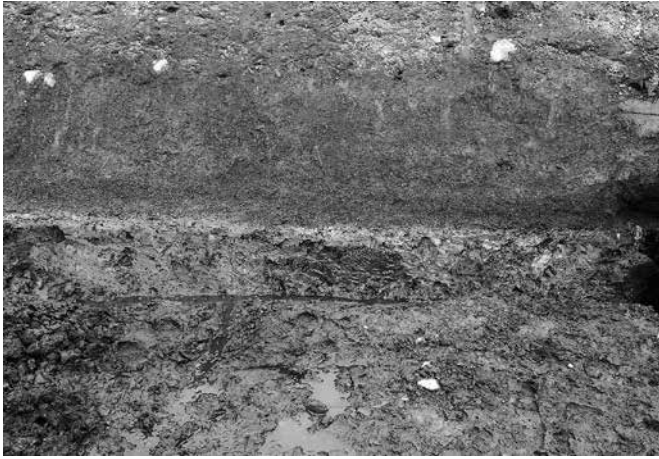
6 7-2区東壁土層断面A-A' (西から)



7 7-2区東壁土層断面A-A' (西から)



8 7-2区北壁土層断面B-B' (南から)



1 7-2区北壁土層断面B-B' (南から)



2 7-2区北壁土層断面B-B' (南から)



3 8-1区1面全景(西から)



4 8-1区1面6・7号水田、5～7号畦畔検出状況(西から)



5 8-1区1面3・4号水田、2・3号畦畔検出状況(東から)



1 8-1区1面6号水田、5号畦畔検出状況(東から)



2 8-1区1面3号溝杭列A検出状況(北西から)



3 8-1区1面3号溝杭列A全景(北西から)



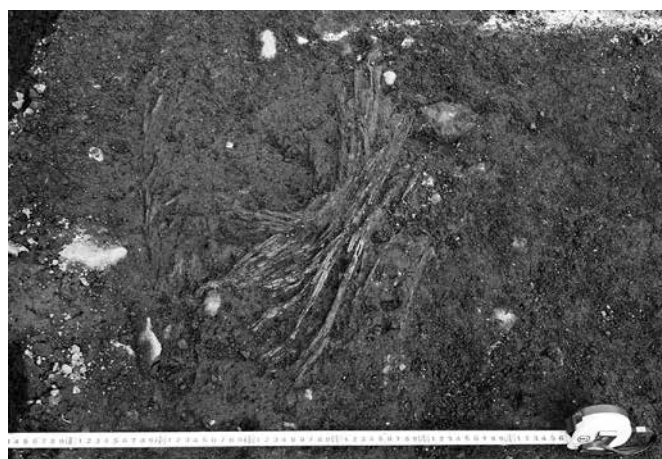
4 8-1区1面3号溝杭列A検出状況(北西から)



5 8-1区1面3号溝杭列A検出状況(北西から)



6 8-1区1面3号溝土層断面A-A'(北西から)



7 8-1区1面4号水田植物遺存体1出土状況(西から)



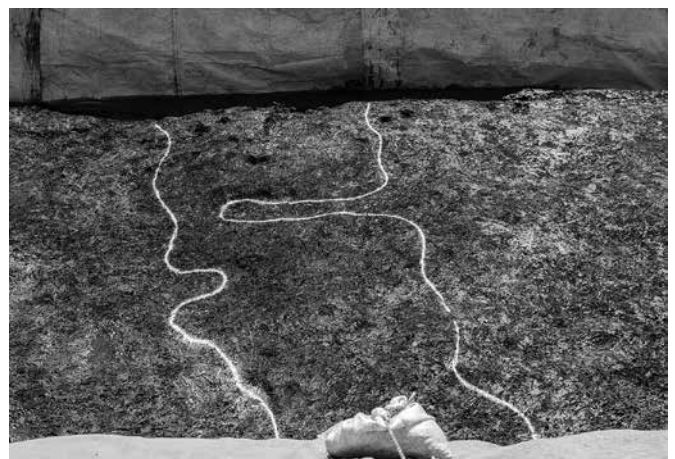
1 8-1区2面全景(西から)



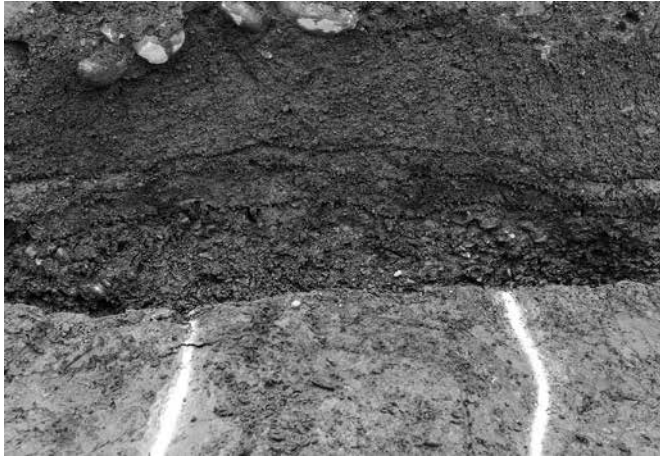
2 8-1区2面1号畦畔、6～9・20・21号溝検出状況(西から)



3 8-1区2面1号畦畔検出状況(西から)



4 8-1区2面2号畦畔検出状況(北から)



1 8-1区2面1号畦畔土層断面A-A' (東から)



2 8-1区2面杭列B杭出土状況(南東から)



3 8-1区2面杭列B杭出土状況(北西から)



4 8-1区2面杭列B杭出土状況(北西から)



5 8-1区2面杭列B杭出土状況(南東から)



6 8-1区2面杭列B杭出土状況(北西から)



7 8-1区2面杭列B杭出土状況(南西から)



8 8-1区2面杭列B杭出土状況(北西から)



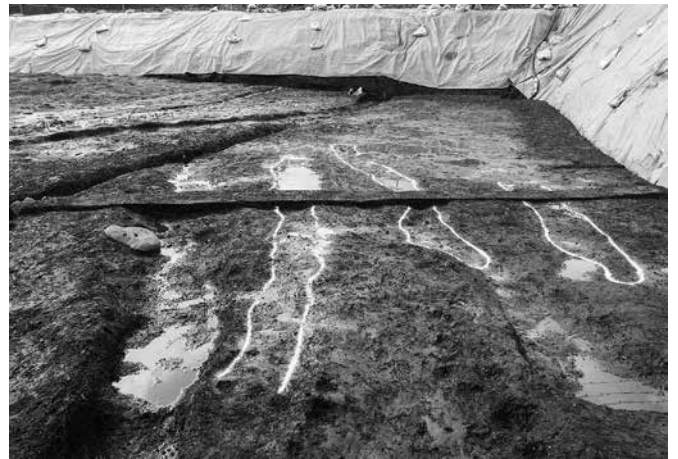
1 8-1区2面杭列B杭出土状況(北西から)



2 8-1区2面杭列B杭出土状況(南西から)



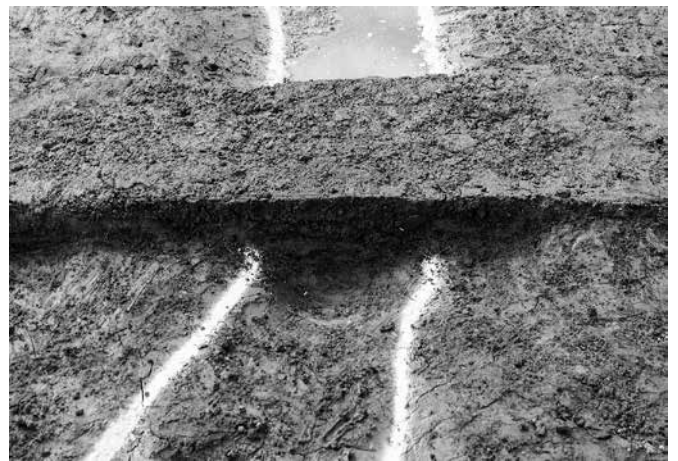
3 8-1区2面8・9・20・21号溝検出状況(西から)



4 8-1区2面8・9・20・21号溝検出状況(東から)



5 8-1区2面8号溝土層断面D-D' (東から)



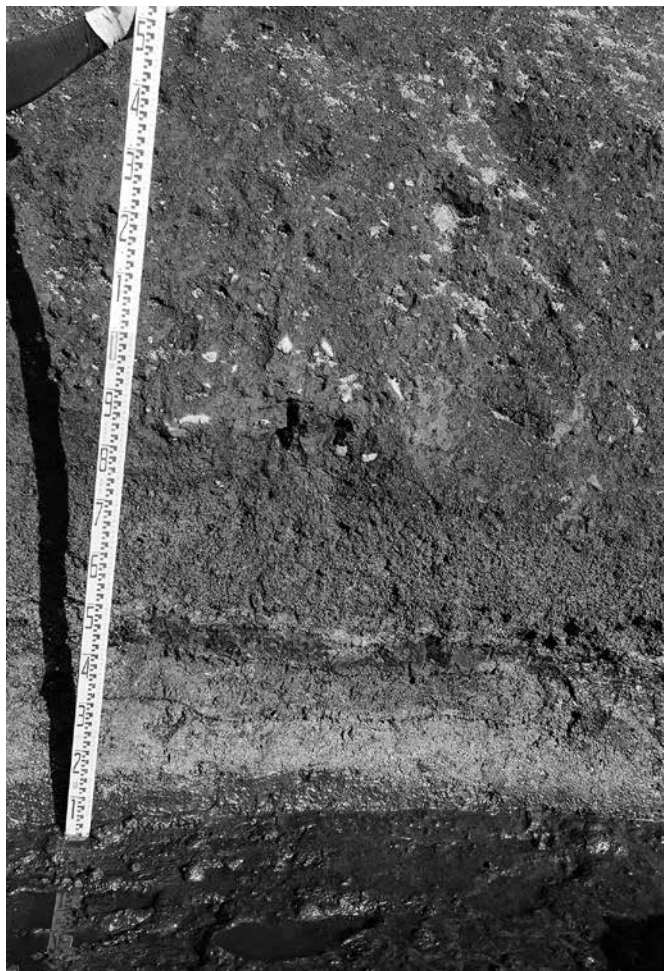
6 8-1区2面9号溝土層断面E-E' (東から)



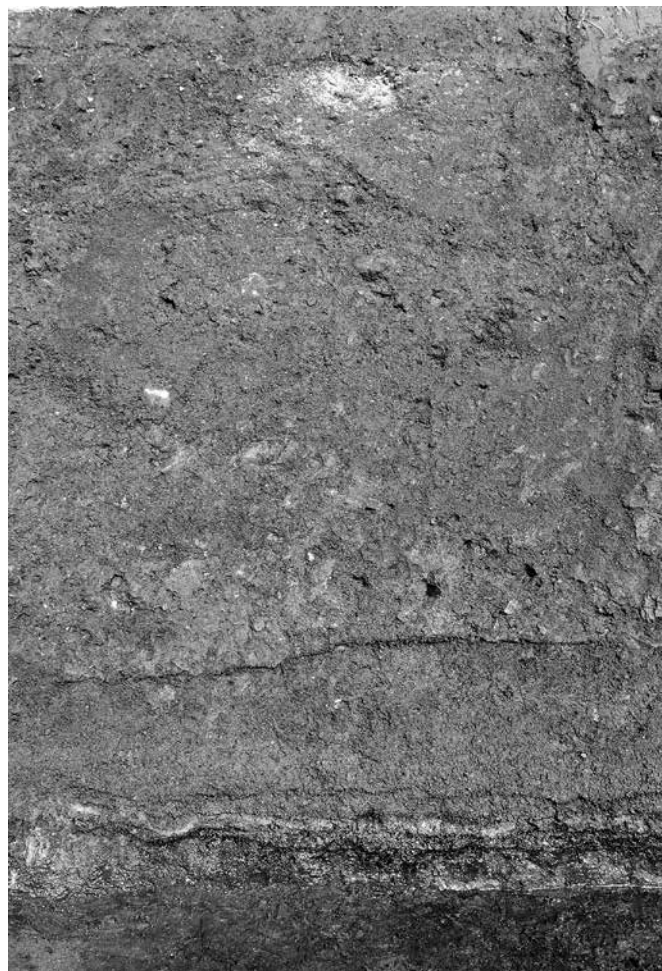
7 8-1区2面20号溝土層断面F-F' (東から)



8 8-1区2面21号溝土層断面G-G' (東から)



1 8-1区東壁土層断面B-B' (西から)



2 8-1区北壁土層断面C-C' (南から)



3 8-2区・9区全景(南から)



1 8-2区1面全景(北から)



2 8-2区1面下全景(北から)



1 8-2区1面1号水田、1号段差検出状況(北から)



2 8-2区1面1号水田検出状況(北から)



3 8-2区1面2号水田検出状況(北から)



4 8-2区1面1号段差杭列検出状況(東から)



5 8-2区1面1号段差杭列検出状況(北から)



6 8-2区1面1号段差杭列検出状況(西から)



7 8-2区1面1号段差杭列検出状況(東から)



8 8-2区1面1号段差検出状況(北から)



1 8-2区1面1号段差検出状況(北から)



2 8-2区1面西壁天明泥流検出状況B-B' (東から)



3 8-2区1面1号段差杭列検出状況(北から)



4 8-2区1面1号段差杭列検出状況(東から)



5 8-2区1面1号段差杭列検出状況(東から)



6 8-2区1面1号段差杭列杭出土状況(東から)



7 8-2区1面1号段差杭列杭出土状況(東から)



8 8-2区1面1号段差杭列杭出土状況(東から)



1 8-2区1面1号段差杭列検出状況(東から)



2 8-2区1面1号段差杭列検出状況(北から)



3 8-2区1面1号段差杭列検出状況(北から)



4 8-2区1面1号段差杭列杭出土状況(西から)



5 8-2区1面1号段差杭列杭出土状況(西から)



6 8-2区1面1号段差杭列杭出土状況(南から)



7 8-2区1面1号段差杭列杭出土状況(南から)



8 8-2区1面1号段差杭列杭出土状況(南から)



1 8-2区1面1号段差杭列杭出土状況(南から)



2 8-2区1面1号段差杭列杭出土状況(南から)



3 8-2区1面1号段差杭列杭出土状況(西から)



4 8-2区1面1号段差杭列杭出土状況(西から)



5 8-2区1面1号段差杭列杭出土状況(西から)



6 8-2区1面1号段差杭列杭出土状況(西から)



7 8-2区1面1号段差杭列杭出土状況(西から)



8 8-2区1面1号段差杭列杭出土状況(南西から)



1 8-2区1面1号段差杭列杭出土状況(西から)



2 8-2区1面2号段差検出状況(西から)



3 8-2区1面2号段差杭出土状況(北から)



4 8-2区1面2号段差杭出土状況(東から)



5 8-2区1面2号段差杭出土状況(東から)



6 8-2区1面天明泥流中炭化材出土状況(北から)



7 8-2区1面下水田土層断面A-A' (西から)



8 8-2区1面下15号溝土層断面A-A' (南から)



1 8-2区1面下水田検出状況(西から)



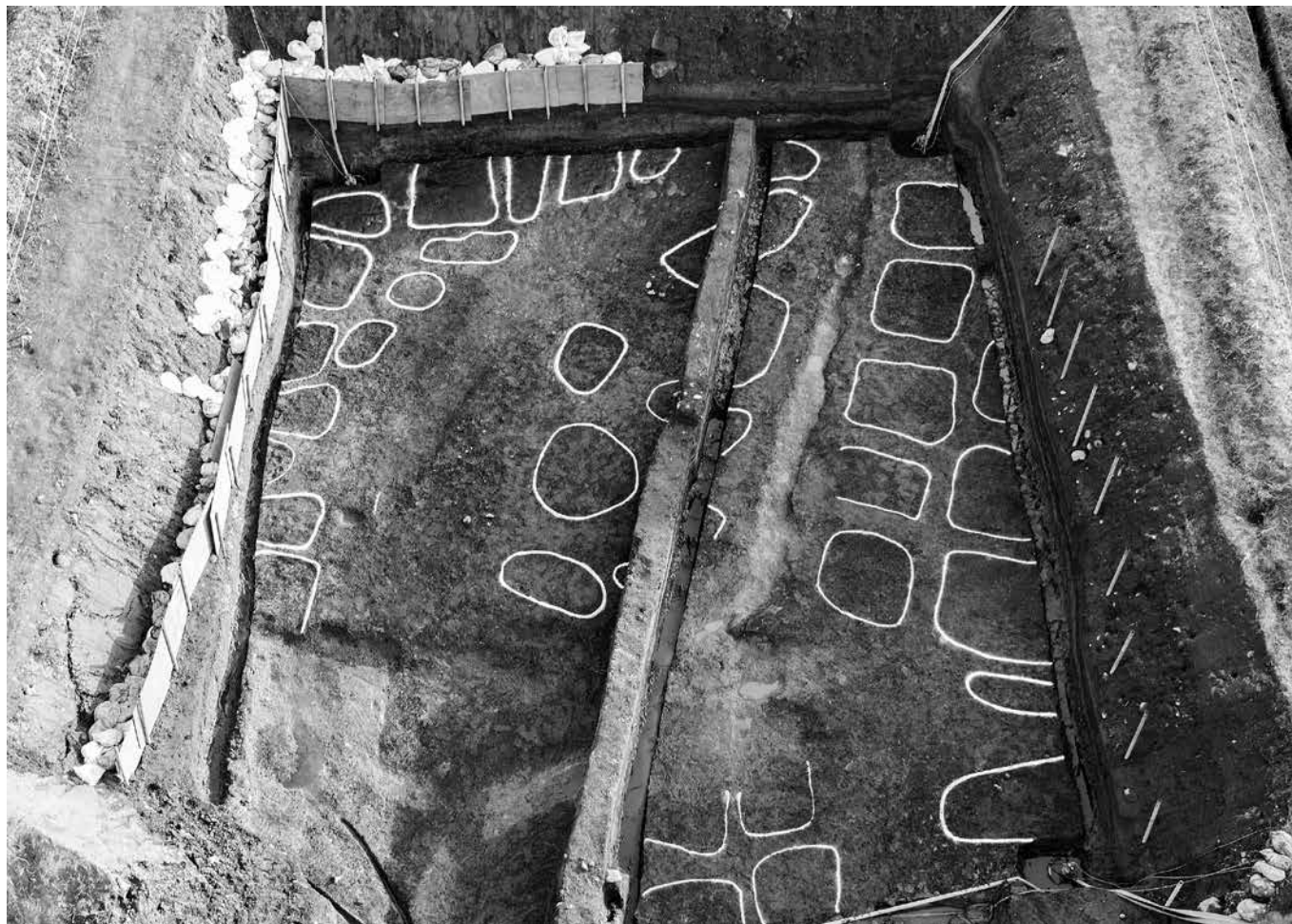
2 8-2区2面全景(北から)



1 8-2区2面下全景(東から)



2 8-2区2面下全景(北から)



1 8-2区3面全景(北から)



2 8-2区3面下確認調査試掘坑土層断面A-A' (西から)



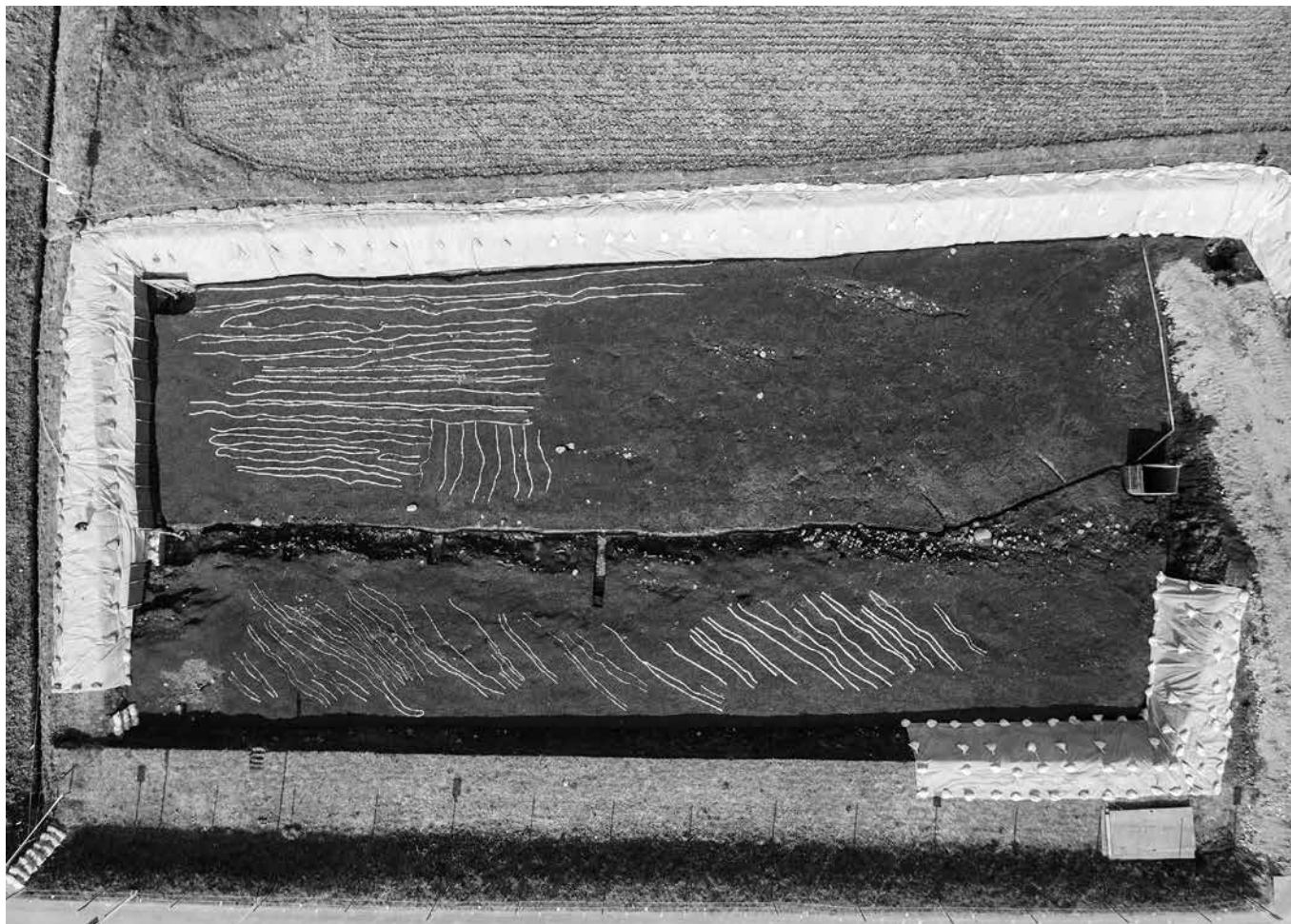
3 8-2区西壁土層断面B-B' (東から)



4 8-2区西壁土層断面C-C' (東から)



5 8-2区南壁土層断面D-D' (北から)



1 9区1面全景(南から)



2 9区1面西側全景(東から)



1 9区1面1号段差、2号畑検出状況(東から)



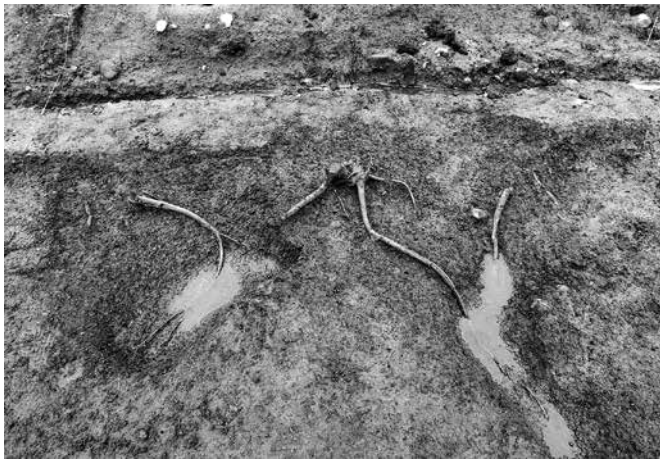
2 9区1面1号段差、1号畑検出状況(北から)



1 9区1面1号段差検出状況(北西から)



2 9区1面1号段差検出状況(北西から)



3 9区1面1号段差植物遺存体出土状況(北から)



4 9区1面1号段差植物遺存体出土状況(北から)



5 9区1面下全景(南から)



1 9区1面下4～6号畑検出状況(東から)



2 9区1面下畑検出状況(北から)



3 9区1面下4号畑検出状況(北から)



4 9区1面下4号畑検出状況(西から)



1 9区2面全景(南から)



2 9区2面全景(東から)



1 9区2面1～6号水田、1～9号畦畔検出状況(北東から)



2 9区2面9号畦畔検出状況(南から)



3 9区2面9号畦畔検出状況(南から)



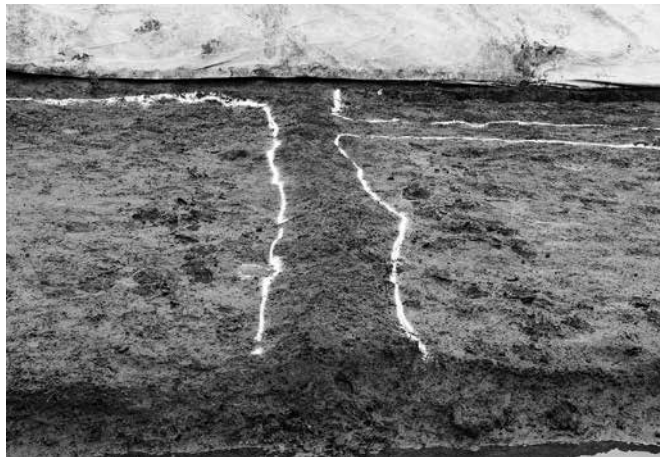
4 9区2面9号畦畔検出状況(南から)



5 9区2面9号畦畔検出状況(北から)



1 9区2面17～19号畦畔検出状況(北から)



2 9区2面17・18号畦畔検出状況(北から)



3 9区2面22・23号水田検出状況(北から)



4 9区2面水田水口検出状況(北から)



5 9区2面18号溝検出状況(北から)



6 9区2面18号溝土層断面A-A'(東から)



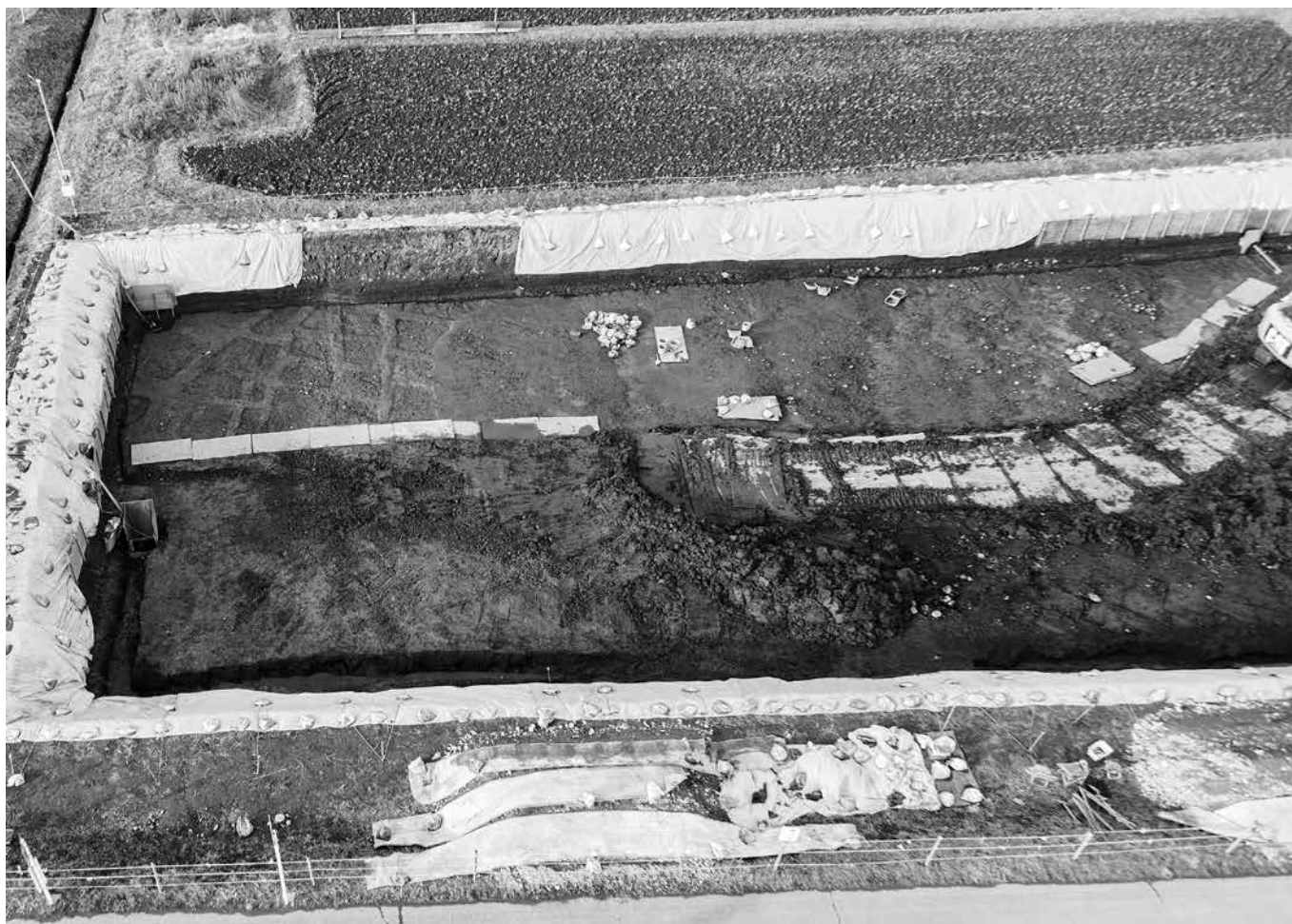
7 9区3面全景(南から)



8 9区3面東側水田検出状況(西から)



1 9区3面全景(東から)



2 9区3面全景(南から)



1 9区3面82～105号水田検出状況(南から)



2 9区3面82～99号水田検出状況(南東から)



1 9区3面82～105号水田検出状況(東から)



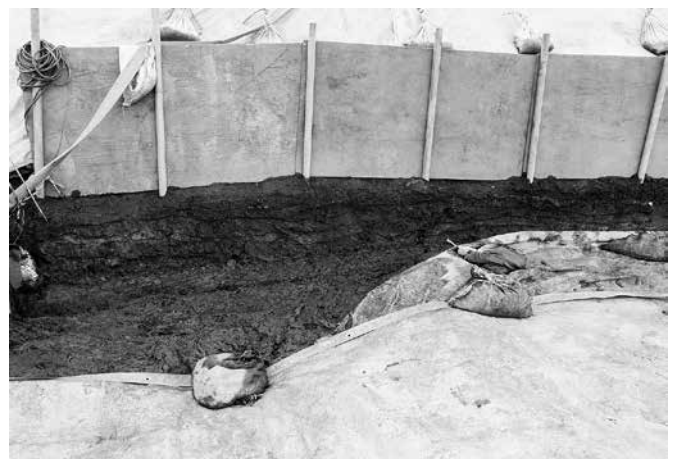
2 9区北壁土層断面A-A' (南から)



3 9区北壁土層断面B-B' (南から)



4 9区西壁土層断面F-F' 南側(東から)



5 9区西壁土層断面F-F' 北側(東から)

PL.74

2区東区1面・2面、3区、4区南区1面、4区中区1面出土遺物

2区東区1面



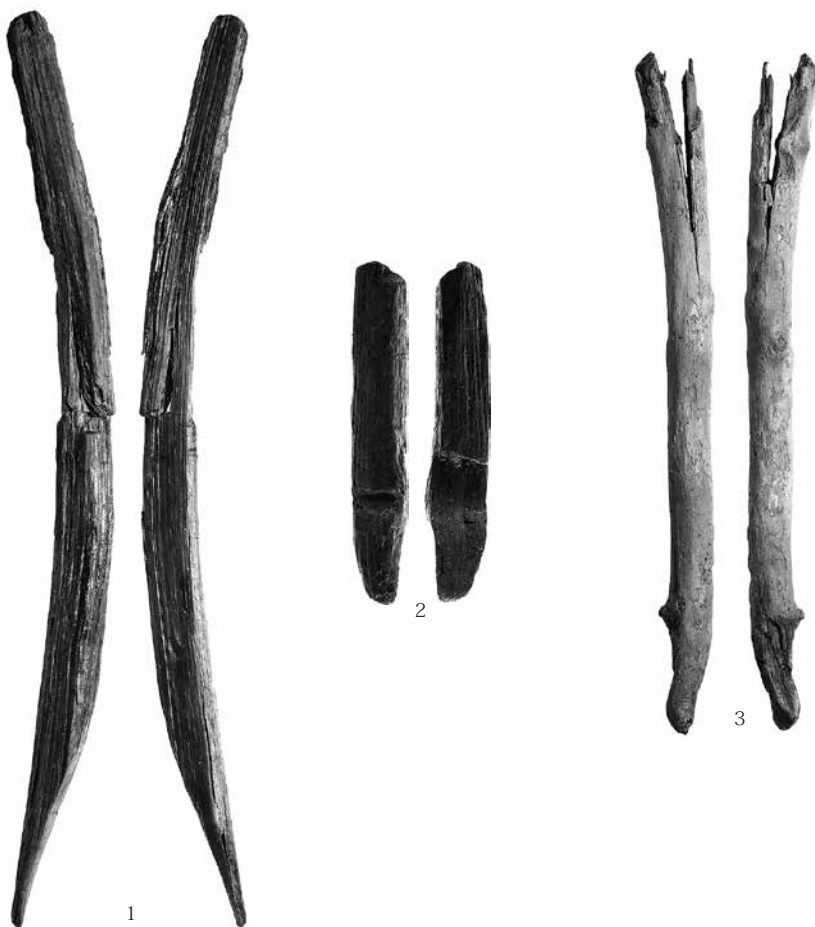
2区東区2面



3区杭列



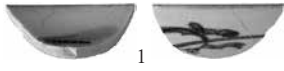
4区南区1面 1号段差杭列



4区中区1面



4区北区1面



1



2



3-伊

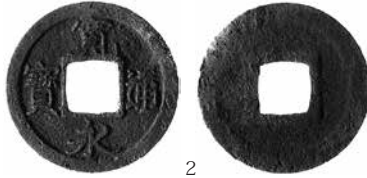


3-呂

3号段差杭列A



1



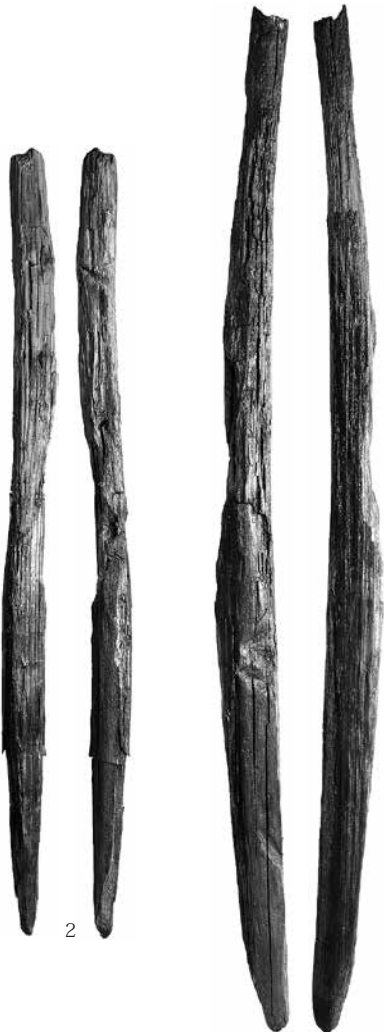
2

3号段差・1号畦畔杭列B



1

5区1面 1号段差杭列



2

3

6区1面 3号水田杭列B



1

7-1区1面



1

2

8-1区1面

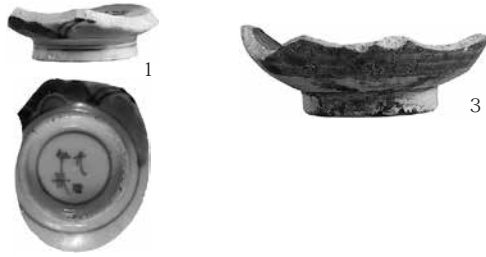


1

PL.76

8-2区1面、9区1面、遺構外出土遺物

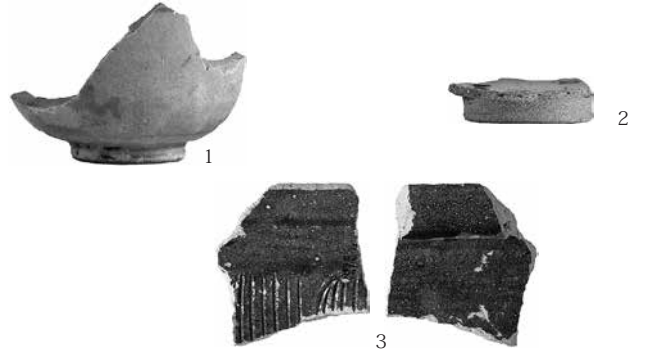
8-2区1面



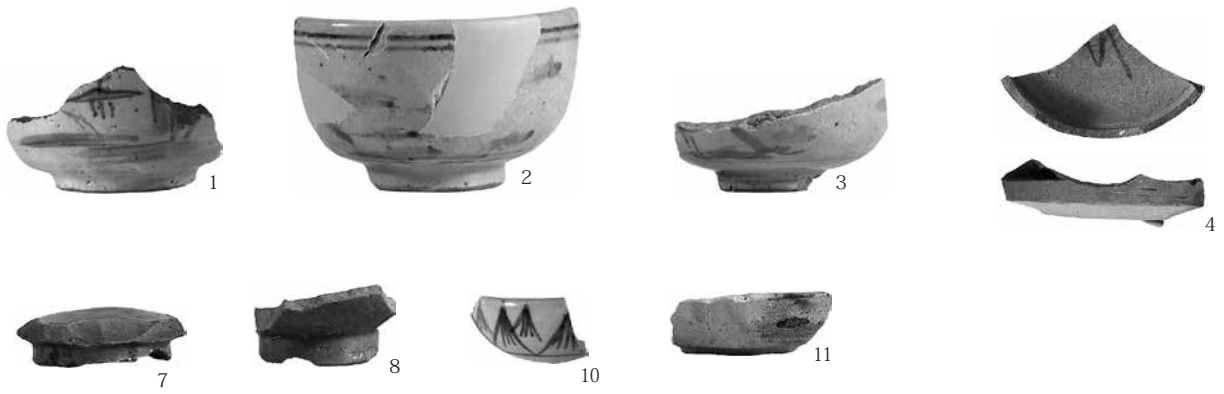
9区1面



1号段差



遺構外出土遺物



報 告 書 抄 録

書名ふりがな	あつだなかむらいせき
書 名	厚田中村遺跡
副書名	上信自動車道吾妻西バイパス建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻 次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	644
編著者名	高島英之
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	2018
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住 所	群馬県渋川市北橘町下箱田784-2
遺跡名ふりがな	あつだなかむらいせき
遺 跡 名	厚田中村遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんあがつまぐんひがしあがつままちおおあざあつだあざなかむら
遺跡所在地	群馬県吾妻郡東吾妻町大字厚田字中村
市町村コード	10429
遺跡番号	117
北緯(世界測地系)	363247.67
東経(世界測地系)	1384818.22
調査期間	20130801-20131231/20140801-20141130/20160401-20161231
調査面積	12,371.15
調査原因	道路建設
種 別	水田、畑
主な時代	古墳/平安/近世
遺跡概要	古墳時代後期-水田+溝1/平安時代後期-水田+畠+溝14+柱穴列4+ピット4/近世-水田+畑+溝7
特記事項	群馬県内最北の古墳時代後期小区画水田、古代～近世の棚田
要 約	群馬県北西部に位置し、吾妻川右岸の低位段丘上、榛名山北西麓末端の扇状地に立地する遺跡で、平成25・26・28年度の調査で古墳時代から近世に至る水田が何層にもわたって検出された。南の榛名山麓側から北の吾妻川に向かって傾斜する地形を段状に造成し、平坦面を確保して南高北低の棚田を造成しており、地形の制約を受けながらも最大限の生産性を確保しようとした様子がうかがえる。遺跡所在地は現在も水田地帯であり、古墳時代以来、長期にわたって連綿と水田が営まれてきたことが判明した。また、吾妻地域においてははじめて発見された古墳時代の極小区画水田の事例であり、本県において発見された古墳時代水田遺構の最北の事例である。

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第644集

厚田中村遺跡

上信自動車道吾妻西バイパス建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成30(2018)年10月10日 印刷

平成30(2018)年10月16日 発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2

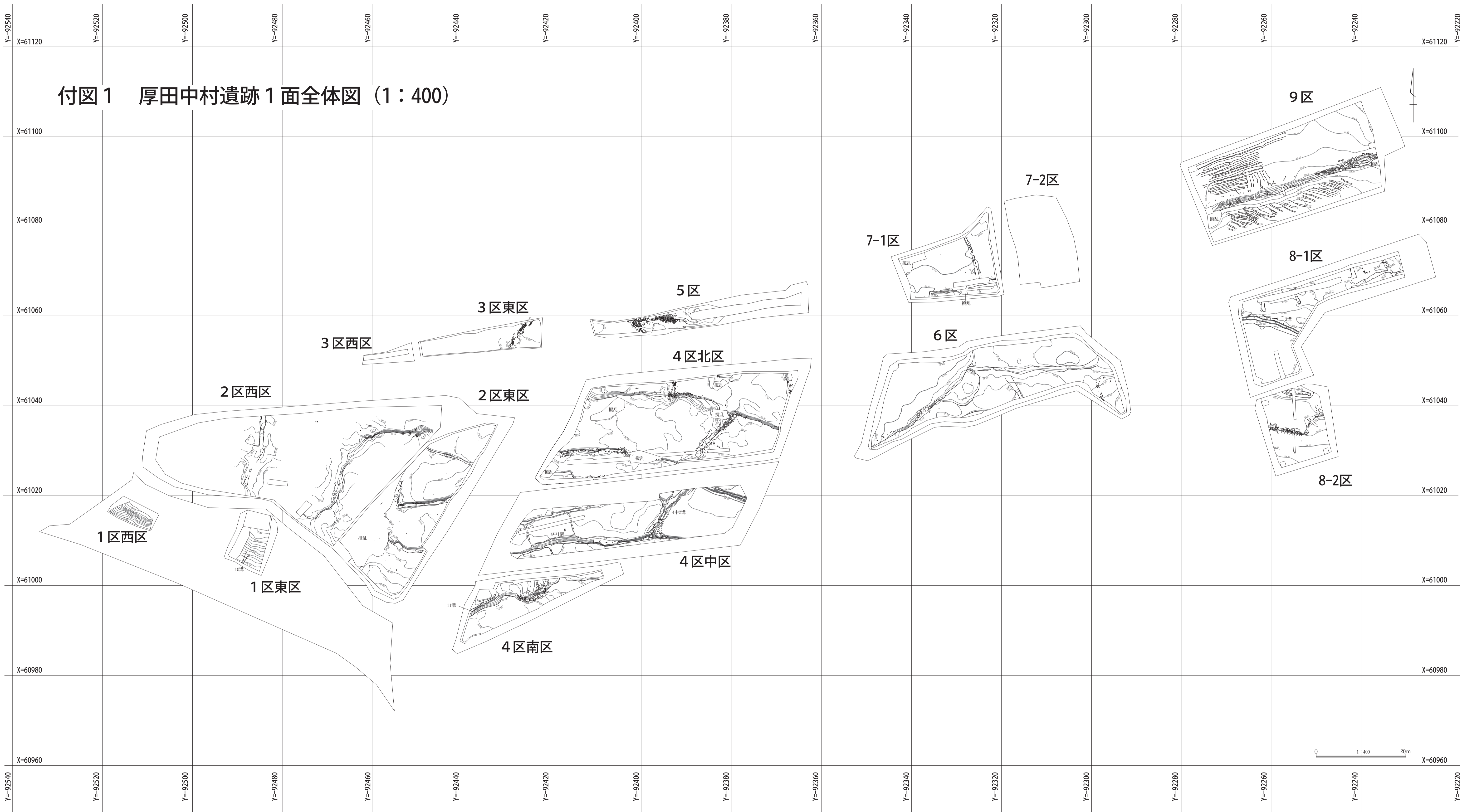
電話(0279)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

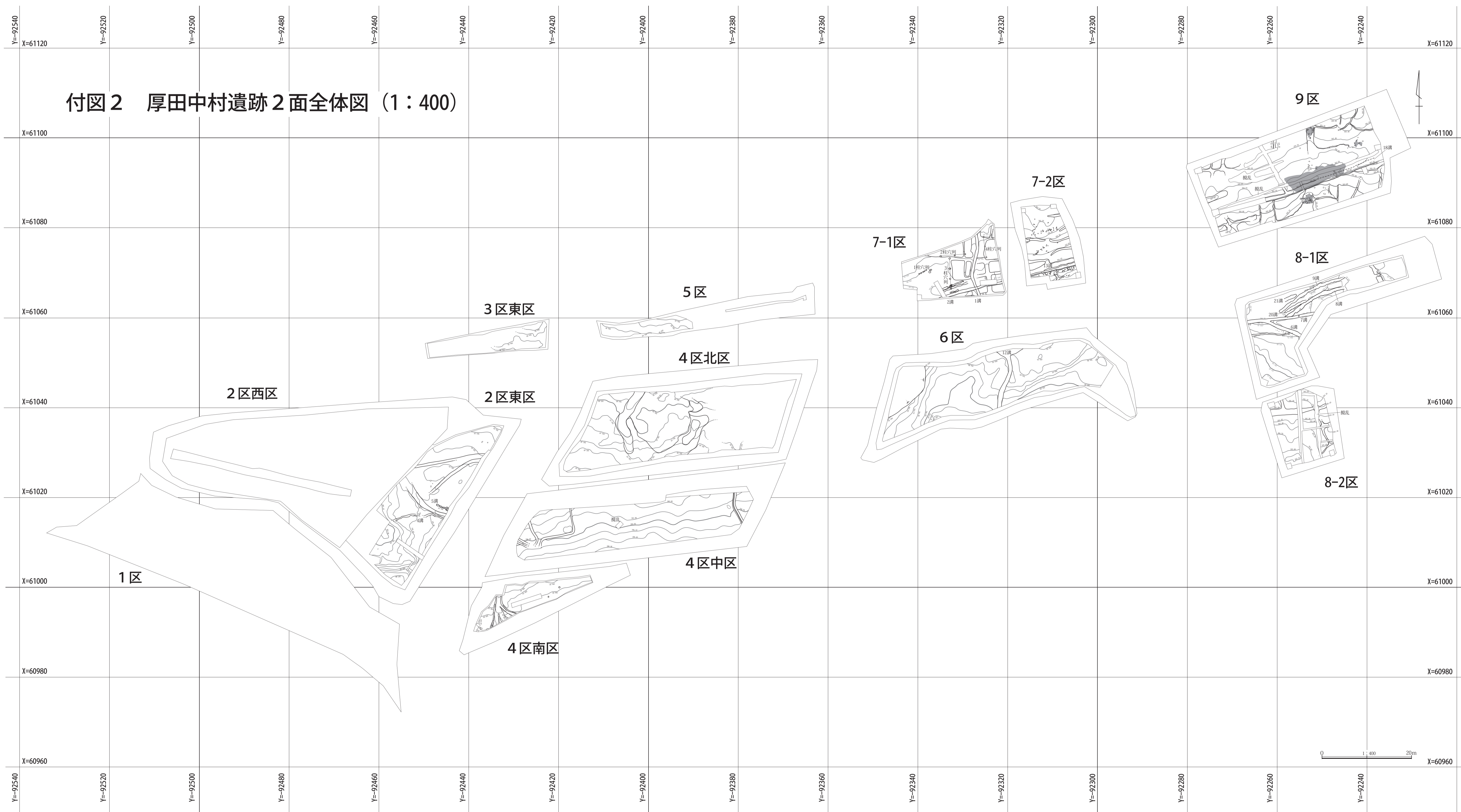
印刷／第一印刷株式会社



付図1 厚田中村遺跡1面全体図(1:400)



付図2 厚田中村遺跡2面全体図(1:400)



付図3 厚田中村遺跡 1面下・2面下・3面全体図 (1:400)

